

SMITHSONIAN INSTITUTION LIBRARIES



3 9088 01109 9918

1/4

Botanical magazine

植 物 學 雜 誌

652
1596
D.

2

第 九 卷

自 第 九 十 五 號 至 第 六 百 號

植 物 學 雜 誌 編 輯 所 發 行

東 京

明 治 廿 八 年

QKI

B33

植物學雜誌第九卷目錄

○論說

植物解剖學、生理學、生態學、形狀學、

檳榔樹ト肉豆蔻(圖入) 安田篤

號數 (九五) 頁數 一四

同上ノ續

(九六) 五九

生活原形質ノ「エチルギー」ト題セルレエ

氏ノ論說ニ就テ 藤井健次郎

(九六) 四四

蕎麥ノ研究一斑(圖入)前號ノ續) 市村塘

(九七) 九九

おたね人參種子ノ解剖(圖入) 市村塘

(九八) 一三一

Études sur le Ginkgo biloba. Par Sakuragorô

Hirase.

(100) 240

Physiological Researches on the Sexuality of the Flowers of Pinus densiflora Sieb.

et Zucc. By K. Fujii.

(101) 275

倒生ノ公孫樹 安田篤

(102) 二七七

葉ヲ以テ繁殖スル植物(圖入) 安田篤

(103) 三一七

二三ノ植物粘質物ノ化學的成分 吉村清尚

(103) 三三五

On the Nature and Origin of so-called

“Chichi” (nipple) of Ginkgo biloba L.

By K. Fujii.

(105) 444

隱花植物

土佐國產地錢科植物第二報 井上虎馬

(九八) 一三四

京都産羊齒科目錄 淺田學一

(九九) 一七八

Note on *Ustilago esculenta* P. Henn. By K. Miyabe.

(99) 197

櫻樹ニ寄生スル新種ノ病菌ニ就テ(第六版)

白井光太郎

(102) 二四一

菌絲ノ膜質貫透ニ就テノ研究略報

(102) 二四三

京都附近所産羊齒十四種 牧野富太郎

(102) 二四五

京都産植物目錄追加 淺田學一

(102) 二九四

菌茸ト葉菌(圖入) 安田篤

(104) 三七一

New or Little known Algae from Japan.

(Pl. IX.) By K. Okamura.

(106) 四四五

植物記載并ニ目錄

黒岩氏採集琉球植物(第九十二號ノ續)

牧野富太郎

(九五) 六

同上ノ續

(九六) 六一

同上ノ續

(九七) 一〇二

同上ノ續

(101) 二五五

同上ノ續

(102) 二七八

同上ノ續

(103) 三二〇

同上ノ續

(104) 三七九

本邦産杜松屬ノ植物ニ就テ 齋田功太郎

(九五) 一七

Note on *Rhododendron macrostemon*,

Maxim. By S. Okubo.

(95) 42

新種ノ日本産松柏科植物(第三版) 白澤保美 (九六) 四一

Eine neue Coniferen Art in Japan. (Pl.

III) Von H. Shirasawa. (96) 86

神保氏採集ノ西伯利亞植物 松村任三 (九六) 五三

同上ノ續 (九七) 八七

莊内植物一斑 中村正雄 (九六) 六四

莊内産顯花植物 川上瀧彌 (九七) 一〇七

同上ノ續 (九八) 一三六

同上ノ續 (一〇〇) 二二一

同上ノ續 (一〇一) 二五二

同上ノ續 (一〇二) 二九〇

同上ノ續 (一〇四) 三七四

同上ノ續 (一〇五) 四一四

A New Japanese Species of Villebrunea.

By M. Shirai. (98) 129

澎湖列島自生植物第一報 田代安定 (九九) 一六四

同第二報 (一〇三) 三三七

豆州植物漫録 松村任三 (一〇〇) 一九九

A new Korean Thalictum.

By J. Matsumura. (101) 267

ねこのめさう屬檢索表譯述(第八十八號ノ

續) 徳淵永治郎 (一〇三) 三三一

川上廣衛氏採集ノ盛京省植物 宮部金吾 (一〇三) 三四三

同上ノ續 (一〇四) 三六五

日本産落葉櫟屬ノ説(第七版) 白井光太郎 (一〇五) 四〇五

北原多作氏採集ノ千島植物目錄 松平齊 (一〇六) 四六六

藥用植物學

日本藥局方植物篇(前號ノ續) 澤田駒次郎 (九五) 一九

同上ノ續 (九六) 六六

同上ノ續 (九七) 一〇六

同上ノ續 (九八) 一四四

同上ノ續 (九九) 一七二

同上ノ續 (一〇一) 二四六

同上ノ續 (一〇二) 二八五

同上ノ續 (一〇三) 三二八

同上ノ續 (一〇四) 三七六

同上ノ續 (一〇五) 四一七

同上ノ續 (一〇六) 四五五

植物病理學

鹽麩樹ノ虫癭ニ就テ(第一、二版) 白井光太郎 (九五) 一

櫻樹ノ天狗巢ニ就テ(第五版) 白井光太郎 (九九) 一六一

穴蜂ノ一種ノ植物ノ葉ニ及ボス害(圖入) 安田篤 (一〇三) 二九四

採集紀行等

妙高山植物採集記 松田定久 (九七) 九三

信州淺間山植物採集案内 大渡忠太郎

(九八) 一三九

豆相植物採集略記 大渡忠太郎

(一〇二) 二五〇

岡山縣北部地方植物採集記 山本頼輔

(九八) 一四七

植物研究處法

(一〇四) 三六一

同上ノ續

(九九) 一七五

醬油液ヲ菌類培養基ニ用フル實驗 三好學 (一〇四) 三六一

ジャバ島ブイテンツグ植物園看覽記 三好學

(一〇〇) 二〇三

○雜 錄

てんぐさノ一種 岡村金太郎

(九五) 三三

同其十七

(一〇〇) 二三八

同上ノ續

(一〇四) 三九五

劣等黴菌ノ營養新説 池野成一郎

(九五) 三五

同其十八

(一〇二) 二五八

根ガ生活組織内ニ闖入スルコト圖入

(九六) 七八

樹木生活ノ起原(承前) 安田篤

(九五) 二七

同其二十

(一〇四) 三八八

鳥媒ノ授精作用(圖入) 安田篤

(九六) 八〇

假晶體ノ檢究 平瀬作五郎

(九五) 二九

同其二十一

(一〇五) 四三三

花粉ノ生理作用 市村塘

(九六) 八二

落葉集 野村彦太郎

(九五) 三〇

日本及ビ外國ノ植物新和名

(九六) 七三

寄生草ノ氣根 同

(九六) 八二

同第二編

(九六) 七五

同上ノ續

(九七) 一一三

木葉ト雨

(九六) 八三

同第三編

(九七) 二二〇

同上ノ續

(九八) 一五一

植物雜俎 松村任三

(九七) 一一〇

同第四編

(九八) 一五二

同上ノ續

(九九) 一八五

ストラスブルガー氏植物教科書

(九七) 一一〇

同第五編

(九九) 一八三

つりしゆすらん及ビつるぎきやうノ產地 岡眞三

(九六) 七四

有縁寄生植物ノ營養 大久保三郎

(九七) 一一八

同第六編

(一〇〇) 二三五

もうせんこけ

(九六) 七五

黃化作用ニ關スル生理學上實驗

(九七) 一二九

紅葉ト黃葉 市塘

(九五) 三三

くまがいさうノ屬名ニ就キテ

(九六) 七五

檳榔子ノ紋理 市村塘

(九七) 一二〇

葡萄ノ種子ノ利用

(九五) 三三

大久保三郎

(九六) 七五

丹寧ノ形成及ビ其作用 市村塘

(九七) 一二〇

樹木内部ノ溫度

(九五) 三三

バクテリアノ説(承前)

(九六) 七七

黴菌ハ幾何ノ壓力ト幾何ノ溫度ニ

(九七) 一二〇

顛毛及ビ偽顛毛

(九五) 三四

同上ノ續

(九八) 一五四

堪ヘ得ベキヤ 同

(九七) 一二〇

植物雜俎 松村任三

(九六) 六七

同上ノ續

(九八) 一八九

植物世界ニ於ケル炭素及ビ窒素ノ

(九八) 一五三

繚條書屋植物雜記(其十五)

(九六) 七一

同上ノ續

(一〇二) 二六六

同化 同

(九八) 一五三

牧野富太郎

(九七) 二一〇

同上ノ續

(一〇三) 三五九

同上ノ續

(九九) 一八四

植物名稱考 野村彦太郎

同第二

しのべだけハめだけナリ

通俗動物新論

赤松ノ雌花ト雄花トノ Replacement ニ就テ

附松柏科植物ノ果實ノ姿勢ニ就テ

日本土馬騷畧述 大久保三郎

同上ノ續

同上ノ續

粘液ハ植物生活上如何ナル効用アリ

ヤ 安田篤

まつノ卵球 大久保三郎

高山ノ花 大久保三郎

「アルカンナ」 同

擣磨國ヨリノ植物通信

新名稱ニ就キテ

生活細胞ニ於ケル少量效驗の現象ニ

就テ 渡邊久吉

游子ニ生ズル鞭毛ノ運命 安田篤

植物雜俎 松村任三

獨國植物學研究生要領 三好學

植物雜俎 松村任三

獨逸植物學會總會 三好學

植物學上新刊雜誌 同

コレブホン氏高山植物試植園 同

故ブリングスハイム氏ノ遺稿 同

(九九) 一八八

(一〇一) 二六四

(九九) 一八九

(九九) 一九六

(一〇〇) 二二五

(一〇〇) 二二六

(一〇一) 三〇九

(一〇三) 三五一

(一〇〇) 二二一

(一〇〇) 二三四

(一〇一) 二六三

(一〇一) 二六八

(一〇一) 二六九

(一〇二) 二九六

(一〇二) 三〇五

(一〇二) 三〇六

(一〇二) 三二五

(一〇三) 三四六

(一〇三) 三四八

(一〇三) 三四八

(一〇三) 三四八

(一〇三) 三四八

(一〇三) 三四八

(一〇三) 三四八

(一〇三) 三四八

(一〇三) 三四九

ケルナー、フオン、マリラウン氏同 (一〇三) 三四九

海藻學者リヒテル氏ノ新海藻 同 (一〇三) 三五〇

商陸科植物解剖上ノ研究 同 (一〇三) 三五〇

有毒仙人掌 安田篤 (一〇三) 三五三

珪藻ノ生長 同 (一〇三) 三五三

生傷ヨリ黴菌ノ吸收 同 (一〇三) 三五四

衣服類ニ附着スル黴菌 同 (一〇三) 三五四

普通ノ根モ亦能ク生活組織内ニ穿入ス 同 (一〇三) 三五五

浮游性褐色藻浮游ノ原因 渡邊久吉 (一〇三) 三五五

田代安定氏ノ書翰 (一〇三) 三五七

自然齋植物雜記(一) 長野菊次郎 (一〇三) 三五九

奥羽ノ旅草 (一〇四) 三八二

植物雜俎 松村任三 (一〇四) 三八二

新著「レフエラート」 (一〇四) 三九一

臺灣ノ植物 (一〇四) 三九八

Yeast-ferment 本邦ニ産スルヤ? (一〇四) 三九八

栢植千嘉衛氏逝ク (一〇四) 三九九

栢植千嘉衛君小傳 澤田駒次郎 (一〇四) 四〇〇

弘田貞守氏逝ク (一〇四) 四〇一

英國植物學者ハビンガトン氏歿ス (一〇四) 四〇一

植物雜俎 松村任三 (一〇五) 四二七

高山ニ生スル植物ノ葉ノ特徴 安田篤 (一〇五) 四三〇

南瓜ノ實ノ生長ニ關スル三時期 同 (一〇五) 四三一

節ノ向地性變曲ニ就テ 同 (一〇五) 四三一

飲料水中ノ生物 同 (一〇五) 四三二

茸類ノ介布ニ虫類ノ及ボス影響 同 (一〇五) 四三二

花ノ開閉ニ就テノ實驗 同 (一〇五) 四三三

茄科植物中ニ含有セラルト「アルカロイド」ノ位置 同 (一〇五) 四三三

柳屬葉脈ノ研究 大渡忠太郎 (一〇五) 四三七

植物雜俎 松村任三 (一〇六) 四六〇

いてふノ乳附いてふノ絶滅ノ原因 (一〇六) 四六一

植物生育上ニ有機酸鹽類ノ及ボス影響 安田篤 (一〇六) 四六一

單細胞ヨリ成レル生物ノ向熱性ニ就テ 同 (一〇六) 四六三

「ヒノキバヤドリギ」ノ寄主 長野菊次郎 (一〇六) 四六三

孟宗竹ノ壽命 同 (一〇六) 四六四

○最近研究彙報

(九五三六。(九七二三。(九八)五五。(九九一九二。

(一〇〇)三三五

○質問應答

(一〇〇)三七。(一〇一)三七。(一〇四)四〇一

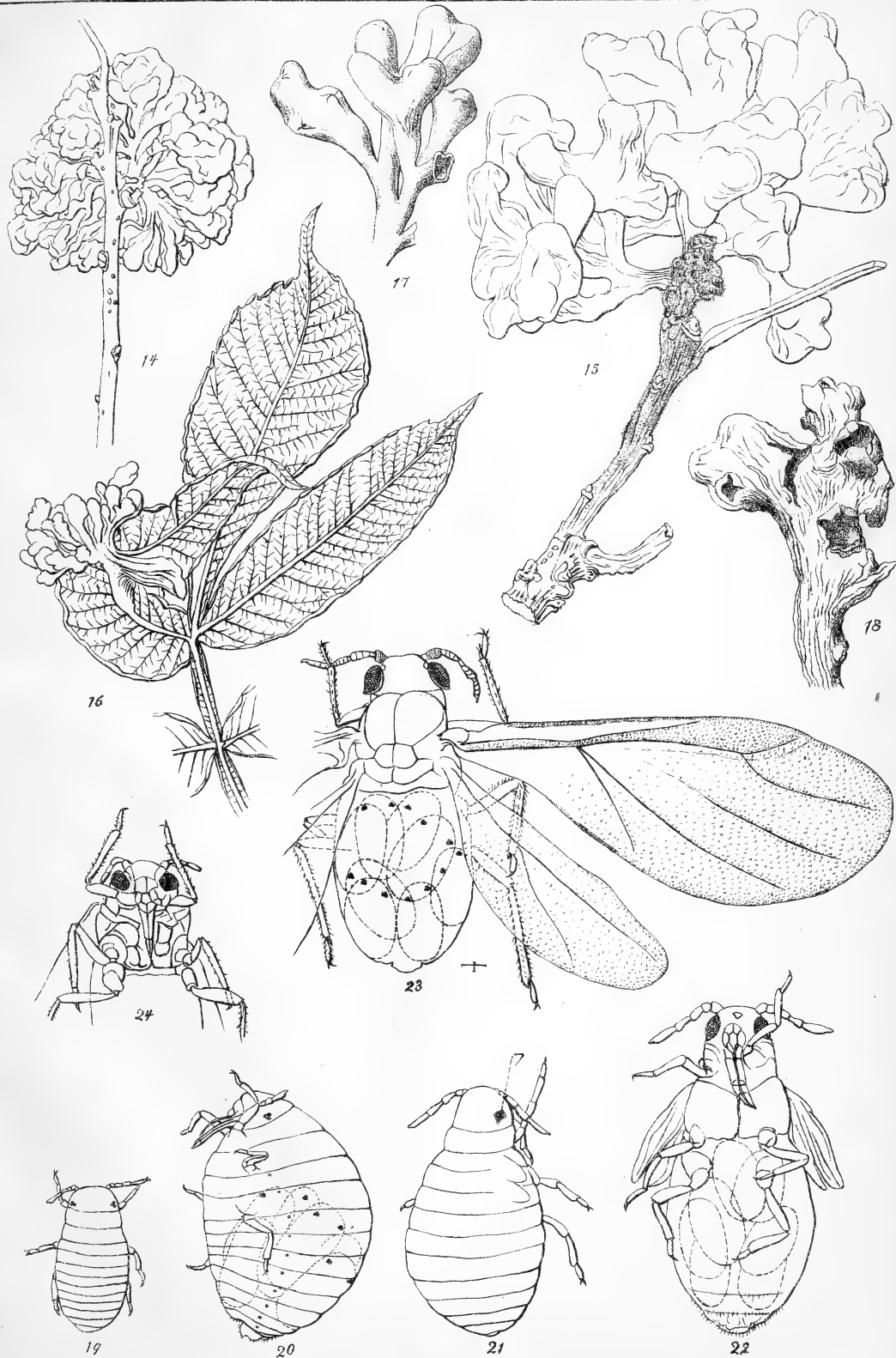
○東京植物學會錄事

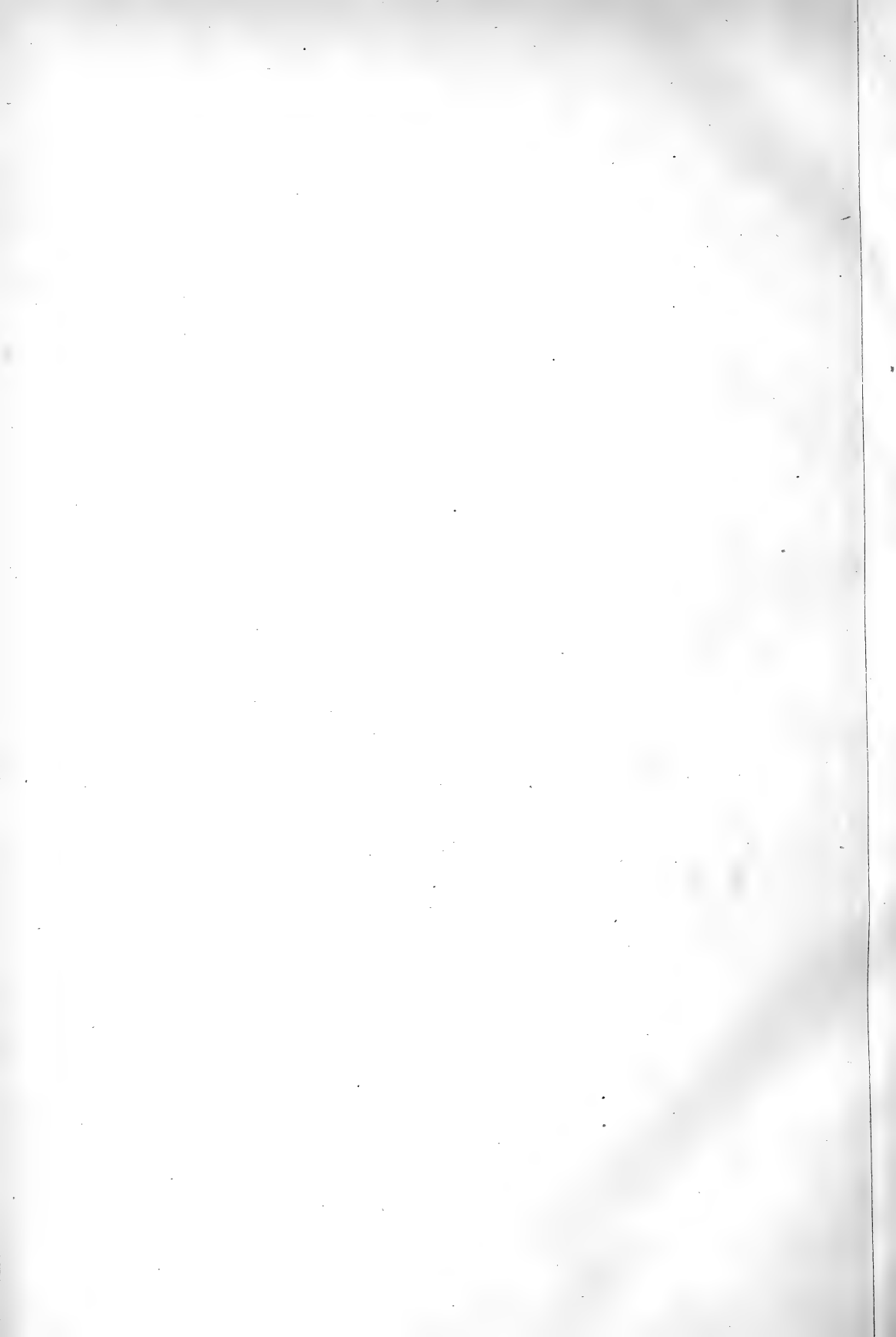
(九六八三。(九八)二五七。(一〇〇)三七。(一〇四)四〇二。

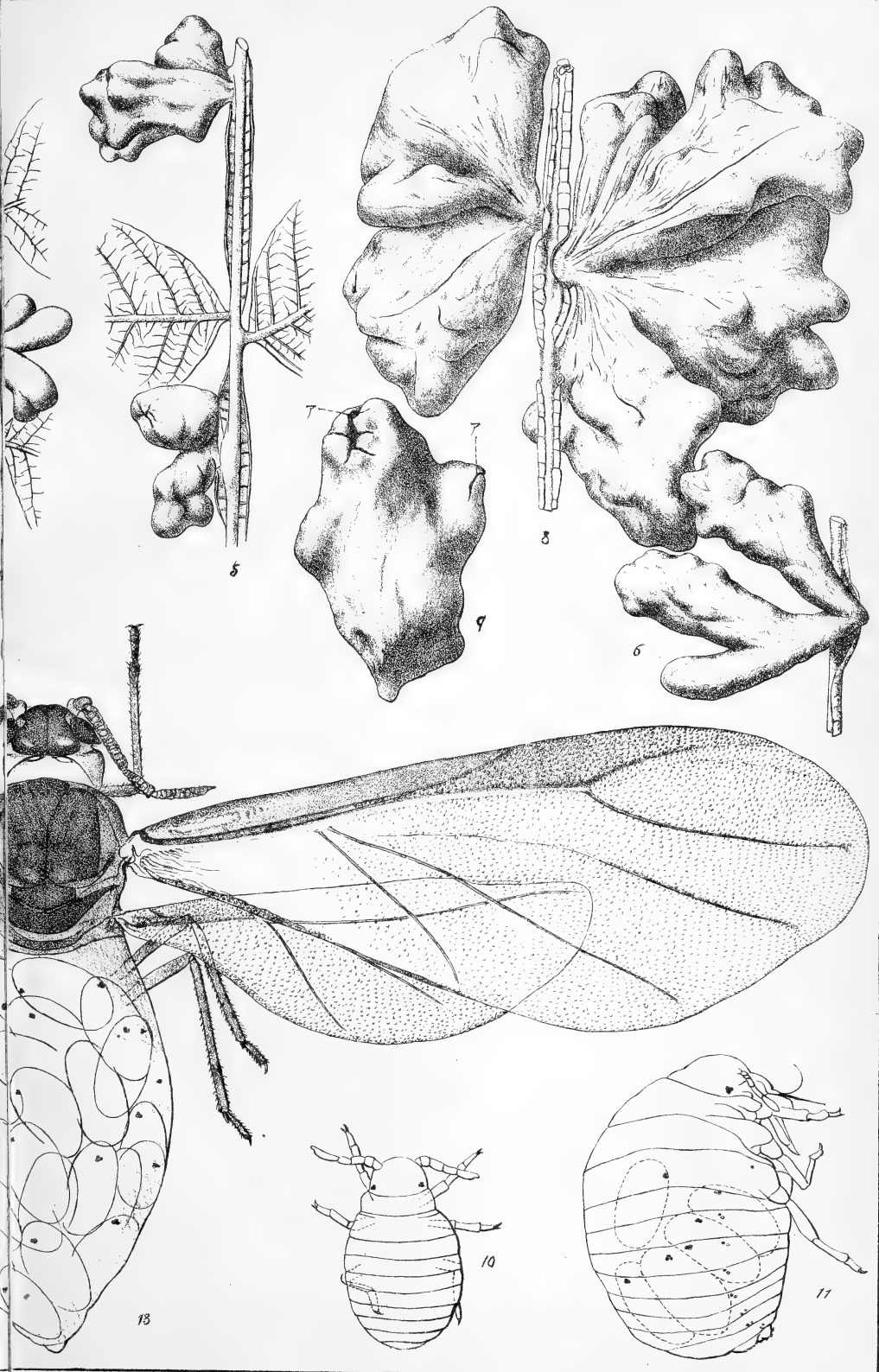
(一〇五)四三九。(一〇六)四六五

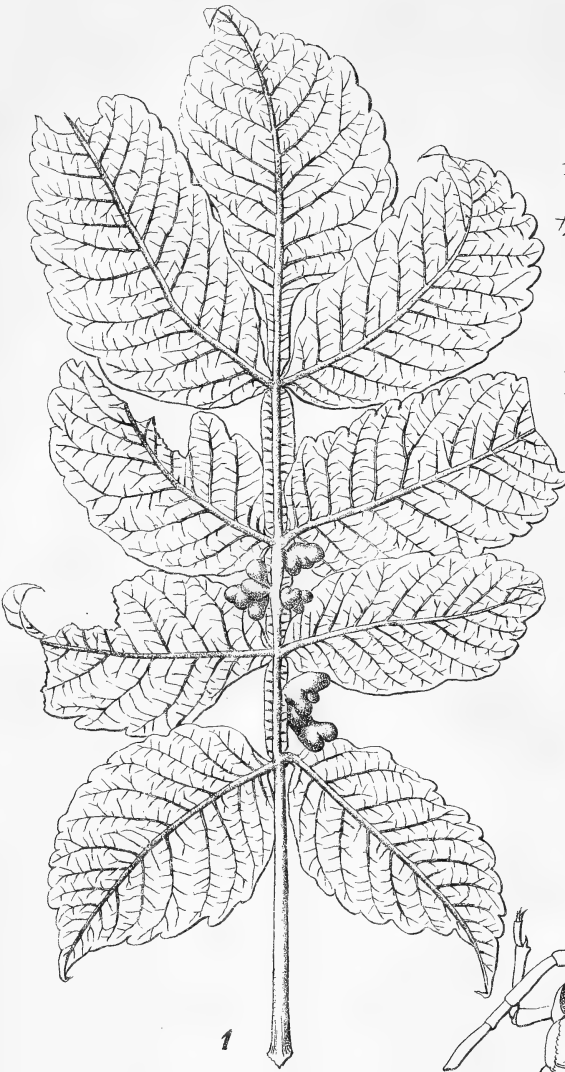
植物學雜誌第九卷目錄終



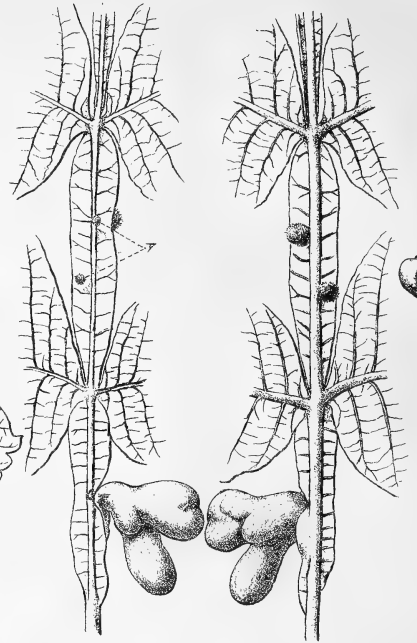






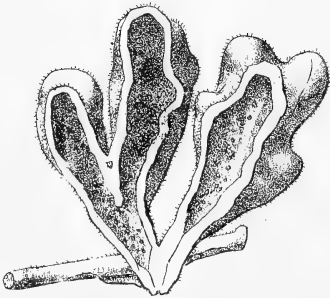


1

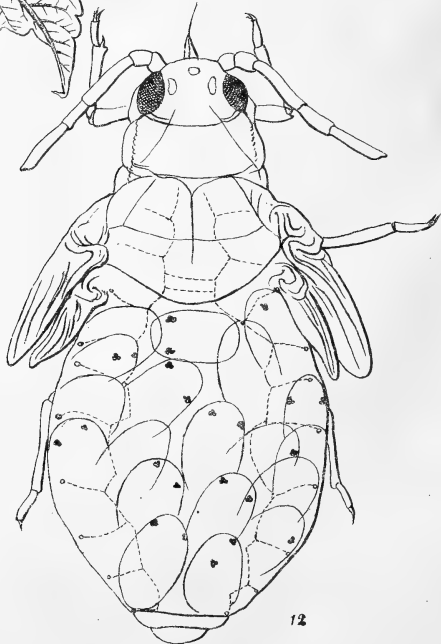


2

3



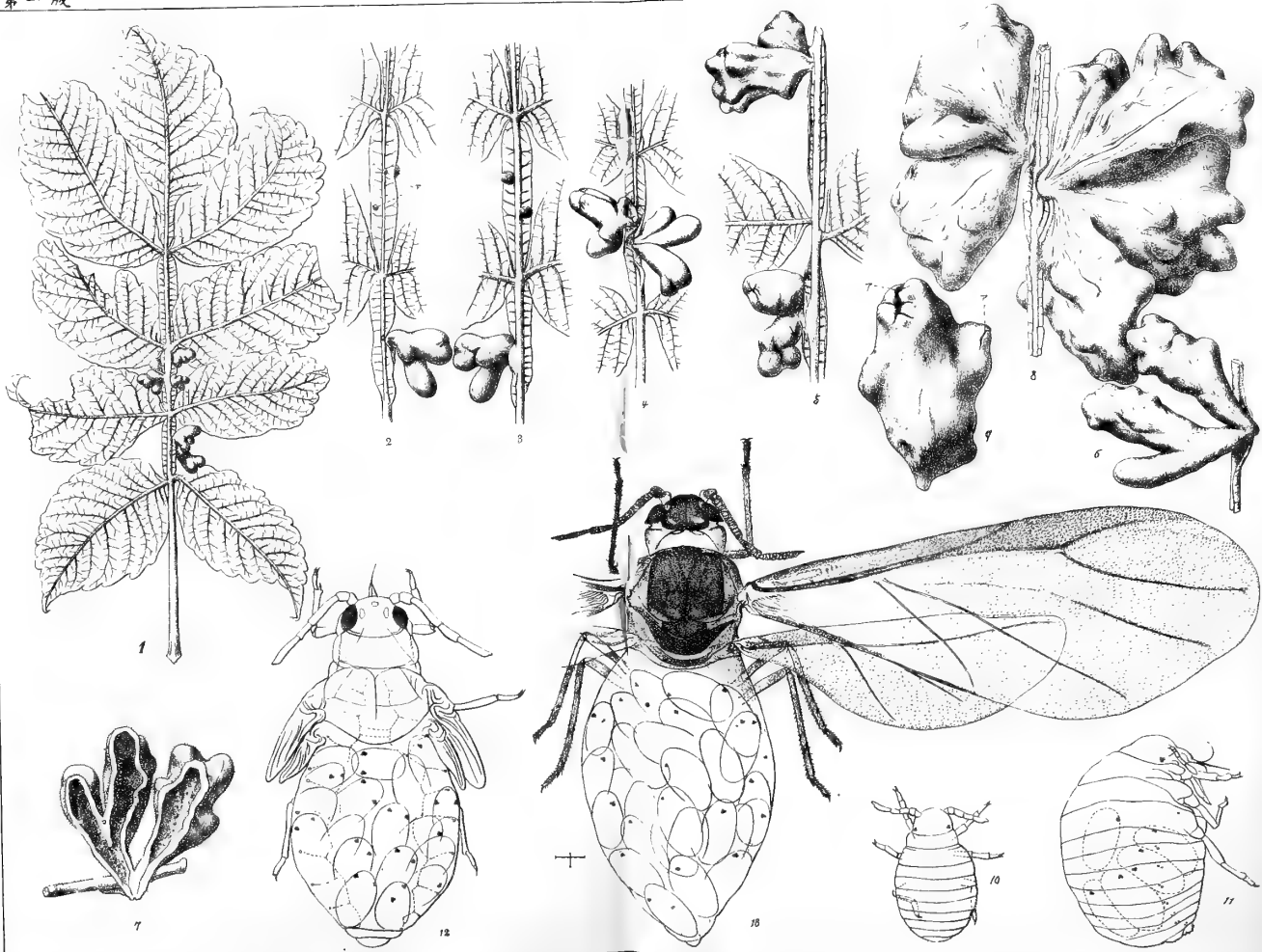
7



12



+



THE HISTORY OF THE

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

植物學雜誌第九卷第九十五號

THE BOTANICAL MAGAZINE.

明治廿八年一月二十日

[Vol. IX.

January 20, 1905.

No. 95.]

○鹽麩樹ノ虫癭(五倍子)ニ就テ 第一、二版

ふしのき一名ぬるで(Rhus semi-alata Murr. var. Osbecki, DC.) (鹽麩樹)ハ我邦温暖及輕寒地ノ山野ニ自生シ

大抵全國ニ分布ス是則染用藥用等ニ供スル五倍子ヲ生スル樹ナリ

D. Hambury 氏ノ說ニ據レバ歐羅巴ノ或藥物學者ハ五倍子ヲ以テ日本ノすのきニ生スル虫癭ナリト斷信セ

リ依テ氏ハ其著書ニ於テ其非ヲ指摘シ兩者ノ差異ヲ辯セリ

五倍子ノ發育法、形成ノ局部及癭虫ノ種類等ノ事ニ至リテハ一モ圖記ノ徵スベキナク全ク未知ノ事實ニ屬セ

リ少シトモ日本ノ書類ニハ所見ナシ

予昨年中此事ニ注意シ少シク得ル所アリ依テ其梗概ヲ左ニ叙述シ斯學講究ノ一助ニ供セントス

(一)五倍子ノ種類

市上販賣スル所ノ五倍子ニ二品アリ一ヲ耳ぶしト呼ビ一ヲ花ぶしト曰フ此兩種ハ二種ノ異リタル癭蟲ノ作用

ニヨリ産出セラル、モノニシテ形狀ノ相違ニ由リ容易ニ識別スベシ耳ぶしハ其形略菱子殻ニ似テ間三五岐ヲ

分チ粗大ナル者多シ花ぶしハ形瘦セ岐多クみる(海藻)ノ狀ニ似タリ兩品俱ニ中空ナリト雖モ前者ハ肉厚ク後

鹽麩樹ノ虫癭(五倍子)ニ就テ

者ハ輕虚ニシテ効用大ニ劣レリ耳ぶしハ目方重ク價貴ク花ぶしハ目方輕ク價賤シ故ニ山民ハ專ラ耳ぶしヲ採集シ花ぶしハ唯耳ぶしノ不足ヲ補フ混合物ト爲スニ過キズ故ニ花ぶしハ世間此ヲ知ル人稀ナリ

(二) 耳ぶしノ形状

耳ぶし一名團子ぶしハ鹽麩樹葉總葉柄兩側ノ小葉間ニ存スル狹キ翼葉(支那人ノ所謂直葉)ニ發生シ決シテ他處ニ生ズルコトナシ初メ細微ノ小胞(第二圖ア)ヲナシ發生シ漸々膨大シテ遂ニ菱子殻狀ノ虫癭ヲナスニ至ル(第一圖ヨリ第九圖迄)先畫皆五倍子ノ鹽麩樹ノ枝葉間ニ生スルヲ云フ然レモ未ダ其複葉ノ總葉柄ノ翼葉上ニ發生スルノ事ニ言及セル者アルヲ聞カズ栗本丹洲翁ノ千蟲譜ニ五倍子ノ圖アレモ想像圖タルヲ免レズ小野蘭山先生ノ花彙木部ニ出セル圖ハ總葉柄ノ下部翼葉ナキ部分ニ五倍子ヲ附着スルノ狀ヲ寫セリ是亦充分正シキヲ能ハズ唯飯沼慈齋氏ノ草木圖說木部ニ載スル所ノ圖ハ其眞狀ヲ寫セリ

第一ヨリ第四迄ノ圖ハ明治廿七年七月卅一日秩父強石村近邊ノ山中ニ於テ予ガ發見採集セル者ノ眞形ニシテ第五、六、七ノ三圖ハ同年九月一日京都比叡山ニ於テ第八第九ノ二圖ハ同年十一月十四日京都府下ノ藥舖ニ於テ(俱ニ予)得タル標品ノ眞形ナリ第一圖ハ二分ノ一縮圖ニシテ他ハ皆自然大ナリ

(三) 耳ぶしノ癭蟲

耳ぶしヲ產出スル癭蟲ノ形狀ハ第十ヨリ第十三ニ至ル諸圖ニ示ス所ノ如シ蚜蟲族ノ一種ニ外ナラザレモ屬名種名俱ニ未ダ詳ナラズロイニス氏ノ動物書ニ就テ搜索スルモ之ニ相當スルノ屬ナシ日本藥局法ハ五倍子ハ *Aphis chinensis* ノ刺蝨スルニ由テ成リタル贅成物トアレモ *Aphis* ノ屬ニ非ズ之ヲ理學博士佐々木氏ニ質問スルモ明答ヲ得ズ恐クハ新屬新種ナランカ觸角ハ五節ヨリ成リ第三節最モ長ク體軀ハ十三節ヨリ成リ腹部

ニ八節アリテ其每節ノ兩側面ニ一ツ宛氣門ヲ開ケリ(第十一、十二圖キ) 尾端ノ第三節ニ乳狀突起物ナク上翼ノ第三斜紋ハ一線ヲナシ岐ナシ(諸圖直徑三十七倍ニ放大ス)

第十、十一ノ二圖ハ第五、六、七ノ虫癭ヨリ取り出シタル癭虫ナリ此時ニハ未ダ有翼虫ヲ生セズ諸蟲皆斯ノ如シ第十二、十三ノ兩圖ニ示ス者ハ第八、九ノ虫癭ヨリ取り出シタル者ニシテ第十二圖ハ蛹ニシテ第十三圖ハ有翼成虫ナリ此時ニ至レバ第十圖ノ蚜虫ハ漸次死亡シ有翼蟲之ニ代リテ癭中ニ充滿シ立錐ノ餘地ナキニ至リ遂ニ癭壁ヲ破リテ外出スルナリ

第九圖(ア)ハ癭虫ノ脫出セル孔口ナリ

此種ノ五倍子ハ寒地ノ鹽麩樹ニ非ザレバ生セズ故ニ東京近郊ノ村里ニハ絶テ之ナシ秩父邊ノ山民ハ二百十日ヲ期トシテ之ヲ採集スルナリ若シ其期ヲ過キ癭虫ノ脫出セル後ニ至リ之ヲ採集スルルルハ虫癭枯槁シ大ニ有効分ヲ損スト云フ

(四)花ぶしノ形状

花ぶしハ畔田翠山翁ノ野山草木通志ニ始メテ著録ス此品ハ温暖地ノ鹽麩樹ニモ生スルコトアリ予ハ明治廿五年四月伊豆天城山麓ニテ始メテ之ヲ採集シ其後我農科大學構内及附近ノ樹上ニモ之ヲ發生スルコトアルヲ探知セリ第十四圖ハ農科大學構内ニ於テ一昨年九月頃採集セル標品ニシテ第十五圖ハ明治廿七年十一月京都府下ノ藥舗ニ於テ得タル標品ナリ

此種ノ五倍子ハ葉柄上ニ生スルコトハ絶ヘテ無クシテ常ニ枝上ノ芽ニ生ス故ニ葉ノ落チ盡クシタル後之ヲ索レバ容易ニ檢出スルヲ得ベシ又稀ニ其小葉上ニモ生ス第十六圖ハ明治廿七年九月十四日農科大學構内ノ樹上ニ

於テ予ノ檢出シタル虫癭ニシテ小葉上ニ生セリ第十七圖ハ新鮮ナル虫癭ニ孔口ヲ生シタル狀ヲ示シ第十八圖ハ多年間枝上ニ遺存セル虫癭ノ一部ヲ示ス(第十四及第十六ノ二圖ハ二分ノ一縮圖他ハ自然大ナリ)

(五)花ぶしノ癭虫

癭虫ノ形狀ハ第十九圖ヨリ第廿四圖ニ至ル諸圖ニ示スガ如シ是亦蚜虫族ノ一種ニシテ耳ぶし虫ト同屬異種ノ者ナラント考フ屬名種名俱ニ詳ナラズ形狀ハ耳ぶしノ虫ニ似テ小ナリ殆ソド二分ノ一許ナリ耳ぶし虫ト異ナルノ點ハ觸角ノ第五節ノ最長キコ下翼ノ斜紋彼ハニニシテ此ハ一ナルニアリ

第十九、二十、廿一ノ三圖ハ第十六圖ノ虫癭ヨリ取り出シタル虫ニシテ第十九、二十ノ二圖ハ無翼ノ幼虫及成虫ニシテ第廿一圖ハ有翼虫ノ幼虫ナリ其無翼虫ト異ナルハ單眼ノ外ニ複眼(フ)ヲ有シ背側ニ翼ノ形跡ヲ表ハスノ諸點ニアリトス第廿二、廿三ハ第十五圖ノ虫癭中ヨリ取り出シタル者ナリ蛹及成虫ノ腹中ニハ卵子ヲ孕メリ(諸圖二十七倍ニ放大セリ)

(六)癭虫ハ如何ノ狀態ヲナシテ越年スル乎

此等二種ノ癭虫ハ十一月ノ末ニ至レバ皆子ヲ孕ミタル儘虫癭ヲ破リテ外部ニ出ツ其外出セル虫ハ如何ノ狀ヲナシテ越年シ再ビ翌年ニ至リ虫癭ヲ生成スルカ是最モ肝要ナル疑問ナリ此事ニ就テハ予ハ未ダ自ラ實地ニ臨ミ審查スルノ機會ヲ得ザルガ故ニ確說ヲナスコト能ハズト雖モ思フニ虫癭ヲ出テタル母虫ハ多數ノ中ニハ固ヨリ遠處ニ飛行キテ産卵スル者モアル可レモ多クハ近傍ノ枝上ニ止マリ直ニ産卵シ母虫ハ夫ニテ死シ其卵子ハ産附後直チニ幼虫ニ變シ幼虫ノ形ニテ鹽麩樹ノ毛茸ヲ被リタル芽ノ毛間ニ潜伏シ安全ニ冬ヲ凌キ翌年ニ至リ芽ノ伸長スルト共ニ成長ノ再ビ虫癭ヲ生スルニ至ルナラン山民ノ說ニ一年ふシテ生スレバ年々生スレモ虫

ノたねナキ樹ニハ之ヲ生セズト云フガ如キ前説ノ一證トナスニ足ラン尙いすのきニ寄生シ猿瓢ヲ作ル蚜虫族ノ一瘦虫ニ就テ考フルニ是亦十一月中旬頃虫瘦中ヨリ有翼虫脱出シ直ニ近傍ノ葉裡ニ産卵シ幼虫ヲ生シ幼虫ハ其葉裡ノ稍反卷セル常緑葉ノ葉縁ノ蔭ニ潜伏シ冬ヲ越スノ事實アリ傍證トナスベキニ似タリ

(七)五倍子ヲ人工ニテ増殖スル法

充分老熟シ有翼虫ノ將ニ脱出セントスル虫瘦ヲ採リ來リ之ヲ机上ニ置クハ時ヲ經ルニ隨ヒ瘦虫孔ヲ穿チテ自ラ脱出ス是ニ由リテ之ヲ考フルニ五倍子ヲ多量ニ得ント欲スレバ人工ニテ之ヲ増殖セシムルコト難キニ非ラズ則チ五倍子ノ成熟セル者ヲ取り之ヲ鹽麩樹ノ枝ニ挂ケ置キ瘦虫ヲシテ自由ニ産卵セシメ以テ翌年ノ收穫ナ期スルニアリ植物名實圖考通義府志ヲ引テ曰ク五倍子蜀語文蛤即五倍子、生於拂烟樹中(中略)三月發葉子即生、六月摘取、用沸水微煮其蟲盡死以供染用其未摘盡者明年自破蟲飛出、一蟲一子、一枝蓋數百蟲也、種蟲者、摘其最老之子、懸風處俟葉發時、挂之樹、一株、歲可多得至二斤」文中疑フベキ點多シト雖モ彼邦ニテハ已ニ人工ニテ五倍子蟲ヲ種ヘ收穫ノ増加ヲ謀ルノ作業アルガ如シ五倍子ハ山林副産物ノ要品ニシテ海外ニ輸出シ利ヲ得ルコト多シ(廿四年度ノ輸出五萬四千圓)子蟲ヲ種ヘテ收穫ヲ増加スルノ法殖産家ノ宜シク講究スベキ事業ナルベシ

(八)五倍子ノ製法

五倍子ハ採集後直ニ瘦虫ヲ殺シ日ニ曝シ乾燥セシメザレバ黴菌ヲ生シ腐敗シ用テ爲ササルニ至ル通例我邦ニテ行フハ蒸殺、熱湯浸殺法ノ二種ナルモ此二法ハ俱ニ其有効分(單寧)ノ多量ヲ無益ニ浸出セシムルノ恐アルガ故ニ最良ノ法トハ言ヒ難カルベシ依テ案スルニ有効分ヲ失ハスシテ之ヲ殺スノ法ハ單ニ火力ヲ用井テ焙リ

黑岩恒氏採集琉球植物

殺スニアルカ我邦ニテハ未タ此法ヲ行フ所アルヲ聞カサレモ支那ニテハ夙ニ此法ヲ用イタリト見ヘ五倍子ハ五倍子ノ義ニシテ火ヲ以テ之ヲ製スルガ故ナリト寧郷縣志ニ記セリ此等ノ諸法モ亦確實ナル試驗ヲ行ヒ其優劣ヲ比較セバ實業ニ利益多カルベシ

(九) ぬるでノ名義

ぬるでハぬりでノ訛ナリ又ぬでトモ云フ倭名鈔、本草和名ノ二書共ニ奴天又奴天乃岐新撰字鏡ニ奴利氏大和本草ニヌルデト記ス其奴天又奴利氏ト名クルハ五倍子ノ形似ニ取リタルモノニシテ奴天又奴利氏ハ古語鑽スズノ義ナリト云フ此語ハ日本書紀古事記等ノ古書ニ出ヅ精細ハ畔田氏ノ古名録ニ出ヅ參考スベシ予ハ動物學ニ淺ク且參考書ニ乏シキガ故ニ五倍子虫ノ果シテ新屬新種ナルヤ否ヤヲ知ル能ハズ且ツ敢テ深ク之ヲ研究スルノ勇氣ナシト雖モ若シ新屬ニ係ルモノトスレバ *Nurudea* 若クハ *Nudea* 等ノ名ハ適當セルモノナラント考フ聊カ記シテ専門學士ノ座右ニ呈スト云フ

黑岩恒氏採集琉球植物 (承第九十二號)

牧野富太郎

Mr. Hisashi Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants. (Continued from No. 92.)

By Tomitaro Makino.

更正ノ事

本誌第九十一號ニ收録セラレタル本題ノ文中同號第三百七十二頁ニ有之學名ノ頭上括弧

内ニ數字アリ是レ標品ノ番號ニシテ黑岩君所藏ノ標品ト其號數相符合ス云云ノ註釋ハ今全ク之ヲ抹殺

シ更ニ代フルニ左ノ數語ヲ以テス日ク

學名頭上ノ數字ハ只標品ノ數ヲ表示スルノミ敢テ黑岩君ノ送致ノ際ニ附シ來レル標品上ノ原番號ト關係ナシ而シテ其原番號ニ至テハ文中之ヲ採集者ノ姓名下ニ伴ハシメ以テ同君所藏ノ標品ト彼此相照合スルノ便ヲ得セシム

- (10) *Nephridium* (*Sagenia*) *decurrens* Baker. (= *Aspidium decurrens* J. Sm.; *Sagenia decurrens* Moore; *Aspidium pteropus* Kunze; *Sagenia pteropus* Moore; *Sagenia pteropus* var. *minor* Bedd.; *Aspidium lobulatum* Bl.; *Aspidium platynectus* Kunze; *Aspidium alatum* Brack; *Cardiocleryna alata* Fée; *Sagenia Platyphylla* Hort.)

なまげしだ(田代安定氏) (しだ科)

根莖横走シ葉柄ハ強壯ニシテ狹翼ヲ具フ葉ハ一尺五寸ヨリ大ナル者ハ四尺許アリ而シテ幅ハ約ソ一尺ヨリ下ラズ四一八條ノ波緣線狀長橢圓形或ハ長橢圓狀披針形羽裂片ニ深裂シ長サ約ソ五寸一尺許幅約ソ七八分一吋五六分アリテ斜出シ銳尖頭ナリ底部ハ流延シテ中軸兩側ノ翼部ニ連リ而シテ最下ノ一對ハ往々下緣更ニ一ノ分片ヲ岐ツモノアリ葉質ハ堅膜質若クハ略革質ナリ羽裂片ノ中脈ハ明晰ニ正シク相並列セル支脈モ亦明ナリ而シテ細脈之ト相連リテ網眼ヲ結締シ眼中ニ游脈斗出ス大ナル囊堆點々此游脈ノ上ニ占居シテ支脈ノ兩側ニ相並ビ葉ノ裏面ニ星羅シ且ツ更ニ軸側ノ翼面ニ現ハル苞膜ハ圓心臟形ニシテ其一側ノ凹缺點ヲ以テ葉面ト相連レリ

入表島仲間村(明治廿五年八月十四日黑岩恒氏採、第一回ノ第十號)

英領印度「フィリッピン」群島「マラッカ」「アネイテウム」島「フィジー」島「サモア」島并ニ臺灣ハ之レガ産地ニ
ノ我琉球ニ在テハ始メ O. Wright 氏之ヲ採集セリ

(11) *Desmodium Tabernaemontana* DC. (= *Hedysarum tabernaemontana* Poir.; *Calanaria tabernaemontana*)

Benth.; *Desmodium viticinum* Wall.; *Desmodium cateniferum* Arn.; *Hedysarum racemosum* Thunb.)

みそなほし

みそくさ

うじくさ

(まめ科)

内地産ト異ナラズシテ小灌木狀ヲ成シ枝椹ヲ分テ冬月落葉ス枝ハ細瘦ニシテ毛無シト雖モ嫩枝ニハ臥毛ヲ
帶ブル「花穗軸ニ於ケルガ如シ葉ハ三出式ニシテ互生シ葉柄ハ一寸内外長アリ兩邊極メテ狭キ翅翼ヲ成ス
小葉ハ披針形或ハ長橢圓狀披針形ニシテ銳頭ヲ有シ下底亦狹窄シ縁邊ニ鋸齒無シ略々革質ニシテ硬ク上面滑
澤下面ハ臥毛ヲ帶ビタル葉脈隆起ス共ニ小葉柄ヲ有シ側者ノモノハ極メテ短シ而シテ中部小葉ハ其形チ側
者ヨリ長大ナリ托葉ハ刺狀ニシテ分生シ小托葉亦瘦刺狀ヲ成シ側生小葉ニハ各々一個ヲ伴ヒテ小葉柄本ノ
外部ニ在リ而シテ中部小葉ニハ二個ヲ備フ花穗ハ頂生或ハ腋生ニシテ二―四寸餘ノ長アリ苞ハ鍼狀ヲ成シ花
ハ細小ニシテ數個穗軸上ニ集在シ小梗ヲ有ス萼ハ臥毛ヲ帶ビ裂片ハ管部ト同長ナリ花冠ハ萼ノ倍長ヨリ稍
長シ白質ニシテ旗瓣ハ淡黃色ナリ平區ナル節莢ハ四―八節ヨリ成リ各節ノ長サハ其幅ニ三倍シ細鈎毛莢面
ニ密布シテ物ニ觸レバ忽チ膠着シテ離レ難シ

石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第十一號)

此種ハ支那及ビ英領印度ニ産シ又「セーシェル」島并ニ「フィリッピン」諸島ニ見ル本邦ニ在テハ實ニ山野ノ
普通品ナリ

(12) *Lygodium scandens* Swartz. (= *Ophioglossum scandens* L.; *Odontopteris scandens* Burm.; *Hydroglossum scandens* Willd. nec Presl; *Ophioglossum fliforme* Roxb.; *Lygodium microphyllum* R. Br.; *Ugena microphylla* Cav.)

いりかみてしまし。みせんづる。いりかみてし。みせんづる(共ニ田代安定氏) (しだ科)

織長ナル纏繞蔓本ニ莖ハ鐵線狀ナリ葉ハ二―七寸許長一寸五分―四寸許幅ノ單羽狀ヲ成シテ一對ニ分レ一―四分許長ノ柄アリ小羽片ハ各三―五個硬線狀中軸ノ兩側ニ相並ビ關節ヲ以テ中軸ヨリ直角ニ出デタル小柄ニ聯ル該小柄ハ小羽片既ニ脱落シ去ルモ亦尙ホ中軸ニ宿存ス小羽片ハ一個ノ頂片ト共ニ卵形或ハ舌狀卵形或ハ舌狀長楕圓形ヲ成シ底部ハ圓狀或ハ截形或ハ略ハ心臟狀ニシテ又往々略ハ戟形ヲ呈スルモノアリ鈍頭ニシテ無性裂片ハ其邊緣細微ナル鈍齒ヲ成セリ葉質堅薄、表面ニ一毛ナシ葉脈ハ分生シ再三又岐シテ精細ナリ囊堆穂ハ一―二分餘ノ長アリテ舌狀又ハ線形ヲ成シ相接シテ裂片ノ周縁ニ匝リ連ル苞膜ハ二列トナリテ互ニ覆疊シ苞内各一顆ノ子囊ヲ藏ス子囊ノ頂ニハ冠スルニ蓋狀ノ一環ヲ以テス

石垣島名藏村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第十二號)

「ヒマラヤ」山地方ヨリ「セーロン」島ヲ經テ西ハ亞非利加洲内ノ幾内亞ニ産シ南ハ濠洲ニ及ビ東ハ支那南部、交趾支那、馬來諸島ノ間ニ散布シ東北ニ延テ我琉球ノ版圖ニ入ル蓋シ琉球ハ本品東北極盡ノ産地ト知ル可キナリ

(13) *Blechnum orientale* Linn. (= *Blechnopsis orientalis* Presl; *Blechnum macrophyllum* Goldm.; *Blechnum agrostifolium* Goldm.; *Blechnum Cunninghamium* Ettingsh.; *Blechnopsis Cunninghamiana* Presl; *Blechnum*

nan javanicum Bl.; *Blechnum pyrophyllum* Bl.; *Blechnopsis pyrophylla* Presl; *Blechnum salicifolium* Kaulf.; *Blechnopsis salicifolia* Presl; *Blechnopsis elongata* Presl; *Blechnopsis stenophylla* Presl; *Blechnopsis latifolia* Presl; *Blechnopsis pectinata* Presl; *Blechnum adnatum* Reinw.; *Blechnum lomarioides* Gaud.; *Lomaria blechnoides* Bory.)

ひりゅうしだ (しだ科)

根莖肥厚ニシテ直立セル壯大短莖之ヨリ起立シ黒褐毛鱗其頭ヲ被フ葉柄四—八寸長強壯ナリ葉ハ一—三尺長六寸—一尺五六寸幅アリ中軸ノ兩側ニ多數ノ長銳尖頭線形ノ羽片ヲ駢列シ全邊ニ軟骨質ノ狹縁裏面ニ内卷シ略革質ニシテ裸出シ底部ハ多ク楔形ヲ成シタミ中脈ノ基部ヲ以テ裸出セル中軸ニ連ル然レモ上部ノ羽片ハ廣ク中軸ニ癒着シ下部ノ羽片ハ往々耳形ヲ成ス葉脈ハ精緻ニシテ密在シ分生シテ微ニ彎曲シ斜メニ開出ス囊堆ハ極メテ長ク延ビテ相連續シ且ツ羽片ノ中脈ニ接邇シ以テ其中央ニ一線ヲ畫セリ苞膜ハ囊堆ノ外側ヲ擁シテ長ク相連リ膜質ナリ

入表島仲間村(明治廿五年八月十四日黒岩恒氏採、第一回ノ第十三號)

(14) *Nephrolepis kuroiwa* Makino sp. nov.

New Jap. name. *Hausida*.

はひしだ(新稱)

Rhizome slender, wiry, wide-creeping, with short fibrous roots, covered with few scattered membranaceous linear ferruginous scales. *Caudex* short and slender, with dark brown subulate scales. *Stipes* 1—6,

ほうびくまんし⁹ *Nephtolepis biserrata Schott* (= *N. acuta Presl*) トス今此ニ新定セル本品ハ形狀更ニ之ヨリ弱小ニシテ自ラ別ニ一殊態ヲ呈スルノ一種ナリトス

(15) *Alisma Plantago Linn. var. β. angustifolium Kunth.* (= *Alisma Plantago β. Willd.*; *Alisma angustifolium Hopp.*; *Alisma lanceolatum Wither.*; *Alisma Plantago β. lanceolatum Mart.*; *Alisma ranunculoides All.*)

へらふもだか (さじれもだか科)

全体無毛ノ水草ニシテ多年生ヲナシ根莖ハ短厚ナリ葉ハ之ヨリ叢生シ直上シテ下部鞘ヲ成セル長葉柄ヲ有ス葉面ハ狹長ナル長橢圓形或ハ披針形ニシテ上下漸殺シ銳頭ノ末點ハ鈍尖ヲ成ス全邊平滑ニシテ縱肋五條ヲ曳キ肋間更ニ斜出セル細脈ヲ以テ連結ス葶ハ亭々トシ叢葉ノ間ヨリ擲出シ高ク叢葉ノ上ニ抽キ以テ圓錐花ヲ其上ニ綴ル三四五條ノ小梗節上ニ輪生シ梗本苞アリ廣楹狀ヲ成ス小梗又亞梗ヲ輪生シ亞梗往々更ニ細梗ヲ分出ス梗本亦小形ノ苞ヲ伴ヒ其形長橢圓ニシテ頂端尖リ邊緣ハ膜質ナリ花ハ細梗ノ頂端ニ在リテ各獨生シ細小ナリ外花蓋二片綠色ニシテ橢圓形ヲ成シ鈍頭ニシテ内陷シ邊緣ハ透明膜質ナリ而シテ宿存ス内花蓋即チ花瓣ハ白色菲薄圓形ニシテ萼即チ外花蓋片ヨリ長大ナリ前端ノ邊緣齒痕アリ一日ニシテ凋衰ス雄蕊六數花冠ヨリ短ク花絲絲狀ニシテ葯ハ卵圓形、花絲ヨリ短シ子房ハ十五六七許輪生シ無柄壓區其腹縫緣ノ上端ニ喙狀ノ花柱ヲ生ゼリ膏癭ハ輪生シ側面ヨリ壓區セラレ略倒卵形ニシテ殼質ナリ腹縫緣ノ上部ニ殘花柱ヲ伴ヒ背縫緣ハ圓クシテ一縱溝ヲ印セリ種子ハ細微ニシテ長橢圓形ヲナシ種柄ヲ具フ胚ハ長クシテ鈎曲シ胚乳ナシ

檳榔子ト肉豆蔻

本種ハ又支那朝鮮并ニ臺灣ニ産ス

琉球産ノ標品ヲ取テ之ヲ内地産ノ者ニ比スルニタゞ主トシテ相異ナルハ毛ノ多少ニ在リ即チ内地産ノ者ニ在テハ莖上ノ毛ハ稜上ニ長ク莖面ニハ時ニ殆ンド毛ヲ見ザルガ如キモノアリテ之ヲ莖面短毛ヲ布キタル島産ノ者ニ比スレバ寧ロ其觀ヲ異ニスルガ如シト雖モ島産ノ者亦皆唯ニ短毛ヲ有スル者ノミニ非ズシテ内地産ト殆ンド相同シキ者アリ然レモ要スルニ島産ノ者ニ在テハ莖上ノミナラズ葉面并ニ萼、苞共ニ毛ニ富メルコト内地産品ヨリ甚ダシ又葉ハ島産ノ者概シテ稍短ク花ハ稍小ナリト雖モ之ヲ内地産ト比照シテ敢テ之ヲ變種ニダモ編入シ得ベキ確徴ヲ見出セズ此狀貌ノ變態多キ植物ヲ取リ以テ其極端ノ者ヲ比較スルニ當テハ認メテ以テ相違ノ點アル可キヲ主張ス可キガ如シト雖モ其兩極品ヲ連絡ス可キ中間品ヲ檢出スルニ至テハ直ニ此偏見ヲ放棄ノ此ニ之ヲ一種トナス可キ至公ノ意見ニ服從セザル可ラズ Maximowicz 氏記スル所ノ *Calamintha chinensis Benth. var. grandiflora Maxim.* ノ如キハ予ハ今之レガ實物ヲ見ズト雖モ蓋シ極北端ノ異品ニ今之レガ記述文ニ憑リ之ヲ琉球産ノ標品ト比スルニ兩者ノ間忽チ相異ルヲ覺ユト雖モ然レモ此南北兩品ヲ連絡スルニ我内地産品ヲ以テセバ忽チ其品ノ殊ニ特立セル一品ニ非ザルヲ見ルニ至ラン内地産ノモノトハ即チ山野路傍ニ普通ナルくるまばな是ナリ

(未完)

檳榔子^{ビンヲウツ}ト肉豆蔻^{ニクヅク}

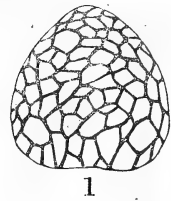
安田篤

昨年ノ暮神田明神下邊ヲ散歩セシ路スガラ一商人ノ鳩卵大ノ者ヲ嚙グヲ見タリ就テ之ヲ尋ヌレバ胃病藥ノ「ちくらうじゆ」ナリト云ヘリ此ニ於テ余ノ好奇心ハ忽チ余ヲシテ之ヲ購ハシメタリ翌日鋸ヲ以テ之ヲ縱斷セ

シニ内部ニ大理石様ノ斑點アリ其狀頗ル肉豆蔻ニ似タレモ香氣ナク且ツ胚乳ノ甚硬キヲ以テ檳榔子ナルヲ知レリ此ニ於テ彼ノ商人ノ胃病藥ナリト云ヒシハ之ヲ肉豆蔻ト混解セシ者ナルヲモ明トナレリ此二者ノ種子ハ其大サ相同シク断面ハ何レモ斑紋ヲ呈シ能ク類似セルヲ以テ左ニ其異同ノ點ヲ擧ゲントス而シテ先ヅ種子ノ形狀及ビ色、断面、組織、性質、藥用等ヲ比較シ次ニ該植物、花、果實等ニ論及セントス

種子ノ形狀及ビ色 檳榔子 (*Areca Catechu*, Linn.) ノ種子 (*Areca-nut* or *Betel-nut* = *Arecanuss* oder *Betelnuss*) ハ鳩卵大ニシテ圓ミヲ帶ビタル圓錐狀ヲ呈シ基底ハ扁平ニシテ著シキ臍ヲ有ス外表面ハ赤褐色ニシテ網狀ノ皴溝アリ然ルニ肉豆蔻 (*Myristica moschata*, Thunb.) ノ種子ハ卵形ヲ呈シ兩端鈍ナリ表面ハ平滑ニシテ黒褐色ヲ帶ビ太キ枝狀ノ縱脈數多アリテ其間ニ網狀ノ小脈アリ坊間ノ肉豆蔻ト稱スル者ハ此種子ノ仁ニシテ之ヲ見レバ表面ニ網狀ノ隆起アリ之ヲ製造スル際通常食鹽水ト石灰ノ混合物中ニ浸スガ故ニ余ノ標本 (大久保先生ノ與ヘラレシ者ニシテ余ハ深ク先生ノ御厚意ヲ謝ス) ニテハ網狀ノ隆起ハ褐色ニシテ其間ハ多少白色ヲ呈セリ蓋シ石灰ノ殘存スルニ由ラズンバアラザルナリ

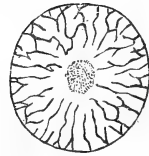
断面 檳榔子ノ種子ノ断面ヲ作ルニハ鋸ヲ用サザル可ラズ其甚硬キガ爲ナリ今其縱橫断面ヲ見レバ種殼ハ甚薄ク表面ニアル網狀ノ皴溝ヨリ内部ノ胚乳中ニ黒褐色ノ突起ヲ出ス此突起ハ種子ノ中心迄ハ達セズ之ガ爲ニ断面ニハ大理石様ノ斑紋ヲ見ル胚乳ハ白色ニシテ頗ル堅シ其基底ニハ小ナル胚アリ次ニ肉豆蔻ノ種子ノ縱斷面ヲ見レバ種殼ハ甚硬厚ニシテ内種皮ハ薄ク膜質ヲ帶ビ灰褐色ナリ之ヨリ仁内ノ胚乳中ニ數多ノ赤褐色ノ脈ノ入込ムヲ猶檳榔子ニ於ケルガ如クナレモ肉豆蔻ニ在テハ此脈ハ太クシテ疎ナリ且ツ胚乳モ柔クシテ容易ニ小刀ニテ削取ルヲ得ベシ又臍ニ近ク胚ノ居スルアリ



1



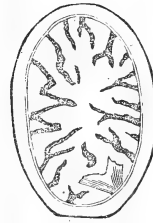
2



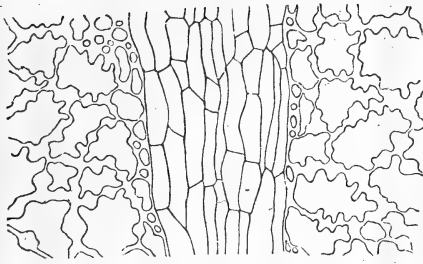
3



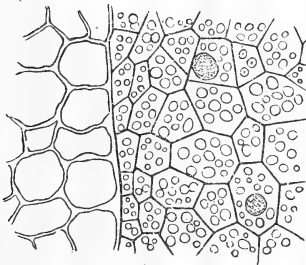
4



5



6



7

(1) 檳榔子ノ種子

(2) 同上ノ縱斷面、種殼甚ク薄ク基底ニ胚アリ

(3) 同上ノ橫斷面

(4) 肉豆蔻ノ種子

(5) 同上ノ縱斷面、種殼甚ク厚ク基底ニ近ク胚アリ

(6) 檳榔子ノ種子ノ組織、中央ニア

ルハ突起トナリテ入込メル部分

ニシテ兩側ニア

ルハ胚乳ノ部分ナリ

(7) 肉豆蔻ノ種子ノ組織、左方ニア

ルハ突起トナリテ入込メル部分

ニシテ右方ニア

ルハ澱粉及ビ單寧ヲ含メル胚乳

ノ部分ナリ

組織 檳榔子ノ斷面ヨリ薄片ヲ取リ

之ヲ顯微鏡ニ照スルハ胚乳ヲ組成セ

ル各細胞ノ外壁ハ凸凹ヲ呈シ表面ノ

皺溝ヨリ入込ミタル突起ハ長形ノ細

胞ヨリ成リ其膜ハ尋常ニシテ凸凹ヲ

爲サズ故ニ一見胚乳ヨリ之ヲ區別ス

ルヲ得ベシ此突起ヲ組成セル細胞

中ニハ赤黄色ノ色素アリ鹽化鐵ノ溶

液ヲ用フレバ青黑色トナルヲ以テ其

單寧ナルヲ知ル又肉豆蔻ノ斷面ヨ

リ取リタル薄片ヲ檢スレバ胚乳ヲ成

セル細胞ハ多角形ニシテ細胞膜ハ何

處モ同厚チ有シ寧ロ薄壁ナリ是等細

胞中ニハ數多ノ澱粉ヲ含ミ其中諸處

ニ散在シテ單寧ヲ含メル者モアリ又

外部ヨリ入込ミタル黒褐色ノ突起ヲ見レバ之ヲ形成セル細胞ハ圓ミチ帶

其細胞壁ハ不規則ノ厚サヲ有ス此中ニ赤褐色ノ單寧充ツ

(未完)

本邦産杜松屬ノ植物ニ就キテ

齋田功太郎

年ノ初メナレハ御目出度常綠葉ヲ有スル杜松屬ノ植物ニ就キテ少シク記述セント欲ス而シテ本題ニ入ルニ先
タチ本邦ニ於テ吾人ノ普通觀察スル松柏科諸屬ノ簡單ナル區分表ヲ記載シ以テ杜松屬ト他屬トノ差異ヲ指示
スルコトセリ

多數或ハ少數ノ鱗片ヨリ成レル毬果ヲ有ス.....一

毬果ヲ有セスシテ單果實狀ノ種子ヲ有ス.....二

散生葉ヲ有ス.....三

對生葉或ハ輪生葉ヲ有ス.....四

互生葉并ニ叢生葉ヲ有ス.....五

互生葉ノミヲ有ス.....六

互生葉ハ鱗片狀ニシテ小シ叢生葉ハ常綠ニシテ針形ヲナシ毬果ハ二年目或ハ三年目ニ成熟シ展開雌蕊即

チ果鱗ハ二個ノ胚珠ヲ有ス(常綠葉ハ通常二個乃至五個ツ、叢生ス) Pinus. 松屬

互生葉并ニ叢生葉ノ二者共ニ綠色細長ニシテ一年内ニ脱落シ毬果ハ一年内ニ成熟シ果鱗ハ二個ノ胚珠ヲ

有シ脱落セス(叢生葉ハ多數ノ葉ヨリ成ル) Larix. 落葉松屬

本邦産杜松屬ノ植物ニ就キテ

六 果鱗ハ二個ノ胚珠ヲ有ス……………七
 果鱗ハ三個以上ノ胚珠ヲ有ス……………八

葉ハ常綠細長ニシテ其横斷面ハ四邊ヲ有シ毬果ハ一年內ニ成熟シ其鱗片ハ脱落セス(毬果ハ下垂ス)

Picea. 唐檜屬

七 葉ハ常綠細長ニシテ扁平、毬果ハ一年內ニ成熟シ其鱗片ハ脱落セス(毬果ハ下垂ス) *Tsuga*. 梅屬

葉ハ常綠細長ニシテ扁平、毬果ハ一年內ニ成熟シ其鱗片ハ種子ト共ニ脱落ス(毬果ハ直立ス) *Abies*. 樅屬

八 葉ハ長披針形ニシテ大ニ尖リ多少鎌形ヲナシ果鱗ハ尖裂セス *Cunninghamia*. 廣葉杉屬

葉ハ針形ニシテ稍鎌形ヲナシ果鱗ハ尖裂ス *Cryptomeria*. 杉屬

四 多少木質ノ毬果ヲ有ス……………九

漿果狀或ハ核果狀ノ毬果ヲ有ス *Juniperus*. 杜松屬

九 葉ハ長線形ニシテ數個殆ト輪生シ果鱗ハ通常七個ノ胚珠ヲ有ス *Sciadopitys*. 金松屬

葉ハ通常鱗片狀稀ニ細長ニシテ對生ス……………十

十 果鱗ハ楕形ナラス……………十一

果鱗ハ楕形ナリ……………十二

毬果ハ六個乃至八個ノ果鱗ヨリ成リ果鱗ハ通常四個或ハ五個ノ胚珠ヲ有ス *Thujaopsis*. 羅漢柏屬

毬果ハ六個乃至八個ノ果鱗ヨリ成リ果鱗ハ一個乃至三個ノ胚珠ヲ有ス *Thuja*. 側柏屬

三 果鱗ハ數個(四個以上)ノ胚珠ヲ有ス
果鱗ハ二個ノ胚珠ヲ有ス

Cupressus. 垂柳楮屬
Chamaecyparis. 花柏屬

二 葉ハ扇形ニシテ一年内ニ脱落シ種子ハ核果狀ヲナス
葉ハ卵形或ハ橢圓形ニシテ數個ノ平行脉ヲ有ス

Ginkgo. 公孫樹屬
Podocarpus. 羅漢松屬

葉ハ細長ナリ.....十三

種子ハ漿果狀ノ柄上ニ位ス Podocarpus. 羅漢松屬

三 種子ハ漿果狀ノコップ狀體ノ内ニ位ス Taxus. 一位屬

種子ハ核果狀ニシテ漿果狀ノ柄或ハコップ狀體ヲ有セス.....十四

十 雄蕊ハ通常二個或ハ三個ノ葯胞ヲ有シ果鱗ハ二個ノ胚珠ヲ有ス
雄蕊ハ通常四個ノ葯胞ヲ有シ雌花ハ單ニ裸出セル胚珠ヨリ成ル
Torreya. 榧屬

(備考)以上ノ區分表ハ主トシテ「アイヒラー」氏ノ著書ニ由ルモノニシテ「ベンザム、フツッカー兩氏」ノ著書ニ

由レハ羅漢柏屬、側柏屬及ヒ花柏屬ヲ合一シテ側柏屬トセリ (未完)

日本藥局方植物篇(前號ノ續キ) 澤田 駒 次 郎

四十九 ファイルラ、ナルテッキス

羅甸名 Ferula Nartex, Biss.

Syn. Nartex Assafoetida, Falconer.

繖形科

亞細亞ニ自生スル著大ナル草本植物ニシテ數年間基立葉ノミチ生シテ生存シ莖ヲ抽キ開花スルノ後凋萎枯死ス基立葉ハ長サ二尺五寸餘廣サ三尺餘奇性重翼狀ニシテ擴張ス葉柄椎ハ長サ大約七寸中實シ髓充チ其腹部隆起シテ殆ド三稜形ヲ爲シ平滑ニシテ溝條ヲ存シ葉靴及ヒ托葉ヲ有セズ然レドモ其基礎部ニ於テ矮短膜質ノ小膜ヲ具有ス葉柄ハ兩側壓扁シ小葉ノ基礎部狹隘トナリ葉柄ニ沿フテ附着シ翼狀ヲ爲ス而シテ葉柄椎ヨリ三對ノ葉柄ヲ分岐シ各小葉ヲ對生シテ翼狀ヲ爲シ其頂端一小葉ヲ有ス其中央ノ一對ハ長大ニシテ兩側ノ二對ハ稍短小ナリ小葉ハ其外線卵圓形若クハ長圓形ヲ爲シ缺裂シテ殆ド其基礎部ニ至リ其裂片廣潤ナル線狀ヲ爲シ先頂微ニ尖レリ又間更ニ缺裂シ其下部狹隘ト爲リ附着シテ翼狀ヲ顯ハスモノアリ平緣ニシテ其質厚シ光輝ヲ帶ヒ毛茸ヲ有セス表裏兩面暗海綠色ヲ呈シ其裏面ニハ贅ヲ有ス莖ハ眞直剛強ニシテ直立シ高サ八尺餘中實シテ外面平滑其色暗綠ニシテ溝條ヲ有シ上部狹小トナリ圓錐形ヲ爲シ其葉腋ヨリ一定ノ規律ヲ爲シテ單一ナル側枝ヲ分岐ス莖葉ハ其數許多ニシテ互生シ柄ヲ有ス而シテ莖ノ下部ニ在ル葉ハ重翼狀ヲ爲シ長サ尺餘葉靴ハ矮短廣潤ニシテ膨脹直立シテ殆ド莖ヲ圍擁ス其上部ニ至ルニ從ヒ其葉細小ト爲リ終ニ葉靴ノミチ有シ莖ノ殆ド中央ニ位スルモノハ著シク膨大シ長サ五六寸乃至七寸五六分其幅六七寸平滑ニシテ暗黃綠色ヲ呈シ莖ヲ圍擁ス之ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次ニ細小ト爲リ頂端ニ接近スルモノハ膜質ノ鱗片ヲ爲シ長サ大約八分餘終ニ之ヲ缺如ス花ハ多家花ニシテ雌花ハ側枝ノ頂端ニ大ナル傘形花ヲ綴ル一傘三十花乃至五十花其直徑四寸乃至五寸餘總苞ヲ有セズ萼五片微ニ齒緣ヲ有ス花瓣五片長卵圓形ニシテ平緣銳尖ヲ有シ暗黃色ヲ呈ス雄藥ハ其發育完全ナラズ雌藥二個實礎ハ單房ヲ有シ花柱延長シテ外方ニ屈曲シ柱頭微ニ膨脹シテ球形ヲ爲

シ花後直チニ墜落ス雄花ハ稍々細小ニシテ莖ノ下部ヨリ抽出スル長キ花梗椎ノ頂端ニ簇生シテ緻密ナル球形ヲ爲シ花瓣ハ間々均等ナラザルモノアリ雄藥五個花絲ハ花瓣ト其長サヲ均フス雌藥ハ其發育完全ナラズ花後分裂果ヲ結ブ長サ三分餘乃至四分餘卵圓形ニシテ先頂尖リ直立平滑暗灰黃色ヲ呈シ菲薄ニシテ背部膨脹シ三條ノ助線ヲ有ス糸狀ニシテ纖小兩側ノ助線ハ廣潤ナル翼ヲ爲シ其廣サ分裂果ノ四分一ニ至ル油帶ハ紫褐色ヲ呈シ其背部ノモノハ廣潤ニシテ各果谷中ニ只一個ヲ存シ接觸面ノ油帶ハ不整狹隘ニシテ四個若クハ六個ヲ有シ間々分裂スルモノアリ而シテ兩分果ハ擔柱ニ因テ連繫ス根ハ肥大ニシテ長サ大約一尺五寸其直往三四寸乃至五寸餘下部狹小ト爲リ分岐シ外面暗褐色ニシテ內部白色ヲ呈シ其上部ニ葉柄ノ殘基ヲ有セリ

本植物ハ前種ヨリ稍々東部ニ産ス Falconer 氏ハ一千八百卅八年ニ於テ西部西藏ト克什米爾^{カスミール}ノ中間ニ在ル北方ノ山坡ナルアストルノ幽谷中乾燥砂礫ノ地ニ於テ岩石間ニ蕃殖スルヲ發見セリ然レドモ克什米爾ニハ産セス

本植物ハ第九月ニ於テ子實稔熟シ莖葉ハ過半凋萎枯死セリ然レドモ氏ハ注意シテ幼稚ナル根ヲ取り之ヲ管理セルサハランポールノ植物園ニ移植栽培セリ又氏ハ其種子ヲ英國植物園ニ送附セシニ一千八百四十二年ニ於テ該種子ヨリ發芽シ年年々春時基立葉ヲ生シ其根莖ヲ増大シ一千八百五十八年ニ至リ二株花梗椎ヲ抽出スト雖厄降霜ノ害ヲ受ケ發育セス翌年即チ一千八百五十九年ニ於テ數株梗椎ヲ抽キ開花シ就中其一株ハ多量ノ子實ヲ結ヒ充分ニ稔熟ス此植物ノ莖ヨリ阿魏ノ小量ヲ分泌スト云フ

藥品 阿魏 *Asa foetida*

本植物及ヒ「ファイルラ、スコロドスマ」ノ二種ヨリ製造スルモノトス

性狀成分及ヒ醫治効用等ハ「ファイルラ、スコロドスマ」ノ條下ニ掲載セシニ因リ今茲ニ之ヲ贅セズ

其他本植物ノ果實及ヒ其莖葉ハ Anjudan ト稱シ波斯及ヒ阿富汗尼士丹ヨリ印度ニ輸入ス印度人ハ醫藥トシ之ヲ用フルコト多量ナリ又 Irvine 氏ノ說ニ據レハ種子及ヒ其葉ハ Kashim ト稱シ發汗、驅風ノ一藥トス本植物ノ產地ニ在テハ新鮮ナル葉ヲ食用トス

(以下次號)

◎ 雜 錄

○ てんくさノ一新種

岡村金太郎

左ノ一篇ハ昨年中余ガ獨逸グラキフスワルドナル大學教授シユミッツ氏ノ許ニ新種トシテ送り且ツ氏ニ依テ其出版ヲ求メタルモノナリシガ今年二月氏ハ之ヲヘドギア雜誌ニ投シタリシ處漸ク九月末ニ至リ其別刷ヲ氏ヨリ送ラレタレバ茲ニ記シテ以テ諸彦ニ御披露申ス

Neue japanische Florideen von K. Okamura

I. Gelidium subcostatum Okamura n. sp.

(Mit Tafel X)

和名 ひらくさ

概形体ハ扁壓ニシテ兩縁ニ薄ク兩邊ヨリ羽狀ニ分岐ス主枝ハ腋角銳ニシテ明カニ中肋ヲ存ス四分孢子ハ纖細ニシテ單條若クハ分岐セル最末羽片ニ生シ十字形ニ分裂ス囊果ハ卵形寧ロ橢圓體ニシテ最末羽片ノ頂端ヨリ僅ニ下リタル部ノ中ニ生シ二室ナリ

根ハ多ク枝ヲ分チ体ハ扁壓ニシテ三―四回兩縁ヨリ羽狀ヲナス高サ一五―三五「セ、メ」ニシテ巾二―五「ミ、メ」明カニ中肋ヲ存シ。体ノ下部年ト共ニ甚ダ太シ。枝ハ伸ビテ二―三回再羽狀ニ分岐ス。枝ノ稍大ナルモノハ總テ中肋ヲ存ス。中肋ハ頂端ノ方漸々微ニシテ分明ナラズ故ニ枝ノ上部ハ殆ド扁平ナリ。枝ノ腋皆銳。最末小羽片ハ細キ三角形ニシテ先端尖レル

体ノ造構ハ四層ヨリ成リ軸層ハ伸長セル無色ノ糸狀細胞ヨリ成リ次層ハ圓形乃至多角形ナル細胞ヨリ皮下部ハ又延長セル絲狀細胞ト小サキ赤色細胞ト混在シ皮部ハ紅色ノ小細胞ノ一層ヨリ成ル

四分胞子ハ十字形ニ分裂シ纖細ニシテ單條若クハ分岐セル小羽片ノ表皮細胞ヨリ變成シ往々多々密集ス囊果ハ橢圓狀ニシテ小羽片ノ頂端ノ稍下リタル部分ニ埋在シ兩面ニ隆起シ二室ヨリ成リ中隔アリ縱ニ室ヲ境シ其室ノ外壁ト結ブニ細糸ヲ以テス胞子ハ小柄ヲ備へ中隔ノ兩面ニ附着シ棍棒狀ニシテ短シ

体色ハ紫色紅ニシテ往々黃色ヨリ綠色ニ變シ全ク晒白ス質軟骨様ニシテ堅ク壓スルモ台紙ニ附着セズ

此種ハ志、相、房邊ノ海ニ專ニシテ恐クハ稍深キ岩石上ニ生スルナラン其分布ノ區域誠ニ狹隘ナルガ如ク他ノ產地アルヲ知ラズ

本種ハ *Gelidium* 屬中ノ種ヨリ外ナラザルモノニシテ其中肋ヲ存シタル体ノ性質ニ依リ甚ダ妙ナリトスてんく「科」中肋ヲ存スルモノハ *J. Agardh* 氏ノ書ニ依ルニ唯 *Subria* 屬ニ「ミ」見ル所ナリ然レニ *Subria* bodiesノ各部ヨリ小枝ヲ發生シ其枝ニ結實スル性質アルニ依りてんく「屬」トハ異ナレトス今若シ余ノ所論ニシテ誤ナシトセバ *Subria* 屬ノ性質ノ *Gelidium* 屬ト異ナル點ハ唯 “*Phyllis prolificandus fertilibus*” (不規明ニ發生シタル枝ニ結實ス)ノ性質アルノ「ミ」

數月前日本金澤ナル岡村氏ヨリ日本沿岸ノ(新紅藻類ノ記載及ビ圖ヲ余(シユミット氏)ニ送ラレ若シ余ノ意見ニシテ果シテ氏ノ所見ト異ナラザレバ宜シク此記事ヲ出版シ吳レトノ依頼ヲ受ケタリ余ハ此申出ヲ大ニ嘉ミシ茲ニてんくさノ一新種ヲ出版スル運ビニ至レルナリ而シテ余ハ氏ノ記事ニ付スルニ此新種ニ對スル意見及ビ他ノ近縁ナル種類ニ就テ聊カ所存ヲ述ベントス

實ニ岡村氏ノ論スル如ク此種ハアガード氏ノ書中ニ在ル(Gelidium)屬ノ諸種中一ノ中肋ヲ存スルニヨリテ其特徴トシテ區別シ得ベシ其中肋ハ体ノ下部ニ起リ上部ニ至ルニ從テ漸々不明ト成リ遂ニ頂端ニ近クニ至レバ全ク消滅ス故ニ此種ヲ Gelidium 屬中ニ數フルニ就テ或ハ疑ナキ能ハズ

今アガード氏ノ書(Epioris. p. 544)ニ從ハシ Gelidium 屬ハ「体ハ兩縁ニ薄ク時トシテハ稍圓柱狀ヲナス」トアリ然ルニ Suhria 及 Ptilophora 屬ハ「体ハ扁壓ニシテ中肋ヲ存ス」ト記シ且ツ Pterocladia 屬ニハ「体ハ兩縁ニ薄ク稍中肋アリ」ト記載セリ氏ハ又 Gelidium 屬ヲ他書ニ記シテ「体ハ實ニ決シテ中肋ヲ存セズ」トセリ之ニ依テ者フレバ實ニ岡村氏ノ此種類ハ Gelidium 屬ニ入ル、能ハザルモノ、如シ然レハ人若シ此種ヲ以テ以上列記セルてんくさ科ノ諸屬 Pterocladia, Suhria 及 Ptilophora ノ諸種ト比較セバ此兩者ノ間ニ存スル差異ハ此種ト他ノ Gelidium ノ諸種トノ差ヨリ遙ニ大ナルヲ知ルベキナリ

Pterocladia lucida (R. Br.) J. Ag. ハ其外貌(殊ニ枝ノ打方ニ於テ)ニ於テ實ニ能ク類似スレバ其單室ヨリ成レル囊果ハ以テ Gelidium subcostatum Okam. ト區別スルニ足ル Suhria vitata (L.) J. Ag. ハ正ク二列ニ生ズル小枝ニ結實スルヲ以テ全ク異ナレリトス Ptilophora spissa (Suhria) Kütz. モ亦体ノ兩面ニ存スル廣キ平扁ナル中肋ヨリ小鱗片狀ノ小枝ヲ生ズルト及ビ体ノ各部ニ密生スル厚キ透明ナル刺毛トニ依リテ一目ノ下其差

異ヲ知ルベキナリ

人若シ假リニ以上ノ如キ異ナリタル種類ノ一ト *Gelidium subcostatum* トナ一屬ノ下ニ收メントセバ唯ニ其屬ノ性質ヲ變ズルニ止マラズシテ更ニ相互甚ダ關係ノ薄弱ナル且ツ決シテ一ノ自然ノ類目ヲナササル種類ヲ全一屬ノ下ニ收メザルベカラズ之ニ反シテ人若シ *Gelidium subcostatum* チ *Gelidium* 屬中ニ收メナバ之ニ依テ其屬ノ一形質ヲ付加スル迄ニシテ却テ他ノ種々ナル種類トノ關係ヲ定ムルニ易シ只此際少シク爲サマルベカラザルコトハ J. Agardh 氏ノ與ヘタル *Gelidium* 屬ノ性質ヲ中肋ノ點ニ就テ少シク變ズルノ必用ヲ感ズルノミニシテ此屬中ノ他種ト此種トノ關係ハ實ニ密ナルヲ得ルナリ

故ニ岡村氏ノ此一新種ヲ *Gelidium* 屬中ニ收ムルハ余ノ最モ其宜シキヲ得タルモノトシテ贊スル所ナリ

Translated from Fr. Schmitz's *Neue japanische Florideen, Hedwigia Band XXXIII, Heft*

3—, 1894.

○劣等黴菌ノ營養新說

池野成一郎

高等顯花植物ガ其營養上磷酸、硫酸、加里、石灰、「マグネシア」并ニ鉄ナル六種ノ無機鹽類ヲ要シ且此等ハ決テ他ノ鹽類ヲ以テ代用スベカラザルコトハ水中培養ノ試驗ニ因テ確定セル所ナリ而シテ劣等黴菌即 *Penicillium*, *Stocharomyces* ノ如キハ其要スル所ノ鹽類少ク之ニ異レルモノアリ此事ニ就テハ吾人ハ主トシテカル、チー、ゲリー氏ガ千八百七十九年ノ研究ニ依ル其說ニ據レバ菌類ノ要スル鹽類ハ

(一) 硫黃

(二) 磷

(三) 「カリウム」、「ルビヂウム」、「セジウム」三元素ノ内一元素

(四) 「カルチウム」、「マグネシウム」、「バリウム」、「ストロンチウム」四元素ノ内一元素

ノ四種ニシテ夫ノ綠色植物ノ營養上必須缺クベカラザル鉄鹽類ノ如キモ入用ナラザルナリ

然ルニ昨年九月二十四日ヨリ三十日迄七日間澳國ウキーン府ニ於テ開ケル獨乙理醫學者會ニ於テ「プロフェッソル」ドクトル」ハンズ、モリシユ氏ガ演說シタル所ニ據レバ其說大ニチーグリー氏ノモノト異ルアリ氏ガ論說ノ要點左ノ如シ

(一) 鉄ハ劣等黴菌ノ營養上欠クベカラザルモノトス鉄無ケレバ菌類ハ其發育不完全ナリ

(二) 鉄ハ之ニ類似セル元素即「マンガン」、「コバルト」若クハ「ニッケル」ヲ以テ代用スルコト能ハズ此點ニ於テハ菌類ハ能ク含綠植物ニ類ス

(三) 前述ノ如クチーグリー氏ニ從ヘバ「マグネシウム」無キモ之ニ代フルニ「カルチウム」、「バリウム」若クハ「ストロンチウム」ヲ以テスレバ菌類ハ成育スベシト是レ全然虚偽ニシテ若シ「マグネシウム」無ケレバ菌類ノ芽胞ハ發育スルコトダニ能ハズ又之ニ代フルニ「アルカリ」土ノ金屬(即「カルチウム」、「ストロンチウム」、「バリウム」)ヲ以テシ若クハ亞鉛群ノ金屬(亞鉛「バリウム」)「カドミウム」)ヲ以テスベカラザルナリ

(四) 「カドミウム」ノ鹽類ハ極テ稀薄ノ溶液タリ凡菌類ニ有毒ナリ

(五) 「カルチウム」ハ劣等菌類ノ營養上必要ナラズ是レ高等含綠植物ノ營養ト異レル要點トス

以上論ズル所ニ因レバ劣等菌類ト含綠顯花植物ト營養上異ルハ唯「カルチウム」ナル一元素ニアルノミ即甲ハ之ヲ要シ乙ハ之ヲ要セザルコト是レナリ其他ノ九元素(炭素、水素、酸素、窒素、硫黃、「カリウム」、磷、「マグ

クネシウム」(鐵)ハ甲乙共ニ之ヲ要ス。

又チーグリー氏ニ從ヘバ「カリウム」ハ「セシウム」若クハ「ルビヂウム」ヲ以テ代用スベキガ如シト雖トモ果シテ然ルヤ否ヤ一層確實ナル實驗アルニアラザレバ頗ル疑ハシ

○樹木生活ノ起原 (承前)

安田 篤

今ヤ第三境系ノ吾人ノ眼眸ニ映ズル者アリ蓋シ氣候帶ノ發達ニ伴フノ致ス所ナリ彼ノ溫帶地ニアル堅木類ハ一方ニテハ鬱々タル赤道植物ニ對峙シ他方ニテハ陰々タル極地植物ニ抗聳シ之ヲ要スルニ溫帶ハ熱寒兩地間ノ境線トナリ了レリ「コンウエー、マクミラン」氏ハ地球上ニ於ケル全植物帶ヲ中央領園及ビ遠退領園ノ二部ニ大別スト雖余ヲ以テ之ヲ觀ルニ更ニ境線領園ヲ加ヘテ三大區分ト爲ストキハ植物進化史ヲ論述スルニ最遺漏ナキヲ信ズ勿論此三領園ノ元素タル判然動カス可ラザル區劃ノ存スルニ非ズシテ幾分カ各處ニ於テ相混ズルヲ免レズ以上ハ上近古代即チ前氷原期ノ光景ナリ氷原期ニ至レバ北溫帶ノ植物ニ一大影響ヲ與ヘ其中特ニ注意ヲ値スル者四群アリ一ニ曰ク歐洲森林、二ニ曰ク北東亞森林、三ニ曰ク東岸北米森林、四ニ曰ク西岸北米森林是ナリ而シテ何レモ前氷原期ニ於ケル北方森林ノ遺物ナリ此中北東亞森林ハ其數ノ夥シキ其形狀ノ多樣ナル當ニ吾人ヲシテ一驚ヲ喫セシムベキ者ニシテ是等ハ巧ニ原始森林ノ性質ヲ保持セリ之ニ反シテ歐洲森林ノ寂寥ナルハ亦怪異ノ感ナキ能ハザルモ抑其故有テ存セリ何ゾヤ曰ク寒軍ノ北ヨリ南ニ突貫スルニ當テヤ植物軍ノ位置ハ頗ル危ク退ンカ東西山脈及ビ地中海アルヲ如何セン戰ンカ其當ル可ラザルヲ如何セン進退維レ谷マリ勢復タ伸ビス命ヲ鋒鏑ノ下ニ殞セシ者擧テ數フ可ラザレバナリ東岸北米森林ハ地文ノ性質ニ依リ保續大ニ其功ヲ奏シ其數ノ饒多ナル蓋シ北東亞森林ニ讓ラズ然ルニ西岸北米森林ヲ見レバ松柏類其主位

ナ占メ堅木類ノ如キハ恰モ寥々タル晨星ノ如ク僅ニ其影ヲ留ムルニ過ギズ彼ノ大湖ヲ經テ「ミッシピ」谷ニ
 落下セシ氷片ハ西岸森林ニ達スルニ至ラズト雖亦僅少ノ影響ヲ與フルコトナシトセズ氷原ノ漸ク侵襲シ來ルヤ
 堅木類先ヅ退キ松柏類之ニ踵グ而シテ松柏類ハ「ロッキ」山脉ノ西腹並ニ北東亞森林地方ヲ蠶食シ其勢猖獗
 ナ極メ其發生力ノ旺盛ナル之ヲ *Sequoia sempervirens* 及 *S. gigantea* ニ徴シ得ベキモ翻テ堅木類ノ有様
 ナ見レバ東ニハ魏々タル「ロッキ」山脉ノ雲聳スルアリ西ニハ森漫タル太平洋ノ漲溢スルアリ南方亦「メキ
 シコ」灣ノ遮斷スル所トナリ血路ノ以テ開クベキナシ是レ其生存者ノ多カラザル所以ナリ又東岸北米森林ヲ
 見ルニ松柏類ノ鮮少ナル眞ニ指ヲ屈スルニ足ラザル者ハ他ナシ堅木類ノ勢威之ヲシテ然ラシメタルニ由ラズ
 ンバアラズ而シテ彼レ松柏類ハ遁路ヲ北方及ビ北西面ニ取リテ散潰セリ

境線ニ沿ヒ更ニ高等ナル植物ノ發達セル著名ノ例證ヲ舉グレバ石炭紀ノ氷原地ニ生ゼシ *Glossopteris* ナリ此
 植物ハ他ノ植物ニ先ダチテ出デ後者ノ氷原ノ爲ニ追退セラレシニモ關ラス依然其居ニ安ンゼリ

以上述ベタル所ニ依レバ地球上ノ樹木生活ニ關スル植物史ノ吾人ニ必要ナルハ自ラ明カナルベシ灌木及ビ草
 本ノ發達及ビ遷移ノ状態ヲ見レバ樹木群ノ歴史ト殆ト伯仲スルヲ知ルベシ然レモ非木本植物ノ性質強固ノ度
 ハ遙ニ木本植物ニ劣ル者アルガ故ニ其一地方ヨリ他地方ニ遷移スルヤ非常ノ變化ヲ被ムルナリ熱帶ハ植物
 發達ノ大中心ニシテ其境縁ヨリハ最高等植物ノ先驅者ヲ生ジ松柏類ハ中古代ニ於テ頗ル其勢ヲ逞フシ蕁類
 及ビ多瓣類ノ如キハ上第三紀ニ於テ繁茂ノ極ニ達セリ是ヲ以テ推セバ現今草本ノ大部ヲ占領セル單瓣双子葉
 植物ヨリハ遙々タル未來ノ森林ヲ支配スベキ樹木群ノ發達スルヲ豫知シ得ベシ何トナレバ其識ヲ爲ス者ハ
 既ニ太平洋島中ノ樹狀菊科ニ之アレバナリ然リト雖思フニ未來ニ於ケル森林ノ發達ハ決シテ過去ノ如ク顯著

ナル者ニアラザルベシ其故何ゾヤ蓋シ現今地文學上ノ複雑ナル狀態ハ他ノ樹木群ヲシテ往古ニ於ケル如ク松柏類、菜蕒類若クハ椰子類ノ發達スルガ如キニ至ラシメザレバナリ此三類ノ植物ハ中古代ノ森林中ニ起リシ生存競争ノ唯一ノ紀念標ニシテ當時ノ情態ハ頗ル純同ノ植物界ヲ作りシヲ以テ觀レバ如今植物境系ノ複雑ハ亦未來ニ於ケル發達ノ徵候タルベキヲ敢テ疑ヲ容レザルナリ

○假晶体ノ檢究

平瀬作五郎

Dr. G. Stock 氏假晶体ニ就テ種々檢究セラレタル成績ヲ *Beiträge zur Biologie der Pflanzen*, Band 6, Heft 2, 1892. ニ於テ公ニセラレタリ而シテ其卷末ニ抄録セラレタル要領ハ左ノ如シ

- (一) 假晶体ハ普通ノ細胞核及ヒ葉綠粒并ニ細胞液、原形質等ノ成分トシテ常ニ其等ノ内ニ存在ス
 - (二) 假晶体ハ結晶狀ヲ形成ス
 - (三) 細胞核及ヒ葉綠粒ノ假晶体ハ共ニ分泌物ニハ非ス、是等各機官ノ枯死スル前ニ假晶体ハ消散ス
 - (四) 假晶体ノ成育上ニ日光ノ感應顯著ナラス
 - (五) 養液中ニ含窒素物ノ量減少セハ隨テ細胞核及ヒ葉綠粒内假晶体ノ消滅ヲ惹起ス、更ニ之ニ窒素含有物ヲ供給セハ再ヒ假晶体ヲ生ス
 - (六) 養液中石灰鹽類ノ欠乏ノ爲メニ假晶体ノ成育ヲ妨ケラルルコトナシ
 - (七) 葉ヲ含窒素液中ニ培養スルコト久シケレバ細胞核外ニモ假晶体ヲ形成ス
 - (八) 木犀科植物ノ冬芽ヲ被フ處ノ鱗片内ニハ概テ假晶体アリ是其貯畜物ナルベシ
- 而シテ氏カ檢究法ノ大要ハ次ノ如シ

實驗材料ヲ大戟科、玄參科及ビ木犀科植物中ヨリ撰擇シテ其稈葉、成育セルモノ、枯死セルモノ等種々ノ成育度ニ於ル者ニ就テ檢究シ或ハ黒塗ノ紙筒ヲ用ヒテ枝葉ヲ覆ヒ若クハ錫箔ヲ用ヒテ葉ノ半部ヲ包ミ以テ日光ヲ遮斷スルヲ數日乃至數十日ニシテ爲メニ淡黃色ヲ呈シタル部分ト綠色部トヲ對照實驗シ又或ハ水中培養法ヲ行ヒ而シテ其等ノ結果ヲ觀察スルニハ猛汞ノ「アルコール」液ヲ用テ固定シ、「ミクロトム」ヲ用テ切り、○
 「ベルセント」ノ「アシドフクシン」水液ニ浸スヲ二十四時間ニシテ之ヲ水ニテ洗ヒ或ハ又「アシドフクシン」ノ飽充水液ニ浸シテ暫ク之ヲ温メタル後温メタル重クロム酸加里ノ飽和水液ヲ用テ洗ヘハ假晶体ノミ濃紅色ニ染ム、之ヲ「カナダバルサム」ニテ封裝シタル「プレパラート」ヲ以テス

○落葉集

野村彦太郎

此編ハ予カ何ニシレトナク西書ヲ閱讀スルノマニク西人ノ我經濟用植物ニ就テノ論說ヲ抄譯セシモノナリ、カ、ル一時ノ稿本ニ過キザレハ其說ノ古今ヲ撰バズカキ集メシモノナレハ隨テ取捨スベキノ點モ多カル可シ此等ニ就テハ讀者諸君ノ判定如何ニ任スノミサレバ此稿ノ今後五六回ニシテ盡クルアルカ或ハ又連續數十回ニ亘ルカニ至テハ予自身ト雖トモ今日ヨリ明言シ難シ只管今後ノ景況如何ニヨルト云爾

日本産ノ柿

余ノ知ル處ニ據レハ北米ニ産出スル日本種柿樹 (Diospyros Kaki) ノ原ハ水師提督ペルリー氏カ一千八百五十六年副官モーレー氏ニ寄贈シタル種子ヲ華盛敦ナル海軍天文臺ノ地ニ栽エタルニ起リ一千八百六十年ニ至リ始テ其果ヲ結ヒシト然レトモ其種苗ノ蕃殖ヲ謀リシヲモナク今ハ其樹モ老死セリト一千八百六十三年ニ至リ米國農商務省ノウヰルヤム、サンダー氏カ再ヒ此種子ヲ輸入シテ農務省用地ニ栽培セシニ能ク發芽セルヲ

以テ其苗ノ幾分ヲ試驗用トシテ配分セシニ原樹ノ或ルモノニ在テハ能ク長成シ往々一樹ニシテ果實ノ一苞^{アツセル}ヲ收ムルニ至レリ然ルニ日本ノ培果術^{ボモロサ}ノ不練ナルカ爲メ殆ト其接木ノモノヲ得ルニ困難ナリシモ一千八百七十年ニ至リ同國農務局ハ此樹ノ接木シタルモノヲ輸入スルニ至リ此柿種ハ合衆全國ニ蔓延シ殊ニカリホルニヤ州及ガルフ州ニ多シトス

抑モ柿樹ノ變種ノ名ハ次ノ經驗ニ據テ證スル如ク實ニ不完全ニ多分ハ其名ヲ有セサルモ或ルモノニ在テハ同種ニシテ異名ナルアリ或ルモノニ在テハ異種ニシテ同名ナルモアリ現時(一千八百八十七年)此果實ノ變種ヲ區別スルニ困難ヲ極メシモ恰モ好シ今年其研究及比較ニ必要ナル數多ノ標品ヲデナルデア、フロリダ、アラバマ、ルイヂヤナ、テキザス、カリホルニヤ諸州ヨリ寄セラレタリ然レモ同一ノ變種ニ附スル名ニシテ往々異種ナルモノアリ大抵其名ナキ者多ク偶々此レアルモ其名ノ誤レルモノ多シ蓋シ之ヲ寄贈セシ人々ハ其名ヲ正スニ必要トセザリシモノ、如シ是以テ余ハ日本本國ノ技手カ寫セシ柿樹ノ變種ニ於ケル最モ良キ原圖ニ就テ彼是相比較研究セシカ故ニ其手數一方ナラザリキ此等ニ關スル著述ハ翌年(一千八百八十八年)着手スルノ心算ナリ余ハ望ム此果樹ヲ所有スル人々ハ標品ノ寄贈アツテ此事業ノ大成ニ補助アランコト此等ノ研究ノ結果トシテはちや、たねなし、ゑもんナル三變種ヲ得タリ(中略)

他年ノ經驗ニ據ルニ柿樹ハ或ハ完全花ナルアリ或ハ雄葉ノ生長不完全ナルモアリ完全花ハ常ニ葉腋ニ獨生シ不完全花ハ間々簇生ス此種ハ雌雄其株ヲ異ニセリト云々(一千八百八十七年農務省報告抄譯 Van. Deman 氏ノ說ニ係ル)

日本柿ノ樹性堅強ナルモノハ孰レモ栽培者ノ意ニ適セル如キモ嫩樹ニ在テハ間々脆弱ナルアルモ數年ヲ經ル

片ハ無果樹ヨリモ能ク寒氣ニ堪ヘ得可シ印土領土ニ在テ余ノ一見シタル樹ハ高サ一尺許アリシ其所有者ノ説ニ據レハ昨年ハ果實ノ一苞許ヲ結ヒタリト抑モ日本柿樹ハ我邦(米國)ノ原種ト異リ完全花ニ一花中ニ雌雄兩藥ヲ有スルモ我邦ノモノニ在テハ雌雄兩藥其株ヲ異ニセリ(一千八百八十九年全上報告)

日本ニ於テ施用スル單寧ニ富ム柿の澱(Kaki-nogshibu)ト稱スル一種ノ液体アリ苦澁ノ柿實ヨリ製出セシモノニ紙ヲ強クシ且ツ久キニ堪ヘルノ能アリ殊ニ他國ヨリ日本ニ於テ其用廣シト此物質ヲ以テ紙面ニ塗抹スルハ片ハ恰モ漆ノ如ク其液ハ堆積シテ薄皮ヲ結フモノ、如シ而シテ其單寧ハ防腐ノ効アリト此液質中ニ竄入シ或ハ此ヲ以テ塗抹シタル物体ノ面ハ殆ト水、酒精ニ溶解セズ又煮沸シタル稀硫酸ヲ以テスルモ甚シキ害ニ罹ルヲナシ抑モ柿の澱ハ初夏ノ候收穫シタル果實ヲ石臼ニテ搗製シタルモノナリ此物ヲ水ト共ニ桶ニ移シ半日許ニノ稿袋ニテ濾過スルニ在リ此製液ハ淡灰或ハ暗灰色ノ乳樣液ニシテ自然其中ニ固形微物ノ停滯スルアリト (Bulletin of Torrey Botanical club. 1883)

○紅葉ト黄葉

市、塘、

晩秋ノ砌ニ於テ瀧ノ川ノ錦綺、晃山ノ紅霞ハ能ク人ノ注意スルトコロナリ然レモ樹木ニシテ春夏ハ綠葉ヲ有スレモ晩秋ハ紅葉或ハ黄葉ニ變ズルモノハ果シテ何々植物ナルヤニ至テハ注意スル人蓋シ稀ナリ否唯植物家アル而已余モ近頃はチ白澤林學士ニ聞キ面白シト思フ故敢テ未知諸君ニ紹介ス其主ナル樹木概チ左ノ如シ

一、紅葉スル樹木 からこぎかへで、めいげつかへで、こはうちはかへで、もみぢ、めぐすりのき、うりはだかへで、こみねかへで、かちかへで、うりかへで、どうだんつじ、うるし、なまかまど、まゆみ、やまぶどう、やまうるし、つたうるし、ぬるで、等

一、黄葉スル樹木 みつでかへで、ひとつばかへで、ちどりのき、いたやかへで、まんさく、いてう、かば類等

其他混色チ呈スル樹木多ケレモ大抵ハ萎縮シテ天ク脱落スルチ常トス

○巨大ノ葉

椰子類ノ植物ハ絶大ノ葉チ有スルモノニシテ「アマゾン」河地方ニ生ズルくわじや椰子 (Quaja Palm) ハ長サ五十尺幅十六尺程ニ達スル葉チ有シ「セイロン」島中ニ生ズル椰子ニハ長サ幅トモ十八尺ニ達スルモノアリテ土民ハ之チ以テ天幕チ作ルト云フ又こゝわ椰子 (Coora Palm) ハ殆ト三十尺ノ長サニ達スル葉チ有セリ又椰子類以外ノ植物ニテ之モ「セイロン」島ニ産スル繖木蘭 (Parasol magnolia) ハ十五乃至二十人チ覆フニ足レル大葉チ生ズ曾テ其葉ノ乾腊セラレタルモノニ就テ之チ檢スルニ三十五尺ノ長アリ又温帯地方ニ於テ能ク生育ニ耐ユル絶大ノ葉ハびくどりわれじわ (Victoria regia) ノ葉ニシテ直径七尺ニ達スルコトアリト云フ

○葡萄ノ種子ノ利用

伊太利ノ葡萄栽培者ハ現今葡萄ノ種子ヨリ點燈ニ供スベキ油チ製シ居レリ此油ハ清澄ニシテ無色無臭其燃燒スルニ方リ烟チ發スルコトナシト云フ

○樹木内部ノ温度

エムプリソツ (M. Prinz) 氏ハ樹木内部ニ於ケル温度ノ變更ニ就テ實驗シタルニ内部ノ一年間平均温度ハ外氣ノモノト一致スレドモ一月間平均温度ハ時トシテ二三度ノ差異アルコトヲ示セリ又温度ノ高低ガ樹木ノ内部ニマデ透徹スルニハ通例ノ場合ニテハ凡ソ一日ヲ要セリ樹木内部ノ温度ト外氣ノ温度トノ差ハ通常僅ニ

數度ナレドモ時トシテハ十度程ニ達スルコトアリ外氣ノ溫度氷點以下ニ降り愈下降セントスルニ方リ内部ノ溫度モ亦降リテ植物生育水 (Water of Vegetation) ノ氷結スル點ニ近ヅキ此所ニ靜止ス元來植物生育水ハ氷點以下一度以內ニ於テ氷結スルモノトス樹幹ノ内部ガ最高溫度ニ達スルハ其時期外氣ガ最高溫度ニ達スルヨリモ遙カニ早キモノナリ是レ春季未ダ木葉ノ生ゼザルニ際シ太陽并ニ空氣ヨリ直接ノ作用ヲ受クルニ因ル夏季熱ノ烈シキ時ニ方リテモ樹木内部ノ溫度ハ凡ソ攝氏十五度ノ邊ニテ靜止シ外氣ノ溫度ニ非常ノ變更ヲ生ズル事情アルモ内部ニハ二度程ノ變更アルニ過ギズ大樹ハ通例寒冷ノ月ニ於テ外氣ヨリモ少シク溫度高ク溫暖ノ月ニ於テハ其溫度外氣ヨリ少シク下レリ

(以上三件ア、キ、生抄譯)

顛毛及ビ偽顛毛

白嶽生 Cent. Blatt 抄譯

抑モ吾人ガ下等植物界ニ於テ屢々見ルトコロノ顛毛 (Cilia) 或ハ鞭毛ナルモノハ果シテ何ナルヤ言フ迄モナクふらずま物質ヨリ突出セル糸狀体ニ外ナラザルナリ從フテ其成分ふるてゐンナラズンバアラズ而シテ微生物ノ生活スル限リハ決シテ此糸狀体ノ運動ヲ靜止セザルモノトス今日吾人智識ノ達シ得ル範圍内ヨリ見渡セバ顛毛ノ分布ハ専ラ自由ニ水中ヲ泳游スル微生物ニ限ラル、ガ如キ觀アリ是蓋シ孰レノ場合ヲ問ハズ顛毛ハ多少自己ノ進動ニ關係アレハナリ然リト雖モ亦完ク例外ナキニ非ズ夫ノ所謂ですみでうひ類 (Desmidiae) ニ見ル運動ノ如キハ自ラ交互ニ粘液ヲ分泌スルカ或ハあめぬば様ノ活劇ヲ演ジテ毫モ顛毛ノ助力ヲ借ラザルナリ反シテ近來世ニ公ニシタル或人ノ研究ニ由レバ以前顛毛ヲ具有セザルモノト考ヘラレタル夫ノ裂殖菌類ノ多クモ其活時代ニアリテハ之ヲ具備スルモノナラント云ヘリ此研究ハれつゝれる (Löffler) どれんくまん (Trenkman) 兩氏ノ染色法ニヨリ一層満足ナル結果ニ達セリ

一体顛毛カ細胞膜ヲ通過シテぷらすま体ニ着觸スルコトハ今日諸學者ノ續々觀察スルトコロニシテかうゐると
 ん (Overton) 氏ハばるばるつくす (Volvox) ノ細胞表面ニアル二箇ノ小孔ヲ貫通シテ其内部ニ侵入セル二鞭
 毛ヲ見認メ且ツ此小孔ノ互ノ距離ハ殆ンド $\frac{1}{2}$ ナルコトヲ計測シタリ曩ニみぐら (Migula) 氏ハこにうむ、ペ
 くとられ (Gonium Pectorale) ナ檢シタルニ鞭毛ハ細胞内ニ通入スル際其細胞膜部ニ於テ小隆起ヲ生ゼシム
 ルコト及ヒぷらすまト外膜間ノ顛毛部ハ常ニ外方ニ射出スル顛毛部ヨリ太キコトヲ發見セリ又ふらんつゑ
 (Franze) 氏： *Eudorina elegans*, *Sphaerella* 數種ノ *Chlamydomonas* sp. 及 *Pandorina Morum* 等ノ具有
 スル顛毛ガ自体ノ前端ト共有膜ノ間ニ於テハ一箇乃至二箇ノ管内ニ挿入セラル、モノナリトセリちゑどのう
 (Zetnow) 氏ハ黴菌ノ特質膜ヨリ射出セル數多ノ顛毛ヲ以テ確實ナリトセズ或ハブレパレート裝置ノ際ニ起
 ルトコロノ旁生的成産物カモ知ルベカラザレバ一層研究ヲ積マザル以上ハ斷言スル能ハズト云ヘリ
 顛毛ノ發育狀態如何ハ殊ニ精子ニヨツテ觀察セラレタルガ諸學者ノ所說必シモ一致セザリシナリぐいぐなる
 ぞ (Guignard) 氏曰ク凡テ車軸藻類馬尾藻類菌類羊齒類ノ精子顛毛ハ周圍ノ透明ナルさいどぷらすま輪部ヨ
 リ射出スルモノニシテ最初ハ顆粒ヲ含メル糸狀体ナレバ後ニ一般同質体トナルモノナリト又べらゑつゑ
 (Baljeff) 氏曰ク元來車軸藻類ノ精子ノ顛毛ハ其基底部ノ生長ニヨリ次第ニ延長スルモノニテ内部ノ原形質
 ト相接スルハ只其挿入點ニ於テノミトすどらすぷる (Strasburger) 氏モ羊齒類ノ精子ハ右同様ノモノナ
 ルヲ發見セリ加之細胞膜ト在中物ノ間ニ位スル顛毛部ハさいどぷらすまノ推出ニヨリ容易ニ前方ニ向ヒ生長
 スルモノナリト論ゼリ尙同氏ハ *Oedogonium* ノ游子ノ顛毛ノ發生狀態ヲ檢シタルニ先ヅ口縁ニ數對ノ小瘤ヲ
 生ジ是ヨリ漸ク伸長スルニテアリキ而シテ細胞ノ内部ニ見ユル放射線ハ顛毛ト見違ヒ易キ觀ヲ呈スルモ自ラ

別物ナリト云ヘリ又るてると (Rother) 氏ノ説ニ從ハバ Saprolegnia ガ游子ヲ形成スルヤ直ニ其表面ニ顛毛ヲ生ジ始ムルコトハ毫モ疑フベキニアラズ其初生ノ有様ヲ見ルニ短全刺毛ニシテ必ズヤ膜面ニ直角ヲナシ射出彼我運動頗ル自在ナリ此際運動ハ殊ニ活潑ナルガ可ナリ早ク延長シ終ニ細纖維トナリ鞭打運動ヲナシ水中ニ游泳ストナリ倍復游子ノ休眠中ニハ鞭毛ハ如何ニナルベキカニ就キみぐら氏説アリ曰ク夫ノ Gomium Pectorale ノ鞭毛ノ如キハ脫落後孤立存留セズシテ直ニ溶解シ去ルト雖モ Cladophora ノ游子ノ鞭毛ナドハ脫離後孤立存留シ漸ク沃土ノ滯積ニヨリ短且ツ厚トナルヲ常トスト

下等植物界ニハ顛毛ノ外ニ別ニ偽顛毛 (Pseudocilien) ト唱フルモノアリ此名稱ハこるれんす (Correns) 氏ガ Apicystis ノ一定團體中ノ游子所有ノ顛毛ニ付セシナリ而シテ通常ノ顛毛ト異ナル所以ハ先ツ運動ヲナサズシテ静止スルコト及ビ各粘液様ノ鞘ニテ圍繞セラルコトニアルナリ勿論其鞘中ヲ縱走セルコトならずま性ノ中通軸ハカリボフクシンニテ顯著ニ染色スルナリソモ此中通軸ハ細胞中ノ原形質ト連綿タル交通アリテ單一ノ小棒ト見成スベキモノトス元來偽顛毛ハ游子ノ顛毛ト毫モ相互發生的關係ヲ有スルコトナクシテ常ニ游子ノ休眠後ニ創メテ新生スルナク且ツ偽顛毛ハ二子細胞トナリ更ニ第二ノ偽顛毛ガ其ふらずま体ヨリ前方ニ生長スルト云フ之ヲ要スルニ游子ノ形成時期ニ於テ偽顛毛ハ毫モ其形狀ヲ變セズ從ツテ真正顛毛ノ形成ニ對シテ何等ノ關係ニモ與カラザルモノト同氏ハ結論シタリ

◎最近植物彙報

最近植物學ノ研究頗ル盛ニシテ書籍雜誌ノ發刊愈々多ク隨テ新奇ナル研究ノ世ニ公ニセラルモノ又愈々多シ是ニ於テカ此等研究ノ題目ヲ蒐集スルノ必要アリ即本誌ハ本號ヨリ以後特ニ此欄ヲ設ケ以テ各邦ニ於テ最秀拔ノ名アル諸雜誌ニ出ヅル研究ノ題名ヲ掲ゲントス而シテ其題

名ヲ原文ノ儘掲ケズシテ殊更ニ邦語ニ譯スルモノ本邦一般讀者ノ了解ニ便ナランガ爲メノ微意ニ出ツルモノナリ

植物分類學并ニ植物地理學ノ部

隱花植物

- J. Reinke, 地衣論文 (*Jahrb. f. Wiss. Bot.* XXVI, 3, 1894)
- Thomas Comber 從來人ノ許容シタル硅藻類ノ特徴ニ依賴スニカ
ヲキルモノノ事ニ就テ (*Journ. of the Royal Microscopical Society Part*
4, 1894)
- Ernst Heinsen 卷柏屬ノ大芽胞并ニ雌性萌芽(全)
- M. L. Kolderup Rosevinge, ヲロホンランド地方ノ海藻 (*Annales*
d. Sc. nat. XIX, 2, 1894)
- P. Dietel Ravenella 屬 (*Hedvigia*, XXXIII, 2, 1894)
- H. Wegener *Marasmius prasinus* Fr. var. *laevis* (全)
- P. Magnus, クサヨシニ寄生スル「ブクチニア」屬ニ就テ(全)
- O. Pazschke, 「ブクチニア」ノ「バウストラリス」ノ「エチシウム」ニ就テ
(全)
- H. Christ, *Trichomanes orbiculare* n. sp. (*Bot. Jahrb.* XIX, 2/3, 1894)

顯花植物

- A. Engler 亞弗利加植物誌ニ就テ (*Bot. Jahrb.* XIX, 2/3, 1894)
- J. Briquet 亞弗利加ノ唇形科第一(全)

M. Gürke 亞弗利加ノ唇形科第二(全)

C. de Candolle 亞弗利加并ニマダガスカルノ胡椒科(全)

Th. Lösener 亞弗利加ノ衛茅科第二(全)

Th. Lösener 亞弗利加ノ Hippocitaceae (全)

F. Kränzl 亞弗利加ノ蘭科(全)

E. Gilg 亞弗利加ノ瑞香科(全)

E. Gilg 亞弗利加ノ Olmiaceae (全)

M. Willkommen イギリス半島海岸并ニ沙漠植物ノ統計(全)

R. Keller 上諸インター地方ノ薔薇ニ就テ(全附録)

O. Kuntze 植物ノ命名法研究(全)

A. Engler 亞弗利加植物誌ニ就テ第八(全)

植物解剖學并ニ生理學ノ部

- Dr. J. Griseb 發芽植物ニ於ケル「チアヌターズ」醱酵素ノ行爲 (*Jahrb.*
f. Wiss. Bot. XXVI, 3, 1894)
- Hermann Vöchting 葉狀仙人掌ノ形狀ト光線トノ關係(全)
- Annie Lorrain Smith セリガンビア地方一植物ノ解剖 (*The*
Journ. of the Linnean Soc. Vol. XXX, No. 207, 1894)
- Julius Sachs 生理學隨筆第八「メカノモルフナーゼ」ト系統發生

(*Flova*, 78, 1894)
Marian Raciborski, 蕁菜科并ニ睡蓮科ノ形狀學(全)

A. J. Schilling 水草ノ粘液造成ニ於ケル解剖學并ニ生計學的研究(全)

(全)

Johannes Behrens 葎草ノ生理的研究(全)

Wilhelm Lorch 土馬駿ノ解剖并ニ生計(全)

Johannes Fichter 車軸藻ノ外界ノ關係(全)

Carl Müller 鐵ノ植物トノ關係問題沿革 (*Helwigia* XXXIII, 2, 1894)

○寄贈書目錄

十二月十三日以降領收ノ分

Arthur Meyer und Dr. Dewevre, *Diosphyllum Lusitanicum*
ニ就ク (*Bot. Cemb.* LX, 2/3, 1894)

H. Zukał, 分裂藻ノ研究 (*Oesterr. Bot. Zeits.* XLIV, 9, 1894)

H. Wager, 菌類ニ於テ中心球ノ存在 (*Annals of Bot.* 9, 1894.)

E. Strasburger 生物ノ生活史ニ於テ染色休數ノ定時減退(全)

W. Pfeffer 根ノ尖端ノ向地的感覺(全)

W. Rothert 向光性ニ就ク (*Cohn's Beiträge* Z. Biol. d. Pfl. VII, 1, 1894.)

東京醫學會雜誌 第八卷第二十二號ヨリ第二十四號ニ至ル三冊 東京醫學會○日本蠶業雜誌 第七十八號

日本蠶業雜誌社○地質學雜誌 第十五號○大日本山林會報 第四百十四號 大日本山林會○國家醫學會雜誌

第九十二號 國家醫學會○動物學雜誌 第七十四號 動物學會○大日本農會報告 第五百十九號 大日本農

會○日本藥業新誌 第二百六十三號 衛生社○地學雜誌 第七十二卷 東京地學協會○日本園藝會雜誌 第

六十號 日本園藝會

農科大學學術報告 第二卷第三號

明治廿七年十一月發刊

一冊

農 科 大 學

The Gardeners' Chronicle, No. 406, 409—412. 四冊

Rivista di Patologia Vegetale, II, 10-12, III, 1—4. 1894. 二冊

J. A. Henriques, Boletim da Sociedade Broteriana, XI, Fasc. 4, 1893.

The Journal of Botany, No. 383, 1894.

Bulletin of Miscellaneous Information, No. 91, 1894.

G. B. Dott. De-Toni, La nuova Notarisa, Serie V, 1894.

the corolla. But in a variety of *Rh. indicum* called "Shirasaki" the stamens are long and much exceed the corolla; and often among flowers of *Rh. indicum*, Sweet. var. *obtusum*, Maxim., there are those with stamens more or less exserting from the corolla. Thus, if my views are correct, the chief distinction between *Rh. macrostemon* and *Rh. indicum* lies in the fact that in one the corolla is hairy and in the other it is smooth. I may add here that *Rh. macrostemon* is never found wild but always in cultivation.

下ニ掲ケタル和文ハ本植物ノ形状ノ大略ヲ記載セシ者ナリ

みろめきりしま

東都ノ花戸往々之レヲ栽ニ未タ其自生ノ地ヲ不詳高サ約一二尺枝狹細ニノ粗毛アリ通常輪生ス始メ小硬毛密生スト雖モ老枝ニ在リテハ殆ト無毛ナリ最嫩枝ハ其毛銀色ヲ呈スレモ老スルニ及ビテ赤色終ニ暗色トナルナリ葉ハ枝頂ニアリテ橢圓兩端狹細兩面皆有毛毛ハ始白後褐色トナル中肋ノ左右ニ各三四ノ脈ヲ存ス葉柄極テ短小ニシテ毛深シ花ハ枝端ニ在リ一花若クハ三花ヲ着ク萼小ニシテ細毛密生シ且邊緣ニ長毛アリ萼片圓狀倒卵ナルアリ長橢圓ナルアリ花冠鐘狀ヲナシ花徑約二半仙、迷、全鉢深紅肉色ナルヲ早季トシ晩花ハ淺紅色ニシテ背ニ綠條アリ花ノ中央以上ハ五裂シ五瓣ヲ成ス瓣長橢圓銳頭背及ビ緣邊ニ細毛粗生ス下瓣ニ他ヨリ長シ雌蕊五個短長アリ共ニ遙ニ花外ニ抽出ス葯ハ褐黃色花絲紅ナリ花柱ハ花冠ニ倍長シ最長ノ雄蕊ヨリモ漸起過ス柱頭廣張シ微ニ五裂ヲナス子房ニ密毛アリ

花時ハ四月下旬ヨリ五月中旬ニ至ル

附言萼花冠雄蕊共ニ宿存ス

Note on *Rhododendron macrostemon*, Maxim.

Nom. Jap.—*Misome-kirishima*.

By

Samuro Okubo.

Maximowicz's description of *Rhododendron macrostemon*⁽¹⁾ runs as follows:—"Humile, squarrose denseque *dichotome ramosum*, parce foliatum et microphyllum, *ramulis glabratis*; foliis apice ramulorum confertis anguste ellipticis, utrinque acutis apiceque apiculatis, breviter petiolatis, *utrinque, subtus ad venas adpresse fusco-strigoso-pilosis* subtusque glaucis reticulatis; floribus terminalibus 1—2, *pedunculum cum calyce dense pile rufo-villoso-strigosum* triplo superantibus;" But it seems to me that above characters are not constant. For in many plants of this species which I examined, the branches are generally whorled and the branchlets are, when young, densely hispid with white silvery hairs, which become afterwards reddish and ultimately dark-colored; and very old branchlets are often glabrate. The peduncle and calyx are in most plants strigose with silvery white hairs, and in some with red hairs. The color of the corolla of early flowers is always carnose, and that of late flowers only is "viridulo-venosis" to use Maximowicz's words.

I am inclined to think that this species may be a variety of *Rh. indicum* or its hybrid form. The chief difference between this species and *Rh. indicum* seems to be as follows:—the former has a few hairs on the back and margins of the corolla, and its stamens greatly exceed the corolla; while the latter has no hairs on the corolla, and its stamens do not generally exceed

(1) *Rhododendreae Asiae Orientalis*, p.39—40.

理科大學教授博士松村任三先生著

●廣告●

日光山植物目錄

白根、男體ノ高峯、馬返ノ峻峻、赤沼ノ曠原、金精ノ鬱林其他銚石、中禪寺、湯本等ノ勝區ニ野生スル九百

全一册
定價六拾錢
學名及和名
索引附

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金五錢
三回以上割引仕候

○本誌毎月一回發兌一册金拾貳錢○六册前金七拾貳錢

○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り壹册拾錢

○配達概則

第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セ

第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發

金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ

郵便御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナ

甲候

甲候

一月十九日印刷

一月二十日發行

誤

(511)頁、Jussbrueck

Innsbruck

同 頁、第十四行 二百八十米 二千八百米

(512,3,4)頁、Palissaden

Palissaden

(513)頁、第四行「光線ガ」ノ下

「空中ニ」ヲ脱ス

(514)頁、第三行空氣ノ溫度

空氣ノ濕度

本書ハ嘗テ植物學雜誌ニ附録トシテ連載セルモノヲ集メテ一冊トナシ別ニ詳細ナル和洋科名ノ見出表ヲ附シタルモノ也殘部有之候ニ付御入用ノ方ハ至急申込アレ

賣捌所

東京神田
表神保町
東京日本橋
通三丁目

敬業社 丸善書店

所 有

發行所

同

編輯兼 井上 蘇吉
發行所 東京市神田區錦町三丁目一番地

印刷者 熊田 宜遜
東京市神田區錦町三丁目廿五番地

印刷所 熊田 活版所
東京市神田區錦町三丁目廿五番地

發行所 植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地

賣捌所 敬業社
同所

丸善書店
東京市日本橋區通三丁目

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

314179

明治廿一年二月三日内務省許可

Vol. 9.]

January 20, 1895.

[No. 95.

CONTENTS.

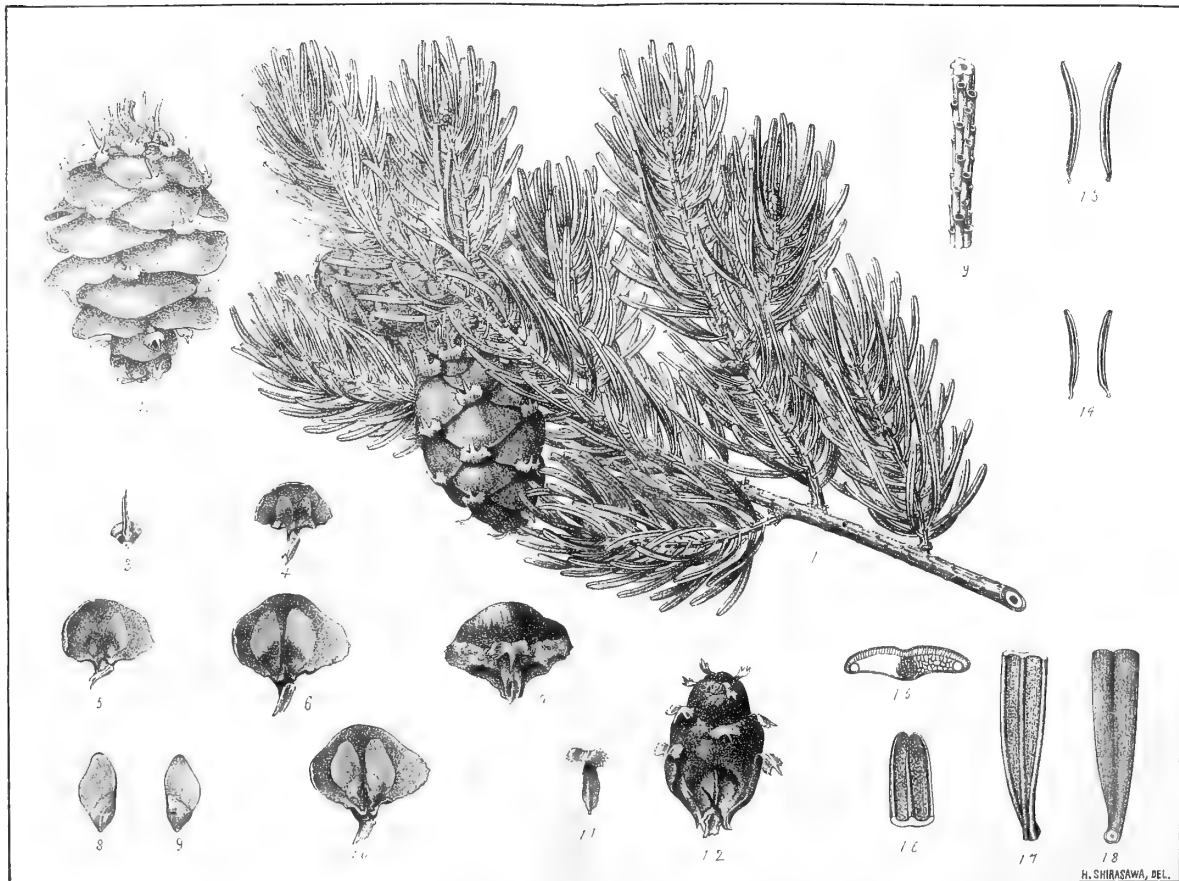
Note on <i>Rhododendron macrostemon</i> , Maxim. By Samuro Okubo	42
Galls of <i>Rhus semi-alata</i> var. <i>Osbeckii</i> . By Mitsutarō Shirai	1
Mr. Hisashi Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants (<i>Continued from No. 92</i>). By Tomitar Makino	6
<i>Areca Catechu</i> and <i>Myristica moschata</i> . By Atsushi Yasuda	14
Japanese <i>Pinus</i> . By Kōtarō Saida	17
Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. By Komajirō Sawada	19
Miscellaneous:—	22
Nutrition of Lower Fungi.—Origin of Tree-Life. <i>Diospyrus Kaki</i> .—Red and Yellow Autumnal Leaves.—Grape Seeds.—Cilia and Pseudo-cilia.—New Literatures.—etc.	

All letters and communications to be addressed to the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

071133



H. SHIRASAWA, DEL.

TSUGA (PSEUDO-TSUGA) JAPONICA, SHIRASAWA. とがきぎのこ



植物學雜誌第九卷第九十六號

明治廿八年二月二十日

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. IX.

February 20, 1905.

No. 96.]

新種ノ日本産松柏科植物

大學院、林學士 白澤 保 美

とがさはら(第三版第一圖ヨリ第十九圖ニ至ル)

Tsuga (*Pseudo-tsuga*) *japonica*, *Shirasawa*. 新稱

日本産松椈族植物ニ關シテハ古來歐洲人ノ記述ニ屬スルモノ數種アリト雖凡殊ニ前農科大學備教師獨乙人ドクトル、ハインリッヒ、マイル氏ノ著述セル日本松椈科植物考ト稱スルモノヲ最新最精細ノモノト爲ス同書中ニ本邦椈屬ノ種類ヲ舉グル六種、唐椈屬ノ種類五種而シテ椈屬ノ種類ヲ舉グル實ニ二種トス 前記新稱植物ハ勿論同書ニ記載モナク其他西洋人ノ之レヲ記述セルモノアルヲ聞カズ

紀藩源伴存録熊野物産初志ト稱スル書ニまどが一名カハ木椈ニ類シ其葉マバラニ附屬スト云フ記事アリ是果シテ前記ノモノト同物ナルヤ否ヤ之レヲ彼地ニ問合ハスモ其要ヲ得ス暫ク記シテ疑ヲ存ス、而シテ予ガ此植物ヲ採集セル紀州北牟婁郡地方ニテハ元來此とがさはらノ方言アリ故ニ予ハ之レヲ以テ通稱名ト爲サント欲ス

予ハ明治二十六年七月紀州北牟婁郡尾鷲町ヨリ大和國吉野郡大瀧村ニ趣クノ途中尾鷲町土井八郎兵衛氏ノ所

新種ノ日本産松柏科植物

新種ノ日本産松柏科植物

有山林地内(大和國吉野郡大字龍ノ谷近傍)ニ於テ始メテ此植物ヲ發見シ其枝葉ヲ採集セシガ昨年九月土井氏ノ好意ニヨリテ其鱗果及材鑑等ヲ得テ全ク新種ノモノタルヲ確知スルニ至レリ、土井氏ヨリノ通信ニヨレハ此植物ハ前記ノ地方其他又海岸ヲ距ル三里以上ノ山頂ニテ北牟婁郡船津村及ヒ南牟婁郡飛鳥村ノ地籍ニ屬スルトコロニ多少産スト云フ

形状

葉ハ針狀扁平ニシテ稍彎曲シ上面ニ凹窪シテ下面ニ凸出セル中央脉ヲ有シ、尖端ハ稍兩部ニ別ル

長二佛分乃至二半佛分、巾二佛厘上面ハ綠色ニシテ下面ニハ白色ノ二線通ス、其縱斷面ニハ兩端ノ下

側ニ各一個ノ脂溝ヲ認ム

鱗果ハ長卵形ニシテ其長四佛分、直徑二乃至二半佛分、鈎狀ニ彎曲セル太キ鱗果柄ヲ有シ垂下若シク

ハ前方ニ突出ス、鱗片ハ濃藍褐色ニシテ或部分ハ黑色ヲ呈シ其背面ハ空色ヲ帶ブ、鱗片脱落セズ

包被鱗片ハ種子鱗片ヨリ長ク突出シ其端多クハ三裂シテ尖リ其成熟セル鱗果ニ存スルモノハ後方ニ

反曲セリ

種子ハ三角形ニシテ其底邊ノ長ハ九佛厘高サ五佛厘アリ、腹面ハ灰白色ニシテ褐色ノ斑點アリ背面ハ

淡褐色ナリ 種翅ハ種實ト癒着シ其一倍乃至一倍半アリ

材質ハ本邦産已知ノツガ類トハ甚異ニシテ較軟、工作ヲ施コシ易シハのき類ニ大ニ似タルトコロアリ然レ

ドモ小材トシテ用フルニ適セザルカ如シ、年輪ハ狹クシテ甚整正、割裂シ易シ、心材ハ淡紅褐色ニシテ片

材ハ帶白色ナリ、老皮ハ濃褐色ニシテ縱ニ裂開ス、空氣中ニ乾燥セルモノハ其比重〇・四五乃至〇・五〇アリ

其縦斷面ニハ脂溝ノ散在ヲ認ム可シ

樹幹ハ眞直ニシテ枝ハ殆ント水平ニ廣延シ樹冠ハ圓錐狀ヲ爲ス、周圍八九尺ヨリ一丈ニ至リ高サ六十尺以上ニ達ス

此ノ如クナルヲ以テ予ハ彼ノカーリーエル氏ノ創定セル *Pseudotsuga* ノ屬名ヲ撰定セリ本邦ニハ古來未ダ此屬ノ植物ヲ發見セス北米ニハ一種ニ變種アリ而シテ此ノ如キ著大ナル木本植物ノ曾テ他邦人ノ目ニ觸レザリシハ大ニ怪訝ニ堪ヘザルトコロナリ蓋是レ此植物ノ廣布ガ一地方ニ偏在スルニ基因セルナランカ 終リニ臨ミ予ハ此記述ヲ爲スニ當リ充分ノ材料ヲ供セラレタル紀州尾鷲町土井幹夫氏及ヒ懇篤ナル指導ヲ與ヘラレタル理科大學教授理學博士松村任三先生ニ熱心ナル感謝ヲ爲サルヲ得サルナリ

第三版圖解

第一圖 兩個ノ鱗果ヲ有スル小枝

第二圖 開キタル鱗果

第三、四、五、六、圖 鱗果ノ底部ヨリ順次上部ニ向フテ剝脫セル鱗片

(種子ノ附着セシ痕跡ヲ存ス)

第七圖 第六圖鱗片ノ外面

第八圖 種子ノ外面

第九圖 種子ノ内面(鱗片ニ附着セル方面)

第十圖 種子ヲ包有セル鱗片

第十一圖 包被鱗片

第十二圖 鱗片ノ一部ヲ剝脫セル鱗果

第十三、第十四圖 自然大針葉ノ表裏ヲ示ス

第十五圖 針葉縱斷面

第十六圖 針葉ノ上部ヲ廓大シテ其裏面ヲ示ス

第十七圖 針葉ノ下部ヲ廓大ニシテ裏面ヲ示ス

第十八圖 針葉ノ下部ヲ廓大ニシテ其表面ヲ示ス

第十九圖 一年生ノ莖ヲ廓大シテ示ス

生活原形質ノ「エチルギー」ト題スル

レエブ氏ノ論說ニ就テ

藤井健次郎

氏ノ論說ノ大要ハ主トシテ生活原形質ノ建築材料ナル proteins ノ chemical composition ノ事ヲ論シ引テ生活原形質ノ「エチルギー」ニ及ビ以テ so-called vital force ナルモノヲ説キ vital phenomena ノ起ル所以 vital function ノ存スル所以ヲ指ホスルモノトナス其第一、二、三、四章ノ大體ハ既ニ植物學雜誌第八十九號及第九十號ニ於テ A. B 君ノ摘譯ニ依テ諸君ニ紹介セラレタリ其後氏ハ Chapter V. ナ公ニセラレタリ此章ハ「The formation of proteins in plant cells ト題シ植物體內ニテ protein formation ニハ種々ノ化合物ガ與ルベキモ其 starting point ハ one and the same atomic group ニ歸セザルベカラズ而シテ此ノ atom-group ナ form-aldehyde トシテ formaldehyde ナ ammonia ニリ aspartic aldehyde ナ生シ其ノ急激ノ condensation ニ依テ active albumen ナ生シ或ハ asparagin トナリテ貯藏サレテ遂ニハ又此 asparagin ガ aspartic aldehyde ト成リ急ニ condensation process ニ依リテ active albumen トナリ其 active albumen ガ transformation ニ依テ passive albumen トナルモノナリト云フ (active albumen ガ organisation process ニ依テ living protoplasm ト成ルト云フコトハ既ニ第二章——植物學雜誌第八十九號——ニ於テ述ベラレタリ) 固ヨリ此ニ氏ハ一ノ assumption ナナセリ即チ此急激ナル condensation process ノ間ニハ或ル化學的事情ニ依テ aldehyde group ガ amidogroup ニ働クコト(通常ナレバアルベキコト)ナシト見做スコナリ

先生ノ説カル、所偉大ノ新説固ヨリ一朝ノ論ニアラズ數年以來説カル、所ナレモ新ナル研究ヲ加ヘ此ニ之レヲ總括シテ一篇トナシ我國ニ於テ之レヲ公ニセラレ殊ニ邦人ノ讀ミ易キ爲メ英語(先生ハ獨乙人ナリ)ヲ以テ綴ラレタルモノナリト云フ之レヲ讀ムモノ亦豈一言ノ謝スル所ナクシテ可ナランヤ

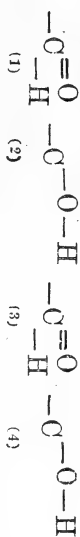
余ハ此ニ聊カ私見ヲ陳述セントス然レモ余固ヨリ此事柄ニ關シ確固タル ground ヲ有スル獨立ノ説ヲ有スルモノニアラズ讀者諸君ハ所謂無責任ノ批評ノ類トシテ見ラルベシ然レモ余ハ決シテ出タラメヲ陳述スルモノニアラズ余ハ深ク氏ノ説ニ Interest ヲ有シ氏ノ説ニ對シ信實ニ私見ヲ述ブルモノナリ固ヨリ一書生ノ見誤リ多カルベシ左レモ誤リヲ知リツ、徒ラニ言語ヲ弄スルモノニアラズ余ハ何處マデモ honest ナルモノナリ讀者諸君幸ニ余ノ疑點ト誤謬トヲ教示セラルレハ幸ヒ之レニ過キズ

先ヅ氏ガエネルギー説ノ論據ト之レヲ概括セル主眼ヲ寫シ出ダセル數節ヲ原文ノ儘此ニ記シ以テ參照ニ備フベシ原文中ノ下線ハ後ニ讀者諸君ノ注意ヲ乞ハシ爲メニ余ノ附シタルモノナリ

- (1) "The active proteins become living protoplasm by the process of organization."
- (2) "The opinion that at a given temperature the motions of all atoms in a compound are equal must be refuted as erroneous. Labil atoms have a greater energy of motion than the stable ones of the same substance."
- (3) "Atoms moved simultaneously by heat and by chemical affinity must possess more energy than those moved by heat alone."
- (4) "A labil position exists, if in a molecule one atom is influenced simultaneously by the affinities of

two neighboring atoms. Thus lively oscillations are produced bringing on a great ability for reactions and an inclination for a spontaneous migration of the labil atom into a stable position.

One of the most interesting labil atomic groups is the aldehydegroupp— $\overset{\text{O}}{\underset{\text{H}}{\text{C}}}$ in which the oxygen exerts an attracting influence upon the hydrogen connected with the carbonatom, which is generally tetravalent, but can in some instances also functionate bivalent. Thus the hydrogenatom is subjected to continuous vibrations from the carbon to the oxygen and back, as may be indicated by the following formulas:



(5) “.....the final product would still contain 12 aldehyde-and 18 amidogroups and would therefore be of an extraordinary lablity. The energetic motions in such a product could bring on oxydative processes (see chapt. VI), in which easily oxydisable products as sugar, lecithin, could participate. This process might lead in the living protoplasm by regulating contrivances to the respirationprocess.”

(6) “The vital phenomena depends upon the labil aldehydic character of the living protoplasm; Hereby a transformation of heat into chemical activity results, the vital motion thus leads to vital functions. We propose to call the resulting vital motion: plasmic force, instead of vital force, which name would recall the erroneous conceptions of former times. We define therefore the plasmic energy as a mode of motion produced by the labil atomgroups in the proteids of the living protoplasm and

intensified by the process of respiration, induced by the labil character.”

(7) “Slight disturbances of a mechanical nature produce con traction and death. The chemical attack of a poison upon a minute portion of the protoplasm of a living cell may cause the collaps of the entire protoplasm. The morphological construction and the chemical nature of the living protoplasm are evidently most intimately connected; an injury to one will also damage the other: The living protoplasm is a labil structure built up of labil material.”

氏ノ説ニ從フニ living protoplasm ハ direct synthesis ノ結果ニアラズミテ先ヅ active albumen ガ direct synthesis ノ結果トシテ形成セラレ而シテ後 organisation ヲ受ケテ初メテ living protoplasm トナルモノナリト云フ(原文①)ヲ參照スベシ)左レバ living protoplasm ノ structure ハ單ニ化學上ノ必要ヨリ生ズルモノト斷言スルコト得ザルベシ即チ此 chemical composition サハアレバ必ズ此ノ structure アルベシト云フベカラズ何トナレバ等シキ chemical composition ヲ有シナガラシキ living protoplasm トミテ存シルハ unorganised state ニ於テ active albumen トシテ細胞内ニ存スルモノアレバナリ

又氏ノ記サレタル言句ヲ借用スレバ the cells of bile producing liver, the cells of saliver producing glands, the cells of milk producing glands, the cells of the resin producing glands of the conifers, the sugar-secreting cells of the nectaries 等ノ間ニ於テ又 a fungus-spore ト a pollen-cell トノ間ニ於テモ leucoplast, nucleus, flaryplasm, tonoplast 等ノ構造ニ於テモ夫々異ナル molecular arrangement 即チ specially organised structure アリテ夫々種々ノ生活作用ヲ營ムモノト去レバ等シキ chemical nature ナル living protoplasm

ニ於テ何ガ故ニ如斯 different structure ナ得テ different function ナ營ムヤ余ハ此ニ疑ヲ起サ、ルヲ得ズ斯クノ如ク The same source of energy (原文⑤)⑥ヲ参照スベシ) 氏ノ⑤⑥ヲ眞ト假定シ) ナテテ如斯 different structure and different function ナ現スルヲ以テ見レバ active albumen ノ chemical nature ト living protoplasm ノ morphological structure トノ關係モ亦豈ニ疑ハシキモノナシトセンヤ又 active proteids ガ organisation ナ受シルト云ハシ此ニ乃チ morphological structure 即チ physical structure ナ承認スルモノナリ去レバ其 structure 中ニハ氏ノ説カレタル labil atomgroup ノ間ニ働ク chemical force ノ外ニ既知若クハ未知ノ physical force ノ働クモノ無キヲ保セズ且ツ今日迄知ラレタル所ニテハ living protoplasm ハ living protoplasm ノ存在ニ於ケル外新タニ spontaneous ニ形成サル、コ能ハズ即チ organisation ノ存在ニ於テ初メテ organisation ナ得ルモノナリ

余ハ living protoplasm ノ chemical nature ト morphological construction トハ毫モ相關セズト云フニアラザレバ如斯通覽シ來レバ living protoplasm ノ morphological structure コン最モ肝要ナルモノナレ豈其「エネルギー」ナ説クニ際シ其構造ヲ The morphological construction and the chemical nature of the living protoplasm are evidently most intimately connected (原文⑦)ヲ参照スベシ) ナル只一言ノ間ニ經過スベキモノナランヤ

古來哲學者流ノ問題ナル生物ノ生物タル所以ハ其 energy ニアリト云フヨリモ寧ロ其微妙ノ function ナ導ク所ノ生活原形質ノ物理的構造ニアリ其未タ protoplasm ナルモノノ存在ガ life ノ基タルコト知ラズ又其 living protoplasm コン morphological structure アルコト考ヘ無キ時代ニハ life ノ根原ヲ vital force ト云

又 vital energy ト云フ或ハ概言シテ cause of the vital phenomena 等ト呼ビシナルベシトイヘル學問進
 歩ノ今日ニ於テハ最早單ニ force, energy 等ヲ以テ cause of the vital phenomena ト同一視スベキニアラズ
 然ルニ氏ハ Chapter I ニ於テ Former views on the cause of the vital phenomena ト題シテ古來ノ哲學者ナ
 ドノ說ヲ陳列シ進メテ Chapter II ニ於テ Modern steps of progress ト題シ原形質ガ生活ノ基ナルコトヲ說キ
 又ハンスタイン氏ノ原形質ノ定義ヲ排シ生活原形質ト死亡原形質ノ別ヲ稱ヘユム、チンギ、オー、ロゼンバ
 ンハ、デトメル等ノ說ニ及ヒ次ニ Chapter III 以下ニ於テ氏ノ自家ノ說ヲ記サレタルニ述ベタル如ク氏
 ハ life ノ cause トシテ chemical energy ニ重キヲ置キ function ノ微妙ヲ指導スル所ノ morphological structure
 ニ甚ダ冷淡ナリ固ヨリ氏ノ論題ニ Energy トアリ左レバ氏ハ古來ノ問題ナル cause of the vital phenomena
 全体ヲ説明スルモノニアラズ其一部分即チ其「エネルギー」ノミニ關スルモノナリ而モ氏ハ chemical energy
 ノミヲ說キ既ニ physical molecules ノ集合体トナレバ living protoplasm ノ間ニ於テ氏ノ chemical energy
 以外ノ physical energy ノ存在ヲ無視シタルモノナリ

此ニ又必ズヤ余ノ淺學ノ爲メナルベキヲ思ヘル氏ノ Plasmic Energy ノ說ノ根本ノ根本トモ云フベキ點ニ於
 テ余ノ解セザル所アリ即チ氏ノ記載(原文(4)(5)ヲ參照スベシ)ニ依レバ aldehydegroun 中ノ hydrogen atom
 ハ oxygenatom ト carbonatom ノ間ニ於テ不絶 vibrate スルモノト見做サレ如此 vibration ノ energy ガ
 oxidation ヲ起シ以テ遂ニ規則立チタル仕カケニ由テ呼吸作用ヲ起スベシト云ヘリ又原文(2)及(3)等ヲ以テ考
 フルモ氏ハ外界ノ關スル所無シトモ殊別ニ Jablalom 自身ニ屬スル spontaneous vibration ノ存在スルモノト
 見做サレタルハ疑フベカラザルガ如シ然レモ化學上事實ニ徴シテ明確ナリトイフハ只 $O=O$ H O ノ如キハ

生活原形質ノ「エネルギー」ト題スルレネブ氏ノ論說ニ就テ

生活原形質ノ「エネルギー」ト題スルレネブ氏ノ論說ニ就テ

之レヲ含ム化合物ガ他ノ化合物ト互ニ act スルニ際シ其共ニ act スベキ物体ノ異ナルニ從ヒ其結果ヨリ推考スルルハ或ルルハ divalent ニシテ或ルルハ tetravalent ナリト見做サザルヲ得ズト云フノミ即チ此 conception ハ只他ノ物ト相働ク模様ガ是レノナリト化學者ガ斷定スルノミ決シテ外界ノ如何ニ係ハラス一ツノ molecule 内ニ於テ spontaneous ニ O ガ divalent, tetravalent, divalent, tetravalent, &c, &c. ト間斷ナク自己ノ valence ナ變シ爲メニ H ハ不斷振動スルト云フコガ事實ニ依リテ證明サレタルコアルヲ聞カズ彼ノ獨ノ哲學者シヨッペンハウエルガヘーゲルノ思想ヲ排シテ有ラユル物ニ意志ヲ與ヘタルガ之レニ等シクレネブ氏モ亦 carbonatom ニ意志アリテ隨意ニ不斷其 valence ナ變ズルモノトセラル、モノナルカ然ラザレバ hydrogenatom ガ不斷振動スルト云フコハ思惟サレザル事柄ナリ或ハ氏ハ相働クベキ外圍ハ不斷變化スルモノトシテ其變化ハ carbonatom ノ valence ニ變動ヲ起シ隨テ hydrogenatom ノ振動ヲ促スモノト考ヘラル、ヤ若シ然ラハ外圍ノ變動中 orbonatom ノ valence ナ變ズルニ足ルベキモノトハ如何ナル變動ヲ云フヤ又其變動ノ energy ハ何故ニ plasmic energy ノ源泉トシテ計算セラレザルヤ是等ニ就テ一言ノ説明ヲ與ヘザルハ甚ダ遺憾トナストコロナリ或ハ又氏ハ如此 carbonatom ノ spontaneous change of valence ナ probable トシテ assume サレタルモノニヤ殊ニ原文(2) (參照)ノ如キハ單ニ motion ト云ヒ運動ノ向トモ云ハズ又其「エネルギー」トモ云ハズ甚ダ不明ナレ先ツ其不明ノ儘ニ解スルトスルモ氏ガ是レヲ斷言セラレタルハ或ハ只一家ノ說トシテ斷言セラレタルモノナルヤ若シ然ラバ氏ハ未ダ establish サレザル一個ノ說ヲ土臺トナシ之レヲ裝飾シテ堂宇ヲ建築セラル、ノ感ナキ能ハズ去レ氏ノ如キ大家ニシテ如此ハ固ヨリ有ル間敷クナリ或ハ確固タル事實ガ何ノ時カ既ニ證明サレタルモノアルベシ故ニ是等ヲ悉ク確理ト見做スル果シテ

12 aldehyde and 18 amido-groups ノ内ニ存スル atomvibration ノ energy ハ respiration ナ起スニ足ルカ
 (原文(6)ヲ參照スベシ)其ノ如何ヲ quantitativeニ 決定スルハ第一着ノ事ナラザルベカラズ而シテ氏カ論說中
 之レ
 ナ見ズ

最後ニ余ハ氏ガ既ニ其堂宇ノ建築ヲ終ハレルモノ、如シ plasmic energy ナルモノヲ define (原文(6)ノ下線ヲ附
 シタル所ヲ參照ス

シ)サレタレモ其定義ニ就テハ此ニ一言セザルヲ得ズ又其 definition ヲ下スニ際シ氏ハ the resulting motion

ヲ vital force ト呼ブコト古ハノ間違ヒタル conception ヲ含ムガ故ニ此語ヲ廢シテ以後ハ之レヲ plasmic

force ト呼ブベシト云ハレタリ然レモ余ハ motion ト force トハ identical (全一)ニアラザルコト知ル motion

ハ單ニ change of position ナ意味スルモノナリ決シテ force ト共ニ列スベキモノニアラズ Newton 氏ハ

motion ナル語ヲ momentum 即チ quantity of motion ノ意味ニテ用ヰタレモ momentum モ亦固ヨリ force

ト別ナリ any momentum $M = mv$, any force $F = ma$. ($m = \text{mass}$, $v = \text{velocity}$, $a = \text{acceleration}$) ナリ

又氏ハ其定義中 plasmic energy = (a mode of motion) (原文(6)ノ下線ヲ附シ)ト言ハレタリ此ニ於テ energy =

motion ナル方程式ヲ見ルベシ而レモ kinetic energy ノ dimension ハ $\frac{1}{2}mv^2$ ($m = \text{mass}$, $v = \text{velocity}$) ナリ故ニ energy

ト motion ト全一視スベカラザルハ云フ迄モナシ去レハ motion, force, energy 共ニ dimension ノ異ナレル

モノヲ全一ノモノトシテ define サレタリ

氏ノ論說ノ Chapter I, II, III. ナ通讀スルルハ其語氣自ラ讀者ヲシテ如何ニモ氏ハ古來哲學者流ノ問題タル

生物ノ生物タル所以 (cause of vital phenomena) ナ觀破サレタルモノノ如キ感ヲ生ゼシム之レ氏ガ論文中

cause of vital phenomena = vital force = plasmic force = vital motion = plasmic energy ト云フガ如キ方程式

生活原形質ノ「エネルギー」ト題スルレエプ氏ノ論說ニ就テ

生活原形質ノ「エネルギー」ト題スルレエブ氏ノ論說ニ就テ

ガ以上余ガ述ベタル如ク暗々ノ中ニ順チ追フテ形成サレツ、アルガ故ナリ即チ古來用キラレタル不明ノ俗語ト今日ノ scientific term (理學上ノ語)トチ混同シアレバナリ又氏ハ the plasmic energy 即チ the energy of the living protoplasm ナ define スルニ當テ其 definition 中 (原文^⑥)ニ the proteids of the living protoplasm ナル語チ用キラレタリ而シテ其ノ living protoplasm ナルモノハ吾人ノ未ダ全ク了解セザルモノニシテ其ノ了解ノ爲メニコソ數多ノ有爲有識ノ學者ガ孜孜汲々タルモノナリ只此ニ氏ノ論文中原文(1) (ス(1)參照)ガ此定義ヨリ前ニ於テ見ラル、ノミ(1)ハ固ヨリ至當ノ考ナルベケレバ尙單ニ reasonable conception ノ description ノミ吾人ハ其 organisation ノ如何ナルベキヤニ就テハ寸毫ノ智識ダモ有セズ氏モ亦此點ニハ記載ナシ左レバ余ハ此語チ此定義中ニ含ム、如何ナルベキヤヲ恐ル以上氏ノ plasmic energy ノ定義ニ就テ陳述シタル理由ニ依リ余ハ此ノ定義ハ未ダ完ク正當ノ資格チ有セズト信ズ

以上ハ氏ノ論說ニ就テ余ガ疑點チ陳述セシモノナリ去レドモ余ハ氏ノ active albumen ノ說ニ就テハ難ズル所ナシ寧ロ氏ガ active albumen ガ direct synthesis ノ結果ニシテ其 organization ニ由テ living protoplasm チ生ジ(生活チ生ジ)其 Transformation ニ依テ passive proteids チ生ズルモノニシテ從來ノ說ノ如ク protoplasm 自身ノ dissociation ニ由テ其一部ハ respiration チ保持シ一部ハ再度 proteids チ形成スルモノニアラズトナサレタルチ至當ナルベシト思考スルナリ又 living protoplasm ノ形成上 aldehyde group ノ存スルト云フコモ敢テ疑チ有セズ氏ハ尙 unorganized state ニ於テ存スル active albumen ノ存在チ事實ニ於テ證明セラレタリ (植物學雜) 其立論ノ美ト併セテ或ハ一ノ偉大ノ發見ナルベシ況シテ氏ガ論文中數多ノ事實チバ ingenious ニ説明サレタルモノアルニ於テチヤ余ハ深ク氏ノ active albumen 說チ敬愛ス

去レモ之レ丈ノ材料ヲ以テ更ニ進ムテ Energy of the living protoplasm 說ヲ構造セントセラル、ニ至ツテハ餘リ架空ニ富ムガ故ニ尙早キヲ信ズ況シテ plasmic energy ノ definition ヲ試ミルコトニ於テチヤ苟シクモ定義ト云フモノハ容易ニ下スベキモノニアラザルベシ此 Energy 說ノ堂宇ノ建築ニハ尙種々ノ方角ヨリノ精細ナル研究ヲ要スベシ恐ラクハ Energy of the living protoplasma ノ十分ナル理解ハ其 morphological construction ノ智識ト相伴フモノナルベシ又前ニ述ベタル如ク其 energy ノ多少ノ quantitative research ヲ要スベシ此ニ至テ又今日ノ Chemists ノ間ノ matter ノ conception ト Physicists ノ間ノ matter ノ conception トガ今日ノ如クニ相獨立スルコトナク相携帶シテ合一ノ狀ヲ呈スルニ至ラザル間ハ或ハ十分ナル了解ヲ得ザルベキヲ豫想ス

(完)

神保氏採集ノ西伯利亞植物

松村 任 三

曩ニ理學士神保小虎氏ノ單身歐洲ヲ出發シテ歸朝ノ途ニ上リ渺茫タル西伯利亞ノ曠野ヲ經過スルヤ黑龍江ノ上シルカ川ノ下到ル處必ス草木花卉ヲ採收シ採收スル毎ニ必ス之ヲ紙間ニ挾テ乾燥シ以テ美麗ナル植物學上ノ標品トナシ遠ク本邦ニ携帶シテ我カ植物教室ニ寄贈セラル吾人曷ソ其勤勞ノ大ナルヲ歎賞シ其厚意ノ深キヲ感謝セザルベケンヤ雷ニ之ヲ歎賞シ之ヲ感謝スルノミナラズ斯學ノ爲メ永ク之ヲ標品室ニ保存シテ他日我カ大日本帝國後進者ガ西伯利亞地方ヲ橫行探檢セン時ノ資料參考ニ供セズンバアルベカラズ是レ余ノ謏劣ヲモ顧ミズ奮テ茲ニ之ガ分類ヲ企テ以テ其結果ヲ本誌ニ掲クル所以ナリ

謹テ氏ガ採集セル植物ノ產地ト其時日トヲ接スルニ明治廿七年七月十二日ヲ以テ西伯利亞オブ江ノ澁ニ

始テ之ガ採收ヲ起シ漸ク東スルニ及テコスルスカヤ、ドムノクルチユスカヤ、ストレチエンスク、チヤツツ
 ワヤ、ウオスクレンンスカヤ、カラガンスカヤ、センブリヤンスカヤ、イグナシナ、ウツチヨスナヤ、ライ
 ノワ、ハバロスク等各驛舟車ヲ停ムル毎ニ未會テ之カ採收ヲ試ミズンバアラザルガ如シ終ニウツスリ地方
 ノ南スパスカヤ鐵道停車場ノ在ル處ニ至テ止ム之ヲ九月三十一日トス

夫此ノ如シ故ニ氏ガ採集ノ品種モ頗ル多ク實ニ二百二十四種トス今其分類ノ概略ヲ舉グレバ即左ノ如シ

地衣類 三種

土馬駱類 一種

羊齒類 三種

裸子類 二種

單子葉類 二十四種

雙子葉類 百九十一種

今之ガ分類ヲ作スニ當テ各種ノ下ニ日本名ヲ記入セルモノハ本邦產ト同種ニ關ル而シテ其日本名ナキ品ハ
 邦產ナキナリ產地ニ獨乙語ヲ用ヒシハ氏皆獨乙語ノ綴字法ヲ以テ彼ノ讀難キ魯語ニ代ヘラレシニ由レバナ
 リ讀者ソレ之ヲ諒セヨ

Verzeichniss der durch K. Jimbō in Siberien

gesammelten Pflanzen.

bestimmt

Ranunculaceae.

Clematis fusca Turcz.

Hab. Chabarowsk. Fr. 22 Sept. 1894.

日本名シロバナノホンシヤウヅル

本邦北海道ニ之ヲ産ス實ノ頭末尾ノ如キ長柱ヲ生ス滿面褐毛茸々タリ

Thalictrum aquilegifolium L.

Hab. An der Schilka: bei Sstjetjensk. Fr. 22 Aug. 1894.

日本名カラマツサウ

能ク我國産ト吻合ス

Thalictrum simplex L. var. *verum* Rgl.

Hab. An der untern Schilka: Serebrjanskaja. Fr. 4 Sept. 1894.

實アリ四五個ヲ叢生ス柄ナシ卵圓狀ニシテ線溝多シ葉ハ乾燥シテ黄色ヲ呈ス

Ranunculus sp.

Hab. West Sibirien: in der Station Kosulskaja zwischen Atschinsk und Krassnojarsk. 30 Juli 1894.

ウマノアシガタ」ノ一種葉背ニ白毛頗多シ一個ノ莖梢ノミアリテ脚葉ヲ欠ク故ニ之ヲ確定スルコ能ハス

Delphinium grandiflorum L.

Hab. Transbaikalien: Station Dornokljutschewsskaja in der Nähe von Stadt Tshita. 15 Aug.

「ヒモンサウ」ノ一種ナリ支那亦之ヲ産ス本邦此屬ナシ距アル碧色ノ奇花ヲ開キ葉ハ掌狀ニ細分ス

Aconitum Fischeri Reichb.

Hab. An der Schilka: bei Sstrijensk. 22 Aug.; Unter Schilka: ca 5 Werst oberhalb der Station

Tschassowaja. 31 Aug. 1894.

日本名トリカブト」種類頗ル多シト雖蜜瓣ノ形状ニ由テ此品ナルコト知ル

Cimicifuga foetida L.

Hab. An der Schilka: bei Sstrijensk. Fl. 22 Aug.; Unter-Schilka: ca 5 Werst oberhalb der Station

Tschassowaja. Fl. et Fr. immat. 31 Aug. 1894.

「サラシナシヨウマ」ノ一種ニシテ本邦ノ品ト差ト趣ナ異ニス花軸及花梗ニ密毛アリ五六ノ心皮ヲ叢生ス谷ノ小柄アリ

Papaveraceae.

Chelidonium majus L.

Hab. Chabarowsk. Fl. et Fr. 22 Sept. 1894.

日本名シサノツツ

Cruciferae.

Cheiranthus aurantiacus Bge.

Hab. Am oberen Amur: ca 4 Werst oberhalb Ujosnaja. Fl. et Fr. 12 Sept. 1894.

支那亦之ヲ産ス黄花ヲ開キ長角ヲ結ブ此標品葉ヲ欠ク

Nasturtium palustre DC.

Hab. Im Süd-Ussuri Gebiet: Eisenbahnstation Spasskaja. Fl. et Fr. 31 Sept. 1894.

日本名イヌガラシ 本邦近道隨處之
アルノ品ナリ

Dontostemon pectinatus DC.

Hab. An der Schilka: bei Sstrejensk. Fl. et Fr. 22 Aug. 1894.

邦産「ナハンタザホ」ノ一種ナリ全草黒色ノ小腺ヲ滿布ス淡紅色ノ小花ヲ開キ細小ノ長角ヲ結ブ長サ四

分許

Violaceae.

Viola Patrinii DC.

Hob. Im Süd-Ussuri Gebiet: Eisenbahnstation Spasskaja. Fl. 31 Sept. 1894.

日本名シロバナスミレ 白色ノ品、花距極メテ
短ク葉柄ニ著キ翅アリ

Caryophyllaceae.

Dianthus dentosus Fisch.

= *D. sinensis* L. var. *macrosepalus* Franch.

Hab. West Siberien: in der Station Kosulskaja zwischen Atschinsk und Krasnojarsk. Fl. 30 Juli; am oberen Amur: unterhalb der Station Amasar 3. Sept.; im Süd-Ussuri Gebiet: in der Eisenbahnstation Spasskaja. 31 Sept. 1894.

日本名ヒキナシ

瓣縁深裂オス花色
斑間種々ノ品アリ

Silene inflata Sm. var. *latifolia* Rgl.

Hab. Am oberen Amur: unterhalb der Station Amasar. Fl. 3 Sept. 1894.

日本名シラトマサウ

元邦産ナシ外来ノ品ニ
此和名ヲ付セルナリ

Silene graminifolia Oth. var. *baicalensis* Turcz. Inus *setifolia* Turcz.

Hab. Transbaikalien: Station Donnokljutschewskaja, in der Nähe von Stadt Tschita. Fl. 15 Aug. 1894.

花瓣ノ頭ニ一缺アリ花心三柱アリ子房柄ハ其長サヲ子房ト均シメ

Silene repens L.?

Hab. Am oberen Amur: oberhalb Rainowa. Fl. 15 Sept. 1894.

單一ノ標品唯二三ノ花ヲ着ク萼筒状ニシテ紅色ヲ帯ブ花瓣ノ頭一缺ス喉ニ鱗アリ子房柄ハ子房ヨリ長シシテ毛茸アリ

Arenaria juncea M.B. var. *typica* Rgl.

Hab. Transbaikalien: Station Donnokljutschewskaja. Fl. 15 Aug. 1894.

葉ハ針ノ如ク細ク梢ニ小腺ヲ密布ス頗ル顯著ノ種ナリ

Stellaria radicans L.

Hab. Chabarowsk. Fl. et Fr. 22 Sept. 1894.

日本名エンゾオホヤマハコベ 本邦北海道ニ之ヲ産ス

Linaceae.

Linum usitatissimum L.

Hab. Kultivirt.? Im Süd-Ussuri Gebiet: Eisenbahnstation Sspasskaja, Fl. et Fr. 31 Sept 1894.

日本名アマ 要鏡ナルヲ以テモ Perenne L.ト別シ

(未完)

檳榔子ト肉豆蔻(承前)

安 田 篤

性質 檳榔子ノ種子ハ香氣ヲ欠キ其味ハ澁シ「モリン」氏ノ分析ニ依レバ其成分ハ單寧酸、五倍子酸、「ぐる
ーてん」、油質、護謨、核酸石灰、「りぐにん」ナリ然ルニ肉豆蔻ノ種子ヲ檢スレハ頗ル芳香ニ富ミ其味ハ苦ミ
ヲ帶ブ主ナル成分ハ肉豆蔻脂(Oleum Myristicae Expressum)ト稱スル脂肪ノ二十八「ベルセント」、肉豆蔻油
(Oleum Myristicae)ト名ル揮發油ノ二乃至三「ベルセント」、澱粉、蛋白質等ナリ而シテ肉豆蔻ノ好ミスベ
キ芳香アルハ實ニ此揮發油ノ存在ニ由ルナリ

種子ノ効用 檳榔子ノ種子ハ止瀉劑若クハ驅虫劑トシテ糞虫或ハ蛔虫ヲ驅除スルニ用サレ古ハ支那ノ南部
ニ於テハ之ヲ茶ニ代用シ或ハ惡氣ノ預防劑トシテ之ヲ使用セリ英國ニテハ之ヲ以テ齒磨粉ヲ作ル其他檳榔子

檳榔子ト肉豆蔻

檳榔子ト肉豆蔻

ハ印度人ニ最須要ナル日用品ニシテ土人ハ其不熟ナル核ヲ打碎シカ若クハ熟シタル者ヲ水中ニテ煮以テ柔軟ナラシメ之ヲ細片トシ「あじまゆ」(Piper Betle)ノ葉ニ僅少ノ介灰岩ヲ入レテ共ニ卷キタル者ヲ作り「ペてる」(Patel)ト名ケ之ヲ嚙料ニ供ス此風習ハ貴賤男女ノ別ナク行ハレ猶吾人ノ喫煙ニ於ケルガ如キナリ土人ハ之ヲ朋友知己ノ間ニ贈物トシテ頒チ其需要夥多ナルガ故ニ隨テ本國産ノ者ノミニテハ不足ヲ告グ更ニ他國ヨリ輸入ヲ仰グト云フ彼等土人ノ好ンデ之ヲ嚙ムハ抑故アリ「ペてる」ハ幾分カ魔酔ノ働チ有シ呼吸ニ香氣ヲ與ヘ唾液、唇、齒齦ニ赤色ヲ添フルヲ以テ土人ハ之ヲ美麗ナル粧飾トシ且ツ赤痢病ノ豫防劑ト考ヘ之ヲ珍重スルナリ然レモ常ニ之ヲ用フレバ齒ヲ黒ク染メ上氣ヲ引起スガ故ニ吾人ニハ到底厭フベキ物品ト謂ハザル可ラズ又肉豆蔻ノ種子ハ胃藥、矯臭藥、調味藥、香味料トシテ用ヰラル其價ヲ比較スレバ檳榔子ハ卑シケレモ肉豆蔻ハ尊シ

種子ヲ除キタル他ノ部分ノ効用 印度地方ニテハ檳榔子ノ若葉ヨリ液汁ヲ搾取シ之ニ油ヲ混ジ以テ腰痛ノ蒸藥トシ「ボルチオ」ニテハ諸病ヲ治スル爲ニ其花ヲ用ユ又其佛燄ヲ飲器トシ葉柄ヲ細工ニ用フ肉豆蔻ノ種衣ハ六乃至九「ベルセント」ノ揮發油ヲ含ミ之ヲ香料ニ供シ時ニ之ヲ以テ石鹼ニ加香スルコトアリ

植物分類學上ノ位置 檳榔子ハ單子葉門中ノ棕櫚科ニ屬シ肉豆蔻ハ雙子葉門中ノ肉豆蔻科ニ屬ス

諸器官 檳榔子ハ大ナル植物ニシテ熱帶ニ産シ葉ハ頂ニ叢生シ羽狀ヲ爲ス基底ニ膜様ノ鞘アリ花ハ單性ニシテ雌雄同株ナリ肉穗狀ヲ爲シ雄花ハ雌花ヨリモ多シ何レモ三萼片三花瓣ヲ具ヘ黃色ヲ呈ス雄藥六個アリテ多少癒合ス雌藥ハ三柱頭ヲ有シ子房三室ニシテ各室一子ヲ藏ムレモ其中二子ハ成育セズシテ果實トナレバ唯一種子ヲ具フルノミ果實ハ成熟スレバ橙黃色ヲ呈シ初ハ柔カナレモ後ニ乾燥シ數多ノ纖維ガ縱ニ分離スルニ至

ル此中ニ種子アリ次ニ肉豆蔻ハ小ナル常緑木ニシテ同シク熱帶ニ産シ葉ハ互生シ卵狀ニシテ兩端尖リ全邊葉ニシテ滑カナリ花ハ同シク單性ナレモ雌雄異株ナリ花梗ハ細長ニシテ下垂ス花蓋ハ多肉ニシテ鐘狀ヲ呈シニ片ニ分カレ淡黃色ヲ帶ブ雄藥ハ六個乃至十個アリテ相癒着シ以テ央柱ヲ作ル雌藥ハ二柱頭ヲ具ヘ子房一室ニシテ一子ヲ藏ム果實ハ小梨大ニシテ黃色ヲ呈シ表面ハ平滑ナリ成熟スレバ上方ヨリ裂ケ以テ種子ヲ落ス種子ハ多肉ノ種衣 (Samenmantel || Arilli macis) ニテ被ハル種衣ハ赤色ヲ呈シ臍ノ近傍ニテハ盃狀ヲ爲シ頂上ニ至レバ皺襞トナル (完)

黒岩恒氏採集琉球植物(承前)

牧野富太郎

Mr. Hisashi Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants.

(Continued from No. 95.)

By Tomitarō Mikino.

(17) *Crotalaria limifolia* Linn. fil. (= *Crotalaria caespitosa* Roxb.; *Crotalaria montana* Heyne; *Crotalaria scabifera* Grub.; *Crotalaria stenophylla* Vogel; *Crotalaria saxatilis* Zolling; *Crotalaria melanocarpa* Wall.)

やへやまたぬきまめ (田代安定氏)

(まめ科)

一年生草本ニシテ莖ハ直立シ高サ二尺以上ニ達シ條直ニシテ圓柱形ヲ成シ一二分枝ス而シテ平布セル密毛ヲ被フ葉ハ互生シ線形ニシテ六分ヨリ一寸長、極メテ短キ葉柄ヲ具ヘ托葉ナシ全邊、微尖點ヲ有スル鈍頭、鈍底ニシテ裏面ニ平布セル絹狀毛ヲ被リ中脈眞直ニシテ稍獨リ認め可シ上面ハ其毛疎布ス花穂ハ頂生シ數寸ノ

長アリ長キ者ハ一尺ニ超エ花ハ穗上ニ疎着シテ互ニ離在シ三厘許ノ小梗ヲ具ヘリ苞ハ極メテ細微ニシ小梗ヨリ稍短シ鍼形ヲ成ス小苞二數ニシテ萼筒ノ兩側ニ各一一個ヲ附着シ亦細小ニシ針形ナリ長サ萼ノ半長ト均シ萼ハ二分餘ノ長アリテ外面ニ淡褐毛ヲ密布シ内面ハ無毛ナリ上下ニ深ク兩裂シ萼筒ハ甚ダ短シ上片ハ直出シテ尖端兩齒トナリ下片ハ彎屈シ且ツ三尖裂ヲ成ス裂片ハ披針形ニシテ銳尖ナリ花冠ハ黃色ニシテ微々萼ヨリ長ク旗瓣ハ凹頭廣橢圓形ニシテ基部ニハ反卷セル狹片ヲ具ヘ且ツ短爪ヲ有シ爪邊茸毛ヲ生ズ翼瓣ハ倒卵狀長橢圓形ニシテ旗瓣ヨリ短ク基部ハ狹窄シ狹窄部ノ邊緣ニ茸毛アリ龍骨瓣ハ卵形ニシテ偏曲シ下部ノ邊緣ニ茸毛ヲ有シ下底ハ狹窄シ爪ヲ成ス頭部ハ狹ク延ンテ喙狀ト成リ且ツ兩片下緣ニ在テ連結シ内部分ニ殖器ヲ包入ス雄蕊ハ單體ニシテ下部ハ子房ノ周圍ニ筒ヲ成シ分出セル花絲部ハ絲狀ニシテ其長キ四條ハ球狀ノ小形葯ヲ有シ其ノ短キ五條ニハ線狀ノ大形葯ヲ戴ケリ子房ハ無柄、平區、長橢圓形ニシテ絲狀花柱ハ子房ノ上邊ニ直ニ屈曲シ是ヨリ前部ハ眞直ナリ柱頭ハ側生シテ長ク花柱ニ沿附シ毛ヲ生ズ莢ハ長橢圓體、無柄、莢皮革質無毛成熟ノ黑色ヲ成ス而シテ萼ヨリ微ニ長シ種子ハ細小、橢圓形ニシテ臍痕凹入シ莢内十三四粒ヲ容レ表面帶黃淡黑色ニシテ光澤アリ

石垣島四箇村 (明治廿五年八月九日黑岩恒氏採、第一回ノ第十六號)

支那、緬甸、英領印度、馬來群島、「フィリッピン」群島、臺灣并ニ北濠洲諸地ニ産ス

本品ハ頗ル能ク *Crotalaria albidia* Heyne. ニ類似ス然レモ其種ニ在テハ灌木ニシテ葉ノ上面ニ毛無ク莢ハ長橢圓狀圓柱形ヲ成シ四分餘ヨリ五分餘ノ長アリテ萼ヨリ長キ一一倍半或ハ二倍ナルヲ以テ自ラ本品ト異アルヲ見ル可シ此種ハ未ダ之ヲ帝國版圖内ニ採集セズ「フィリッピン」諸島ハ現ニ世人ニ識知セラ

レタル該種最東ノ產地ト知ル可キナリ

(18) *Cajanus indicus Spreng.* (= *Cajanus flavus* DC.; *Cytisus Cajan* Linn.; *Cajanus bicolor* Wall.; *Cajanus*

bicolor DC.; *Cytisus Cajan* var. *B. Lam.*; *Cytisus pseudo-cajan* Jacq.)

ビマメ 木豆 (マメ科)

灌木ニシテ莖條直上シ枝上縦ニ線楞ヲ引キ灰色短毛ヲ被リ殊ニ楞上ニ著シ葉ハ三出式ニシテ互生シ葉柄ハ瘦長ニシテ上面平區、下面條稜ヲ曳シ而シテ短軟毛ヲ布ケリ托葉ハ細形ニシテ分生シ長鑿形ヲ成シ小托葉ハ亦極メテ細微ニシテ成シ側生小葉ノ柄本外ニ各一、一個、中生小葉ノ柄本側ニ二個ヲ具フ葉形ハ長橢圓狀披針形ニシテ全邊、銳尖頭、銳底、略シ革質ナリ而シテ中生小葉ニハ長柄ヲ有シテ側生小葉ニハ極短小柄ヲ具ヘ且ツ中者ハ側者ヨリ形大ナリ葉脈ハ葉裏ニ明カニシテ支脈ヤ、彎曲シテ殆ンド皆葉緣ニ走達シ兩側各一六七條アリ葉面ニハ短キ密軟毛ヲ被リ下面ニハ強キ絹光アル密軟毛ヲ滿布ス而シテ上下兩面共ニ毛間交ユルニシテ細微黃色ノ粒腺ヲ以テシ殊ニ下面ニ多シ然レモ裸眼瞥見之ヲ認ムル難シ

石垣島四箇村 (明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第十六號 a)

本品ハ熱帶地ニ在テ普通ニ栽植セラル *Bentham* 氏曰ク蓋シ亞非利加洲内ノ土產ナル可シト

此種ハ元來花色ニ兩般アリ其旗瓣全然黃色ナル者舊トシテ *Cajanus flava* DC. (= *Cytisus Cajan* Linn.)

ト稱シ其旗瓣ノ背面ニ紅線ノ色采アル者別ニシテ *Cajanus bicolor* DC. (= *Cytisus Cajan* var. *B. Lam.*;

Cytisus pseudo-cajan Jacq.) ト稱セリ然レモ此些事固ト分種ノ微ニ非ズ是レ現時ノ植物家ノ合シテ以テ一ト

爲シ綜メテ之ヲ *Cajanus indicus Spreng.* ト汎稱スル所以ナリ而シテ琉球ニ培植セル者ハ即チ旗瓣ニ紅條

莊内植物一斑

アル品種ニ係リ又草木圖說并ニ本草通串證圖ニ登載セル者亦皆此品ト相同シ通串ノ圖上ニハ明記スルニ「琉球ヨリ傳裁スル」ノ語ヲ以テス

藤野寄命氏此種ニ命ズルニはぎもどきの假稱ヲ以テス(錦窠翁九十賀壽)博物會誌上卷第三十五頁然レモさまめノ名既ニ之レ有リ殊ニ別ニ命名ノ必要無キニ似タリ (未完)

莊内植物一斑

第二、鳥海山採集植物

中村 正雄

我奥州植物ハ宮部ドクトル池野學士及松平齊君ノ採集記ニヨリテ續々本誌上ニ紹介セラレタリ奥羽植物ノフロラ將ニ緒ニ就カントスルノ今日聊カ羽州南部ノ植物分布ヲ報セントス月山採集植物記ハ嘗テ某恩師ノ一覽ニ供セシモノ圖ラズ本誌掲載ノ榮ヲ得タリキ題シテ莊内植物一斑ト云ヘリ即チ茲ニ其稿ヲ繼キテ先ヅ昨年八月採集ノ鳥海山植物ヲ記ス該山ハ海拔八千廿尺ニシテ奥羽第一ノ高山ナルヲ以テ先年理學博士矢田部教授大久保助教授其他三好氏長澤氏等先輩諸士ノ跋涉セラレシノ地ト聞ク誤謬疎漏ノ多キ懇教ヲ垂レラレンコトヲ希望ス

A. 絶頂即チ噴火口縁採集植物

- 一、莎草科 1. 和名未タナシ *Carex phyllostachys*, C. A. Mey. 前年月山ニテモ採集セリ
- 二、百合科 2. チバリノギラン *Metanartheicum foliatum*, Maxim.
- 三、蘭科 3. ミヤマサギサウ *Habenaria* sp. 吾師牧野氏曰ク此種ハ未詳品ニ屬シ居レリ多分新種ノモノナル

ヘシト今假リニミヤマサキサウノ名ヲ附シテ後日ノ確定ヲ待ツ

四、蓼科 4. オンヨデ、又イハヨデ Polygonum polymorphum, Led. var. japonicum, Maxim.

五、石竹科 5. 鳥海フスマ Arenaria chokaiensis, Yatabe. 矢部博士先年此草ヲ此山ニ取リテフカイエンシス
ノ學名鳥海フスマノ和名ヲ命名シテ廣ク世界ニ紹介セラレタルモノナリ (五十八號ヲ見ヨ)

六、景天科 6. イハベンケイ Sedum Rhodiola, DC. var. Tachiroei Fr. et Sav.

七、虎耳草科 7. アラシグサ Saxifraga lycotonifolia, Maxim.

八、薔薇科 8. コキンバイ、又ミヤマキンバイ Potentilla gelida, C. A. Mey.

九、金絲桃科 9. オトギリサウ Hypericum erectum, Thunb.

十、岩高蘭科 10. ガンコウラン Empetrum nigrum, L.

十一、繖形科 11. チシマニンジン Selinum Tilingia, Maxim.

十二、石南科 12. コメバツガザシラ Andromeda nana, Maxim. 13. ミヤコホシノミ Elliottia bracteata, Benth. et Hook. fl. 14. ニラタマンギ Gaultheria pyroloides, Hook. f. et Thoms.

十三、岩梅科 15. イハムメ、又フキツメサウ Diapensia lapponica, L.

十四、玄參科 16. イハブシロ、又樽前草 Pentastemon frutescens, Lam. 17. ヨツバシホガイギン Pedicularis japonica, Miq. 18. エンノシキガイギン P. yezoensis, Maxim. 此種ハ友人川上瀧彌氏ノ採集セラレ

シモノナレモ茲ニ附記ス

十五、菊科 19. ミヤマカウソリナ Hieracium japonicum, Fr. et Sav. 20. チンヤムギニ Oniscus kamtschati-

cus Maxim. 21. アキノキリンサウ、又アハダチサウ Solidago Virga-aurea, L. (未完)

日本藥局方植物篇(前號ノ續キ)

澤田駒次郎

五十 ザンブツクス、ニシラ

羅甸名 Sambucus nigra, Linn.

Syn. Sambucus maderensis, Lowe.

忍冬科

歐羅巴等ニ自生スル落葉樹ニシテ高サ二十尺餘其幹ノ周圍一尺五寸餘ニ至リ枝杪ヲ對生シテ繁茂ス皮部ハ厚ク枹層ヲ被ムリ其質粗糙ニシテ灰色ヲ呈ス嫩枝ハ平滑綠色ニシテ皮孔ヲ散布シ類白色ノ斑點狀ヲ爲ス葉ハ奇性翼狀ヲ爲シ對生シ托葉ヲ有セス葉柄椎ハ長サ五寸乃至六寸七分餘小葉二對乃至四對頂端一葉ヲ有シ共ニ矮短ナル葉柄ヲ具ヘ卵圓形若シハ長圓披鍼形ニシテ底部狹隘先頂尖リ邊緣鋸齒ヲ有シ表面平滑ニシテ鮮綠色ヲ呈シ裏面ハ其色稍々稀薄ナリ花ハ細小ニシテ其數許多相密着ス而シテ主軸ノ末端五個ニ分岐シ其中央ノモノハ主軸ノ末端ニ占居シ他ノ四枝ハ各々二枝ヅ、相對シ其外部ニ位スルモノハ内部ニ位スルモノヨリ稍々延長シ各分枝殆ンド平等ノ高サヲ取リテ配列シ更ニ反復肉叉狀ニ分岐シ異梗平頭花ヲ綴ル其徑三寸餘乃至五寸餘抱花小葉ハ缺如ス萼五出下部平滑筒狀ニシテ實礎ト附着シ其截片三角形ヲ爲シ銳尖ヲ有シ展開ス而シテ萼ノ下部ニ於テ細小ナル外萼ヲ具有ス花瓣モ亦五出ニシテ殆ンド其下部マテ缺裂シ其裂片卵圓形ニシテ乳白色ヲ呈シ萼ヨリ三倍長クシテ萼ト交互ニ排列シ瓣ク脱落ス雄蕊五箇花瓣ニ附着シ花絲極メテ矮短其葯著大ニシテ心

臟形ヲ爲シ二房ヲ有シ背部ニ於テ花絲ノ頂端ニ附着シ黃色ヲ呈シ花時其腹縫ヨリ破綻シテ花粉ヲ吐出ス實礎ハ周立性ニシテ三房ヲ有シ各房一個ノ卵子ヲ懸生シ其游離ノ部分ハ花ノ中央ニ突出シ肥大ナル三個ノ柱頭ヲ有シ花柱ハ缺如ス花後石果ヲ結フ細小卵圓形ニシテ長サ二分餘其頂端ニ於テ萼片ノ果帽ヲ被ムリ平滑ニシテ赤色ヲ呈シ稔熟ノ後濃紫黑色ニ變ス果皮菲薄ニシテ果肉僅少三個ノ石核ヲ有ス長圓形ニシテ壓扁セラレ各々一個ノ卵子ヲ有シ胚子ハ直立性ニシテ根芽ハ上向シ硬固ナル油樣蛋白質中ニ在リ

本植物ハ最北部ヲ除クノ外歐羅巴全土、中央亞細亞ノ隨所及ヒ亞弗利加北部等ニ産シ第六月ニ於テ開花シ特異ノ香氣ヲ發出シ第九月第十月ノ頃ニ至リ果實稔熟シテ濃紫黑色ヲ呈ス帝國大學植物園ニ栽植ノ樹ハ佛蘭西ヨリ移植スト

藥品 接骨木花 Flores Sambuci.

接骨木花ハ本植物ノ花部ヲ採集乾燥セシモノニシテ日本藥局方ニハ藥用トス

(以下次號)

◎ 雜 錄

○ 植物雜俎

松 村 任 三

- ▲ 爪哇ニ有毒ノ樹木アリ土名チ イボ 一名 ウパス ト呼ブ俗ニ傳ヒ云フ人畜之ニ近ケバ立ロニ死スト土人其毒液ヲ取テ矢ニ塗リ敵ヲ射ル學名 *Aniharis toxicaria*. 桑科ノ植物ナリ
- ▲ 蘇門答刺ニ大花アリ世界第一ト稱ス其直徑一メートル學名 *Patiflesia*

Arnoldi. 拉弗來寫科ノ植物ナリ

- ▲ 子ルアツダニ大樹アリ榕ト云フ幹ノ周圍六百メートル空中ニ氣根ヲ下垂スルコト三千條
- ▲ 榮養ニ由テ植物界ヲ區別スルコト四、一ニ曰外界ニ無機物ヲ資リ葉綠ヲ以テ之ヲ類化スル者、二ニ曰死物ニ寄生スル者、三ニ曰活物ニ寄生

スル者、四ニ日蟲類ヲ食フ者

▲大氣中ニ浮遊スル有機物頗ル多シ曰醱母曰裂殖菌曰黴ノ孢子曰隱花植物某ノ孢子

▲空氣植物ト稱スルアリ熱帶地方ナル森林ノ樹上ニ生ス蘭科天南星科其多キニ居ル

▲根ナクシテ水中ニ浮泳スル植物アリ曰硅藻曰鼓藻

▲地中ニ棲息スル植物アリ曰菌ノ屬 Tubor 曰菌ノ屬 Elaphomyces 曰裂殖菌ノ某種曰某々ノ菌

▲綠葉ニ氣孔アリ其孔極メテ微細、百合屬ノモノ一ミリメートル百七十分ノ一、玉蜀黍ノモノ一ミリメートル百七十八分ノ一

▲綠葉ニ氣孔アリ其數多キハ方ミリメートル面ニ七百十六個少キハ唯一個

▲苦草^{ヒキシヤウモ}ト稱スル水草アリ其葉ノ細胞内ニ原形質ノ流動スルヲ見ル其速力一分時ニ一、五六ミリメートル許

▲游子ト稱スル種子ノ如キモノアリ藻類及菌類ノ體中ヨリ生ス尖頭ニ類モヲ閃シテ水中ニ游走ス其速力一フートチ一回スル速キハ十五分時、遅キハ一時

▲原形質運動ノ發見者チ Corti^{「ル」}トス西曆一千七百七十四年ナリ

▲貝母^{アミガサユリ} 享保九年三月渡ル

▲享保年中渡ル者曰黃芩^{「コガサキナサ」} 曰蒼朮曰胡蘆巴曰黃蘗曰木香^{モクカウスマ} 花

▲白朮^{ビヤクシユツ} 延享四年四月渡ル

▲日本ニ來リテ始テ之ガ植物ヲ查考セル者ヲ獨乙人クレイヤルトス西曆一千六百八十三年ナリ

▲エンゲルベルト、ケンブフェルモ獨乙ノ人ナリ千六百五十一年レムゴ一ニ生ル

▲其長崎ニ來着セルハ千六百九十年九月二十二日ナリ

▲シー、ビー、ツンベルグノ長崎ニ來リシハ千七百七十五年ナリ

▲其日本植物書ヲ著ハセシハ千七百八十四年ナリ

▲ビー、エフ、フォン、シーホルドハ獨乙ノ人、千七百九十六年ウルツブルクニ生レ千八百六十六年ミュンヘンニ没ス

▲其始テ日本ニ來リシハ千八百二十三年ナリ

▲救荒本草ハ周定王ノ著述ナリ其第二版ハ西曆千五百五十五年ニ當ルノ時世ニ出テタリ

▲本草綱目ハ明ノ李時珍ノ著述ナリ西曆千五百五十二年ニ當ルノ時稿ヲ起シ同七十八年ニ當ル時稿ヲ脱ス年ヲ閱スルコト二十六年稿ヲ改ムルコト三回

▲左ニ擧クル植物ハ外國種ナリ今新ニ和名ヲ付ス

Araneaia Cunninghamii, Ait.

ナンヤウスギ 南洋杉ノ義ナリ

Araneaia Bivallii, Hook.

ヒロハノナンヤウスギ

Callitris quadrivalvis, Vent.

マツウヒバ

關節アルカ故ニ名付ク亞非利加ノ産ナリ

Cupressus torulosa, Don.

オホイトスギ

喜馬拉山ノ産ナリ

Peperomia arifolia, Mez.

アフビゴセウ

葉 アフビ ニ類スレバナリ

Tsuga Douglasii, Carr.

メリケンツカ

米國ノ産ナリ

Selaginella atroviridis, Spring.

モヒギロバ

Iris florentina, L.

ニホヒシヤウブ

Vitex Agnus Castus, L.

セイヤウボケイ

西洋牡荊ノ義ニシテ歐洲ノ産ナリ

Galadinum bicolor (Ait.) Vent.

ハイモ

Mespilus Oxycantha (L.), Gaertn.

セイヤウサンザシ

歐洲産

Cotonaster Pyracantha (L.), Spach.

トキハサンザシ

歐洲産

Ilex Aquifolium, L.

セイヤウヒヒラギ

歐洲産

Cercis siliquastrum, L.

セイヤウズハウ

歐洲産

Corylus Avellana, L. var. *atropurpurea*.

ムラサキハシバミ

榛ノ一種歐洲産ニシテ我カ ノムラカヘデ ノ如ク葉深紅色ヲ呈シ美麗ナリ須ク之ガ蕃殖ヲ計ルベシ

植物園ニ

インドソケイ

ト稱スル樹アリ盆栽トス夾竹桃科ノ植物學

名ヲ

Plumeria acutifolia, Poiret ト云ヒ清國ノ名ヲ緬梔子ト云フ物

名實圖考二十九卷

ノ二十八丁ニ出ツ

▲琉球ノ海中一種ノ草ヲ産ス今

ウミヒルモ ト名付ク學名 *Halophila ovalis*, Hook. f. ニシテ水鼈科ニ屬ス

▲支那人ハ菰ノ幼芽ヲ食フ之ヲ

カウスン ト稱ス莖筒ナルベシ菰筍莖

白菰菜等ノ名本草綱目十九卷ニ見ユ

▲カラハナサウニニ忽布ト云フ嫩芽ハ食フベク纖維ハ紙ヲ製スベシ

▲大麻ハ和名

アサ ナリ印度ノ俗其葉ヲ煙草トス

▲モクマワウ

ハ學名 *Casuarina equisetifolia* ナリ此木綿絹ノ類ヲ褐色ニ染ムルニ適ス

◆清國ノ人椿及黃樟樹ノ嫩芽ヲ食フ椿ハ

チャンチン ナリ本邦之チ人

家ニ栽植ス黃楨樹ノ學名 Pistacia chinensis ナリ本邦ニ無シ

▲清國 [マホガニー] ノ一種ヲ産ス紅楨子ト稱ス學名 Cedrela Toona, Roob. ナリ材紅色、器具ヲ作ル楨ノ屬ナリ

▲清國湖北ノ西ニ [ユリノキ] 一名 [レンダボク] アリ鶴掌楸ト稱ス學名 Liquidambar Tulipifera ナリ清米兩國之ヲ産シテ本邦ニナシ奇ト

謂フニ

▲清國有刺ノ葡萄ヲ産ス其種類ニ曰 Vitis Paezkiti, Maxim. 曰 Vitis Romaneti, Carr. 曰 Vitis Davidii, Carr. 皆刺葡萄ノ名アリ

▲楨ノ字俗ニ [ロズ] ト訓ス或人之ヲ杜松ノ一名トス閩書南山志ニ見ユ

▲清國 [キイチゴ] ノ屬ヲ多ク産ス清名、學名左ノ如シ

Rubus pelatus, Maxim. 清俗、牛奶藤

Rubus lasiosifolius, Focke. 清俗、轆轤藤

Rubus rosaeifolius, Sm. 清俗、空心藤

Rubus parvifolius, L. 藤田藤

Rubus coreanus, Miq. 覆盆子 植物名 插田藤 本草 實圖考

Rubus Kuntzeanus, Hemsl. 紅海楸 植物名 實圖考

Rubus corchorifolius, L. f. 懸鉤子 植物名 實圖考

Rubus Lambertianus, Ser., var. glaber, Hemsl. 蓬蘽

Rubus ichangensis, Hemsl. et Ktze. 清俗、黃藤子

Rubus Parkeri, Hce. 清俗、烏藤子

Rubus niveus, Wall. 清俗、狗屎藤

Rubus acerifolius, Wall. 清俗、包穀藤

Rubus Henryi, Hemsl. et Ktze. 清俗、雞爪茶 茶ニ代用ス

▲清國廣東ニ於テ席ヲ織ルニ供スル植物二種アリ

曰 Lepironia mucronata, Rich. [アムレ] 曰 Cyperus tegetiformis, Roob. [シナトウ] 共ニ莎草科ニ屬ス [シナトウ] ハ古書ノ注至ナリ

▲清國四川燈井心草 Juncus effusus, L. ナ出ス亦織席ノ用ニ供ス

▲楠木ハ清國宮殿ヲ築造スルノ材ナリ四川及雲南ノ地ニ出ツ Machilus Mannii, Hemsl. ニシテ我カ [イヌダス] ノ屬ナリ清國 [イヌダス] ナ産セザルニアラズ亦楠木ナルベシ

▲子ブリンノキ 一名子ブノキ 一名子フリ 一名子ムノキ 一名カウカ

山ふみ、いつよりねふ、と名をかへて、か、かの木には人まごふらん

基俊

ひるばとさよるはこひぬるねふりの木きみ見やわけさへに見よ

仙覺萬葉註釋

アブチ 一名センダ 一名アウチノキ 一名アテノキ [榊木] 一名クモミ

グサ [榊]

山々ぞ野はにかくる雲見草雨とはならでとくくれぬる 藻蘆草

あふちぞく花さへ雲の色にして外面露けき五月雨の空 宣胤卿記

ツツジ 一名ヒトリクサ

花さけば秋がさぞおもふ日さり草みるにもみちの色ささかへば 藻
鹽草

▲チカツトシ 一名ヤマツトシ 一名ニツトシ 一名マツシ

つくと咲山の岩かけ夕はへてとくらほようのなのみなりけり 開山
家集

くれなぬのふりての色のをかつくといもかま袖にあやまたれける
堀河院次郎百首

いり日さすをちのをかへのをかつくとゆふくれなぬに色をまされる
全上

をかつくとおりてをゆかんはなのいろのあかきうたのみ日はくれぬ
とも 全上

▲モチツトシ 一名イハツトシ

いなくらはいひもはなたてもちつとつやにかけたるはひこしろひさ
や 散木集

▲シロツトシ 一名シラツトシ

風ふかてなみやおるやさみるまてにいりつとささくしらつとしかな
堀河院次郎百首

▲ヤマアラギ 一名コフシ 一名フサクラ 一名ヤマアラキ 一名コフシハ

シカミ 一名ヒキサクラ 一名シメナカ

うちたれて手をにきりたるこふしの木心せばとなくく比かな 藻

鹽草

時しあればこふしの花もひらけけり君かにきれる手のかくれかし

續詞花集

くびつかれかしらかへて出でしかごこふしの花のなをいたきかな
古今著聞集

▲ニハヤナギ 一名ユキキナギ 一名コメバナ

いはやなぎ花いろみれば山川の水のあやころあやまたれける 近江
御息所歌合

うれば梓是は木の根にこぼれけり小米の花の風にくだけて 古今夷
曲集

○繇條書屋植物雜記(其十五)

牧野富太郎

●しかくだけハかんちくノ最近族者タリ

予ハ淺學寡聞ニソ未ダかんちクノ學名ヲ確知スルニ及バズ然レモ其花莖

ノ狀ヲ檢ソ其 Arundinaria (めだけ屬) ノ一種タルニ外ナラザルヲ知レ

リしかくだけハ其外貌著シクかんちくと異ナリト雖モ斯ノ如ク其天籟ノ
相近遜セル種ハ竹類中多ク其儔ヲ見ズ予ハ未ダ管テ其花ヲ見ズト雖モ之

ヲ Arundinaria 屬中ノ一種ナリト斷言スルニ躊躇セズ從來之ヲ稱ソ

Bambusa quadrangularis Fenzl. ト稱セリト雖モ予ハ今之ヲ改メテ Arun-

dinaria quadrangularis. ト爲スニ憚カラズ

● *Bambusa nipponica Makino* sp. nov.

Bambusa nipponica Makino. 新種ナリ昨年晩秋之ヲ山城比叡山ニ採ル又江州彦根ノ城阜ニ見ル又紀州高野山(明治十六年七月十八日理科大學採收)ニ産スルヲ知ル未ダ和名アルヲ聞カズ予ハ之レニ新稱ヲ予ヘテみやこくト稱ス根莖横走シ圓柱形ニシテ節間短シ幹之ヨリ生シ直立シ基部ニ於テ分枝セリ條直瘦長細勁ニシテ節部膨腫シ他竹ト少シク其觀ヲ異ニス幹ハ葉鞘ノ包ム所ト成リ鞘ノ基部ハ即チ高節ニ當ル處ニシテ共ニ膨起シ鞘頭ニハ鬚毛ヲ飾レリ葉面ハ披針形或ハ長橢圓狀披針形ニシテ末尖リ本圓シ邊緣糙澁シ裏面ニ短毛ヲ被布セリ葉厚厚カラズ初冬ニ入り葉緣枯白スルト略々「*くまびく*」一名「*やばや*」(*Bambusa Velochii Carrière*)ニ於ケルガ如シ然レニ葉形頗ル之ヨリ小ナリ花穂ハ幹本ヨリ出テ、高ク穎ハ「*くまびく*」ヨリ狭小ナリ

● *Pedicularis nipponica Makino* sp. nov.

Pedicularis nipponica Makino. 新種ナリ關東地方ノ產品ニ係リ本邦産該屬諸品中ノ最モ雄大壯麗ナル者ナリ其狀略々「*はんくわいあやみ*」(*P. gloriosa Bisset et Moore*)ニ似タリト雖モ花更ニ多ク梗更ニ勁ク葉亦大ニ尖レリ予ハ今之ヲ呼シテおにしほがま(新稱)ト稱ス而シテ予ハ花實ヲ完備セル之レガ標本ヲ藏セリ越後上野兩國界上ノ清水峠ニ採集スル所ニシテ不日其詳狀ヲ報ズルノ期アル可シ

● 所謂あんべらノ學名

教授松村博士予ニ誨ヘテ曰ク支那ニ在テ席料トナスモノ *Leptonia mucronata Rich.* アリ是レチ即所謂あんべらナル可シトあんべらノ學名從來模糊ノ間ニ在リ予之ヲ聽キ直ニ之ヲ詳籍ニ探ル果ソ得ル所アリ以テ所謂あんべらハ即チ此 *Leptonia mucronata Rich.* (*Scirpus confertus* Poir.;

Paspis articulatus Retz.; *Chondroche articulata* F. Br.; *Choricarpa aphylla* Deek.) タルヲ知ルニ至レリ本種ハ一屬一種ニシテ「*やどりぐさ*」科 Hypochoeraceae 族ニ屬シ「セイロン」、印度諸島、馬來、「フヒーシー」島「マダカスカル」島、濠洲井ニ支那(植栽)ハ之レガ原產地ナリ帝國大學植物園裏本品ノ生本ヲ栽ユ毎歲能ク花穂ヲ着ケ直莖頗ル勁ナリ莖ハ「*くまびく*」ニ類シテ別ニ葉チ有セズ花穂孤在シ莖梢ニ在リ剛穎鱗次シ内ニ小花ヲ包ムト多シシ多年生本ニシテ根莖横走ス其實物ヲ觀ント欲セバ馳セテ本園ヲ訪フテ可ナリ本邦別ニあんべらト稱スルモノアリ葉アリ重複セル花穂別ニ出テテ狀貌極メテあんべらト異ナリ宜シク之レト混同ヲ避ク可シ此者三河地方ニ自生アリ亦「*やどりぐさ*」科ニ屬シ *Cladium glomeratum* F. Br. (*Banana Brownii* Beckel; *Cladipera glomerata* Nees.) ハ蓋シ之レガ學名ナラン

● 「*くまびく*」

「*くまびく*」ハ新稱ナリ學名ナ *Carex uda Maxim.* var. *sachalinensis* F. Schmidt. ト云フ北海道ニ産ス此者又武州三寶寺池畔ニ在リまつばすげヨリ其實チ、大ナリ

●日本植物學名一斑

- みやましらすげ (新稱) *Carex confertiflora* Boott. ●たぢうちんじなぢ (新稱) *Poa nemoralis* L. ●んちぢぢ (新稱) *Glycyeria fluitans* R. Br. ●ハヤシサヅリ (新稱) *Lagerstromia indica* L. forma *angustifolia* Kobze.
- からぶぢぢぢぢぢ (新稱) *Calorhabdos axillaris* Benth. et Hook. f. (= *Paderota axillaris* Sieb. et Zucc.) ●ササぢぢぢ *Calorhabdos villosula* Benth. et Hook. f. (= *Paderota villosula* Steud. et Zucc.) ●ハヤハヤ *Wedelia prostrata* Hemsl. ●くぢぢぢ *Wedelia calendulacea* L. ●ぢぢぢ *Splianthes oleracea* Clarke.) ●ぢぢぢ *Splianthes oleracea* Jaq. (= *Splianthes oleracea* Jacq. ? 2 fusca DC. 以上二種ハ外國産ナリ ●くぢぢぢ *Bambusa tessellata* Munro. ●ぢぢぢぢぢ *Arundinaria* Hindsi. Munro (= *Bambusa erecta* Hort.) ●たぢぢぢぢ *Arundinaria* Hindsi. Munro var. *graminea* (= *Bambusa graminea* Hort.) ●くぢぢぢ *Phyllanthus* *nigra* Munro. ●ぢぢぢぢ *Phyllanthus* *nigra* Munro var. *punctata*. ●ぢぢぢぢぢ *Phyllanthus* *miis* Riviere. ●ぢぢぢ *Phyllanthus* *quilloi* Riviere.

○日本及ビ外國ノ植物新和名

大沼宏平

余ガ新ニ命シタル日本及ビ外國植物ノ和名數個チアルファミットノ順次

ニ臚列集録シタルハ餘白ニ掲載アラント企望ス
Acaethopanax sp. ニサヤマコシアブラ余明治十七年九月信州東筑摩郡三才山ニ於テ始テ發見ス又土佐高岡郡鳥形山ニモ産ス
Achillea moschata, Vulfen. シヤカウノユギリサウ歐洲ノ高山ニ産ス
Achillea nana, L. (*Pharnacia nana*, DC.) ケノユギリサウ、チヤホノユギリサウ余ノ貯藏ノ腊葉中ニアルモノ
Achranium cuneatum, Langsd. et Fisch. オホソノホウライシダ、ホウライシダノ葉ニ似テ少シク大ナリ帝國大學植物園ノ温室ニアリ
Agrostis alba, L. var. *stolonifera*, Sm. ハメスカボ、オホメカボ植物園ニアリ

Aнемone coronaria, L. ヌニズナオキナグサ四五月深紅花ヲ開ク植物園及花戸ニヨリ
Anthoceros laevis, L. (Fruehhorn) シンゴケ、ツノミゴケ余明治十三年十一月武州道灌山下ノ加州家ノ墓地ノ石垣ノ間ニ於テ始メテ發見ス又麴町代官町本郷加賀邸等ニモ自生ス
Anthoxanthum odoratum, L. ハルガヤ余明治廿四年四月小石氷川田甫ニ於テ發見ス四月花アリ
Apios tuberosa, Moench. アメリカカホドイモ北米ニ産ス根(塊莖)ハ食用ニ供ス
Aquilegia alpina, L. シヤマオダマキ花ハ巨大ナリ余ノ腊葉中ニアリ

Anacardium occidentale, Hook. カウエフザンバノウロコモミニウサウスグ
 エルスニ産ス此ノ毬果一個ヲ以テ數人ノ食物トナスニ足ル此ノ一株ノ樹
 ノ果實ハ一ヶ年間十八人ヲ養フモノナリ植物園ニアリ

Anacardium occidentale, Pav. アメリカウロコモミ南米チリノ沼地ニ産ス
 バノウロコモミ新和蘭ニ産ス材ハ造船ノ料トナスベシ植物園ニアリ

毬果巨大團圓ニシテ暗褐色ナリ直徑十五乃至十八センチメートル種子ハ
 巴旦杏ノ如クニシテ大サ是ニ培ス生ニテ 大陽ニ乾シ、火ニ焙リ或ハ煮

テ食フベシ味甚ダ佳美ナリ該地方土人ノ貴重スル所ノ食物ナリ他諸食物
 欠乏ノ時ニ遭遇シテモ年々此ノ樹ノ森林中ヨリ夥シク産出スル所ノ種子

ヲ以テ好ク飢饉ヲ免ル、モノナリ該地方土人ノ爲メニハ此樹ガアフリカ
 洲サハラ大沙漠ノ土人ノナツメシユロ一名ナツメヤシ海棗 (Phoenix

dactylifera, L.) 熱帶大洋諸島土人ノヤシ椰子 (Cocos nucifera, L.)ニ於
 ケルガ如キ貴重ノモノナリ該地方ノ各土人ガ此ノ樹大多數ヲ有シテ再ビ

之ヲ其ノ家族ニ分與シ世々之ヲ其ノ子孫ニ讓ルモノナリ此樹ヲ襲フ者ア
 ルトキハ屢血戰ヲナスト云フ

Artocarpus incisa, L. fil. マルミパンノキ釋迦果南洋諸島ニ産ス年々八
 九ヶ月間ハ絶エズ此樹果實ヲ結ブ是レ土人ノ必用ナル常食ナリ果實ノ無

キ月間ニハ常ニ漬貯シ置キタルモノヲ以テ重ニ生活ス未熟ノ時果實ヲ摘
 採シテ皮ヲ剝テ其葉ニ包ンデ石或ハ炭ノ上ニテ燒キ食フ味麵包ノ如クニ

シテ甘シ全熟ノモノハ佳ナラズシテ食スベカラズ材ハ舟或家具ヲ製スル
 ニ供ス若キ木及ビ枝皮ハ衣類ヲ織製スルニ供ス構皮ヲ以テ製シタルモノ
 ノ如シ樹皮ノ乳汁ヲ以テ 繭ヲ製スベシ葉灰ト木及ビ根ヲ煎シ藥用ニ供
 用ス

Artocarpus integrifolia, L. fil. ナガミパンノキ波羅密東印度及ビ印度諸
 島ニ産ス果實ハ上種ノ如クニシテ食フベシ材ハ印度僧侶ノ衣ヲ黃色ニ染
 ムルニ供ス

○つりしゆすらん及ヒつるぎやうノ新産地

岡 眞 三

昨十二月下旬安田市村兩君ト共ニ豆州地方ニ採取ス此頃腊葉ノ乾ケルマ
 ヲ牧野君ニ就キテ種名ヲ訂ス蓋シ同地方ノ植物ハ既ニ一昨冬松田安井兩

君ノ採取ニカ、ルヲ以テ別ニ報ズ可キナシ唯つりしゆすらん及ヒつるぎ
 きやうノ二種ハ未ダ兩君ノ眼ニ觸レサリシガ如シ牧野君ノ言ニ因レハつ

りしゆすらん *Goodyera pendula* Maxim. ハ從來土佐ニ産スルヲハ君カ
 既ニ目撃サレシ處ナルモ猶伊勢南部ニモ産スル事ハ記載アルノミナル由

又つるぎやう *Campanumaea javanica* Bl. (= *C. japonica* Maxim.) ハ
 四國九州ニ産スルモ東京附近ニハ未ダ採取サレタルヲ聞カズト余等ノ兩

種ヲ採取セルハ何レモ豆州天城山中ニシテつりしゆすらんハ老樹ノ上ニ
 生セルチ安田君ノ採取サレシナリ宛ニ角豆州ハ氣候溫暖ナルタメ此等植

物ノ産スルニヤ或ハ尙他ニ採取サレタル方モアルニヤ聊方未知ノ諸君ニ

○もうせんごけ

もうせんごけハ石狩國空知郡沼貝村ノ原野ニ叢生シ七月初旬ハ其開花期ナリト在札幌種谷英次郎君ヨリ報道アリタリ

○くまがいさうノ屬名ニ就キテ

大久保三郎

R. Russer Ascherson 氏ハ *Cypripedium*, L. ナ *Cypripedium* ト變改セリ而シテ Pfizer 氏ハ其變改ヲ採用セリ且今日ハ「メルリン」ノ著者等 (グレン、シム、イン等) モ *Cypripedium* ト記載スルニ至レリ然レモ此ノ變改ハ批評ヲイヌカレズトテ著者ハ「ギリイキ」ノ語原ヲ示シ本來ハ *Cypripedium* トナラザルヲ得ズ夫レヨリ語原ノ意義ニ及ボシ詳説シ結論ノ *Cypripedium* 非ナリ *Cypripedium* 非ナリ兩者共ニ純精ノ「ギリイキ」ニハアラズ而シテ前者ハ百五十年モ昔ヨリ稱及シ來リタルモノナラバソヲ用フル方穩當ナリトス Bull. U. Herb. Bois. T. 11. 1894. 642.

○落葉集第二編

野村彦太郎

前號ニ於テ理學士白井光太郎君ハ五倍子ノ種類形成等ニ就テ丁寧ニ論述セラレシハ余輩ノ最モ感謝スル所ニシテ其勢ヤ察スルニ餘アリ隨テ余輩ヲ益スル實ニ鮮少ニアラサルナリ扱同君ノ論說中ニ日本藥局法ヲ引用シテ五倍子虫ヲ *Aphis Chinensis* ト稱スルノ穩當ナラサルヲ論セラレシハ尤モ至極ニシ余モ亦同君ニ向テ同意ヲ表セザルヲ得ズ然レ

凡右ノ藥局法ニ引用スル虫名ハ全ク根據ナキニアラズシテ Balfour 氏ノ著書及ロ *Stille's malsch* 兩氏ノ合著ノ書ニ出テ尤モ其名ハ一時假作ノ命名ニ係レルモノト如キモ今之ヲ Dr. Smith 氏ノ著書ニ徴スルニ印土産ニ係レルモノハ *Coccus* 屬ノ寄生ニ起リふしの樹ト同屬異種ノ櫛樹ニ産スト知ラズ果シテ我國ノ五倍子虫ニ *Coccus* ノ名ヲ命ズルノ穩當ナルヤ否ヤ今左ニ此等ノ文ヲ抄譯シ併セテ余ノ卑見ヲ述テ世ノ博識ノ士ニ教ヲ乞フト欲ス

日本産五倍子

既虫中、最モ怪異ナルハ世人ノ知ル *Aphis elenensis*, Bell. ノ生スル支那苞^{チナ}是ナリ此苞ハ日本國ニアルイサの樹 *Distylium racemosum*, Zucc.) ト稱スル大樹ノ葉ニ生スルモノナリト (譯者曰ク此説ノ非ナルヲハ白井君ノ引用スル Harbury 氏ノ説ニ明カナリ) 然レモ M. Guibout 氏ノ説ニ據レハ日本國ニ於テ俗ニ *On-pe-tse* 或ハ *Out-pe-tse* 或ハ *Woo-pe-tse* ト稱スル樹 (譯者曰ク五倍子ノ支那音ナリ) ノ芽ニ生スト云 [Edward Balfour's Agricultural Pests of India, and Southern Asia, vegetable and animal injurious to man and his products 抄譯] 支那及日本苞ハ古ヨリ世ニ知ラルモ Pereira 氏 (一千八百四十四年) ノ更ニ此ノモノニ對シテ注意ヲ加ヘシヨリ留易ノ特有物産トナレリト此ノモノハふしの樹 (*Rhus semi-alata*, Murray) ノ葉或ハ葉柄ニ *Aphis chinensis* ノ生スルモノニシテ其名ノ如キハ一時ノ假稱ニ係レリト而シテ通例

百分中單寧ノ七十乃至八十分含蓄セリ其形狀不正ニシテ其基部ハ恰モ莖ニ似テ扁薄其頂部ハ膨脹シテ不正ニ分岐シ多少ノ隆起アリ其殼ハ薄脆且ツ帶紅褐色ニシテ灰色ノ毛茸ヲ密布シ其内部ニ夥多ノ小虫ヲ含有ス抑モ日本苞ハ其内容ノ特質ニ至テハ前ノ記載ニ一致セルモ較チ瘦形ニシテ其分岐及ヒ隆起ハ較チ多キヲ常トシ其原料ハ Siebold 氏ノ謂ル Rhus japonica ヨリ得ルト云 [Salle and Maisch's National Dispensary 抄譯] (本文ニ圖アレハ略ス)

五倍子 (Wu-pe-tze) ハ漆樹科ノふしの樹 (Rhus semi-alata) ニ生スル苞ニシテ古來、支那國、日本國ニテ著名ナル漆ヲ生スル樹ト同屬ノモノナリ此種ヲ印土國ニテハ Kakra-sing-gie ト稱シ Cocous ト稱スル虫ノ生スルモノニシテ往々拳大ニ達セリト云、其体ハ堅脆且ツ中空ニシテ橢圓角様ヲナシ彎曲セルヲ常トス長サ一吋半許ニシテ貝殼ニ似テ兩端ハ尖リ或ハ不正三角狀ニシテ隆起アリ其外面ハ帶黃色或ハ淡絨褐色ニシテ毛様ヲ呈シ薄壁ハ透明ニシテ其内部ニ殘虫ノ充満スルアリ之ヲ煮シテ其虫ヲ殺シ歐洲ニ輸出ス此ノモノハ Fung-tien-fa (奉天府) 及ヒ Sui-ling-ehau (綏定州) ノ地方間ニテモ採集ス日本種ハ小形ナルモ印土種ハ比馬刺亞山ニアル櫛樹 (Rhus succidanca) ニ産シテ較チ圓筒狀ヲナセリ此苞ハ染工、鞣工ノ黑色ヲ生スル用品ナリ Dr. William 氏ノ説ニ據ルハ此ノモノニ野囁虫ノヂニアル或ハ他ノ色素物ヲ混シテ灰色、褐色、鹿子色カシコヲ生セシムト又此ノモノハ御膳ノ調味品トシテ主要成分ヲナスガ故ニ殊ニ貴重セラレ當ニ天子ノ下賜

品トシテ之ヲ得ルニ過キズト支那人ハ此ノモノヲ吐劑、收斂劑ニ供シ又之ヲ痲腫、腫物、挫傷ノ局所藥ニ用ウト蓋シ Poi (備) ハ豫備スルノ義ニシテ (五) ハ人體ノ五臟ヲ意味スト言フコロハ五臟病ヲ治スル爲ノ豫備藥ナリト [F. P. Smith's Materia Medica 抄譯] (譯者曰ク本艸綱目、五倍子ノ條ニ異名五倍子ト載セ和漢三才圖會、同條ニ解藥毒治五病、脫肛、及口、舌、牙トアルヲ見レハ同書ノ説モ全ク故ナキニアラズ)

「附言」前ニ舉ケタル Smith 氏ノ著書、五倍子ノ條ニ印土産ノモノハ櫛樹 Rhus succidanca ニ産スル由ヲ記セシハ甚々訝シキノ至ナリ此ノ如キトハ我國ニ於テ余輩ノ未タ聞知セザル所ナリ又同書ニシテ類シタル事アリ
同書「女貞 (Rhus succidanca)」ノ條ニ「此漆樹ハ日本蠟ヲ生ズト云此ノモノハ支那國ノ蟲白蠟ヲ生スル樹ノ一種ナリト」右ノ二説ヲ翫味スルハ疑念ノ余ノ心頭ニ掛ルナキニアラズ何トナレハ Rhus succidanca ハ我國ノ櫛樹ノヂニアルニシテ實チ搗キテ蠟ヲ製スルナリ蟲ヨリ蠟ヲ製スル者ニ非サルナリ蓋シ Rhus succidanca ハ女貞、和名タマツバキ、學名 Ligustrum japonicum ノ誤ナラント想像セシヲ以テ同書ヲ通覽セシニ別項ニ Hofmann 氏及ヒ Schultes 氏ノ一説ヲ載セテ女貞ニ Ligustrum japonicum ノ學名ヲ充テタルコトヲ發見シタリ然ラハ印土産ノ五倍子トイヘルモ櫛樹ニアラス女貞、和名、タマツバキ、學名 Ligustrum japonicum ナルコト明ケシ果シ

テ然リトセバ本文ノ Rhus succidanea ニ易フルニ Ligustrum japonicum ト填ムコト至當ナレ若シ此説ニ至當ナルモノナランニハ其五倍子ト云ヘルハ眞ノ五倍子ニアラズシテ我國ニ産スル水蠟樹^ヌ又ハ秦皮樹ニ生スル方言イボタロウ或ハトバシリト稱スルモノヲ生スル虫ニシテ漢名蟲白蠟ト稱スルモノニシテ全ク此虫ヨリ製スル蠟ナリサレハ同書ニ Coccus 虫ト稱スルハ謂ユル Westwood 氏ノ命名ニ係ル Coccus Pella ノ事ナルヲ明カナリ此虫ニ就テハ英國キユー植物園發兌ノ Bulletin of Miscellaneous Information (1893, Nos. 76-77) ニ詳論セリ又 Hambury ノ著書ニモ略論シタリキ固ヨリ我國ニ於テ女貞ニ Rhus succidanea ノ名ヲ充テバ人、其不穩當タルヲ知ラン然レハ外國ニ在テハ往々カトル謬見ナキニシモアラズト見エテ前ノキユー植物園發兌ノ書中、Colbomer Faber 氏ノ報告中ニ Adolphe Brogniost 氏ノ説ヲ引用シテ Nu-ohén (女貞)ニ Rhus succidanea ノ學名ヲ充テシノ例ナキニアラサルナリ余ハ今筆ヲ茲ニ擱シテ次號ニ於テ榿樹即チ Rhus succidanea ノ事ヲ記セント欲ス

○バクテリアノ説(承前) K D 山人纂譯

不潔ナル食ハ黴菌ノ源ナリ

肺疾ニ罹レル家畜家禽ノ肉及牛乳等ノ中ニハ間々結核黴菌ヲ含ムガ故ニ十分ノヲ熱烹スルカ若シクハ之ヲ蒸シテ食セザレバ是等ノ黴菌更ニ腸ニ

入りテ病ヲ起スモノナリトハ既ニ説ケル所ナリ故ニ是等黴菌ノ傳播ヲ豫防スルコトハカノ衛生ヲ掌ル人々ノ責任ナルコト無論ナレドモ若シ萬一當事者ニシテ不注意ナル時ニハ之ヲ防クノ責當ニ各自銘々ノ身上ニ在ルベキコト固ヨリナリ若夫レ嚴重ニ家畜ヲ検査スル法ヲ設ケ而シテ病毒アルモノト認メタル時ハ直ニ之ヲ沒收シ若シクハ之ヲ消滅スベキハ固ヨリ言ヲ竣タサレトモ萬一此取締法行ハレサルニ於テハ能ク熱烹料理スルニアラサレバ決シテ肉類ヲ食スベカラス牛乳ニ於ケルモ亦復然リ而シテ牛乳ハ四十五分乃至一時間之ヲ燻ムレバ其中ニ存スル黴菌ヲ滅スルコトヲ得ベシ

牛乳ニハ黴菌ノ入り易キモノニシテ彼ノ猩紅熱及實布の里亞ノ之ヨリ傳ハルモノナルコトハ既ニ多クノ人々ガ證スル所ナリサレバ其牛乳ノ何レヨリ來ルヤ之ヲ知ルコト能ハサル市街ニ在リテハ十分ノヲ煮沸シタル後チ用井ルコソ良ニ安全ナル手段ナラメ

牛乳ハアラユル種類ノ黴菌カ最モ好メル食物ニシテ即チ又之ヲ他ニ傳フル好媒介物タリ故ニ其牝牛ヨリ搾取スル時ニ方リテハ少シモ黴菌ノ存スルコトナシト雖ヒ之ヲ消費スル人ノ手ニ來ラサル内ニハヤ已ニ一ヒノ牛乳中數百萬ノ黴菌アルヲ見ル者ナリサテ無數ノ黴菌ヲ含有スル牛乳ハ特ニ或ル種ノ病ヲ起スベキ黴菌ノミ存スルモノニ非サレトモ幼児之ヲ飲マバ忽チ消化ノ困難ヲ來シ次テ下痢^{タイレボラ}ヲ起シ終ニハ重症ニ陥ルコト屢ナリ故ニ其出處知レザル牛乳ハ十分ノヲ沸騰シタル後飲マシムルヲ可トス而

シテ之ヲ沸騰スル器械ハ既ニ甚簡單ニシテ廉直ナルモノアレバ醫師モ之ヲ用ヒンコトヲ勸ムルナリ

各種ノ黴菌ハ人口稠密ノ場處ノ空氣中ニ浮遊シ或ハ菓物蔬菜等ニ生存スルモノナレバ若シ之ヲ料理セズシテ食センニハ必ス先ツ洗滌セサルベカラズ然ルニ往々是等ノ食料ヲ市街ノ道側ニ羅列シテ心附カサルハ實ニ尤ムヘキノ隨一トス何トナレハ假令是等ノ食料ヨリ病ヲ得タランモ販賣者

ヲ責メンハ實ニ不當ニシテ其罪却リテ家ノ主人ニ在レバナリ

望扶斯並ニ虎列刺病流行時ニ於テハ其黴菌食物ニ因リテ人ヨリ人ニ傳ハ

ルモノニシテコハ患者ヨリ吐出セル物質ニ一種ノ黴菌ガ止レバナリ故ニ

大都會ニ於ケル貧民中ニ起リ易キモノノ道理ナリ何トナレバ貧民ノ市場マーケット賣店ハソノ構造多クハ粗惡ニシテ其居間ニハ病者ヲモ混シタルカ上ニ

厨食堂モ掃溜モ寢室モ皆一切此處ニ於テスレバナリ而シテヤト上等ナル場合ニ在リテモ實扶的里亞及望扶斯病ノ黴菌ハ能ク洗滌セザル匙皿等ニ因リテ傳ハルコト屢ナリ

○根ガ生活組織内ニ闖入スル

是ハシヨルジ、シエー、ペヤールス氏ガプエファー教授ノ命ニ因リ

ライプツツヒ大學植物生理學實驗所ニ於テ施行セル實驗ニシテ氏之ヲ昨年九月一日出版ノ「ボタニシエ、ツアイツング」紙上ニ載セタリ余

之ヲ學友雜誌講讀會ニ於テ講讀シタレバ今其大略ヲ左ニ掲グ

池野成一郎

れなしかづらハ其吸根ヲ宿主ノ組織内ニ闖入シテ以テ養分ヲ吸收ス而ソレなしかづらノ如キ寄生植物ガ他ノ組織内ニ入ルハ當ニ器械的壓力ニ因ルノミナラズ又一種ノ化學的物質ヲ分泌シテ以テ組織ヲ腐蝕シ此腐蝕シタル部ヨリシテ自ラ生ズル壓力ニ因テ以テ進入スルナリ

果シテ然ラバズんば如キらまめノ如キ或ハからしノ如キ寄生ナラザル植物ノ根ハれなしかづらト一般生活組織内ニ闖入スルノ力アルヤ又若シ闖入スルヲ得ルト爲セバ化學的物質ヲ分泌スルヤ將タ單ニ器械的

ノ壓力ノミニ因テ闖入スルヤ之ヲ知ラントスルモノ是レ即此研究ノ主意ト爲ス所ナリ

Brassica Napus (ばばたん)ノ一種)并ニからしノ根ヲ用非テ以テ試驗スル

ト次ノ如シ即健全ナルトヤがたらいもノ薯ヲ中央ヨリ兩斷シ其兩截面ニ銳利ニシテ清潔ナル小刀ヲ以テ數多ノ小孔ヲ穿テ各孔内ニ一個ツノノからし或ハ *Brassica* ノ種子ヲ入レ然ル後薯ノ兩半ヲ元ノ如クニ合シテ之

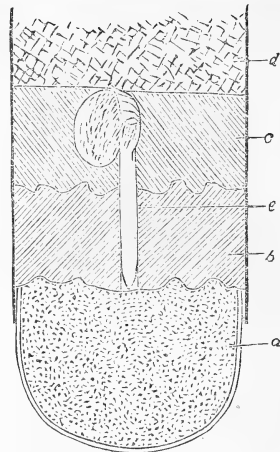
ヲ糸ヲ以テ結び之ヲ濕リタル鋸屑ノ中ニ安置シ且其截面ガ地平面ト平行スル所ノ位置ニ置キタリ然ル時ハ種子ハ薯ヨリ充分ニ水分ヲ吸收スルヲ得ルガ故ニ時ナラズシテ發芽スベシ十二日ヲ經テ彼ノ薯ノ糸ヲ除キ薯ノ

截面ヲ檢スルニ發芽セル植物ノ根ハ薯ノ截面ニ於ケル「パレンキマ」組織内ニ垂直ニ闖入スルモノ許多ヲ認ム殊ニ其甚シキモノハ薯ノ截面ヨリ

闖入シテ薯ノ外面ニ於ケル「コルク」層ヲ破リテ薯ノ外面ニ出ルモノアルヲ認ムベシ此ノ「パレンキマ」組織内ニ入りタル根ヲ顯微鏡下ニ檢ス

ルニ根毛ハ絶無ナルカ或ハ殆ド絶無ナリ是レ根ガ「パレンキマ」組織ノ
壓力ニ逢ヒ爲ニ根毛ヲ生ジ能ハザルガ故ナリ

Praxien 并ニ、らしノ根ハ頗ル細クシテ其先端鈍レリ而ソ今起ル所ノ問
題ハ、んごう、ろらまめノ根ノ如キ太クシテ其先端鈍ナルモノモ生活組



織内ニ入ルヤ否ヤト云
フニアリ此問題ヲ解釋
スルニ當リ次ノ如キ裝
置ヲ用井タリ(圖ヲ參
照スベシ)圖中ハハト
やがたらいもノ截斷セ

ルモノニシテ其外ヲ包ムニ厚紙ヲ以シ糸ヲ以テ之ヲ結紮ス又其截面ハ故
ラニ粗體ニスエハ硝子管ニシテ其形ヲ根ニ同ジクシ其一端ヲ薯ノ截面ノ
一孔ニ挿込ニ垂直ナラシム然ル後此上ニ注入スルニ石膏(b)ヲ以テシ
高サ硝子管ノ半以上ニ至ラシム暫時ニシテ、んごうノ甲拆ヲ取リテ其根
ヲ管中ニ挿入スルヲ圖ニ於ケルガ如クシ然ル後再ビ石膏ヲ注入シ(c)以
テ甲拆ノ子葉上ニ至ラシム其上ニdナル鋸屑ヲ置キ常ニ濕潤ナラシム凡
ソ以上ノ如ク根ヲ管中ニ挿入シ或ハ石膏ヲ注入スルモノ根ヲシテ横ニ屈
曲スル等ノコトナカラシメ單ニ垂直ニ生長セシメンガ爲ナリ蓋若シ根ガ
横ニ屈曲スル等ノアレバ爲ニ多少ノ勢力ヲ費消スルガ故ニ其垂直ニ生
長スルノ力ニ多少ノ減退ヲ見ルヤ必セリ故ニ硝子管ニ挿入スルヲ此試驗

ニ於ケルガ如クナレバ根ハ偏ニ垂直ニ生長スルヲ以テ其全力ヲ垂直ニ生
長シ隨テ生活組織内ニ闖入スルヲニ費シ安ニ他ノ目的ニ勢力ヲ消費スル
ノ患ナケレバナリ

數日ヲ經テ之ヲ一見スルニ根ハ薯中ニ入ルヲ七、五「ミリメートル」ノ
深キニ及ベリ而シテ幾度力之ヲ試ミタル中ニテ唯一回根ノ先端近傍ニ於ケ
ル薯ノ澱粉粒ガ腐蝕セラレタルヲ見タリ是レ根ガ化學的物質ヲ生ジテ以
テ之ヲ腐蝕シタルニ非ズ恐クハ根ノ先端ニ「バクテリア」アリテ以テ之
ヲ腐蝕シタルモノナラン

んごうノ根ハ化學的物質ノ助ナク單ニ壓力ノミニ因リテ薯中ニ入りタ
ルヲ証明スルガ爲メ次ノ二試驗ヲ爲セリ

第一ノ試驗ハ素焼ノ陶器ノ固クシテ濕リタルモノ、其抗抵敢テ薯ノ「パ
レンキマ」ニ劣ラザルモノノ上ニ置クニ、んごうノ甲拆ヲ以テシタルニ
根ハ能ク其内ニ闖入シタリ

第二ノ試驗ハ硝子管ノ其大小形狀、んごうノ根ニ類セルモノヲトやがた
らいもニ挿入シ之ヲ濕所ニ安置シタリ五日ヲ經テ之ヲ檢スルニ硝子管ノ
一端ニ於テ澱粉粒ノ腐蝕セルモノアルヲ見タリ是レ恐クハ管ニ附着セル
「バクテリア」ノ所爲ト見做スベシ

是ニ因テ之ヲ觀レバ、んごうノ根ハ敢テ化學的ノ力ヲ假ルヲ無キモ能ク
單ニ其壓力ニ因リテ生活組織内ニ闖入スベシ、ろらまめノ根モ又之ニ同
ジ

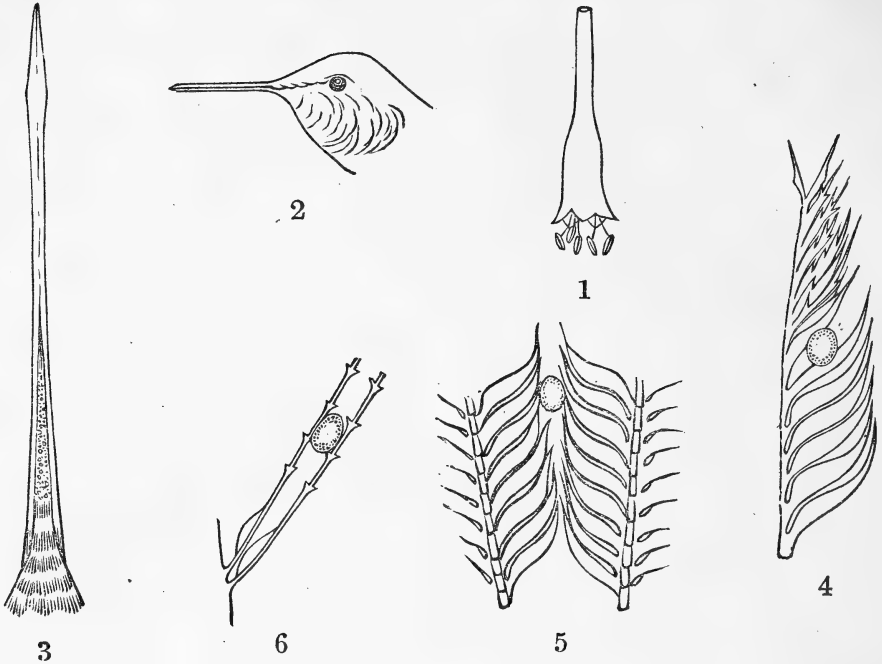
根ハトやがたらいもニ比シテ尙ホ抗抵ノ甚シキ組織内ニモ闖入スルノ力アルヤ否ヤヲ檢セン爲メ前述ノ法ニ準ジテ「*Eoloveria*」ノ葉(表皮硬固ニシテ上皮ハ頗ル強シ)、一種ノ「*ばうせんくわノ枝*、くろゆり類ノ成熟セル子房(既ニ乾燥シテ硬クナルモノ)、だいわうノ葉柄、ろくわい(蘆會)ノ葉并ニほるごさう一種ノ莖等ニ置キタルニ根ハ常ニ周縁ノ組織ヲ經テ内部ニ進入セリ而シテ尤モ注意スベキハ根ハ其内部ニ突入スルヲ無キト是レナリ是レねなし「*づらト異ル所ニシテ*」ニ於テハ化學的ノ力ニ因テ之ヲ腐蝕スルガ故ニ其内ニ入ルヲ得レト彼ニ於テハ偏ニ壓力ノミ是レ因ルガ故ニ其内ニ入ル能ハザルナリ

植物根ハ土壤中ヨリ水分ヲ吸收シテ生活ス然レト根ハ必ズシモ土壤内ニアルヲ要セザル「*ハ水中培養ノ試験ニ因テ明ナリ著者ハ此理ニ基キ次ノ如キ最モ面白キ試験ヲ行ヘリ即ちらまめノ強壯ナル莖ニ滅菌シタル剃刀ヲ以テ長サ三「センチ」深サ三、四「ミリ」ノ傷ヲ造リ其傷内ニ「ばう」ノ甲拆根長サ凡ソ二「センチ」ナルモノヲ挿入シ之ヲ綿并ニ糸ヲ以テ密ニ結紮シ其上ニ注グニ石膏ヲ以テシテ子葉上迄至ラシメ石膏ノ上ニハ一小孔ヲ穿チテ後生長セル莖ノ外出スルニ便ナラシム斯クノ如ク爲シタル「*ばう*」ハ其根ニ殆ンド垂直ニ「*らまめ*」莖ノ體內迄進入シ或ハ厚皮ニ至レリ莖ノ長ハ普通ノモノ、凡ソ半ニシテ花ノ數モ鮮少ナリキニ因*

テ之ヲ觀レバ此「*ばう*」ハ彼ノ人ノ能ク知レルや「*ざり*」ト一般ノ生長法ヲ行ヒタルモノト爲スベシ蓋シ彼ノや「*ざり*」ナルモノ莖葉ニ充分ノ葉綠ヲ有ス其他植物ノ寄生スルモノ恐クハ主トシテ水分并ニ無機物ヲ寄主ヨリ吸收スルニアリ此「*ばう*」又之ニ同シ其「*らまめ*」内ニ植付ラル「*ト*」此試驗ニ於ケルガ如クナルモ敢テ「*らまめ*」ヨリ有機分ヲ吸收スル「*ト*」無ク唯其レヨリ水分并ニ鹽分ヲ吸收スル而已ナラン

○鳥媒ノ授精作用 安田 篤

凡ソ顯花植物ノ授精作用ハ主トシテ水媒 (Hydrophilous)、風媒 (Anemophilous)、虫媒 (Entomophilous) ナルガ鳥媒 (Ornithophilous) モ亦決シテ輕々ニ看過ス可ラザル「*ト*」近著ノ「*American Naturalist*」ニ於テ論ゼシ「*Joseph L. Hancock*」其人ナリ氏ノ實驗セシ鳥ハ我邦ニ産セザレト鳥媒ノ何物タルヤヲ知ルニ參考トナルベケレバ左ニ之ヲ譯出ス
蜂鳥 (Trochilus colubris) || Humming-bird) ノ授精作用ニ與テ力アル「*ト*」ハ決シテ虫類ニ讓ラズ此鳥ノ嘴及ビ羽ハ花粉ヲ宿スニ頗ル便利トナリ頭ノ構造モ花ニ近接スルニ適ス又嘴ノ形ハ細長ニシテ軟撓ナルガ爲如何ナル花裡ヲモ探ルニ適ス彼「*Lonicera sempervirens*」(「*つきむき*」にんじう)ノ一種ハ此鳥ノ好シテ花蜜ヲ求ムル者ニシテ其花冠ハ筒狀ヲ爲シ(第一圖)赤色ニシテ全ク香チ欠ク抑花ノ香氣ハ蜜蜂ノ如キ六脚出テ誘フニ必要ナル者ナレト此植物ハ既ニ香無キチ「*ト*」以テ殆ト虫類ニ依賴セズシテ蜂鳥ヲ待チ授精作用ヲ全フセシム偶余ノ一友ノ家ニ於テ花蜜ヲ吸ヘル際



其飼猫ノ捕獲シタル蜂鳥ヲ送り越セシニ由リ檢究上大ナル便宜ヲ得タリ

花粉ノ輸致セラル、ヤ種々ノ方法ニ依ル令蜂鳥ノ嘴ヲ捻スレバ口角ノ前

方ノ下顎部ニ淡黄線ヲ見ル(第二圖)顯微鏡ヲ以テ之ヲ照セバ小溝中ニ花

粉ノ蓄積セシ者ナルヲ知ルベシ次ニ下嘴ヲ下面ヨリ臨メバ左右顎枝ノ

會點ニ深キ縱溝アリ(第三圖)此溝ハ後方ニ於テ姑ク相分ル是レ第二花粉

貯藏處ナリ此處ニハ夥多ノ花粉ガ蓄積シ其最深層ニアル者ハ蓋シ數週以

前ノ者ナラン其他ノ嘴面ニモ多少ノ散粉アリ

羽ハ花粉輸送ノ最要部ニシテ花粉ノ羽ニ捕ヘラル、方法四アリ羽ノ中最

其用ヲ爲ス者ハ頭ノ側面、及ビ下面嘴眼ノ間ニアル者ナリ是等ノ羽ハ何

レモ蹻(Contour-feather)ニミテ細短ナル蹻(Oleagus)羽軸(Tachis)羽

翳(Vanos)羽枝(Barbs)小枝(Barbules)ヨリ成ル而シテ羽ノ先端

ニ於テハ小枝ハ刺ヲ有ス之ヲ小枝刺(Barbicels)ト云又羽ノ基底ニ位ス

ル羽ニハ尖小ノ羽枝アリテ短距離ニ配列セラル花粉輸送ノ第一法ハ之ガ

二羽ノ間ニ捕ヘラル、ナリ(第四圖)第二法ハ一羽ノ羽ト之ニ接スル他羽

ノ羽トノ間ニ擽セラル、ナリ(第五圖)第三法ハ二羽枝ガ單ニ分離シテ其

間ニ挾マルナリ(第六圖)第四法ハ以上三者ト異ナリ花ノ柱頭ヨリ出ツル

分泌液ガ羽ニ附着スル者ニシテ此粘液ノ爲ニ花粉ハ持去ラル、ナリ高度

ノ顯微鏡ニテ窺ヘバ小枝ノ粘液ノ爲ニ纏結セルヲ目撃シ得ベシ

一般ニ風媒植物ニ於テハ花粉ハ小ニシテ輕ク多少乾燥シテ球形ヲ呈シ虫

媒植物ニ於テハ其能ク虫類ノ腹面ニ附着スルニ便ナラシムル排置アルガ

鳥媒植物ニ於テハ是等ト異ナリ以上陳ベタル如キ種々ノ方法ニテ散配セラル、チ見ル是等ハ充分檢究スル價値アルヲ信シテ疑ハザルナリ

○花粉ノ生理作用 市村 塘

凡ソ菊科、繖形科、錦葵科、蕁麻科ニ屬スル諸植物ガ其花粉ヨリ授精管ヲ萌發スルハ唯雌藥ノ柱頭ニ觸ル、時ニ於テノミナルガ他科ノ植物ノ有スル花粉ニアツテハ斯、ル際ハ勿論、純水中ニテモ、四十乃至五十「ペルセント」ノ砂糖濃厚液中ニテモ、尙能ク萌發スルナリ然レモ夫ノ石南科植物ノ花粉ハ特別ニシテ純水及ビ砂糖溶液共ニ渠ヲ萌發セシムルヲ得ザレモ林檎酸ノ〇、〇一「ペルセント」或ハ林檎酸石灰ノ〇、〇五乃至一、〇「ペルセント」ノ溶液中ニハ容易ニ萌發スルヲ見ルベシ又萌發力ハ植物ノ異ナルニ隨ヒ不同ナルヲ以テ十二日乃至七十二日間ヲ萌發ニ要スト云ヘバ大過ナカレベシ一休花粉ヨリ出ヅル授精管ハ陰性ノ向空氣性^{チガチフ}チ有スルカ若シクハ培養液ニ無關係ナリト雖モ決シテ陽性^{ホネチアフ}ノ向空氣性^{キト}チ有スルモノニアラズ而シテ同種植物柱頭ノ分泌液ニ對シ常ニ陽性^{キト}ノ向^{キト}化性^{キト}チ有ス時ニ他種植物ノ柱頭ニ於テモ同作用ヲ起スアレモ互ニ近接ナル關係ナキガ如シ此向化性ハ必ずヤ多少授精管ヲ卵球ニ近クルニ與テカアルニ相違ナカラン其他花粉ハ屢々澱粉ヲ含有シ外方ノ被包膜ハ濃厚硫酸ニ遭ヘバ赤紫色ヲ呈スル物質ヨリ一部構成セラル、モノトス云々、以上ハモリシ^シ H. Molisch 氏所論ノ一般ヲ摘萃シタルモノニ係ル (SB. K. Akad. Wiss. Wien. ci. (1893) pp. 423—48 (1 Pl.)).

○寄生草ノ氣根 市村 塘

うゑん^{エヒツアイト} F. A. F. C. Went 氏ハ附着作用或ハ營養作用ヲ行ヘル熱帶寄生草數多ノ氣根ヲ比較的ニ研究セリ其報告ニ由レバ同屬中ノ異種トテモ尙該根ノ機能ヲ異ニスト云フ元來附着作用ハ殆ホ水平ニ生長セル長紐狀ノ根ニ依ルカ或ハ臨時甚ダ感シ易キ根ニ依ルカ或ハ圓狀トナリ盆狀構造ヲナセル根ニ依ルノ外ナシ營養根ニアツテハ如斯ク著シキ變形ヲ見ル稀ナリ同氏ハ莖ノ下部全ク枯死シ專ラ其上部ヨリ芽出シタル不定氣根ニ依テ營養ヲナセル植物ヲ^{フワイトエヒツアイト}偽寄生草ト名ク(天南星科植物ニ多シ)反之シテ最初全ク營養ヲ土壤ヨリ採リ後一部ハ氣根ヨリスル植物ヲ^{フワイト}半寄生草ト名クタリ尙發達ノ順序ヲ檢シタルニ先ツ根部攀上者トナリ次ニ氣根ヲ有スル根部攀上者、次ニ偽寄生草次ニ半寄生草トナリ終ニ真正ノ寄生草ニ迄成達スルナリト謂フ (Ann. Jour. Bot. Buitenzorg, XII (1894) pp. 1—72).

○上部トソキンノ埋レ木

上部トソキン (Upper Tounkin) ヨリ支那ノ「モングツ」(Mongtze) 地方へ多ク輸出スル椛榔用ノ木材アリ此材木ハ森林ニ生長スルモノニアラズシテ沙土ノ中ニ七尺乃至二十五尺ノ深サニ埋マリ居レリ材ノ大ナルモノハ直径三尺以上ニ達シ一般ニ能ク保存セラレ居ルナリ此材ヲ供スル樹木ハ其幹ノ性質并ニ位置ヨリ判スルニ往時一大森林ヲ成セシモノナルベキモ地震或ハ他ノ大變動ノ爲地中ニ埋没セラレタルモノナラン此ノ如キ變

動ニ關シテハ記錄ノ存セザルニ因リ其時代ヲ確定スルコト能ハズト雖其起リタル時ノ非常ニ遠キモノニアラザルコトハ其樹木中上部ノ枝樞ノ完全シ居ルモノ多キヲ見ルモ明ナルベシ樹木ノ種類ハ蓋シ松屬ニシテ樹脂多ク隨ツテ能ク久キニ耐久故ニ棺材ニ供セララル

○木葉ト雨

イー、スタール (E. Stahl) 氏ノ實驗スル所ニ據ルニ植物ノ葉ハ蒸發ニ因テ水分ヲ除去スル作用ノ外其表面ニ聚合スル水ヲ成ルベク迅速ニ除去スル方便ヲ具セリ植物ノ葉ガ睡眠ノ位置ヲ呈スルモ其一例ニシテ地平ニ開展セル葉ガ上方ニ曲ガルトキハ其葉ノ基脚ヨリ容易ニ雨滴ヲ除キ去ルチ得ルコトハ明ナリサレドモ葉形ガ長橢圓ニシテ尖長ノ上端ヲ有スルハ多量ノ濕氣ヲ除キ去ルニ適シタル普通ノ方便ナリトス氏ハトヤすちしあ、びくた (Justicia Pida) ト稱スル植物ニ就キ其葉ヲ人工ヲ以テ圓ナラシメタルモノト其尖端ヲ存シ置キタルモノトニ就テ乾キ去ル遲速ヲ檢シタルニ甲ニ於テハ一時間其表面ニ濕氣ヲ有シタルモ乙ニ於テハ二十分前後ニテ乾キ去レリ此ノ如ク葉面ヨリ水ヲ除キ去ルコトハ葉ノ重量ヲ減シ蒸發ヲ助成シ且之ヲ清潔ニスルモノナリ驟雨一過ノ後表皮楊柳ノ如キ尖長ノ葉ハ全く其面ノ塵埃洗ヒ去ラル、モ其端尖長ナラザルモノニ於テハ尙汚穢ヲ留ムルコトアルハ往々人ノ目撃スル所ナリ

以上二件 ア、キ、生抄譯

○東京植物學會錄事

去一月廿六日午後二時ヨリ植物學教室ニ於テ月次例會ヲ開キ松村理學博士ハ神保氏採集西伯利亞植物ニ就テ講話アリ次テ神保君ハ經過セラレタル沿途ノ概況ヲ說話セラレタリ又當日展列セラレタル顯微鏡的標品ハにがキノ木管組織中ニ存在スル黃色物質 サフラニン染、市村君出品、ちのきの鱗片ニ堆積セル樹脂アルカンナニテ染メ、澤田君出品、バルサム封裝

○寄贈書目録

一月十五日以降領収ノ分

- 東京醫學會雜誌 第九卷 第一號 東京醫學會○大日本農會報 第五百五十六、第五百五十七號、第五百六十號 大日本農會○北海道水産雜誌 第十六號 北水協會○地質學雜誌 第十六號○動物學雜誌 第七十五號 動物學會○大日本山林會報 第四百四十五號 大日本山林會○日本蠶業雜誌 第七十九號 日本蠶業雜誌社○國家醫學會雜誌 第九十三號 國家醫學會○地學雜誌 第七十三卷 地學協會○岐阜縣農會雜誌 第二十九號 岐阜縣農會○日本園藝會雜誌 第六十一號 二冊 日本園藝會 The Gardeners' Chronicle. Vol. XVI, No. 413, 414, 416. 1894. Bulletin de l'Herbier Boissier. Tome II, No. 10 II. 1894. Bulletin of Miscellaneous Information. — Kew. No. 87, 1894. — Appendix III, 1894 及 App. I, 1895 二冊

hölzern (*Fagus japonica*, Maxim., *Acanthopanax ricinifolium*, Sieb. et Zucc., *Magnolia hypoleuca*, Sieb. et Zucc., *Quercus grosseserrata*, Bl.) gemischt, einen schönen Bestand bildet, mit geradeschaftigem Stamme, fast horizontal ausbreitenden Aesten, und kegelförmiger Krone, die stattliche Dimension von 15-20 m. Höhe bei 3 m. Umfang erreicht.

Dass dieser schöne Waldbaum sicher eine neue *Tsuga*-art, welche, bis jetzt, weder den einheimischen, noch den ausländischen Botanikern bekannt zu sein scheint, rührt wahrscheinlich, daher, weil das Auftreten dieses Baumes örtlich sehr beschränkt, und die Waldreviere, in denen derselbe vorkommt, nur schwer zugänglich sind.

Figurenerklärung der Tafel III.

- | | |
|---|--|
| Fig. 1. Ein Zweig mit zwei Zapfen. | Fig. 11. Deckschuppe in der natür. Gr. |
| Fig. 2. Öffener Zapfen in der natür. Gr. | Fig. 12. Halbentblätterter Zapfen. |
| Fig. 3,4,5,6. Eine Reihe Zapfenschuppen mit
Samenspuren innerseits, von der
Basis des Zapfens aufwärts. | Fig. 13,14. Nadeln in der natür. Gr. |
| Fig. 7. Ausserseite der Schuppe Fig. 6, | Fig. 15. Querschnitt der Nadel. |
| Fig. 8. Obere Seite des Samens, in der natür.
Gr. | Fig. 16. Vorderer Theil der Nadel, von unten
gesehen, vergrr. |
| Fig. 9. Untere Seite desselben. | Fig. 17. Hinterer Theil derselben. |
| Fig. 10. Fruchtschuppe mit Samen von innen. | Fig. 18. Hinterer Theil der Nadel, von oben,
vergrr. |
| | Fig. 19. Einjähriger Trieb, vergrr. |
-

wesentlich unterscheidet sich von dem Holze der anderen japanischen Tsuga-arten (*Tsuga Sieboldii*, Carr., *Tsuga diversifolia*, Maxim.), es nähert sich mehr dem Holze von *Chamaecyparis obtusa*, Sieb. et. Zucc. Es ist leicht spaltbar. Die Jahrringe sind schmal und regelmässig. Das Kernholz ist hellbraun, der Splint dagegen weisslich. Die Borke ist dunkelbraun, und langrissig. Im lufttrockenen Zustande zeigt das Holz ein spez. Gewicht von 0,48—0,50, und lässt unter dem Mikroskope Harzkanäle erkennen.

Zieht man hierzu noch die Gestalt des Zapfens oder Samens in Betracht, so zeigt diese Tsuga-art eine auffallende Verwandtschaft mit der Pseudo-Tsuga Douglasii (Sabine) Carr.—Die Natürlichen Pflanzenfamilien von A. Engler und K. Prautl, Coniferae, S. 80,—Die Waldungen von Nordamerika von Dr. H. Mayr, S. 290,—De Candolle, Prod. XVI, 2, S. 431, (unter Pinus), wenn auch hinsichtlich der Baum=oder Zapfengrösse, oder der Nadelform eine grosse Verschiedenheit herrscht.

Diese Tsuga-art besitzt auch eine Aehnlichkeit im Habitus mit *Abies Pattoniana* (Jeffrey) Watson, (*Abies Hookeriana*, Murr.)= *Pinus Pattoniana*, Parlatores,—De Candolle, Prod. XVI. 2. S. 329,—A Manual of Coniferae bei James Veitchi, pag. 116, unterscheidet sich jedoch davon, durch die Einkerbung der Nadel, längere Deckschuppen, und eiförmige Gestalt des Zapfens.

Ich habe diesen Baum im Juli, 1893 im Walde auf dem Wege (etwa 10 engl. Meilen von der Küste entfernt, 2000' über d. M.), von Owashi, Provinz Kii nach Yoshino, Prov. Yamato gefunden; wo er mit *Tsuga Sieboldii*, Carr. und verschiedenen immergrünen und winterkahlen Laub-

Eine neue Coniferenart

in

Japan

von

Homi Shirasawa.

Tsuga (Pseudo-*tsuga*) *japonica*, n. sp.

Japanischer Name: *Togasawara*, i. e. (*Tsuga Chamaecyparis*).

Nadeln flach, etwas gebogen, mit oberseits eingedrückter, unterseits vortretender Mittelnerve, an der Spitze eingekerbt, 20 bis 25 mm. lang, 2 mm. breit, oberseits grün, unterseits mit zwei hellweissen Streifen. Auf der Querschnitte zeigen sich zwei Harzgänge. Zapfen eiförmig, länglich, 4 cm. lang, 2 bis 2½ cm. Durchmesser, mit starken, hackförmig gebogenen Stielen, hängend, oder rückwärts gewendet. Zapfenschuppen dunkelviolettbraun, theilweise schwärzlich, auf der Rückseite bläulich bereift, lösen sich nicht von der Spindel ab. Deckschuppen etwas länger als Fruchtschuppen, meist dreitheilig, und bei reifen Zapfen rückwärts gekrümmt.

Der Samen ist dreieckig, 9 mm. lang, 5 mm. breit, auf der unteren, der Schuppe zugekehrten Seite grauweiss, braun punktiert, und auf der oberen Seite hellbraun. Der Flügel ist 1 bis 1½ mal länger als der Same, und mit demselben verwachsen.

Das Holz dieser *Tsuga*-art, hinsichtlich der technischen Eigenschaften,

菊池熊太郎君著

(二月廿五日發賣)

普通萬國歷史

全一冊定價
金一圓郵稅
金十錢紙數
五百四頁
石版十四葉

明治廿八年ノ劈頭第一ニ本書ヲ發刊ス中等教科書トシテ價值ハ敢テ弊社ノ喋々ヲ須ヒズ

東京神田
裏神保町

敬

業

社

東洋學藝雜誌

明治二十八年一月二十五日發兌

●第六十號●定價一冊金十錢

論說

●軍事上電氣ノ用途

中野初子

●元素

櫻井錠二

●腫物

山極

勝三郎

●動物ガ損害ヲ受ケテ失ヒタル體部ヲ再ビ生ズルコトニ就キ

わいすひん先生

川千代松

●雜錄

●落雷野敏之丞

●菩多尼詞經

●雜報

○緯度の變化○地球のマグネツトノ極○圓の面積○ニウトン祭○有名なる數學者の事業○マックスウ

清國盛京省の植物○三學士の歸朝等外數件

發行所

東京神田
裏神保町

東洋學藝社

動物學雜誌

第七十五號

一月十五日發行

一冊金十錢 ○六冊前金六十六錢 (郵稅共)

目次

本誌體裁の改革に就て ○だゝめうばつたノ觀察及熊本近傍ノばつた族 *Aoridae* ニ就テ中

川久知君 ○再ビ北海道ノ鞘翅類ニ就キ松村松年君 ○普通教育ニ於ケル生理學筭作佳吉君 ○昆蟲ノ話 (十二) 石

川千代松君 ○*Ozobronchus* の一種に就て (摘要) 丘淺次郎君 ○日本産脚類 (前號ノ續キ) 摘要石川千代松君 ●雜

錄 ○動物學研究用藥劑便覽 (續) ○ナスミツク酸にて標本ノ黒色を漂白する法 ○蜥蜴類に就て ○アシナカバチ

の接尾時期 ○栗虫の卵の寄生蜂 ○寄生蜂の群集 (再報) ○鋸蜂の防禦器 ○*Bibliyophilina Faunae Japonicae* ○

採集實驗日記 (承前) ○札幌博物學會記事 ○コシマロガ

ラスに就て ○動物學小史正誤 ○横山氏著作化石教科書

東京神田裏神保町

發賣所 敬業社

東京物理學校雜誌

第參拾八號

明治二十八年一月八日發行

●壹冊金六錢 郵稅五厘 ○六冊前金 (郵稅共) 參拾六錢

目次

●論說 (誤差論 (前號ノ續キ) 三守守君) ●雜錄 (星

ノ視運動ノ概略 (前號ノ續キ完結) 寺尾壽君 ○帝國本曆

和田雄治君 ○化學實驗の簡易裝置第三蒸餾器及ビ「リ

ービヒ」冷縮器、第四分離漏斗安田又一君 ○種々の常

數第三問題 (代數 (二問) ○幾何 (三問) ○*P.C.* 生問題 (三角法 (二問) ○重學 (一問) ●解義 (文

省教員免許檢定試驗化學 (完結) ○算術 (三問) ○代數

(一問) ○幾何 (二問) ●雜報 (水ノ葉ノ呼吸 ●猫ノ墜

(第三十二號掲載ノ部) ●水ノ最大比重 ●氷

點下ト零點下 ●本邦主要地一年中最低ノ溫度 ●清國北

部ノ溫度 ●萬國測地協會觀象台建設ノ實測 ●文部省教

員免許檢定試驗 ●同窓會第九例會 ●理科大學ニユート

ン祭

東京市神田區裏神保町一番地

發賣所 敬業社

●廣 告●
理科大學教授博士松村任三先生著

日光山植物目錄

全一册
定價六拾錢
學名及和名
索引附

白根、男體、高峯、馬返、峻峻、赤沼、曠原、金精ノ
鬱林其他鉢石、中禪寺、湯本等ノ勝區ニ野生スル九百
有餘種ノ花卉草木ヲ盡ク網羅シタル目錄ナリ此名山勝
地ヲ探檢スル内外ノ人士殊ニ修學旅行ヲ企圖セラル、
教員、學生諸君ハ必ス一本ヲ備ヘサル可カラス
理科大學教授博士松村任三先生著

和漢譯 本草字典

全一册
定價六拾錢

本書ハ英語其他數十ヶ國ノ語ニ於ケル植物及藥品等ノ
名稱ヲ和漢兩名ニ對譯スルニ羅馬字ト假字トノ兩様ヲ
以テシ加之植物所屬ノ科名ヲモ記入シタルモノナレハ
是亦坐右ニ缺クヘカラサル良辭書ナリ
池野成一郎譯

顯花植物分科檢索篇

全一册 正價二拾錢 郵稅四錢

本書ハ管テ植物學雜誌ニ附録トシテ連載セルモノヲ集
メテ一册トナシ別ニ詳細ナル和洋科名ノ見出表ヲ附シ
タルモノ也殘部有之候ニ付御入用ノ方ハ至急申込アレ

賣捌所

東京神田
裏神保町
東京日本橋
通三丁目

敬業社
丸善書店

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金五錢
三回以上割引仕候
○本誌毎月一回發兌一册金拾貳錢○六册前金七拾貳錢
○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限リ壹册拾錢

○配達概則

第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セ
ズ○第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發
兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セズ
○第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四
條 特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナ
レバ御届可申候

明治廿八年二月十九日印刷
明治廿八年二月二十日發行

版權所有

編輯兼 井上 蘇吉
發行者 熊田 宜遜
印刷者 熊田 活版所
發行所 東京市神田區錦町三丁目廿五番地
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
敬業社
賣捌所 同所
丸善書店
東京市日本橋區通三丁目

314170

2 K 1
B 13

明治廿六年六月三十日遞信省認可

明治廿一年二月三日內務省許可

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 9.]

February 20, 1895.

[No. 96

CONTENTS.

Eine neue Coniferenart in Japan. Von Homi Shirasawa.	41
Dr Löw's Energy of the Living Protoplasm. By Kenjirō Fujisawa.	44
Verzeichniss der durch K. Jimbō in Siberien gesammelten Pflanzen. Von Prof. Jinzō Matsumura.	53
Areca Catechu and Myristica moschata. By Atsushi Yasuda.	59
Mr. H. Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants. (<i>Continued from No</i> 95). By Tomitarō Makino.	61
Plants of Shōnai. By Masao Nakamura.	64
Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia. By Komajirō Sawada.	66
Miscellaneous:—	67
Short Notes—Miscellaneous Notes on the Plants of 'Yōjōsho-oku.'— Japanese Galls.—New Japanese Name of Plants.—Proceedings of the Tōkyō Botanical Society.—Publications Received.—etc.	

All letters and communications to be addressed to the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

印刷所 東京市神田區錦町三丁目廿五番地 熊田活版所

植物學雜誌第九卷第九十七號

明治廿八年三月二十日

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. IX.

March 20, 1895.

No. 97.]

神保氏採集ノ西伯利亞植物

(承前)

松村任三

Verzeichniss der durch K. Jimbo in Siberien
gesammelten Pflanzen.

bestimmt

VON

J. Matsumura.

Aceraceae.

Acer tegmentosum Maxim.

Hab. Im Süd-Ussuri Gebiet: bei Sspasskaja. Sterilis.

ウリハダカヘデ」ニ近似ノ品ナリ恨ラシハ其果實チ欠シテ

Acer tataricum L. var. *Ginnala Maxim.* = *A. Ginnala Maxim.*

神保氏採集ノ西伯利亞植物

Hab. Im Süd-Ussuri Gebiet: bei Sspasskaja. Surculis sterilis.

日本名カラロギカヘデ 本邦ニハ北海道岩代等
之ヲ産ス亦果實チ欠ク

Acer Mono Maxim. = *A. pictum Thunb.* var. *Mono Maxim.*

Hab. Bei Chabarowsk. Sterilis.

日本名イヌヤカヘデ 本邦ノ山中隨處之アル
ノ品ナリ亦果實チ欠ク

Geraniaceae.

Geranium sibiricum L.

Hab. Chabarowsk. Fructus maturus. 22 Sept. 1894.

日本名イチゲンウロ 本邦ニハ北海道ニアリ

Geranium Wassowianum Fisch.

Hab. An der unteren Schilka: bei Tschassowaja; am obern Amur: unterhalb der Station Amasar. 31 Sept.

1894.

Florif. et fructif.

本邦ニ之ナシ實ハ熟シテ梗屈曲スルノ特徴アリ

Geranium eriostemon Fisch.

Hab. Am obern Amur: unterhalb der Station Amasar. Specimen unicum floriferum. 31 Sept. 1894.

日本名グンナイソウロ

Celastraceae.

Euonymus pauciflorus Maxim.

Hab. Im Süd-Ussuri Gebiet: Spasskaja. Fructus maturus. 31 Sept. 1894.

ニシキギ」ノ一種ナレモ外貌之ニ似ズ唯其實狀之ニ近キノミ此種枝ニ褐色ノ小突起ヲ滿布スルノ特徴アリ

Rhamnaceae.

Rhamnus davurica Pall.

Hab. Chabarowsk. Surculus sterilis.

ナムカウシ」ノ一種ナリ葉狀邦産ニ異ナルヲナシ

Leguminosae.

Melilotus suaveolens Ledeb.

Hab. An der unteren Schilka: Serebryanskaja. Fl. et fr. 4 Sept. 1894.

日本名シナガハング 本邦武相、綿豆等海邊ニ産スルノ品ナリ

Trifolium Lupinaster L.

Hab. Transbaikalien; Süd-Ussuri Gebiet; am obern Amur; an der Schilka. Fl. Aug.-Sept.

日本名シヤジツサウ 本邦ニハ北海道、信州等之ヲ産ス

Trifolium repens L.

Hab. Chabarowsk.

日本名シロツメツナ

Astragalus sp. indetermin.

Hab. Transbaikalien; an der Schilka.

碧紫色ノ花數多相聚テ穗ヲナス美麗ノ品ナリ

A. versicolor Pall. ニ近似スルカ如シ

Oxytropis oxyphyllus DC.

Hab. Transbaikalien: Station Dornokljitschewskaja. Fl. et fr. 15 Aug. 1894.

白質ニ紫斑アル花ヲ開ク美麗ノ小草ナリ

Vicia pallida Turcz.

Hab. An der untern Schilka: bei Akina. Fl. et fr. 1 Sept. 1894.

日本名クロンノツサフヂ

Vicia Cracca L. var. *canescens* Maxim.

Hab. Am oberen Amur. Fl. 3 Sept. 1894.

日本名ツサフヂ

本邦産ニ異ナル所ハ
葉ニ白毛アルコナリ

Lespedeza bicolor Turcz.

Hab. Chabarowsk. Sterilis.

日本名ハギ 花ナキノ標品ナレ
此物タルヤ明ナリ

Maackia amurensis Rupr. et Maxim. = Cladrastis amurensis B. et H.

Hab. Im Süd-Ussuri Gebiet; Chabarowsk. Fr. 31 Sept. 1894.

日本名イヌヨムシナ

Rosaceae.

Prunus Padus L.

Hab. An der untern Schilka; am obern Amur. Sterilis.

Spiraea sorbifolia L.

Hab. An der Schilka; bei Sstrjetsjensk. Fl. 22 Aug. 1894.

日本名ホザギナノカイロ 本邦北海道ニ産ス

Spiraea salicifolia L. var. lanceolata Torr. et Gray.

Hab. An der Schilka; am Obern Amur. Fl. et fr. Aug.-Sept.

日本名ホザギシモツケ 本邦ニハ北海道・日光等ニ産ス

Spiraea media Schmidt?

Hab. An der Schilka; im Süd-Ussuri Gebiet.

Geum strictum Ait.

Hab. Chabarowsk; im Süd-Ussuri Gebiet. Fl. et fr. Sept.

日本名オホダイロンサウ

Sanguisorba officinalis L.

Hab. Transbaikalien; am oberen Amur: Omutnaja; im Süd-Ussuri. Fl. Sept.

日本名ソロンモカウ

Sanguisorba tenuifolia Fisch.

Hab. Am oberen Amur: an der Schilka, Fl. Aug-Sept.

日本名シロンソロンモカウ

Agrimonia pilosa Led.

Hab. An der Schilka: bei Strejensk. Fl. et fr. 22 Aug. 1894.

日本名キンミヅヒロキ

Potentilla fruticosa L.

Hab. Transbaikalien: Station Donnokljutschewskaja. Fl.

日本名キンミヤズメ

Potentilla chinensis Ser.

Hab. An der Schilka; im Süd-Ussuri; am oberen Amur; Transbaikalien. Fl. Aug-Sept.

日本名カハラサイロ

Rubus Idaeus L.

Hab. An der untern Schilka: Karaganskaja. Sterilis.

日本名 エンイチロ

Rosa cinnamomea L.

Hab. An der untern Schilka. Fr. 2 Sept. 1894.

タカチバラ」ニ略々似タル所アリ

Crataegus sanguinea Pall.

Hab. An der Schilka; im Süd-Ussuri; Chabarowsk. Sterilis.

日本名 オホサンザシ

Crataegus pinnatifida Bge.

Hab. Im Süd-Ussuri Gebiet; Chabarowsk. Sterilis.

Pyrus baccata L.

Hab. Im Süd-Ussuri Gebiet. Sterilis.

妙高山植物採集紀

松田定久

昨明治二十七年ノ夏此山ニ採集ヲ試ム別段珍ラシキコトアルニアラズト雖他日同山ニ登リテ植物ヲ集メ
ラレントスル人ニ便スルコトアランカト思惟シ其紀行ヲ草ス

妙高山一ニ妙香山ト稱ス越後國中頸城郡ニアリテ信濃ノ國境ニ接近シ其飯繩黒媛戸隠等ノ諸山ト相對峙シテ

特ニ一等ヲ高フス海拔二千四百五十四米突越後國ニアリテハ蓮華等ノ諸山ト其高ヲ争フ一座ノ火山ナリ東京ヨリ出デ、此山ニ登ラントスルニハ上野ヨリ直江津ニ通スル鐵路ニ依リ越後ニ入りテ後田口停車場ニテ下ルヲ便ナリトス田口ヨリ一里程ニシテ二股村アリ此間道路平坦ナラザレモ尙一人曳ノ人車ニテ進ムヲ得ベシ二股ヨリハ路ノ勾配稍々急トナリ人車ハ二人曳ニアラザレバ進ムルヲ得ズ此邊ヨリ已ニ所謂裾野ノ地トナルヲ以テ草木繁茂シ恰モ採集家ヲ歡迎スルモノ、如シ上ルコト半里程土地ヤ、平坦ニシテ一村ヲ落アリ之ヲ赤倉ト云フ夏ノ日ナレバ東京ヲ一番汽車ニテ發スルトキハ黄昏ノ頃此地ニ達スルヲ得ベシ赤倉ニハ湯院七八戸アリ溫泉ハ二里餘ヲ隔テタル山中ヨリ導キ來ル他ニ民家二十餘戸モアルベシ土地已ニ高ク四顧スルニ物ノ遮ギルナシ信越ノ峰巒日本海ノ舟船歷々トシテ指點スベシ加フルニ夏期ハ越後ノ人士多ク來リ浴スルヲ以テ山間ノ僻地ナリト雖諸事便宜ヲ欠カズ採集家此ニ滯留シテ緩々其獲物ヲ處置スルノ便アリ

余ノ始メテ赤倉ニ到リタルハ七月二十五日ナリ先ヅ土地ノ摸樣ヲ尋マルニ山麓ニ沿ヒ三里ヲ隔テタル所ニ苗名(土地ノ人ハ「ナヤ」ト云フ)ノ瀑布アリト云フヲ以テ裾野ノ植物ヲ採集スル旁瀑布ヲ觀ント思ヒ翌二十六日味爽導者ヲ雇ヒ赤倉ヲ發セリ妙高山ニ對シテ左折シ其山麓ヲ繞リテ進ムニきささやう、こうりんくわ、きやうがのこ、いわうさう、どりわしとようま、ごぼうし、やぐるまさうノ類雜然妍發只採集ノ樂シキヲ覺ヘ其苦ヲ思ハザラシムやまかもじぐさ、たかねかうぼう、おほいたどり、あかももの、やまこてつ等ヲ採集シ二里程ニシテ一村ニ達ス杉ノ澤ト云フ此ニ小憩シテ發ズ此邊ニ到レバ平原已ニ盡キテ山漸ク近ヅキ溪モ亦來リ迫ルコトにわたりヲ採リねびがらいちごヲ採リしらひげさうヲ採リ急流ノ岸ニ沿フテ進ム此溪ハ所謂關川ノ源ヲナスモノナリ已ニシテ路漸ク盡ク溪流ノ淺所ヲ涉リ巖角樹根ヲ攀ヂテ進ムコト兩三町忽チ瀑布ヲ前面ニ見ル是

レ苗名ノ瀑ニシテ舊記ニハ其高サ十丈ト稱スルアリ又十八丈ト傳フルモノアリ精密ニ之ヲ知ルニ由ナシト雖一見スレバ日光ノ霧降瀑ニ匹敵スルノ觀アリ之ヨリ一町程進メバ瀧壺ノ縁邊ニ達ス此邊樹木雜生あさのはかへで、うりはだかへで、ひめやしやぶし、まんさく等ヲ得又うすゆきさう、これにゆり等ヲ得タリ此瀑布ハ杉ノ澤ヨリ凡ツ一里ヲ隔ツ其溪流ハ妙高黒媛兩山ノ間ヨリ出テ實ニ信越兩國ノ境ヲナスモノナリ此ニ述ルモノハ第一ノ瀑布ニシテ上流ニハ尙第二第三ノ瀑布アリト聞ケドモ之ヲ窮メズシテ去リ日暮赤倉ニ歸着ス

翌二十七日妙高ノ本山ニ登ラント期シ午前七時復々導者ヲ倩フテ發ス此夜ハ山中ニ一宿スルノ必要アルヲ以テ預メ二日分ノ食物其他蠟燭等ヲ用意セリ(此山ノ高所ハ水ニ乏シキヲ以テ登山者ハ水ヲ用意スレバ更ニ便ナリ)赤倉ヨリ登山スルニ三路アリ一ハ本道ナレドモ荒廢シテ人多ク之ニ因ラズト云フ一ハ本道ノ左方ニアリテ燒ケ山ト稱スル所ヨリ温泉ヲ導キ來ル樋ノ通ズル路ナリ更ニ他ノ一路ハ本道ノ右方ニアリテ元湯ト稱スル湯源ヨリ温泉ヲ導キ來ル路ナリ此三路トモ絶頂ヨリ一里程下ニテ相合ス余ハ左方ノ路ヲ取レリ湯樋ニ沿フテ登ルヲ以テ常ニ温泉ノ泱々トシテ流ル、ヲ聞ク此山ハ概シテ樹木鬱葱ノ境ニ乏シト雖草本灌木能ク繁茂シテマ、喬木ヲ雜ユ前日經過シタル裾野ニ比スレバ採集ノ興味數倍シ來ルヲ覺ユ少シク平坦ノ地ヲ得テ小憩ス其名ヲヤセト云フ更ニ少シク進メバ稍廣キ山路ニ會ス是レ近時燒山ヨリ採掘スル硫黃ヲ運搬スル爲ニ開クト云フ行々ひめもち、こしあぶら、たむしび等ヲ採集シ又一處ニ小憩ス之ヲタキサハト云フ之ヨリ路ノ傾斜漸次ニ増加シ來リ加フルニ雨モ亦降り來ルヲ以テ頗ル登陟ニ艱メリ午后三時山小屋ニ達ス途中得ル所ちやうじぎく、しらねわらび、ねほひきおこし、ひとつばよもぎ、たまがはほどとぎす、さんざしばのいちご等アリ又しろばなしやうじやうばかまノ葉ノ上面ノ尖端ニ近キ部ニ小芽ヲ生ジ居ルモノヲ得タリ此山小屋ハ赤倉ヲ距

ルコト凡ソ二里焼山ヲ距ルコト八町余ナリト云フ是レ硫黄採掘者ノ來リ宿スル爲ニ設ケラレタルモノナリ此邊ニハ清泉アリ又温泉モ得ラル、ナリテ宿スルニ便ナリ夜間雨止ム四顧寂寥唯風水ノ聲ヲ聞クノミ山氣清冷肌膚ニ透ル殆ト身ノ人世ニ在ルヲ覺ヘズ

二十八日午前七時山小屋ヲ發ス少シク平坦ノ路ヲ進ムニ濕沍ノ地アリもうせんごけ、みづばせう等ノ多ク生ズルヲ見ル之ヨリ「タニアヒ」チ上リ行ク勾配甚ダ急ナリくまざと兩崖ヨリ叢生シ恰モ隧道ノ中チ上リ行ク如シ此さゝハ花又ハ實チ着クルモノアリ又五月ノ頃ハ筍チ生シテ食用ニ適スト云フ此邊多ク水晶蘭チ生ズもみぢからまつモ亦多シ數町ニシテ「タニアヒ」チ上リ盡セバ他ノ山路ニ會ス當山ニ登ル三路此ニ至リテ一條トナル之ヨリ復たくまざとノ間チ上リ行キ行々採集スルモノ亦少ナカラズ已ニシテ平坦ノ地アリ小池チ見ル周圍一町ニモ充タザルベシ水極メテ淺シ而シテ清淨ナラズ池邊いはちぢふチ叢生ス其花ニハ雄蕊ノ雌蕊ヨリ長キモノト否ルモノト兩形アルチ認ム勿論異形ノ花ハ異株ニ生ジ同株中ニ兩形ノ花アルニアラズサレモ是レ勿々ノ際ニ觀察シタルニ過ギズ更ニ精檢ヲ要スルナリ又池邊ニハこひげゐ、ぬまはりゐ、等チ生ズルチ見ル此チ高禪寺(文字疑ハシ)ノ池ト云フ之ヨリ復たくまざとノ中チ上ルしろばなへびいちで、こみやまりんだう、みやまぬかぼしさう等チ得タリ又ひめしやじんチ採ルニ花冠ノ縁ハ五六七八等種々ノ裂片チ成スモノアリ又花はみぢはとづさチ採ル其柱頭ノ二裂片ハ刺戟ニ遇ヘバ相合スルコト先輩諸氏ノ説ク所ニ違ハズ此邊路傍ニ二三ノ小穴チ見ル冷氣蓬々其中ヨリ出ヅ之チ風穴ト云フ漸クニシテくまざと盡ク前面石壁アリ高サ數丈傾斜極メテ急ナリ鉄索一條チ懸ク之ニ緣リテ僅ニ上ルチ得之チ義仲ノ馬返ト云フ石面ニつがざくら多シ少シク上レバ路ハ兩大石ノ中間チ過グ此所チオヒプリト云フ(巡拜者ノ笈チ摩スルノ義)之ヨリ上レバ禿山ニ出ヅ燒ケ

石散亂シ植物大ニ滅ズ沙礫ノ間ニ肉蓯蓉アリ明ニ他ノ植物ノ根ニ寄生スルヲ見ル其根ヲ追跡スルコト七尺余ニシテみやまはんのきニ達ス即其寄主ナリ是レ亦先輩諸氏ノ説ク所ニ符合ス此根ニ寄生シ居タル肉蓯蓉ハ數株アリテ發育ノ度モ一樣ナラズ己ニ開花シタルモノヨリ尙砂中ニ埋マリ居ル指頭大ノモノニ至ルマデ數段階ヲ有セリ且此根ニハ別ニ葡萄狀ノ小塊アルヲ認ム是レ菌類ノ寄生ニ因ルモノニシテ其菌ハ *Frankia* 屬ノモノナリト(學友野村氏ノ判スル所ナリ)此邊こめすゝきいはひげ、こめばつがざくら等多ク生ズ正午ニ近ヅキテ頂上ニ達ス此ニ小祠アリ祭ル所何ノ神ナルヲ知ラズ舊記ニ云フ妙高山ニ阿彌陀尊ヲ安置ス旭將軍ノ守護佛ニシテ七月二十六日ハ其賽日ナリ近郷ノ人夜ヲ侵シテ登山シ之ニ賽スト祠側ニ巨巖アリ胎内石ト云フ石罅ニ水氣アリ微滴ヲナシテ下ル銅盤ヲ以テ之ヲ承ク以テ登山者ノ飲ムニ供ス然レドモ盤底半ハ乾キ其水以テ渴ヲ醫スルニ足ラザリキ此邊ニうらじろたで、みやまはたざほ、たうやくりんたう等多シ

絶頂ハ快晴ノ日ニ逢ヘバ眺望絶佳ナリト稱スレドモ余ノ上リタルトキハ雲湧キ雨洒ギ雷鳴モ亦加ハリタルヲ以テ數間先キハ物ヲ辨スルヲ得サル程ナリキ絶頂ヲ越ヘテ進ムトキハ所謂奥山ニ出ヅ此ニ至リテ山ノ光景一變ス屋大ノ巨巖交錯散亂シテ土砂極メテ少ナシ巖石ノ相接スル處ニハ苔蘚雜草ヲ生ズルヲ以テ僅ニ歩シテ度ルヲ得ルト雖往々重サヲ支フルニ堪ヘズ脚ヲ承クレバ直ニ陷入スル所アリ而シテ一步ヲ失スレバ巨石ノ間ニ墜落シ去ルヲ免レズ處々はひまつノ蟠偃スルアリ石楠ノ白花ヲ開クアリ又崖陰ニハ殘雪未ダ消ヘズいはかがみ、みつばわうれん、べにはないちぢノ類雜然花ヲ開キ雪ト相映ズ山中ノ清趣之ニ加フルナカルベシ又きぬがささう、まめざくら等ヲ得タリ時已ニ二時割愛シテ奥山ヲ去ル之ヨリ登山ノトキト同シ路ヲ下ルコト一里餘ニシテ今朝「タニアヒ」ヲ上リ盡シタル所ニ達ス此邊ハ所謂妙高ノ前山ノ頂ニ當ルナリ己ニシテ雨漸ク止ム之

ヨリ左折シテ來時トハ異ナリタル路ニ入りテ溪間ヲ下リ河原ニ出ヅ此邊處々ニ水ノ出ルアルモ馨氣ヲ帶ルヲ以テ飲ムニ適セズ河原ノ中ニ温泉ノ湧キ出ル所アリ之ヲ元湯ト云フ硫氣甚シ此湯モ亦赤倉ニ導キ來ルモノナリ之ヨリ湯樋ニ沿ヒ山腰ノ小路ニ因リテ行ク其幅一尺ニ充タズ所々草莽人頭ヲ没ス下ルコト一里程左方ニ瀑布ヲ望ム水量少ナシト雖其高サ苗名ノ瀑ト伯仲スル如シ更ニ下ルトキ左方ノ河原中遙カニ板屋數軒ヲ認ム是レツハメト稱スル温泉場ナリ途中いはわうぎ、たうき等ヲ採集シ日暮赤倉ニ達ス

此行妙高山ニテ採集シタル僅々三日間得タル所顯花植物并ニ高等顯花植物ヲ合セテ三百餘種ニ止ル固リ同山植物ノ一班ニ過ギズ今東京近傍ニアリテ綿密ノ採集ヲ經且精細ナル植物目錄ヲ有スル土地ハ日光山ナルベシ其目錄(松村先生著)載スル所無慮一千種ノ多キニ及ベリ試ミニ妙高山採集ノ植物ヲ以テ日光ノ植物ニ比較スルニ目錄中ニ記セザルモノ三十餘種アリ即余ガ採集品ノ一割ニ當レリ元來妙高山ハ其廣サ日光山曠漠ニ比スベキコアラザレドモ精密ニ採集セバ種類モ頗ル多カルベク亦奇品モ少シトセザルベシ今日光目錄ニナシテ此山ニ得タルモノハ次ニ記スル如キ諸種ナリトス

コタニワタリ◎ ヤマカモジグサ◎ ミツバセウ◎ コヒゲ井◎ キヌガササウ◎ オホバタケシマラン◎ ハクサンチドリ◎ オヒヤウニレ◎ オホバクロモジ◎ ウラジロタデ◎ オホイタドリ◎ イブキヂヤカウサウ◎ オホヒキオコシ◎ ヨツバシホガマギク◎ ミヤマコゴメグサ◎ イハイチエフ◎ コミヤマリンタウ◎ キキヤウ◎ チヤウジギク◎ ツルアリトホシ◎ タウキ◎ アラシグサ◎ シラヒゲサウ◎ ベニバナイチゴ◎ サンザシバナイチゴ◎ イハワウギ◎ ヒメモチ◎ ミヤマハタザホ◎ ハタザホ◎ タムシバ◎ モミヂカラマツ◎ 等ナリ

余ガ採集品ヲ整頓スルニ方リ牧野富太郎君ノ鑑定ヲ乞フコト多シ是レ深ク同君ニ謝スル所ナリ

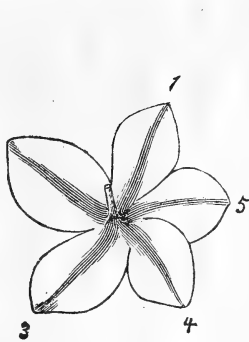
蕎麥ノ研究一斑 (承前)

市村塘

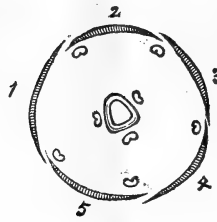
借復タ花部ノ内狀如何ヲ檢スルニ其中央ニ子房アリテ通常三柱頭ヲ具ヘ三本ノ雄藥交互ニ之ヲ圍繞ス此三本ハ花粉ヲ以テ被包セラル、面ヲ外方ニ向クト雖モ外輪ニ位スル五本ノ雄藥ハ各花粉放漏面ヲ内方ニ向ケルガ如シ而シテ内雄藥ト外雄藥ノ間及ビ外雄藥自身ノ間ニ一種黃橙色ノ圓体アリ是蜜液ヲ分泌スル腺ニ外ナラズ名テ蜜槽ト云フ其數都合八箇ナリ蓋シ授精媒介者タル昆蟲ヲ吸引センガ爲ナラズンバアラズ

外雄藥五本ハ花蓋ヲ摘去スルト同時ニ之ニ伴フテ脫離スルモノニシテ内雄藥三本ハ尙依然中央ノ雌柱基底ニ附着シ殘ルモノトス何レモ隔壁アル帶紅色ノ小囊ヲ其頂上ニ具有シ内部ニ黃色ノ粉粒充滿ス總テ之ヲ葯ト云フ是開花後間ナクシテ内容粉粒未ダ熟セズ葯囊面上平滑ニシテ裂孔ノ期到ラザルノ時ナリ然レモ漸ク豐熟スレハ縱切截ヲ生ジ黃粒其勢ヲ逞フシ將ニ舊巢ヲ遁出セントスルノ有様ニ達ス終ニ葯囊ノ半面ハ一瞥黃色ヲ呈スベシ何ゾ知ラン是ゾ成熟セル花粉ナラントハ葯ノ紅色後變シテ黃色ト成ルハ固ヨリ之ガ爲ノミ折角ノ熟花粉若シ此儘ニ果テナバ頓ンダ馬鹿ヲ見ル所ナランニ天公之ヲ棄テ給ハズ其着點ニ蜜槽ヲ作り蜜蜂、黃蜂、蟻、油蟲等ヲシテ吸蜜スル際不知不識黃粒ノ花粉ヲ運搬シテ他花ノ柱頭ニ送致セシム豈ニ亦靈妙ナラズヤ左レバ如何ニシテ送致スルカヲ述ブル前ニ當リ聊カ雌藥及ビ花器諸部排置ノ關係ニ就テ一言ヲ吐露シ置クベシ

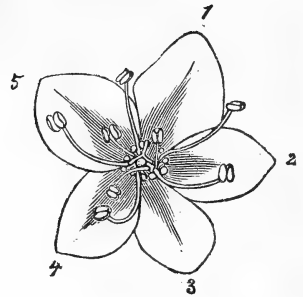
今花蓋ト雄藥トヲ剝離セバ殘ルハ唯中央ニ位スル雌器ノミナリ之ハ子房、花柱、柱頭ノ三部ヨリ成リ子房ハ小壺狀ノ綠色三角体ニシテ角縁ト交互ニ雄藥ヲ其基底ニ於テ着生ス各面ハ明ラカニ將來ノ種皮トナルベキ部分ナリ此縱斷面ヲ見レハ内ニ一個ノ胚珠アリテ直生セン是蓼科ノ特性ニシテ殊ニ蕎麥ニ於テ顯著タリ勿論胚珠ヲ藏スル室ハ一ニシテ子房上位、心皮三枚相癒合シテ房皮ヲ形成ス後ニ三角体ノ堅果ヲ結ブモ亦偶然



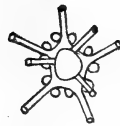
(乙)



(丙)



(甲)



(丁)

甲、花部表面、

花蓋、雌藥、雄藥、蜜槽ヲ示ス

乙、全上裏面、

丙、全上花式、

丁、子房、雄藥、蜜槽ノ排置

ナランヤ而シテ花柱ハ其頂點ヨリ起リ通常三本稀

ニ四本ヲ斜出スルコアリ然レモ長サ二、五ミ、メ乃

至五ミ、メヲ越ヘズ花粉管ハ其疎弛組織ヲ攢迫シ

テ遂ニ子房内ノ胚珠嚢ニ着達シ得ルナリ花柱ノ先

端ハ所謂柱頭ニシテ外部顆粒ヨリ成レル一種ノ團

塊ヲ形成ス如斯ク其面平滑ナラザルノミカ多少

粘質ヲ帶ブル所以ノモノハ花粉ノ一旦柱頭ニ落

着シタルヲ容易ニ離散セシメザルニアルヤ言ヲ

待タズ

概論スレハ蕎麥ノ花ハ雌藥雄藥ヲ同一花ニ具フル

雌雄兩全花ニシテ花形ハ放射平等トス花蓋ハ三乃

至六瓣ヨリ成リ雄藥ノ數ハ六乃至九本ナリ尙花器

諸部排置ノ關係、花蓋ノ鑷合狀ヲナセル順序、雄

藥ノ雌藥ヲ圍繞スル情態等ノ如何ハ圖及ヒ圖解ニ

讓リ敢テ秃筆ヲ弄セザルベシ實ハ花ノ大サ直徑平

均八ミ、メ、ニ過ギサレモ内部諸機關ヲ分明ナラシ

メンガ爲ニ四倍廓大シテ之ヲ示セリ

抑モ該花ニ二變形アリ曰ク雌藥ノ短ナルモノ曰ク雌藥ノ長ナルモノ是ナリ前者ニアリテハ雄藥ノ長サニ、五ミ、メ、ナレド雌藥ハ纔カニ二、五ミ、メ、ニ過ギス然レモ後者ニアリテハ雄藥ノ長サハ大差ナシト雌藥ハ非常ニ延長シテ四乃至五ミ、メ、ニ達ス斯カル同種植物ニスラ變形ヲ來シタル理由ハ吸蜜ノ爲ニ訪問スル昆蟲ヲ利用シテ畢竟自花授精ヲ避ケシムルニ歸セサル可カラズ其作用ノ行ハル、模様ヲ看ルニ先ヅ夫ノ蜂蜜 (Apimellifera, L.) ノ短雌藥花ニ翔ビ付クヤ自己ノ胸部及ビ腹部ヲ雄藥ニ適合セシメ頭部ヲ之ト雌藥ノ間ニ挿入シ吸唇ヲ蜜槽中ニ刺入スルガ如シ今度更ニ長雌藥花ヲ窺伺スレバ花粉散亂タル胸部及ビ腹部ヲバ最初、雌藥ニ觸緊セシメ後頭部ヲ之ト雄藥間ニ推入シ吸蜜スルヲ前ト異ナラズ昆蟲ハ一体眼ニ立ツ所ニ身ヲ定メルヲシ、唯渠ノ目的ハ吸蜜ニアルナレド自然ニ好都合ノ授精ヲナサシム奇巧亦極マレリト謂フベシ

雄藥ノ主部ナル葯ハ未ダ熟セザルニ當テヤ赤紅色ヲ帯ビ頗ル美麗ナリ然レモ期到レバ縱線裂開ヲナシ内ヨリ花粉ヲ放出スルヲ以テ黃花トハナルナリ此顆粒ヲ顯微鏡下ニ照セバ其周圍ハ一樣ニ微凸起ヲ具有スルヲ見ン是蟲媒植物 (Zoitiophyllus plant.) ノ特性ニシテ容易ニ他物ニ附着シ得セシムル爲ト知ラル共大サハ短雌藥花ト長雌藥花トニヨリ異ナルベケレモ概ネ〇、〇〇六一ミ、メ、ニ過ギズ

以上吾人ノ論シ去リタル所ハ唯蕎麥ノ疎略ナル解剖ニシテ單ニ肉眼ヲ以テ見易キ形狀及ビ構造ニ關スルヲニ過ギズ換言スレバ僅カニ形態學ノ一斑ヲ窺ヒシニ止マルガ故ニ此植物ヲ一個ノ死物模形標本視シタリト云フモ可ナリ余輩豈ニ是丈ニテ満足スベケンヤ須ラク一生活体トシテ其生理的概論ヲモナサミルベカラズ蓋シ吾人ハ業ニ述ベタル植物ノ複雑構造機關ハ何ノ爲ニナルヤノ問題ニ應ヘントスルニアルナリ

黒岩恒氏採集琉球植物 (承前)

牧野富太郎

Mr. Hisashi Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants.

(Continued from No. 96.)

By Tomitarō Makino.

(19) *Carpesium flossophyllum* Maxim. (Sect. *Conyzoides* DC.)

こやぶたばこ

(さく科)

高サ二尺以上ニ達シ本莖ハ直立シ上部ニ枝極チ分チ莖面ニ毛ヲ布ケリ葉

ハ線狀長橢圓形ヲ常トシ有柄、互生、狹底、銳頭、小疎齒縁ニシテ兩面ニ軟毛ヲ被ル小頭花ハ硬直ナル
枝頭ニ頂生、獨在シテ且ツ點頭シ略、圓キ鐘狀ヲ成シ三分許ノ徑アリ花托平區、總苞鱗次シ最外ノ者ハ
葉狀ヲ成シ之ニ次グ者漸ク縮形シテ鱗狀ト成リ内部ノ者ハ鈍頭、篋狀舌形、略、硬質、膜縁、滑澤ニシテ

上部ノ邊縁ニ碎齒痕アリ小花ハ饒多細小ニシテ花冠ハ線形ヲ成セル子房ヨリ短シ兩全小花(♀)ハ其花冠
下部狹窄セル鐘狀ニシテ五裂シ裂片ハ花冠ノ四分一長アリテ稍、長キ二角形ヲ成シ銳頭ニシテ尖端稍、

厚シ而シテ裂片ノ外側面ニハ細微ナル腺粒ヲ附着ス雄蕊五數花冠筒ノ下部ヨリ出テ花絲ハ略、葯ト同長、
葯ハ少シク高ク花冠ヨリ超出ノ所謂聚成葯ヲ成シ葯胞ノ下端ハ菲薄片ト成リテ延出ス花柱ハ直ニノ直立

シ柱頭兩岐ノ篋狀舌形ヲ成ス而シテ聚成葯ヨリ稍、高シ雌性小花(♀)ノ花冠ハ下部狹窄セル長橢圓狀壺形
ニノ五齒縁ヲ成シ齒外面ニ細腺粒アリ花柱直立シヤ狀柱頭ハ花冠ヨリ高シ瘦果ハ線形ニシテ表面縱ニ線條
ヲ引キ上部ハ狹窄ノ嘴狀ト成リ其周圍ニ腺毛ヲ纏フ ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、

第一回ノ第十六號り) ○該種ハ未ダ帝國版圖ノ外ニ産スルヲ知ラズ内地ニ在テハ九州四國并ニ本州ヲ
通シテ之ヲ見ル

(20) Japonice: Irohanori.

スろはのき(新稱) (何科ニ屬ス可キ乎)

灌木本ナラン歟枝ハ圓柱形、瘦長、嫩枝ニハ短軟毛ヲ密生ス然レ老成セバ直ニ無毛ト成ル葉ハ略々對生シテ三分許ノ葉柄ヲ具フ葉面ハ廣キ長楕圓形、全邊、淺心臟底ニノ頂端ハ短ク狹出シ鈍頭ヲ成ス略々硬質ニシテ厚カラズ支脈ハ中脈ノ兩側ニ各々六七條ヲ斜出シ緩ク彎曲シ細脈ハ支脈ノ間隙地ニ網狀ヲ結成ス嫩葉ハ脈上ニ毛ヲ帶ビ殊ニ脈腋ニ在テハ老葉ト雖レ尙ホ毛ヲ具フ諦視セバ葉ノ表面ニ微細點ヲ滿布シ裏面亦此細點アリ以テ鏡下ニ其粗糙面ヲ窺フ可シ ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第十七號) ○予ガ眼ニ新シキ本品ハ不幸ニ其唯一ノ標品ニ花實ヲ具ヘズ故ニ今其所屬ノ科名ダモ之ヲ知ルニ由ナシ予ハ更ニ完備セル標品ノ到ルヲ俟ツテ之ヲ檢定センコト期スルナリ田代安定氏該標品ヲ見テ曰ク是レ土名まゝやゝぎ(猫木ノ義)ナランまゝやゝぎハ大戦科中 Phyllanthus 屬中ノ一植物ナリト姑ク記シテ參考ニ資ス

(21) *Pycnus polystachyus* Beauv. (= *Cyperus polystachyus* R. Br.; *Cyperus odoratus* Linn.; *Cyperus fascicularis* Lam.; *Cyperus caespitosus*, Poir.; *Cyperus subulatus* R. Br.; *Cyperus brixianus* Presl; *Cyperus Sonderi* Schmidt; *Cyperus terekifrutus* Steud.; *Cyperus strigosus* Wight; *Cyperus corymbosus* Roxb.; *Cyperus filiformis* Heyne; *Cyperus bicarinatus* Heyne.)

しがやとり

(かやとりぐさ科)

一年生、根ハ鬚狀、莖ハ直立ノ數條科生シ下部ニ三四數ノ葉ヲ

具ヘ高凡ソ四寸ヨリ二尺ニ達シ細長ニノ三稜ヲ有シ稜上滑澤ナリ葉ハ通常莖ヨリ短クノ狹線形ヲ成シ隆起セル一條ノ背脊ヲ有シ上端ハ長ク尖リ下部ハ長キ鞘ヲ成シ莖ヲ包メリ葉縁滑澤ニシテ唯々尖端ノ兩邊

并ニ同部ノ背脊上ニ微齒ヲ疎列スル(即チ糙澁)ヲ認ム可シ苞葉ハ通常五六條ニシテ平開シ細線狀ナリ而シテ最外ノ者最モ長ク花序ニ數倍ス繖梗ハ數個ニシテ短ク短縮シ下方ノ者ハ時ニ往々長ク出デ、此ニ複繖狀ヲ成形スルモノアリ(内地産ノ者此狀態ヲ具スルコト多シ)梗ノ基脚ニ膜質ノ卷鞘ヲ具フ穗体ハ多數聚合シ相簇テ頭狀ヲ成ス小穗ハ平區、廣線形、鈍頭ニシテ約ソ十四—二十個許ノ小花ヲ有シ小軸ハ直クシテ曲折シ稜アリ兩側ニ菲薄ナル狹膜翼ヲ具フ穎ハ兩列シテ相接近シ覆瓦狀ト成リ各片藁色ニシテ表面紅染ス廣卵形ニシテ微尖頭ヲ有シ兩邊相疊ンデ舟狀ヲ成シ以テ穎果ヲ包ム兩邊薄質ニシテ龍骨部ハ三脈相接シ稍、厚クシテ且ツ綠色ヲ帶ブ雄蕊二數、葯ハ尖頭無ク線狀長橢圓形ニシテ底着シ花絲ハ絲狀ヲナシ上方稍、平區ノ薄ク葯ヨリ長シ子房ハ長橢圓形ニシテ兩側平區略、花柱ト同長ナリ花柱ハ菲弱ナル絲狀ヲ成シ柱頭兩岐シ亦絲狀ニシテ長ク花柱ト相均シ而シ穎外ニ超出ス穎果ハ穎ノ半長アリテ長橢圓形ヲ成シ兩側面ヨリ壓匾シ無柄ニシテ底部狹穿シ頭端ハ平截セラレテ花柱ニ連ル處微ニ突出ス暗質ニシテ表面ハ透明ナル殼質ヲ成シ稍、糙澁ス頭ニハ枯澁セル花柱ヲ戴ケリ ○石垣島四箇村原中(明治廿五年八月九日黑岩恒氏採、第一回ノ第十八號)

○全世界ノ溫熱地方ヲ通ジテ沿ク之ヲ産シ殊ニ瀕海ノ地ニ生ズ本邦内地亦之ヲ産スルノ地ニ乏シカラズ

○從來多クノ學者本品ヲ以テ *Christiano Friis Rottböll* 氏著 *Descriptions et Icones Plantarum.* (西曆一千七百八十六年鏤版) 中ニ圖說セル *Cyperus Polystachyos Rottb.* ニ充テ入シシ其名ヲ以テ此植物ヲ呼ビタリキ近由 *C. B. Clarke* 氏 *J. D. Hooker* 氏著 *The Flora of British India.* 中ノ *かや(り)ぐさ科* ナリ記述スルニ當リ馴致セル舊套ヲ踏襲セズ *Rottböll* 氏ノ植物ヲ以テ本品ト全ク別ナリト爲シ *Cyperus subcapitatus Clarke.* ナリテ或ハ其品ナラント說ケリ *Rottböll* 氏ハ植物ノ形狀ヲ記シテ “*STAMINA 3.*

PISTILLUM. Germen oblongum, triquetrum. Stylus unicus. Stigmata 3 reflexa. SEMEN oblongum, subtriquetrum," ト曰ク且ツ圖上ニ稜穎果、ニ岐柱頭タル以テ見ル可シ明カニシガどやつりト異ナルヲ以テ今日 C. B. Clarke 氏ノ説アル敢テ恠ムニ足ラザルナリ予ハ今同氏ノ新案ニ左袒シ聊カ此ニ所思ヲ附記スルヲ爾リ

(22) Graminea spec. Japonice: Tashiroyoshi.

たしろよし(新稱) いりふもてたけ(田代安定氏)

(禾本科)

根ハ鬚狀、強壯、堅硬、分枝、莖幹

ハ叢生シ高サ數尺ニ達ス徑一分餘ノ者アリ圓柱形ナル管狀ニノ堅硬光澤ヲ帶ブ其狀竹ニ類ス節ハ高カラズ節上ニ枝ヲ分チ枝ハ一―四條集着シ而シ細長ナリ葉ハ枝上ニ兩列シ線狀披針形ニノ三寸―四寸五分餘ノ長、一分五厘―二分ノ幅アリ略シ革質、下底ハ狹窄シ上部ハ延長ノ長銳尖頭ヲ成シ縁邊ハ滑澤ナリト雖モ嫩葉ハ微々糙澁ス葉脈ハ極メテ精細ニノ縱ニ相接シ平行シ表面ニ隆起セリ而シ裏面ハ帶白色ナリ小舌ハ短ク其背面ノ下ヨリ稍シ長キ白軟毛ヲ生ゼリ葉鞘ハ莖ヲ包ミ縱脈並行ス幹ハ枯殘セル葉鞘ヲ伴フヲ常トス花穗ハ頂生シ稍シ長キ圓錐形ニノ五六寸ノ長アリ枝梗ハ穗軸ノ節上ニ二個ヲ分チ枝梗ハ更ニ小枝梗ヲ疎出シ小枝梗ハ再ビ疎々ニ細梗ヲ分テ瘦穗ヲ成シ穎花ヲ其細梗ノ上ニ着ク梗ハ總テ鬚狀ナリ最外ノ穎ハ舟狀披針形ヲ成シ薄膜質ニノ五條脈アリ小軸ハ節ヲ有シ節ハ少シク高シ而シ一モ毛ヲ有スルヲ無シ

○入表島仲間村山中(明治廿五年八月十四日黒岩恒氏採、第一回ノ第十九號) ○本品ハ蓋シ Poaceae 族中ノ一屬ニ屬スル一種ナル可シト雖モ然レモ予ノ標品ニハ花ヲ有セズ又理科大學ニ藏セル田代安定氏ノ採品ニハ葉間唯枯殘セル花穗アルノミナルヲ以テ此ニ花狀ヲ詳悉スルヲ能ハズ從フテ其屬名ダモ之ヲ認

ムルニ由ナシ ○田代安定氏先キニ本品ヲ見出シ命ズルニいりおもてたけナル名稱ヲ以テス然レモ此品タル固ト竹類ニ非ズノ其天籍寧ロよし屬等ノ隸セル一族類ニ邇シ故ニ今竹類トノ混淆ヲ避ケンガ爲メニ其名稱ヲ改メ始メテ之ヲ採收セラレタル田代氏ノ姓ヲ冠セシメテ此ニカシロよしナル紀念名ヲ案出シ以テ之レガ呼稱ト爲セリ

(未完)

日本藥局方植物篇(前號ノ續キ)

澤田駒次郎

第九十六號正誤第六十行廿三字目テノ下舊ノ字ヲ脱ス

收穫 第六月開花スルニ方リ華本ヲ採集シ乾燥シテ貯藏ス英國藥局方ニハ新鮮ナルトキ華本ヨリ花ヲ摘取シテ乾燥シ或ハ食鹽ヲ混和シテ貯藏シ接骨木花水ノ製造用ニ供ス醫藥ニハ接骨木花水ノミヲ用フ

接骨木花ヲ醃藏スルニハ桶類ニ花ヲ詰メ其上ニ食鹽ヲ散布シ更ニ花ヲ並べ其上ニ食鹽ヲ散布シ花ノ層ト食鹽ノ層ト交互ニ堆積シテ數層ト爲シ壓ヲ施シ密閉シテ貯フト又乾燥シテ貯フルニハ華本ヲ採集シ堆積シテ暫時放置シ之ヲ搖動シ或ハ摩擦シ又ハ篩過スレハ花冠熱蒸シテ脆弱ト爲ルニ因リ輒ク脫離ス然ル後速ニ乾燥ス純良ナル接骨木花水ハ清朗ニシテ大氣乾燥ノ日ニ採集シ速ニ乾燥セシ花ヨリ製造スト云フ

性狀 新鮮ナル花ハ細小ニシテ其花冠白色ヲ呈シ一種特異ノ香氣ヲ有シ花ノ基礎部ニ二箇ノ墜落性ノ葉ヲ具ヘ基礎ハ下立性ニシテ三房ヲ有シ各房一箇ノ卵子ヲ懸生シ花柱矮短肥大シ三箇ノ柱頭ヲ有ス雄藥五箇花冠ニ附着シ葯ハ外向ニシテ上下凹陷シ其背部ノ中央ニ於テ花絲ノ頂端ニ附着ス乾燥ノ花ハ皺紋ヲ有シ濃褐黃色ヲ呈シ一種ノ香氣ヲ有スト雖モ生鮮ナル花ニ比スレバ稍々異ナリ味ハ苦クシテ稍々護謨ニ類似ス舊日本藥局方

云接骨木花ハ五穗ニ支分セル平頭有梗穗花ニシテ各花ノ萼ハ五齒、花冠ハ五瓣ヲ有シ五箇ノ雄蕊アリ乾燥シタル花冠ハ大ニ萎縮シテ黄色ヲ呈ス香氣ハ特異微弱ニシテ味ハ著シカラス
其褐色ナル品ハ供用ス可カラスト生藥學曰接骨木花ハ新鮮ナル時ハ白色ナレモ乾燥セシムルニ當リ大ニ萎縮シテ黄色トナル

接骨木花ハ之ヲ乾燥セシムル時ハ其香氣愈々較著ニ發生ス其味ハ粘液性ニシテ微ニ甘ク後稍々苛辣ナリ、満開ノ季節晴天ニ乗シテ採集シ直ニ日光ニ直露シテ乾燥スルヲ要ス蓋シ異色ヲ呈スルノ虞アレバナリ藥用ニハ莖軸ヲ除去シテ用ユベシトアリ

成分 接骨木花ノ成分ハ未ダ詳カナラズ此花ヲ蒸餾スレバ大約〇、〇二五ノ揮發油ヲ生ス此油ハ無色ニシテ牛酪様ヲ爲シ生鮮ナル花ニ固有ノ香氣ヲ有スルコト強烈ナリ而シテ其比重ハ水ヨリモ輕ク大氣ニ接觸スレハ輒ク分解シ零度ニ在テハ凝固シテ結晶シ極メテ高度ノ熔融點ヲ有ス

醫治効用 緩和ナル興奮劑及ヒ發汗劑トシ應用ス〇生鮮ノモノヲ多量ニ用フレバ惡心ヲ起シ下痢ヲ生ス〇此藥蒸湯藥或ハ敷藥ト爲シ傷麻望斯、潰瘍等疼痛ノ局部ニ用ヒテ効驗アリ又接骨木花及ヒ接骨木花水ハ軟膏トナシ瘀衝ノ局部ニ用ヒテ冷却スルノ効アリ然レトモ目下民間藥トナシテ用フルノミニシテ治療家ハ之ヲ用フルコト無シ

(以下次號)

莊内産顯花植物

川上 瀧 彌

莊内植物ノ世ニ明カナルモノ極メテ尠ク強テ之ヲ需ムル時ハ本誌及日本植物圖解ニ於テ矢田部博士ノ記述サ

莊内産顯花植物

レタル數種及中村正雄氏ノ莊内植物一班ト顯セル月山採集品ヲ列記サレタルモノアルニ過キス莊内ノ地狹シト雖モ尙三郡アリ(羽前國東西田川郡)北東南ノ三方山ヲ負ヒ鳥海ノ山北ニ峙チ月山ノ峯東ニ聳ヘ西一帯日本海ニ臨ミ間ニ平野廣ク潤ケ川河貫流ス地域廣カラザルモ此地景アリ豈多少採ルベキノ植物ナカランヤ然ルニ土地僻遠ノ故ヲ以テ深ク學者ノ注意ヲ引ク能ハザルハ予ノ私カニ憾ミトスル所ナリ往年矢田部博士ノ一行鳥海月山ヲ跋涉セラレ多クノ標品ヲ集メラレタルヲ聞ク而シテ現ニ長澤利英中村正雄佐藤泉諸氏郷ノ南北ニ在リテ綿密ニ採集セラル、アリ我郷ノ植物錄ハ早晚世ニ公示セラルノ日アル期シテ待ツベキノミ予不肖敢テ自ラ慮ラズ茲ニ予ガ數年集メ來リシ莊内植物目錄ヲ編ミ本誌ヲ汚ス所以ノモノ我郷所産ノ一班ヲ同好ニ報シ并セテ幾分カ先輩諸氏ガ調査ニ資セント欲スルニ外ナラザルナリ唯恐ル予郷ヲ去リテ今遠ク北海ニ在リ爲ニ四時ノ探究ニ便ナク加フルニ淺學調査ノ極メテ疎ナルヲ希クハ其地ニ採集セラル、ノ諸氏予ガ足ラザルヲ補ヒ誤レルヲ訂シ以テ予ガ微志ヲ助ケラレンコトナ

予茲ニ收ムルトコロノ莊内産顯花植物ハ予ノ所有スル膳葉大凡九百種(自生品)ノ目錄ニシテ主ニ予ガ採集セルモノナリト雖モ中村正雄佐藤泉兩氏ノ厚意ニヨリ得タルモノ亦尠カラズ産地中觀音寺、小泉、北俣、青塚ト記スルモノハ概ス佐藤氏ノ寄贈ニ係ルモノニシテ貴重ノ材料ナリ

記載ノ順序ハ理科大學植物標品目錄ニ從ヒ植物名稱殊ニ和名ノ未タ世ニ知レザルモノ等ハ札幌農學校植物品彙ニ據ル即和名中平假名ヲ以テ書シタルモノ是ナリ新稱ト記スルモノハ教授宮部金吾氏ノ命名ニ係ルモノニシテ方言ハ莊内地方ノ稱呼ニシテ予ノ生地松嶺地方ノモノ多シ

此目錄ヲ編ムニ當リ宮部教授ノ懇篤ナル注意ト檢閲ヲ辱フシ德淵永治郎氏ハ常ニ綿密ナル檢索ノ爲メニ繁忙

ナル時間ヲ割愛セラレ特ニ禾本科七十餘種ノ如キハ全ク全氏ノ檢定ヲ仰キシモノナリ又牧野富太郎氏ハ予カ
 質疑ニ對シ懇教ヲ與ヘラレタルハ共ニ深ク感謝スル所ナリ

明治二十七年十二月三十日札幌ニ於テ

- Ranunculaceae.** 1. *Clematis alpina*, Mill. シヤマンシヨウツル 鳥海山—2. *C. apifolia*, DC. ボマン
 ズル 松嶺—3. *C. paniculata*, Th. センリンサウ 大岩川、酒田—4. *C. tubulosa*, Turcz. シサボタン
 松嶺—5. *Thalictrum aquilegifolium*, L. カライツサウ 鳥海山、月山—6. *Th. minus*, L. var. *elatum*,
Leogy. アキカラマツ 升田、松嶺—7. *Th. tuberiferum*, Max. シヤカラムツサウ 金峯山、坂本、月
 山—8. *Anemone altaica*, Fisch. キンザギイチリンサウ 觀音寺、松嶺—9. *A. cernua*, Th. オキナグサ
 ホンキヲ、ケミヤグマ(方言) 觀音寺、松嶺—10. *A. debilis*, Fisch. ロメイチダ 鳥海山—11. *A. Haccida*,
Fr. Schm. ニリンサウ、フツヘラ(方言) 油戸、松嶺—12. *A. Hepatica*, Gort. シスミサウ、ヒキヨリサ
 ウ(方言) 北俵、松嶺—13. *A. japonica*, S. Z. シヤメトギン、マキキキム(方言) 木ノ俵—14. *A. narcis-*
siflora, L. ハツサニチダ 月山、鳥海山—15. *A. Raddaana*, Regel. ウラシニチダ、コイチダサウ
 北俵—16. *Trautvetteria palmata*, Fisch. et Mey. var. *japonica*, Hurlh. ホウチカニマン 月山—17. *Ranun-*
culus acris, L. var. *japonicus*, Max. キンボウタ 平津—18. *R. acris*, L. var. *Steveni*, Regel. マヤキ
 ンボウダ 月山、鳥海山—19. *R. aquatilis*, L. サメバチモ 吉出—20. *R. japonicus*, Langsd. キンチン
 ボタン 松嶺、升田、小泉—21. *R. sceleratus*, L. タガラム 湯田川—22. *Calcha palustris*, L. var. *sibi-*
rica, Regel. ホンノウサウ、チカコト(方言) 月山—23. *Glaucidium palmatum*, S. Z. シトチマンダ、ナ

マホタム(方言) 加茂、鳥海山、松嶺—24. *Coptis anemonefolia*, S. Z. キンバウウレン、ウウレン(方言)
 言) 金峯山、月山、松嶺、常禪寺—25. *C. trifolia*, *Salisb.* ミツバウウレン 月山、鳥海山—26. *Isopyrum*
dicarpon, *Miq.* サバノオ 松嶺、金峯山、湯殿山、鬼坂峠—27. *Aquilegia Buengeriana*, S. Z. ヤマチャ
 ヲキ 松嶺—28. *Aconitum Fischeri*, *Reichb.* トリカブト、アス(方言) 坂本、松嶺、湯殿山、木ノ俣—
 29. *Cimicifuga foetida* L. var. *simplex*, *Hubl.* サラシナシヨウマ 常禪寺

◎ 雜 錄

○植物雜俎

松 村 任 三

米人アレシ新ニ日本ノ車軸藻ヲ研究シ左ノ九種ノ標品ヲ吾人ニ寄贈ス今
 茲ニ此等ノ和名ヲ新定シテ世人ニ紹介シ併セテ氏が研究ノ勞ヲ鳴謝ス

- 一 *Nitella oligospora*, A. Br. ホソフラスモ (新稱)
- 二 *Nitella subnoens*, Allen. ナニフラスモ (新稱)
- 三 *Nitella pulchella*, Allen. フサフラスモ (新稱)
- 四 *Nitella pauciflora*, Allen. ヌサフラスモ (新稱)
- 五 *Nitella orientalis*, Allen. イトフラスモ (新稱)
- 六 *Nitella coronata*, Ziz. オホフラスモ (新稱)
- 七 *Nitella japonica*, Allen. オホフサフラスモ (新稱)
- 八 *Chara gymnopitys*, A. Br. var. *olpia*, A. Br. イハシヤシクモ (新稱)

九 *Chara fragilis*, Desv. カメシヤシクモ (新稱)

○繇條書屋植物雜記 (其十六)

牧 野 富 太 郎

●いぬびはニ關アル事

明治廿五年ノ夏予土佐高知ニ在リ一日青柳橋東ノ五疊山ニ登リ林中ニ一株
 ノいぬびは (*Ficus erecta* Thunb.) ナ見ル本幹枯盡シ地上僅ニ殘株アリ株
 新タニ二三ノ氣條ヲ抽キ高サ各六七尺皆枝ヲ分チ葉ヲ著ケタリ其ノ一本
 ハ其葉狹長本然ノモノト同シカラズ而シテほろばいぬびは (*Ficus erecta*
 Thunb. var. *Sieboldi* King (≡ *F. Sieboldi* Miq.)) ト異ナル所ナシ此現象ハ
 實ニ偶然ニ見ル所ナリト雖モ然モ是ニ由テ以テ此兩品ノ本來種メテ相離
 隔セル品種ニ非ザルヲ知ルニ足ル George King 氏之チいぬびはノ一變種

ト爲ス誠ニ妥當ノ見タルナリ

● *Utricularia vulgaris* L. var. *pilosa* Makino. (nov. var.)

Utricularia vulgaris L. var. *pilosa* Makino. (ノタギキョ) 新變種ナリのためきも(新種)ト云フ未ダ之ヲ東京近郊ニ見ズト雖厄土佐、三河井ニ尾張ハ之レガ産地ニソ實ニ三、尾地方ノためきもハ多クハ之レニ屬スルヲ知ル葉ノ裂片細キヲ髪ノ如ク萼ノ表面ニ毛茸アリ花冠亦然リ是レ即チ主トシためきもト異ナルノ點ナリ詳説ハ後日ヲ期ス

● やちやなき三河ノ野ニ自生ス

やちやなきトシ *Myrica Gale* L. var. *tonnenkoss* Cas. DC. ナシフヤキヤク屬ノ矮灌木ニソ原野濕潤ノ地ニ生ズ本品ノ北海道ニ産スルトハ既ニ世ニ明カナリト雖厄本邦ニ在テ其他ノ産地ハ未タ世人ノ知ル所タラズ昨年晩秋予三河ノ野ニ之ヲ採レリ本品ノ分布殊ニ意外ノ觀アルヲ以テ此ニ之ヲ特筆シ以テ同好ノ士ニ報ズルヲ爾リ

● はいちござくの産地伊豆ニ及ブ

本邦産 *Isachne* 屬ニ兩品アリ一ハ即チ *いぢござく* (*Isachne australis* R. Br.) ナリ隨在普通ニ之ヲ見ル一チ *はいちござく* ト云フ *Isachne Myosotis* Pres. 是ナリ莖匍匐シテ節ヨリ根ヲ下シ葉卵狀披針形ヲ成シテ花穗扶疎タリ此種温暖地ノ産ニソ本邦西南部ハ既ニ之レガ産區タルヲ知レリト雖厄伊豆ヲ以テ其産地ノ一ニ算入スルヲ得シハ實ニ今日ニ在リ吾人ハ是ヨリ以北尙ホ其産地ヲ得ルヤ否ヤ記ソ以テ之ヲ後日ニ驗セント欲ス

● ほんつくと

ほんつくとハ土佐高岡郡岩戸村邊ノ方言ニソ嘗テ同好ノ士土居磯之助氏ノ予ニ告グル所ナリ晚春(ばのみつ)ばつと (*Rhododendron rhombifolium* Miq.) ニ次テ花ヲ放キ土佐ノ野山ヲ裝飾スル者ヲ本品トナス花々葉ニ滿チ緋赤燃ント欲ス花謝セントン嫩葉忽チ出テ三葉枝ニ著キ新緑眼ニ可ナリ此種之ヲ關東ノ地ニ見ズ又之ヲ種樹家ニ得ズ美木未ダ世人ノ識ル所タラズ殊ニ惜ム可シトナス○本品ハ嘗テ之ニ命名シテ之ヲ *Rhododendron shikokianum* Makino. (本誌第六十號日本植物報知第十五)ト云ヘリ唯九州産ナル *Rhododendron Weyrichii* Maxim. (*Rhodod. As. orient. p. 26*) ト異ナル所ハ其葉ノ三出ナルニ在リ然厄ほんつくとニ在テ時ニ内方ノ一葉縮減シ以テ往々タツ二葉ト成リシ者ヲ見ルトアリ *Maximowicz* 氏ノ標品(一ハ五島産一ハ長崎産)或ハ此狀態ヲ具ヘシ者ニ非ザリシカ同氏ハ唯二個ノ標本ヲ基トシ其名ヲ命ジ其記ヲ作レリ從ツテ其記文ノ或ハ圓滿渾全ナラザルヤチ恐ル予ハ十中八九此兩種ノ同品タルヲ信ズト雖厄之ヲ正確ニ決定センハ尙後日九州標品ヲ得シ時ニ在リ○予ハ嘗テ之ヲあかつくと云ヘリ稱呼非ナルヲ覺ル因テ今直ニ方言ヲ採テ之ヲほんつくと改ム

● ぼたんばらの學名

ぼたんばらハ本草圖譜ニ在リ是レ本草綱目啓蒙ニ「和名いばら又いばらしやうび俗誤テいばらしやうべんと云」云々中ノ主品ニソ往時ヨリ人家

ニ裁ハ莖長クノ蔓ノ如ク高ク藩籬ニ延拖シ花ハ稍大ニシテ花辦層疊シ紅彩鮮妍葉色亦美ナリ是レ恐クハ *Rosa sempervirens* L. ナラン Feyd. von Meuller 氏著 Select Extra-Tropical Plants. 中ニ其種ノ日本ニ在ルヲ記セリ然レモ其花序并ニ花色ニ嫌アリ又 *Rosa sempervirens* Curt. ニ肖ル所多シ或ハ其種ナランモ未ダ知ル可カラズ姑ク記シ後驗ヲ俟ツ

●薔薇ノ諸事

本草圖譜所載ノ「いだうばら」の「いばら」一品ニシテ紅辦單輪ナル者ナリ帝國大學植物園ニ於テなぐらばらト稱セル者此品ニ屬ス是レ *Rosa multiflora* Thunb. var. fl. roseo. ナリ○同書「つやばら」ハ花辦相重リ紫紅色ニシテ美ナリ此品野生アルヲ見ズ庭際ニ栽テ花ヲ賞ス是レ亦の「いばら」ノ一品ニシテ即チ *Rosa multiflora* Thunb. var. *platyphyla* Redouté (|| *Rosa multiflora* Thunb. var. *plena* Regel) 是ナリ同書「ちやばら」ハ蓋シ單一此一變品ナラン○同書なぐらばらハちやうしゆん即チかうしんばらノ一品ナリ○同書はちやばらハなにはばらノ花色淡紅ナルモノナリ

●ひらぎノ學名

Osmanthus Aquifolium Sieb. (Siebold et Zuccarini Flora Japonicae farni-liae naturales p. 166.) ノ名既ニ之ニ有リ更ニ其記者ヲ變史ノ之ヲ *Osmanthus Aquifolium* Benth. et Hook. f. ト爲スノ必要ヲ見ズ

●ちしまめノ學名

Miquel 氏本邦産ノ一植物ニ命名シ *Smilax trinervula* Miquel トボコナシト

氏ノ著書中ニ載セタリ一千八百七十一年 Maximowicz 氏露都出版ノ *Mélanges biologiques* 第八卷中ニ於テ本邦産ノ *Smilax* 屬諸種ヲ列記セルトキ本品未ダ當時ニ判然タラザリシ一千八百七十八年 Alphonse De Candolle 氏世界ノ *Smilacaceae* ナ全記シ之ヲ *Monographie phanerogamarum* 第一卷ニ載ス然レモ尙本品ハ同氏ニ知ラレザリシナリ故ニ同書未詳品 (*Species dubiae*) 欄内ニ之ヲ置キタリ此植物ハ是レ即チちしまめニシテ Miquel 氏ノ記文能ク吻合シ些ノ異條ナシハ *Smilax biflora* Sieb.) ヨリ葉大ニシテ莖直立シ漿果熟シ紅色ナリ日本本州ノ山地ニ稀ナラズ

●ちしまめニリニ日光山ニ産ス

ちしまめニリニハ宮部金吾氏ノ新稱ナリ其學名チ *Galeopsis* *Tetralix* L. ト云唇形科ニ屬ス同氏嘗テ之ヲ北海道根室并ニ千島ニ採集セラレ同氏著千島植物誌(米國ホストノ府刊行)ニヨリ本邦植物トシテ廣ク之ヲ世ニ紹介セラレタリ明治廿六年八月十日寺崎留吉氏之ヲ日光山中禪寺湖畔ニ採集セラレ是レ本品ノ本州ニ産スルヲ知りタル始メナリ莖高サ二尺許全体粗毛アリ節高く葉對生シ葉形卵狀披針形ヲ成シ末尖リ粗鋸齒アリ葉齒刺ノ如ク長サ葉筒ニ超ヘ花冠高ク萼ヨリ秀ツ晃山ノ者ハ即チ *Galeopsis* *Tetralix* L. & *parviflora* Benth. (|| *G. bifida* Donn.) ニ屬ス

●日本植物學名一斑

Solanum Dulcamara L. var. *lyrata* Sieb. et Zucc. *ひやかりん* (|| *Asarum Thunbergii* Al. Br. (|| *Heterotropis asaroides* Morr. et Deene.) ち

るばいんあふひ(新稱)武州登戸ノ山麓地ニ採ル又伊豆ニ産スルヲ知ル花
蓋ノ筒部壺狀ヲナシテ圓シ ○ *Kylinia monocephala* Roth. ちひめぐま
(新稱)琉球ニ産ス内地産ナルひめぐま (*Kylinia brevifolia* Roth.) ト類
果ヲ圓メル穎ノ狀異ナレリ ○ *Kalanchoe spinulata* DC. りうきんぐへんけ
い(新稱)琉球ニ産ス全体大ナリト雖モ花却テ小ナリ黒岩恒氏採集ノ標品
アリ

○日本及ビ外國ノ植物新和名

大沼宏平

Arundo Schlowiana, Schultes. (A. dioica, Spreng. non Lour. *Gynerium*
argenteum, Nees, *Pampas-grass*). ミロガネヨシミロ 蘆ミニ似テ花毛銀白色リシ

テ甚ダ美麗ナリ南米ウルグワイ、パラグワイ及ビブラプラタノ原野ニ自生
ス此ノ葉ハ紙ヲ製スルニ供ス

Atropa Belladonna, L. (Wolfskirische) オホカニナスヲ

Buxus sempervirens, L. セイヤウツツ

Campanula alliarifolia, Willd. ハタザホギトヤウ六月紫花ヲ開ク植物園

又稀ニハ花戸ニモアリ余モ一株ヲ有セリ

Capsicum frutescens, L. (C. fastigiatum, Blume) キダチタウガラシ番

姜木臺灣府志小笠原島父島母島山中、琉球、臺灣、八丈島ニ自生ス木ノ

高サ四五尺明治廿三年五月刊行ノ教育品製造會社ノ博物標本定價目錄ニ

所載ノ小笠原島産ノモノニキダチタウガラシノ新名ヲ始テ下ダセリ

Cedrus Deodara, Loud. (*Pinus Deodara*, Roxb. *P. Cedrus*, L. var. *Deodara*.)

Cedrus indica De Chanbr. *Alces Deodara*, Lindl. *Himalaya-Ceder*,

Himalaya-Cedar, *Deodar-Cedar*) テラダラモチ一名ネズモミ又カラヤツ

モミチ杜松及ビ淺葉松ノ葉ニ近似スルヲ以テ名ツクヒマラヤ山中三千尺乃

至一萬二千尺ノ處ニ産ス印度人ハ此ノ樹ヲ *Devadara* (*gottesbaum*) (テラ

ダラトハ神樹ノ義ナリ) ト稱シテ最モ之ヲ尊敬スルモノナリ植物園ニア

リ又九段ノ靖國神社神殿ノ後ニ三株アリ植物園ニテヒマラヤシダート

云フモノ是ナリヒマラヤシダートハ英俗名 (*Himalaya-Cedar*) ナ音譯

セシモノナリ

Chloris radiata, Sw. (*C. glaucescens*, Steud.) クラウセンガヤ小笠原島ニ自

生ス植物園ニアリ

Cinna arundinacea, L. アメリカフサガヤ北米ニ産ス

Coleus Blumei, Benth. ハンバイトウモドキ植物園及ビ花戸ニアリ

Corylus Avellana, L. セイヤウハンシバミ

Corylus Avellana, L. var. *atropurpurea*. ムラサキセイヤウハンシバミ葉暗

紫色ナリ植物園ニテムラサキハンシバミト云モノ是ナリ

Cupressus torulosa, Don. ヒヤラヤヒノキ印度ノ北部四千五百尺乃至八

千尺ノ處ニ産ス植物園ニアリ

Cyperus alaternifolius, L. シュエロガヤツリ (明治廿五年命名) アフリカ洲

マダガスカル島ニ産スル水草ナリ斑葉品モアリ植物園及ビ花戸ニア

リ

Cyperus Papyrus, L. (Papyrus antiquorum, Willd.) カミガヤツリシトリア
ノ川及ビナイル谷ニ産ス古代エチオプト人ハ此ノ草ノ莖(或ハ葉鞘)ヨリ
紙ヲ製シタリ又此ノ草ノ太キ匍匐スル根莖ヲ常食トナシタリ有名ナル

古代エチオプト人ノ紙樹 (Berthme Papiersaude der Allen) 是ナリ現今ニ
テハ細引、衣服、ランプノ心、帆等ヲ製ス頗ル上種ニ類似ス横濱山手
廿八番ホーマー商會ノ温室ニアリ松村任三先生之ニガミ井ノ新名ヲ下
セリ

Daphne Mezereum, L. セイヤウオニシズリ
Datura inermis, Jacq. (D. laevis) トギナシテウセミアサガホ果實ニ刺
ナキモノ植物園ニアリ

Derulia pentaphylla, Blume. クロカネツラ (明治廿五年十二月命名)
琉球ニ自生ス植物園并ニホーマー商會ノ温室ニアリ

Dioscorea aculeata, L. ハリイモ莖ニ刺アルモノ根(塊莖)ハ食フベシ
印度ノ交趾等ニ産ス

Eleocharis tuberosa, Poenmer et Schultes シナクログヅ井麩臍一名烏芋
黒父曾テ支那ニ在ル丁五年歸朝ノ時此ノ根(塊莖)ヲ廣西ヨリ持來リシ
ガ余此ヲ生食セシヨアリ味甘美ニシテ梨子ノ如シ廣西人俗ニ之ヲ慈姑ト稱
スル由ナリ又支那人此ノ塊莖ヨリ澱粉ヲ製ス之ヲ馬蹄粉ト稱ス本邦産ノ
クログヅ井 (Eleocharis plantaginea, R. Br.) ノ塊莖ハ生食シテモ味美ナ

ラズシテ食フニ足ラズ專ラ煮テ食用トナスモノナリ印度産ノ (Eleocharis fistulosa) 及ビオースタリア産ノ (Eleocharis sphaeolata) ノコ
ニ近似ノ植物ナリ

Eucalyptus Gunnii, Hook. f. ハクカエムノキ俗ニ有加利樹又アメリカカ
ムノキト云モノ是ナリ植物園又花戸ニアリ

Eucornis punctata, J. Her. フサラン明治廿一年七月余學名ヲ鑒定シテ是
ニフサランノ新名ヲ下セリ七月花ヲ開ク植物園ニアリ余一株ヲ有セシガ
枯レタリ

Euphorbia dentata, Michx. ノコギリダイゲキ葉ニ鋸齒アルモノ植物園
ニアリ

Fagopyrum cynosu, Meisn (F. triangulare, Meisn. F. emarginatum
var. kinnawarense, Meisn. Polygonum cynosu, Treviran. P. acutatum
Lohn. P. triangulare, Wall. P. emarginatum, Wall. P. dihotrys, Don. P.
volubile, Turcz. P. rugosum, Herb. Ham.) シンコンソツ印度及ビ支那ノ
山地ニ自生スル多年生ノ蕎麥ナリ蔬菜ニ供ス葉ハ青藍ヲ採ルニ用ユ

Fatsia papyrifera, Benth. (Aralia papyrifera, Hook.) カミヤマヲ通脱木
臺灣ニ自生ス體ヲ以テ米紙、夏帽子等ヲ製スベシ

Ficus macrophylla, Desf. オホバシムノキ植物園ニアリ

Galatodendron utile, Kunth. (Brosimum Galatodendron, Don.) ウシチ
ハノキ南米カラカンノ高山ニ自生ス此ノ樹幹ニ切レ目ヲ付ク其レヨリ流

出スル乳汁ヲ飲メバ牛乳ノ如クニシテ甘美ナリ又此ノ乳汁ヲ煎シ詰レバ
脂蠟ノ如キ物質トナル此ヲ以テ最上ノ蠟燭ヲ製スベシ

Glaucium luteum, L. ツンゲシ (明治廿六年六月命名) 六月黄花ヲ開ク
植物園ニアリ

Goniana acutis, L. オホハルリシダウ花最大ナリ余ノ腊葉中ニアルモ
ノ

Helipopsis laevis, Pers. キクイモモドキ七月黄花ヲ開ク植物園ニアリ

Hypericum sp. マルミノキンシマイ植物園ニテヤウシユキンシマ

イト云フモノ是ナリ

Iris pseudacorus, L. キンヤウア (明治廿六年五月命名) 五月黄花ヲ開

ク植物園ニアリ

Juniperus communis, L. セイヤウチズ植物園ニテヤウシユチズト云フ

モノ是ナリ

Lagurus oratus, L. ウサギガヤ植物園ニアリ外國産ノモノ余ノ腊葉中ニ

アリ

○ストラスブルガー氏植物教科書

池野成一郎

明治廿五年獨乙伯林高等農學校教授アーネー、フランク氏植物教科書(A.

B. Frank, Lehrbuch der Botanik)ノ上巻出版アリ翌年春同下巻ノ出版ア

リテヨリ以降昨年ノ末迄ハウエスターマイヤー氏パックス氏等ノ教科書

(Westermar, Compendium der allgemeinen Botanik—Par, Lehrbuch
der Botanik)等ノ如キ小冊ノ書若クハ、シエーマン氏植物分類、植物化石、
植物地理學教科書(K. Schumann, Lehrbuch der systematischen Botanik,
Phytogeographie und Phytogeographie)ノ如キ専門ノ書ハ出版アリシ
モ稍々大冊ノ一般植物教科書ハ世ニ出ルヲナカリ然ルニ昨年末ニ至リ
二種ノ植物教科書世ニ出デタリ先ニ出デタルチギーセンハーゲン氏ノモ
ノ(Giesenhagen, Lehrbuch der Botanik)トシ後ニ出デタルチラストラスブ
ルガー氏ノモノトスギ氏ノ書ハ余未ダ之ヲ手ニセザルガ故ニ茲ニ批評ス
ルニ由ナシト雖モス氏ノ書ニ至テハ頃目余其一本ヲ得タルガ故ニ聊カ其
批評ヲ試シントス

ス氏ノ書ハ Lehrbuch der Botanik für Hochschulen ト題シ四名ノ植物學
者ノ合著ナリ即總論并ニ形狀學ハス氏自ラ之ヲ編シ生理學ハフリッツ、
ノル氏編シ隱花植物ハハインリッヒ、シエンク氏編シ顯花植物ハア、エ
フ、ウエー、シンパー氏編ス (Eduard Strasburger, Fritz Noll, Heinrich
Schenk, A. F. W. Schimper)

本書ヲ讀ムニ當テ最モ心ニ感ズルハ其最近ノ研究ヲ出來得ル丈採蒐シタ
ルヲナリ彼ノフランク氏教科書ノ如キ可ハ則可ナリト雖モ其題ニ所謂
Nach dem gegenwärtigen Stand der Wissenschaft トアルニモ拘ハラズ稍々舊
套ヲ脱セザル所ナキニ非ザリ然ルニ本書ハ之ト異ルガ故ニ之ヲ熟讀玩
味スレバ今日ノ最モ進歩セル植物學ヲ視フニ足ルベシ

○總論ニ於テハ生物ノ自然淘汰ニ因テ進化スル所以等ヲ論シ生物ノ感應性即「ライツバールカイト」ニ論及シ自然發生ニ及ビ終リニ無機井ニ有機化學ノ必竟境界ナキニ及ブ

本書ノ本部ハ第一、第二部ニ區分シ第一部ニ於テハ普通植物學(「アルグマイチ、ホターニツク」)ヲ、第二部ニ於テハ特別植物學(「スペチエーレ、ホターニツク」)ヲ説ク

普通植物學又別テ第一第二ノ二章ト爲シ第一章ハ形狀學ヲ、第二章ハ生理學ヲ論ズ

第一章形狀學又別テ第一節外部形狀學(「オイセレー、モルフオロギー」)井ニ第二節内部形狀學(「インチレー、モルフオロギー」)(解剖學井ニ組織學)トス

第一節外部形狀學ハ此書ノ一小部分ヲ占メ(三十四頁)先ヅ植物外形ガ劣等植物ヨリ高等植物ニ至ル變遷進化ヲ論シ尋テ莖葉根ノ摸形井ニ變形ニ及ビ葉ノ位置ヲ短ク論シ最後ニ植物ノ Ontogenie (個體發育)ト題シ植物ガ胚ヨリ起リテ成熟スル迄ノ順序ヲ論ズ○凡ソ此節ハ簡ニシテ其要ヲ得、科學的ニシテ贅言ヲ省キ彼ノ徒ニ學者ノ記憶力ニ訴フル難詰ナル術語ヲ排列シ、形狀學ガ植物教科書ノ殆ンド三分二以上ヲ占メ、言語多クシテ實少キ字引的植物學書トハ天地雲泥ノ相違アリ

第二節内部形狀學ハ組織學井ニ解剖學ニシテ則著者ガ最モ得意ト爲ス所ナランカ全部九十二頁ヨリ成ル劈頭第一細胞ヲ論シ其成分、其作用、細

胞液、細胞膜ヲ論シタル後、組織系ニ及ボシ、莖葉根ニ於ケル此等組織系ノ配置、後生組織等ヲ論シ終リニ内部形狀ノ Phytogenie ト題シ劣等植物ヨリ高等植物ニ至ル組織ノ變遷進化ヲ論シ又内部形狀ノ Ontogenie ト題シ植物ノ生長點ヲ論シ最後ニ植物ノ畸形ヲ論ズ○此部ハ從來ノ植物教科書ト其順序等致テ大差ナシト雖モ大ニ新キ研究ヲ採蒐ス即細胞ノ成分ニ中心球ヲ加ヘ、原形質ノ固定液ニ一乃至二「プロセント」ノ「蟻酸」アルデヒド」ヲ入レ、原形質ノ細粒ヲ説クニ當リテクラトー氏ノ發見ニ係ル「フヒョーデン」(Physoden)ヲ舉ゲ又佛人シルソン氏ガ「セルローセ」ノ結晶体ヲ得タル事杯ヲモ掲ゲタリ圖畫ハ彼ノ獨乙ニテ流行スルサックス氏ノ圖畫ヲ再出シタルニ非ズ多クハ著者ノ自作ニカトル(多クハ Botanisches Practicumニ出デタルモノ)蓋氏ノ圖ハ毫モ修飾ヲ加ヘザルモノナルガ故ニ一見サックス氏ノ圖ノ明瞭ナルニ若カザルガ如クナルモ修飾ヲ加ヘザルガ故ニ却テ實物ニ類似スルヲハサックス氏ノ圖ニ優レリ一得一失又止ムヲ得ザルナリ

○生理學ハ頁數百二十五、生理總論様ノモノ、外之ヲ六部ニ別チ其第一部ハ植物體ノ堅固ナル所以下題シ緊張、組織ノ張力、骨格組織ヲ論シ第二部ハ營養論ニシテ初メニ水分井ニ鹽類ノ吸收、水ノ運動、蒸發等ヲ論シ尋テ炭素同化、蛋白質造成、物質ノ移轉貯蓄、終リニ寄生植物、共生植物、食虫植物ヲ論ズ第三部ハ呼吸ト題シ普通ノ呼吸ノ外植物體中瓦斯體ノ運行ヲ論ズ第四部ハ生長、第五部ハ運動ト題シ原形質ノ運動、屈曲運

動、變異運動、ヲ論ズ而ノ第五部ハ生殖ニシテ無性生殖ヨリ有性生殖ニ及
 ビ、世代ノ變化并ニ種子ノ播布及ビ發芽ヲモ論ズ○此部モ又順序等普通
 ノ生理學書ト異ナラズ且新キ研究ヲ採蒐シタルヲ他ノ部ト異ルヲナシ
 第二部特別植物學ハ別テ第一章隱花植物并ニ第二章顯花植物ト爲ス
 〇〇〇〇
 隱花植物(百〇五頁許)ハ別テ *Thallophyta*, *Bryophyta*, *Peridophyta* ト爲
 スト從來ノ如ク、*Thallophyta* ハ變形菌、分裂植物、硅藻、(ペリシネ
 ア)類、接合藻、綠藻、褐藻、紅藻、車軸藻、真菌類ニ別ツ藻類ノ説明
 等致テ他書ト大差ナシト雖モ簡ニシテ要ヲ得ル所實ニ其出色トス但紅藻
 ノ授精ヲ説明スルニ淡水藻 *Batnosperrum* ナリ以テシ稍ク不明瞭ノ圖
 ナ附スルノミナルハ少ク物足ラヌ心地ス真菌類ノ部ハ實ニ能ク出來タリ
 但是部ハ *Tavel* ノ *Vergleichende Morphologie der Pilze* (植物學雜誌第
 七卷ニ余其評ヲ出セリ) ニ全然從ヒタルモノニシテ之ヲ讀メバ能ク菌類
 ノ劣等ヨリ高等ニ至ル變遷ヲ悟ルベク從來ノ植物教科書ニ其比ヲ見ザル
 所ナリ圖畫モ *Tavel* 氏ノ書ヨリ來ルモノ頗ル多シ又 *Boleus Sakana* 并
 ニ *Amantia muscaria* ノ圖ハ着色セリ *Bryophyta* ハ敢テ新奇ナルヲナ
 ク *Peridophyta* ニ於テモ又然リト雖モ *さんせうも* ノ雄前芽并ニ *かたひ*
 ば屬ノ小芽胞發芽ノ圖ハ從來ノ圖ニ代フルニ頗ル明瞭ナルベラ *イェツフ*
 (露人)氏ノ圖ヲ以テセリ又 *トロイブ* 氏ガ *Tyopodium cernuum* ノ前芽

藏精器等ノ 圖ヲ擧ゲタリ
 〇〇〇〇
 顯花植物ハ百四十九頁ヨリ成リ本書中最長ナル部ナリ劈頭第一顯花植

物ノ無性世代ヲ論シ尋テ有性世代、授精等ヲ論シ以テ花ノ獨リ顯花植物
 獨有ノモノナラザルヲ論シ又花粉粒ノ小芽胞ニシテ、胚囊ノ大芽胞ナル
 ヲナモ明ニ説ク回顧スレバ今ヨリ僅ニ數年前某國ノ植物學者植物教科書
 ナ著シ世ノ植物學者ガ顯花植物ノ花粉粒ヲ小芽胞ト稱シ胚囊ヲ大芽胞ト
 稱シ胚乳ヲ前芽ト稱スル等ノヲ奇トヤ思ヒケン其序文ニ於テ *ortho-*
gamically-minded Botanists ガ何トカ彼トカ下ラマ寢言ヲ吐キタリ是
 レ固ヨリ隱顯植物ノ眞ニ境界ナク古人ノ考ヘタルガ如キ差異ノ其間ニ存
 セザルヲ知ラザルニ坐スルモノト雖モ彼ノ植物學者ヲシテ今日此書ヲ
 讀マシメバ果シテ何トカ言ハン顯花植物ハ別テ裸子被子ノ二類ト爲スト
 常ノ如ク裸子植物ノ部ニ於テハ *Picea vulgaris* ノ卵細胞内、雄核ガ雌核
 ト合着スルノ圖ヲ擧ゲタリ又 *Taxus baecata* ノ圖ハ着色セリ被子植物ノ

部ニ於テハ授精ノ圖ハ佛人ギギヤール氏ノ圖ヲ寫シタルモノ、如ク雌雄
 核共ニ中心球ヲ具フ被子植物ノ分類ハ主トシテアイヒラー氏ニ依ル分科
 ハ獨乙産ノモノニ詳ニシテ他ノモノハ特ニ著名ナルモノ、外短ク或ハ全
 ク略ス是レハ本邦讀者ニハ不都合ナレ止ムヲ得ズ稍ク大ナル分科ニハ
 科ノ特徴、主ナル屬、地理上ノ産布、其科中ノ有毒植物又藥用植物ヲモ揭
 グ是等一體ハ無味淡泊ナルヲ常トスレ此書ニ於テハ此部ハ仲々面白ク
 且諸分科變遷進化ヲモ能ク明示シタリ圖畫ハ頗ル多ク管ニ解剖圖ノミナ
 ラズ多ク植物ノ全体ヲモ澤山ニ畫ケリ殊ニ藥用植物ニ注意シ有毒植物ニ
 ハ着色シテ美麗ナルモノ頗ル多シ終リニ有毒植物見出シ、藥用植物見出

シ井ニ全体ノ見出シアリ極テ搜索ニ便ナリ

本書ハ紙質極テ精良印刷鮮明、頁數五百五十八、圖畫五百七十七内着色圖十九ニシテ價ハ割合ニ廉ニ假綴七「マルク」、本綴八「マルク」ナリ

○有縁寄生植物ノ榮養 大久保三郎

シ、ボンニエー氏ノ説ニ曰寄生有花植物ニシテ葉綠チ有スルモノニ寄主ヨリ大略炭素ヲ得ルモノト自ら同化作用ノ力ヲ以テ重ニ炭素ヲ得ルモノトノ階級種々アリ、こゝめくさハ縱令光線ヲ受クルモ酸素ヲ吐出スル「ナシ」*Bartsia alpina* 及「*Rhinandrus Crista-galli*」ハ唯極メテ少量ヲ出スニ過ギス然ルニ *Thesium humifusum*, *T. pratense*, 以上二種かゝる及 *Pedicularis sylvatica* しむびハ完生セル「*Faastoria*」チ有スルモ同化作用チナス「著シ」而シテ *Melampyrum pratense*, *M. sylvaticum*, 及 *M. nemorosum* 以上三種よ尙同化作用顯著ナリ、故ニこゝめくさノ如キハ綠葉チ有スルモ眞ノ寄生ナリ後者ハ「*Faastoria*」チ有スルモ寄生ノ性質チ行フ「僅少」ナリ

昨年十二月刊行シヨルナル、オフ、ローヤル、マイクروسコピカル、ソサイチー七一一頁

○黃化作用ニ關スル生理學上實驗

安田 篤

記者曰ク此篇ハ Dr. Erich Arnelung 氏ノモノサレシ者ニシテ昨年「*Flora der Allgemeine Botanische Zeitung*」ニ出デタルヲ摘譯セル者ナリ

余ハ千八百九十三年ノ夏ウエルツアルゲルノ植物園ニ於テ *Oenothera*

maxima (南瓜ノ一種)ニ就キ黃化作用 (Etiolament)ニ關スル生理學上實驗ヲ試ミタリ此植物ハ預メ之ヲ園中ノ最日受ノ長キ所ニ培植シ綠葉チシテ充分ノ同化作用ヲ營マシメ隨テ暗處ニ導入シタル嫩芽モ榮養ニ不足チ告グルノ憂ナキチ得セシメタリ試驗用ニ供シタル器械ハ張番小屋大ノ木箱ニシテ其内部チ塗リテ黑色トナシ一方ニハ開閉スベキ戸アリ又地上ヨリ二十「センチメートル」ノ高處ニ嫩芽ヲ導入スル爲ニ一孔チ穿チ切半シタル「コルク」若クハ綿チ以テ輕ク之ヲ閉塞セリ次ニ此孔ヨリ該植物ノ嫩芽ヲ暗室内ニ入レ同時ニ室外ニアル莖部ニ生ズル葉ノ腋芽チ頗ル注意シテ除去シタリ何トナレバ此ノ如キ明處ニアル腋芽ノ生長力ハ頗ル尠シラザル者ニシテ數日チ經レバ能ク伸長シ爲ニ暗處ニ導入シタル嫩芽ニハ榮養分ノ輸送絶ユルニ至レバナリ以上ノ裝置チ施シタル後六七週間チ經ル比ヒ木箱中ニ發達シタル黃化植物チ見レバ其各部成長ノ速ナル實ニ一驚ヲ喫スベキ者アリ

暗室中ノ榮養器官 初メ暗室中ニ入レタル嫩芽ハ二乃至四「グラム」ノ重量アリ十五個乃至二十個ノ嫩葉チ有シ葉腋ニハ十五個乃至二十個ノ雄花並ニ雄花ノ頗ル若キ者チ具ヘタリ倍此暗室内ノ嫩芽ハ第一日ニ莖及ビ葉柄チ展開シテ非常ノ發達チ爲シ第三日ニハ七十乃至百「センチメートル」ノ長サニ達セリ澱粉ノ量及ビ嫩芽生長ノ速力ハ暗室中ニテ生シタル器官ノ増加スルニ從テ減ズ又暗處ニテ作ラレタル葉ノ大サモ榮養チ司ドル葉

ヨリノ距離ニ反比例スル者ニシテ其初ノ三四黃化葉ハ尋常ノ健葉ト其大サヲ同フスレバ之ヨリ後ハ漸ク其大サ減少ス抑之が原因タル是迄ハ細胞ノ成長上ニ日光ノ直接ノ關係アルが爲ナリト思ヒシガザツクス氏ノ研究ニ由テ全ク營養分ノ不足ニ起因スルヲ知ルニ至レリ是レ營養分ノ達スルニ通路ガ長クレバ隨テ非常ノ時間ヲ要スルノミナラズ養分運搬ニ種々ノ困難ヲ生ズレバナリ

暗室中花ノ形成 暗室中初二生シタル花ハ尋常ノ形狀及ビ大サヲ有セリ何トナレバ其暗處ニ導入セラレタル頃ハ既ニ其形モ幾分大ナリシヲ以テ花粉並ニ胚珠モ夙ニ其準備アリ且ツ營養液ノ通達スルニ必要ナル路モ甚ダ小ナルヲ以テナリ茲ニ生理學上面白キ一事ハ暗處ノ花ハ通常大氣中ニ開ケル健花ト同シク朝時ニ於テ開キ其一年間ノ開花期モ兩者相同シカリシト是ナリ是等ノ暗室中初二生シタル花ヲ見ルニ雌雄花共ニ花冠ハ黃色ニシテ大ニ其外觀全ク異狀ヲ呈セザルガ如シト雖實ハ花粉、胚珠等ニ特變アリ今雄花及ビ雌花ニ就キ其變化ノ狀態ヲ左ニ擧ゲントス
雄花ノ花粉ハ其大サニ著シキ不同ヲ生シ甚大ナル者ト甚小ナル者トアリ又莉モ變形シ其五個ノ彎曲癒着シタル者ガ漸ク薄小トナリ更ニ進メバ莉ガ最早柱狀ニ癒合セザルニ至リ終ニハ莉ハ全ク消失シ花絲ノミガ一乃至二「ミリメートル」ノ隆起トナリテ突出スルニ過ギザルヲ見ル

雌花ハ一般ニ健花ニ近ク其退化ハ雄花程甚シカラズト雖時ニハ例外ナキニアラズ或一雌花ハ三柱頭ヲ具ヘ其外ニ花冠アリ柱頭ノ直下ニハ子房ア

リテ其心皮ハ縁邊ニ胚珠ヲ荷フ又或雌花ハ四柱頭ヲ有シ子房ハ之ニ應ジテ四室トナリ子房ト花冠ノ間ニ更ニ半球狀ノ一花ヲ生シ其上面ニ胚珠居シ其花冠ト柱頭ハ突起トナリテ同シク球面ニアリ

暗室内ニ於ケル雌雄花登實ノ觀察 先づ雄花ニ就テ言ヘバ暗處ニテ開キタル雄花ノ花粉ヲ取り早朝明處ニ於テ自由ニ生長シタル雌花ニ注ギ玻璃鐘ニテ之ヲ被ヒ以テ虫媒ヲ防ギシガ其結果タル全ク實ラズ即チ柱頭ハ多ク枯瘠シ子房ハ廢縮シテ終ニ脱落セリ之ニ反シテ暗處ニ於テ開キタル雌

花ニ尋常ノ健全花粉ヲ注ギ以テ授精セシメシニ此時ハ結實シ果實ノ重量ハ二乃至四「キログラム」ナリキ是ヲ以テ之ヲ觀レバ暗處ニ於ケル雄花ハ退化シ爲ニ生殖作用ヲ營ムト能ハザルモ暗處中ニ開ケル雌花ハ充分生殖

ノ働ヲ具フルヲ知レリ今此退化シタル雄花ノ花粉ハ何ガ故ニ生殖作用ニ欠クル所アルヤナ明ニセンガ爲之ヲ顯微鏡的ニ檢セシニ其外皮及ビ内皮ハ能ク發達シ營養液ハ其内部ヲ填充スルモ凡ソ生殖作用ニ欠ク可ラザル核ガ殆ト全ク消失セリ是レ其登實セザル所以ナリトス

果實 此ノ如クシテ結ビタル果實ハ一見スレバ普通ノ者ト殆同シク堅肉ヲ有スレバ其内部ヲ檢スレバ纖維狀ヲ呈シ其中ニ種子ヲ收ム

種子 種子ヲ見レバ種殻ハ全面ノ四分ノ一乃至三分ノ一迄ハ異狀ナシト雖胚ノ坐スル先端ニ於テハ退化シテ紙片狀ヲ呈ス種子ノ内容モ之ニ應ジテ變化アリ即チ種子ノ内部ハ空虚ニシテ其一端ニ最早肉眼ニテハ區別ス

可ラザル程小ナル胚アリ是レ健全花粉ノ核ガ卵細胞中ニ入りタル後モ充

分其力ヲ逞フシ能ハザリシ證ナリ以上ノ事實ハ三個ノ果實ニ就テ觀察セシ者ニシテ其二個ノ小ナル果實ニ於テハ胚ハ卵形ヲ爲セシガ今一個ノ大ナル果實ニ於テハ胚ノ子葉ハ半圓形ノ隆起トナレリ

○檳榔子ノ紋理 市村 塘

吾人若シ檳榔子ヲ縱斷シテ其面ヲ窺ヘバ一種特有ナル大理石様ノ紋理アルヲ見シ是褐色鬆疎ナル子皮ノ上皮力不整放線狀ヲナシテ類白色ノ胚乳中ニ挿入スルガ如ク見ユルトハ皆人ノ知ル所ナレ其初生期ハ何時ナルヤ其發生狀態ノ如何ニ至ツテハ此問題ニ答フル者唯オセンブルグ Osenburg 氏アル而已、同氏ノ研究ニ從ヘバ該紋理ハ受胎作用ノ行ハル直前或ハ直後ニ出現スルモノニテ其始メヤ珠柄中ヲ通過セル維管束ノ頂點ニ於テ坐布團狀ノモノヲ作り、枝管束ヲ伴ヒ珠囊中ニ凸隆スルナリ故ヲ以テ珠皮ノ毫モ關係セザルトハ頗ル肉豆蔻ニ類スト云フベシ假令ヘバきづた、イヌのき等ノ種子ニ見ル紋理ノ構造トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノニシテ嚢口是ハ摺帖出入著シキ胚乳ヲ有スル種子ト稱シテ可ナリ且ツ檳榔子ノ紋理ヲ生成スル凸隆中ニハ多ク亞爾加魯乙度及ヒ丹寧ヲ含有スルヲ常トス (Bot. Centralbl. lix (1894) P. 190.)

○丹寧ノ形成及ヒ其作用

市村 塘

近頃ミルク G. Mielke 氏ハ丹寧酸ガ類蛋白質ヨリ生成サルト云フ説ヲ駁撃シテ曰ク此酸ノ形成スル前ハ其實「フ井ノフル」、「フ井ノフアル

コホル「アルデアヒ井ド」ナリシナリ是等ハ皆砂糖ト化合シテ「グリユコシ井ド」トシテ存在シ共ニ植物木化作用ニハ缺クベカラザル必要成分タリ、眞正ノ丹寧ハ植物組織中只僅カニ散蓄サル、ニ過ギス是丹寧ガ水ヲ吸收シテ前ノ諸物質ニ轉化スル時ニ於テノミ植物体内ノ營養物質トナレバナリ夫ノ樹脂及ヒ香油類ハ益シ丹寧ノ變形セル最終産物ト外ナラザルナリ (Bot. Centralbl. lix 1894, p. 280.)

○黴菌ハ幾何ノ壓力ト幾何ノ

温度ニ堪エ得ベキヤ 市村 塘

フロイデンライヒ Freudenreich, E. von 氏以爲ラク乳汁ニ高壓ト六十乃至七十ノ溫度ヲ加フレバ乳汁中ニ於テ黴菌ノ生活ヲ不適當ナラシメ以テ其腐敗ヲ防グニ足ラント乃チ黴菌ノ繁殖セル乳汁ニ液体ノ炭酸ト壓迫セル酸素ヲ借リテ五十乃至七十ノ溫度ト七十乃至九十ノ氣壓ヲ加ヘタリ然ルニ其結果ハ反對ナリキ換言スレバ格別脾臟ヲ汚濁スル黴菌又ハ乳汁ニ繁殖スル黴菌ノ如キハ略ホ八十乃至九十氣壓ノ炭酸壓、六十氣壓ノ酸素壓、略ホ六十五ノ溫度ニ過不及アラザル以上ハ充分容易ニ生活シ得ルモノナリト (Mittheilungen der Naturforscher-Gesellschaft in Bern. 1892, p. VII-X)

○落葉集第三編 野村彦太郎

日本蠟(檳蠟)

Schäner 氏ノ所説ニ據レハ日本蠟ノ主成分ハ檳脂質 (Palmittin) ヨリ成

ルト Ehrh. 氏ノ研究スル所ヲ以テスレハ其固性脂酸ハ即チ椰酸ニシテ之ニ
 修酸ノ如キ酸類ヲ混スルルハ溶解スト蓋シ此物質ハ Eberhardt 氏ノ所
 謂ル游離酸ニシテ其式ハ $C_{15}H_{35}COOH$ ナリト
 又日本蠟中ニ含有スル酪酸ハ其質「グリセリン」ニ似テ然カモ脂肪ノ如ク
 不快ノ強臭ヲ帶ブ而シテ其體實ノ子葉中ヨリ油酸ヲ得ルモ少量ニ過ギス且
 ツ在油中ヨリモ此酸ヲ得ルト云フ

又「ワゼリン」類ノ白色物質アツテ其一半ハ不鹼化質ヨリ成リ其一半ハ酪
 酸ニアラズ椰酸ニモアラザル一種ノ脂酸ヨリ成ルト抑モ日本蠟ハ一千八
 百五十四年日本開港以還、貿易品トシテ輸入シ其蠟ノ過半ハ日本國ヨリ
 支那國ニ輸入シ其一分ハ亞墨利加、歐羅巴、殊ニ倫敦、ハンブルヒニ輸
 入シ其他ノ一小分ハ阿蘭陀、佛蘭西ノ兩國ニ輸入セリ一千八百七十九年
 ニ在テハ日本蠟ノ輸出額ハ三十三萬三千九百七十四圓ニ達シ翌年モ亦大
 抵同額ナリシモ一千八百八十三年ニハ其額十三萬六千六百三十三圓ニ減
 シタリト

日本蠟ハ日本國ヲ始トシテ支那、亞墨利加、歐羅巴諸國ニテハ蠟燭製造
 ニ用井又其多分ハ蜂蠟ニ代用セリ然ルニ石油ノ需用増加スルニ隨ヒ日本
 蠟ハ其價直チ減スルニ至レリ此ノ加ク日本蠟ハ衰微チ來セシ爲メ其藥用
 品モ亦粗製ニ趣キシナチ以テ自然從來ノ地位ヲ持スル能ハサルコトトナレ
 リ
 其脂肪ハ椰實ノ中皮ニ顯存スルガ故ニ其外圍ノ細胞ハ充實セリ之ヲ収聚

スルノ時期ハ十、十一ノ兩月ニシテ其全解點ハ攝氏ノ五十二度ト五十五度
 ノ間ニ在リト然レモ Eberhardt 氏ハ攝氏ノ五十二度乃至五十三度ニシ
 其漸解點ハ四十八、五度ナリト云ヘリ (Botanisches Centralblatt, 1889,
 I. Quartal 抄譯)

○バクテリアノ説(承前) K, D, 山人纂譯

空氣ハ黴菌毒ノ源ナリ

空氣ハ通例乾燥セル黴菌ヲ他ノ無害ナル塵埃ト共ニ害毒ニ罹レル人類若
 シクハ動物ヨリ運ヒ去ルガ故ニ此病毒ヲ傳フル一ノ手段タルコトハ前既
 ニ論シタルガ如シ近來吾人ガ黴菌並ニ其他小有機物ニ就キ知り得タル事
 實ハ大ニ空氣流通ノ問題ニ影響チ及ボスニ至リタリサレバ不潔ナル空氣
 ノ忌ムベキハ勿論往々慘劇ナル病ヲ導キ易キコトハ固ヨリ論チ俟タザレ
 トモソノ病毒ノ一種力アル元素モマタ此ノ浮散スル塵埃中ニ存スルモノ
 ナルコト今ヤ昭然掩フヘカラサルコトトナレリ
 肺病及ヒ實布の里亞ニ於ケル黴菌ヲ塵埃ト共ニ口中及ヒ肺臟中ニ吸入ス
 ルコトハ往々是アルモノニテ殊ニ大都會ニ於テハソノ例少カラズ然レド
 モ通例其危險ナル元素ハ廣ク散布セラレテ其分量マタ實ニ僅少ナルカ故
 ニ之ヲ呼吸スルコトモ害チ起スコト甚ダ稀ナリトス然ルニ大都會ニ在リ
 テハ其街衢ノ掃除方宜シキヲ得ザル時若クハ風多キ時候ニ通行セハ滾々
 タル塵埃ハ空中ニ飛散スルガ故ニ管ニ不潔チ感スルノミナラズ數々病毒
 ニ感スルガ如キ心地ヲ引起サシムルモノナリ

新約克市中殊ニ掃除ニ注意セル區ニ在リテサヘ往々掃除車ノ掃ヒ去ル前ニ水ヲ撒クコト不十分ナルコト及ヒ堆積セル塵埃ノ運ヒ去ラル、マテ時聞甚々長キコト塵埃ヲ車ニ掃キ入ル、方法ノ不注意ナル等尙ホ少カラサル缺點アリ畢竟是等ノ如キハ皆病毒ニ侵サル、危險ヲ増スモノナレバ直ニ改良セサルベカラサルモノナリ

又人家及集會ノ場處ハ更ニ病毒ノ源トナルコト多キガ故ニ今茲ニ其如何ヲモ觀察セサルベカラズ抑モ肺病ハ遺傳ニ因リテ感受シ易キモノナレトモ其何故ニ然ルヤ將々其性質ハ如等ノ精微ナル疑問ニ至リテハ今ニ尙ホ正確ナル解答ヲ得ズ然レドモ肺疾ハ其家族ニ感染シ易キモノナリトノ一ノ道理アリテ存スルモ當ニ疑フベカラザルカ如シ即チ患者ノ子女及ビ親族等ハ他人ヨリモ一層患者ニ接スルコト多キガ故ニ患者ガ吐出セル有毒ナル黴菌或場合ニ於テ乾燥セラレ更ニ塵埃ニ混スル時之ヲ吸入スルコト間々ナルノナラヒ是レナリ

會堂并ニ劇場ノ如キハソノ空氣ノ流通實ニ不完全極リ試ニ此ニ遊ベル人々ニシテ頭痛者クハマレースヲ起サザルモノナキヲ見テモソノ空氣ノ不良ナルヲ證スルニ足レリ而シテ劇場ニテモ猶ホ他ノ場處ニ於ケルト同シク危險ナル病毒ハ吾人ガ空氣ト共ニ吸收セザルベカラザル塵埃中ニ存スルモノナリ

吾人ハ多クノ劇場中ソノ空氣中ニ充滿セル塵埃ヲ排去スルニ適當ナル方法ヲ行フモノアルヲ見ズ而シテ其實行セラル、方法中最長ト稱セラルベ

キモノニ在リテサヘ唯一トワタリソノ目ニ見ユル程ノ塵埃ヲ集メテ之ヲ捨ツルニ過キザルノミ去ルカ故ニ細微ナル塵埃ハ攪亂セラレテ空氣中ニ散亂シヤカテ靜止スル間モナクマタモヤ掃除攪亂セラル、カ故ニ場内ニアル一部分ノ塵埃ハ常ニ坐席ヨリ掃ヒ去ラル、モノソノ空氣中ニ散在スルモノハ再び床上ニ落來リ觀客ノ出入スル毎ニ散亂浮動ス故ニ多クノ劇場及會堂ニ於テ坐席ノ塵埃ヲ一々掃除スル方法ハ取りモ直サズ人々ノ咽喉肺臟及ビ衣類中ニ塵埃ヲ宿サシムルモノナリト謂ハンモ敢テ過言ニアラザルベシ

新築ノ劇場中ハ十分改良セラレタル流通法ノ裝置ヲ設ケタルモノナキニアラザレドモマタ全ク此設置ナキモアリ吾人ハ劇場中入りテ其純粹ナル鍍箔及華麗ナル裝飾ヲ噴賞スルト共ニ生キナガラ毒殺セラル、コトヲ防クベキ相應ノ安全策ヲ法律ニ因リテ更ニ座主ニ強行セラレンコトヲ欲シ而シテ又常ニ多人數相集レル場處ニ於テ危險ノ元素若クハ不完全ナル空氣流通法ヲ左マテ注意スルコトナク捨テ、顧ミサルモノアルコトヲ端ナク思ヒ出サズンハアラサルナリスベテ公衆ノ相集レル場處ニハ一定ノ取締規則ニヨリテ新鮮ナル空氣ヲ恒ニ場内ニ流通セシメタキモノナリ然スル時ハ管ニ不潔ナル空氣ヲ排去シ得ルノミナラズ其中ニ混シテ散亂スル有毒ノ塵埃ヲモ一掃ヒ去ルコトヲ得ベキナリ

之ニ反シテ人々ノ住家ハ大ナル集會處ニ比シテ其流通法ノ簡且ツ可ナルコトハ萬々ナリ何トナレバソノ家居セル人々ノ狀態如何ニ因リテ有毒ナ

ル塵埃ノ多少ヲ知り得ヘク隨テ之ニ處スベキ方法ヲ講スルコト容易ナレ
 パナリサレド普通吾人カ黴菌ニ就キテ知り得タル所ヨリ推ス時ハ人家ニ
 在テ空氣ノ流通ヲ完全ナラシムル方法ハ單ニソノ腐敗セル空氣ト其中ニ
 散布セル塵埃トヲ掃ヒ去ルノミニ非ラザルモノト知ルベキナリ

通例坐敷ヲ掃除スルニ帚木ヲ以テスレバ是レ反リテ塵埃ヲ煽リテ起テル
 モノナレバ寧ロ濡レタル布巾若クハ乾キタル布巾ヲ以テ拭フニ若カゾ若
 シ又乾キタル布巾ヲ用フル時ハ屢之ヲ戶外ニ於テ振フベシ此方法タル家
 内ニ黴菌病ニ罹レルモノアル時ハ最モ必用ナルモノナリ

人家ニ在リテ室内ノ裝飾ヲ簡ニシ可成窓掛等ハ輕カラシメ且ツ絨氈ヲ能
 ク敷詰メテ毫モスキマナカラシムルハ是亦病ヲ防クノ手段トス病室ノ整
 頓法及ビ他室ト相通スルコト等ニ至リテハ醫師ニ助言ヲ乞フベキコト肝
 要ナリ先ツ第一ニ家内ノ人々ノ注意スベキハ病者ノ吐瀉排泄物ハ其他タ
 ルヲ論セズ之ヲ燒盡クスカ若シクハ五「ペルセント」ノ石炭酸ノ如キ消毒

劑ヲ以テ消毒スベシ而シテ之ヲ下水若シクハ其他ノモノト申ニ捨テ去ル
 前數時間ハ必ズ其儘ニナシ置クベシ黴菌病ノ室内清潔法ニ至リテハ醫師
 若シクハ衛生局員ノ指圖ニ從ヒ之ヲ行フベキモノトス

結核黴菌病毒ハ廣ク空氣中ニ散布スルコト多シ何トナレバ該病ニ罹レル
 モノガ其病床ニ臥スルマデハ長キ時間ヲ經過スルモノニシテ其間ハ普通
 ノ人ニ混シテ街上ヲ歩行スレバナリ吾人ハ既ニ肺病及實布的里亞病傳播
 ノ危險ハ割合ニ單純簡易ナル方法ニ因リテ防遏シ得ベキモノナルコトヲ

論セリ而シテ實布的里亞及ビ之ト類似ノ麻疹熱球程ノ如キハ其塵埃ニ
 混セル病毒多クハ其患者ノ一家中若シクハ室内ニノミ存スルモノナリ何
 トナレバ是等ノ病ニ侵サレタルモノハ通常直ニ閉居スルカ或ハ病床ニ横
 ハラザルヲ得ザレバナリ去レド此等ノ患者ニ在リテハ其病中全ク籠居セ
 ズシテ街上ヲ歩行スルモノ或ハ判然其病ニ侵サレタル後數日間普通ノ人
 ニ混シテ散策スルモノモアルナリ

以上說ケルカ如ク諸病毒ハ常ニ空氣中ノ塵埃ト相混シ飛散スルカ故ニ平
 素必要ノ外ハ口ヲ閉チテ開クコトナクソノ呼吸ハ鼻ヲ以テスルコソ完全
 ナリトイフベケレ

最近研究彙報

植物解剖學生生理學生計學形狀學等ノ部

Belajeff, Wl. 植物ニ於ケル「カリオキネーゼ」分裂ノ研究 (Flora
 Erlangenband z. Jahrg. 1894)

植物ノ核分裂ニ就テ吾人が今日有スル所ノ智識ハ主トシテ單子葉植物ニ
 アリ著者ハ之ニ反シ裸子植物ナルフトまつ「花粉母細胞ガ此研究ニ頗ル
 適當ナルヲ發見シ之ニ就テ核分裂ヲ精檢シ附スルニ寫眞圖二葉ヲ以テス
 Correns, C. 植物細胞膜ニ就テ (Jahrb. f. Wiss. Bot. XXVI, 4, 1894)
 從來細胞膜ノ生長ニ就テ二説アリ甲ハ其生長スルモノ細胞膜外ニ於ケル

原形質ノ作用ニ因ルモノニテ膜ノ實質内ニシテ絶エテ原形質ナシト論ジシ
 (澳國ウヰブナー一派)ノ細胞膜ノ實質内ニ原形質アリテ細胞膜ノ生長
 ハ此原形質ノ爲ニ起ルニアリト論ジ著者ハ諸種植物細胞膜ヲ顯微鏡化學
 的ニ研究シテ以テ實質内原形質ナキヲ論ジ以テ乙試ヲ反駁シタリ

Ganong, William Francis 著(はてん科)ノ形狀學并ニ生計學研究
 (Flora, Ergänzungsband z. Jahrg. 1894)

Gilay, E. 及 Abersson, J. H. 「アルコール」醱酵ノ際酸素進入
 ガ「アルコール」特ニ炭酸造成上ニ及ボシ影響ニ就テ (Jahrb. f. Wiss.
 Bot. XXVI, 4, 1894.)

Hansteen, Barthold 種子ノ貯蓄物が空虚ト爲ル原因ニ就テ
 (Flora, Ergänzungsband z. Jahrg. 1894)

種子が發芽スルニ當テ其内ニ在ル所ノ貯蓄物化學的變化ヲ受ケ胚ノ方向
 ニ向テ流動ス而シテ著者ハ從來ノ説ニ反シ其變化ハ胚ガ醱酵素ヲ分泌スル
 が爲ニアラズシテ胚乳内ニ醱酵素是アルガ爲ナルヲ論ジ又其胚ニ向テ
 流動スルハ其内ニ於テ其物質ヲ使用セララル、ガ爲ニ起ルモノタルヲ論
 述ス

Hildebrandt, Friedrich れんげんノ花柱ニ長短二様アルヲ并ニ
 其合ロノ子ヲ生ズルヲ (Bot. Zeit. Jahrg. 59, XI, 1894)

Jungner, J. R. 高山ノ季候ノ葉 (Flora, Ergänzungsband z. Jahrg.
 1894)

Nesher, A. Fasciation ノ研究 (Oester. Bot. Zeit. XIV, 10, 11,
 12, 1894)

Raichorski, M. トウモロコシ科并ニヒトケ科ノ研究 (Flora,
 Ergänzungsband z. Jahrg. 1894)

Rohert, Wladislaw 根ノ尖端ノ官能ニ就テノ論議(全)
 根ノ尖端ノ向地性向光性等ニ於タル關係ニ就テハ學者間ニ論議絶エズ或
 ハ正反對ナル論議ヲ爲スモノスラ是アルニ至ル著者ハ此等學者ノ論文ニ
 批評ヲ下シタリ是レ即本論文トス

Schwendener, S. V. Hölhel が所謂軟皮纖維ノ Verschiebung ニ就
 テ (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. XII, 8, 1894)

Tschirch, A. 分泌物及分泌分造成ニ就テ (Bot. Centr. IX, 4, 1894)

隱花植物ノ部

Belajeff, Wl. 植物精虫ノ造擇并ニ發生ニ就テ (Flora, Ergänzungsband
 z. Jahrg. 1894)

著者ハ輪藻科ニ屬ニ於テ精虫ノ造擇發生ヲ精檢シ精虫ノ本体ハ管テ佛人
 キギヤール (Guignard) ガ論シタル單ニ細胞核ヨリノミ來ルトノ説ニ反

シ原形質モ其造擇上ニ預ルモノタルヲ論究ス
 Bresadola, J. W. Krigen が採集セルサキニン國ノ新菌數種

(Hedwigia, XXXIII, 4, 1894)

Brune, E. 海藻ノ内容体ニ就テ (Flora, Ergänzungband z. Jahrg. 1894)

此論文ハ諸種海藻ノ内容体ヲ顯微鏡化學的ニ研究シタルモノニテ是レ著者ガイタリア國ナポリノ實驗場ニ於テ行ヘル研究ナリト云フ

Dihm, H. 土馬騾ノ實靈環ノ研究(全)

Borzi, A. Dictyosphaerium 屬ニ就テ (Ber. d. Deuts. bot. Ges. XII, 8, 1894)

Heinricher, E. 羊齒科不定芽ノ發育史問題 (Bot. Centb. IX, 11, 1894)

Hennings, F. ヴェルリン王立植物博物館ノ新奇ナル菌類第二 (Hedwigia, XXXIII, 4, 1894)

Jack, J. B. 及フ Stephani, F. 千八百六十四年 Ed. Grœffe ナウキナチー井ニサモア島ニ於テ採集シタル地鏡 (Bot. Centb. IX, 4)

Lindau, G. Ditola radicata ノ選擇井ニ分類トノ位置ニ就テ (Hedwigia, XXXIII, 4, 1894)

Maul, R. はこのキ屬果實内ニ於ケル「メクレンロチウム」造成ニ就テ(全) Maurizio, Adam 水菌科ノ發生井ニ分類 (Flora, Ergänzungsb. z. Jahrg. 1894)

Müller, J. ヴァサンナラ地方ノ地衣 (Bot. Jahrb. XXII, 1—2) .

Falla, E. (ユンノイテ) 無キ接合藻ノ一新種屬ニ就テ (Ber. d. Deuts. bot. Ges. XII, 8, 1894)

bot. Ges. XII, 8, 1894)

是レ著者ガ昨年五月グラーツナルトローベルバード近傍ニ於テ發見セル接合藻ノ一新種 *Mongeotlopsis calospora*. ノ形状接合法ヲ記載ス此藻ハ能ク *Mongeotia* ニ類似スト雖モ其「ビレンノイド」無キトト其接合法トニ因リテ之ト異リ著者ハ終リニ從來ノ接合藻分類法ヲ論ジ別ニ新ナル分類法ヲ案出シタリ

Rabinowitsch, L. 腹菌類ノ實体ノ發育ニ就テ (Flora, Ergänzungsb. z. Jahrg. 1894)

Roger, H. 高麗ノ某種「メクタリア」ニ於ケル作用 (Comptes-rendus de l'Académie des sciences de Paris, CXIX, 23, 1894)

Sauvageau, C. 疏殼菌ノ *Isaria farinosa* ニ及ボス作用ノ種々ナル一 (Bulletin de l'Herbier Boissier, II, 10)

Schffner, V. ヴェルリン博物館所藏 *Byopleris*, *Physananthus*, *Pychanthus* 井ニ *Phrygnionema* 屬ノ靈藻 (Hedwigia, XXXIII, 4, 1894)

Schmitz, Fr. 岡村氏採集日本新紅藻(全) Schostakowitsch, W. 地鏡ノ生殖井ニ回復的現象ニ就テ (Flora, Ergänzungsb. z. Jahrgang 1894)

Sydon, P. *Puccinia Winteriana* P. Magn. (Hedwigia XXXIII, 4, 1894)

Tepper, J. G. O. 臺灣産ノ苔ナル一新菌 *Laccoscephalum basilioploides* Me Alpine et Tepper ニ就テ (Bot. Centb. IX, 7)

植物分類學并ニ地理學ノ部

Wehner, C. 「ニクソノロナツム」ヲ造成スル所 Penicillium ノ一新種 (P. italicum) (Hedwigia XXXIII, 4, 1894.)

Zukal, H. 分裂藻ノ研究 (Oest. bot. Zeits. XLIV, 10)

Zukal, H. 數種ノ分裂藻ニ於タル新奇ノ觀察 (Ber. d. Deuts. bot. Ges. XII, 8, 1894.)

Alboff, N. トランスカウカシブ地方ノ植物 (Bulletin de l'Herbier Boissier, 11, 10, 1894.)

Briquet, J. マールノ、ノンニブンス、ミエノツス并ニシエラ地方ノ新奇ナル植物標本(全)

Briquet, J. 「フロラ」研究上統計的方法ノ使用ニ就テ(全)

Brotherus, V. F. 亞弗利加地方ノ苔蘚標本 1 (Bot. Jahrb. XX, 1—2)

Buchenau, F. Oryza chandessina ノ分布第 11 (Bot. Zeit. 52, XI)

Buser, R. Gyrypidium 屬ノ Gyrypidium 屬ノ修正ニキ (Bulletin de l'Herbier Boissier, 11, 10, 1894)

Degen, A. v. Moehringia Thomassiana ノ分類上ノ位置ニ就テ (Oester. bot. Zeits. XLIV, 12, 1894)

Engler, A. 亞弗利加ノ ウツシヤ科 (Bot. Jahrb. XX, 1—2)

Engler, A. 亞弗利加ノ Podostemonaceae (全)

Engler, A. 亞弗利加ノ Hydrostachyaceae (全)

Engler, A. 亞弗利加ノ ウツシヤ科 (全)

Engler, A. 亞弗利加ノ ウツシヤ科 1 (全)

Faring, J. Salix caprea 并ニ S. cinerea ニ於タル異常ナル葉裏花ノ發現 (Oest. Bot. Zeits. XLII, 12, 1894)

Hoffmann, O. 亞弗利加ノ 蕨科 標本 11 (Bot. Jahrb. XX, 1—2)

Knoblauch, E. 龍膽科 ニ就テ (Bot. Centh. IX, 11—12)

Kränzlin, F. クンニ地方ノ 蘭科 (Oest. Bot. Zeits. XLII, 12, 1894)

Krause, Ernst H. L. Pinus Mughus ノ ノルター地方ノ野生植物ニ非ル (Ber. d. Deuts. bot. Ges. XII, 8, 1894)

Krauss, Ernst H. L. Hex Aquifolium ノ植物標本上雜件 (Bot. Centh. IX, 11—12)

Lindau G. 亞弗利加ノ ウツシヤ科 標本 11 (Bot. Jahrb. XX, 1—2)

Mueller, Baron F. v. 採集植物ノ記 (Bot. Centh. IX, 8)

Leemen, Otto v. Platanthera bifolia Rehb. var. robusta (Oest. Bot. Zeits. XLIV, 12, 1894)

Warburg, O. 亞弗利加ノ ウツシヤ科 標本 11 (ウツシヤ科) (Bot. Jahrb. XX—2)

Weststein, R. v. 澳洲國ノ植物研究 (Oest. Bot. Zeits. XLIV, 12, 1894)

植物研究處法ノ部

Peiffer v. Wellheim, F. 淡水藻ノ調製法 (Jahrb. f. Wiss. Bot. X XVI, 4, 1894)

此論文ハ淡水藻(分裂藻ヲ除ク)ノ固定、養水、貯藏、染色、封入ノ諸法ヲ論ズ就中其染色法ハ著者ガ新案ニ係ルモノニシテ頗ル好結果ヲ呈スト云フ而シテ其特論ノ部ニハ數多ノ紅、褐、綠藻并ニ硅藻ニ就テ一々其固定、貯藏、染色、封入法ヲ詳記シタル表ヲ附セリ

○寄贈書目録 明治廿八年二月十二日以降領収分

- 東京醫學會雜誌 第九卷第三號 東京醫學會○北海道水産雜誌 第拾七號
- 北水協會○大日本蠶絲會報 第三十一號 大日本蠶絲會○日本藥業新誌 第二百六十四號 衛生社○日本農業新誌 第二號 農業社○地學雜誌 第七十四卷 東京地學協會 ○地質學雜誌 第十七號 地質學會
- 動物學雜誌 第七十六號 動物學會○東洋學藝雜誌 第百六十一號
- 東洋學藝社○日本蠶業雜誌 第八十號 日本蠶業雜誌社○大日本農會報 第百六十一號 大日本農會○軍醫學會雜誌 號外 陸軍々醫學會○岐阜縣農會報 第三十號 岐阜縣農會
- The Journal of Botany, No. 384—5. 二册
- The Gardeners' Chronicle, No. 415, 417—20. 五册

J. Arechavaleta, Anales del Museo Nacional de Montevideo, II. 1894. 一册

Fritz Graf von Schwerin, Ueber einige zum Teil neue Alorn-Arten. 分刷一册

Bulletin of Miscellaneous Information, — kew. No. 94, 1894. 一册
Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome II. 1894, NO. 12. 一册

○植物學雜誌 明治廿八年三月調現存

- 第五號 第九號 第十一號 第十三—十六號 第二十號 第二十四—五號
- 第廿七—八號 第三十二—四十四號 第四十七—九號 第五十二—八號
- 第六十號 第六十二—九十六號

東洋學藝雜誌

明治廿八年
二月廿五日
發兌第百六
十一號

定價一册十錢六册前金五十四錢(郵稅共)

論說

● 元素 ニ關スル 思想ノ發
達(承前) 櫻井錠二

腫物

● 山極勝三郎 ノ話(承前)
● 紫外光線 ノ性
及

空中電氣

● 野敏之丞 (圖入) 水
● 害虫 (圖
入) 佐々

雜錄

● 西說觀象經 安政年
間舊幕

規則

● 明治ノ初年海
外留學生規則

雜報

● 東京の經度 ● マヘマチカル、ガゼツ
ト ● 玄鹿館 ● 空氣中の窒素と化學上製
出したる窒素 ● 倫敦皇立學會の年會 ● 同會の賞
牌受領者 ● 東京物理學校 ● 土器の押し形の元を
示す便法 ● 細胞學の進歩 ● 上野動物園の駱駝 ●
理學士神保西伯利亞に植物を採集す ● 山東省の
聖廟に生ずる樹木等數件外に學會記事並に應
問

發行所

東京神田裏神保町
東洋學藝社

動物學雜誌

第七十六號
二月十五日
發行

一册金十錢郵稅一錢六册七十二錢

目次

● 九州産薄殼類 Lepostraca 豫察
報告(天草ねほりあニ就テ) 中川
久知君 ● 紐蟲(Nemertini)ノ側感器(Orbiten-
Corgan) 高倉卯三君 ● 鼈ノ産卵ニ就キテ
箕作佳吉君 ● 寄生性足類(Parasitic Copropo-
dites)ニ就キテ 藤田經信君 ● 日本産葉脚類
前號ノ續キ(摘要) 石川千代松君 ● 淡水水
ボリアの排泄器に就テ(摘要) 丘淺次郎君 ●

雜錄

● 動物學研究用藥劑便覽續キ ●
● 動物學
上著論文を讀む會 ● ウラナシミ彦山
にも多し ● 鱗虫の潜伏と敵虫 ● 志賀島採集
一斑 ● 銃獵一斑 ● 軟體動物採集ノ一法 ● 岸
上鎌吉君ノ著作 ● 五島清太郎君ノ近狀 ● 本
誌體裁云々の正誤 ● 相州三浦三崎帝國大學
實驗所 ● 三崎土産三幅對 ● 「いそぎんちや
く」の逸物 ● 「エビ」網 ● 水戸地方ノ蝸牛 ● 露
浦淡水産貝類 ● 札幌博物學會 ● 同會規則 ●
東京動物學會記事 ● 動物學研究者親話會

發賣所

東京神田
裏神保町
敬業社

●廣 告●
理科大學教授博士松村任三先生著

日光山植物目錄

全一册
定價六拾錢
學名及和名
索引附

白根、男體ノ高峯、馬返ノ峻峻、赤沼ノ曠原、金精ノ鬱林其他銚石、中禪寺、湯本等ノ勝區ニ野生スル九百有餘種ノ花卉草木ヲ盡ク網羅シタル目錄ナリ此名山勝地ヲ探檢スル内外ノ人士殊々修學旅行ヲ企圖セラル、教員、學生諸君ハ必ス一本ヲ備ヘサル可カラズ
理科大學教授博士松村任三先生著

和漢洋譯本草字典

全一册
定價六拾錢

本書ハ英語其他數十ヶ國ノ語ニ於ケル植物及藥品等ノ名稱ヲ和漢兩名ニ對譯スルニ羅馬字ト假字トノ兩様ヲ以テシ加之植物所屬ノ科名ヲモ記入シタルモノナレハ是亦坐右ニ缺クヘカラサル良辭書ナリ
池野成一郎譯

顯花植物分科檢索篇

全一册 正價二拾錢 郵稅四錢

本書ハ管テ植物學雜誌ニ附録トシテ連載セルモノヲ集メテ一册トナシ別ニ詳細ナル和洋科名ノ見出表ヲ附シタルモノ也殘部有之候ニ付御入用ノ方ハ至急申込アレ

賣捌所

東京日本橋
裏神保町
通三丁目

敬業社
丸善書店

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金五錢

三回以上割引仕候

○本誌毎月一回發兌一册金拾貳錢○六册前金七拾貳錢

○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り壹册拾錢

○配達概則

第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セ

ズ○第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發

兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ

○第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四

條 特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナ

レバ御届可申候

明治廿八年三月十九日印刷
明治廿八年三月二十日發行

版權所有

編輯兼 發行者 印刷者 印刷所 發行所 賣捌所 同

井上 蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地
熊田 宜遜
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
熊田 活版所
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
敬業社
丸善書店
東京市日本橋區通三丁目

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治廿一年二月三日内務省許可

Vol. 9.]

March 20, 1895.

[No. 97.]

CONTENTS.

Verzeichniss der durch K. Jimbō in Siberien gesammelten Pflanzen. Von Prof. Jinzō Matsumura.	87
Plants collected in Mt. Myōkō. By Sadahisa Matsuda.	93
Studies on the Buckwheat. By Tsutsumi Ichimura.	99
Mr. H. Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants. (<i>Continued from No.</i> 96.) By Tomitarō Makino.	102
Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia. By Komajirō Sawada.	106
Phanerogams of Shōnai. By Takiya Kawakami.	107
Miscellaneous:—	110
Short Notes.— <i>Ficus erecta</i> , Thunb.— <i>Utricularia vulgaris</i> , L. var. <i>pilosa</i> , Makino.— <i>Myrica Gale</i> , L. var. <i>tomentosa</i> , Cass. found in Mikawa.—New Japanese Names of Plants.—New Literature.— Publications Received.—etc.	

All letters and communications to be addressed to the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

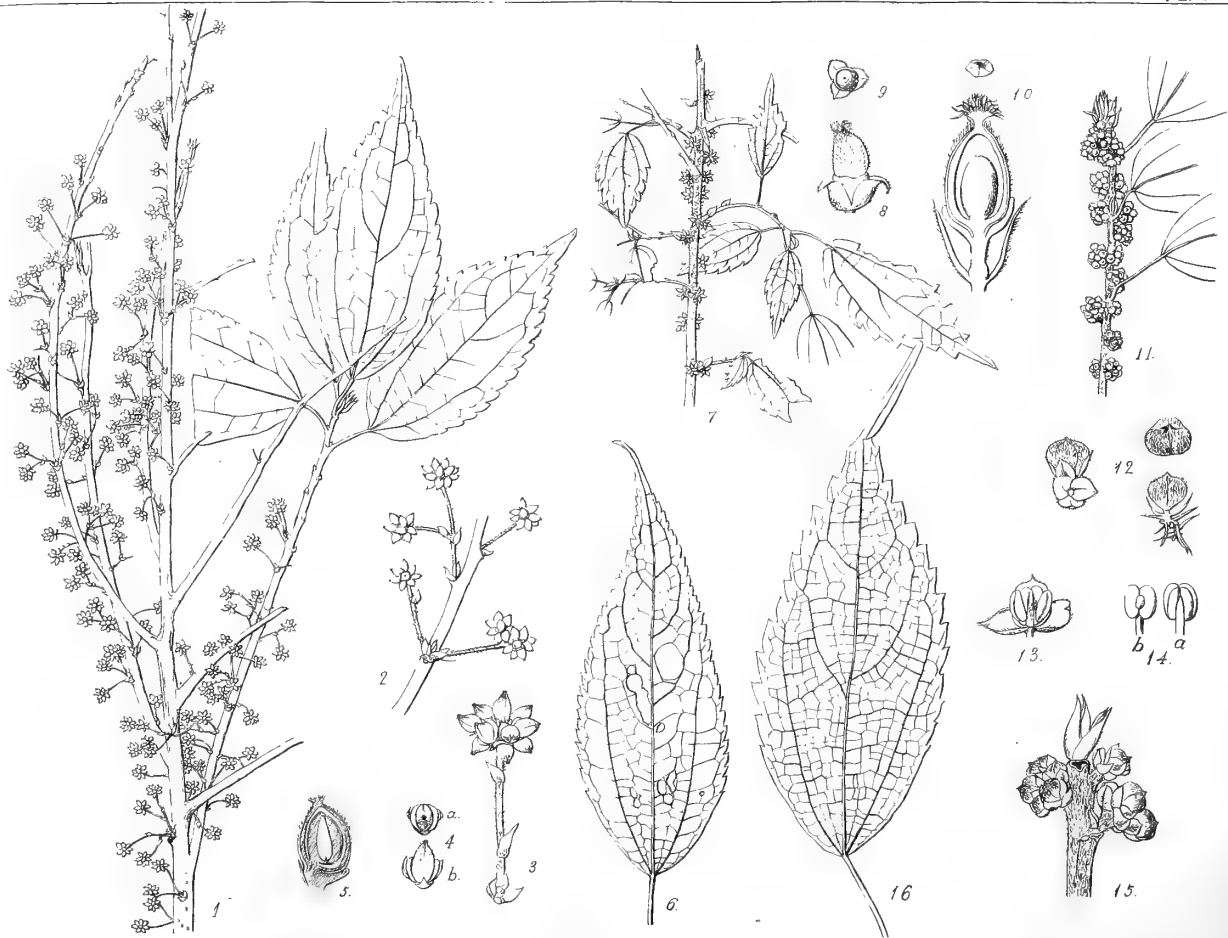
明治廿六年六月三十日遞信省認可

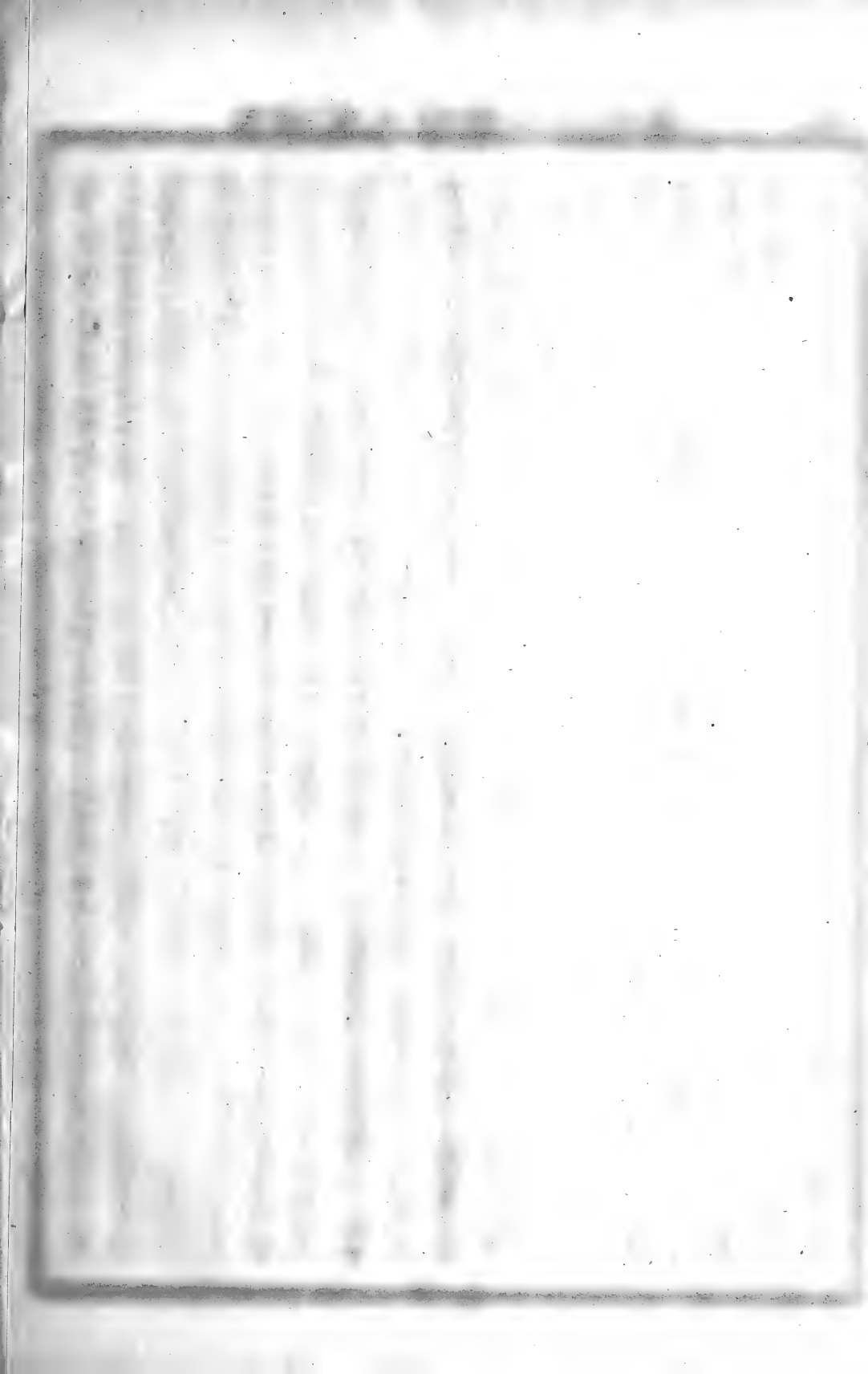
印刷所

東京市神田區錦町三丁目廿五番地

熊田活版所







植物學雜誌第九卷第九十八號

明治廿八年四月二十日

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. IX.]

April 20, 1895.

No. 98.]

日本産いはがね屬ノ新種ニ就テ (第四版)

理學士 白井光太郎

日本産Sはがね屬 (Villeana) ノ種類ニ就テハフランシエー、サバチエー兩氏共撰日本植物目錄ニ一種Sはがね (*V. frutescens* Bl.) ナ記載セル以來今日ニ至ルマデ未ダ新種ノ發見アリシヲ聞カズ。

予ハ明治廿六年八月中農科大學ヨリ植物採集ヲ命ゼラレ同僚池野氏ト共ニ九州地方ヲ巡回セシ時薩摩及大隅ノ南部ニ於テ屢一種ノ異木ヲ目撃セリ其木いはがねニ似テ葉裡ニ白絨毛ナキノ特徴アリ依テ其花實ヲ採集セント欲シタレモ容易ニ得ル能ハサリシが大隅ノ南端佐多ニ至ルニ及ビ遂ニ其結實品ヲ檢出シ得タリ。

此種ハ予ガ案内者ヨリ聞キ得タル所ニ據レバ大隅佐多ノ邊ニテハ方言はだらト呼ビ其葉ヲ家畜ノ飼料ニ用ユルコトアリト謂ヘリ是ヨリ先田代安定君ハ千八百八十七年琉球ニ於テ此木ヲ採集シ之ヲ帝國大學ノ植物品彙中ニ加入セラレタリ氏ノ報告ニ據レハ此木ノ鹿兒島縣下方言ナはどばのきト謂ヒ琉球各島隨所ニ生スト云フ又農科大學所藏採集者不明ノ一標品ニハはどきのきト記名セリ此はどきのきテフ名ハ山林局出版ノ日本植物帶報告ニモ見ユ然レバ以上三名中はどのきの名最モ世間ニ聞コエタル者ノ如シ故ニ予ハ之ヲ以テ此木ノ普通名トナサント欲スルナリ。

日本産Sはがね屬ノ新種ニ就テ

日本産いはがね屬ノ新種ニ就テ

此木ハ斯ク邦人ノ間ニハ臆ゲニ解リ居タル種類ナレモ其果シテ何物ナルヤヲ考定シ之ガ詳説ヲナシタル者アルヲ聞カズ加フルニ其既知ニ屬スルいはがねナル種類モ唯藝名備考和訓鈔ニ「いはがね紀州ニアリ小木コノ岩石ノ間ニ生ス葉ノ形苧麻ニ似タリこゝめうつぎノ木ニ似タル花ヲ開クモノナリ」トノ解説アルノミニシテ甚詳ナラズ故ニ予ハ今回此兩種ヲ一圖中ニ收メ以テ此等兩種ノ區別ヲ明瞭ナラシメンコトヲ期セリ。

此木ノ羅丁名ハ予新ニ之ヲ *Villebrunea pedunculata* ト命ゼリ是其花梗ノ著シク長キ性質ニ取レルナリ又其形狀左ノ如シ。

はどのき 一名 はだら 一名 はとばのき

羅丁名 *Villebrunea pedunculata* n. sp.

灌木ニシテ大ナル者ハ高サ一丈五尺許直徑三寸許トナル頗ル枝條ニ富ミ新枝ハ褐色ノ絨毛ヲ帶ブルモ老スルニ及ビ無毛トナル樹膚赤褐色、葉ハ卵圓披針形若クハ長橢圓披針形ニシテ先漸ク尖リ脚部少許ヲ除キ周邊細鈍鋸齒アリ葉面ニハ粗毛ヲ疎布シ葉背ハ其三大縱脉上ニ粗毛ヲ帶ブ長一寸八分乃至四寸許幅九分乃至一寸四分アリ葉柄長三分乃至一寸三分許ニシテ粗毛ヲ帶ブ雌花ハ球形ヲナシ八乃至十二ノ小花ヨリ成リ三分許ノ總梗ヲ具ヘ總梗ニ粗毛ヲ帶ブ雄花ハ未ダ見ズ果實ハ卵圓形ニシテ兩側ヨリ壓扁シタル狀ヲナシ子房ノ腹面ニ相當スル處大ニ脹出シ其花盤ニ附着スルノ點盤ノ正中ニ在ラズシテ一側ニ偏倚セリ。

產地ハ大隅、薩摩、土佐、(牧野氏)琉球(田代氏)

又いはがねハ予九州巡回中長崎市諏訪山公園ニ於テ採集セリ此木ハ一根濫生シ枝條細弱ニシテ其狀貌宛モわかそ、こわかそノ輩ノ如シ其葉ハはどのきニ似テ薄ク、鋸齒較粗ク、葉裡ニ白絨毛アルヲ異トス。

圖 解

- (一)はごのきノ着實枝(實大)(二)同上ノ一部ヲ放大セルモノ(三)はごのきノ花梗及果實(放大)(四)はごのきノ果實ハ仰面、bハ背面(放大)(五)同上果實縱切面(六)はごのきノ葉(實大)
- (七)いはがねノ着實枝(實大)(八)同上ノ果實(放大)(九)同上ノ苞及花盤(放大)(十)同上果實ノ縱切面(放大)(十一)いはがねノ雄花ヲ着ケル枝(十二)雄花(放大)(十三)雄花ヲ開キ雄蕊ヲ見ル(十四)雄蕊(放大)a、背面b、腹面(十五)雄花(放大)(十六)いはがねノ葉(實大)

れたね人參種子ノ解剖

市 村 塘

れたね人參ノ根ハ夙ニ「補脾胃生陰血」温主腹腰消食補養臟腑益氣安神止嘔逆平脉下痰止煩燥變酸水」ノ特效アル靈藥トシテ清人ノ重用スルトコロナリ、我邦漢法醫モ之ヲ煎藥ニ調合シ來ルヤ久シ其值モ亦甚々廉ナラス聞ク根ノミカハ種子モ尙能ク藥用ニ適スト、客臘余ハ莫逆安井伴一君ノ厚意ニヨリ雲州地方ニ栽植セル人參根ト共ニ其種子ヲ見ルノ榮ヲ得タリ抑モ該植物ノ學名及ビ記載ニ就テハ業ニ本誌第八十七號ニ於テ牧野富太郎君ノ御説アリ吾亦何ヲカ言ハン唯予ガ聊カ陳ベント欲スルモノハ其種子ノ外形及ビ構造ノ如何ニアル而已

種子ハ外形豆大ニシテ長サ五、五ミ、メ、巾四、五ミ、メ厚サ二、ミ、メ、ニ過ギザル小粒ナリ其上端ノ一方ハ多少摘出セラレ直下ニ凹陷處アリ、是種子ノ子房壁ニ附着シ居タル臍 *hilum* ニ外ナラズ後此部分ヨリシテ幼根ヲ萌出シ漸ク生長スルニ從ヒ種皮ヲ裂半シ自分ハ地ニ向ヒ子葉ト幼芽トハ天ニ向フ、斯ク種皮ノ容易ニ裂半シ得ル所以ハ臍部ヨリ種子ノ縁邊ニ沿ヒテ上下ニ深入ノ縫合線ヲ具フルニ歸因セズンバアラズ、未ダ萌芽セザル種子ニテモ容易ニ人工的方法ヲ以テ裂半シ得ルヲ恰モ蛤貝ノ殻ヲ開クガ如キニテモ知ルベシ、種子面ハ

灰白色ヲ呈シ外縁溝線ト並行ニ縱走セル溝渠ハ兩面各三條アルヲ常トス、大体種子ハ種皮ト胚ヲ包藏セル胚乳ノ二部ニ分ツヲ得ルナリ、

種皮ノ截片ヲ顯微鏡下ニ照ラセバ惜哉表皮ハ既ニ剝脫サレ其眞想ヲ窺フ能ハズ何レノ種子モ皆然ルヲ以テ他

日新鮮種子ヲ得ルヲ待ツノ外ナシ、然レモ或五加科植物やつでノ如キハ圓筒狀ノ細胞ヨリ成レル表皮ヲ有シ

而モ剝離シ易シ人參ノ種子モ或ハ之ニ庶幾キ者ナラン歟、種皮ハ悉ク

厚壁細胞ヨリ成ルト云フモ過言ニ非ズ殊ニ其周縁ニ於テ著シク厚化度

ノ發達スルヲ見ルナリ大体種皮ハ之ヲ四層ニ區別シ得ヘク最外層ハ殆

ント全厚ノ四分ノ三ヲ占メ、〇二ミ、メ、乃至、一三ミ、メ、ノ長サアル細

圖 甲



イ、種子自然大

ロ、側面

ハ、裂半圖

ニ、横斷面

胞カ別ニ一定ノ排列ナシノ縱横自在ニ入亂ル、組織ヨリ成レリ、各細胞壁ノ出入夥多シト雖モ斑紋未ダ大ナ

ルニ至ラズ、次層ハ通常四列ノ細胞層ヨリ成リ種子ヲ水平ニ圍繞ス、即チ反言セバ各細胞ハ其長ミニ沿フテ走

ル如ク横斷面ニ見ハル、者ナラズンバ非ズ必ズ立派ナル斑紋ヲ具有シ一種ノ木質ばれんさまトモ稱スルニ足

ルベキ部分ヲナス、第三層ハ主トノ斑紋導管狀ノ非常ニ長キ細胞ノ四列ヨリ構成セラレ種子ニ沿フテ縱走ス、

然レモ孰レヲ問ハズ固ヨリ木質はれんさまニ非ラズ又斑紋導管ニ非ラズ、唯厚化壁細胞ノ變形ナルノミ、第

四層ハ四方平等ノ普通細胞一列ヨリ成リ膜壁亦頗ル厚化セズ、大サ、〇一二ミ、メ、許ノ大小不同ナキ平等小細

胞集合ト考ヘテ可ナリ、種皮ヲ剝離スレバ殘ル者ハ胚ヲ包藏セル胚乳ノ扁塊ナリ、胚乳ノ種皮ニ接スル部位ハ

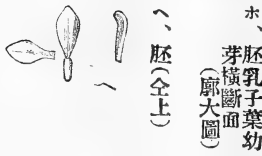
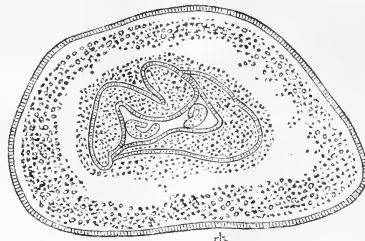
稍黃褐色ヲ帶ブベシ是外ニ〇〇二ミ、メ、ノ厚サヲ有スル數石細胞ノ一列アリテ色素ヲ含蓄スレバナリ、漸ク

内方ニ入ルニ從ヒ數石細胞ハ平等細胞ニ變移シ平等細胞ハ遂ニ圓筒細胞ニ變移ス、此組織ハ頗ル脂肪球ニ富

ミあるかなヲ試用スレハ容易ニ石竹色ニ染着ス、球ノ大サハ細胞ノ厚サト反比例ニ存在シテ薄細胞ヨリ成
 レル周邊部ハ却テ直徑、〇一二ミ、メ、モアル大脂肪球ヲ含存スト雖モ内部ニ行クニ隨ヒ顆粒狀トナルナリ、
 之ト胚トノ間ニ於テ特別ニ岡比安的細胞層ガ五六列ヲ造リ胚ヲ包藏ス内ニ稍大ナル、〇〇九ミ、メ、位ノ脂
 肪球ヲ見ン、

胚乳中ニ存在スル胚 Embryo ノ全長ハ四、五ミ、メ、アリテ子葉二、二ミ、メ、幼根二、四ミ、メ、アリキ然レ

乙 圖



ホ、胚乳子葉幼芽横断面 (廓大圖)
 ハ、胚(全上)

胚ハ只纔カニ胚乳ノ五分ノ二ヲ占ムルニ過ギス、子葉ハ倒卵形
 ヲ有シ其先端ニ小凹陥アリ、其最モ巾廣キトコロハ一、六ミ、メ、
 程アリ二子葉ノ間ニ幼芽對生ス、偕テ子葉ガ胚乳中ニアリテ如何
 ニ變疊スルカヲ述ベン、則チ圖ニ示スガ如ク一葉ハ多少折返ヘリ
 他葉ハ疊ミカケリ故チ以テ其横断面ヲ見レハ一方ハS形ヲ呈シ他
 方ハV形ヲ示ス同時ニ其間ニ嵌挿セル幼芽ノ對生スル模様ヲモ知
 リ得ベシ、此圖ハ幼芽ノアル邊ニ於テ子葉ヲ横斷シタルモノナレ
 凡勿論切斷ノ場所ニヨリ心藏形或ハ菱形ノ幼根切斷面ノミヲ見ル

コアリ、又子葉ノミヲ見ルコアリ固ヨリ是理ノ當然、敢テ余輩ノ言ヲ待タサルトコロトス幼根、子葉共ニ外方
 ニ表皮細胞ノ一列アリ、内方ハ悉ク柔軟ナルはれんさまヨリ成リ、所々ニ小細胞ノ群團ヲナシ散在スルヲ見
 ルコハ維管束ノあんらわげニ外ナラザルナリ、
 以上ハ余輩ガ乾燥セルかたね人參ノ種子ニ就テ粗略ニ解剖シタル一斑ヲ記セシニ止マル若シ之ヲ以テ新鮮ナ

ル種子ト比較セハ或ハ大ニ悟ル所アルベケレモ何時得ルカ分ラズ免ニ角餘リ得易カラヌモノナル故不取敢
解剖シテ讀者諸君ニ示スコト、ハナセリ諸君是諒之焉

土佐國產地錢科植物第二報

高知縣 井上虎馬

昨年七月發兌ノ本雜誌第八十九號ニ於テ予ハステフ、ン氏ノ檢定ニ係ル我郷國産セにひけ科(Hepaticae)植物
數種ノ名稱ヲ報告シタリ然レモ當時予ノ同氏ニ送附シタル標品ハ悉皆生殖器ヲ缺ギ極メテ不完全ノモノタリ
シヲ以テ内數種ハ尙其名稱ニ於テ多少ノ疑點ナキ能ハズ故ニ昨年春ニ至リ同科植物ニシテ予ノ未見ノ品類數
種ヲ採集スルニ當リ曩ニ同氏ニ送リタルモノニシテ生殖器ヲ有スルモノ數種ヲ發見シタルヲ以テ併セテ之ヲ
採集シ直ニ同氏ニ送致シ以テ其名稱ヲ確定センコトヲ期シ返信ノ到ルヲ待チ居タリキ頃日同氏ハ之ヲ檢定シ
テ左ノ名稱分明トナレリ由テ之ヲ前日ノ標品ト比較シ之レガ名稱ヲ考フルニ新ナルモノ六種ヲ加ヘ前ノ三種
ハ愈其名稱確定スルニ至レリ故ニ今前報ノ増補トシテ新見數種ノ名稱ヲ報ズルト同時ニ前ノ品種ニシテ再名
稱ヲ得タルモノヲ其末ニ加フ各種ノ採地ハ孰レモ我土佐國高岡郡佐川村市街ノ附近ニシテ昨年三四月ノ採收
ニ係レリ

1. *Cephalozia bicuspidata* Linn.

藁爾ノ種ニシテ溪澗ニ生ズ莖葉ノ區別略明ナリ

2. *Pellia calycina* Nees.

形狀稍 *Pellia epiphylla* ニ類似ス然レモ彼ハ溪水中ニ生ズレモ此ハ陰濕ノ地ニ生ズ葉狀体頗ル薄ク暗綠色ヲ帶

ト時ニ微紅色ヲ交フ

3. *Marchantia polymorpha* Linn.

最モ普通ノ種ニシテ各地到ル處ニ其多生スルヲ見ル前報 *Marchantia alata-capitulata* Steph. ハ形狀本種ニ酷似セリ

4. *Reboulia hemisphaerica* Raddi.

田間堤側ニ生ズ葉狀体ノ表面ハ淡綠色ニシテ裏面ハ暗紫色ヲ帶ブ雌器ハ略鈍四角形ヲナシ上面圓形ヲナス

5. *Anthroceros laevis* Linn.

濕地ニ敷生シ葉狀体薄ク深綠色ヲ帶ブ四月針狀ノ子器ヲ着ク

6. *Preissia commutata* Nees.

1. *Pellia epiphylla* Nees.

(前報第四號)

溪水中ニ生シ葉狀体深綠色ヲ帶ブ

2. *Fegatella conica* Corda.

(前報第十三號)

國中到ル處生ゼザルナシ葉狀体最モ潤ク子器ハ圓錐形ヲナシ柄長シ

3. *Saudea japonica* Steph.

(前報第二號)

普通ノ種ニシテ葉狀体ハ夏秋ノ候頗ル發育スレト其子器ヲ着クルノ際ハ殆ンド枯燥セリ外形 *Fegatella conica* ニ似タレト彼ノ如ク大ナラズシテ薄シ

莊内産顯花植物

(前號の續キ)

川上瀧彌

- Magnoliaceae.** 30. *Cercidiphyllum japonicum*, S. Z. カンラ 黒川—31. *Magnolia hypoleuca*, S. Z. ホノキ、ホンノキ(方言) 鳥海山—32. *M. Kobus*, DC. コノシ、コノキ(方言) 松嶺、吹浦—33. *M. salicifolia*, Miq. ヤトシバ 杉澤、月山—34. *Schizandra nigra*, Macz. マンサ 坂本
- Menispermaceae.** 35. *Cocculus Thunbergii* DC. アサシラナラヂ 松嶺—36. *Menispermum dahuricum*, DC. カウモリカヅラ 常禪寺
- Berberidaceae.** 37. *Akebia lobata*, Deene. シンブアケゴ、アキゴ、キンマン(方言) 観音寺、松嶺—38. *A. lobata*, Deene. var. *clenatifolia*, T. Ho. シゲのみつねむす、観音寺—39. *A. lobata*, Deene. var. *pentaphylla*, Makino. コノノタケ 観音寺—40. *Berberis vulgaris*, L. var. *japonica*, Regel. ヲコノボラス湯ノ濱、由良—41. *Caulophyllum thalictroides*, Michx. var. *robustum*, Regel. ナキコノボラン 常禪寺—42. *Epimedium macranthum*, Morr. et Deene. イカリササ 松嶺、金峯山—43. *Diphyleia cymosa*, Michx. var. *Grayii*, Macz. サンカマコ、シチンドウ(方言) 松嶺、鬼坂峠
- Nymphaeaceae.** 44. *Brasenia peltata*, Pursh. シコノサン 添川—45. *Nuphar japonicum*, DC. カンホネ、ニンゴホ、又ホシキ(方言) 飛鳥沼—46. *Nymphaea tetragona*, Georgi, var. *angusta*, Casp. ヤンシジザ 飛鳥沼
- Papaveraceae.** 47. *Bocconia cordata*, Willd. マケウツサ 松嶺—48. *Chelidonium majus*, L. シサノヲヤ
- 松嶺—49. *Corydalis ambigua*, Cham. et Schlecht. コノコサン 北俣、松嶺—50. *C. bulbosa*, DC. var. *typica*, Regel. ナココサン 常禪寺、松嶺—51. *C. bulbosa*, DC. var. *lineariloba*, Macz. forma. サノコサン

- コサン 松嶺—52. *C. incis.*, *Pers.* ヤンタマン、(方言) 松嶺—53. *C. pallida*, *Pers.* キヤン
 キヤン 観音寺—54. *C. racemosa*, *Pers.* はすあけさん(新稱) 青塚—55. *C. Wilfordi*, *Regel*, *var. ja-*
ponica, *Fr. et Sav.* キヤン 松嶺
Cruciferae. 56. *Nasturtium montanum*, *Wall.* イヌガラシ 観音寺—57. *Barbarea vulgaris*, *R. Br.* ヤ
 ガラシ 月山、鳥海山—58. *Arabis hirsuta*, *Scop.* ヤンタザホ 大岩川、小國—59. *A. lyrata*, *L.*
 ヤンタザホ 青塚—60. *A. Stelleri*, *DC. var. genuina*, *Fr. Schm.* シヤまはたるは(新稱)立谷澤、松
 嶺—61. *A. Stelleri*, *DC. var. japonica*, *Fr. Schm.* ヤンタザホ 加茂、油戸、月山(植)、青塚—62. *Car-*
damine brachycarpa, *Franch.* ニコたなぐら(新稱) 観音寺—63. *C. hirsuta*, *L. var. sylvatica*, *Link.* ヌ
 チツケバナ 松嶺—64. *C. impatiens*, *L.* シヤニンマン 鳥海山—65. *C. yezoensis*, *Max.* シヤネ
 観音寺—66. *C. macrophylla*, *Willd.* コンロンヤ 湯田川—67. *Capsella Bursa-pastoris*, *Moench.* ナ
 ナ 松嶺—68. *Eutrema Wasabi*, *Max.* ハサロ 松澤—69. *E. hederifolia*, *Fr. et Sav.* コリナサロ
 山
Violariace. 70. *Viola biflora*, *L.* キンナコマンメ 月山、鳥海山—71. *V. glabella*, *Nutt.* ホキキス
 シ 松嶺、荒瀬、川岸—72. *V. hirta*, *L. var. collina*, *Regel.* ヤサアけぢみね 小國—73. *V. japonica*,
Langsd. コスミン 青澤—74. *V. phalaecarpa*, *Max.* アカチスミン 観音寺、松嶺—75. *V. Patrini*, *DC.*
var. chinensis, *Ging.* スミン、シキトリメナ(方言) 観音寺、松嶺—76. *V. Patrini*, *DC. var. typica*, *Max.*
 シロスマン 松嶺—77. *V. sylvestris*, *Kt.* *var. grypoceas*, *A. Gray* マチンホスミン、コナチメナ(方言)

金峯山、松嶺、杉澤、觀音寺—78. *V. vaginata*, *Max.* サイシムスミン 松嶺、觀音寺—79. *V. verecunda*,
A. Gray. シボスミン 鳥海山、月山、小泉—80. *V. verecunda*, *A. Gray*, *var. semilunaris*, *Max.* アキス
 ミン 市野山

Polygonaceae. 81. *Polygona japonica*, *Houtt.* トメンギ、クサンギ(方言) 月山、鳥海山、松嶺

Caryophyllaceae. 82. *Dianthus superbus*, *L.* カンラナベシロ、ノキキナク(方言) 金峯山—83. *Silene aprica*,

Thurz. *var. firma*, *Robt.* ノンシロ 高尾山—84. *Cucubalus bacciferus*, *L. var. japonica*, *Miq.* ナンズン

ハコク 杉澤、籠ノ浦—85. *Cerastium vulgatum*, *L. var. glabulosum*, *Koel.* ノナシサ 鶴岡—86. *Stel-*

laria aquatica, *Scopoli.* タンハコク 松嶺—87. *S. diandra*, *Max.* シンハコク 月山、大綱—88. *S. di-*

chotoma. *L?* 小國、坂本—89. *S. media*, *Vill.* ハコク、シリヒツサマザミラギ(方言) 鶴岡—90. *S. nemorum*,

L. var. japonica, *Fr. et. Sav.* マヤハコク 松嶺、觀音寺—91. *S. nigrosa*, *Murr.* ノンノスマ 鶴

岡、觀音寺—92. *Arenaria chokaiensis*, *Yatabe.* テンカインスマ 鳥海山—93. *A. Interiflora*, *L.* オホヤ

マンスマ 青塚、金峯山、小國—94. *A. peploides*, *L. var. oblongifolia*, *Watson.* マヤハコク 小岩川—95.

A. serpyllifolia, *L. var. leptoclades*, *Gussone.* マンシタン 青塚—96. *Sagina Linnæi*, *Presl. var. maxi-*

ma, *Max.* シメンサ 加茂、鶴岡

Portulacaceae. 97. *Portulaca oleracea*, *L.* スベリコノ、スベラロヤウ(方言) 松嶺

Elatinaceae. 98. *Elatine triandra*, *Schl.* マンハコク 福原、小泉

Hypericaceae. 99. *Hypericum Ascyron*, *L.* ナギオサウ 小國、鶴岡—100. *H. erectum*, *Th.* オトギリサ

ウ 鳥海山、鶴岡—101. *H. japonicum*, *Th.* エノオトギリサウ 小泉、松嶺—102. *H. senanense*, *Max.*
 ミヤマオトギリサウ 杉澤、小泉—103. *H. virginicum*, *L. var. asiaticum*, *Max.* ミヅオトギリサウ 鳥
 海山、月山、市野山、水澤、大綱、福原

Ternstroemiaceae. 104. *Actinidia arguta*, *Planch.* サルナシ、コクハ(方言)松嶺—105. *A. polygama*, *Planch.*
 マタ、ヒ 松嶺—106. *Stachyurus precors*, *S. N.* キンヂ 観音寺、鬼坂峠—107. *Camellia japonica*, *L.*
 ツバキ 松嶺

Tiliaceae. 108. *Tilia cordata*, *Mill. var. japonica*, *Miq.* シナノキ 松嶺、小國—109. *T. Migueliana*, *Max.*
 ホダイシユ 松嶺 (未完)

信州浅間山植物採集案内

大渡 忠 太 郎

昨二十七年夏期ニ際シ信州追分驛ニ滞在スルコト凡四十日、避暑ノ旁ラ浅間山ニ採集ヲ試ミタレバ將來該地方
 ニ遊ハル、人ノ業ニモナランカトヲ思ヒ出ルコト、モテ記シテ案内トス熱心採集ニノミ従事セルニアラザル
 ガ故ニ其不完全ナルハ勿論誤謬モ多カルベシ、ソハ諸君ノ増補是正アランコトヲ請フ

浅間山ハ上野信濃ノ界ニシテ信濃追分ノ北方ニアリ有名ナル活火山ニシテ噴烟絶ユルコトナシ海拔二千八百米突ノ
 高サアリト云フ此山ニ登ルニハ杳掛驛ヨリスルト追分驛ヨリスルトノ二途アリ前者ハ途登ルニ易シト雖モ道
 程長ク後者ハ距離甚ダ近キモ傾斜頗ル急ナリ然レモ採集ノ目的ヲ以テセバ後者ニヨルヲ得策ナリトス
 東京ヨリ追分ニ至ルニハ瀛車ナラバ御代田停車場ニ下車スルヲ便トス御代田停車場ハ浅間ノ裾野ナル追分ヶ

原ノ殆ンド西端ニアリ熔岩礫々百草繁茂一點ノ陰樹ナキトコロト想像セバ大差ナシ此間ヲ車行スル一里ニ
追分驛ニ達ス然レモ道路凹凸甚シキガ故ニ車上ハ却テ不快ナルヲ覺悟セザルベカラズ當地方ノ名産トモ稱
スベキ志やぢくさうハ路傍岩崖ノ間ニ繁茂シ此邊ニテハ珍シクモ何トモナキ感アリ、きこやう、われもかう、
きすげ、まなのおとざり、むしやりんだう、えびづる、かはらまつば、なべな、めはじき、ひきをこし、ふ
しぐろ、まここな、みやままここな、ほそばのよつばむぐら、つるそば、いぬごま、おみなへし、いぶさじ
やこうさう、みつもとさう、こをにゆり、のこざりさう、まつむじさう、いぬとくさ、いはでんだ、等此間
普通見ルトコロナリ

追分ハ中仙道ト北國街道トノ岐ル、トコロニアリ元香掛輕井澤ト共ニ信州三大宿ノ一ナリシト雖モ一朝瀛車
ノ便開ケテヨリ衰頹又昔日ノ觀ヲ止メズ僅ニ大家高樓ヲ存セルモ其寂莫驚シニ堪タリ旅宿ハ油屋助右門ヲ最
トス日用品ハ概ス不便ヲ感ズルヲナシ只鉛筆洋紙ノ類ハ東京ヨリ用意セザレバ到底辨ジガタカラン(唐物品
モ兒童向ノモノハ備ハレリ)夏期ハ植物採集ノ最好時節ナレド炎天ノ下ニ從事スルガ故ニ其苦辛モ亦多キコ
トナリ去レド此地方ハ氣候冷涼ニソ土地ノ人ハ烈暑ノ候モナホ袷衣ヲ用ル位ナルガ故ニ採集者ニ取リテハ甚
ダ都合ヨキコトナリ且夜間蚊軍ノ來襲ヲ受クルヲナク未ダ東京ノ贅澤風モ吹キ渡ラザレバ天然ヲ樂ムモノニ
トリテハ最適當ナル地ノ一ナラン

えんびせんのう *Lychnis Wilfordii* 驛ヲ去ル東方六七町ニ路傍ニ小川アリ多ク其近傍ニ産ス美麗ナル眞

紅色ノ花ヲ有スルガ故ニ容易ニ認識スルコトヲ得、北海道ニモアリトハ聞ケド他ニ未ダ其產地知ラレザル
ガ如シ此地方ニテハ孟蘭盆會ニ當リ切テ以テ靈前ニ供ス以テ其當地ニ珍ラシカラザルヲ知ルベシ

わかぬまふうろ　たちふうろト共ニ河畔ニ茂生シ長サ四五尺ヲ越ユ前者ハ花冠紅色ニノ莖ニ毛少シ以テ識
別スルヲ得ベシ花侯八月

もうせんぐさ　路傍濕潤ナル沼地ヲ驗スレバ得ベシ花侯七月下旬

むしどりなでしこ　驛ノ東端淺間神社ノ境内ニアリ此種元來邦産ニアラズ何時頃ヨリ此地ニ生ズルニ至レ

ルモノカ、境内ヨリ西方ヲ望メバ字堂ノ裏ニ當リ方十間程ノ原野全ク櫻色ヲ呈シ毛氈ヲ引ケルガ如キヲ見
ル是亦此植物ニ他ナラズ一寸見タルトコロニテハ自生トヨリ思ハレヌ程ナリ花侯七月中旬

さすげ　追分原至ルトコロニ在リ土地ノ人ハ其花ヲ摘ミ取リテ食膳ニ供ス追分沓掛邊ニテハ盛ニ之ヲ取リ
席上ニ載セ天日ニ乾シテ他日ノ用ニ備フル程ナリ

しさんからまつ　沓掛驛ノ近傍ニテ得ベシ花侯八月上旬

おほばのみやまきまん　追分驛ノ北側上水ノ旁ニ繁茂ス花侯八月

くものすしだ　驛ノ寺院墓碑上ニ得ベシ中々勢ヒヨシ

淺間ノ裾野ノ追分原ト云フ全ク火山岩屑ヨリ成リ東離山ヨリ西ハ御代田邊ニ至ル東西三里南北一里半許ノ原
野ニシテ此間最モ採集ニ適スルハ中仙道ノ路傍及ビ追分淺間間トス其餘ハ松林牧場田畠等ニテ面白カラズ

初メテ淺間山ニ登ル人ハ案内者ヲ雇フベシ賃金五十錢位ナリ水筒アラバ其用意スルヲヨシトス山中水ニ乏シ
ケレバナリ尙蝙蝠傘ノ用意忘ルベカラズ何程快晴ノ日和ニテモ驟雨ノ恐アリト知ルベシ

驛ノ東端ニテ左折淺間神社ニ至リ登山ノ安全ヲ祈リ祠後原野ニ入ル之ヨリ山ノ半腹マデ毎丁石ヲ立テ、丁數
ヲ刻セリ行ク一里ニ草津道ニ會ス此間なんばんはこべ、はなはたさは、さつりふね、まるばんぎ、めど

はぎ、いぬはぎ、くさふぢ、みつもとさう、みそはぎ、ひめしをん、しらやまぎく、どちどらのを、くされだま、ひきよもぎ、いたちさゞげ、むしやりんどう、いぬごま、いはぎばうし、きすげ等ヲ得ベシ

原野ニきいちご多ク夏期正ニ成熟シテ人ノ來ルヲ待テリ以テ渴ヲ療スルニ足ルくさげノ果實モ亦食スベシ草津道ヲ直角ニ横切り赤松林ニ入レバ途漸ク急ニシテ之ヨリ始メテ山路ノ觀アリやまはこ、たむらさう、ひめしやじん、ふくろしだ、へびのねごぞ等ヲ得ベク登ルコト凡ソ一里ニシテ赤瀧ニ至ル水朱色ヲ呈セルニヨリテ此名アリ瀧ノ近傍樹木蒼鬱苔地ニ敷キ頗ル陰濕ノ地ナリ一見其好採集地タルヲ知ルベクかざらん、ぐんぱいづる、みやまもちずり、はくさんれみなへし等奇品ニ乏シカラズ赤瀧ヲ登レバ再ビ一小原アリ千紫萬紅咲キ香フ様得モ云ハレヌ趣アリ種類ハ追分原ニ見ルトコロト異ナルコトナシ之ヨリ石尊山ヲ左ニ見テ登ルコト凡七八町ニシテ沼澤アリ生ヒ茂レル蘆ヲ踏ミ分ケ水中ヲ徒涉セザルベカラズ水、酸化鉄ヲ含ミ朱色ヲ帶ブ此邊ニやなぎらん、さはきまやう、たちふうろ、きやうがのこ等アリ古ハ七沼ノ名アリシモ今ハ只其四ヲ存ス最モ奥ナルモノハ水ベニガラ色ヲナセリ之ヲ血の池ト云フ血の池ノ近傍頗ル採集ニ適セリ恐ラク全山中他ニ比類ナカラン血の池ノ傍一小石佛アリコト右折セバ頂上ニ登ル途ナリ之ヲ登ラズノ池ニ沿フテ進メバ忽チ平地ニ出ヅやまぶさしようま、こうりんくは、しもつけ、きやうがのこ、くがいさう、のりのさ、やまあざみ、しゆるさう、はこつゝじ、をたからこう、とりかぶど等アリ、石尊山ニ沿ヒ血の池ニ流ル、溪泉アリをだからこう水中ニ繁茂シ全ク之ヲ被ヘルガ故ニ知ラザルモノハ水ヲ認ムルコト能ハザルベシ淺間山元來良泉ニ乏シ追分ヲ去リテヨリ頂上ニ至ルマデ飲用スベキモノハ只此一泉アルノミをだからこうノ葉ヲ取りテ盃トナシ受テ之ヲ掬スル甚ダ妙ナリ此地三面山ヲ背ヒ東南ノ一方開キ確氷妙義ヲ越エテ遙ニ上州ノ平原ヲモ見ルベク香

掛離山ノ如キハ呼ベバ應ニ答ヘントス此景ヲ望ミ此水ヲ掬スレバ涼風徐ロニ來リテ花香馥郁身マサニ陽春ノ
侯仙宮ニ遊ベルガ如ク下界ノ俗地ノ如キハ到底想像スルコト能ハズ余ハ追分滯在中コ、ニ來レルコト十二回途中
如何ニ苦勞スルモコ、ニ來ルノ樂ミニ消サレテ苦勞トモ感ゼズ何度來テモ飽倦スルコトナカリキ、天然ヲ樂マ
ル、人ハ是非一遊アランコト望ム、山地ハ晴雨常ナラザルモノナレド此近傍程天氣ノ變シ易キトコロハ少カ
ルベシ之ノミハ登山者ノ豫メ用意スベキコトナリ朝ニ追分ヲ出ヅルル天ニ一點ノ雲ナキモ登山シテ此邊ニ來レ
バ密雲忽チ起リ來リ大雨沛然ト下ルコトアリ而シテ倉皇下山シテ赤瀧アタリマデ逃ゲ延レバ草葉ニ一滴ノ水ヲ
見ズ再ビ立派ナル天氣ニナルコト屢々之レ有リ血の池ノ旁チ馬返シト云フ之ヨリ坂路峻險漸ク高山ノ觀アリ最
早此邊ヨリハ喬木姿ヲ隠シいはやなぎ、りやうぶノ如キモノ多シ是等モ登ルニ從ヒテ漸次僅少トナリみねず
わう、しらたまのき、くろまめのき、のぞらん等見エ初ム馬返ヨリ登ルコト十町許ニノ富士松ノ帶ニ入り三四
町ニノふじまつモ其影ヲ止メズ只見ルトコロハいたどりノ時得顔ニ蔓レルノミ全ク火山熔岩塊ニノ植物ノ採
集スベキナシ此邊ヨリハ道ト云フベキ道ハ絶テアルコトナク只頂上前掛山ノ一角ヲ目標トシ富士ノ胸つき八町
ヨリモ危險ナルトコロヲ登ルナリ大岩ノアルチ幸ニ之ニ手ヲ托セントスレバ忽チ轉倒シ來ルコトアリテ全ク足
掛リモ手掛リモナキトコロヲ上ルコト凡五六町ニノ頂上ニ達ス其危險ナルコト到底富士天城大山等ノ比ニアラズ
天氣晴朗ノ時ニノ尙ホ斯ノ如シモシ風雨砂ヲ捲キ來ルニ際セバ其危害實ニ測ルベカラズ植物採集スル人ハ富
士松帶マデ上レバ既ニ淺間山頂上迄ニ得ラレベキ植物ヲ悉ク得ルコト得ベキガ故ニ他ニ必要ナクバ之ヨリ登
山セザルヲ得策ナリトス

日本藥局方植物篇(前號ノ續キ)

澤田駒次郎

果實ハ民間ニ於テ輕瀉及ヒ利尿ノ一藥トス又此果實ヲ壓搾シテ得タル津液ハ紫色ヲ呈ス之ヲ接骨木汁 (Bob sambuei) ト稱シ輕瀉劑トシ又利尿藥トス其他此果實ハ一種ノ飲料ヲ釀製スルニ用フルコト多量ナリ而シテ此飲料ハ接骨木酒 (Elder wine) ト稱ス往々「ポルト」酒葡萄牙國酒名 (Port wine) ノ釀造ニ用フト云フ

新鮮ナル葉及ヒ嫩芽ハ瀉下ノ効驗アルニ因リ都伯林藥局方ニハ藥用トス○此藥鮮綠色ヲ有シ脂肪油ニ浸出スレバ其彩色ヲ溶出シテ鮮綠色ヲ呈ス故ニ之ヲ *Olinum viridae* 或ハ *Unguentum Sambuei foliarum* 又 *Unguentum Sambusi viridae* ト稱シ販賣スト

新鮮ナル葉ハ極メテ不快ノ臭氣ヲ有ス○此藥軟膏ノ一成分トシ目下猶ホ用フト又 *Christison* 氏ノ說ニ據レバ小兒ニハ痲衝性ノ中毒症ヲ發スト又此葉ノ煎液ハ螟蟲驅除ニ効驗アリトシ園藝家ハ之ヲ用フ或曰該葉ヲ鼯鼠ノ通路ニ置クトキハ其害ヲ除クト

接骨木ノ内皮部ハ瀉劑或ハ利水劑トシ効驗アリ而シテ都伯林藥局方ニハ藥用トス然レドモ目下殆ンド廢棄ニ歸セリ近來 *More* 氏ノ說ニ據レハ癩癩病ニ特效藥トス其用法ハ接骨木皮ノ二写ニ水ニ「パイント」ヲ加ヘ煎合シテ「パイント」ト爲シ一回四写マテヲ用フ此皮中ニハ樹脂ト續草酸ヲ含有スト又氏ノ說ニ根ノ絞汁ハ水腫病ニ殊効アリトス

本邦ニ産スル接骨木 (*Sambucus racemosa*, L. var *Sieboldiana*, Mig.) ノ華本ヲ以テ本條ノ生藥ニ代用セシ

者アリト雖凡本邦産接骨木花ヲ乾燥スルトキハ黒褐色ヲ呈シ其香氣佳快ナラザルニ因リ本條ノ生藥ニ代用シ難シ

五十一 チンシヨナ、スシチルブラ

羅甸告 *Cinchona succirubra*, Pavon.

Syn. *Cinchona Howardiana*. Houtze.

茜草科

南亞米利加ニ自生スル常綠喬木ニシテ幹直立シ高サ二十尺乃至四十尺ニ至ルヲ通常トス然レドモ往々五十尺乃至八十尺ニ達シ皮部褐色ニシテ微ニ類白色ノ袍層ヲ被ムルニ至ル若枝ノ皮部ハ毛茸ヲ帶ブ葉ハ卵圓形若クハ橢圓形ニシテ平緣長サ大約半「メートル」其幅屢バ三十五「センチメートル」ニ至リ菲薄ニシテ上端殆ンド尖銳ナラズ底部圓ク或ハ微ニ狹隘ト爲リ表面濃綠色ヲ呈シ光輝ヲ帶ビ裏面ハ其色稀薄ニシテ纖毛ヲ有シ葉柄長クシテ對生シ其下部ニ於テ長形ノ托葉一對ヲ具有スト雖モ葉ノ發生後直ニ墜落ス花ハ細小ニシテ頂立性圓錐形花ヲ綴リ花梗椎ハ枝杪ノ頂端及ヒ葉腋ヨリ抽出シ花梗ヲ分岐シ鱗片狀ノ抱花小葉ヲ有シ更ニ小花梗ヲ分チ頂端花ヲ着ク萼ハ細小筒狀ニシテ綠色ヲ呈シ其内面ニ於テ實礎ト附着シ先頂五箇ニ缺刻シ其截片三角形ヲ爲シ花後墜落セズ成長シテ果實ノ一部分ヲ負擔ス花冠筒狀ニシテ直立シ其色淡紅外面毛茸ヲ帶ビ先頂五箇ニ缺刻シ其截片開展シ邊縁白色棍狀ノ毛茸ヲ密生シテ總毛ヲ爲ス而シテ開花ノ後直ニ墜落ス雄蕊五箇花絲ハ花冠ニ附着シテ筒中ニ存シ葯ハ線狀ニシテ黃色ヲ呈シ其背部ニ於テ花絲ノ頂端ニ附着ス實礎ハ下立性ニシテ二房ヲ有シ數多ノ卵子アツテ中軸性胎盤ニ附着シ肉質球形ノ花盤ヲ有シ花柱纖小ニシテ柱頭二裂直立シ其内側ニ乳房ヲ有ス花後覆果ヲ結ブ形チ種々ニシテ長サ六分餘乃至一寸二三分其頂端萼ノ缺刻ヲ存シ子殻ハ褐色平滑ニシテ稔熟スレバ下部ヨリ上部ニ向ヒ房壁分離シテ二箇ノ分果ト爲ル種子許多房中ニ在テ屋瓦狀ニ排列シ細

小扁平ニシテ暗褐色ヲ呈シ廣潤菲薄ノ翼ヲ有シ胚子ハ肉質樣胚乳ノ中央ニ位シ子葉ハ卵圓形ナリ
 本植物ハ往時南亞米利加洲厄瓜爾多及ヒ百露ノ北部ニ産スト雖モ目下絶盡ニ歸シ南緯一度ヨリ二度ニ亘ル瓜
 亞亞基爾附近ナル井波拉索ノ西部斜面ノ地ニ於テノミ其自生ヲ目撃ス此地ニ於テハ海面ヲ抽クコト二千五百
 尺ヨリ五千尺ニ至ル高嶺ニシテ石多キ傾斜ノ地ニ蕃殖シ第七八月ノ頃開花ス

本植物ハ喬木ニシテ其葉凋萎スルニ方リ極メテ鮮麗ナル赤色ヲ呈スルニ因リ輒ク之ヲ檢出シ得ルト云フ
 本植物ノ培養ハ世人ノ注意スル所ト爲リ現今諸所ニ栽植スルニ至リ暫孟雄ニ於テ夥多ノ苗株ヲ栽植ス

規那皮ヲ産出スル植物ノ種類ヲ鑒別スルコト極メテ困難ニシテ容易ノ業ニアラズ此レ種々ノ混淆セシ種類即
 チ變種ヲ生ゼシニ基因ス目下坊間ニテ販賣スルモノ、原植物ト見做スベキモノハ本植物ノ他ニ左ノ諸種アリ
 即チ *Cinchona Calyaya*, *Cinchona officinalis*, *Cinchona Ledgeriana* トス此等ノ諸植物ハ南亞米利加コルデリ
 アノ北部及ヒ東部ニ産ス又 *Cinchona Cortifolia* ハ最北部ニ産シ *Cinchona australis* ハ最南部マテ蕃殖ス而
 シテ此等ノ種類ハ海上三千五百「メートル」ノ高嶺ニ至ルマテ蕃殖スト雖モ一千「メートル」以下ノ地ニハ産セ
 ズ

規那樹ハ一千八百五十一年ニ於テ和蘭ニテ其培養ヲ試シ *Pahud* 氏初メテ之ニ着手セリ一千八百五十二年ニ
 於テ佛國植物園ニ播種ノ *Cinchona Calyaya* ヲ瓜哇ニ移植セリ又一千八百五十四年ニ至リ獨逸ノ植物學者
Huskari 氏ハ玻利非亞ヨリ規那樹ノ種子及ヒ苗株ヲ携帶シ歸リテ之ヲ瓜哇ニ移植ス之ヲ規那樹培養ノ嚆矢ト
 ス然レドモ其結果完全ナラザリシ故ニ一千八百五十七年ニ於テ和蘭政府ハ *De Vries* 氏ヲ派出シ規那皮ヲ分
 折セシメ現今ニ至ルマテ大ニ改良ヲ加フルニ至レリ殊ニ瓜哇ノ山端南西部ニシテ一千五百「メートル」乃至一

千七百「メートル」ニ至ル地ニ栽植セシモノハ最モ良結果ヲ得テ蕃殖スト

瓜哇ニ於テハ本植物并ニ *Cinchona Ledgeriana*, *Cinchona officinalis* ナ栽植シ又 *Cinchona Haskariana* ナモ培養ス或ハ本植物ヲ砧木トシテ *Cinchona Ledgeriana* ナ接種スト

英國ニテハ一千八百五十五年ニ於テ規那樹ノ栽培ニ着手シ *Royle* 氏之ヲ監督シ印度ノニラギルベルグー及ビ雪山ノ南端ニ栽植ス規那樹ノ培養ニ盡力セシハ *Markhams* 氏ニシテ本植物等ノ種子ヲ送附セリ其他英領印度、哲孟雄、錫蘭、麻打拉薩地方ニ於テモ亦規那樹ノ培養ニ着手セリ此等ノ規那園ハ或ハ政府ノ管轄ニ屬シ或ハ私立會社ノ所有ニシテ其栽培及採收ノ方法ハ略ボ瓜哇ニ同シ其種類ハ本植物及ヒ *Cinchona officinalis* ナ主トシ傍ラ *Cinchona Calysaya*, *Cinchona Ledgeriana* ナモ培養ス

玻利非亞ニテハ一千八百七十七年ヨリ規那樹ノ培養ニ着手シ獨乙人專ラ之ニ從事スト

規那樹ハ種子ヲ播下シ或ハ摺挿法ヲ以テ其蕃殖ヲ謀レリ

本植物ハ苗株ト苗株ノ間三尺宛隔テ、栽植シ *Cinchona Calysaya* ハ六尺ト爲シ *Cinchona officinalis* ハ四尺トス
(以下次號)

岡山縣北部地方植物採集記

山 本 頼 輔

余ハ昨年八月校命ヲ帶ビ地理歴史研究ノタメ備中美作ノ北部ヲ跋涉シ傍ラ植物ノ採集ヲ試ミタリ抑備作ノ地方ハ從來植物家ガ未ダ深ク採集ヲ試ミザルノ地ニシテ若シモ仔細ニコレガ探究スル所アランニハ恐クハ珍品奇種ノ手ニ容ル、アリテ多少斯學ノタメニ裨益スル所アルベキナラント因リテ同好ノ士北川剛氏ヲ伴ヒコレ

岡山縣北部地方植物採集記

ガ採集ノ補助ヲ托シ余ハ主トシテ地理歴史ノ材料ヲ蒐輯スルコトヲカメタリ然レトモ歴史ノ材料ヲ得ンニハ歩ヲ通邑都會ノ地ニ任ケザルベカラズ地理ノ材料ヲ得テ旁ラ植物ノ採集ヲ行ハンニハ杖ヲ深山幽谷ノ間ニ曳カザルベカラズ夫レニ兔ヲ逐フモノハ遂ニ一兔ヲ得ズ苟モ爲ス所アランカ二者必シモ其一ヲ撰バザルベカラズ是ニ於テカ余ハ斷然史料蒐輯ノ念慮ヲ絶チ縣下北部ノ地ヲ旅行シ地理ノ探究ヲナスノ傍ラ植物採集ノ方針ヲ執リタリ然レモ是等ノ地方タル其地質大率舊大岩播布ノ區域ニ屬スルガ故ニ到ル所山岳丘陵突兀トシテ岩骨ヲ暴露シ茫々タルすみさきノ密生スルニアラザレバ婆娑タルくまざきノ繁茂スルニ過キザルガ故ニ植物ノ採集ニハ案外ニモ無興味ナル地方ナリキ況ヤ此行固ト地理研究ノ校命ヲ帯ビシガ故ニ全力ヲ植物ノ採集ニ注グヲ得ズシテ空シク貴重ノ日晷ヲ是等無興味ナル山嶽ノ登躋ニ消費シ偏ク植物ノ搜索ヲ遂ケザリシガ故ニ其採集セシ所ノ品モ亦從ツテ普通平凡ノ種タルニ過ギス然レトモ是ガタメ當縣下ニ於ケル植物分布ノ一斑ヲ知ルヲ得テ地理學上或ハ植物學上ニ於テ多少補益スル所アランカ今旅行ノ順序ニ從ヒ其採集セシ植物ノ種類ト場處トヲ舉ケルコト左ノ如シ但岡山四近ノ郊野ニ獲ラル、植物ハコレヲ採集スルコトヲ省略セリ

名稱ノ上ニ圈點チ印スルモノハ松村博士ノ高教ヲ蒙リシモノトス

二十日正午岡山下田町ノ寓舎ヲ發シ午後備中國高梁

町ニ着ス此日沿道採集セシ植物ハ

たちしのぶ

賀陽郡池田村シヤウ栗

ひさよもき

郡淺尾村湛井

でんじも

郡高松村高松

まさるはぎ

上房郡松山村松山

ひよどりしやうで

全

くさのわう

全

いぬがらし

全

みやこくさ

全

上

こまつなぎ 全 上
 がますみ 全 上
 二十一日午前七時四十分高梁町ヲ發シ午後八時阿賀
 郡小坂部村ニ着ス此日採集セシ植物ハ

どらのをしだ 上房郡津川村今津

かんぐびさう 全 上

かんくびやぶたぼこ 全 上

ぬすびとばさ 全 上

まめづだ 全 上

かたひば 全 上

ひあふさ 全 上

ひめをどぎり 全 上

つるかねにんじん 阿賀上房兩郡ノ境ナル田

まここな 和峠 全 上

さぎさう 全 上

みづとんぼ 全 上

だいこんさう 全 上

つるりんたう 備中川ノ上流水谷ト云フ
 まつかぜさう 溪間 全 上

きせわた 全 上

あかばる 全 上

ふぢかんさう 全 上

○さわぎとやう 全 上

のぎらん 全 上

ともへさう 全 上

二十二日七時十分少坂部ヲ發シ大佐山ニ上ル山ハ小

坂部村ノ西北ニアリ海拔二千〇二十三尺満山樹木ナ

ク唯石蛾々タリ矮樹短草空シク其間ヲ點絶スルノミ

此日山間採集セシ植物ハ

みしまさいこ 阿賀郡大佐山麓

たぬさまめ 全 上

かうりんくは 全 上

せんぼんやり 全 上

くじやくしだ 全 上

全上山麓三谷川ノ沿岸

いわかねさう 全 上
 せんぶり 全 上山巔
 ○あはやぎさう 全 上

二十三日七時三十分小坂部村ヲ發シ傍示峠ヲ經テ美作國眞島郡ニ入り八時三十分仲間村眞賀ニ着ス此日採集セシ植物ハ

○ひろはのこふかいせきしやう

眞島郡月田川上流ノ溪間

むらさきつりふね 全 上

ことじさう 全 上

ふくらしぼ 眞島郡富山村野村

みづはこべ 全 上

ふゆいちご 全郡勝山村高田川ノ沿岸

○こたにわたり 全郡一宮村榮原

○さじらん 全 上

いはたぼこ 全 上

しゆもくしだ 全 上

二十四日八時仲間村眞賀ヲ發シ櫃ヶ山ニ上ル山ハ眞

島郡ノ中央ニ聳ユル高山ニシテ山脈延キテ星山ニ連ル山上樹木ナシ唯山麓ノ溪澗稍樹木ノ繁茂ヲ見ル

くまやなき 眞島郡櫃ヶ山麓

ほこねうつぎ 全 上

あはぶき 全 上

そろ 全 上

しで 全 上

むらさきさぶ 全 上

うりのき 全 上

いぬがや 全 上

ふしのき 全 上

たらのき 全 上

あけび 全 上

さはふたぎ 全 上

○みつぼうつぎ 全 上

ゑごのき 全 上

つりばな

全

上

てんなんしやう(結實ノ者)全

全

上

(未完)

◎ 雜 錄

○日本及ビ外國ノ植物和名(前號ノ續キ)

大沼宏平

Larix europaea, DC. (*Pinus Larix*, L. *Larix decidua* Mill. L. *excolsa*, Lk

L. *vulgaris*, Spach. L. *pyramidalis*, Salisb. L. *communis*, Laws. *Abies*

Larix, Lam. *europäische* (Krohe) セイヤウカラマツ

Larix microcarpa, Poir. *Pinus pendula*, Sol. P. *microcarpa*, Lamb. P.

Laricina, Duroi. P. *internedia*, Duroi. *Larix pendula*, Salisb. L. *tennifolia*,

Salisb. L. *americana*, Michx. L. *internedia*, Todd. *Abies pendula*, Lindl.

A. *microcarpa*, Lindl. *amerikanische* (Krohe) ノメリカカラマツ

Larix Griffithii, Hook. (*Pinus Griffithii*, Parl. *Larix Griffithiana*, Gord.

Abies Griffithiana, Lindl. *Himalaya-Lärche*) ヒマラヤカラマツ ヒマラヤ

山中二千尺乃至三千尺ノ處ニ産ス英人 William Griffith ナル者同處ニ於

テ始テ發見ス

Larix Kaempferi, Fort. (*Pinus Kaempferi*, Lamb. *Pseudo-larix Kaempferi*,

Gord. *Larix amabilis*, Nils. *Abies Kaempferi*, Lindl. *chinesische* (Krohe),

Chinese (Lärch) シナカラマツ、ロウエンカラマツ、金松支那ノ北部、東部及

ビ中央部ノ諸州ニ於テ英國ノ植物家 Fortune ナル者始テ發見ス春夏ノ間

ハ葉及ビ毬果ガ見事ナル綠色ヲ呈ス秋ニ至テ實ニ美麗ナル金黃色ニ變ズ

故ニ支那人ハ此ノ樹ヲ Kin-te-sung (金松或ハ金樅)ト稱ス紀州高野山中

及ビ土佐高岡郡村ノ川山、名野村山地ニ自在スルカウヤマキ (*Sindopi-*

ts *verticillata*, Sieb. et Zucc. *Solium-oder* *Wirtelkanne*) ニ金松ナル漢名

ヲ附スルハ甚ダ非ナリカウヤマキハ本邦ニ産シテ支那ニ産セズ且ツ金松

ナル漢名ハ此ノシナカラマツ一名ワウゴンカラマツニ當レバナリ

Ligustrum vulgare, L. セイヤウイボタ歐洲人之チ生垣ニ適用ス材ハ彫刻

又ハ轆轤細工ニ供ス諸鳥好シテ此ノ果實ヲ食フ又熟シタル果實ハ暗紫色

ノ染料ニ供ス

Maurandia Barotayana, Lindl. ツタベキリカヅラ、ゲナシキリカヅラ葉ハ

花戸ノ稱スルキリカヅラ (*Maurandia erubescens*, Zucc.)ニ似テ毛茸ナク且

コヒヨリ小ナリ植物園ノ温室ニアリ

Melilotus alba, Desr. (*M. leucantha*, Koch. *M. officinalis*, L. var. *alba*,

Nutt. *Gabul* or *Bokhara clover*) シロクセンシナガハハギ六月白花ヲ開ク

植物園ニアリ

Milla biflora.

セイヤウアマナ、ウソフナイロアマナ三四月淡藤色ノ花

ヲ開ク花戸ニアリ根及葉ヲ指チ以テ採メバ葎ノ如キ香ヲ發スルモノナリ

余一株ヲ有ス

Mimulus alatus, Air (Oval-leaved Monkey-flower) ヤンズミツホトツキ一名ロニミツホトツキ及フシダロミツホトツキ北米紐育ノ産余五年前在米國ノ一友人ヨリ此ノ種子ヲ得テ描圖ニ培養セルモノナリ七八月淡紫色豐大ニシテ花麗ナル花ヲ開ク九月果實ヲ結ブ

Myrica Gale, L. セイヤウヤチヤナギ (北海道苦小牧及ビ函館ノ谷地ニ此ノ一變種アリヤチヤナギ(田中芳男氏命名) (*Myrica Gale*, L. var. *tonnentosa*, Cas. DC.)ト云帝國大學植物標品目錄ニ所載ノエンヤマモ、則チ是ナリセイヤウヤチヤナギニ似テ葉ニ毛茸アリ) 植物園ニアリ

Nicotiana affinis, L. ニホロタバコ九月ヨリ十一月ノ頃迄花ヲ開ク花ニ香氣アルモノ横濱ホーマー商會ニアリ

Nierembergia frutescens, アマモドキ五月ヨリ七月頃迄亞麻ノ如キ豐大ナル花ヲ開ク葉モ亞麻ニ好ク似タルモノ植物園ニアリ

Paris quadrifolia, L. セイヤウツクバナサウ余ノ腊葉中ニアルモノ *Pedicularis verticillata*, L. クルマバシホガメギク獨乙國ノ南部ノ高山ニ産ス七八月花ヲ開クモノ

Phragmites macro, Munro. (*P. oyamensis*, Munro) オホヤイヨシ明治十八年十一月相州大山ニテ始テ發見ス故ニ名ク花戸ニテ知風草ト稱スルモノ

是ナリ植物園種子目錄ニ所載ノヨシクサ又是ナリ

Phyllanthus Niruri, L. タイセイエフノコミカンサウ葉對生スルモノ

Phytolacca deandra, L. フメリカヤエヨシウ北米ニ自生ス植物園ニテヤウシニヤエヨシウト稱スルモノ是ナリ

Pinus rigida, Mill. (*P. Fraseri*, Todl. *P. Lodgei*, Loud. *Pitch Pine* Black Pine, Peckleifer) チヤンマツ北米ニ産ス植物園ニアリ

Poa sphondyliodes, Trin. サラツキイチモツナギ (明治十五年五月命名) 農務局編纂牧草圖譜及ラ A Descriptive Catalogue of Japanese Forage Plants exhibited in the World's Columbian Exposition, published by Agricultural Bureau, Department of Agriculture and Commerce, Japan. Tokyo. 1893. ニ出ツ植物標品目錄ニ載スル所ノカハライチモツナギ是ナリ

Pogonatum aphyllum, ムエフスキユケ 明治廿年十月武州十二社邊ニ於テ始テ發見ススギユケ (*P. aloides*, Beauv. *Polytrichum aloides*, Hedw.) ニ似テ葉ナキモノ

Prunus lauro-cerasus L. ローレルザクラ 老利兒櫻葉ハローレル (*Laurus nobilis*, L.) ニ似タルモノ小亞細亞ニ産ス植物園ニアリ

Pulmonaria officinalis, L. ハイソウサウ 肺臟草植物園ニアリ (未完)

○落葉集第四篇 野村彦太郎

日本蠟(檜蠟) (承前)

近頃 James. H. Veitch 氏カ日本國漫遊中徧ク蒐集シタル植物製産物ニヨリキユ植物御園(英國)ナル博物館内ノ陳列品ニ増殖ヲ來セシメハ全ク

同氏ノ恩惠ニ係レリ此ノ蒐集品ハ其總數ニ於テ夥多ナルノミナラズ其種

類ニ至テモ亦甚々多シ結局其博物館ニ對シテ數多ノ新奇品ヲ増殖スルニ至レリ左ニ掲クルモノハ其主要ナル該製産物ニ附記シタル略説ナリ(中略)

漆樹科 (Anacardiaceae) ノ榿樹 (Rhus succedanea, L.) 大坂ニテ購求シタル見本ハ左ノ如シ

精製白蠟ハ其外觀、蜂蠟ニ髣髴タリ指物工ハ之ヲ以テ其材ニ光澤ヲ添ヘ又之ヲ以テ人髮ヲ裝フ油料トス其價、百封度ニ付十二弗、五十錢ナリト

豐後綠蠟ハ蠟燭製造ニ用非其價、百封度ニ付十一弗八十五錢ナリト筑後鼠蠟モ亦蠟燭製造ニ用非其價百封度ニ付十弗二十五錢ナリト(下略)

(Bulletin of Miscellaneous Information, No. 85, 1894.)
Dr. Willama 氏ノ説ニ據レハ日本蠟ハ蠟質ノ成熟シタル種子ヲ壓搾シ又熱力ニ由テ蠟質ノ皮膜ヲ分離セルモノニシテ其質蜂蠟ヨリ劣リ又蟲白蠟ヨリモ遙ニ劣レリ此品ハ主トシテ日本國ヨリ支那國ニ輸出シ其主成ハ Tri-palmitine ヲ成ナント (Smith's Materia Medica)

〔附言〕 Bulletin of Miscellaneous Information, Nos 76—77, 1893.

ニ支那國ニ於ケル植物蠟トシテ烏桕ト漆蠟 (Chi-shu) トノ二種ヲ載セタリ其說中ニ漆樹ノ種子ハ其外觀恰モ蜂蠟ニ似タル物質ヲ生ス故ニ蜂蠟ノ偽造品ニハ之ヲ混化スルト往々是レアリト固リ漆蠟ハ其幹ヲ傷ケテ得タル漆ニ異ナレリトアルヲ見レハ支那國ニテハ漆樹ノ種子ヨリモ蠟ヲ製造スルモノ、如シ余ハ次號ニ至テ我國ニテ製造スル漆樹ニ就

テ論セント欲ス

○植物世界ニ於ケル炭素及ビ窒素ノ同化作用

左ノ一編ハトメ氏が本年一月ノ Natural wissenschaftliche Vortenschrift ニ記載セシモノニ係ル、所説吾生理學者ノ注意ヲ引ク

ニ足ルモノアレバ譯シテ以テ同好諸君ニ示ス矣、 市村 塘

凡ソ植物ハ炭素ヲ得ルニ因リ始メテ其生活ヲ保チ得ルモノナリ、其炭素タルヤ勿論空中ノ炭酸瓦斯ヨリ供給サル、ハ疑フベクモアラズ、左レバ炭酸ハ植物体内ニアル炭素ノ基礎ヲ造ル原物ニシテ其組織内ノ有機化合物ハ盡ク最初、無機營養物トシテ吸收サレシモノナラズンバアラズ、邇テ前世界ノ植物ニ就テ考フルモ彼等ハ他ノ無機化合物ヨリシテ炭素ヲ仰キシニ相違ナシ、豈ニ亦他法アラザヤ、而シテ無機窒素ノ本源ヲ探究スルニ主トシテ硝酸暗謀尼亞ト其鹽類及ビ游離窒素ニ過ギザルガ如シ、就中前二者ハ有機物質ノ打毀、腐敗ヨリ生ジタルニ歸セザルベカラズ、 $(2N+O+2H_2O=NO_2+HN_3)$ 假令ハバ夫ノ智利硝石ノ如キモ其由来ヲ尋メレバ皆植物ナリト云フコトハ既ニ偏ク學者ノ承認スルトコロナラズヤ、然レハ硝酸暗謀尼亞ノ少量ハ亞硝酸暗謀尼亞ノ水分ヲ蒸發セシメ之ヲ酸化スルヨリシテ生ズルモノナルヲ以テ其分量極メテ少ナク殆ンド植物世界ノ營養物質トシテハ齒牙ニ懸クルニ足ラズト見成スモ不可ナカラシ、是ヲ以テ空中ノ游離窒素ハ植物体内ノ窒素主成分ノ本源ヲ構成スルモノナルヤ明亮ナリ、

フランク氏ノ説ニ由レバ炭窒兩素ノ同化作用ハ凡テ綠色ヲ呈スル植物ニ於テ必ズ行ハルモ、モノナリ、然レモ高等含葉綠植物ニアリテハ其同化量甚ダ僅カニシテ大概硝酸ノ反應著シカラザル程ナリ、反之シテ下等藻類ニ至テハ誠ニ其分量大ナルヲ見ル、故ニ藻類死後ノ腐敗物ハ高等植物ニ再ビ使用サル、ニヨリ漸ク減少セントスル窒素ハ更ニ其腐敗生産物ヲ以テ回復辨償チナシテ植物世界ノ權衡ヲ永續シ得ルナリト、

又シルベシング及ビローレント兩氏ノ研究報告ニ由レバ一般ニ葉綠ヲ有セザル植物ノ多數ハ皆游離窒素ヲ同化スルノ機能ヲ有スルモノナレバ、自身ハ死後腐壞スルモ窒素ハ依然、土壤ニ留存スルノ理ナリ、若シ含葉綠植物ナキ時ハ如何、唯前者ハ後者ヨリ含水炭素或ハ同様ノ無窒素物質ヲ得ルニ道ナキヲ奈何セン、高下兩等植物相待テ始メテ生活ヲ營ムト尙唇齒モ管ナラザル關係アルヲ見出スベシト、ベルテロット氏モ大ニ研究シテ此説ニ左袒セリ又ウイッドグラスキー氏ノ培養液研究モ斯ノ物質ノ必要ナルヲ證シタルモノトス、即チアンエーロピオンテツク、パチルスヲバ右拆葡萄糖ノ溶液中ニ培養シタルニ能ク生活スルヲ見レバ空中ヨリ游離スル窒素ヲ攝收スルノ外ナシ尤モ攝收量ハ多少含水炭素ノ營養液量ニ比例スルモノナリト云フニアリ、

○バクテリアノ説(承前) K、D、山人譯

第十二章 不潔ナル水ト水ハ黴菌病ノ源ナリ

不潔ノ水

水ノ表面ニハ無數ナル各種ノ黴菌アリテ成育増殖シ而シテ其上ニ集リ來レルモノ或ハ溶解セラレタル有機物ヲ取リテ己レカ食餌養トナシ若シクハ之ヲ他ニ排去スルニ因リテ水ヲ清潔ナラシムルモノナルコトハ既ニ論セシ所ナリサテ是等ノ黴菌ハ普通ノ場合ニ於ケル如ク其數夥シカラザル時ハ之ヲ飲ミ或ハ料理用トシテ使用スルモ決シテ其害ヲ受クルコトナシ然レドモモシ其水流動セズシテ黴菌ノ數大ニ増加スル時之ヲ用井ナバ忽チ消化機ニ變動ヲ及ボスベシ爲メニ其命ヲ失フコトアリ虎列刺及ビ所謂冬期虎列刺ナルモノモ矢張是方法ニ因リテ發生スルモノナルコト明ナリ幼兒ハ殊ニ能ク斯ノ如キ水ニ因リテ害ヲ受クルモノナリ近來ニ至リテハ其水ヲ沸騰スルカ或ハ斯ノ如キ水ヲ用井ザル時ハ決シテカノ虎列刺ノ病毒幼兒ノ下痢ダイリヲ起スコトナキノ理ヲ知ルニ至レリ

之ヲ概スルニ湖水河水泉水等ニ於テモ自然水ノ沈滯セルガ爲メニ黴菌夥シク増殖スルニ非ザル以上ハ決シテ害ヲ爲スモノニ非ズサレド通常無害ナル黴菌ハ幾許ノ數ニ至ルマデハ之ヲ飲ムモ害ヲ及ボサルヤ否ヤニ至リテハ未ダ一定ノ説ナク唯ク一匙ノ水中三百乃至五百ノ黴菌ヲ含有スルニ至ルモ未ダ害ヲ及ボサザルモノトセリ是レ臆斷推測ノ言タルヲ免レザルモノナリ

不潔飲料水ヨリ生ズル實際ノ危險ハ自然ニ水中ニ存スル黴菌ニ因レリニ非ズシテ一種外方ヨリ入り來レル動物及ビ人類ノ吐瀉排泄セル腐敗物ニ因レルコト既ニ明カナリ殊ニ或ハ黴菌病ニ罹リタル人々ノ吐瀉物ハ其害

(未完)

ヲ釀成スルコト一層甚シトス

腐敗セル水ハ虎列刺病ヲ發生スル細菌ヲ傳フル者ナリ 實布の里亞傷
瘻及ビ其他ノ疾病ニ於ケル細菌モマタ同シク汚水ニヨリテ傳播セラル
ルモノナリト信セラル然レドモ是等ハ水ニ因リテ蔓延スルコト甚々稀ナ
リ

凡ソ疾病ヲ發生スル諸種ノ細菌中汚水ニヨリテ最も多ク傳播セラル、モ
ノヲ窒扶斯トス蓋シ此病ニ罹リタル人々カ排泄セル物質ハ別ニ消毒ヲ施
サスシテ町内若クハ村内ノ窠穴中ニ投入スルコトアリ即チ多クノ場合ニ
於テ是等ノ物質更ニ地中ノ溝渠ヲ通シテ農民ノ飲料ニ供スル井戸若シク
ハ泉水中ニ混スルコトアルヲ以テ其分量致テ過分ナラサルモ能ク彼等ノ
胃中ニ侵入スルヲ得故ニ窒扶斯ノ傳播ヲ致スモノハ全ク無學不識ヨリ
生ズルモノニシテ決シテ天ノ爲セル災厄ニ非ラザルナリ

大都會ニ於ケル飲料水ハ通例河、湖、潜水處(小川ノ流ニ沿フテ處々ニ
設ケラレタルモノ)若シクハ井水(地ノ上層ヲ掘リテ深ク地下ニ匯聚ス
ル所ノ水ニ通ズルナリ)ヨリ供給セラル、モノナリサテ河湖等ノ表面ニ
於ケル水ヲ用フル人々ハ自ラ其身ヲ害スルモノトイフベシ何トナレバ不
潔ノ水ヨリ病毒ヲ生ズルハ人類ヨリ發スル吐瀉物ヲ以テ其水ヲ腐敗セシ
ムルニ因レバナリ飲料水ハ普通ノ場合ニ在リテハ無害無毒ナレドモマ
常ニ危險物發生ノ根原タルヲ免レゾト何故ゾトイフニ人々ノ住居ヨリ
捨テ去ラル、腐敗物ハマトヘ直ニ其中ニ入ラザルモ雨ニ因リテ洗ヒ去ラ

ル、カ或ハ他ノ方法ニ因リテ送り込マル、モノナレバナリ而シテ一般
ニ是等ノ廢棄物ハ溝水若シクハ流水ニ因リテ稀薄トナルガ故ニ必ズシモ
危險ナラズト雖モ其水ヲ變性シテ更ニ不潔ナラシムルコトハ勿論ノ事ト
スサレド常ニソノ發生ヲ免レザル窒扶斯ニ在リテハ患者ノ排泄物多クハ
下水ノ管中ニ入りテ遂ニ飲料水ニ混ズルガユエニ此病毒ノ蔓延ニ於ケル
危險ハ實ニ大ナリト謂フヲ得ベシ

新約克ニ於テ飲料水ヲ供給スル「クロートン」ノ如キハ即チ其一例トス
ルモノ、新約克ノ飲料水ハ「クロートン」分水界トシテ知ラレタル地方ヨ
リ來ルモノニシテ其固有ノ性質ニ至リテハ實ニ良好ナルコト言テ埃々ズ
然ルニ其水ヲ集メ導ケル川流溝渠ニ沿フテ數多ノ村落人家アルガ故ニ曾
テソノ下水及廢物ノ之ニ入ランコトヲ防クガ爲メニ是等ノ村落人家ヲ撤
去セントスルノ企アリシモ多クハ私有ニ屬スルヲ以テ之ヲ果ダス能ハズ
サレバ此等ノ家々村々ニ於テ窒扶斯ノ傳染スル時ハ新約克ノ飲料水ニ危
險ナル敗物ヲ含有スルコトアルヲ免レザル次第ナリ (未完)

◎最近研究彙報

植物解剖學生生理學形狀學生計學等ノ部

Burgenstein, A. 植物ノ屬木材ノ解剖 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges.
XII, 9, 1894)

雜 錄

Czapek, Friedrich, 向地性ニ就テノ研究 (Jahrb. f. Wiss. Bot. XXVII, 2, 1895)

此論文ハ主トシテ今ヨリ七十年前チーシエルスキーノ發見ニ係リチヤールス、ダル井ンガ其理ヲ案出セル根尖ノ向地的感覺力ヲ證明スルニアリ著者ハダル井ンノ試驗ハ根尖ヲ切去ルガ故ニ根尖ノ感覺力ヲ證明スルニ足ラザルヲ實驗ヲ以テ證明シ次テ自己ノ試驗ニ及ボシ最モ簡單ニ最モ奇巧ニ最モ明ニ根尖ニ向地的感覺力ノ限ラレタルヲ證明セリ又茲ニ何所ニ此感覺力アルヤヲ論ズ以上ヲ本論文ノ第一節トス第二節ニ於テハ溫度、酸素欠乏、器械的妨碍、ト向地的現象トノ關係ヲ論シ第三節ニ於テハ向地的反應ノ大小等ヲ論シ第四章ニハ全論文ノ大意ヲ記ス
Hildebrand, F. ぶたのきんぢら屬ノ花ニ於テ方位ノ變化ニ感ズル一ニ就テ (Bot. Zeit. 53, 1, 1895)

Lewin, L. Anhalonium Lewinii, 井ニ他ノ有毒植物ニ (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. XII, 9, 1894)

Macfarlane, J. M. 色障子下ニ於ケル某有花植物ノ智覺運動 (Bot. Centb. LXI, 4-5, 1895)

Roth, Filibert 消失ノ際木細胞膜ノ行爲ニ就テ (Bot. Zeit. 52, XII 1894)

Schröter-Kristelli, H. R. (カロチン)ノ植物体内ニ於ケル新存在法并ニ其分布ノ發生并ニ效用ニ就テノ注意 (Bot. Centb. LXI, 2, 1895)

此論文ハ Arceuthobium Quercus ナル植物ノ假果皮ニ黄色素「カロチン」ガ脂肪油ニ溶解シテ存在スルヲ論ズ從來「カロチン」ハ色素体ニ結合セルモノヲ以テ常トス故ニ此場合ニ於テハ新ナル存在法ト稱ス論文ノ終ニハ(カロチン)ニ關スル從來ノ研究論文ヲ悉ク列擧シタリ

Sieck, Willy 分離融解的分泌器 (Jahrb. f. Wiss. Bot. XXVII, 2, 1895)
Fittmann, H. 樹木ノ挿木ニ於テ(カールス)造成ノ生理學的研究 (J. XXVII, 1, 1895)

Wiessner, J. 向光性并ニ根尖ノ官能ニ於ケル Robert 君ノ論文ニ就キ注意 (Bot. Zeit. II. Abth., 53, Nr. 1, 1895)

Zacharias, H. 細胞及び核分裂ニ於ケル Farmer 氏ノ研究ニ就テ數言 (Bot. Zeit. II. Abth. 52, Nr. 24, 1894)

植物分類學植物地理學ノ部

Knoblauch, E. 屬并ニ種ノ命名法 (Bot. Centb. LXI, 1, 1895)

Knoblauch, E. 5種ノ科數屬ニ就テ (各 3-4)

Straehler, Adolph Crinum arvense X palustre (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. XII, 9, 1894)

隱花植物ノ部

Aderhold, R. A. Fusicladium dendroicum ノ孢子器構造 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. XII, 9, 1894)

Erikson, Jakob 穀物鑄菌類ニ於テ寄生ノ種々ニ分ルヽトニ就テ(全)
Fairchild, D. G. *Valonia utricularis*(海藻)ノ核分裂

是ノイタリヲ國ナホリニ於テ實驗シタルモノニシテ着色圖一葉ヲ附ス
Fischer, Alfred (バクテリア)ノ研究 (Jahr. f. wiss. Bot. XXVII,
1, 1895)此論文ハ主トシテ(バクテリア)細胞ノ「プラスモーズ」ヲ論ジ其

他「バクテリア」鬚毛ノ生理其運動、其形狀學并ニ終ニ(バクテリア)ノ分
類ヲ試ク

Istvanffy, Gy. von ノ「タマノ」水道内ノ植物 (Bot. Centb. LXI,
1, 1895)

Juel, H. O. Hemigasterノ豫察研究(全 3)
Oltmans, Friedrich 數種ノ寄生海藻ニ就テ (Bot. Zeit. 52, XII,
1894)

Rothert, W. 藻菌類ノ游走芽胞ニ於タル鬚毛ノ運命ニ就テ (Ber. d.
Deuts. Bot. Ges. XII, 9, 1894)

東京植物學會錄事

三月廿三日午後二時ヨリ植物學教室ニ於テ例會ヲ開キ堀正太郎君ハ稻ノ
青立病ニ就テ又市村塘君ハ人參ニ就テ講話セラレタリ

寄贈書目録 三月十一日以降領收ノ分

農事試驗成績 第六報(明治廿七年十二月) 農事試驗場

大日本山林會報 第四百四十六、四十七號 山林會

東京醫學會雜誌第九卷 第四、五、六號 東京醫學會

氣象集誌 第一、二號 大日本氣象學會

日本園藝會雜誌 第六十二、六十三號 園藝會

地學雜誌 第七十五號 東京地學協會

地質學雜誌 第十八號 北水協會

北海道水産雜誌 第十八號 北水協會

動物學雜誌 第七十七號 動物學會

大日本農會報 第六十二號 大日本農會

日本藥業雜誌 第貳百六十五、百六十六號 衛生社

The Gardeners' Chronicle, Vol. XVII, No. 421-6, 1895.

Bulletin of Miscellaneous Information.—Kew. No. 95-7, 1895.

The Journal of Mycology, Vol. VII, No. 4, 1894.

D. G. Fairchild, Bordeaux Mixture as a Fungicide, 1894.

The Journal of Botany, No. 389, 1895.

Bulletin de l'Herbier Boissier, No. 1, 1895.

Hedwigia, Heft, I. Bl. XXXIV, 1895.

Villebrunea, I have found that the figures of the female inflorescence of *Villebrunea frutescens*, in the plate of Blume's "Museum Botanicum Ludguno Batavorum" do not really represent that of the species but that of *Debregeasia edulis*, a species of the same natural order but of a very different genus. So I think the figure of *Villebrunea frutescens* in my plate will be of some use to the foreign readers also.

Explanation of the Plate.

Villebrunea pedunculata, sp. nov.

- Fig. 1. Fruiting branch.
 „ 2. The same magnified about 2 diam.
 „ 3. Fruit and peduncle magnified about
 5 diam.

- Fig. 4. Fruit; *a.* ventral side, *b.* seen from
 above.
 „ 5. Fruit cut longitudinally,
 „ 6. Leaf, nat. size.

Villebrunea frutescens, Bl.

- Fig. 7. Fruiting branch.
 „ 8. Fruit.
 „ 9. Disk and bracts seen from above.
 „ 10. Fruit cut longitudinally,
 „ 11. Branch with male flowers.
 „ 12. Male flowers magnified,

- Fig. 13. Male flower opened to show the
 stamens inside.
 „ 14. Stamens magnified; *a.* dorsal view, *b.*
 ventral view.
 „ 15. Male flowers magnified.
 „ 16. Leaf, nat. size.
-

thickets with other trees and shrubs, such as *Heptapleurum octaphyllum*, *Viburnum odoratissimum*, *Cycas revoluta*, *Ardisia Sieboldi*, *Mæsa Doraena*, *Elæagnus macrophylla*, *Smilax stenopetala*, *Psychotria serpens*, &c.

I saw also several times sterile plants of this species at different places in the southern part of Ōsumi and Satsuma. The natives call it "Hato-banoki," "Hadara," or "Hadonoki," and use its foliage as fodder for cattle and horses. Before my excursion to Kiushiu Mr. Antei Tashiro collected this species in these districts and also in Loochu (1887); but at that time the flowers being wanting, he considered it as identical with *Villebrunea frutescens*, which also grows in southern Japan. Indeed their leaves are much alike, but the difference of inflorescence is very great, that of the one being longly pedunculate, and that of the other almost sessile. As to the minor points of difference of the leaf, the finer serrature, the thicker and firmer texture, and the absence of soft hairs on the under surface, are the chief characters which distinguish the former from the latter. In Franchet and Savatier's "Enumeratio plantarum" only one species of *Villebrunea* is mentioned as occurring in Japan. Since that time nothing has been written about the discovery of any new Japanese *Villebrunea*. In De Candolle's "Prodromus" there are mentioned 9 species of this genus, but none of them agree with my specimen. I have also consulted Bentham's "Flora Hongkongensis," and other works but could not find any species resembling my plant. I venture therefore to name and describe my specimen. I have figured in the annexed plate not only this new species but also *Villebrunea frutescens*, of which we likewise lack a good figure in our botanical works. In the course of studying the literature regarding

A New Japanese Species of *Villebrunea*.

By

M. Shirai.

Villebrunea pedunculata, sp. nov.

Jap. name, Hadonoki.

(Plate IV.)

A large shrub, attaining to the height of 4 or 5 meters and the diameter of 10 c.m., very ramose; branches slender, of a brown color, at first covered with brown tomentum, afterwards glabrous. Leaves ovate-lanceolate or oblong-lanceolate, acuminate, crenate except the base, with rough scattered hairs above, petiolate, 6-12 c.m. long, 2.5-4.5 c.m. broad; petioles as well as the three larger nerves on the under surface of the leaf hispid. Female heads longly pedunculate, with 8—12 minute flowers; peduncles simple or forked, 7 c.m. long, hispid. Male flowers not yet examined. Fruits ovate, somewhat laterally compressed and gibbous at the base, and attached near the ventral margin of the somewhat kidney-shaped succulent disk.

Habitat: Ōsumi, Satsuma, Tosa (T. Makino, 1884), Loochu (A. Tashiro, 1887).

In the summer of 1893, during a botanical excursion to Kiushiu, I had the opportunity to collect a fruiting specimen of this plant at the Cape of Sata, in the southern extremity of Ōsumi province, where it forms

動物學雜誌

第七十七號
三月十五日發行

明治廿八年三月十五日發行

一册金拾錢 郵税金壹錢

六册前金六拾六錢(郵稅共)

目次

○大鳥賊ノ一標品ニ就テ

箕作佳吉君
池田作次郎君

○霞ヶ浦ノ動物ニ就テ

北原多作君

○紐蟲ノ側感器(承前)

高倉卯三齋君

◎雜錄

●動物學研究用藥劑便覽(續) ●黃蜂の變種?に就て ●馬尾蜂ノ放光 ●Bibliographia Faune Japonice ●新保存劑 Formolノ價值 ●採集實驗日記(承前) ●動物學上新著論文ヲ讀ム會 ●ふぐノ鰓 ●魚ノ貝攻撃 ●動物學上論文の國語分け ●しび、かつを等ノ食物 ●かみくらげ ●外國人ノ命名セシ日本産眞正くらげ ●動物學會記事

地學雜誌

第七十七集
第七十六卷

明治二十八年四月十日發兌 ●一册拾錢郵稅壹錢

◎卷首插畫

●肥後國阿蘇山 (第三版)

◎論說

●氣象叢談(承前) 海軍大佐 肝付兼行君
●筑豐煤田地質調查報文(承前) 理學士 鈴木敏君

●種子島及屋久島探檢記(承前) 西和田久學君

◎雜錄

●七十日間世界周航 婆心子君
●豐後礦物採集案内(承前) 篠本二郎君
●地學通論(承前) 岐陽學士君

◎寄書

●地學雜誌編者某君に答ふ 篠本二郎君

◎雜報

●東京地學協會の演說 ●卷首插畫の解 ●二十六年中本邦礦産 ●世界銅、鉛、亞鉛の産出 ●合衆國の水銀 ●北米の最高峰 ●崑崙の玉の成因 ●石見宅野附近の諸島に就て ●露國の茶作研究 ●滿州地質便り ●去月四日の隕石に就て ●新刊礦物學書 ●豫察地形圖の完成 ●新刊書地方通信

◎附錄

●地學字彙

發賣所

東京市神田
裏神保町

敬業社

發賣所

東京市神田
裏神保町

敬業社

地質學雜誌

第十八號
三月十八日
發行

一册金拾錢 郵稅一錢
六册前金五拾四錢(郵稅共)

目次

- 越後海岸に於ける論說
風の營力(承前)
岩崎重三君
- 佐渡に於ける灰質岩
山田邦彦君
- 秩父甘樂地方地質
青山長兵衛君
- 巡檢日記(承前)
小藤文次郎君
- 高師小僧
理學博士
- 美濃惠那郡礦產地の記
理學士 比企 忠君

- 熊野嶽の巽狀に關する報告○本邦隕石略記
- 伊豆半島所見一東、伊豆の西岸、山蛙嶺、修善寺新開道、三寢村(隧道)○「ニツケル」礦床
- 肥後産「クロム」試驗○「メサビ」鐵礦床の成因○信濃「チガヒ」石○帝國博物館の新陳列品○地質學會第十四次會○地質談話會記事
- 巨智部博士の渡清○西和田久學君○一月氣象摘要

發賣所 東京神田 裏神保町 敬業社

東洋學藝雜誌

明治二十八年三月二十五日發兌
第百六十二號 ●定價一册金十錢

論說

- 幾何學の發達及分科菊池大麓 ●漢籍ヲ讀ム心得 島田重禮
- 生物學上一大問題 石川千代松
- 流星 鶴田賢次

雜錄

●肺病治療法ノ進否如何 K. I.

雜報

- 本月四日の天火 ●天火に關する大坂朝日新聞社の照會 ●教員檢定試驗參考書 ●耐震家屋構造要領 ●小遊星 ●二十四時法 ●獨國中央學館長 ●萬國數學會 ●東京數學物理學會記事 ●煙突の震動 ●引力及地球塊 ●空中旅行 ●トムソン氏エレキ及マグ子學教科書 ●醫科先哲追薦會 ●不に緣て鹹水を淡水に變する法等

發行所 東京神田 裏神保町 東洋學藝社

廣告

理科大學教授博士松村任三先生著

日光山植物目錄

全一册
定價六拾錢
學名及和名
索引附

白根、男體、高峯、馬返、嶮峻、赤沼、曠原、金精、鬱林其他鉢石、中禪寺、湯本等ノ勝區ニ野生スル九百有餘種ノ花卉草木ヲ盡ク網羅シタル目錄ナリ此名山勝地ヲ探檢スル内外ノ人士殊ニ修學旅行チ企圖セラル、教員、學生諸君ハ必ス一本ヲ備ヘサル可カラス
理科大學教授博士松村任三先生著

和漢譯本草字典

全一册
定價六拾錢

本書ハ英語其他數十ヶ國ノ語ニ於ケル植物及藥品等ノ名稱ヲ和漢兩名ニ對譯スルニ羅馬字ト假字トノ兩様ヲ以テシ加之植物所屬ノ科名ヲモ記入シタルモノナレハ是亦坐右ニ缺シヘカラサル良辭書ナリ
池野成一郎譯

顯花植物分科檢索篇

全一册
正價二拾錢
郵費四錢

本書ハ管テ植物學雜誌ニ附録トシテ連載セルモノヲ集メテ一册トナシ別ニ詳細ナル和洋科名ノ見出表ヲ附シタルモノ也殘部有之候ニ付御入用ノ方ハ至急申込アレ

賣捌所

東京日本橋
裏神保町
通三丁目

敬業社
丸善書店

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金五錢
三回以上割引仕候

○本誌毎月一回發兌一册金拾貳錢○六册前金七拾貳錢

○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り壹册拾錢

○配達概則

- 第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セズ
- 第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ
- 第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス
- 第四條 特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレバ御届可申候

明治廿八年四月十九日印刷
明治廿八年四月二十日發行

版權所有

編輯兼 發行者
印刷者
印刷所
發行所
賣捌所

同

井上 蘇吉
熊田 宜遜
熊田 活版所
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
敬業社
同所
丸善書店
東京市日本橋區通三丁目

THE 312701
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 9.] April 20, 1895. [No. 98.

CONTENTS.

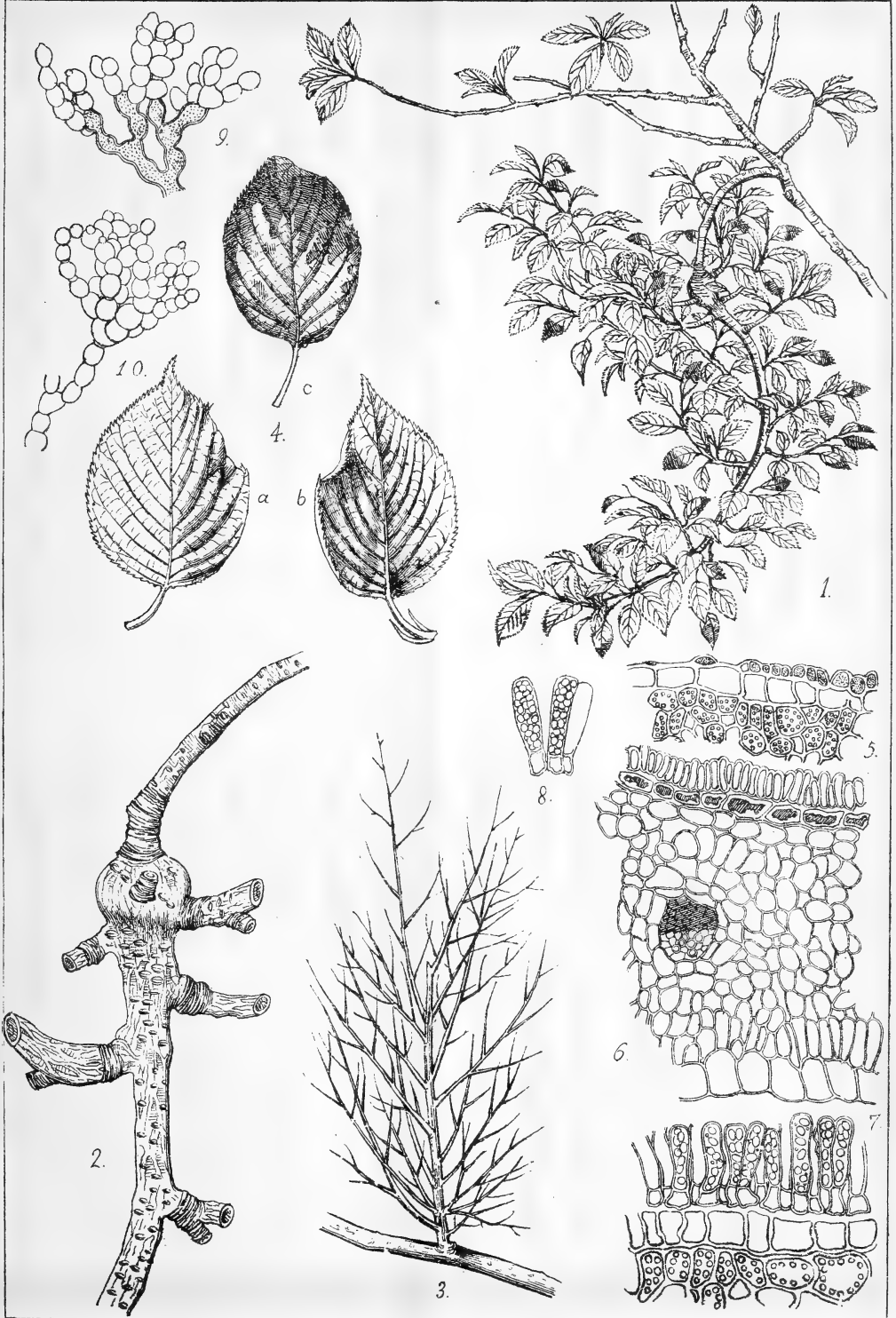
A New Japanese Species of <i>Villebrunea</i> . By M. Shirai	129.
On the Anatomy of the Seed of <i>Aralia quinquefolia</i> , var. <i>Ginseng</i> . By T. Ichimura	131
<i>Hepaticaceae</i> of Tosa. By T. Inoue	134
<i>Phanerogams</i> of Shōnai. (Continued from No. 97.) By Takiya Kawakami	136
Plants collected in Mt. Asama, Prov. Shinano. By Chūtarō Ōwatari	139
Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia. By Komajirō Sawada	144
Notes on the Plants collected in the Northern Part of Okayama. By Raisuke Yamamoto	147
Miscellaneous :—	151
New Japanese Names of Plants.—New Literature.—Proceedings of the Tōkyō Botanical Society.—Publications Received.— etc.	

All letters and communications to be addressed to the
TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE.
 No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

明治廿一年二月三日内務省許可

明治廿六年六月三十日遞信省認可

印刷所 東京市神田區錦町三丁目五番地 熊田活版所



櫻樹ノ天狗巢ニ就テ

理學士 白井光太郎

天狗巢野州日光
邊方言一名天狗ノ腰掛常州水戸
邊方言トハ諸樹上ニ生スル寄生様ノ變形枝ヲ總稱スルノ名ナリ。

我邦天狗巢ヲ生ズル樹種少カラズ大なら、もみ、くは、まつ、つばき、さくら、しひ、あすならう、くろび、ぶな、からまつ、たけ等ノ如シ此他尙ホアルベシ就中最普通ニ見ル所ノ者ハ櫻樹ノ天狗巢ナリ。

櫻樹ノ天狗巢ハ舊時ヨリアリテ今新ニ始マリシ者ニ非ザレモ近來此樹ヲ市街公園等ニ多植スルヨリ漸ク人ノ注目スル所トナレリ病枝ハ絶テ花芽ヲ生ゼズ樹頭ニ叢生シ櫻樹ノ美觀ヲ損スルノミナラズ養分ヲ浪費シ光線溫度ヲ遮リ空氣ノ流通ヲ妨ゲ樹ノ生理ヲ害スルコト亦少ナラズ且其組織粗弱ニシテ寒暖其他ノ病因ニ堪ユル力弱ク往々枯死スル者アリ。

櫻ノ天狗巢ノ原因ニ就テハ我邦ノ諸書未ダ先輩ノ所說ヲ載セズ予頃年此原因ヲ探究セント欲シ時々其枝葉ヲ檢査シタレモ此迄ハ時期晚キニ過キ常ニ寄生物ヲ發見スル能ハザリシガ本年亦四月中旬即櫻花爛熳ノ候ニ於テ之ヲ檢査シ遂ニ其葉上ニ一種ノ寄生菌ヲ發見シ得タリ。

櫻ノ天狗巢ハ第五版第一圖及第三圖ニ示スガ如ク或ハ下垂シ或ハ直上シテ生ズ此圖ニ示ス者ハ共ニ三年ヲ經

櫻樹ノ天狗巢ニ就テ

タル者ナリ病枝上ノ葉ハ一般ニ形狀健全葉ヨリ小ナリト雖其寄生菌ノ子實層ヲ帶ブル者ハ殊ニ形狀痿縮シ葉面ノ大半若クハ一部分(第四圖)黃綠色ヲ呈シ其橫脈間ニ綫^{スル}ヲ生シ枇杷葉面ノ如クナリ其邊緣下面ニ向ツテ反卷ス之ヲ取り其裡面ヲ檢スレバ第四圖bノ如ク其表面ノ黃綠色部ニ相當スル部分ハ悉ク粉白色ヲ呈セリ此病葉ハ時ヲ經ルニ隨ヒ漸次乾燥シ褐色ニ變シ葉頭ハ上反シ葉緣ハ益下反シ乾縮枯落ス其狀第四圖cノ如シ第五圖ハ病葉下面粉白色部ヲ薄截シ約三百倍ニ廓大シ表皮ノ「クチクル」下ニ病菌ノ子實層ヲナス子囊細胞ノ纒ニ形成セル狀ヲ示シ第六圖ハ同部ヲ約二百倍ニ廓大シ子囊細胞ノ較成長セル狀ヲ示シ第七圖ハ子囊中ニ八箇ノ芽胞ヲ生シタル狀ヲ示シ第八圖ハ其芽胞漸ク分殖シテ多數トナリシ狀ヲ示ス第七第八ノ兩圖ハ共ニ約四百倍ニ廓大シタルモノナリ第二圖ハ第一圖ノ病枝軸病菌ノ作用ニヨリ著シク肥大シタル狀ヲ示ス上部ノ細キ部分ハ健全枝ナリ。

第九、十ノ兩圖ハ病葉ニ寄生シ之ヲ軟化セシムル病菌ヲ示ス *Monilia* 屬ノ種類ナラント考フレモ未ダ其種名ヲ考定セズ。

エングレル、プラントル兩氏合著植物自然分科篇ニ據リ此櫻樹ノ天狗巢ノ原因ヲナス所ノ害菌ノ所屬ヲ考フルニ *Protodisceineae* 科 *Taphria* 屬 *Eutaphria* 亞屬ノ種類ニ係レリ同書 *Taphria* 屬ニ十三種アルヲ云ヒ其中八種ノ名稱記說ヲ掲ゲ他ヲ省略セルガ故ニ之ヲ斷言スル能ハザレモ此種恐クハ本邦固有ノ種類ニシテ未ダ歐洲植物家ノ知ル所トナラザル者ナラン何トナレバ櫻樹ハ本邦ノ固有ニシテ彼邦ニ無キ所ナルノミナラズ我邦ニ於テモ此菌ハ専ラ櫻(ハ)がん櫻等少數ノ樹種ニ寄生シ他ノ櫻屬ノ種類ニ寄生スルコト稀ナルヲ以テナリ。

歐洲諸邦ニ産スル洋種櫻 (*Prunus Cerasus*) モ亦我邦ノ櫻樹ニ生スルト同様ナル天狗巢ヲ生スレモ此ハ *Exo-*

ascus Cerasi ノ寄生スルヨリ起ル者ニシテ本邦ノ櫻樹ノ天狗巢ノ病菌トハ其芽胞ノ員數及大小ニ著シキ相違アリ則本邦櫻樹ノ病菌ノ子囊芽胞ハ熟スルニ及ビ分殖シテ多數トナレモ洋種ノ櫻樹ニ寄生スル者ハ其芽胞八箇ニ止マルノ事實是ナリ

依テ予ハ今假ニ本邦櫻樹ノ病菌ニ *Taphria pseudo-cerasus* ノ新名ヲ附シ内外菌學家ノ批評ヲ乞ハント欲スルナリ

Taphria pseudo-cerasus (n. sp.) ノ形狀ハ左ノ如シ

Ascus when ripe many-spored, 40—44 μ long, 6—9 μ broad, with pedicel-cell 6—9 μ high. Spore roundish-oval 4.5—5 μ long, 3.5—4.5 μ broad. Forms bushlike, erect or hanging hexenbesen; the small,

pale leaves of the same are covered with hymenium on the under surface. Upon *Prunus pseudo-cerasus*, and *P. Miqueliana*, in Japan.

以上圖說スルガ如キ者ナルガ故ニ櫻樹ノ天狗巢ハ其樹ノ開花前ニ健全部ヨリ切り取り翌春發生シ芽胞ノ飛散シテ健全枝ニ傳染スルヲ防クベキナリ。

第五版ノ諸圖ハ駒場農科大學植物園所生ノ芳野櫻即 *Prunus pseudo-cerasus* Lindl. var. *Sieboldii* Maxim. ノ枝上ニ生ゼル天狗巢及病菌ヲ寫セルナリ。

世人往々八重櫻ノ天狗巢ヲ生ゼザルヲ曰フ然レモ是亦病菌ノ侵ス所トナル但其病狀稍異ナル所アルヲ以テ人ノ注意ヲ惹クコト少キナリ現ニ我農科大學植物園ニ植ヘタル紅普賢、地主櫻、南殿櫻、等ハ何レモ八重ニシテ皆此病ニ罹レリ

澎湖列島自生植物

以上櫻樹天狗巢ノ原因ニ就テ聊カ解説セリ尙此病菌ノ爲ニ起ル櫻樹ノ葉部、莖部其他ノ構造上ノ變狀ニ就テハ他日精査ノ上再ビ論定スル所アルベシ

田代安定氏先ニ 皇軍混成枝隊南征ノ舉アルヤ其附員ヲ命セラレテ澎湖島ニ涉リ擔務ノ繁忙ナル併モ惡疫流行ノ頗ル危險ナル地域ニ立テ寸暇ヲモ空フセス本島植物取調ニ從事シ野戰郵便ニ托シテ其第一報ヲ植物學教室ヘ送附セラレタリ今乞フテ是本誌ニ登載ス

○澎湖列島自生植物 (第一報)

田代天劍稿

編者誌ス

Catalogue des Plantes récoltées aux îles de Pescadore, I.

Par Antei Tashiro.

双子葉植物

Cruciferae

- (1) *Senebiera pinnatifida.*

ヤンバルガラン(沖繩産ト全ク同一種)

Capparidace.

- (2) *Cleome pungens, Willd.*

フウテウサウ(白花菜)日本培植ノ風鳥草、各原野、海岸路傍等隨所

Portulacaceae.

- (3) *Portulaca sp.*

澎湖マツバボタン(田代)各海岸、草高サ五六寸、半蔓狀、莖葉紅色、葉腋多毛、葉互生粗着或ハ密着圓頭披針狀多肉長サ三分許幅一分許略ボめまんねんさう葉ノ趣ヲ有ス、花ハ各枝梢頭單出無梗ニノ萼苞ヲ兼テ花徑四分許五出每瓣凹

頭瓜狀鮮黃色ニシテつばぼたん花ニ近似シ瓣更ニ開裂ス

若シ新種ナラバ *Portulaca Hookensis* トモニ

フベキモノナラン

(4) *Portulaca oleracea*, L.

スベリヒユ(馬齒莧)

Malvaceae.

(5) *Abutilon indicum*, Daus.?

シマイチビヨ。但シ葉邊ノ齒刻著シクシテ且ツ小形

ナリ

(6) *Sida rhombifolia*, L.

金午時花(沖繩産ト同一種)

(7) *Sida* sp.

ヒロハノキンゴシクハ(田代)葉柔厚多毛花瓣指

大ニシテ淺黃色

(8) " sp.

マルバノ金午時花(田代)莖纖細葉心臟狀柔薄ニ

ノ多皺紋アリ花細小淡黃色

Zygophyllaceae.

(9) *Tribulus terrestris*, L.

ハマヒシ(蒺藜)全島隨所

Geraniaceae.

(10) *Oxalis corniculata*, L.

カタバミ(酢漿草)

Leguminosae.

(11) *Lotus* sp.?

澎湖エボシクサ(田代)

宿根蔓生、莖長七八寸場地性、莖多毛、葉單鱗

狀柔厚多毛三四對乃至五六對生毎小葉圓頭披針

狀、花猩紅色萼五出細披針狀、莢扁平鎌頭狀、

一莢六七豆乃至十二三豆子

(12) *Desmodium* sp.

宿根特生小草、高五六寸、莖多節葉互生單出卵

圓狀長五六分幅三四分質柔厚、花淺紅色

(13) *Lespedeza* sp.?

宿根場地性小蔓草、細莖小長七八寸、葉三出品
字狀、每小葉尖頭披針狀軟薄微毛アリ花梗長二
寸許每梗七八九花種着、花紫碧色最美观アリ莢
微扁平單直ニシテ七八豆子

(14) *Rhynchosia* sp.?

「サキナハヒメクズ」ニ似タル小蔓草

(15) *Aeschynomene indica*, L.

クサネム(合蒴)

(16) *Cassia occidentalis*, Lr.

ハブサツ(望江南)

Ficoideae.

(17) *Tetragona expansa*, Ait.

ツルナ

Umbelliferae.

(18) *Hydrocotyle asiatica*, L.

ツボクサ

Compositae.

(19) *Bidens* sp.

澎湖センダクサ(田代)(最珍草)一年生最小草、
葉場地叢出細剪裂質堅厚ニシテ光澤アリ花梗葉心
ヨリ抽出シ高サ三四寸ニシテ莖狀ヲ爲ス多極梗
チ分チ細小鮮黄花ヲ着ク一莖七八花瓣開展シ菊
花狀ヲ爲ス子狀細小長サ三四分

(20) *Lactuca* sp.

澎湖ニガナ
葉叢出場地生長二三寸幅三四分顯著ナル缺刻アリ
柔厚ニシテ粉綠色花鮮黃色常ノ「ニガナ」ト同
大該品ハ或ハ「ニガナ」ト同種?

(21) *Eclipta alba*, Hassk.

タカサブロウ

(22) *Xanthium stramonium*, L.

チナモミ(蒼耳)

(23) *Wedelia calendulacea*, Less.

ハンダグルヤ

(24) *Sonchus oleracea*, L.

ノゲシ又ケシアザミ

(25) *Artemisia* sp. („*capillaris*, Th.?)

カハラヨモキ? (茵陳)

(26) *Chicus brevicaulis*, A. gr.

ハマアザミ花ニ白花ト淺紅色ト兩様アリ但シ同
一種ノ如シ

Plumbaginaceae.

(27) *Statice* sp. („*japonica*, S. et Z.)

ハマザシ日本産ト大異徴ナシ但葉稍堅厚ニシ花
瓣稍大ナルヲ覺フルノミ

Primulaceae.

(28) *Lysimachia lineariloba*, Hook et Arn?

ハマボツス日本普通産ト同一種ナルベシ

(29) *Anagallis arvensis*, L.

ルリハコブ(花碧色日本産ト同シ)

Boraginaceae.

(30) *Lithospermum* sp.?

澎湖イヌムラサキ(田代)

場地生小草、葉叢生多毛柔厚ニシ潤頭披針狀花
淡青色イヌムラサキ花ヨリ巨大ニシ稍(ルリ)草
花ノ觀ヲ爲ス

(31)

コケイヌムラサキ

「フキヅメサウ」ノ如キ叢生最小草ニシ葉短披針
狀長二分幅一分許花白色瓣五裂花ノ直径一分弱
所屬尙未確定然ル紫草科中ニ收メ置ク

Convolvulaceae.

(32) *Ipomoea biloba*, 又 „ *pes-caprae*, Rott.

グンバイヒルガホ

(33) *Evolvulus* sp. („*alsinoides*?)

八重山カラッサ(田代)八重山産ト略ホ同形ニシ
葉短潤多毛柔薄質花較ヤ巨大美碧色

(34)

チコアサガホ (田代舊名)

宮古、八重山島産ト同一種、葉尖頭心臟狀多毛
花白色直径三四分形狀ハ彼ノ州南諸島草木誌ニ
詳録シ置ケリ

(35) *Dichondra repens*, Forst.

アフヒゴケ

Solanacee.

(36) *Datura stramonium*,?

キチガヒナスビ土名マントウロウ即蔓陀羅マンダローノ義
也

原野、海岸、路傍、阡陌其全島中ニ自生ス

(37) *Solanum indicum*,?

半灌木矮生高六七寸乃至一尺餘場地生多枝、枝
葉全部帶紫色或ハ淺綠色ニ著シキ長刺針滿布
ス花淡紫色直径七八分子實矮鶏子大即圓徑一寸
許(楕圓ハ微扁圓)初白色熟ノ黄色

(38) „ *nigrum*, L.?

イヌホヅキ

(39) *Physalis angulata*, L.

シマセンナリホヅキ (田代)

日本普通ノ品ハ „ *minima* ト思フ

Acanthaceae.

(40) *Justicia procumbens*, L.

キツネノマゴ 普通品

Verbenaceae.

(41) *Lippia nodiflora*, Rich.

イハダレサウ (花帶紅白色ナレドモ普通品ト思
フ)

フ)

(42) *Vitex trifolia*, L. var. *unifoliata*.

ハマゴウ

Labiatae.

(43) *Ocimum basilicum*, L.?

ニンバウキ (羅勒) 原野各所或ハ異品? 未精檢

(44)

同近似品葉披針狀未精檢

Nyctagineae.

(45) *Boerhaavia diffusa*, Hook et Arn.

ナハカノコサウ沖繩産ト全ク同一種

Amaranthaceae.

(46) *Celosia argentea*, L.

ノケイトウ

(47) *Amaranthus viridis*, L.

イヌコト

(48) " *spinosus*, L.

ハリイヌビユ(田代所命)普通帯赤色ノモノ、外

ニ莖花穂共ニ淡黄綠色ニシテ葉狭長花穂細長ノ品

アリ果テ同種? 未精檢ト雖トモ他ニ異徴ヲ見ス

(49) " sp.

ヒユナ一種全草帯赤色ニシテ葉淡紫斑點アリ葉ハ

白莖ヨリ細小ニシテ尖長莖多ク直立シ花穂細長

(50) *Achyranthes aspera*, L.

イノコヅチ

Chenopodiaceae.

(51) *Atriplex arenaria*.

サキシマヒレアカザ(田代)

沖繩縣宮古島産ト同一種ト思フ但シ本島尤モ多

シ

(52) *Chenopodium acuminatum*, Willd.

カハラアカザ

(53) " *albumax* L.

アカザ

Santalaceae.

(54)

日本名.....

最珍草ト思考ス場地生ノ小草、莖方形帯赤色、葉

互生倒卵形長サ三四分幅二分強、柔厚或ハ多肉

質花徑二三厘瓣六出尖頭爪狀帯紅綠色即蓇葖ナリ

(無瓣)雄六出? 肉眼ニテハ認メ難シ、子實橢圓
 ニシテ長徑二分強、熟シテ尙淺綠色、薄キ殻皮
 ナ裂ケハ中ニ六個ノ長核子アリ無梗花ニシテ稍
 葉腋ニ一花ツツ出ツ

此草原野高所ニ多シ又海岸ニモアリ之ヲ檀香
 科ト確言スルニハ非ス如何ニモ此科目ニ屬ス
 ベキ者ト思考スルナリ

Euphorbiaceae.

(55) *Euphorbia trymifolia*, Burm.

八重山ニシキサウ

(56) *E. pirulifera*, L.

シマニシキサウ

(57) *E. sp.*

土名珊瑚樹

灌木後チ喬木狀ヲ爲ス多枝叢生宛然さんごじゆさ
 ぼてんノ如シ殆ト無葉常ニ枝條ノミ圓筒狀ヲ爲シ
 生長ス花實未々見ズ

(58) *Phyllanthus urinaria*, L.?

コミカンサウ或ハ別種? 計リ難シ

Urticaceae.

(59) *Morus alba*, L. var. *indica*.

リウキウクハ

(60) *Ficus retusa*, L.

ガスマル 極メテ稀ナリ又大木少シ

單子葉植物

Commelinaceae.

(61) *Commelina polygama*, Benth.

奄美^{アム}ツユツサ(田代)

Cyperaceae.

(62) *Cyperus rotundus*, L.

カウブシ

Gramineae.

(63) *Dactyloctenium Aegyptium*, Willd.

宮古島ヲヒシバ(田代舊名)

(64) *Arundo Kunth.*

ヨシダケ是ハ全ク普通ノよしだけト思フ

(65) *Cynodon dactylon, Pers.*

ギナギシバ

(66) *Zoysia pungens, Willd.*

シバ(結縷草)

(67) *Setaria viridis, Be.*

エノコロクサ

(68) *Dimeria sp.?*

カリマタサウノ類

(69)

アカヒゲカヤ(田代舊名) 近種?

外ニ

(70)

豆科小草或ハ *Lespedeza?*

未タ羊齒科已下ノモノハ苔蘚ヲリトモ見ズ

禾本科マデニ止レリ尙此ヨリ精査セン

書翰抜抄 去ル四月二十日當地着餘暇ヲ以テ本島ノ植物取調採集中ニ御座候今度ハ事餘リ急ニシテ押葉用具等モ準備致サス甚不自由勝ニ候小キ「ブリツキ」茶壺ヲ携ヘテ標品ヲ採取致候次第乍去着島ヨリ今日迄毎日各所ヲ跋涉シ一品モ残サズ筆記シテ正ニ別表ノ如シ近日各列島ヘモ渡行致スベク候間何レ次回便マデニハ尙數十種類ヲ得ベク存シ候(中略)本島ハ兼テ噂ニ聞及ヒタル如ク實ニ平坦島ニテ三十餘ノ群島何レモ同一地勢ノ火山鎔成岩島ト覺候又一本ノ樹木モ無キ島ト聞及候ヘシガ果シテ然リ此目錄中榕樹アリト雖モ樹木ト視ル程ニモ至ラス又植物ノ種類ハ至テ僅少ナルベキモ實ニ奇異ナル一種ノ植物帶ヲ爲シ其植物ハ他ノ熱帶地方ニ反シ悉ク細小草ノミニシテ恰モ「アルベン プラント」ノミ生長スル地ヲ歩スル心持致候此細小草ノ中意外ニ奇種多シト覺候當地ハ北緯二十三度圏内ノ純熱帶地ナレモ雨濕常ニ甚シク……………若シ押葉用具整備セハ今回ハ一生懸命標品ヲ採集シテ一品モ残サザル覺悟ニ御座候云々

明治廿八年四月廿四日

在澎湖島

田代安定

日本藥局方植物篇

(前號の續き)

澤田駒次郎

藥品 赤色規那皮 *Cortex Chinae ruber.*

赤色規那皮ハ本植物ヨリ剝取セシモノニシテ貴重ナル藥品ノ一トス現今藥用ニ供スルモノハ專ラ印度產トス
日本藥局方ニハ此規那皮等ヲ以テ藥用トス

規那皮來歴 生藥學曰 *China* (即チ *Kina-kina* 或ハ *Quina-Quina* ナル名稱ノ約語) ハ素ト南米ヨリ傳來

セルモノニシテ百露人ハ已ニ太古ノ時代ヨリ規那皮アルコトヲ知レルヤ疑ナキニ似タリト雖モ未タ確然タル
證跡ヲ認メス、而シテ西班牙人ノ始メテ規那皮ニ關スル報告ヲナセシモ亦近ク一千六百三十年ニ在リ一千六
百三十八年百露副王ノ妃 *Chinchon* 夫人リマ府ニ於テ偶、熱病ニ罹リ規那皮ニ因テ快愈スルコトヲ得シヨリ

以來世人始メテ其靈藥タルコトヲ知レリ、一千六百四十年シンシオン夫人西班牙ニ歸リ侍醫ニ命シテ規那皮
ヲ廣播セシメタリ又「カトリック」教會々員ハ規那皮ヲ知り幾モナシシテ羅馬ノ藥舖ニ之ヲ販賣セリ然レモ當

時規那皮ノ無効說ヲ唱フルモノアリテ大ニ之ガ廣播ヲ妨碍セリ獨乙ニ於テハ一千六百六十九年始メテ之ヲ
China Chinae ト稱シテ藥舖ニ販賣セリ爾後幾モナシシテ *China nova* (葛斯加利刺皮) ナル毫モ亞爾嘉魯乙度ヲ

含有セザル所ノ質種規那皮世上ニ現出セリ、一千七百三十年ヨリ一千七百四十年巴里府ニ於テ一種ノ規那樹
ノ記載及ヒ其圖畫ヲ世ニ公ニセリ而シテ一千七百四十二年林那 (Linne) 氏「チンシヨナ」(*Cinchona*) ナル
植物族ヲ設ケタリ然レモ同氏ハ標本ニ乏シク其所有セル *Cinchona officinalis* 樹ニ就キテ詳細ナル記載ヲ下

スコト能ハザリシ、一千七百七十六年ニ至リ *Cinchona lancifolia* ノ發見アリ、次テリキニス (Ruiz) 及ヒ
 パウソン (Pavon) ノ兩氏ハ一千七百七十八年ヨリ一千七百八十八年ニ至ルノ際百露ニ於テ多數ノ「チンシ
 ヨナ」樹ヲ發見シ一千八百四十七年ウエツデル (Weddell) 氏始メテ王規那皮ノ原植物ナル *Cinchona calysaya*
 ナ種別セリ、規尼涅及ヒ聖古尼涅ヲ創製セシハ(一千八百二十年)佛國巴里府ノ藥劑師ペルレチエー (Pelletier)
 及ヒカウツンツー (Cavenou) 「兩氏ノ功績トス」トアリ

抑々規那皮ナル名稱ハ規尼涅ヲ含有スルモノ、通稱ニシテ *Pernijia pedunculata* ノ皮ヲモ亦規那皮即チ銅色
 規那皮 (*China cuprea*) ト云フ此植物モ亦茜草科ニ屬セリ

銅色規那皮ハ一千八百八十年以來南亞米利加ヨリ輸出ス本邦市場ニモ間マ之ヲ目撃ス本生藥ニ銅色規那皮ノ
 名アルハ其色澤ノ銅ニ類似スルニ因レリ而シテ此規那皮ハ規尼涅ノミヲ含有シ其含量ニ「ベルセント」ノ多キ
 ニ至リ規尼涅ノ製造ニハ極メテ適當スト雖凡規那屬ノ植物ニアラズ且亞爾嘉魯乙度ノ含量日本藥局方ノ規定
 ニ適當セザルガ故ニ藥用ニ供シ難シ其他擬規那皮ナルモノアリ殊ニ南亞米利加ヨリ輸出スル中ニハ間マ之ヲ
 發見スルコトアリ此皮ハ管ニ其外見ヲ異ニスルノミナラズ毫モ規那亞爾嘉魯乙度ヲ含有セス

收獲 南亞米利加ニ於テ規那皮ヲ採收スルニ従前ハ甚タ粗暴ナル方法ヲ用ヒタリ採皮者ハ政府ノ許可ヲ得テ
 森林中ニ入り自生ノ樹ヨリ採集ス先ツ樹皮ニ寄生スル地衣類ヲ除去シテ之ヲ清淨トナシタル後其樹ヲ伐截シ
 其皮ヲ剝離ス或ル地方ニ於テハ直火ニテ乾燥ス又皮鱗發育ノ旺盛ナル皮ニ於テハ之ヲ剝除シ其内皮ノミヲ市
 場ニ出スモノトス玻利非亞政府ハ往々規那樹ノ滅絶ニ歸センコトヲ豫防スルガ爲メ其亂伐ヲ禁シ一樹ヲ伐ル
 トキハ必ズ五株ヲ栽植ス可キ制規ヲ設ケ又規那樹ノ培養ヲ獎勵セリ」印度地方ニ於テハ伐截及ヒ剝皮ノ二法

ヲ以テ規那皮ヲ採集ス

伐截法ハ栽植ヨリ六年乃至八年ヲ經タル樹ヲ根際ヨリ大約十八「センチメートル」ヲ隔テ、伐截シ其皮ヲ剝離ス此方法ハ甚ダ利潤多ク其殘株ヨリ新芽ヲ生シ大約八年ヲ經レバ更ニ新皮ヲ採收スルヲ得ベシ又根ヲ掘採スルモ大ニ利潤アリ日本藥局方注解曰伐仆法ハ規那樹發育後大約八年ニ至ルヲ待チ之ヲ斫伐シ皮ヲ剝離スルニ在リ此方法ハ甚ダ利潤多キモノニ其殘林ヨリ新芽ヲ出シ數年ヲ閱スルハ又更ニ新皮ヲ採收スルヲ得ベシ又根ヲ掘採スルモ大ニ利潤アリト云フ是レ根皮ハ幹皮ヨリ多ク有効成分ヲ含有スレハナリ而シテ速ニ規那皮ヲ乾燥スルハ等閑ニ附ス可ラザル件ニシテ永ク之ヲ森林中ニ放置スルハ自然亞爾嘉魯乙度分ノ減却ヲ來スモノナリ云々トアリ

剝皮法 此法ハ專ラ瓜哇島ニ行ハル、所ニシテ二種ノ方法アリ一ハ Maens 氏剝皮法ニシテ其樹ヲ伐截スルコトナク栽植ヨリ大約六箇年ヲ經タル幹ノ一側ニ搔裂ヲ施シ皮ヲ剝取ス此際搔裂ヲ深クシテ新生組織層ヲ傷ハザル様注意スルヲ緊要トス而シテ皮ヲ剝離セシ部位ハ粘土ヲ塗抹シ或ハ草類ヲ以テ被覆ス爾後六箇月ヲ經テ他ノ一側ノ皮ヲ剝離ス其後大約六箇年ヲ經テ再ヒ皮ヲ剝取ス

此法ハ該植物ヲシテ漸次衰弱セシメ又皮ヲ剝離セシ部位ニ黴菌^{カッレ}ヲ發生スルノ危懼アリ故ニ目下殆ンド廢棄ニ歸セリ一ハ Mac Tvor 氏剝皮法ニシテ樹幹ニ於テ若干ノ距離ヲ隔テ、皮ヲ剝取シ其皮ヲ剝離セシ部位ヲ青苔或ハ藁ヲ以テ被覆ス其後新規ニ生ジタル皮ハ亞爾嘉魯乙度ヲ含有スルコト多量ナリ錫蘭ニ培養スル赤色規那樹ノ初生ノ皮ハ亞爾嘉魯乙度ノ含量ニ、九「ベルセント」ナリシモ第二期生成ノ皮ハ四、二「ベルセント」ノ多キニ至ル此レ何ナル原因ナルヤ詳ナラス或曰稚皮ハ多クノ組織ヲ有スルニ基因スト日本藥局方注解曰剝皮法ハ

專ラ瓜哇島ニ行ハル、所ニシテ規那樹ヲ伐仆スルコトナク皮ヲ搔取シ或ハ其一部分ヲ剝離スルモノナリ而シテ其皮部ヲ剝離セシ部分ハ青苔或ハ藁若クハ粘土等ヲ以テ之ヲ被覆シ更ニ樹皮ノ發育スルヲ進促ス此方法ニ由ルルハ規那樹枯死スルコトナク盛ニ發育シ其皮ヲ剝離セル部位ニハ新皮ヲ生シ兩三年ノ後更ニ之ヲ採集スルヲ得ルニ至ル而シテ茲ニ新規ニ發育セル稚皮ハ従前ノ皮ヨリハ亞爾嘉魯乙度ニ富メルヲ常トス」トアリ

前ニ記載セル規那樹皮採收法中何レノ方法ヲ以テ適當ト爲スベキヤニ至テハ日尙ホ淺キヲ以テ其說未ダ一定ニ歸セズト雖モ現今規那樹ノ培養法大ニ進歩シ管ニ其外見ヲ齊フスルノミナラズ亦多量ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含有スル皮ヲ產出スルニ至レリ

沖繩縣下八重山島ニ往年栽植ノ規那樹ハ其成育宜シト聞ケバ他日良好ナル規那樹皮ヲ產出スルニ至ルベシ

(以下次號)

岡山縣北部地方植物採集記

(前號ノ續キ)

山本 頼 輔

二十五日八時眞賀ヲ發シ大庭郡下長田村ニ着ス此日

まつむしさう

全

上

採集セシ植物ハ

○みつぎぼうし

眞島郡二川村小童谷

○かはらはこ

大庭郡神湯村湯本

二十六日午前七時縣村下長田村ヲ發シ中蒜山ヒルゼンニ上ル

いはでんだ

全

上

山ハ伯耆ノ國境ニ聳ユル高山ニシテ海拔三千六百尺

くらゐ

全

上

山脈東西ニ延長シ東ニアルモノハ下蒜山ト云ヒ西ニ

しやくなき

全

上

アルモノハ上蒜山ト云フ上蒜山ノ脈更ニ延キテ皆ケ

山擬寶珠ヶ山烏ヶ山トナリ以テ伯耆ノ大山ニ連ル相
 距ル直徑纔ニ三四里ニ過ギスシテ呼ベバ將ニ答ヘン
 トスルガ如シ山上樹木ナク唯溪澗少シク繁茂スルヲ
 見ルノミ此日暴雨霽然トシテ下リ雷鳴般々近ク山腹
 ヨリ起リ風伯亦コレニ加ハリ亦登ルヲ得ズ九俣ノ功
 モ空シク茲ニ一篋ヲ闕キテ歸路ニツケリ登山中採集
 セシ植物ハ

○こいめばな

蒜 山 ノ 中 腹

○きようかのこ

蒜 山 ノ 麓

やまはまこ

蒜 山 ノ 巔

○まひつるさう

全 上

二十七日七時縣村下長田ヲ發シ高田川ニ沿フテ下リ
 熊居坂峠ヲ經テ午後三時再ヒ神湯村湯本ニ着ス此日
 沿道採集セシ植物ハ

あぜどうがらし

縣村下長田ノ噺道

とりあししやうま

全 上 高田川ノ溪澗

○なべな

大庭郡熊居坂峠

しらやまきく 全 上
 こほどりさう 全 上
 きつりふね 全 上
 さんしやうみづ 全 上
 二十八日七時三十分湯本ヲ發シ池峠ヲ越ヘテ西々條
 郡ニ入り津山川ニ沿フテ午後八時奥津村ニ着ス此日
 採集セシ植物ハ

やぶれがさ

大庭西々條ノ境ナル池峠

いちやくさう

西々條郡羽出村

○すのき

全 上

◎てうじざく

西々條郡奥津村奥津川ノ沿岸
上卑濕ノ地ニ生ス

○さじのを

全 上

○ひめしろね

全 上

二十九日八時三十分奥津ヲ發シ泉ヶ山ニ上ルハ西
 々條西北條兩郡ノ境ニ距ル高山ニシテ海拔四千八百
 二十尺絶巔樹木ヲ生ゼサルモ其山麓ノ溪澗ハ樹木繁
 茂シテ稍植物ノ採集ニ適セリ

○ひなのうすつば 泉山ノ溪澗
○かりがねさう 全 上

くろもじ 全 上

いぬぶな 泉ヶ山ノ山腹

○ひきをこし 全 上

○いはかのみ 山 巔ノ岩上

○とちばにんじん 全 山腹

三十日午前七時奥津村ヲ發シ午後三時東北條郡加茂村小中原ニ着ス此日採集セシ植物ハ

かうやぼうさ 西北條郡香々美北村

こがく 全 上

三十一日七時小中原ヲ發シ勝北郡ニ入り有名ナル日本野ヲ經テ正午那岐山ニ登ル山ハ因幡伯耆ノ境ニ跨ル高嶺ニシテ海拔五千二百尺縣下第一ノ高山トス山上樹木ナク唯其ノ後背ハ因幡ノ智頭郡ニ連リ有名ナル奥津川官林ノアル所ニシテ蒼蔚タル樹木連亘數里ニ亘リ植物採集屈竟ノ區域ナルモ憾ラシハ僅々十

二三日ノ短晷ヲ以テ縣下北部ヲ横絶スルニアリシガ故ニ其ノ採集ヲ他日ニ期シ此日ハ唯山上ニ採集スルコト、シ即日津山ニ至リ歸路ニ着ケリ當日採集ノ植物ハ

どち 那岐山ノ餘脉瀧山ノ麓

なんばんさせる 那岐山ノ巔ニ頗ル多シ

○まつのさわた 全 上

まひづるさう

此草ハ蒜山ニアリシモノナルが此山巔ニモ亦多シ此草ハ土人那岐草ト稱シ早天ノ時抜キ去レバ山麓忽チ雨ヲ降ラスト云フ無惜ノ植物果シテ此事アルカ記シテ一察ニ供スト云フ

一日津山町ヲ發シ勝南郡湯郷ニ着シ翌二日湯郷ヲ發

シ吉井川ヲ下リテ和氣驛ニ出テ是ヨリ瀛車ニ乗シ岡

山ニ歸着セリ當時暑氣燒クガ如クコレニ加フルニ赤

痢病猖獗ノ勢ヲ逞フシ山村僻邑往々ニシテ茶毒ヲ蒙

ムル不幸ニシテ余ガ同伴タル小川剛氏ノ如キハ其ノ

感染スル所トナリ中道ニシテ歸路ニ着クニ至リ余カ

企畫シタル方針モ爲メニ幾分カ其ノ影響ヲ受ケ大ニ

採集ヲ試ムルヲ得ザリシハ實ニ遺憾ノ限リナリ唯希

クハ向後單ニ植物ノ採集ヲ企テ再ヒ先生ノ高教ヲ煩
ハサントス幸ニ教示ノ榮ヲ賜ハラシコトヲ取リ敢ヘ
ズ採集日記ヲ製シ先生ノ閣下ニ呈シ以テ高命ニ應ズ
ト云フ

再白。だいもんじさう及つるてんだノ二種ハ其ノ後
九月頃備作地方ニ旅行ノ途次採集セシモノニシテ前

京都ナル植物學ニ熱心ナル淺田學一氏ヨリ完全ナル數多ノ標品ヲ寄セラレ其學名ノ檢定ヲ余ニ托セラル余
更ニ之レヲ牧野富太郎氏ニ乞ヒ左之羊齒科目録ノ種名ノ檢定ヲ得タレバ左表中ノ種名ハ悉ク正確ナルヲ
保證ス又左ノ目録中種ノ學名ノ次ノ數字ハ淺田氏ノ標品番號ナリ

○京都産羊齒科目録

在京都 淺田學一

藤井健次郎

Gleichenia dichotoma Hook. (22) コシダ

產地 洛東、洛西、洛北ノ諸山

G. longissima Bl. (62) ウラシモ

全 隨所ニ生ズ

Onoclea orientalis Hook. (14) イヌガンソク

全 澁谷

者ハ阿賀郡草間村土橋後者ハ阿賀郡水田ノ鐘乳竇ノ
岩上ニ生セリ其他日光ノ名産トシテ知ラレタルつく
ばねうつぎは備中國阿賀哲多二郡ノ山間ニモ亦多ク
シテコレヲ鹽漬トナシ好事家ノ食トセリ右併セテ御
報告申上候

O. sensibilis L. (15) カウヤツラヒ

全 澁谷

O. struthiopteris (69) シサソデツ

全 大悲山

Hymenophyllum barbatum Baker. (50) カウヤコケ

シノブ

全 觀音堂ノ石櫛

H. polyanthus Sw. (49) ホンバコケシノブ

全 觀音堂ノ石櫛

H. rarin R. Br. (1) コケシノブ

全 高臺寺

Trichomanes parvulum Poir. (2) ヤルバホラゴケ

全 高臺寺

Davallia bullata wall. (70) シノブ

全 人家ニ栽培ス

Microlepia hirsuta Presl. (= *Davallia hirsuta* Sw.) (12,

62) ノヌシダ

全 澁谷

M. marginalis Hance. (= *Davallia marginalis* Baker)

(25,33) フモトシダ

全 洛東、洛西、洛北ノ諸山、鞍馬山中位、

Lindsaya chinensis Mett. (= *Davallia chinensis* Sw.; *D.*

tenuifolia Sw.) ホシシノブ (58,72)

全 澁谷

Adiantum pedatum L. (61) シシヤンシダ

全 比叡上志賀里間

Pteridium aquilinum Kuhn (= *Pteris aquilina* L.)

(59) ハシロ

全 隨所ニ生ズ

Pteris cretica L. (11) オホバノホノモトサウ

全 澁谷、鞍馬山等、

P. longipinnula Wall. (53) オホバノハチヂヤウシダ

全 觀音堂

P. serrulata L. fl. (67) ホノモトサウ

全 隨所ニ生ズ

Plagiogyria adnata Bedd. (= *Lomaria adnata* Bl.

(39) キシノサ

全 鞍馬山、澁谷、

P. Matsumureana Makino (= *Lomaria Matsumureana*

Makino) (54) ヤシノサ

全 觀音堂

Asplenium incisum Thunb. (5) トラノナシダ

全 澁谷、洛東諸名刹ノ石階岩角ノ間

A. japonicum Thunb. (16, 19, 20, 30) シタシマ

全 澁谷

A. lanceum Thunb. (71) ノラシダ

全 隨所ニ生ス

A. Trichomanes Huds. (9) チャセシダ

全 澁谷、洛東諸寺社石垣等

A. varians Hook et. Grev. (38) イハトラノチ

全 鞍馬山

A. yokoscense Fr. et. Sav. (48) コトギハシダ

全 大悲山(鞍馬山ヨリ五里斗以北)

Athyrium Filix-femina Roth. (= *Asplenium Filix-*

femina Bernh.) (36) メシダ

全 鞍馬山

A. nigripes Moore. (= *Asplenium nigripes* Bl.) (43)

ヤマトシダ

全 鞍馬山

A. nipponicum Baker. (= *Asplenium nipponicum*

Mett.) (34, 68) ヤマトシダ

全 鞍馬山中位

Aspidium aculeatum Doell. var. *Braunii* Spenn. (18,

35, 52) シマナシダ

全 澁谷、鞍馬山、觀音堂

A. aculeatum Doell. var. *japonica* Fr. et Sav. (42)

全 ノラ

全 鞍馬山

A. angustifrons Mig. (10) ハシタシダ

全 澁谷山中位

A. aristatum Sw. (46) カナシダ

全 比叡山

A. decursive-pinnatum Kunze. (32, 64) ケシダ

全 澁谷

A. erythrorum Eaton. (6,7,8,13,17,21,24)	全	澁谷街道、洛東諸所、	A. tripterum Kunze. (41)	全	鞍馬山
A. falcatum Sw. (4,23,29,60)	全	澁谷街道、洛東諸所、	A. viridescens Miq. (44)	全	鞍馬山
A. lacinum Sw. (40)	全	シムラノロ	Polypodium lineare Thunb. (63)	全	隨所ニ生ス
A. laxum Fr. et Sav. (31)	全	ヤハランシダ	P. Pingua Sw. (65)	全	ヒトツバ
A. Miquelianum Maxim. (51)	全	ナラシシダ	Phegopteris flagellaris Makino. (= Polypodium flagel-	全	人家庭園
A. nuticum Fr. et Sav. (35)	全	観音堂	lare Maxim.) (56)	全	オホフヂシダ
A. rhomboideum Wall. (= Aspidium amabile Bl.)	全	大悲山、観音堂、	Coniogramme falcata Fée. (= Gymnogramme javanica	全	大悲山
(27,47) オホシカナワラヒ			Bl.) (28)	全	イハガチゼンマイ
A. sophoroides Sw. (45)	全	比叡山、洛東圓山近傍ノ山	Ternis piloselloides. R. Br. var. (Drymoglossum	全	澁谷
			carnosum var. B. Baker.) (66)	全	マメツタ
				全	嵐山ノ一部

Osmunda regalis L. var. *japonica* Milde. (73) ゼンマイ

全 隨所ニ生ズ

Lygodium japonicum Sw. (3) ツルシノブ

全 澁谷街道

(完)

◎ 雜 錄

日本産土馬駿畧記 大久保三郎

前號日本及ビ外國ノ植物和名中ムエフスギゴケノ學名

ヲ *Pogonatum aphyllum* ト記セリ而シテ其學名ノ命名

者ヲ載セズ「オーサー」ハ大沼氏ナルカ若新種ナラバ

今少シ形狀ヲ詳カニ示サレタシ若又白井氏ノ嘗テ *P.*

aphyllum ト處命セラレシ者ナレバ *P. acule*, *Sch.* ト

同品ナリ東京小石川ニモ相州箱根ニモ産ス

Diphyseium fulvifolium, *Mitten* ノ産地

本植物ハ *D. foliosum*, *Web. et Mohr* ニ甚似タリ牧

野富太郎氏之レテ土佐國越知村ニ採ル白井光太郎氏ハ

武州大宮八幡ニ余ハ之レヲ百草ニ採集セシコトアリ

Rhizogonium Dozyanum, *Van der Sande-Iacosta*

ノ産地

此こけハ始メ綠色後赤色トナル余ハ之レニ「いたちのし

つぼナル名稱ヲ附シ置ケリ白井光太郎氏ハ池上本門寺

ニ牧野富太郎氏ハ土佐大垂山ニ余ハ伊豆天城山ニ之レ

ヲ採集セリ大學ニ小笠原嶋ノ品在リ多分「いたちのし

つぼ」ナラン只少シク他産ノ品ヨリ形小ナリ

Bryum 屬

本邦産ブリウム屬ノ植物ニシテ學名ノ已ニ知ラレタル

モノ四品アリ曰シ *Bryum scabridens*, *Mitten* 一名

Febria brevicolla, *Sande-Iacoste* 曰 *B. capillare*, *Linn.*

曰 *B. argenteum*, *Linn.* 曰 *B. roseum*, *Schreb.* コレナリ

以上四種中最モ普通ナルハ *B. argenteum* トス瓦屋上、

石垣、板屋ニ銀色ノ葉密ニ覆瓦様ニ排列シ聚生セルモ

ノ即チコレナリ本草綱目啓蒙ニ屋遊やのうへのこけ又

やねのこけト稱スルハ此品カ記載簡ニ過キ詳カナル能

ハズ其記スル處ハ左ノ如シ

屋遊

ヤノウヘノコケ和名

ヤ子ノコケ

古瓦屋上ニ生ス又板屋ニモ日ノアタラザル處ニ生ズ
右ノ記事ニ依リテ考フレハ屋遊ハ瓦若クハ板屋上ニ生
ズルコケノ總稱ナランモ知ル可カラス本品ハ銀色ナル
ヲ以テさんごけト稱スル方可ナラン、D. roseum ハ相
州箱根ニ産ス和名サかさごけトイフ植物名實圖考卷之
十七、第二十三葉ノ載スル一把傘ノ圖好ク似タリ

○落葉集第五篇

野村彦太郎

漆

日本漆ハ漆樹ノ幹ヨリ左ノ方法ニ由テ製出スルモノト
ス拂曉此樹ヲ傷ケ其流出スル護謨分ヲ暗所ニ收集シテ
布囊ニテ濾過シ其滓渣ヲ去ルベシ凡ソ日光ハ護謨分ヲ
害スルノ憂アレバ前法ヲ施スニハ暗所ニノミ於テス而
ノ其滓渣ハ搏ツチテ餅様ニナスト又濕潤ノ天氣ニハ之ヲ濾
過スルヲ嫌ヘリ蓋シ濕氣ハ其凝結ヲ促セバナリ支那

ノ收獲法ハ棒頭ニ爛絹ヲ結付テ漆樹ヲ磨傷スルニ在リ
然ルニ此法ヲ施スニハ天氣乾燥ナルキハ其護謨分ハ粘

着力ニ富メルカ故ニ反テ濕潤ノ天氣ヲ撰ビ且ツ之ヲ乾
スニ一ヶ月許ヲ費スト云フ然ルニ漆樹ノ製法ニ就テハ
該記者ハ特異ノ秘訣アルヲ知ラサルモノ、如シ殊ニ
其技術ニ至テハ日本人ノ長スル所ナリ且ツ此漆ハ人ノ
常ニ稱スル Varnish ヨリモ寧ロ Laquer ノ質ニ近シ

ト (Gardeners' Chronicle. Apr. 16. 1892 外務省報告
抄録)

數年前余ノ雇人ノ日本ヨリ携帶シタル種子ヨリ生シタ
ル漆樹類ハ其高サ十尺乃至十二尺ニ達セリ然ルニ漆汁
ノ大毒性アルコトハ一般ニ人ノ知ル所ナラン余ト二人ハ
其毒ノ刺傷ニ感染シ頭ヨリ脚ニ至ルマテ滿身ニ炎症ヲ
發シ殊ニ面手ハ荨麻ノ刺蝥ニ罹ルカ如ク膨起チアラハ
スニ至レリ其刺蝥ノ甚シキトハ終夜眠ニ就ク能ハサ
コアリシ總テ漆樹類ハ多少ノ毒性ヲ有スルモノ、如シ
(Gardeners' Chronicle Jan. 2. 1892 Albert Willis、説)

「附言」漆ノ毒ニ感染シテ右ノ如キ徵候ヲ呈スルヲ俗ニ「カブレル」ト云ヘリ我國ノ古書ニ往々蚊觸ノ字ヲ充ツルアリ蓋シ蚊ノ毒螫ニ罹ルルハ右ノ如キ小疹ヲ發スルヲ以テ此名アルナルベシ大抵漆樹類ノ諸屬ハ多少ノ毒ヲ含ムコトハ人ノ能ク知ル所ナリ其詳細ナルコトニ至テハ次ノつたうるし (Rhus toxicodendron) ノ條ニ讓ル

○植物世界ニ於ケル炭素及ヒ窒素

ノ同化作用 (承前) 市村 塘

又綠素ヲ欠如セル下等植物ノ腐敗生産物ハ、再ヒ高等含綠素植物ノ營養ト成リ得ルヤ言ヲ待タズ、而シテ該欠綠素植物ナルモノハ、元來他ノ有機物ニ寄活スルコト多キヲ以テ、吾人ハ夫ノ空氣中窒素ヲバ凡テノ窒素化合物ノ原物質ナリト斷論スルニ躊躇セザルモノナリ、管ニ今日生活スル植物ノミナラズ、其祖先植物ト雖モ決シテ他ニ窒素源アリシニハアラザル可シ、同シク其

窒素ハ暗莫尼亞鹽類ノ起源トナルコトハ前世界ニ於テモ、盛ニ行ハレタルヤ疑フベクモアラズ、一体、含水炭素同化作用ト窒素同化作用トノ關係如何ノ問題ニ就テハ、茲ニ其應答ニ二說アリ、一說ニ曰ク此兩作用ハ互ニ相獨立スルモノナリ尤モ多少ハ同化生産物ノ交換作用ナキヲ保ゼズト、他說ニ曰ク含水炭素同化ハ窒素同化ヲナサントスル前狀態ナリト、抑モ炭酸同化ニ伴フトコロノ瓦斯交換ノ有様ヲ觀察スルニ、次ノ化學法式ニ示セル進行ヲ取レルガ如シ

$$\text{CO}_2\text{H}_2 \parallel \text{COH}_2 + \text{O}_2$$

此還元作用ニ必要ナル力ヲ與フルモノハ光線トス、サテ又窒素同化ノ最モ簡單ナル方法ト云ヘバ $6\text{H}_2\text{O} + 2\text{N}_2 \parallel 4\text{NH}_3 + 3\text{O}_2$ ノ如ク暗莫尼亞ヲ作ルニアリ、斯クシテ作ラレタル暗莫尼亞ハ魯氏ノ法式ニ從ヒアルデヒードト溶化スルモノニテ、是亦光線ノ作用ヲ借ラザルベカラズ、然レモ植物体ニ對シテハ充分光線ハ働クモ植物ナケレハ決シテ光線ハ作用ヲナサマルナリ、此場合ニ於テハ窒素ノ二容積ノ代リ

ニ酸素ノ三容積ガ入込マザルヲ得ズ若シ今窒素ヲ同化
スル處ノ藻類或ハ菌類ガ營メル瓦斯交換ヲ定量的ニ觀
察セザル以上ハ藻類ノ炭酸分解ニヨリ酸素ノ放出量ヲ
知ラントスルナドハ思ヒモ因ラザルコナラスヤハ未完

○日本及ヒ外國植物ノ

新和名(承前) 大沼左平

Ranunculus arvensis, L. イトキツネノボタン 歐洲園

ニ自生スル草ナリ莖ハ至テ細シ葉ハ三裂ニシテ又細シ
果實ニ猬刺ヲ有スルモノト肱ノ如キ突起シタルモノト
ヲ多ク有スルモノトアリ植物園ニアルモノハ肱ヲ有シ
テ猬刺ヲ有セザルモノ、方ナリ

Rhamnus Frangula, L. セイヤウイソノキ植物園ニア

Rumex sanguineus, L. ムラサキマダイウツ植物園ニア

リ余ノ脂葉中ニアルモノ

Salvia napifolia, Jacq. カブラバノサルヒア六月紫花

ナ開シ葉ハ蕪菁又ハ蘿蔔ノ狀ニ似タリ植物園ニアリ
Salvia splendens, Ker. オホバノベニノサルヒア南米ブ
ラジリーニ産ス六月紅花ヲ開ク植物園ニアリ花戸ニテ
ヒトクサウト云フモノ是ナリ

Salvia leuonroides Glox. (*S. formosa*, J. Herit.) ベリ

一ノベニノサルヒア南米ベリニ産ス花ハ深紅色ナリ

Salvia fulgens, Cav. (*S. carinalis*, Kunth.) メキシコ

ノベニノサルヒア北米メキシコニ産ス萼ハ綠色ニシテ

花ハ深色ナリ

Salvia Solaria, L. ニクヅツナルヒア 肉豆蔻撒爾比亞

歐洲ノ南部ニ自生スルニ年草ナリ又東洋ニモ産ス此レ
ニ淡紅紫色或ハ薔薇色ノ托葉アリ花ノ上唇ハ晒紫色下
唇ハ淡黃白色ニシテ麻醉性ノ最モ強キ香ヲ發ス藥用ニ
供スベシ又酔分ヲ付ケル爲ニ此ヲ密ニ麥酒中ニ混和シ
テ製スル者アリ然ルトキハ此ノ麥酒ニ肉豆蔻ノ如キ佳
香付キテ最モ美味ナルモノナリ

Salvia indica, L. インドサルヒア東印度ニ産ス大ナル

紫色ノ花ヲ開ク其下唇ハ白色ニシテ藤紫色或ハ赤紫色ノ斑點アリ

Selaginella atrovirens, Spring. コンテリクシラマゴケ植

物園又ハ花戸ニアリ

Soldanella alpina, L. イハカ、ミダマシ歐洲ノ高山ニ

産スル多年生ノ草ナリ余ノ腊葉中ニアルモノ五月ヨリ

九月迄花ヲ開ク

Soldanella montana, Willd. オホイハカ、ミダマシ歐

洲ノ高山深森中ノ谷地ニ自生スル多年生ノ草ナリ花ノ

期節上種ト全シ

Soldanella minima, Hooppe. ヒメイハカ、ミダマシ歐

洲ノ高山ニ自生スル多年生ノ草ナリ六七月花ヲ開ク

Soldanella pusilla, Baumgarten. チャボイハカ、ミダ

マシ歐洲ノ高山ニ自生スル多年生ノ草ナリ六七月花ヲ

開ク

Swerthia perennis, L. var. *cuspidata*, Maxim. コヤガ

クアケボノサウ シマイクアケボノサウ余明治十七年

九月十一日信州木曾駒岳ノ内ノ縞池ト云小サキ山湖ノ

邊端ノ濕地ニ於テ發見シ此ノ新名ヲ命ゼリ(山民ノ言

ニ此ノ池ノ水而テ望メバ縞ニナツテ見ユ因テ縞池ト名

クト)八九月紫花ヲ開ク其後陸中國紫波郡下松本村二

十一番地ニ住スル須川長之助ナル者故魯國植物分類學

ノ大家マキシモウヰイツチ氏ノ命ヲ奉ジテ本邦植物標

品採集ノ爲メ諸州ヲ經歷セシトキ飛彈國乘鞍山瀧ノ上

ニ於テ八月採集セリ余コノ標品ヲ見タリ昨年夏渡邊協

氏モ駒岳ノ縞池ニ於テ採集セラレタリ余ノ駒岳ノ縞池

ニ於テ採集セシ標品ハ帝國博物館貯藏ノ腊葉中ニアリ

Tamarix germanica, L. ドイツギヨリウ

Tamarix gallica, L. フランスギヨリウ

Taxodium distichum, Rich. (Cupressus *disticha*, L.

Schinberbia disticha, Mirb.) アメリカスギシヤウ植物園

ニアリ

Taxus baccata, L. セイヤウイチギ獨乙人ハ此林ヲ腐蝕

酸液ヲ以テ黒色トナシ其色澤烏木ニ似タルヲ以テ獨乙

烏木ト稱シテ種々ノ細工ニ用ユ又材ハ緻密堅硬ナルヲ以テ指物、彫刻、及ビ輻輳細工ニ用ユ瑞西人ハ此材ヲ卵木ト稱シテ專ラ彫刻細工ニ用ユ若キ枝及ビ葉ニ毒アリ馬羊之ヲ喰ヘバ即チ死ス諸獸コレヲ食スト雖モコレヲ食サシムレバ害アリ然レ藥用ニ供スベシ人類デサイモ之ヲ多量ニ用ユレバ死スルモノナリ甘キ赤キ猪口狀ノ漿果ハ食シテ害ナシ多ク食ヘバ下痢ヲ來スモノナリ核ハ毒アリ食スベカラズ又黃實ノモノモアリ重ナル十六變種アリ此ノ内ニ日本ニ産スルモノニ變種アリ一チイナ井 (*Taxus baccata*, L. var. *cuspidata*, Hochst.) ト云ヒ一チキヤラボソ (*Taxus baccata*, L. var. *adpressa*, Carr. (syn. *T. parvifolia*, Wendrth. *T. tardiva*, Laws. *T. adpressa*, *T. brevifolia*, *T. b. microphylla*, Jacques. *Cephalotaxus tardiva*, Tiebl. *Cephalotaxus adpressa*.) ト云フ

Thuinbergia alata, Bojer, ヤハズカヅラ東印度及ビ小笠原ニ産ス植物園ニアリ

Tilia europaea, L. セイヤウシナノキ植物園ニアリ

Torenia asiatica, Lindl. オホウリツサ植物園又花戸ニアリ十月紫花ヲ開ク

Torreya graneis, Fort. (*Caryotaxus grandis*, Hochst.) シナガヤ支那ノ北部ニ産ス

Torreya Myristica, Hook. (*T. californica*, Torr. Carr. *Yotaxus californica*, Hochst.) アメリカガヤ北米カリホルニアニ産ス

Trifolium alpinum, L. ミヤマシヤジツサウ余ノ腊葉中ニアルモノ

Verbena tenear Spr. ネバリハヒシヨザツラヒナヒシヨザツラ植物園ニアリ

Veronica yedoensis, Fr. et Sav. ヒメカハヂサ明治十三年四月神田表神保町ニ於テ始テ發見ス

Vitex Agnus-Castus, L. イタリアニンジンボソ歐洲ノ南部ニ自生スル灌木ナリ果實ハ香料ニ供スベシ又歐洲俗民此ノ實ヲ食スレハ情欲ヲ減スルノ効アリト謬信ス

因テ獨乙人ハ此ノ樹ヲ貞實樹 (*Kuschbaum*) ト稱ス葉ハ藥用ニ供スベシ植物園ニアリ

Vitis discolor, Dalz. (*V. inaequalis*, Wall. ? *V. diversifolia*, Wall. ? *V. costata*, Wall. *Cissusdiscor*, Blume.)

セイシカツラヒマラヤ山中ニ産ス横濱ポーマー商會及

植物園ニアリ

Wisteria frutescens, DC. (*W. speciosa*, Nutt. *Glycine frutescens*, L.) アメリカコナ

Wisteria consequana, Benth. シナフヂ支那ニ産ス

Yucca recurva, Salisb. チデイトラン イトナシイトラ

ン葉ハイトラン (*Yucca filamentosa*, L.) ニ似テ糸ナキ

モノ植物園ニアリ余一株ヲ有ス

○植物名稱考

野村彦太郎

此編ハ余ガ年來和漢洋ノ雜書ヲ閱讀スルノ際目ニ觸レ心ニ感スル所ヲ拔萃シタルモノナレハ往々世間ノ通説ニ反スルノ説モ少シトセス而シテ茲ニ掲クル所

ハ和漢名ノ洋名ニ轉ゼシモノ或ハ漢洋名ノ和名ニ轉セシモノヲ論セシモノ十中八九ヲ占ムト云爾

第一 Ginkgo ト Ginseng ト

理學家 B. S. Lyman 氏ノ所説ニ據レハ *Salisburia*

adiantifolia ノ俗名ニ通常 Ginkgo ト呼ベルハモト

Kampfer 氏所著ノ *Amoenitates Exoticae* ナル書中ノ

活字誤植ニヨルト今日、日本ニ於テ唱フル所ニ從フ

ハ Silver apricot 或ハ Silver almond (銀杏) ナル語

ハ Ginkiyoo ト書ンベシ其 G ハ強者ニ呼ビ O ハ長

者ニ呼フベシト Ginkiyoo ハ其果實ノ名ニシテ其樹ヲ

稱シテ Ichō ト稱ス其 ch ハ柔音ニ呼ビ O ハ前ノ如

ク長ク呼ブヘシト以上 Lyman 氏ノ唱道スル所ナリ

(Bulletin of Torrey Botanical club 1883)

按スルニ右ノ Lyman 氏ノ所説ニ據レハ銀杏チ「ギ

ンキヤウ」ト稱スルコトハ我方言ノ如ク記セ凡現今

我國ニ於テ此方言ヲ用ウル所甚タ稀ナリ若シ果シテ

Lyman 氏ノ所説ノ如ク Ginkgo ハモト字音ヨリ導

キシモノナランニハ蓋シ或ハ漢音ヲ用井シモノナラ
 ノモ知ル可ラズ字典、杏ノ條ニ **集韻** **韻會** ナ引キ
 杏ハ下梗ノ切竝ニ音ハ荇トアルヲ見レハ Ginkgo ハ銀杏
キンカク
 ノ漢音ニ據リシモノ、如シ

Frosier 氏ノ所説ニ據レハ Ginseng (人參ジンセン)ハ蓋シ支那
 語ニシテ人即チ人ノ股ニ似タル故ニ此名アリト又同氏
 ノ所説ニ Iroquois ノ國語ニ人參ノ根ヲ Garentoquen
 ト呼ヘリ此レ脛ト股トノ兩義ニ基クト他人ハ皆ナ曰ク
 モト (Gin-seng) (人參)ハ支那語ニ基クト云フ (Webbs-
 ter's Dictionary)

按スルニ右ノ二説ハ全ク其主旨ヲ異ニスレモ之ヲ一
 括スルハ人參ジンセンハモト支那音ニシテ其根ハ人ノ股ニ
 似タル故ニ此名アリト云フヲ得可シ本章綱目ニ人參
 爲ニ藥切要ニ與ニ甘草ト同切根有ニ手足面目ヲ如レ人
 者爲レ神ニタトアルニ叶ヘリ

似て非なるものを犬といふこれ本邦の故實歟水蓼、狗
 脊、ソラヒ 午年艾、イヌヨモギ 葶藶、イヌナヅナ 麻黃、イヌトクサ 薇、イヌフスマ 鹿藿、イヌヤナリ 等枚舉に遑

わらず宗鑑が犬筑波集も亦このころにて名づくとい
 へり(燕石雜誌)

〇一のべだけハめだけナリ

義理物語に雨もをやみて壁下地のしのべ竹に白玉の露
 そうどはこまひ竹をいふなり犬子集さるづらば鳥さし
 棹もしのべ竹(政直)又雍州府志竹の條に一種其莖細長
 而其葉片大也、是稱女竹、又謂忍竹、建是比並而爲
 垣、又半破之、縱橫結束、爲牆壁之骨、しのべは節延
 なるべし江戸などにはしの竹と略呼す(嬉遊笑覽)

〇「バクテリア」ノ説 (承前)

K、D、山人譯

今此病毒ヲ避ケ遠ケシムル方法ニツアリ其一ハ即チ政
 府ガ「クロートン」水道ノ間ニ於ケル土地ヲ悉ク買取リ
 テ是等ノ人家ヲ撤去シ以テ其病毒ノ根源ヲ一掃スルコ
 其二ハ大ナル澆水ノ床若シクハ澆水器械ヲ具ヘテスベ

テノ場合ニ於ケル危難ノ腐敗物ヲ瀉シ去ルコト是ナリ
 是事タルヤ最モ効力アルモノニシテ其支配監督等ハ勿
 論之ヲ其政府ノ手ニ一任シテ之カ保護ヲ爲ササルベカ
 ラズ然カスル時ハ初メテ「クロートン」水道ヨリ病毒ヲ
 去ルコトヲ得ベシ然レドモマタ現在病毒ノ發生ヲ見ザ
 ルトテ其水源ノ保護及ヒ清潔法等ヲ等閑ニ付スルニ於
 テハ矢張時々病毒發生ヲ見ルノ恐レアラソ

「クロートン」水道ニ於ケルカ如ク何レノ國ヲ問ハズ凡
 ソ市街ノ水ヲ供給スベキ場處ニハ同様ノ危険伴ヘルモ
 ノナリ而シテ其水ヲ供給スル地ニシテ人家多キ時ハ其
 危険ヲ生スルコト更ニ急且ツ劇ナリトス

大都會大市街ニ在リテハ大概其中ヲ貫通セル川流ヨリ
 水ノ供給ヲ得ルコト多シ而シテ是等ノ處ニ於テハ普通
 人家ヲ離レタル上流ヨリ水ヲ汲取ルコト常ナリ是レ川
 流ニ直瀉セル下水ヲ避クルカ爲ナリサレドモ人口稠密
 ナル國ニ於テハ多クハソノ都會市街等其岸上ニ羅列シ
 テ下水ハ常ニ其水ヲ汚穢ナラシムルカ故ニ清潔ナル水

ヲ汲ミ取ルコト甚タ難シサレバ開明ナル國ニ在リテ窒
 扶斯ノ流行甚シキハ即チソノ大都會ニ於ケル下水ノ多
 少窒扶斯黴菌ヲ含有スルニ因レルヲ知ルベキナリ
 新約克州ナルアルバニー市ノ飲料水ハ程遠カラヌホド
 ソン河ヨリ供給セラル、者ナルガトロイ市ノ下水ト
 ホドソソ河及ヒマホーシ河ノ沿岸ニ在ル數多ノ小市街
 ノ下水ハ盡ク皆ナホドソソ河ニ注グヲ以テ其飲料水ハ
 常ニ不潔ニシテ危険ノ恐レアリ世ニハアルバニー市ノ
 如キモ多カラソ

フヒラデルフヒヤノ如キモマタ其一例ニノスクイルキル
 河ヨリ用水ノ供給ヲ仰グモノナルガ其河水ハ下水ト廢
 物トヲ混入スルコト更ニ甚ダシキヲ以テ實ニ嫌忌スベ
 キ危険ノ性ヲ具フルモノナリフヒラデルフヒヤニ於ケル
 窒扶斯ノ統計ヲ見バ以テ該州吏ノ等閑不注意ナルヲ證
 シ且其飲料水ノ不良ナルヲモ見ルベキナリ

歐洲諸國ニ於テ漸次人口ノ増加稠密スルニ從ヒ健康上
 ニ危険ヲ發生スルコトアルハ既ニ人々ノ觀察是認スル

所ナリ故ニ法律ヲ以テ飲料水ノ供給タル川流等ヲ清潔ニスベキコトヲ強行シ得ラル、ナリ然レドモ倫敦或ハ伯林ノ如キ大都會ニ於テハ尙廣ク澆水法ニ因リテ病毒ノ發生ノ恐レアル有機物ト不潔物トヲ防キ以テソノ廢水中ニ於ケル危險ナル元素ヲ除去セザルベカラズ

腐敗セル水ト雖モ猶ホ湖及河水ニ於ケルカ如ク其大分量ヲ空氣ニ曝ス時ハ自然清淨トナルノ傾アリ即チサマデ多量ナラザル下水ヲ大ナル河水湖水ノ中ニ注キ入ル時ハ甚ダ稀薄トナリ更ニ之ヲ一個ノ瓶若シシハ一個ノ器ニ入ルル時ニハ其下水ノ時ニ比シテ病毒大ニ少キヲ見ルベシサレドモ是等ノ事タル下水ヲ飲料トセザルヲ得ザルノ人々ニ取リテハ其下水ガ如何ホド稀薄トナルニモセヨ更ニ意ヲ強フスルニ足ラザルナリ何トナレバ一匙ノ下水中ニハ常ニ百萬ノ窒扶斯黴菌ヲ含有スサレバ縱令稀薄トナリタル時モ尙ホ一匙中一個以上ノ黴菌ヲ有セザルコトナシ實ニ一個ノ黴菌タリトモ人体中ニ侵入スル時ハ忽チ増加シテ非常ノ數トナルカ故ニ生

命アル黴菌ハ良シ稀薄ナルモ之ヲソノ生命ヲ有セズシテ自ラ増殖シ能ハザル普通ノ病毒ニ比スレバソノ畏ルベキヤ知ルベシ黴菌ノ性質及其有毒ノ慘劇ナル所ヨリ見レバ井水ナルト泉水ナルト河水ナルト將々湖水ナルトヲ問ハズ一旦下水ノ爲メニ汚サレタル水ハ之ヲ清淨ニスルニ非ザル以上ハ決シテ飲料若クハ調理用トシテ使用スベカラザルコト復々辯ヲ要セザルナリ

既ニ本書ノ記載セル水ノ分析法ニヨリテ或水中ニハ果シテ下水又ハ人類、動物等ノ排泄物ヲ混入シ得ラル、ヤ否ヤ又一旦天然若シシハ人工ヲ以テ清潔ニセラレタル水中ニハ再ビ黴菌ヲ存セザルモノナルヤ否ヤ等ノ理ヲ明カニ知ルコトヲ得可キナリ

願フニ清潔ナル飲料水ヲ都會及市街ニ供給スルコトハ職權ヲ有スル人々ノ當ニ任務トスベキ所ニシテ則チ人民ハ之ガ恩澤ヲ被リ黴菌病殊ニ窒扶斯熱ヲ防遏スルコトヲ得ルニ至ルベシ必竟スルニ一個人ノ力ニテ十分水ヲ清潔ナラシムルコト能ハザルハ既ニ精密ナル實驗ニ

因リテ屢々表明セラレタル所ナリ即チ所謂注管澆水器
 普通人家ニ於テ用フル澆水器ノ如キハ未タ腐敗セルヤ
 水ヨリ十分黴菌ヲ分離シテ心安ク飲用セシムルノ域ニ
 至ラザルナリ勿論是等ノ澆水器トテ水ヲ清潔ニシマテ
 粗大ナル分子^{ポトテクル}ヲ澆シ去リテ十分水ヲ透明ナラシメ或黴
 菌ヲ除去スルカ如キコトハ能ク奏功シ得ベキモソノ微
 細ナル黴菌ニ至リテハ管ニ澆水器ニ於ケル無數ノ小孔
 ヨリ竄入シ去ルノミナラス其實却テ黴菌ヲ止縮養成セ
 シムルノ場處トナルモノナリ

○最近研究彙報

植物解剖學生生理學形狀學生計學等ノ部

- Benecke, W. 植物ノ鑛物的養料ニ就テ (Ber. d. Deuts.
 Bot. Ges. Bd. XII, Generalversammlungsgs-Heft, 1895)
 Chimanj, Otto 乳管殊ニ「グッタヘルカ」并ニ「カウチ
 ユツシ」ヲ生ズル植物ノ乳管ノ構造并ニ配列研究 (Bot.
 Centb. LXI, 9—13)
 大工原銀太郎植物ノ貯蓄「プロテイン」質ニ就テ (Flora

80, I, 1895)

著者ハ數百種植物諸種器官ニ「コフエイン」溶液ヲ施シ
 テ以テ「プロテオゾーメン」ノ生成ヲ檢シ并ニ此等「プ
 ロテオゾーメン」ノ種々ナル反應ヲモ檢究シ又植物ヲ
 暗黒中ニ置ケバ「プロテオゾーメン」ヲ生ズル細胞數及
 ビ「コフエイン」ニ對スル反應ノ度大ニ減却シ其代リニ
 「アスパラギン」増加スルヲヲ説ク

Eriksson, Johan 砂地植物ノ陰向地的根ニ就テ (Bot.
 Centb. LXI, 8)

此論文ハ砂地ニ生ズルすげ屬數種根莖ノ結節ヨリ生ズ
 ル根ノ陰性向地的ナルヲ論ジ并ニ其造構ヲ略説シ尋
 テ Schimper, Haberlandt 氏等ノ觀察等ト比較シタル
 モノナリ

Farmer, J. Bretdand ゆり屬約ノ核分裂殊ニ「セントロ
 ズーム」ニ關シテ論ズ (Flora, 80, I, 1895)

Fritsch, Karl S はたはこ科ノ發育ニ就テ (Ber. d. Deuts.
 Bot. Ges. Bd. XII, Generalversammlungsgs-Heft)

Goebel, K. さぼたん及び其他植物ノ形狀造成上ニ對スル光線ノ作用ニ就テ (Flora, 80, I, 1895)

Grüss, J. 「ヂアスターゼ」酸酵素が貯蓄「セルローゼ」ニ於ケル作用ニ就テ (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. Bd. XII, Generalversammlungs-Heft)

(Generalversammlungs-Heft)

Grüss, J. 植物体中ニ於ケル「ジアスターゼ」 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. Bd. XII, 1)

Haberlandt, G. Hydathoden ノ造構并ニ官能ニ就テ (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. XII, 10, 1895)

此論文ハ熱帶地方植物ノ葉ニ於ケル水ヲ分泌スル器官 (著者新ニ之ニ Hydathoden ノ名ヲ附セリ) ノ造構ヲ説キ且其水ヲ分泌スルモノ受身的ニ非ズシテ其器官ノ生活作用ニ歸スベキモノタルコト實驗的ニ證明セリ

Heinricher Lathraea 屬ノ發芽 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. Bd. XII, Generalversammlungs-Heft, 1895)

Loew, O. 植物ニ於ケル活動貯蓄蛋白質ニ就キ (Flora, 80, I, 1895)

著者ハ初ニ著者其他ノ人々ノ實驗ニ係ル諸種植物ノ体部ニ於ケル「プロテオゾーメン」生成ノ有無ヲ示シタル表ヲ載セ尋テ自身ノ活動蛋白質説ノ正確ナルヲ論證シ主トシテ Klemm ガ自身ニ對スル駁撃ニ對シ反駁シタリ Stenström, K. O. E. 同一種植物ガ異リタル場所ニ於テ異リタル季候ニ於テ産スルコト殊ニ Xenophil 的造構ノ植物ニ就テ(全)

Wretjakow, S. Allium odorum ノ多胚ノ場合ニ於ケル反足細胞ノ關係 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. Bd. XIII, 1, 1895)

從來一個ノ種子内數多ノ胚アルモノ其例ニ乏シカラズ而シテ其理由ハ或ハ二個ノ胚珠相合着スルニ因リ或ハ一胚珠内數多ノ胚囊アルヨリ或ハ一個ノ胚囊内二個ノ卵細胞アルニヨリ或ハ一個ハ卵細胞ヨリ一個ハ媒介細胞ヨリ來ル等ニテ未ダ反足細胞ヨリ胚ノ生ジタル例アルヲ聞カズ著者ハ Allium odorum (ねぢ屬)ノ多胚ヲ研究シ反足細胞發育シテ胚ヲ爲スコトヲ發見セリ但著者

ハ反足細胞ノ頗ル進ミタル胚ヲ見タレモ未ダ斯ノ如キ
種子ヲ播キテ試験シタルニ非ザレバ其果シテ普通ノ胚
ト同一ナルヤ否ヤ斷言スベカラズトス

Verschaffelt, Ed. 植物性狀ノ漸次變遷スルコトニ就テ
(Ber. d. Dents. Bot. Ges. XII, 10, 1895)

Wiesner, J. 植物ノ factische Lichtgenuss ニ就テ (Ber.
d. Dents. Bot. Ges. Bd. XII, Generalversammlungsg-
Heft)

同 熱帶植物數種ノ Anisophyllie ニ於ケル觀察(全)
同 しのき科并ニ「アノナ」科ノ厚皮并ニ木質ノ上部
生長 (Epitrophie) ニ就テ(全)

植物分類學地理學等ノ部

Lürssen, Chr. 并ニ Ascherson, P. 獨乙國ニ於テ Poly-
gonum Raji Bab. ノ存スルコトニ就キ (Ber. d. Dents.
Bot. Ges. Bd. XIII, 1, 1895)

隱花植物ノ部

Britzelmayr, M. Sterbeek 氏 Theatrum fungorum

ニ於ケル帽菌族 (Bot. Centb. LXI 6, 1895)

Correns, C. Caulerpa (海藻)ノ細胞膜ニ就テ (Ber. d.
Dents. Bot. Ges. XII, 10, 1895)

此論文ハ海藻 Caulerpa prolifera 等ノ細胞膜ヲ硫酸ヲ
以テ處シ一種ノ球晶体ヲ得ルコトヲ論ジ其化學的反應ヲ
論メルヲ主トス

Goebel, K. Archegoniatæ 研究(第六)地錢類彈子(「
ラテーレン」)ノ官能并ニ始原造成ニ就テ

Klebahn, H. 水花(「ワツサーブリユotte」)ヲ造成スル
分裂藻細胞ノ一成分トシテノ氣泡 (Flora, 80, I,
1895)

此論文ハ Gloiotrichia echinulata ナル分裂藻細胞内ニ
アル紅色粒ニ就キ其硫黃粒ニ非ズシテ氣泡ナルコトヲ顯
微鏡的并ニ化學的ニ證明シ尋テ他ノ分裂藻ニ及ボセリ
Magnus, P. 寄主ノ性狀并ニ發育ノ狀ニ應シテ Perono-
spora parasitica ノ生メル (Ber. d. Dents. Bot. Ges.
XII, 10, 1895)

Olmanns, Friedrich 海藻ノ培養并ニ生活的條件ニ就テ注意 (Flora, 80, I, 1895)

Rostowzew Cystopteris bulbifera Bernh. ノ不定芽ノ

發育史并ニ發芽 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges., Bd. XII,

G-V, 1895)

Sadebeck, R. Asplenium viride Huds. ノ葉ノ叉狀ニ

分枝スルコノ奇例 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges., XII, 10,

1895)

同 Phegopteris sparsiflora HK. ノ葉面ニ於ケル球莖

狀ノ不定芽ニ就テ (全 XIII, 1, 1895)

Stoekmayer, S. 分裂藻ニ就テ (全 XII, Generalversam-

mlungs-Heft, 1895)

全 小川(殊ニ水中)ノ生活物(全)

Toni, de 并ニ岡村金太郎日本ノ新海藻(全)

Wille, N. うみぼうめんノ授精(全)

一千八百六十七年 ボルター并ニチュレー兩氏が紅藻

ニ於テ授精ノ模様ヲ發見シタリト雖モコレ唯授精ノ外

觀ニ止リ其内部ノ模様ハ之ヲ實驗セザリキ著者ハうみぼうめん (Nemalion multiformum) ナ固定スルニ「エ

クリン」酸ヲ以テシ之ヲ染ムルニ礫砂「カルミン」ヲ以

テシ能ク精核ガ卵核ト相合着スルコヲ見タリ

Zopf, W. 辨駁 (全 XII, 10, 1895)

植物家小傳ノ部

Ascherson, P. Adolf Winkler ノ傳 (全 XII, G-V,

1895)

Kionka, H. Joseph Schröter ノ傳 (Bot. Centb. LXI,

7, 1895)

Molisch, Hans. G. Adolf Weiss ノ傳 (Ber. d. Deuts.

Bot. Ges. XII, G-V, 1895)

Regel, Robert v. J. Th. Schnallhausen ノ傳(全)

Wilhelm, K. Josef Boehm ノ傳(全)

雜 部

Haberlandt, G. 植物學教授上ノ模型數種ニ就テ (Bot.

Centb. LXI, 7, 1895)

○通俗動物新論

(東京神田敬業社發兌)

世間博物學ニ關スル教科書ニハ乏シカラス此ハ教員カ
教場ニ於テ生徒ニ向テ此頁ヨリ彼頁迄或ハ第何章ヨリ
某章マテ暗記スベシト命令的ニ課業トシテ強讀セシム
ル爲メノモノナルカ故ニ文章自ラ簡潔隨テ其意義ヲ解
シ易カラス教員ノ解釋ニ黑板上ノ圖解ニ標品模型ノ示
教ヲ重ネテ始メテ理得セラル、モノナリ決シテ晝寐閑
座ノ際ニ閱覽スベキ者ニアラス茲ニ我輩久シク其書ナ
キヲ恨ミトセル著書コソ出タレ題シテ通俗動物新論ト
云フ筈作理學博士ノ新著是ナリ全ク通俗語ヲ以テ自然
界、生物界、生物ノ數、動物ノ種類其分類ノ原理、動
物躰ノ解剖其組織、其生殖、其發生、其生長、其分布、其
彩色等數十篇三百九十六頁中我輩ノ博物學士渴望シテ
止マザリシ事實、諸說ヲ盡ク網羅シテ餘蘊ナシ其行文
ヤ平易ニシテ興味多ク鮮明ノ精圖ハ二百六十九ノ多キ
ニ至ル博物學教員ハ勿論世間一般ノ人ニシテ閑暇アル
モノハ寐起ノ間ニモ一讀シテ其興味ヲ賞シテ可ナラン

○寄贈書目録

明治廿八年四月十二日
以降領收ノ分

- 日本蠶業雜誌 第八十一號
- 東京醫學雜誌 第九卷 第七號
- 地學雜誌 第七十六卷
- 日本蠶業雜誌社
- 東京醫學會
- 東京地學協會

日本藥業新誌 第二百六拾七號

衛生社

大日本農會報 第六十三號

大日本農會

地質學雜誌 第十九號

動物學會

動物學雜誌 第七十八號

動物學會

東洋學藝雜誌 第六十三號

東洋學藝社

大日本山林會報 第四百十八號

大日本山林會

軍醫學會雜誌號外前川軍醫 日射病實驗說

陸軍軍醫學會

氣象集誌 第四號

大日本氣象學會

農事試驗成績 第七報

農事試驗場

帝國大學一覽 從明治廿七年
至同廿八年

帝國大學

The Journal of Botany, No. 387, Vol. XXXIII.

1895.

The Gardeners' Chronicle, No. 427—430, 1895.

Missouri Botanical Garden, 1890, 1894.

I. Döfler, Jahres-Katalog pro 1895 des Wiener Bo-

tanischen Pauschvereins.

Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 2.

1895.

G. B. Dott. Du-Toni, La Nuova Notarisia, serie VI,

1895.

Bulletin du Muséum d'histoire Naturelle, No. 1,

1895.

my possession measured 11.5 cm. in length and 2.2 cm. in diameter at its thickest part. The smallest yet perfectly ripened specimen had the dimension of only 5 cm. \times 1.1 cm. The average size seems to be about 9 cm. \times 1.6 cm. All these measurements were taken from the dried specimens.

The most peculiar point connected with this fungus is the formation of the spore masses in small compartments, so to speak, which are separated from each other by their partitions of solid fundamental tissue, through which are seen traversing scarcely lignified fibrovascular bundles. Colorless branching hyphae with globular haustoria may be seen here and there in the parenchyma tissue. The size and shape of the spore masses resemble somewhat those of small grains. The outlines of those situated near the surface can easily be seen without breaking the rind of the swelling. At first sight their appearance may lead one to suppose, that each spore mass would correspond to the affected ovary or some other floral part, as Mr. Hennings has taken the swollen body as a metamorphosed young inflorescence.

In the ripened specimens a compartment is entirely filled with powdery spores, no hyphae nor pseudo-parenchymatous layer or tissue belonging to the fungus observable in or around the spore mass.

The spores are globular, or ellipsoidal or seldom elongated, 5.5—8 \times 5.5—6 μ . The epispore is smooth, thick and brownish.

References could be made to many old Japanese and Chinese botanical works and herbals, in which short accounts in regard to this fungus were made. They all pertain however to the discussion of its names and economic properties, and none of its nature and structure.

Sapporo Agricultural College.

Sapporo, Hokkaidō.

Note on *Ustilago esculenta* P. Henn.

By

K. Miyabe.

In a recent number of *Hedwigia*,⁽¹⁾ P. Hennings described under the name of *Ustilago esculenta* a remarkable fungus parasitic on *Zizania latifolia*, which was on sale in the market of Hanoi, Tonkin, as a kind of vegetables. The same fungus is found also in Japan, where it is likewise collected and sold but for entirely different purposes. It is here sold in apothecary shops under the name of *makomo-zumi* or *nakomono-nezumi* meaning *Zizania*-charcoal or *Zizania*-root-charcoal respectively. The olive brown powdery spores are used by women having thin eyebrows to make them look heavier by painting the spores over them. When mixed in an oil, they are smeared on the scalp and hairs by older women having thin or grey hairs. At present, the spores are largely used in the lacquer industry to produce rusty-colored wares by mixing them with lac. For this information, I owe to Prof. S. Matsuda, who very kindly sent to me the last year for my study a large number of specimens of this interesting fungus together with other parasitic fungi collected by him in the vicinity of Tōkyō.

The hyphae of this fungus affect the meristematic tissue of a young shoot, while it is still very short. The affected shoots remain always stunted near the roots of the plant. By the stimulation of the fungus hyphae, the meristematic tissue above the uppermost node then developed assumes an elongated fusiform or conical swelling. The size of the swellings varies much in different specimens. The largest one in

(1.) Neue und interessante Pilze aus dem Königl. botan. Museum in Berlin. III.—*Hedwigia* Bd. XXXIV 1895 S. 10.

動物學雜誌

第七十八號
四月十五日
發行

一册金十錢 郵税金一錢 六册前金六十六錢

目次

○たこくらげ又とろくらげ(附第十三版)

岸上 鎌吉君

○蠶兒ト蠶蛾ノ氣門ニ就テ

池田 作次郎君

○霞ヶ浦ノ動物ニ就テ(承前)

北原 多作君

○海盤車ノ彗星狀體ニ就キ(本誌英文摘要)

弘田 貞守君

○Parentia misak-iensis に就て(摘要)

丘 淺 次郎君

●**雜錄** 動物學研究用藥劑便覽(續) ●動物學上新著論文を讀む會 ●偉大なるサルバ ●炭酸

リセウム ●本邦産の Amp-hioxus ●花虫を欺く ●動物の雨 ●Darwin と Wallace ●動物ノ雨追加 ●外國人ノ

命名セシ日本産海百合及海羊齒 ●札幌博物學會第四十三回月次會 ●茗荷兒ノ產地 ●蝶ノ發生 ●東京動物學會

懸賞論文を募集す ●東京動物學會

發賣所

東京神田
裏神保町

敬

業社

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金五錢
三回以上割引仕候

○本誌毎月一回發兌一册金拾貳錢○六册前金七拾貳錢
○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り壹册拾錢

○配達概則

第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セズ
○第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セズ
○第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四條 特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレバ御届可申候

明治廿八年五月十九日印刷
明治廿八年五月二十日發行

版權所有

編輯兼 井上 蘇吉
發行者 東京市神田區錦町三丁目一番地
印刷者 熊田 宜遜
印刷所 東京市神田區錦町三丁目廿五番地
發行所 熊田活版所
發行所 東京市神田區錦町三丁目廿五番地
賣捌所 植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地

同

敬業社
丸善書店
東京市日本橋區通三丁目

313662

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治廿一年二月三日内務省許可

明治廿六年六月三十日遞信省認可

Vol. 9.]

May 20, 1895.

[No. 99.

CONTENTS.

Note on <i>Ustilago esculenta</i> P. Henn. By Kingo Miyabe.	197
On "Hexenbesen" of <i>Prunus pseudo-cerasus</i> . By Mitsutarō Shirai.	161
Catalogue des Plantes récoltées aux îles de Pescadore, I. Par. Antei Tashiro.	164
Plants employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia. By Komajirō Sawada.	172
Notes on the Plants collected in the Northern Part of Okayama. (continued). By Raisuke Yamamoto.	175
List of Ferns collected in Kyōto. By G. Asada.	178
Miscellaneous:—	182
Notes on Japanese Mosse.— <i>Rhus vernicifera</i> .—New Japanese Names of Plants.—Bacteria.—Publications received.	
New Literature.	

All letters and communications to be addressed to the
TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

印刷所 東京市神田區錦町三丁目廿五番地 熊田活版所

植物學雜誌第九卷第百號

明治廿八年六月二十日

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. IX.

June 20, 1895.

No. 100.]

○豆州植物漫錄

松村任三

▲豆駿ノ兩州

油菜

ヲ多作ス莖根共ニ肥大、莖ハ紅紫色ヲ帯ビ葉ハ剛ク粉綠ナラズ葉脈花柱亦紫色ヲ帯ブ是
ト自ラ別、方言アブラナト呼ブ四月上旬黃花アリ Lower leaves pinnatifid.

▲草臺

四月上旬小流ノ畔ニ叢生ス綠色平滑稜形ノ臺ヲ抽キ頭ニ十數ノ穗ヲ生ス雌穗ヲ成スノ鱗片ハ鈍頭黒
色、其長サ三裂柱ヲ具スル細形雌蕊ノ半ニ及ブ雄穗ニ雌花ヲ混在ス莖葉共ニ柔軟綠色禾本ノ狀ニ似タリ修
善寺邊ニ多シ

▲針臺

行莖横ニ蔓リ針ノ如キ細莖許多ヲ抽キ糸ノ如キ葉ヲ生ス莖頭一ノ細穗ヲ成ス其下部ニハ雌花アリ上
部ニハ雄花アリテ別居ス黒色鈍頭ノ鱗片外ニ雄蕊ヲ長ク抽出ス雌蕊ハ兩面凸形ニシテ二裂ノ柱ヲ具有ス
クサスゲト同處ニ生ス

▲日蔭躑躅

常綠ノ灌木ナリ橢圓披針形全緣厚質ノ葉枝頭ニ簇生シ褐色廣橢圓狀ノ鱗苞八九ヲ開キ其間ニ梗
ヲ抽キ淡黃色五裂ノ花ヲ開ク頗ル大ナリ梗本ニ線形褐色ノ長小苞二片ヲ着ク花冠ハ略鐘狀ニシテ上部ニ
綠色ノ點アリテ淺ク裂ケ下部ハ深く刻ム萼アリ無缺平坦ニシテ些ノ裂片ヲモ認メ難シ十雄蕊アリ長短均シ

カラズ帶褐色ノ葯ヲ着ク花糸ハ淡黃色ニシテ本ニ微毛アリ稜形ノ子房ハ白粉ヲ滿布スルカ故ニ淡綠色ヲ呈ス一柱アリ雄蕊ヨリモ長ク頭分レズ花冠ノ外面及ヒ葉ノ兩面ニ小點ノ腺點ヲ散布ス芽鱗ニ粘リナシ

菊咲一輪草

約二寸許ノ行莖地下ニ蔓ル白色無枝、三出ノ欲刻葉ハ長柄ヲ有ス柔軟ノ長梗ヲ地上ニ抽キ梢ニ

分裂セル三出ノ三葉ヲ繞ラシ總苞ヲ成ス其葉柄ハ巾廣シ中間ニ一長梗ヲ抽キ頭ニ十一或ハ十二瓣ノ白花一個ヲ開ク頗ル大ニシテ宛然菊花ノ觀アリ梗ニ疎毛アリ瓣ハ鈍頭長橢圓形、白色ノ多雄蕊アリ其長サ瓣ノ半

ニ及バス花心ニ多雌蕊(十六)ヲ攢簇ス略、卵圓狀ニシテ殆ト白色頭微ニ鉤ス微毛アリ瓣背ハ幼時紅暈アリ

薩摩稻森

莖本長ク地ニ塌シテ處々ニ根ヲ生ス長柄ヲ以テ卵圓形ノ葉ヲ對生ス莖頭ニ梗ヲ抽キ四五ノ小筒

花ヲ簇生ス萼アリ帶紅色短五尖ヲ爲ス下ニ針狀ノ小苞一二ヲ着ク花冠ハ外面ニ紫暈アリ有稜筒狀、五裂ス五雄蕊アリ内面有毛ノ筒ヨリ生ス葯紫色ナリ子房下位ニシテ花心ニ疎毛アル一柱ヲ抽ク頭深ク二裂ス本ニ白色ノ腺二個アリ之ヲ圍ム子房二室ニシテ各、多子ヲ收ム

エイザンカタバミ

葉基ハ鱗々鱗次シテ長キ行莖ヲ成ス頭ニ長柄ヲ以テ一二葉ヲ生ス三葉一蒂一支葉ハ倒

三角形、嫩葉ハ背及ヒ柄ニ毛アリ長梗ヲ抽キ頭ニ白花ヲ開ク頗ル大ナリ幼時傾向ス梗ノ半ヨリ差、上ニ一片ノ小苞アリ巾廣クシテ梗ヲ擁ス萼五裂、裂片鈍頭長橢圓形ニシテ紅色ヲ帶ブ花瓣ハ倒卵或ハ略、楔形ニ

シテ頭微ニ鋸齒狀ヲ呈スルモノアリ白質ニシテ本ニ淡綠或ハ黃色ノ線條アリ雄蕊十莖、五ハ長五ハ短、白葯ヲ着ク中心ニ白色ノ五柱アリ雄蕊ヨリモ長シ葉背紫色ヲ帶ビ花梗及ヒ葉柄亦紅色ナルモノアリ

春虎ノ尾

凹凸粗大ノ行莖アリ橢圓披針狀ニシテ兩端相殺ケルノ葉ハ有柄地上ニ簇生ス葉面藍綠色、背ハ

紫色邊緣縮ミ頗ル美、梗ヲ抽キ五裂ノ小白花ヲ開ク穂ノ如ク攢簇ス花ニ八雄蕊アリ白糸ノ頭ニ暗紅色ノ葯

ヲ着ケ纒ニ花外ニ抽ク是レ美觀花心ニ一雌蕊アリ平滑ノ子房ハ三稜ヲ呈シ紅綠色頂ニ白色ノ三柱ヲ具ス

▲天城山ニマメザクラアリ枝ニハ、キ病ヲ生セリ

▲ヒメネコノメ又タマネコノメ細莖紅色ヲ帶ヒテ高サ二寸許下ニ小塊芋アリ淡紅色ヲ呈ス莖間糸ノ如キ匍枝ヲ對生ス葉モ對生ニシテ長柄ヲ有ス略、圓形ニシテ本ニ殺ケ楔形ヲ呈ス邊緣ニ五六ノ鈍頭ノ鋸齒アリ莖頭分レテ綠色ノ小花ヲ開ク花多カラズ四瓣アリ卵形ニシテ銳頭八雄蕊アリ殆ト瓣ト同長、黃葯ヲ着ク花心ニ二柱アリ綠色ニシテ左右ニ開展ス

▲岩牡丹「チコノメ」ノ一種ナリ平滑ノ方莖紅色ヲ帶ビ長柄アルノ小葉ハ對生略、圓形本楔形ヲ呈シ邊緣ニ鋸

齒六七アリ葉面ニ小白點アリ嫩葉ハ黃色ヲ呈ス莖頭七八葉ヲ攢簇シテ總苞ノ狀ヲナシ其間綠色ノ小花五六ヲ無梗ニ生ス四瓣アリ鈍頭廣圓形八雄蕊アリ花外ニ挺出シテ黃葯ヲ着ク二柱アリ綠色ニシテ纒ニ左右ニ開展ス根ハ纖維ノ如シ根葉ハ廣橢圓形ニシテ邊緣ニ鋸齒アリ莖ハ本ニ於テ枝ヲ分ツ花莖ハ再三岐又シテ聚繖狀ヲナス

▲ハナネコノメサウ又ウメザキチコノメ又コバノネコノメ纖維根アリ莖ハ地ニ塌シテ紅色ヲ帶ビ疎毛ヲ生ス枝ヲ分チ楔形或ハ圓形ノ有柄小葉ヲ對生ス葉綠ニ三齒或ハ五齒アリ葉腋ニ小枝ヲ分チ中心ニ梗ヲ抽キ頭ニ又シテ一花或ハ三花ヲ着ク各、短梗アリ花ハ白色四瓣、外ニ紅暈アリ八雄蕊ヲ花外ニ抽出シ濃紅色ノ葯ヲ着ク頗ル美ナリ是チコノメ草中ノ絶品、瓣ハ橢圓狀、花心ニ白色ノ雌蕊アリ深ク二裂シテ各、柱ヲ有ス

▲イヅセンリヤウ常綠ノ灌木ナリ淡綠色ノ枝條ハ縱裂セル褐色ノ皮孔ヲ散布シ長或ハ廣橢圓形ニシテ頭尖銳邊緣疎ニ小鋸齒アル淡綠色ノ有柄葉ヲ互生ス葉腋或ハ葉腋外ニ一個或ハ數個ノ短梗ヲ抽キ淡黃色筒狀ノ小

花ヲ總房狀ニ綴ル花ニ萼アリ五裂、裂片ハ廣橢圓形ニシテ淡綠色ニ褐色ノ線條アリ花冠ハ頭微ニ五裂シ内ニ短キ五雄蕊ヲ生ス葯殆ト白色、花心ニ一雌蕊アリ平滑ノ子房ハ卵圓狀ニシテ淡黃色、一ノ短柱ヲ具ス頭微ニ五裂ノ狀ヲ呈ス花梗ノ本ニ微細ノ苞アリ支花梗ニモ小苞二片ヲ着ク花梗ニ褐色ノ小點多シ腺ナルカ皮孔ナルカ余未タ之ヲ詳ニセス

▲アカバナノカゴノキ 方言ヨカ 雌雄異幹ノ常綠亞喬木、枝ヲ斷テバ櫛ノ香アリ長橢圓披針狀ノ葉ハ シロダモ

ニ似テ背ニ白毛ナク唯粉綠色ヲ呈スルノミ面ニ光澤アリ兩端殺ケテ短柄ヲ有シ脈ハ本ニ三條顯著ナリ綠枝ノ中間褐色ノ鱗芽ヨリ梗ヲ抽キ累々寸餘許深紅色美麗ノ小花ヲ點綴ス梗ニ白毛アリ雄花ハ花蓋四片ニシテ裂片銳頭廣橢圓形、邊緣及ヒ背ニ毛アリ六雄蕊ヲ花外ニ抽出ス葯ハ深紅色ニシテ四室ヲ具シ皆瓣ヲ上ケテ黃粉ヲ吐ク外位ノ四雄蕊ハ花糸ニ腺ナク或ハ稀ニアリ内位ノ二雄蕊ハ糸本ノ左右ニ有柄ノ腺ヲ具ス毛アルノ花底ニ白色ニシテ疎毛アル一柱ヲ抽ク雄蕊ヨリモ短ク頭菌笠狀ニシテ四裂ノ狀ヲ呈ス子房白色ニシテ著大ナラス亦疎毛ヲ布ク雌花ハ其大サ雄花ノ半ニ過キズ四片アリ披針形或ハ銳頭長橢圓形、花心ニ白頭ノ一雌蕊アリ花外ニ抽出ス子房ハ淡綠色ニシテ平滑ナリ繖形ノ梗モ差、短小ナリ無葯紅色ノ假雄蕊六莖アリ二莖ハ黃色ノ腺二個ヲ着ク

EIN BESUCH ZUM BOTANISCHEN GARTEN
ZU BUTTENZORG AUF JAVA.

VON

PROF. M. MIYOSHI.

In dem vorliegenden Artikel beschreibt der Berichter allerei Beobachtungen, die während seines letzten Aufenthaltes im Buitenzorger botanischen Garten in März 1895 gemacht hat, und giebt eine kurze Geschichte des Gartens sowie die Erzählung seiner gegenwärtigen Organization als die weltberühmte tropische botanische Versuchsstation. Schliesslich handelt es sich um eine kurze Erwähnung charakteristischer Vegetationsphysiognomie Javas.

Indem der Berichter Herrn Dr. M. Treub, Direktor des botanischen Garten zu Buitenzorg, sowie Herrn Dr. von Bomburch, Herrn Dr. Janse, Herrn Hortlanns Wigman, Herrn Schmidt und Herrn Dr. Hallier seinen warmesten Dank für ihre freundliche Aufnahme und liebenswürdige Beihilfe ausspricht, sendet er ihnen zugleich seinen besten Gruss.

M. MIYOSHI.

Botanisches Institut der Kaiserlichen Universität zu Tokio.

○ ジャバ島ブイテンツォーク植物園 (Botanischer Garten zu Buitenzorg, Java.)
 看覽記

理科大學教授 三 好 學

(本篇ノ大意ハ去ル四月廿五日東京植物學會例會ニ於テ演說セリ)

和蘭領ジャバ島ブイテンツォーク植物園ハ赤道以南六七度ノ間ニアリ、海面上凡ソ二百六十「メートル」、バ
 タビア港ノ南二十「マイル」ニアリ、急行汽車一時間半ニテ達スベシ、ブイテンツォークハ蘭領東印度群島總奉

行ノ所在ニテ閑靜ノ小都市ナリ、サラク、ゲデー兩座ノ火山、南方ヨリ東方ヘ聳エ、山中悉ク太古ノ森林 (Urwald) ヲ以テ蔽ハレ、萬綠鬱蒼タリ、二三ノ小河流山中ヨリ發シ、市中ヲ貫透シ、北方ヘ向流ス、土地高ク、「マラリア」、「コレラ」ノ虞少ナキヲ以テ、バタビアノ人士、該地ニ居宅ヲ構フルモノ多シ、植物園ハ市ノ中央高處ニアリ、面積五十八「ヘクトル」ヲ有シ、二百餘人ノ園丁、日々園内ノ諸役ニ服セリ、該園ニ培養スル植物ハ無慮九千餘種ニシテ、主トシテ熱帶地方ノ草木ヲ網羅セリ、園内ニハ園長、園監等ノ住家ヲ始メ、植物生理學實驗場、植物病理研究所、寫眞場、果實蒐集所、種子蒔殖場等ノ設アリ、又數棟ノ陰室アリテ陰濕地ニ生ズル植物ヲ置ケリ、此他ニ一棟ノ實驗場アリテ世界各地ヨリ來遊ノ植物學者ノ爲メニ研究ノ便ニ供シ、器械藥品書籍等完備アリ、該實驗場内ニハ五脚ノ實驗机、安置セルヲ以テ、同時ニ五人マデノ來賓ニ研究ノ便宜ヲ與フルヲ得、此他、園外ニ一棟ノ植物腊葉及ビ標品館アリテ、ジャバ島及ビ東方アジア一般ノ「フロラ」ニ關スル腊葉ヲ有シ、又熱帶地方凡百ノ果實種子ヲ貯存セリ、又熱帶地方有用植物體ノ各部分、原料及ビ製品ヲモ陳列ス、同所ニハ又植物圖書館アリテ卷帙富饒、分類、解剖、生理、生物及ビ地理、旅行記、風土、人類ニ關スルモノ主トシテジャバ島及ビ東印度群島ニ於ケル著述ヲ網羅セリ、又歐米各國ノ著名ノ植物學雜誌、各大學及ビ諸學會ノ刊行物、苟クモ植物ニ關スルモノハ大抵具備セザルナシ、此ノ如キ完全ナル植物圖書館ハ歐米各大學植物學教室ニ於テモ多ク其比ヲ見ザルモノナリ⁽¹⁾、

此植物本園ノ他ニ尙ホ一ノ廣大ナル栽培園ト、一ノ山園トアリ、栽培園ハ植物園ヨリ步行半時間程ノ距離ナルチーコメウニアリテ、面積七十二、五「ヘクトル」ヲ有スコ、ニハ農藝化學ノ實驗場アリ又山園ハゲデー山腹ノ高處、凡千五百「メートル」ノ位置ニアリテ、面積三十一「ヘクトル」ニ及ブ、該園ノ森林ハ山腹一帶ノ太古

森林ニ連接シ深奥幽邃ナリ又、シンコナ樹栽培所及ビ暖帶地方植物栽培試驗所アリ、コ、ニモ亦實驗場アリテ幾多ノ實驗機ヲ備エ、研究者ノ便ニ供ス、其他ニ園監、園丁及ビ外來賓ノ宿舍等具備セザルナシ、以上記載セル外ニ尙一ノ藥學實驗場アリテ植物標品館ノ後ニ接連ス、

抑モ該園ノ創立ハ此世紀ノ當初ニアリ、最初園長タリシ人ハラインワード (Reinwardt) 氏、次デブルーメ (Blume) 氏之ニ代リ、又多年間、園監タイスマン (Teijsmann) 氏該園ヲ制理シ、規模ヲ擴張シ園制ヲ改良シ、加之ナラズ採集ヲ勉メ、園内培養ノ植物種數ヲ増加セルヲ夥多シ、氏ハ實ニ三十八年間、黽勉精勵シ、園内ノ事業ヲシテ今日アルニ至ラシメタルニ於テハ、該園歴史中大功勞アリシ人ト云フベシ、氏ノ在職中千八百六十六年ニ前記ノチボーダスノ山園ヲ設置スルニ至リ、次テシユッファー (Scheffer) 氏園長トナリ、千八百七十四年ニ始メテ *Annales du jardin botanique de Buitenzorg* ノ第一卷ヲ出版シタリ、此雜誌ハ爾來今日ニ至ルマデ續々出版シ、該園ニテ研究セル諸學者ノ植物學上ノ論文ヲ掲載シ、世ニ裨益ヲ與ヘタリ、又氏ノ在任中千八百七十五年ニ前記ノ栽培園ノ設立ヲ見ルニ至レリ、次テ千八百八十年現任「ドクトル」トレーブ (Traub) 氏園長トナレリ、氏ハ有爲著名ノ植物學者タルノミナラズ、亦大ニ監理上ノ才ヲ有シ、該園ノ事業着々歩ヲ進メ來レリ、千八百九十年該園ノ組織上大ニ改良スル所アリ、即チ該園ヲシテ單ニ「フロラ」探究場タラシムルノミナラズ、真正ノ學術的植物學研究所トナスニ至レリ、コ、ニ於テ大ニ實驗場ヲ擴張シ、諸般ノ器具、藥品等ヲ備エ、植物生理學、生物學、發生學、解剖學、形態學等ノ研究ヲ充分ナラシメタリ、該年ヨリブイテントオーグノ植物全園ニ左ノ六部ヲ置キ、各部毎ニ部長アリテ各責任ヲ有シ、而シテ總園長之ヲ統轄スルノ制トナセリ、六部ハ即チ左ノ如シ、

第一部 植物腊葉及標本館 部長 「ドクトル」ハリエ (Dr. Hallier.)

第二部 植物學實驗場(生理、解剖、及ヒ病理) 部長 「ドクトル」ヤンセ (Dr. Jansen.)

第三部 栽培植物園及ヒ農藝化學實驗場 部長 「ドクトル」フハン、ロンブル (Dr. van Romburgh.)

第四部 藥物學實驗場 部長 「ドクトル」ボースマ (Dr. Boorsma.)

第五部 植物園及ビチポードス山園 部長 園 監ウィーグマン (Wigman.)

第六部 事務所及ビ圖書室并ニ寫真場 部長 「ドクトル」トレープ (Dr. Trenb.)

外ニ製畫者及ビ寫真者 ラング (Lang.)

此ノ如ク園制ヲ改良シ汎ク世界各國ノ植物學者ノ來遊ヲ促シ逗留、研究ノ便ヲ與ヘタレバ今ハブイテンツオークノ植物園トテ歐米植物學者ノ口ニ膾炙シ、該園ヲシテ赤道地方ニアル植物研究所ノ第一等ノ位置ニ上ラシムルニ至レリ、

千八百八十年以後ブイテンツオーク植物園ニ於テ多少ノ日月中逗留シ、研究セル歐米著名ノ植物學者少ナカ

ラズ、今ニミヲ例セバ「グラーフ」ソルムス (Graf zu Solms) ストラスゲル、ヒ大學教授、ゲーベル (Goebel) ミュンヘン、ヒ大學教授、シュ

imper ボン大、ヒ大學教授、スタール (Stahl) エナ大、ヒ大學教授、カーステン (Karsten) ライプチヒ大、ヒ大學教授、チルヒ (Tschirch)

ベルン大、ヒ大學教授、ハーバーランド (Haberlandt) グラーツ、ヒ大學教授、ウヰースナー (Wiesner) ウヰーン、ヒ大學教授、クラウス (Kraus) ハレ大、ヒ大學教授

氏ノ如キ皆ナ該園ニ於テ研究シ、其結果ノ多クハ已ニ世ニ知ラレタリ、

去ル千八百九十二年ニ於テ、該園創立以來七十五回ノ紀念式ヲ舉行シ、大冊ノ「Festschrift」ヲ出版セリ、題シテ「s

Lands Plantentuin」ト云フ、翌年ニ至リ獨逸文ノ分ライプチヒノ書肆 Engelmann ヨリ出版セリ、「Der botan-

ische Garten zu Pflanzung auf Java, Festschrift zur Feier seines 75jährigen Bestandes”ト題セリ、此獨文ノ方ニハ數多ノ寫眞畫ヲ挿入シ看者ノ便ニ供セリ、

予ハ兼テ該園へ來遊シ熱帶地方植物生育上ノ現象ヲ實察シ、又種々珍奇ナル植物ノ採蒐ヲ爲サンコトヲ企望セルガ、恰モ好シ昨年ノ春、該園長「ドクトル」トレーブ氏ハ當時獨國ライプチヒナル予ニ書ヲ寄セ、懇切ニ來遊ヲ勸誘シ、研究及ビ採收ノ便ヲ與ヘンコトヲ申シ來リタレバ、遂ニ歸朝ノ途次、該地ニ赴クコトナレリ、予ハ本年二月九日ライプチヒヲ發シ、三月十日シンガポールへ着、全十二日同所ヲ發シ、毎週一回ツツ出帆スル和蘭郵便船ニ搭シ、赤道ヲ横ギリスマトラ島ノ海邊ニ沿ヒ二晝夜余ノ航海後、ジャバ島パタビア港頭ダンヨン

プリオクニ達シ、ソレヨリ瀛車直ニブイテンツオーグへ達セリ、バタビア港頭ニハ所謂沿生椰子ナル *Nipa-fruticans* 發生シ、⁽²⁾ 巨大ノ果實ヲ着ケ著甚ナリ、又航海中ジャバ海ノ一部ニ於テモ面積二三坪ニ滿タザル

小嶋嶼ニ該椰子ノ生茂スルヲ見タリ、又 Mangrove ノ種類多ク沿岸ノ地ニ繁茂セリ、ブイテンツオーグニハ大ナル「ホテル」二箇アリ、一ヲ Hotel Chemin de fer ト云ヒ、停車場ニ接近シ、館主ハ佛人ナリ、一ヲ Hotel Bellevue ト云ヒ植物園ニ接シ、獨人ノ有スルトコロナリ、何ヅレモ植物園來遊者ノ逗留ニ便宜ナリ、⁽³⁾ 予ハ前者ノ方へ寄泊セリ、熱帶地方殊ニジャバ島ノ「ホテル」ハ、歐米大陸ノ「ホテル」ト

固ヨリ其趣ヲ異ニシ、平屋作ニシテ廣キ椽端ヲ具ヘ中庭ニ面シ、數多ノ安樂椅子ト「テーブル」ヲ並置ス、客室ハ廣潤ニシテ天井高く窓戸モ大ナリ、中庭ニハ種々ノ椰子 (*Oreodora*, *Tivistona*, *Rhapis*)、ガ、オ樹、カフエ

一樹、ミリカ樹、バンのと、バ、ヤ樹、わたのと (*Eriodendron anfractuosum*)、コ、椰子、*Tamarindus indica*, *Hibiscus rosa sinensis*, ビーサン(バナ)、及ビ種々ノ竹類ヲ栽培セリ、是等ノ樹幹ニハ種々ノ羊齒 (*Asplen-*

ジャバ島ブイテンツォーク植物園看覽記

ium nidus, *Platyserium albicorne*, *Drynoglossum*, *Acrosticum* 等)、蘭類 (*Dendrobium* 尤モ多シ) 地衣、蕨
 苔等夥多シク茂生シ、總^{フッ}ノ如ク垂下セリ、右中庭ノ有様、左ナガラ一小植物園ノ如シ、予ハ毎朝早起シテ植
 物園ヘ行キ看覽シ、又實驗場ニ入りテ檢閲セリ、早朝ハ概ネ滿天晴朗ニシテ空色眞藍、洗ヘルガ如ク、サラ
 ク、ゲデー、ノ山光、更ニ一層ノ翠ヲ加ヘ、山腹密林ノ狀尤モ明瞭ニ認ムルヲ得ベシ、此時刻ニ於テ園内ヲ
 逍遙シテ熱帶植物生活ノ現象ヲ觀察スルニハ尤モ適セリ、午前十時頃ニ至レバ日熱熾燦トシテ已ニ暑氣ニ苦
 ム、徐々トシテ雷雲峯疊、天色漸ク暗キニ至レバ殷雷轟々驟雨ノ來ルヲ報ズ、概ネ午後一二時ノ交ヨリ雷雨
 ノ至ルヲ常トスレモ、時トシテ已ニ午前十一時頃ヨリ雨脚ノ達スルヲナシトセズ、須臾ニシテ雷電激發シ傾
 盆ノ大雨トナリ、雨滴ノ葉面ヲ撲ツノ聲喧シ、大抵二三時間ニシテ雨收リ雲散シ、日没ノ際ニハ再ビ晴朗ノ
 空色ヲ見ルヲ得、雨後ニハ蟬聲蟲音相加シ、一種自然ノ音樂ヲ聞クヲ得ベシ、
 ブイテンツォークノ一年平均温度ハ攝氏二十五度ニシテ最温季節(九月)ト最冷季節(二月)トノ平均温度
 ノ差僅ニ一度ニ過ギズ、又一年間ノ最高温度ニ付テ言ヘバ三十度一分⁽⁴⁾、最低温度ハ二十度九分ニシテ、右温
 度兩極端ノ差唯九度二分ノミ、雨量ハ年内期節ニヨリテ差違アリ、ジャバ島及ビ一帶ノ群島ニ於テハ十一月
 ヨリ四月マデ西北ノ「モンsoon」風^{貿易}吹キ、概シテ日々雨天ナリ、五月ヨリ十月ニ至ルマデハ東北ノ「モン
 soon」時季ニシテ此間ハ乾燥ノ期節ナリ、一年中一月尤モ雨多ク、降雨量四七三「ミリメートル」ニ達ス⁽⁵⁾、
 雨量ノ尤モ少キ期節即チ八月ハ二五七「ミリメートル」、一年中ノ總雨量ハ凡ソ四五〇「センチメートル」ニ達
 ス、亦以テ降雨ノ多キヲ知ルニ足レリ、湿度ハ日々時間ニヨリテ差違アレモ、最少量ハ大抵午十二時ト一時
 トノ間ニアリテ、七十乃至八十「プロチェント」ナリ、最多量ハ概ネ午後三時以後ニシテ、平均凡ソ九十五度

ニ達ス、此ノ如ク空氣ノ濕潤ナルガ故ニ、室内ノ諸物、衣服、靴、革具何ツレモ水氣ヲ含ミ、かひヲ生ズル
 一常ナリ、携帶セル水畫顏料ノ如キ、皆ナ溶解混流シ用ヲナサルニ至ル、

此ノ如ク植物發生ノ要素ナル温熱、濕氣及ビ日光ハ充分ニシテ、彼ノ暖帶、寒帶地方ニ在ル植物ノ如ク氣候
 的制限ヲ受クルコトナキヲ以テ、該地方即チ熱帶ノ植物ハ充分ノ生長ヲ遂ゲ、巨大ノ容積ニ達シ、花葉ノ開發、

果實ノ成熟完全ナラザルハナシ、故ニ熱帶植物體ニ於テハ形態學、組織學上ノ狀態十二分ニ發達セルノミナ

ラズ、生理學上ノ顯象モ亦大袈裟ニ現ハレ、又生物學上ヨリ起ル想説モ其解釋ヲ探求スルコト敢テ難ニアラ

ズ、又發生學ノ研究ノ如キ、殊ニ容易ニシテ、面白キ實驗ヲ爲スノ便アリ、彼ノ暖帶地方植物園ノ暖室中、

人工培養法ヲ施シ、僅ニ生長セシムルヲ得ル植物ノ如キ、熱帶地方自然ノ狀態ニアリテハ、充分ノ大サニ達シ、

完全ノ發達ヲ爲シ、盛ニ花實ヲ着生セルヲ以テ、平素徒ニ暖室、花戸ニ就テ熱帶植物ヲ識得セル目ニハ、右

植物所生ノ本國ニ到リテ彼等ニ邂逅スル際、直ニ之ヲ認識スルコト能ハザルモ敢テ恠ムニ足ラス、

ブイテンツオーグ植物園ハ彼ノ暖帶地方ノ植物園ニ於ケルガ如ク、主トシテ花壇ヲ並列シ墓地ノ看ヲ呈スル

モノト異ナルノミナラズ、亦英國及ビ英領各地ニアル植物園ニ見ル所ノ「パーク」風ニ設置セルモノトモ異リ

テ、喬木森生、藤蘿纏繞、幽草陰花其間ニ點綴シ、恰カモ一場ノ自然森林ノ看アラシム、サレバ決シテ亂蕪

混雜ナルニハアラズ、部類分明、整然トシテ秩序アリ、蓋シ園内ノ植物皆ナ初メ區分シテ栽培シタルモノナ

レバ、歲月ノ久シキ途ニ聳天ノ巨木トナリ、藤蘿攀援、艸萊陰奥、宛然自然生ノ如クナリシナリ、

今試ニ園長「ドクトル」トレーブ氏ノ居宅ノ側ナル門口ヨリ園内ニ入レバ、町餘ニ涉レル「カナリエン、アレー」

ヲ見シ、此並木ハアンボイナ島、所生ノ巨木 *Canarium commune* ト稱スル *Burseraceae* 科ノ植物ニシテ、

巨幹高ク直生シ、上部ハ枝極相交リ、兩邊ノ「アレー」恰カモノ「アーチ」ヲ形ヅクレリ、是レ前記ノタイスマン氏ガ往昔種植スルトコロニカ、リ、今ハ一大壯看ヲ呈スルニ至レリ、此カナリア樹ニハ凡百ノ纏繞植物及ビ寄生植物着生シ、奇看言フベカラズ、今委細ニ記述セバ恐クハ是ノミニテモ一小冊子ヲ爲スニ至ルベシ、故ニ今其内尤モ著ルシキモノヲ舉グレバ、着生蘭類ノ一種 *Gramatophyllum speciosum* アリ、根叢、樹幹ノ一部ヲ環繞シ、長サ數「メートル」ニ餘レル線狀ノ長葉夥多シク垂下シ紐繩ノ如シ、又 *Freyinetia* ト稱スル露兜樹科ノ纏繞植物アリ、高ク樹梢ニ攀延ス、後者ノ種類ニ屬スル植物ハブルク (Barck) 氏ノ實驗ニヨレバ薄暮樹頭ニ飛ビ交フ *Pteropus edulis* ト稱スル蝙蝠ノ一種ニヨリテ花粉ノ受精ヲ媒介セラルト云フ、其他 *Philodendron* (*imbe*, *melanochrysum*) ノ如キ、*Monstera deliciosa* ノ如キ、*Syngonium* ノ如キ、*Scindapsus* ノ如キ、何ヅレモ纏繞攀援時トシテハ最高處ノ枝條ニ上リ、ソレヨリ長サ數十「メートル」ノ氣生根鉛直ニ垂下シ、遂ニ地ニ達スルニ至ルモノアリ、彼ノ暖室ニ培養シテ僅カニ數丈ノ氣生根ヲ生ズル生品トハ、固ヨリ同日ノ論ニアラズ、此等ノ纏繞植物ノ寄^{ハフト、ケルツセル}着根發生及ビ着生ノ状態、及ビ他ノ *Dendrobium* 其他寄生蘭類ニ於ケル寄着根ノ樹皮ニ密着シ相觸接スル形狀等皆テ研究上ノ好材料ニ他ナラズ、⁽⁸⁾コノカナリア並木ノ間ニ於テスラ猶ホ數日看察ノ價値アリ、該植物園ガ如何ニ植物學者ノ極樂園タルカハ推シテ知ルベシ、

全園中尤モ興味アル區分ノ一トシテ、纏繞植物部 (*Lianen od. Kletterpflanzen-Quartier*) ヲ略記スベシ、此所ニハ熱帶地方ニ自生セル凡百ノ纏繞植物ヲ蒐集セルモノニシテ、各々固有ノ樹木ニ寄攀セリ、寄攀ノ形況、纏繞ノ状態、種々ニシテ、莖ニテ卷キ上ルアリ、根ニテ寄着スルアリ、葉ノ部分ニテ攀援スルアリ、刺^{トゲ}或ハ鉤^{フック}ヲ以テ寄着スルアリ、粘液ヲ分泌シテ固着スルアリ、觸接刺擊性ノ作用アルモノアリ、偶然風力ヲ籍^{トゲ}リ

テ樹梢ニ達スルモノアリ、此等ノ顯象一々實地ニ檢スルヲ得ヘシ⁽⁹⁾、此部類中尤モ著シキハ *Entada scandens*, *Mucuna gigantea*, *Uncaria sclerophylla*, *Zanonia macrocarpa* ノ如キコレナリ、然レモ其尤モ奇ナルハ纏繞椰子 (*Kletterpalmen*) ノ種類即チ *Rolampalmen* ナルベシ、此種屬中最モ普通ナルハ *Calamus* 屬 (藤^{スウ}) ニシテ數多ノ種類アレモ、何ヅレモ同一様ノ狀態ヲ有シ、羽狀ノ長葉叢生シ、葉軸其尖端ヨリ一二「メートル」長伸シ、一面ニ下方ニ卷屈セル鈎^{フック}ヲ有セリ、或ハ亦花叢中軸ノ伸長シテ同形トナレルモノアリ、此等ノ長鞭ノ如キ部分ハ風力ニヨリ左右ニ吹動セラル、ヲ以テ、容易ニ樹樞ニ寄着スベク、ソレヨリシテ伸生延長、徐々ニ莖幹ヲ上達セシムルヲ得、此ノ如クシテ歲月ヲ經レバ、舊ルキ葉ハ枯死シ、莖部裸出シテ細引索^{ホソビキナワ}ノ如ク、最高樹頭マデ攀上シ、ソレヨリ亦垂下シテ他樹ヘ移リ、或ハ地面ニ伏臥シ、亦數十間ヲ隔ツル樹梢ヘ上リ、其ソレヨリ亦隣樹ヘ移リ、遂ニ其先端ヲ見出スヲ能ハザルコトアリ、此等ノ藤莖^{スウ}ハ直徑僅カニ一「センチメートル」半位ナレモ、其全長ハ二百餘尺ニ至ルモノ該園内ニ少ナカラズ、若シ夫レ自然ノ森林中ニアルモノニツキテ檢スレバ、五六百尺以上ニ達スルモノナシト云フベカラズ、

右纏繞植物部ニ次テ面白キモノハ、椰子部 (*Palmenquartier*) ナリ、園内種植ノ椰子類五十屬ノ上ニ出デ、數多ノ種類ヲ有ス、其巨大ナルハ樹幹合圍ニシテ、高サ二十五「メートル」以上ニ及ブ、最普通ニシテ最モ美ナルハコトヤシ (*Oocos nucifera*) ナリ、此種、東印度諸島到ルトコロ産セザルナシ、次デ直生壯看ナルハクバ島ノ王椰子ノ名アル *Oreodora regia* 及ビ *O. oleacea* ナリ、又 *Livistona robusta* ノ如キ、*Corypha gebanga* ノ如キ、直立數十「メートル」ニ及ビ、異看タルヲ失ハズ、又 *Meteroxylon* ノ如キ、*Oncosperma* ノ如キ、*Actinospermum* ノ如キ、*Calyplocalyx* ノ如キ、*Bactris* ノ如キ、*Phygosperma* ノ如キ、或ハ叢生シ或ハ單立シ、

樹形、葉狀各々固有ノ看ヲ呈ス、叢葉總狀ヲナシ尤モ美看ナルハ *Attalea* ナルベク、葉脚緋色ヲ呈シ萬綠陰中更ニ鮮美ナルハ *Gyrtosiachys* ナラン、掌狀葉ノ大ナルハ *Borassus*, *Corypha*, *Lalania* ナリ、サレモ葉形ノ甚大ナルモノニ至リテハ *Lodoicea Schellerm* 其一例ナルベシ、此種ハマダガスカル島東北ノ群島ニ産スル椰子ノ一種ニシテ、*Coco de mer*、或ハ果實ノ形狀ヨリシテ *double nut* ノ名アリ、予ハ先年英國キウガードンノ「アクワリウム」ニ於テ、直ニ種子ヨリ發芽セシメタル此植物ノ生品ヲ見タルガ、今ブイテンツォークノ植物園ニモ一株ノ生長セル該植物アリ、葉ハ羽狀掌狀兩形ノ移リ行キノ状態ヲ現ハシ、長サ七「メートル」餘、幅四「メートル」餘ニ達セリ、果實ハ巨大ニシテ能ク五十「ポンド」ノ重量ニ達スト云フ、次ニ露兜樹科 (*Pandanus*) ノ部分ニ移レバ、コ、ニモ數多ノ種類アリ、其中最高ナルハ *Pandanus furcata* ニシテ、高さ二十餘「メートル」ニ達ス、又 *Pandanus Loran*, *P. labyrinthicus* ノ如キ尤モ著ルシキモノナリ、其他ニ面白キハ着生蘭類ノ部ナリ、陰濕ノ地ニ殊ニ水流ヲ縱横ニ通ジ、數多ノ臺木トナルベキ植物ヲ植エ、樹梢ニ蘭類ヲ植生セシメタリ、種類ノ夥多シキ、發生ノ盛ナル、粘着根、氣中根、發達ノ狀、花形葉狀ノ種々ナル、芳香ノ郁々タル、尤モ看ル者ヲ喜バシムルニ足ル、

亦別ニ森林着生植物ヲ培養スル部分アリ、此處ニハ *Hoya*, *Dischidia*、并ニ蟻植物 (*Ameisenpflanzen*) 等ヲ貯ヘタリ、*Dischidia Rafflesiana* ハ特異ノ肥厚セル葉體、絲ノ如キ莖ニ附着シ樹梢ヨリ纍々下垂ス、該植物ノ葉體ノ機能及ビ作用ニ着テハ輒近ノ研究ニヨリテ知ラレタリ¹⁰⁾、蟻植物ハ *Myrmecodia echinata*, *M. tuberosa*, *Hydnophytum formicarium* 等ニシテ、何ヅレモ不規則ナル塊狀體ヲナシ、大サ小ナル南瓜實ニ均シク、上部ヨリ小莖ヲ出シ花葉ヲ着生ス、狀體塊ノ表面ハ凹凸セル起隆溝澗アリ、内部ニハ數多ノ通透セル孔道アリ

テ外面ニ開キ、コ、ヨリ一種ノ蟻群常ニ出入スルヲ見ル、該植物ハ塊狀體ノ一部ニヨリテ森林中ノ樹幹ニ着生シ、ジャバ嶋山中ニ普通ナリ、人アリテ該植物ヲ採取セントスレバ、一種ノ蟻群一時ニ孔口ヨリ匍出シ、來襲シテ嚙ム、甚ダ恐ルベシ、然レモ該植物ヲ採リテ他所ニ移植スルニ及ベバ、從來居住セル蟻皆ナ出デ去リテ更ニ一種ノ無害ナル蟻代ハリテ入り此中ニ住スルニ至ル、該植物塊狀體中ノ孔道ハ元來、蟻ト植物トノ共生(Symbiosis)上ヨリ特ニ構造セラレタルモノナリヤノ疑問ハ往時ヨリ人々ノ想像セルトコロナレモ、トレブ(Treb)氏⁽¹¹⁾、フォルブス(Förbes)氏⁽¹²⁾、及ビブルク(Burck)氏⁽¹³⁾等ノ塊狀體發生上研究ノ結果ニヨレバ決シテ然ラザルガ如シ、何トナレバ該植物ヲ種子ヨリ發芽セシメテ更ニ蟻ノ接近スルヲナカラシムルモ、孔道ハ猶ホ自ラ構成セラルレバナリ、サレドモ孔道發生ノ後ニ至リテ蟻ト共生上多少ノ關係アルハ亦疑ナキガ如シ、

園内ノ濕地ニハ亦 Mangrove 植物 (*Rhizophora*, *Bruguiera*) ノ培植所アリ、此植物發生上ノ現象及ビ呼吸根等ノ事ニ付テハカーステン(Karsten)氏⁽¹⁴⁾及ビ近時ハーバーランド(Haberlandt)氏⁽¹⁵⁾ノ研究アレバ人ノ知ル所ナリ、

ブイテンツオーグ植物園所生ノ植物中委細ニ看察スレバ種々生物學上面白キ事柄ニ邂逅スル中ニモ、近來ユングネル(Jungner)⁽¹⁶⁾、スタール(Stahl)⁽¹⁷⁾諸氏ノ研究セル降雨ト葉形ノ關係ニ於ケル事實ノ如キ、亦種々ノ例證ヲ得ルニ難カラズ、*Amherbia nobilis*ノ如キ、*Brownea hybrida*ノ如キ、*Samaca minor*ノ如キ、新葉片ハ何ゾレモ相垂下シ特異ノ看ヲ呈ス、又 *Cacao* 樹、*Boba* 樹ノ如キハ老葉モ亦傾斜ノ位置ヲ保ツ、其他種々ノ植物ニ就テ其例證ヲ求ムルヲ易シ、試ミニ急雨ノ際、此等ノ葉片ノ鋭尖ナル葉端ヨリシテ雨水ヲ注下シ去ル

狀ヲ見レバ、亦其流瀉ノ容易ナルヲ認メ得ベシ、

熱帶植物中巨大ノ葉面ヲ有スルモノ少ナカラズ、該園中種植ノ植物中 *Myrsinaceae* 科ニ屬スル *Theophrasta macrophylla* ノ如キ、及ビ *Ebenaceae* 科ニ屬スル *Cespedesia Bonplandii* ノ如キハ予ノ自ラ測ル所ニヨレバ披針狀葉、長サ八十「センチメートル」乃至一「メートル」ニ達セリ、*Victoria regia* ノ如キモ園内ノ池沼ニ培生シ夥多シク蕃殖スレモ、葉ノ大サ予ガ嘗テ歐洲各地植物園或ハ花戸ニ於テ見タルモノニ過ギルコナシ、決シテ其本國タルアマゾン河流ニ於ケルガ如ク甚大ニ至ルコト能ハズ、コレ蓋シ自ラ自然ノ状態ヲ異ニスレバナリ、又葉形ノ絶大ナルハ椰子科植物ノ種類ニテ前記ノ *Lodoicea Sechellorum* ノ如キモ異常ノ大ニ達スレモ、其絶大ナルハ蓋シ *Maximiliana regia* ノ羽狀葉ニ如クモノナカラン、其長サ十五「メートル」以上ニ及ブ、熱帶植物界中尤モ特異ナル顯象ノ一ハ着生植物 (*Epiphyten*)⁽¹⁸⁾ ノ多キニアリ、尤モジャバ森林ニアリテハ、シンパー (*Schimper*) 氏⁽¹⁹⁾ ノ論ズル如ク、*Tillandia usneoides* 及ビ其他ノ着生 *Bromeliaceae* 科ノ欠クルヲ以テ、彼ノ南米ブラジル、ペルーノ森林ノ如ク奇看ナラズ、サレモ亦夥多ノ着生植物、樹皮樹梢ニ生ジ、宛然空氣中ニ一ノ植物園ヲ顯出スルノ看アリ、彼ノ *Oreodoxa regia* 并ニ他ノ椰子、及ビ種々ノ竹類ノ莖ノ如キ甚ダ滑澤ナル表面ニ於テスラ、微少ノ地衣類、菌類、蘚苔類及ビ羊齒類、蘭類并ニ他種ノ植物ノ一面ニ寄着點綴シテ全ク莖幹ノ表面ヲ被フニ至ル、況ンヤ木生羊齒并ニ或ル椰子類ノ老葉柄ノ朽腐セル場所、及ビ種々ノ喬木灌木ノ枝椏上ノ如キ、着生ニ便ナル所ニ於テオヤ、即チ最普通ナル *Asplenium nidus* (をほたにわたり) *Platygerium alcornoche* (びがくした) ノ如キ巨葉ノ羊齒ヲ主トシ、種々雜多ノ植物ヲ蕃生セシム、殊ニ森林陰濕ノ地ニアリテハ、樹葉ノ表面悉ク蘚、苔、地衣、水藻、菌類ヲ以テ密被セラレ、僅ニ一枚ノ葉

面上ニ着生セル隱花植物ノ種類ヲ檢定スルコトスラ容易ニ非ラズ、況ンヤ一株ノ植物全體ニ着生スルモノニ於テオヤ、亦以テ該地方植物帶ノ富饒ナル一斑ヲ知ルベシ、

ジャバ森林ノ廣大ニシテ喬木ノ種類ニ富ムハ言フ俟タズ、該地山林「フロラ」ニ通ゼルコールデルス (Koori-tea) 氏ノ計算ニヨルニ、ジャバ島ノミニ於テスラ猶ホ喬木ノ種類一千五百種ニ止マラズト云フ⁽²⁰⁾、モシ亞喬木、灌木ヲモ共ニ計算セバ、其數蓋シ莫大ナラン、且ツソレ、ジャバ全島ハ和蘭殖民地群島中尤モ能ク開拓セラレ、已ニ鐵道ノ全通ヲ見、良好ナル道路アリ、隨テ植産、「フロラ」ノ檢索大ニ行キ届キタレバ、草本、小植物ニ至ルマデ世ニ知ラレタルモノ多シ、サレバ、ボルネオ、スマトラ、セレベス諸島ニ於テハ、固ヨリ同一ノ論ニアラズ、僅ニ沿岸ノ地方漸ク開拓ニ就キタルモ、内地ハ未ダ未通ノ所多キヲ以テ、探索ノ擧アル毎ニ新種類ノ發見セラル、モノ尠ナカラズ、往年「ドクトル」ブルク (Burck)、⁽²¹⁾「ドクトル」ハリエ (Hallier) 氏等ノ一行、⁽²²⁾ボルネオ探檢旅行ヲ爲シタル際モ數多ノ奇異ナル未知植物ヲ發見シテ携帶シ歸レリ、是レハリエ氏ガ予ニ語リタル所ナリ、

ブイテンツオーグ植物園内ニハ二百餘人ノ園丁アリ、皆土人ニシテ「マレー」語ヲ話ス、一定ノ服ヲ着シ、一般土俗ノ如ク常ニ跣足ニテ歩行ス、何ヅレノ家屋ニ入ルモ亦然リ、此等ノ園丁ハ各々受持ノ業務ニ服シ、終日勞カス、常ニ長キ鎌ヲ以テ纏繞植物ノ蔓枝ヲ刈除シ相互ニ混雜スルヲ防クモノアリ、又數十「メートル」ノ高樹幹ヘ巧ニ攀ヂ上リテ採收スルモノアリ、又常ニ園内ヲ逍遙シテ果實ヲ蒐ムルモノアリ、又蘭部、着生植物部等ノ一區劃ヅ、受持テテ監護スルモノアリ、又多年ノ經驗、熟練ニヨリ巧ニ一ノ種類ノ植物ヲ山中ヨリ採集シ來ルモノアリ、各々其技能ニヨリテ諸役ニ服ス、

園内ノ果實種子蒐集場ニ於テハ數多ノ標品ヲ乾燥シ、一々整理シテ名稱ヲ附シ、以テ博物館陳列ノ用ニ供シ、或ハ諸外國ヨリノ求メニヨリテ送致スルコトアリ、亦別ニ種子ヲ蒔殖スル所アリ、其中尤モ面白キハコ、ヤシ及ビ他ノ數種ノ椰子果實發芽法ニシテ單ニ繩ヲ以テ巨大ナル果實ヲ樹陰ノ枝條ヨリ垂下シテ放置シ、或ハ直ニ樹極ノ股ヲナセル所ニ載セ置クノミ、斯クシテ放置スレバ充分ナル日光、水濕、溫度ノ爲メニ發芽シテ、幼芽ハ直ニ生長スルニ至ル、コ、ニ於テ全體ヲ地面ニ下シ放置スレバ、ソレヨリ伸生發達スルニ至ル、

ブイテンツォーク植物園ニハ數所ニ入口アリ、固ヨリ門戸モナク何人モ何時ニテモ自由ニ出入シ、園内ヲ散步來往スルコトヲ得、所々眺望佳絶ナル所ニハ小亭アリテ、コ、ヨリサラク、ゲデー等ノ火山脈ノ連亘セル狀、太古森林ノ鬱蒼タル景、及ビ巨大ナル椰子林ノ遠景等暖帶地方ニ於テ夢想ダモ爲ス能ハザル特異ノ風光ヲ賞看スルヲ得ベシ、園ノ中央ニ大ナル沼地アリ、中央ニハ一箇ノ小島嶼アリテ熱帶地方ノ尤モ美麗ナル草木ヲ雜植セリ、池沼ノ前面ニハ和蘭總奉行ノ殿舎アリ、其後ニハ廣大ナル麋鹿園（ヒルシ、ガートン）アリ數頭ノ馴鹿ヲ養フ、園内ニハ *Ficus religiosa* 菩提樹 ノ「アレー」アリ、何ツレモ巨大ノ老木ニシテ樹幹ヨリ垂下セル氣生根ノ太クシテ大ナルモノ毎株數百本、林立、柱ノ如ク、實ニ一大奇看ヲ呈セリ⁽²¹⁾。

予ノ該園滞在ノ間、日々觀察スベキ事實非常ニ多ク、最初數日ハ忙然トシテ自失セルガ如シ、次第ニシテ全園植物一般ノ状態ヲ知り、徐々ニ一々ノ事實ヲ看察スルニ至レリ、今茲ニ此等ノ事柄ヲ詳説シ、若クハ園内ノ植物區部ノ細目ヲ案内記風ニ記述スルハ、固ヨリ爲シ能ハザルトコロナレバ、此等ハ悉ク省略シ、更ニ該地栽培植物園ニ就テ、二三ノ看覽セル事項ヲ記述スベシ、

ブイテンツォーク有用植物栽培園 (*Cultivation*) ハ植物園ヲ去ルコト里許チイコメウニアリテ、面積七十二、五

「ヘクトル」ヲ有シ、別ニ一棟ノ農藝化學實驗場アリ、其前面ニ園長ノ住家アリ、予ハ該園長「ドクトル」フハン、ロムブルー氏ノ案内ヲ受ケ一々至細ニ看覽セリ、同實驗場ニテハ *Andropogon Incurvatus* ジャバニ自生スル禾本科 ヨリ一種ノ芳香油ヲ盛ニ蒸シ取り居レリ、香氣「チトロネル」油ニ類ス、蓋シ「チトロチル、アルデヒド」ヲ含有スルニヨルナリ、

該園ニハ數多ノ有用植物ヲ培養セルガ、今其中ニ就テ數例ヲ擧グレバ、第一ハ咖啡樹ナリ、主トシテ *Coffea arabica*、*C. liberica* ノ二種ニシテ、後者ハ前者ヨリモ葉形大ナリ、印度サイロン島ニテハ、往年 *Hemiteia costarica* ト稱スル害菌、咖啡樹ニ發生シ、英政府ハ當時マーシヤル、ワード (Marshall Ward) 氏ヲ *Royal Cryptogamist* トシテ該地方ヘ派遣シ、該害菌ノ發生ヲ研究セシメタレバ、未ダ有功ノ撲滅法ヲ發見スル能ハズシテ、遂ニ該地方ノ大殖産タル咖啡ノ收入ヲシテ爾來殆ト皆無ニ歸セシメタリ、ジャバニ於テハ幸ニ該害菌ノ發生未ダ甚シカラズシテ爲ニ巨害ヲ爲スニ至ラズ、且又リベリア咖啡ノ葉ハアラビア咖啡ノ葉ヨリ該害菌ニ罹ルコト少ナキノ故ヲ以テ、此地ニハ前者ヲモ多ク培養セリ、右兩種ノ他ニ猶ホ數種ノ野生カフエー樹ヲ試植スルアリ、カ、オ樹 (*Thecophoma cacao*) モ亦多ク培植セラル、此レニモ亦他ニ一二種アリ、茶ハジャバ茶、アサン茶ヲ主トシ又支那茶モ試植セリ、アサン茶ハ尤モ大ナリ、其他胡椒 (*Peper*) 各種、丁字 (*Calophyllum aromaticum*)、「ロカ」 (*Erythroxylon coca*)、「わづらやし」 (*Elaeis guineensis*)、「びびん」 (*Trostigma elastica*)、「カテヒユ」 (*Areca Catechu*)、「ガラクトデンドロン」 (*Galactodendron white*) 等一々記スベカラズ、其中尤モ著ルシキモノハ「グッタ、ベルカ」樹 (*Palaequium Gutta*) ナリ、此樹ハ「グッタ、ベルカ」原料ヲ取ルモノニシテ、彼ノ「ゴム」樹、本邦ノうるし樹ノ如ク大ニ有用ノ植物ナルガ、其本國産地ナルシンガ

ポール全島ニ於テ往年土人亂伐ノ甚シキヨリ、該島ニハ遂ニ全ク其種ヲ滅スルニ至レリ、「ドクトル」ブルク氏ノ說ニ當時若シブイテンツォーク植物園ニ該樹ノ生品二個保存シアラザリシナラバ、該樹ハ恐クバ全世界ニ其種ヲ絶チシナラント云フ、爾來該園ニテハ盛ニ該樹ノ蕃殖ヲ謀リ、方今ニハ多ク培養スルヲ得ルニ至レリ、ブルク氏ハ後ボルネオ島採集ノ際 *P. macrophyllum* 及ビ他種ノモノヲ發見シ、齎シ歸リテ試植スルニ、猶ホ *P. Gutta* ニ於ケルガ如ク同様ノ性質ヲ有スルヲ以テ、今ハ此等ノ種モ共ニ盛ニ培植スルコトナレリ、同園ニハ亦「ワニラ」(*Vanilla planifolia*)ヲ盛ニ培養ス、該植物ニ人工的花粉受精ヲ始メテ施セルハ、前記ノタイスマン (Teijsmann) 氏ナリ⁽²²⁾、蓋シ該植物ノ本國タル南米ニアリテハ、該花ノ受精ヲ媒介スル昆蟲アレモ、ジャバニテハ之ヲ欠クノ故ヲ以テ該人工受精法ヲ工夫シ、始メテ數多ノ子實ヲ結バシムルヲ得タリ、爾來今日ニ至ルマデ該島各地ニテ此法ヲ慣用スルコト、ナレリ、ジャバ島ニハ亦いねヲ多ク栽培ス、一年數度ノ收穫ヲ得、米ノ變種甚ダ多シ、さとうさびモ亦多ク作クル、たばこハ殊ニスマトラ島各地ニ多ク栽培ス、

キナ樹 (*Cinchona Calisaya*) ハ、平地ハ溫度高クシテ成長ニ適セズ、前記ノ山園 (Berggarten) ニハ往時ヨリ盛ニ栽培シ、今ハ數百萬株ノ夥多シキ數トナレリ、是レ亦一ハキナ樹本國(南米)ノ亂伐滅種ニ至ルヲ恐レテ斯クハ保存法ヲ企テ、一ハ熱帶地方「マラリア」病ノ適藥トシテ大必要ヲ感ズルニ歸因スルモノナリ、ジャバニハ食用果實夥シ、最普通ノモノハ「ピーサン」^{「メナ」} (*Musa sapientum*)、ナ、ス (*Ananassa sativa*)、

マンギス サイロモニテ
マンゴスタントニフ (*Garcinia Mangostana*)、シヤンブー (*Lansium domesticum*)、ランブータン

(*Nephelium lappaceum*)、^{「カヤ」} (*Carica papaya*)、及ビ種々ノみかん (*Citrus*) ノ種類ナリ、以上ノ他ニ猶ホ食用トナルベキ果實頗ル多シ、試ミニ一日ブイテンツォークノ市場ニ至リテ見物セバ、其形様ノ種々ナ

ルニ驚クイアルベシ、此等ノ果樹ハ何ヅレモ概ネ培養セルモノニシテ、數多ノ變種ヲ生セルモノ多シ⁽²³⁾、
 ジャバ地方野生有用植物中最著ナルモノハ竹ノ種類ナリ、種類頗ル多ク、莖幹一處ヨリ叢生シ、大群束ヲナ
 ス、一種 *Gigantochloa robusta* 及ビ *(F. aspera)* ノ如キハ巨大ノ竹ニシテ、丈ケ尤モ高シ、試ミニ本邦所生
 ノ竹林ヲ以テ其傍ニ置カシメバ、其矮小ナルヲ猶ホ兒童ガ大人ノ膝下ニ立ツガ如クナラン、

予ハ該地ニ滞在セル間、日々事實ノ看察ト材料ノ蒐集トニ餘念ナカリシト雖モ、逗留僅カニ半ヶ月ノ日子ナリ
 シカバ、惜カナ實驗ノ念ヲ有シナガラ割愛セルモノ尠ナカラズ、然レモ此間ニ看察シ認メ得タル事實ハ、當時
 見慣レタル熱帶植物生活ノ状態ト共ニ、宛カモ一幅ノ活畫トナリ、腦裡ニ印シテ忘却スルコトナシ、予先年歐洲
 ニ在ルノ日、キウ、エデンバラ、ブリユツセル、ライデン、ベルリン、ウキーン、ゲンフ各地著名ノ植物園
 ニ就テ暖室中數多ノ熱帶植物ヲ見タレモ、未ダ予ガジャバ滞在中彼等ノ本國ニ在リテ、直接ニ生活上ノ天然ノ
 状態ニ就キ看察セルガ如キ興味ト裨益トハアラザリシナリ、況ンヤ亦徒ニ圖書ニ就キテ此等植物ノ形狀ヲ想
 像スルニ於テオヤ、決シテ其實況ヲ現出シ來ルコト能ハザラン、植物學者ガ熱帶旅行ヲ企ツルノ益枚舉スルニ
 堪ヘズト雖モ、前記ノモノ亦必ズ其一ニ居ルナリ、

予ハ三月卅日ジャバ島バタビア港頭タンヨンブリオクヨリ發船シ、再ビシンガポールへ歸リ、更ニ西來ノ便
 船ヲ待チテ四月十八日歸朝セリ、

予ハ此記事ヲ艸シ了ルニ臨ミ、ブイテンツォーク植物園長「ドクトル」トレーブ (Herrn Dr. Traub) 氏ノ予
 ニ對セル特別ノ厚遇ヲ深謝シ、次テ「ドクトル」ヤンセ (Herrn Dr. Janse) 氏「ドクトル」フハン、ロンブル
 (Herrn Dr. van Romburgh) 氏、園監ヴァイグマン (Herrn Hortulanus Wigman) 氏、シユニット (Herrn

Schmid)氏及び「ドクトル」ハリエ(Herrn Dr. Hallier)氏ニ何ツレモ其厚意ヲ謝ス

明治廿八年六月

東京ニ於テ、

(文中引用参考書)

- (1) Catalogue de la bibliothèque du jardin botanique de Buitenzorg. Deuxième édition. (Batavia 1894. 370p.) ナ見
- (2) A. F. W. Schimper, Die indomalayische Strandflora. (Jena 1891.) 中 Nipafornation ノ條ヲ參照ス
- (3) M. Frenb. Die Kosten einer Reise nach Buitenzorg. Flora, 1894, p. 497 ナ參照ス。ブイテンツォーク滯留ノ費用等ヲ細記セリ。
- (4) ブイテンツォークノ最高温度ハ却テ獨國ライプツヒ、ベルリン、奧國ヴヰーンノ下ニアリ。然レモ後者即チ歐洲各都市ニアリテハ、其ノ夏月ノ中央(七月)ノ平均温度ハブイテンツォークニ於ケルヨリモ遙ニ下レリ。是レ熱帶地方ニテハ温度ノ變化甚ダ僅少ニミテ恰ア一定ナルモ、歐洲ニ於テハ其差異甚シクレバナリ。且ツブイテンツォークニ於テハ日々ノ温度比較的ニ甚ダ高カラザルモ、空氣水濕ヲ含ムコト多ク、人体ノ蒸發ヲ防グルチ以テ甚ダ溽暑ニ苦ムヲ覺テ、(G. Haberlandt, Eine botanische Tropenreise. Leipzig, 1893. 77-78 頁ヲ見) 該書ハブイテンツォーク植物園ノ記事及ビシヤマニ全体ノ風土ヲモ寫シメレン。Festschrift, „Der botanische Garten zu Buitenzorg“ 1893 ト共ニ官シテ參照ス
- (5) F. Jansuhn. Java, seine Gestalt, Pflanzendecke und innere Bauart, nach der zweiten, verbesserten Auflage der holländischen Originals ins Deutsche übertragen von J. K. Hasskari, 3 Bd. Leipzig, 1857. 第一卷 162-163 頁ヲ參照ス。降雨期節ニ於ケルシヤマニ狀況ヲ叙スル甚ダ審ナリ。蓋シユシヤマニ書ノ記事詳悉ニシテシヤマニ關スル博物書中此著ノ右ニ出ツルモノナシ。必ズ參考スベキ價值アリ。第一卷ノ專ラ植物帶ヲ叙シ、後ノ二卷ハ地質學及ヒ火山ノ作用ニ關スル顯象ヲ載ス。トニーブ(Trenb)氏ガ彼ノ有名ナル、石松屬(*Lycopodium*)ノ原性器體(Prothalien)發生史ノ研究ノ如キ、亦ブイテンツォーク植物園ヲ爲セル人ノ知ル所ナリ。氏ノ論文ハ該園出版ノ Annals IV 1884; V 1886; V 1886; VIII 1890 ニ續載アリ。
- (7) G. Kraus, Warum der Botaniker in die Tropen muss. Abdruck aus der Festschrift zur 200 jährigen Jubelfeier der Universität Halle. Halle a. S., 1894. p. 11. Anmerkungen 10 ナ見。クラウス氏モ亦同ク之ヲ言フ。
- (8) Went, Über Haft- und Nahrungszeln bei Kletterpflanzen und Epiphyten. Annales du jardin botanique de Buitenzorg XII, 1894. 1e partie ナ參照ス
- (9) H. Schenk, Beiträge zur Biologie und Anatomie der Lianen, im Besonderen der in Brasilien einheimischen Arten.

- I und II Theil. Jena 1892-1893 千見。
- (10) P. Groom, On *Dischidia Rafflesiana* Wall, *Annals of Botany*, 1893, p. 223 ニ氏ノサイロン島カンデー植物園ニ於テ研究
 ナル結果ヲ記ス。氏ノ論文ニシテ來ル「リチラチナ」ヲ論クタルニシテ、然ルニシテ。
- (11) M. Treub, Sur le *Myrmecodia echinata* Gaudich; *Annales* III, 1883 及シテ氏ノ *Annales* recherches sur le *Myrmecodia*
 de Java (*Myrmecodia tuberosa* Becc.), *Annales* VII, 1888 千見。
- (12) Forbes, A Naturalists Wanderings in the eastern Archipelago. London 1885. 頁 81 千見。
- (13) W. Burck, Beiträge zur Kenntniss der Myrmecophyten Pflanzen und der Bedeutung der extranuptialen Nectarien, *Annales*
 du jardin botanique de Buitenzorg, X, 1891.
- (14) G. Karsten, Ueber die Mangrove-Vegetation im Malayischen Archipel, *Bibliotheca Botanica* 22, Cassel 1891.
- (15) G. Haberlandt, Ueber die Ernährung der Keimlinge und der Bedeutung des Endosperms bei viviparen Mangrovepflanzen.
Annales, XII, 1894. 1e partie.
- (16) J. R. Jungner, Anpassungen der Pflanzen an das Klima in den Gegenden der regenreichen Kamern-Gebirge, *Bot. Central-*
blatt 1891.
- (17) E. Stahl, Regenfall und Blattgestalt, ein Beitrag zur Pflanzenbiologie, *Annales* XI.
- (18) A. F. W. Schimper, Die epiphytische Vegetation Amerikas. Jena 1888.
- (19) A. F. W. Schimper, Die Gehirgswälder Javas. Forstlich-naturwissenschaftliche Zeitschrift 1898, 332 頁 千見。
- (20) G. Haberlandt, Eine botanische Tropenreise, 59 頁 千見。
- (21) K. Junguhn, Java, seine Gestalt, Pflanzendecke und innere Bauart, 258 頁 千見。樹ノ氣生根地中ニ着生シ全株ノ直径
 百尺以上ニ及スルモノヲ記ス。
- (22) F. Jager, Singapore-Malacca-Java, Berlin 1866, 130 頁 及シテ Festschrift, "Der botanische Garten zu Buitenzorg" 411 頁 千見
 。
- (23) シナ、其他栽培果實變種ノ記述 O. Kuntze, Um die Erde. 2te Aufl. Leipzig 1888 篇中處々ニ散見ス。

莊内産顯花植物

(九十八號ノ續キ)

川上瀧彌

前號正誤

9. 「ホシホラ、ケシヤグ」ト「ホシホラケ、シヤグ」25. *Citifolia* ト *C. trifolia*。37. 「シムバアケ」ト「シムバアケ」
 5. 38. Deone. ト *Deone*。67. *Moench*. ト *Moench*。89. 「メリグサマザシラギ」ト「メリグサ、アサシラギ」。95. 「ハミ

莊内産顯花植物

庄内産顯花植物

ノミツツシ「ノミツツシ」ノ誤リ

- Geraniaceae.** 110. *Geranium nepalense*, Sweet. フウロサウ 鶴岡、松嶺—111. *G. Sieboldii*, Max. タチン
ウロ 鳥海山—112. *G. yezoense*, Fr. et Sav. ハクサンフウロ、はまふらふ 月山、鳥海山—113. *Oxalis*
corniculata, L. カタハシ 松嶺—114. *O. obtriangulata*, Max. オホヤマカタハシ 松嶺、升田、羽黒
山—115. *Impatiens Noli-tangere*, L. キトリフチ 松嶺、福山—116. *I. Textori*, Mg. ツリフチサウ
升田
- Rutaceae.** 117. *Zanthoxylum piperitum*, DC. サンセウ 松嶺—118. *Z. schinitifolium*, S. Z. イネザンセ
ウ、ヤンサンセウ(方言) 三崎山—119. *Oriza japonica*, Th. コクサギ 観音寺—120. *Phellodendron amurense*,
Rupr. キンダ 鬼坂峠—121. *Skimmia japonica*, Th. シヤマシキミ、シキヨ(方言) 鳥海山、松嶺
- Simarubaceae.** 122. *Pierasma ailanthoides*, Planch. ニガキ 松嶺、観音寺
- Uicineae.** 123. *Plex crenata*, Th. イヌツゲ、ツツ(方言) 鶴岡、観音寺—124. *I. macropoda*, Mg. マルバウメ
ホドキ、アヲハダ 松嶺—125. *I. rugosa*, Fr. *Sclm.* ツルツゲ 月山、鳥海山—126. *I. Sieboldii*, Mg. ウ
メモドキ、ウメボトク(方言) 松嶺—127. *I. Sugerokii*, Max. クロンヨゴ、あかみのしぬつげ 月山、鳥海
山—128. *I. sp.* (ミツツク、モウセンゴケ等多キ濕地ニ生スル灌木ニシテ予ノ腊葉花ヲ缺ク或ハ曰ク新種ナルニシテ尙後日ノ檢定ヲ待タシ) 岩野、市野山
- Celastrineae.** 129. *Evonymus europaea*, L. var. *Hamiltoniana*, Max. ヤトニ 小國、観音寺—130. *E. oxy-*
phylla, Mg. ツリバナ 田川—131. *E. Thunbergiana*, Bz. ミミキン、ミミキ(方言) 松嶺—132. var.
subtriflora, Fr. et Sav. コヤトニ、ヤトニ(方言) 松嶺—133. *Celastrus articulata*, Th. ツルウメ、モドキ、

ハシト(方言) 松嶺—134. *Tripterygium Wilfordi*, *Hook. f.* クロツル 鳥海山、月山

Rhamnaceae. 135. *Berchemia paniciflora*, *Max.* ニヤンマヤナギ 月山—136. *B. racemosa*, *S. Z.* ニヤナギ、キョウウツン(方言) 松嶺、黒川—137. *Rhamnus crenata*, *S. Z.* イノノキ 松嶺、市野山、森片—138. *R. japonica*, *Max.* クロウメモドキ 松嶺、三瀬、鳥海山—139. *Hovenia dulcis*, *Th.* ケンボナミ 松嶺

Ampelidaceae. 140. *Vitis Coignetiae*, *Pulliat.* ヤブヱウ 杉澤、鳥海山、湯殿山(大)—141. *V. heterophylla*, *Th.* ノブダウ、キヨブダウ、サ
ルブダウ(方言) 松嶺—142. *V. inconstans*, *Miq.* シタ 小泉—143. *V. parvifolia*, *Borb.* キヤウシヤノミヅ、サナシホ(方言) 松嶺—144. *V. pentaphylla*, *Th.* コンボウカヅラ 松嶺—145. *V. Thunbergii*, *S. Z.* エゴツル、ヤブダマ(方言) 松嶺

Sapindaceae. 146. *Aesculus turbinata*, *Blume.* トチノキ 松嶺—147. *Acer capillipes*, *Max.* コネカクヅ 鳥海山—148. *A. cissifolium*, *C. Koch.* ミンヅカクヅ 松嶺—149. *A. japonicum*, *Th.* タイゲツカクヅ 松嶺—150. *A. palmatum*, *Th.* ホミチ 観音寺、松嶺、湯殿山—151. *A. parviflorum*, *Fr. et Sav.* テシカクヅ 湯殿山—152. *A. pictum*, *Th.* ミタモミチ、イヌキヤ(方言) 松嶺、吹浦—153. *A. ruberwe*, *S. Z.* ウリンダカクヅ 松嶺—154. *A. tataricum*, *L. var. Ginnala*, *Max.* カラロギカクヅ 竹田、観音寺—155. *A. Tschonoskii*, *Max.* コネカクヅ 月山、鳥海山—156. *Staphylea binnalda*, *S. Z.* ミンハンギ、マツキナ(方言) 松嶺

Sabiaceae. 157. *Meliosma myriantha*, *S. Z.* アヲノキ 鳥海山、松嶺

Anacardiaceae. 158. *Rhus semi-alata*, *Murr. var. Osbeckii*, *DC.* ノミノキ 松嶺—159. *R. Toxicodendron*,

L. var. radicans, Mig. ッタウルシ 觀音寺—160. *R. trichocarpa*, Mig. ヤマウルシ 松嶺
Coriariae. 161. *Coriaria Japonica*, A. Gray. ドクウツギ、カハラアミ(方言) 坂本 (未完)

◎ 雜 錄

○ 赤松ノ雌花ト雄花トノ Replace-

ment ニ就テ附松柏科植物ノ果實

ノ姿勢ニ就テ(去月ノ植物學會ニ於テ藤井健二郎氏ノ講話セラレタル大要)

氏ノ觀察并ニ長枝切斷實驗ノ結果ニ就キ其概略ヲ述ベ
ラレ左ノ如ク結論セラレタリ

(1) 松屬ノ短枝 (Kurztrieb) ノ伸長シテ長枝 (Lang-

trieb) トナルハSてふニ於ケルト略等シク其原因概

テ長枝ノ被害ニアリ又如此短枝ノ長枝ニ變ジタルモ

ノハ尋常ノ長枝ト等シク其鱗狀葉ノ葉腋即チ短枝ヲ

生ズベキ位置ニ於テ雌花若シクハ雄花ヲ生ズルノ能

ヲ有ス故ニ短枝ノ伸長シテ長枝トナレルモノハ形態

學上ニテモ生理學上ニテモ尋常ノ長枝ト異ナルヲナ

クシテ多數ノ場合ニ於テハ害セラレタル長枝ヲ代理

スルモノナリ

(2) 赤松ニ於テハ雄花ト雌花トハ形態學上ノ位置ニ由テ

限ラレタルモノニアラズ

(3) 赤松ニ於テ見ルニ一ツノ花ガ雌花トナルベキカ雄花

トナルベキカハ其發育ノ或ル時期迄ハ確定サレタル

モノニアラズ

(4) 全ジク赤松ニ於テ見ルニ花ノ發育中或ル時期ニ於テ

或ハ或ル時期ニ達スル迄ニ人工ヲ以テ其局部ニ多量

ノ養料ヲ導クキハ尋常ナレバ雄花トナルベキ花ヲ一

花中一部或ハ全部雌花トナスヲ得

(5) 花ノ雌雄ハ養料ノ多寡ニ由テ決スベシト云フハ植

物界一般ノ理法ナルヤ否ハ直チニ斷言シ難シ多分各

植物ノ生計ニ依テ多少異ナルベシ

(6) 赤松ニ三葉ノ短枝ヲ局部ニ多ク生ズルヲアルハ秋期

生長止ミツ、アル片或ハ他ノ事情ニヨリテ生長ヲ止
メラルニ際シ急ニ養料ヲ増加スル片ニアルガ如シ而
ノ其三葉ノ長サハ一般ニ尋常ノ短枝ニ於ケルヨリモ
短シ又此三葉ノ短枝ハ短枝ト長枝ノ中間態ノ一ニシ
テ往々四葉ノ短枝或ハ兩態ノ中間ニ位スル他ノ形ヲ
生ズルコアリ

(7) 松柏科植物果實ノ種々ノ姿勢ハ全ク種子ノ脱落散布
ニ適應スルモノナルベシ

○日本土馬騮類畧述

大久保三郎

植物ニ大小アリ醜美アリ大必ズ美ナルニアラズ小必ズ
醜ナルニ非ズ遠ク之ヲ望メバ佳麗ナルモ近ヅケバ臭氣
紛々タルモアラン一見何ノ可觀之處ナキモ親ク之ニ接
シ具ニ視察セバ微妙ニシテ愛スベキモノアラン
土馬騮類ハ大概小ニ且草木ノ如キ美麗ノ花ヲ有スル
ナク又馥郁タル香氣ヲ發スルコトモナケレバ常人ハ尙更

植物ヲ採集スル人々ニ在リテモ「うゝ、こけかこけナ
ザー」ト宛然塵芥カナヅノ様ニ思フモアラン又人ニ依
ルトこけガ何ノ益ニ立ツト直接ニ利益ナキモノハ無用
視スルコト無キニアラズ蓋シこけノ爲メニハ生活ノ自由
ヲ妨害サレザルヲ以テ幸福ナランカ採リ來リテ仔細ニ
點檢セバ樂亦其中ニ在アラン、小ナリトイフテ放念ス
ルハ惜キモノナラズヤ、現今世界中ニ知ラレタル土馬
騮類ハ一萬ヲ起ユ本邦ニハ幾許ノ種類アルヤ未詳ナレ
ル大ニ富ムモノ、如シ分類家タル者ノ宜シク注意スベ
キナリ此迄本邦產土馬騮類ヲ調査セシ者ナキニアラズ
近クハ英ニ Mitten アリ佛ニ Becherelle アリ各其考
究視察セシ處ノモノヲ公ニセリ本邦亦其人ナキニアラ
ズ曩ニ理學士白井光太郎氏ハ東京產土馬騮類ニ就キ論
文ヲ作ラレタリ記事ハ大學ニアリ未ダ其出版ナキヲ遺
憾トス

余生來土馬騮類ヲ愛シ大ニ之レヲ調ベント欲ス然レモ
參考書ニ乏シク其意ヲ達スル能ハズ唯々僅少ノ書籍ニ

ヨリ且僅ニ實見セル處ヲ記シ諸氏ノ訂正ヲ乞ハントス
記事ノ順序ノ如キハ甚不定ナリ再三同種ニ就キ述ブル
「モアルベシコレ只心ニ浮ビシニ從ヒ記セント欲スレ
バナリ

語解 葉背ニ龍骨狀ノモノアリ或ハ葉背ハ龍骨狀ヲ
ナスト」ハ葉背ノ脈凸起シテ龍骨狀ヲ呈スルヲ云ナ
リ、芽胞ト稱スル粉粒ヲ包藏セル機關ヲ蒴ト稱ス、
蒴ニ蓋アルアリナキモアリ蓋ノ頭若クハ蒴ヲ覆フ物
アリ之レヲ帽トイフ帽ノ一方深ク縱裂セルアリ如此
ヲ僧帽狀トイフ而シテ一方ニ深縱裂ナクシテ圓錐形
ヲ成スヲ圓錐形僧帽狀トイフ蒴熟クスレバ帽去リ蓋
脫シ蒴口縁ニ四個又ハ十六個或ハ三十二個若クハ六
十四個ノ齒狀ノ物アルアリ名ケテ壺齒トイフ、網眼
トハ脈等ノ網狀ヲナス網ノ眼ヲイフ、「ラメラ」トハ
葉面ニ縱列ヲナス板狀ノヒダヲイフ、「バラフヒシ
ス」トハ生殖器ニ伴フ絲狀體ヲイフ此他特別ナルハ
其時ニ當リ解説セン顯花植物ニ使用セルト同意義モ

ノハ大畧解説ヲ省略ス

すぎこけ科

すぎこけノ科ニ屬スルこけ類ハ蒴ノ口縁ニ短キ丈夫ナ
ル舌狀ノ内曲セル壺齒アリ其數三十二若クハ六十四罕
ニ十六個ヲ有ス其脚部狹ク緻密ニ合着ス、こけノ類ニ
依リテハ濕燥ニヨリテ壺齒ノ屈曲スルモノアレハ本科
ニ屬スル品中ニハ如此性質アル「ナキナリ蒴口ニ膜ヲ
以テ張レル」鼓ノ皮ノ如シ本邦ニハ本科ニ屬スルモノ
四屬アリ即チ左記ノ如シ

第一 Atrichum 屬 第二 Oligotrichum 屬

第三 Pogonatum 屬 第四 Polytichum 屬

以上四屬ノ特徴ヲ簡易ニ記スレバ

(一) 蒴無角カド

帽ノ頂部ノミ粗造 アトリタクム

帽ヤ、大ニ毛至テ少ナシ本邦産ノ品ハ

小帽小ニシテ平滑ナリ オリゴトリタクム

帽ニ長毛多々密生ス ポゴナートム

(二) 蒴四角罕六角帽ニ長毛多々密生ス ポリトリクム

第一 *Atrichum*

本屬植物ハ蒴生セルアリ集生セルアリ葉 葉ノ脚部
鞘狀ヲナサズ舌狀ニシテ多少波狀ヲ呈ス、乾燥セバ
捲縮ス葉邊狹ク縁リヲ取り銳鋸齒アリ、狹肋マルミ
アリ、表面ノ「ラメラ」僅少ナリ、上部網眼ハ六邊形ヲ
ナス、花 雌雄同株ニアルアリ株ヲ異ニセルアリ、雄
花ハコップ狀ヲ呈ス、帽ノ頭部ニハ小棘ヲ有ス、蒴
圓筒形或ハ長橢圓殆ンド直立、又垂下若クハ弓形、
蒴柄長シ、蓋ハ基脚凸圓ニシテ中央部漸次伸長シ細
長キ嘴狀ヲナス、壺齒三十二個口邊ニ一列ニ排置ス、
短小、鈍頭、内曲シ且其頂端ハ「コルメラ」ト稱スル
蒴内ニ存スル中軸ノ盤狀ヲナセル頭部ノ邊縁ニ附着
ス屬名ノ語原ハ希臘ノ「欠乏」及ビ「毛」ノ二
語ヨリ成ル即チ帽ニ毛ノナキノ隱語ナリ本邦ニ三種一變種
アリ

(ア) 雌雄同株

(一) *A. undulatum*, Beauv. 雌花ハ雄花中ヲ岫出セシ軸

ノ頂端ニ生ズ、葉面ノ「ラメラ」狹ニシテ乃至四個ヲ有
ス。

產地森中、東京、日光、富士、伊香、札幌、青森近傍、
七戸、北海道ノ森及小港(ベシユレル氏ハ日本ノ北小
港(ホリエー氏採集)トアリ蓋シ陸奥ノ小港ナラン)
等ニ産ストイフ

var. *gracillisetum*, Besch. 「アラシセツム」トハ細長
キ芽胞囊柄ノ意義ナリ

莖ハ殆ンド二仙、迷、無枝、葉原種ヨリ短且狹ナリ明
治十八年十月佛人 Faurie 氏始メテ青森近傍ニ之レ
ヲ採集ス

(イ) 雌雄異株

(二) *A. angustatum*, Schimp. 「アングスターナム」
トンはをキノ意義

第一種ヨリ織シ葉亦狹ナリ鋸齒葉ノ中央ノミニアリ
「ラメラ」ノ數亦多ク幅亦廣ナリ

附言 此種ハ Mitten 氏ハ Transaction of Linnean Society, Vol. III. part 3 ニ日本産土馬騷類ヲ記

セシ中ニアリ然レモ產地ヲ載セズ只第一種ノほとば

ノ狀體ノモノナルベシト記ス

(三) *A. crispulum*, Sch. 「クリスプアルム」トハ「少シク捲縮スル」ノ意義 雌ノ莖ハ無

枝三乃至五仙、迷長、雄株ハ有枝ナリ、莖葉ハ乾燥ス

ルモ捲縮セズ内曲シ少シク縮ミアリ最頂ハ最モ長ク舌

狀ナリ他ハ波狀ヲナシ頂端鈍頭ニ漸尖ス背ニ棘アリ基

脚ノ他ハ鋸齒アリ「ラメラ」五條アリ、横須賀近傍ニア

リト東京ニモ此種ナラント思フ品アリ

Oligotrichum.

莖ハ無枝、地下ハ匍枝ヲ生ズ葉ハ伸長セル且線形披針

形ニシテ邊緣内曲、鋸齒マバラナリ雌雄異株雄花「バ

ラフヒシス」半ハ絲狀半ハ篋形、帽ニ直毛粗生ス、蒴、

直立、圓筒狀屬名「ガリゴトリクム」ハ「寡」及「毛」ノ二語ヨリ成リ即チ帽ノ毛ノ寡少ナルヲ示ス

O. Lescuriei, Mitten 本種ハ日光男體山ニ産ストイフ

ミツテン氏曰「一ノ分明ナル種類ニシテ葉ニ鋭キ鋸齒

ヲ有ス而シテ左右ノ基脚ノ鋸齒ハ毛化ス、蒴空トナリシ

時キハ倒圓錐形トナル、帽ハ小、平滑、光澤アリ「ア

トリクム」ノ何レノ種類ニモ似タル處ナシ」ト果ト此

屬ノモノカ James 氏ハ之レヲ *Atrichum* 屬中ニオキ
A. Lescuriei ト稱ス (ツツク)

○繇條書屋植物雜記 (其十七)

牧野富太郎

●外國產 *Myrica* 屬ノ一種

帝國大學植物園中やまも、屬ノ外國產一樹アリ傳ヘテ

以テ *Myrica Gale* Linn. ト爲ス然レ是非ナリ而シテ

正當ナル學名ヲ *Myrica cerifera* Linn. ト云フ *Myrica*

carolinensis Mill.; *M. pennsylvanica* Hort. ノ異名ア

リ北米ノ産ナリ俗稱ニ便センガ爲メニ今之ヲしろこや

まも、ト呼ブ

●「スタチセ、アラタビカ」

同園ノ裏一草アリ先キニ外國ヨリ來リ「スタチセ、ア

ラタビカ」ノ名ヲ以テ之ヲ呼ブ予ハ百方諸書ヲ搜索ス

ルモ其種ヲ見出スルコト能ハズ從フテ其綴字ヲ得ルニ

苦ミシガ頃日漸ク之ヲ E. Regel 氏著 *Descriptions*

Plantarum novarum et minus cognitarum, Fasc. V. p. 43. ニ於テ見ルヲ得タリ即チ *Statice alatavica Regel et Schmalh.* ニシテ亞細亞洲中、土耳其斯坦國「アラタウ」山ノ産ニ係リ始メ、A. Regel 氏ノ採集セル所ノモノナリ

● E. Regel 氏ノ考定セルひめゆりノ學名

E. Regel 氏ひめゆり諸品ノ學名ヲ查定スル左ノ如シ
(E. Regel Deser. pl. nov. et minus cognit. V. p. 45.)

Lilium concolor Salisb.

a. *typicum* Regel. (= *L. concolor* auct.; *L. sinicum* Lindl.; *L. concolor* var. *sinica* Bot. mag.) 日本産

β. *pulchellum* Regel. (= *L. pulchellum* Fisch. et Lallern.; *L. Buschianum* Lodd.; *L. concolor* *Buschianum* Baker; *L. concolor pulchellum* Baker.) 「ダノリア」并ニ滿州産
γ. *parthenoneion* Regel. (= *L. parthenoneion* Sieb.

et de Vriese.) 栽培品

δ. *Coridion* Regel. (= *L. Coridion* Sieb. et Desf. Vr.) 栽培品

ε. *Intennum* Regel. (= *L. concolor intennum* Maxim.; *L. concolor pulchellum flaviflorum* Baker.)

支那并ニ日本産

● ながばめぎ (新稱)

ながばめぎハ新稱ナリ其學名ヲ *Barbeteris sinensis*

Desf. ト云フ曾テ帝國大學植物園ニ在リシト雖モ其株今枯レテ痕ナシ本邦中何州ヨリ之ヲ此ニ移植セシカ今其傳ヲ亡失セリ其狀めぎニ酷似ス然モ葉長ク頭末尖リテ葉縁往々一二ノ刺齒アリ枝上ノ刺針亦深ク三又ヲ成ス種中數變種アリ本品恐クハ其變種 β. *angustifolia* Regel. ナラン此變種ハ即チ滿州及ビ支那北部ニ産スル所ノモノナリ

● ひめうさくち (新稱)

ひめうさくちハ新稱ニシテ本邦「フロラ」ノ新品ナリ客年

十月始メテ之ヲ城州京都ノ近地ニ得タリ植體細微ニ
 本邦産うさくさ屬諸種中ノ最小者タリ採地ヨリ之ヲ東
 京ニ移シ來リ大學并ニ植物園ニ於テ擁護中遂ニ其生本
 ヲ散逸枯死セシメ未ダ驗考ヲ遂グルニ及バズ此ニ鳥
 有トナスノ不幸ヲ招致セリ故ニ其學名未詳ナリ *Lemna*
perpusilla Torr. ニ類似ノ品ナリ

● わとうさくさノ學名

わとうさくさハ池沼溝瀆普通ノうさくさニノ東西南北
 到ル處水面ニ浮游シ風ノ送ルニ信セテ定駐ナシ此者即
 チ *Lemna paucicostata* Hegelm. ナリ根基ニ鞆アル根
 帽ノ尖レル又葉狀體ノ左右等形ナラザル等直ニ之ヲ
Lemna minor Linn. ト辨別スルヲ得可シ *Lemna minor*
Linn. 亦或ハ本邦ニ之レ有ランこうさくさ(新稱)ト稱
 ス

● 日本産うさくさ科諸種

本邦産ノうさくさ科ニ五種ヲ含ム就中 *Lemna minor*
Linn. ハ果ノ本邦ニ産スルヤ否ヤ追考ヲ要ス可キ品種

ナリ

- (1) *Lemna trisulca* Linn. ひんじも (2) *Lemna paucicostata* Hegelm. わさくさ (3) *Lemna minor* Linn. こうさくさ (新稱) (4) *Lemna* sp. ひめうさくさ (新稱) (5) *Spirodela polyrrhiza* Schleid. (= *Lemna polyrrhiza* Linn.) うさくさ 一名カシみぐさ

● 日本産 *Torilis* 屬并ニ *Caucalis* 屬

Torilis 屬ニ屬セル本邦植物一種アリ又 *Caucalis* 屬ニ
 一種アリテ兩者ノ形貌頗ル能ク相肖タリ然レ亦之ヲ識
 別ス可キノ要點アリテ吾人ハ今此兩者ヲ單ニ一種ナリ
 ト藐視スルコトナシ今其主要ナル異徴ヲ擧グレバ左ノ如
 シ

(1) *Caucalis scabra* Makino (= *Torilis scabra* DC.?)

おやぶじらみ 其果面ノ第二春ハ剛刺ヲ成シ總織
 梗ハ二―五數ナリ果實ノ長サ約ソハ「ミリメート
 ル」ヲ算ス

(2) *Torilis Anthriscus* Gmel. (= *Camcealis japonica*

Houtt.) やぶじらみ 其果面總テ多クノ小刺ヲ斗

出シ總繖梗五―九數ナリ果實ノ長サ約ソ四「ミリ

メートル」ヲ算ス

右ハ只其主要ナル區別ノ徵ナリト雖モ尙其他ノ異點ヲ

舉グレバおやふじらみノ花ハ紅采ヲ其花瓣ニ帶ビ果實

亦往々紅染ス葉ハやぶじらみヨリ分裂細カニ總繖梗下

ニ總苞無キモノ多シやぶじらみハ之ニ反シテ必ず總苞

ヲ具ヘ瓣色白クノ果實決ノ紅染セズ此兩品共ニ郊外ノ

普通品ナリ

●卷鬚ナキやはすゑんだう

やはすゑんだう通常葉末卷鬚ヲ成ス然モ葉末亦卷鬚ニ

變ゼザルノアリテ原頭ニ之ヲ見ル稀ナラズ始メ土佐ニ

在テ同好ノ士井上虎馬氏之ヲ予ニ告グ是レ吾人ノ此ニ

注意セシ始メナリ予ハ先キニ之レガ學名ヲ新定シ之ヲ

公ニセリ曰ク *Vicia sativa* Linn. var. *normalis* Mak-

ino (本誌第六十號) ト今呼ンデつるなしやはすゑんだ

ウ (新稱) ト云フ

●くもらん東京近地ニ自生ス

くもらんは蜘蛛蘭ノ意ナリ根ヲ樹身ニ張リテ粘附スル

ノ狀宛モ蜘蛛ノ肢ヲ擴ゲテ坐スルガ如シ故ニ此ニ此名

ヲ得タリ無葉氣生ノ蘭本邦唯此一種アルノミ到底凡庸

ノ品ニ非ザルナリ然モ花ノ觀ル可キナク葉ノ賞ス可キ

ナシ暗テ以テ此ノ如ク唱道スルモノハ是レ唯植物家者

流ノミ此品本邦西南暖地ノ産ナリ而シテ今之ヲ東京ノ近

地ニ採ル殊ニ之ヲ同好ノ士ニ報ズルノ價アリ學名ヲ

Cryptorchis aphylla Makino. ト云フ本邦新屬ノ蘭品ニ

屬ス

○粘液ハ植物生活上如何ナル効用

アルヤ 安 田 篤

此篇ハ A. J. Schilling 氏ノ論述ニ係ル者ニシテ余

ノ摘譯セル者ナリ詳細ハ Flora 7—78 Band,

1894 ヲ御覽アレ

粘液 (Schleim) ハ水草ノ生活ニ取テ如何ナル効用アルヤヲ論ズルニ至リシハ實ニ近來ノコナリスタール氏ハ其用ヲ説明シテ曰ク粘液ハ植物ノ嫩部ノ動物ノ爲ニ攻撃セラル、ヲ保護スル者ナリトゲーベル氏ハ此說ヲ駁シ凡ツ粘液ナル者ハ外部ニアル水ヲ頗ル徐々ニ植物ノ内部ニ浸入セシムル働ヲ有スルト云ヒ氏ハ其植物生活論ノ一節中ニ說テ曰ク粘液ハ食鹽液及ビ有色液ニ甚緩慢ニ浸入セシムル者ナリト終リニ臨ンデ氏ハ凡テ水草ノ嫩部ニアル粘液ハ嫩部ノ水ニ直接ニ觸ル、ヲ防グ者ナリト結論セリ其後シエンク氏ハ此說ニ反對シスタール氏ノ粘液ヲ動物ノ攻撃及ビ下等植物ノ圍繞ニ對スル防禦ノ具ナリト考フル說ニ左袒セリ

今此兩說ヲ判斷スルニハ粘液形成ノ配布及ビ其顯出ノ有様ヲ研究スルノ必要ヲ見ル而シテ此等研究ノ結果ニ由テ考レバ多數ノ植物ノ粘液ハゲーベル氏ノ說ノ如ク水ヲシテ頗ル徐々ニ浸入セシメ且嫩部ノ直接ニ水ニ觸ル、ヲ防グ具トナリ然リ而シテ比較的少數ノ植物ノミ

ガ其粘液ノ或ハスタール氏ノ說ノ如ク動物ノ攻撃及ビ下等植物ノ圍繞ヲ防グ具タルヤヲ疑ハシムルヲ以テ觀レバ蓋シゲーベル氏ノ說ハ眞ニ近クスタール氏ノ說ハ粘液ノ主効ヲ説明スルニ足ラズシテ寧ロ其副効ヲ顯ハセル者ト謂フベシ例ヘバ蓴菜亞科中ニ芽中ニ閉デラレタル葉ノ粘液ニテ被ハレタル者ガ花ノ開ク際ニモ猶依然舊式ヲ改メザル者アリ此場合ニハ粘液ハ動物ノ攻撃若クハ藻類ノ附着ヲ防グ者ナリト考フルコトヲ得ベシ又 Utricularien 亞科及ビ Myriophyten 亞科ニ屬スル水草ニテハ通常ノ場合ニハ其嫩葉及ビ花ヲ保護スル具ヲ生ズルコトナケレモ其冬芽ハ表面ニ粘液層ノ被物ヲ生ズ是モ動物ノ攻撃或ハ藻類ノ圍繞ヲ避ル用ヲ爲スヤ疑ナシ以上ハスタール氏ノ說ヲ助クルニ足ル事實ナレモ其少數ナルヲ如何セン之ニ反シテ氏ノ說ヲ駁スルニ足ルベキ事實數多アリ例ヘバ睡蓮科ニ於ル托葉ノ發達、毛長科及ビ龍膽科ニ於ル葉底ノ莖ヲ圍繞セル鞘、蓼科ニ於ケル鞘狀ヲ爲セル葉柄及ビ托葉ヲ見レバ一見人ヲシテ

嫩部ヲ保護シ以テ動物ノ攻撃若クハ藻類ノ附着ニ具フル手段タルヲ知ラシム然レモ是等ノ場合ニハ此目的ヲ達スル爲ニ粘液ハ毫モ其用ヲ爲サルナリ又粘液ハ一般ニ葉等ノ開キテ水ノ交通ヲ許スニ至レバ漸ク消失スル者ナリ之ヲ實驗スルニハ *Limnethamnium nymphaeoides* (あぢぢノ類)、*Potamogeton natans* (びもノ類)、*Vallisneria spiralis* (せぢしやうも) ヲ最良トス是等ハ藻類ニ由テ附着セラレ得ベキ發育ノ程度ニ達スレバ其嫩葉及ビ蕾ハ最早粘液ノ被物ヲ有セザルナリ右ノ實證ヨリ觀レバ粘液ノ用ヲ動物ノ攻撃及ビ藻類ノ圍繞ヲ防禦スルノ具ナリトスルノ說ハ當ニ其副効ヲ顯ハセルコト蓋シ明白ナルベシ加之是等間接ノ事實ノミニ依ラズ直接ノ事實ヨリモ吾輩ノ說ノ誤ラザルヲ證明スルニ足ルベキ者アリ余ハ嘗テ *Elodea canadensis* ノ冬芽ヲ檢セシニ其外部ハ粘液ヲ以テ被ハレタルニモ關ラズ其中ニ閉込メラレタル生長點ガ屢小動物ノ爲ニ蝕盡セラレシヲ見タリ *Pacificus* 氏モ之ニ頗ル類似シタル

觀察ヲ *Zuphar advena* ニ於テ爲セシガ此植物ハ其未ダ開カザル嫩葉中ニ無數ノ *Anguillula* (萎葉線虫類) ヲ宿シタリキ凡ソ植物ノ嫩部ガ藻類ノ爲ニ犯サル、キハ設合粘液ノ形成アルモ殆ト之ヲ防グコト能ハザルナリ之ヲ事實ニ徴スルニライシク及ビメルケル兩氏ノ說ク所ニ由レバ *Gunnera macrophylla* ノ莖ニアル粘液中ノ細溝ハ *Nostoc Gunnerae* ト名クル藻類ノ爲ニ恰モ網ヲ張リシガ如キ觀ヲ呈シ之ト同ジク *Nostoc Azollae* ト名クル藻類ハ *Azolla caroliniana* 及ビ *A. filiculoides* ノ粘液細溝中ニ其居ヲ占メタルヲ見タリト云又粘液ハ細胞面ニ上皮ノ生ジテ充分水ノ浸入ヲ防グニ足ル時分マデ植物ノ嫩部ヲシテ直接ニ水ニ觸レシメザル用ヲ爲ストノ說ハデーベル氏ノ爲シタル許多ノ實驗ニ由テ確メラル、ナリ

余ハ以上ノ問題ヲ確實ニセンガ爲ニ實驗スベキ水草ヲ入ル、液體ヲ撰ブニ其粘液中ニ入込ムコトヲ目撃シ得ベキ成分ノ者ヲ以テセリ語ヲ換ヘテ言ヘバ先ヅ液中ニ色

素ヲ加ヘ此有色液ガ能ク粘液中ニ貯藏セラル、方法ヲ用キシナリ此用ヲ爲ス者ハめちる青ノ水液ヲ最良トス而シテ *Limnanthemum nymphaeoides* ノ芽ヲ酒精中ニ保存シタル者ハ甚善キ試験材料ナリトス

余ハ其他種々ノ實驗ヲ爲セシガ其結果ヲ見レバ一般ニ植物ノ嫩部ヲ被ヘル粘液ハ芽ノ内部ニ水ノ浸入スルヲ防禦スル者ニシテ之ヲ以テ直接ニ水ニ觸レシメザルヲ目的トセリ凡ソ水中植物ハ陸上植物ヨリモ薄キ上皮ヲ被ムレルコトハ何人モ知レル事實ナルガ此上皮ノ發達ト粘液トノ間ニハ互ニ密接ノ關係ヲ有スルガ如シ即チ植物ノ嫩部ハ表皮ノ發達ガ進ミ若組織中ニ水ノ浸入スルヲ防ギ得ベキ比マデハ粘液ニ由テ圍繞セラル、ヲ見テ知ルベシ又軟材ヲ有スル植物例ヘバ「ヒョんざい」「ゑどのみづたで」、「あざ」ノ一種ニテハ若キ器官ガ殆ト發達シ終ルマデハ粘液ノ被物ヲ有ス之ニ反シテ堅材ヲ有スル植物例ヘバ「あまも」、「びびも」ノ一種、及ビ *Victoria Regia* ニ於テハ粘液ハ頗ル早時期ニ既ニ其跡

ヲ滅ス茲ニ一ノ面白キ例アリソハ「はす」ニシテ其葉ハ表皮細胞ノ外面ニアル上皮ノ生ズルヤ其甚嫩キ時ニ於テスルヲ以テ粘液層ヲ全ク欠クモ水ノ浸入ヲ許サルナリ是ヲ以テ之ヲ觀レバデーベル氏ノ説ノ如ク粘液ナル者ハ植物ノ表皮組織ガ充分發達シテ最早之ヲ要セザルニ至ルマデ其嫩部ヲ保護スルヲ目的トスルヤ疑ナキナリ

○まつの卵球

大久保三郎

裸子植物中ノをまつ、めまつノ卵球及ビ雌性器アルケゴニウムノ頸部等ヲ觀察スルハ地方ニモヨルベケレモ五六月ヲ好時節トス新鮮ノ松毬ヲ固定藥即チ「フレーミング」液若クハ無水亞爾簡保兒等ヲ使用セズ直チニ實驗セント欲セバ水ノミニテハ卵球ナガル、ノ恐レアリ且頸部不明ナレバ宜シク鶏卵ノ蛋白(みろ)ニ水ヲ交ヘ稀薄トセシモノヲ用ユベシコレニ樟腦ヲ加ヘバ尙久シク保存スルヲ得ベシ

○落葉集第六編

野村彦太郎

どくづたハ我國(英國ヲ云フ)ニ産シ森林ノ近傍ニハ殊ニ蕃茂シ人ノ之ニ觸ル、キハ其毒ニ感染スルノミナラス其氣ニ觸ル、モ其毒ニ感染セリ尤モ此毒ニ感染スルニ難易アツテ人ニヨツテハ之ニ觸ル、モ全ク之ニ感染セザルモノアリ故ニ此種ノ植物ニ接スルニ當テ其毒ノ多少ヲ識別スルヲ最モ必要ナリ予ノ知ル所ヲ以テスレハ我國ノどくづた (Poison vine) ニハ葉ノ三裂以上ヲ有スルモノナク總テ其葉ノ四裂若クハ五裂ノモノハ其害ナシ其二裂ノモノハ最モ有害ニシテ此種ヲ呼フニ Poison ivy 若クハ Poison oak 若クハ Poison Sumac 等ノ俗語ヲ以テセリ、コレ所謂ル Rhus toxicodendron ナリ其毒最モ激裂ニシテ往々人ノ身體ニ小疹ヲ發ス此治療法トシテ最モ普通ニ行ル、最良法ハ其毒ノ皮膚ニ顯ル、當初ニ刷毛ヲ以テ罹害ノ部分ニ俗ニ所謂ルぼつたす石鹼ナルモノ、濃沫ヲ厚ク塗抹シテ其滿面ヲ被包セル儘ニテ大氣ニ曝シ終始其部分ヲ乾涸セザルヤウ

ニナスキハ通例二十四時間ヲ經レハ其毒ヲ去ルヘント (Gardeners' Chronicle, Oct. 24, 1891.)

余此頃小石川植物園ヨリつたるるしノ健全葉ヲ採集シ之ヲ横斷シテ顯微鏡下ニ照セシニ其中ニ Micrococci 游泳スルヲ見タリ蓋シ此レ或ハ Grove 氏ノ微菌書ニ載スル *M. toxicatus*, Burrill. ナラン歟余ハ固ヨリ微菌ニ疎ケレハ左ニ其顛末ヲ記シテ其當否如何ノ如キハ看官諸君ノ判定ニ任スノミ

M. toxicatus 其細胞ハ粒狀ニシテ一個或ハ對數ヲナシ或ハ連鎖狀ヲナシ直徑五 μ ニシテ其運動ハ顫動ナリ此種ハ一種ノ激毒ヲ有スルつたるる^{ナスシレシヨ}ニ存ス之ヲ人體ノ皮膚ニ移スキハ直ニ蕃殖シ汗腺ヨリ皮中ニ侵入シ世人ノ熟知スル炎症ヲ發スト

◎最近研究彙報

植物解剖學、生理學、生計學、形狀學ノ部
Behm, Moritz びやくだん科ノ解剖的特徵一斑 (Bot.

- Centralb. LXII, 3-4.)
 Gain, Edmond 水ノ植物榮養上ニ於ケル生理的作用
 (Ann. Sc. nat. Tome XX, Nos. 1, 2, 3.)
 Hanusek, F. F. 「ローマ」ノ平等的并ニ多胚的種子ニ
 就テ (Ber. d. dents. Ges. XIII, 3)
 Jost, Ludwig 葉ガ其同化作用ニ應ズルニ就テ (Jahr.
 f. wiss. Bot. XXVII, 3.)
 Koch, Ludwig もらびんたスノ根端ノ造構并ニ生長
 (同)
 Nestler, A. 蘇鐵羽狀葉解剖一斑(同)
 Olmanns, F. 花ノ開閉ニ就テ (Bot. Zeit. 53, II.)
 Pfeffer, W. 根端ノ生長ノ correlative Beschleunigung
 ニ就テ (Jahr. f. wiss. Bot. XXVII, 3.)
 Rikli, Martin. 莎草科ノ比較解剖一斑殊ニ「ニンニキ
 ヲ」ノ内鞘ニ就テ (Jahr. f. wiss. Bot. XXVII, 4.)
 Rimbach, A. 熱帶アンデス地方鱗莖植物ノ年期 (Ber.
 d. Dents. Bot. Ges.)
 Schenck, H. 不正纏繞莖ニ於ケル分離作用ニ就キ
 (Jahr. f. wiss. Bot. XXVII, 4.)
 Zenetti, Paul せんやス莖ノ誘導系并ニ其葉柄ニ移ル
 ト (Bot. Zeit. 52, III.)
 Zopf, W. (カリチン)ノ顯微鏡的ニ使用シ得ンキ新反
 應ニ就テ (Zeits. f. wiss. Mikroskopie XI, 4.)
 隱花植物ノ部
 Beschereille, Emile. タイチー并ニニコカドバン及マン
 ガン、嶋ノ土馬駿小誌 (Ann. Sc. nat. XX, 1, 2, 3.),
 Britzelmayr, M. Sterbeck 氏 Theatrum fungorum ノ
 帽菌科 (Bot. Centb. LXII, 3.)
 Hauptfleisch 新水菌科ノ新屬新種 *Astreptonema longi-*
spora (Ber. d. Dents. Bot. Ges. XIII, 3.)
 Hehrlicher, E. 羊齒不定芽ノ發育史上ニ於ケル問題ニ
 就テ (全)
 Heydrich, F. 東方アシヤ殊ニ臺灣、モルツケン并ニ琉
 球諸島藻類「ノロラ」一斑 *Hedwigia*, XXXIII, 5.)

Klebahn, H. *Pleurocladia lacustris* A. Br. ニ就テノ
觀察 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. XIII, 3.)

Krüger, W. 潤葉樹ノ汁液内ニ於ケル二三ノ下等生物
ノ特徴畧記 (Hedwigia, XXXIII, 5.)

Wille, N. *Pleurocladia lacustris* Al.Br. ニ就テノ觀察
并ニ分類上ノ位置 (Ber. d. Deuts. Bot. Ges. XIII, 3.)

植物分類學地理學等ノ部

Geisenheymer, L. *Polygonatum multiflorum* All. ノ

「フォルメン」并ニ多家ノ起ル (Ber. d. Deuts. Bot.
Ges. XIII, 3.)

Gilg, Ernst りんだら科屬 *Hockinia* Gardn. 并ニ *Ha-*

lenia Borrh. ノ花ニ就テ (同)

◎質問

理科大學 神保小虎

(第一) 日本ノ「ヒシ」ニ就テ

(1) 「ヒシノミ」 (*Trapa natans* var.?) ヲ或地方ニテ食

用品トナシ日々「シル」ノ中ニナド入レテ食フ所アリ

ヤ其地ニ於ケル料理法ハ如何

(2) 唯ニ小兒ノナグサミニ食スルノ最モ多キ地方ハ何處
ナリヤ

(3) 「ヒシノミ」ニ關スル舊記ハ何々ノ書ニアリヤ

(4) 「ヒシノミ」ノ古多ク在リテ今殆ンド絶タル地ハ何處
ニアリヤ

(備考) 此植物ト *Taxus buccata* トガ現ニ「ヨ

ロッパ」ニ於テ速ニ絶ントスルノ傾キアル

ハ其用法ノ如何ニ因テ説明セラル委シキ

トハ Danzig ナル Provincial museum ノ

Prof. Conwentz (コンツェントツ) 氏今調査中

ナリ

(第二) 林ノ中ニ蜜蜂ヲ養フ

此事ハ日本ノ如何ナル地方ニアリヤ

◎東京植物學會錄事

明治廿八年五月廿五日午後二時ヨリ理科大學植物學教

室ニ於テ植物學會ヲ開キ幹事先ツ前一季間ノ庶務會計ノ報告ヲナシ次テ役員ノ任期滿タルヲ以テ其改撰ヲ執行ス但シ幹事ハ從來一名ヲ増シテ三名トシ一切ノ事務所理ニ任セシモ追年本會益々隆昌ニ趣キ隨テ會務愈繁忙ヲ加ヘタレバ改テ幹事ヲ二名ニ復シ更ニ五名ノ委員ヲ推撰シテ事務ヲ分擔シ益々本會ノ目的ヲ擴張セントノ議アリテ會員ノ容ル處トナリ先ツ會頭及ヒ幹事ヲ撰舉シ左ノ如ク登任セラレタリ

會頭 松村 任 三君(再撰)

幹事 澤田 駒 二郎君(全)

全 平瀨 作 五郎君(全)

又會頭ノ推撰ニヨリテ就任セラレタル委員ハ左ノ如シ

池野 成 一郎君

大久保 三 郎君

藤井 健 二郎君

三 好 學君

白井 光 太郎君

次ニ藤井健二郎君ノ講話アリ其大要ハ本號雜錄ノ首ニ載ス續テ去月獨逸國ヨリ歸朝セラレタル三好學君ハ其歸途畦爪島植物園ニ遊ヒテ觀覽セラレタル景況ヲ懇話セラレタリ此又載セテ本號ニ在リ右終テ散會セシハ午後五時半ナリシ

○寄贈費目録

明治廿八年五月十一日
以降領收ノ分

動物學雜誌

第七十九號

動物學會

地質學雜誌

第二十、二十一號

東京醫學會

東京醫學會雜誌

第九卷第九、十、十一號

日本蠶業雜誌社

日本蠶業雜誌

第八十二、八十三號

北水協會

北海道水產雜誌

第十九、貳拾號

日本園藝會

日本園藝會雜誌

第六十四號

大日本山林會

大日本山林會報

第四百四十九號

地學協會

地學雜誌

第七集第七十八卷

京都本草會

京都本草會出品目錄第二、三號

東京地學協會報告第十六年第四號

東京地學協會

東京地學協會報告第十六年第四號

Helwigia, Bd. XXXIV, Hef. 2, 1895.

The Gardeners' Chronicle, Vol. XVII, No. 434, 1895.

Helwigia, Bd. XXXIV, Hef. 2, 1895.

Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 3, 1895.

The Gardeners' Chronicle, Vol. XVII, No. 434, 1895.

Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 3, 1895.

Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 3, 1895.

Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 3, 1895.

4. La fécondation s'accomplit vers le milieu de septembre.

5. Après la fécondation, le noyau de l'oosphère se divise en deux ; les deux noyaux ainsi engendrés ne tardent pas à subir chacun une bipartition ; après quoi il suit une 3^{ème} bipartition, et ainsi de suite jusqu'à une 8^{ème}. Pendant cette bipartition répétée, le noyau de l'oosphère se multiplie généralement suivant la puissance du nombre 2.

6. Après la 8^{ème} bipartition, il se forme des cloisons de cellulose entre les noyaux ainsi engendrés.

7. Généralement les deux oosphères d'un sac embryonnaire sont éloignées l'une de l'autre aux deux côtés du mamelon nucellaire. Cependant les deux oosphères sont parfois serrées côte à côte comme dans le *Juniperus* ; dans ce cas, il est très vraisemblable que toutes les deux sont fécondées par les deux cellules-sœurs dérivées de la bipartition égale de la cellule génératrice d'un tube pollinique.

8. Pendant le développement de l'oosphère, on rencontre de grosses granulations, ressemblant beaucoup à des grains d'aleurone en apparence dans son cytoplasma. Ces granulations paraissent avoir une relation intime avec le développement de l'oosphère, car après cela on ne les rencontre jamais, mais seulement des granulations beaucoup plus fines. Il est très probable que ces grosses granulations se sont transportées du noyau de l'oosphère dans le cytoplasma pour le nourrir. En outre, à partir du développement complet de l'oosphère presque jusqu'à la 7^{ème} bipartition de son noyau, on rencontre une granulation dans chacune des cellules formant la paroi de l'archégone. Cette granulation-ci se rend, de même que de grosses granulations parlées ci-dessus, dans l'oosphère dans le but de nourrir son cytoplasma ; elle tire son origine très vraisemblablement d'un des deux nucléoles dans le noyau de chaque cellule en question. De même que cette granulation, de grosses granulations dérivées du noyau de l'oosphère indiquées ci-devant sont peut-être de nature nucléolaire, car elles se comportent à peu près de la même façon que les nucléoles vis-à-vis de divers réactifs colorants.

La description plus détaillée, accompagnée des figures apparaîtra bientôt dans un autre journal.

Le 8 juin 1895.

Etudes sur le Ginkgo biloba.

(Note préliminaire).

PAR

Sakugorô Hirase

Assistant au Collège des Sciences de l'Université
impériale de Tôkyô.

Depuis longtemps M. le Prof. E. STRASBURGER, savant botaniste allemand, avait fait des études sérieuses sur la fécondation et l'embryogénie du Ginkgo biloba⁽¹⁾. Malheureusement, peut-être en raison de l'impossibilité de mettre suffisamment des matériaux à sa disposition, ce qu'il en a décrit s'appuie en partie plus spécialement sur l'analogie tirée de la conduite des autres Gymnospermes que sur l'expérience directe avec la plante elle-même et par conséquent il reste encore quelque chose à vérifier par des observations.

Or, j'ai commencé, il y a quelques années, à m'occuper de recherches sur le même sujet, puisque cette plante étant cultivée presque partout dans notre pays, il est assez facile d'en récolter des matériaux en quantité suffisante. En réservant les détails pour le futur, j'exposerai ici une brève description des résultats de mes recherches.

1. Dans notre pays, l'épanouissement de la fleur du Ginkgo biloba a lieu vers la fin d'avril.

2. L'oosphère aboutit à son développement complet vingt semaines après l'épanouissement de la fleur.

3. J'ai observé la formation de la cellule du canal dans la phase du «dispirem» caryocinétique. Aussitôt après sa formation, la cellule du canal, représentée par la moitié supérieure du «dispirem» ne tarde pas à se désorganiser et à se séparer de sa moitié inférieure, tandis que le noyau de l'oosphère grossissant de plus en plus descend vers le sein de l'oosphère. Ce processus a lieu immédiatement avant la fécondation.

⁽¹⁾ Die Coniferen und die Gnetaceen, 1872.—Die Angiospermen und die Gymnospermen, 1879 —Histologische Beiträge, Heft IV, 1892.

植物學雜誌

第九卷
第九十九號

明二十八年五月二十日

目錄

櫻樹ノ天狗巢ニ就テ 理學士 白井光太郎

澎湖列島自生植物(第一報) 田代安定

日本藥局方植物篇(前號ノ續キ) 澤田駒次郎

岡山縣北部地方植物採集記(前號ノ續キ) 山本頼輔

京都産羊齒科目錄 淺田學一

Note on *Ustilago esculenta*, P. Henn. 宮部金吾

◎ 雜 錄

日本産土馬騷略記○落葉集第五篇―漆○植物世界ニ於ル炭素及ヒ窒素ノ同化作用(承前)○日本及ヒ外國植物ノ新和名○植物名稱考○しのべだけハめだけナリ○「バクテリア」ノ説(承前)

◎ 最近研究彙報

◎ 寄贈書目錄

發賣所

東京神田
裏神保町

敬業社

地質學雜誌

(第廿一號)
六月十五日發行

一冊金拾錢郵税金壹錢○六冊前金五拾四錢郵稅共

目 錄

論說

肥前西嶽産輝石に就て(第十二版入)石井八萬次郎君●周防國都濃佐波兩郡に於ける二三の岩石に就て(本版入)井上禧之助君

雜錄

ロチー氏支那地質探檢理學博士小藤文次郎君 外數件

雜報

篠本君に答ふ○結核○外數件

發賣所

東京神田
裏神保町

敬業社

地 學 雜 誌

(第七集)
第七十八卷

一冊金拾錢郵税金壹錢六冊前金五拾四錢郵稅共

論說

土壤の吸肥力と土壤の理化學的性質の關係(承前)農學士東條勝友君 外數件

雜錄

地質原論(第十五回)理學博士橫川又次郎君 外數件

寄書

矢津氏著中學日本地誌に就て酒井淡水生君

雜報

東京地學協會第十六年會●東京地學協會々々長演說 外數件

應問

モナコ王國の政治猪間收三郎君

發賣所

東京神田
裏神保町

敬業社

物理化學之部

夏期講習用發賣廣告

レムセン氏原著 理學博士久原躬弦 合譯
 織田顯次郎君

改正 小化學 全二冊
 定價七拾五錢 郵稅金六錢
 上卷(八版)定價七拾五錢 郵稅金六錢
 下卷(六版)定價七拾五錢 郵稅金六錢

中等 無機化學教科書 全一冊
 定價七拾五錢 郵稅金八錢 頁數三百八十頁 木板六二個
 敬業社編輯所編纂

中等 有機化學教科書 全一冊
 定價六拾錢 郵稅八錢 頁數二百七十九頁 木板數個
 英國フアルノー氏原著 敬業社譯補

布氏小化學書 全一冊
 定價七拾五錢 郵稅六錢(三版) 紙數二百五十四頁
 農學士菊池熊太郎君編

訂正 物理學教科書 全二冊
 上卷(十版)定價七拾五錢 郵稅金八錢
 下卷(七版)定價七拾五錢 郵稅金六錢
 同君著

新撰普通物理學 全一冊
 (訂正十二版)
 定價金壹圓 郵稅金六錢 精密木板二百五十五個 插入

小物理學 全一冊
 定價金壹圓 郵稅金六錢 精密木板二百五十五個 插入

理化示教 全一冊
 定價五錢 郵稅金四錢
 全一冊 定價參拾五錢 郵稅金四錢

發兌書肆 東京市神田區裏神保町一
 電話番號(二百五十八番)

數學之部 博物學之部

理學博士寺尾壽君編纂

中等 算術教科書 上製(全二冊) 並製(全三冊)
 (上製) 上卷(廿一版)定價金壹圓貳拾五錢 郵稅八錢
 下卷(十四版)定價金壹圓 郵稅金六錢
 (並製) 一卷(八版)定價金五拾錢 二卷(七版)定價金五拾錢 三卷(五版)定價金四拾錢 郵稅各四錢

理學博士菊池大麓君閱 理學士高橋豐夫君編

幾何學 初歩 全三冊
 上卷定價三拾錢 郵稅四錢(六版) 中卷定價參拾錢 郵稅四錢(三版) 下卷定價貳拾錢 郵稅貳錢(再版)

理學博士箕作佳吉君著

通俗 動物新論 全一冊
 定價金壹圓七拾五錢 郵稅金拾錢 精密木板二百六十九個 頁數三百九十七頁

理學博士飯島魁君編

中等 動物學教科書 全二冊
 一卷(訂正十二版)定價金六拾錢 郵稅金六錢
 二卷(訂正十版)定價金七拾五錢 郵稅六錢

理學博士松村任三君閱 理學士三好學君編

中等 植物學教科書 全二冊
 上卷(訂正十版)定價金壹圓 郵稅金八錢
 下卷(訂正六版)定價金壹圓 郵稅金八錢

故理學博士菊池安君編

中等 礦物學教科書 全二冊
 上卷發兌定價金七拾五錢 郵稅金八錢 紙數三百四十二頁 一ツ精密木板二百六十九個 插入(下卷近刻)

敬業社 其他東京大阪以下各地
 方書林ニ於テ販賣セリ

DRIED SPECIMENS OF JAPANESE PLANTS FOR SALE.

Perfect and rare dried specimens of plants collected in various provinces of Japan.

22 pounds are demanded for every 1000 specimens.

Catalogue will be sent to any one that wants to purchase the specimens.

Kanō Watanabe,
No. 25, Masagochō,
Hongōku, Tōkyō,
JAPAN.



版權
所有

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金五錢
三回以上割引仕候
○本誌毎月一回發兌一冊金拾貳錢○六冊前金七拾貳錢
○十二冊前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り一冊金拾錢
○配達概則
第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セ
ズ○第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發
兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ
○第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絕ス○第四
條 特ニ一冊限御入用ノ向ハ壹錢切手十二枚御送致ア
レバ御届可申候

明治廿八年六月十九日印刷
明治廿八年六月廿五日發行

編輯兼 發行者
印刷者
印刷所
發行所
賣捌所
同

井 上 蘇 吉
東京市神田區錦町三丁目一番地
野 村 宗 十 郎
東京市京橋區築地一丁目廿番地
株式會社東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目七番地
植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
敬業社
丸善書店
同所
東京市日本橋區通三丁目

315710

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 9.]

June 20, 1895

[No. 100.

CONTENTS.

Etudes sur le Ginkgo biloba. Par Sakugorô Hirase.....239

Some Remarks on the Plants of Izu. By Prof. J. Matsumura.....199

Ein Besuch zum Botanischen Garten zu Buitenzorg auf Java.

Von Prof. M. Miyoshi.....203

Phanerogams of Shōnai (Continued from No. 98.) By

T. Kawakami.....221

Miscellaneous: —.....224

A Physiological Research on Sexuality of Flowers of
Pinus densiflora, Sieb. et Zucc. and Notes on
“Kurztrieb” and “Langtrieb” of the Genus Pinus.—Notes
on Japanese Mosses.—Miscellaneous Notes on the Plants
of “Yōjōsho-oku.”—Proceedings of the Tōkyō Botanical
Society.

New Literature.

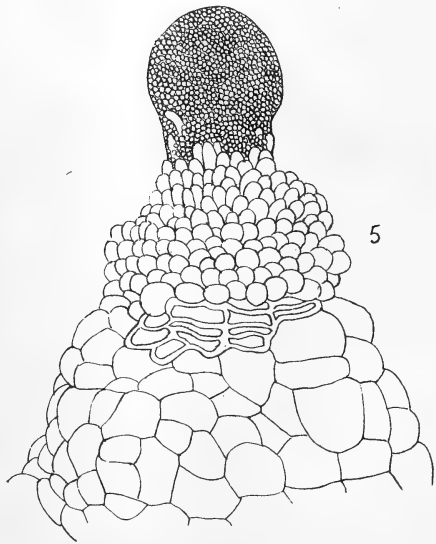
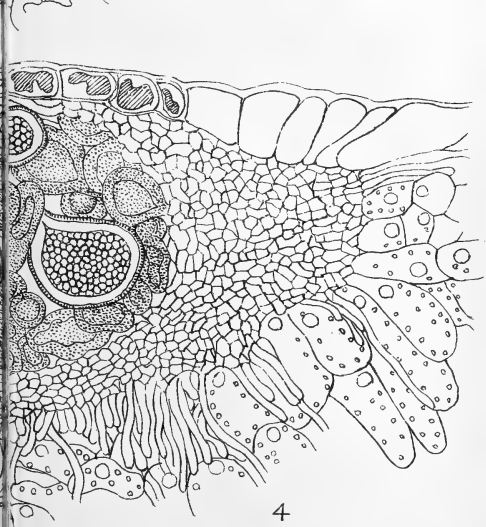
TOKYO BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tokyo, Japan.

明治二十六年六月三十日 遞信省認可

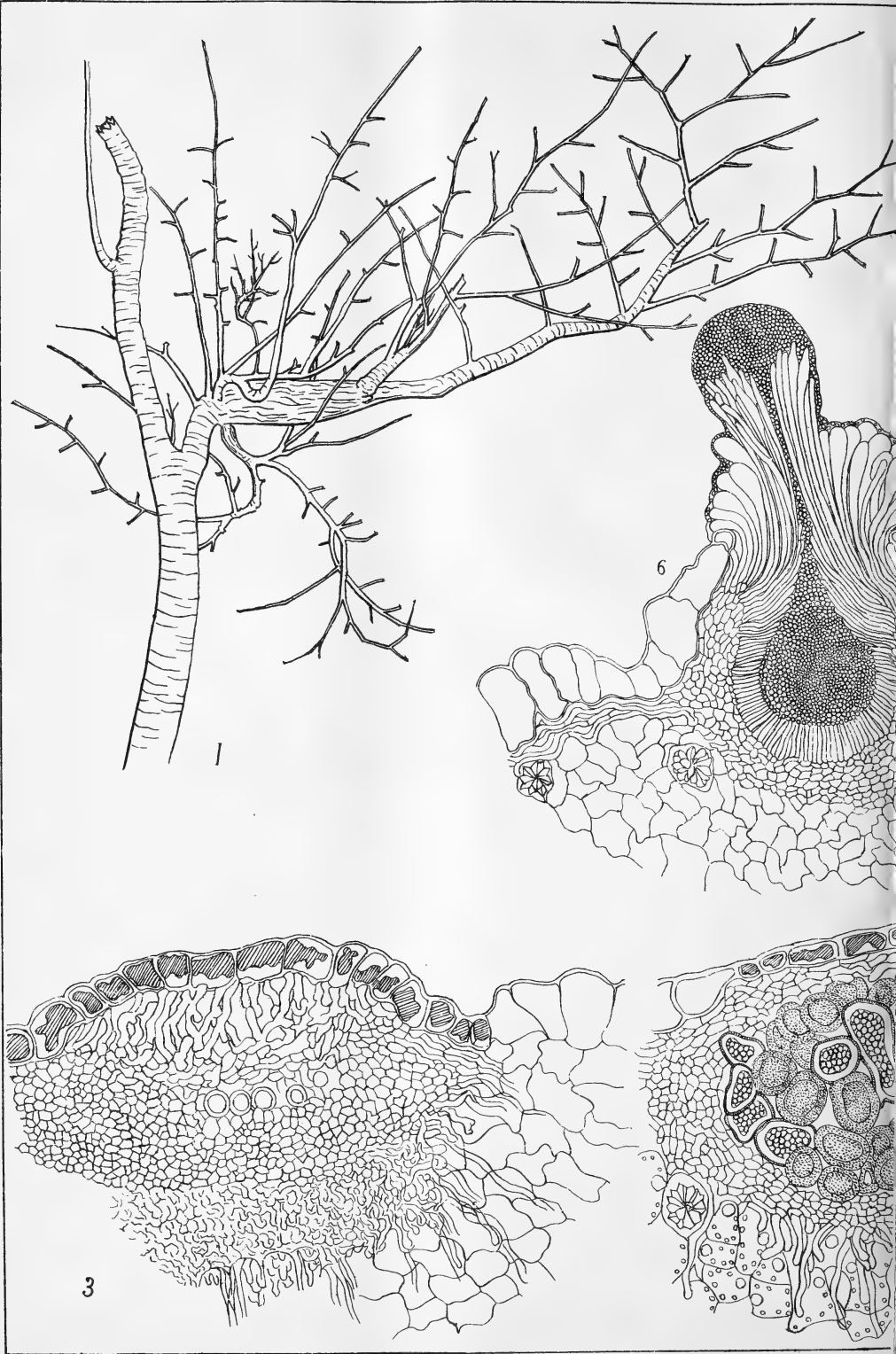
明治二十一年二月三日 內務省許可

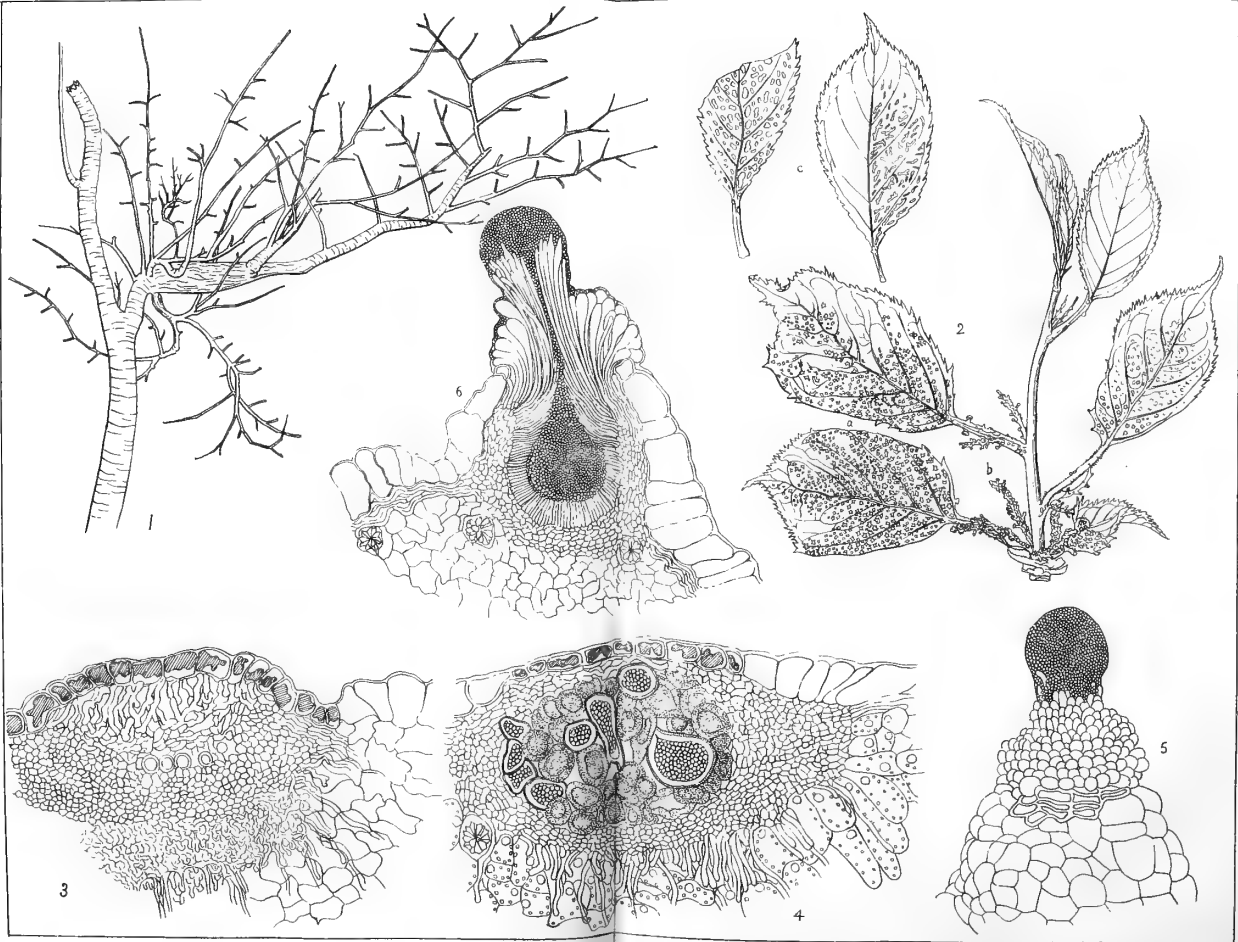




4

5







植物學雜誌第九卷第一百號

明治廿八年七月二十日

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. IX.

July 20, 1895.

No. 101.]

○櫻樹ニ寄生スル新種ノ病菌ニ就テ

理學士 白井光太郎

此種ハ予本年五月中旬帝國大學ヨリ植物學實地研究ノ命ヲ蒙リ栃木縣下ニ出張セルノ日日光久次良原ノ極端ナル茶店ノ側ヨリ裏見瀑布ニ通スル山蹊ノ櫻樹上ニ檢出セリ

此種ノ菌絲ハ櫻ノ天狗巢病菌ニ似テ多年間生存シ病枝ノ異常肥大ヲ起サシムルノ性アリ新枝ハ之レガ爲ニ種々ニ扭振拳曲シ病狀ヲ呈ス其狀第一圖ノ如シ

櫻ノ天狗巢病ニアリテハ病枝ト健全枝トノ間ニ明瞭ナル區劃ヲ存スレモ此病菌ノ寄生ヨリ起ル病狀ハ多少後方ニ進行シ得ルガ如ク其病部ト健全部トノ區別甚明瞭ナラザル者アリ

Spermogonium (粉子腔)ハ新葉ノ托葉ノ表面ニ突出シテ生ズ(第二圖b)其構造ハ第五第六兩圖ニ示スガ如ク粉子腔ノ口邊ニハ線狀棍棒狀乃至球頭細莖ノ鬚毛ヲ有シ内部ノ *sterigmata* 及 *spermatia* ハ頗ル明瞭ニ見ユ。

Aecidium-layer (銹子層)ハ新葉ノ表面ニ初メ星芒狀黃色細點(四圖a)ヲナシ現ハレ後不齊形洲濱形ノ細點(四圖c)ヨリ芽胞ヲ噴出ス其狀宛モ金砂子ノ蒔繪ヲナシタル狀ノ如ク寧ロ美麗ナリト云フベシ此銹子腔ヲ生シタル葉ハ種々ニ反卷セリ五月中旬始メテ檢出セル標品ニテハ銹子腔未ダ充分發育セズ其内部ハ第三圖ノ如

櫻樹ニ寄生スル新種ノ病菌ニ就テ

キ有様ヲ呈シ僅ニ數箇ノ芽胞ヲ形成セルノミナリシガ六月初旬再度登山ノ時之ヲ検査セシニ已ニ充分成熟シ芽胞ヲ噴出セルモノアリ(第四圖)而シテ其銹子腔ノ圍壁ヲナス所ノ菌絲層ハ黃色ノ油粒ヲ含ミ悉ク金色ヲ呈セリ

芽胞ノ大小ハ甚不同ニシテ其小ナルハ圓徑二〇 μ ニ過キズ其大ナルハ五三乃至六六 μ ニ至ルモノアリ平均圓徑四〇 μ 許ノ者ヲ多シトス芽胞ノ形狀ハ圓形ニシテ多少稜角ヲ存シ長短ナキ者其多數ヲ占ムト雖モ往々長圓形長圓ノ棍棒狀等ノ者ヲ交ヘ生ズ

此菌ノ奇異ナル點ハ其銹子腔ト粉子腔トガ各自葉面ト托葉面トニ區域ヲ守リ發生スルノ事ニシテ其他銹子腔内ニ銹子ヲ發生スル頃ニ及ビ表皮ト *Hymenium* トノ間ニ旺ンニ上方ニ向ツテ伸長スル菌絲線アリテ表皮ヲ上方ニ捧持シ以テ表皮ガ下ヨリ發生スル銹子ニ及ボス壓力ヲ減殺スルガ如キ作用アルモ亦他ニ於テ見ザル所ナルガ如シ且此菌ノ銹子ヲ形成スル *Basidia* ハ細短ニシテ明ニ認視シ難シ

此菌ノ菌茸類銹菌族 (*Uredineae*) *Oeoma* 屬ノ種類ナルハ一檢直ニ認定シ得タリト雖モ其種名ハ之ヲ *Saccardo* 氏ノ菌譜及他ノ諸書ニ考フルモ所見ナシ依テ菌學ニ精通ナル札幌農學校教授宮部氏ニ此標品ヲ送り其鑑定ヲ乞ヒシニ左ノ如キ回答ヲ得タリ

前略「此度ハ日光ニ於テ御採集ニ相成候櫻ニ寄生スル菌御送り被下其名稱御尋ニ相成候得共小生ニハ實ニ新シキ種類ニテ *Uredineae* ノ參考書^{リテレチエナ}ハ佳ナリ充分ニ取調有之候得共此種ニ類シタル者未ダ曾テ見シコトナシ新種トシテ御記載被成候共誤ナカラシカト存候其所屬ニ付テハ御説ノ如ク *Oeoma* ニシテ御送ノ標品ハ少々若カキ方ナレバ芽胞發生セザルモノ多ク有之候得共或ル部分ニハ少々見受申候」下略

以上記述スルガ如キ事情ヨリ考フルニ此種ハ全ク一ノ新奇ナル種類ナルガ如キヲ以テ予新ニ *Ceoma radiata* ノ羅丁名ヲ下シ其形狀ヲ記スルコト左ノ如シ

CEOMA RADIATA (n. sp.)

Spermogonium brownish-yellow, crowded on the stipules of the deceased leaves, forming conical elevations, with a tuft of filiform and club-like processes at the margin of the aperture. Aecidium-layer(sorus)uniformly scattered over the upper surface of the blade of the leaf, roundish, oblong, or irregular, distinct, rarely confluent, radiate at the margin, especially when young. Spores roundish or polygonal, isodiametrical or oblong or oblong-clubate, finely verrucous, orange-yellow, 20—66 μ . long. Mycelium perennial, causing hypertrophy and bending of branches and leaves.

Habitat. On *Prunus pseudo-cerasus*, in Japan.

I have discovered this species on a cherry-tree in a mountain-pass near the Urami-waterfall at Nikko, in May 10th 1895.

○菌絲ノ膜質貫透ニ就テノ研究略報

三 好 學

菌絲ガ種々ノ膜質ヲ貫透スルハ普通ノ顯象ニシテ、古來菌學者ガ夙ニ觀察スル所ノモノナリ、殊ニ寄生菌類ノ菌絲ガ植物體若クハ動物體ノ外面ヨリシテ組織内ニ貫入スルハ尤モ著甚ノモノタルヲ以テ、植物學者ノ注意ヲ惹ケルモノ少ナカラズ、蓋シ其貫透ヲ起サシムルノ原因ハ何ニヨルヤ、又貫透作用ハ何等ノ方法ニヨルヤ、又一種ノ菌絲ハ果シテ種々ノ膜質ヲ貫透スルノ機能アリヤ等ノ問題ノ研究ハ植物生理學上ニ極メテ興味

菌絲ノ膜質貫透ニ就テノ研究略報

アルノミナラズ、且實用(農業、山林、醫學等)上須要ノモノタレバナリ、

第一問題、即チ貫透ノ原因ニ就テ觸接刺撃コンタクト・ライズ其主因ヲナスハ、ピスゲン (Büsgen) 氏之ヲ論シ、(Ueber einige

Eigenschaften der Keimlinge parasitischer Pilze. Botanische Zeitung, 1893. Heft 3/4.) 又化學的刺撃ケミカル・ライズ其重要ナ

ル作用ヲ呈スルハ予亦之ヲ證明セリ、(Ueber Chemotropismus der Pilze. p. 24. Botanische Zeitung, 1894.

Heft 1.) 予ガ今該問題研究ノ結果ニヨレバ此兩作用ハ相共ニ働キテ貫透ヲ起スト雖モ、向化力主トシテ其機

能ヲ逞クセズンバアラズ、蓋シ觸接刺撃ハ主トシテハフト・カール・ガン附着機關ヲ盛ニ形生スルト雖モ、コレヨリ發生スル貫透菌

絲ノ進入ハ化學的刺撃ニ基由スレバナリ、又向化力ハ菌絲ヲシテ膜面インフュクテ・カニスへ密壓セシメ、觸接刺撃ヲ盛ナラシメ、

其結果トシテ附着機關ノ形生ノ増盛ヲ起スハ明瞭ナリトス、

第二問題、即チ貫透ノ作用ニ就テハ從來、植物學者ハ主トシテ菌絲ノ化學的作用ヲ論ゼリ、予ノ實驗スル所ニ

ヨルモ、該化學的作用即チ菌絲ガ種々ノ溶液フェルメント(醱酵素)ヲ分泌シテ膜質ヲ柔軟ナラシメ、遂ニ其一部分ヲ多少

溶解セシムルニ至ルハ普通ノ顯象タルヤ論ヲ待タズト雖モ、亦他ニ一種、器械的作用ノ充分存在セルヲ證明

セリ、蓋シ菌絲ハ固ヨリ微細ニシテ軟弱ノモノタリト雖モ、或ル状態ニアリテハ該絲端ニ於テ亦相應ノ壓力

ヲ集生スルヲ得ルヤ疑フベカラズ、予ハ現ニ薄キ金箔ヲ用キテ實驗ニ供シ、遂ニ菌絲ヲシテ箔質ヲ貫徹シテ

細孔ヲ穿タシムルヲ得タリ、該實驗ノ結果タルヤ菌絲ガ單獨ノ機械的作用ヲ呈セルヲ證明スト雖モ、實際

一般ノ状態ニ於テハ前二種ノ作用(化學的及ビ機械的)相共ニ其機能ヲ呈シ、能ク厚堅ナル膜質ヲモ貫透スル

ニ至ルナリ、

第三問題、即チ一種ノ菌絲ハ果シテ種々ノ膜質ヲ貫透スルノ機能アリヤニ就テハ、予ハ夥多ノ實驗ヲ爲シ、

Mucor stolonifer, *Botrytis cinerea* 等ノ菌絲ハ細胞膜、「コーク」膜、木質膜、「クチクラ」膜、「ヒチン」(Chitin)膜、「コロヂウム」膜、「バラフィン」浸染紙等ヲ貫透セシムルヲ得タリ、

更ニ一步ヲ進メテ、菌絲殊ニ寄生菌絲ガ天然ノ状態ニ於テ植物體內ヘ貫入スル顯象ニ就テ考究セルガ、此等ノ論證及ビ前記研究ノ結果等ハ予近月中他ノ雜誌ニ於テ公ニスベシ、

○京都附近所産羊齒十四種

牧野 富太郎

本月初旬京都市上京區服部他助君ヨリ同君ノ自ラ京都近傍ニ於テ採集シテ美麗ニ調製セラレタル羊齒標品ノ一束(別ニ *Campotosorus rhizophyllus Link.* 及 *Pellaea gracilis Hook.* ナル米國産羊齒標品二個アリ)ヲ惠贈セラル同時ニ同君ノ送ラレタル信書ニ云フ「……野生義兩三年前より職務の傍ら當京都産の羊齒類採集に志し居候者に有之候處會、本月廿日發行の植物學雜誌第九卷第九十九號に記載有之候先生御分類に關する(京都産羊齒科目錄)を拜讀致益せる所甚だ多く感謝の念に不堪候就ては野生蒐集の者にして該目錄に無之もの廿餘種有之哉に存候に付今回先づ右の内拾四種を寄贈仕候云云」ト予ハ此ニ其標品ノ名稱ヲ世ニ公ニシ以テ同君ノ厚意ヲ感謝スルノ意ヲ表シ併セテ京都産羊齒ヲ世人ニ紹介スト云爾

(1) *Aspidium nitipes Blume.* (= *A. cyadatum Fr. et Sav.*) *S*はへこ 京都府下清瀧

(2) *Asplenium pekinense Hance.* *S*はへこ 京都府下鞍馬山

(3) *Asplenium Wichurae Metten.* のこまもしだ 京都府下貴船

(4) *Cryptogramme japonica Prantl.* (= *Ongichium japonicum Kunze.*) たちしのぶ 京都府下鞍馬山、比

叡山、清瀧

- (5) *Denstedtia scabra* Moore. (= *Dicksonia scabra* Wall.) こばのししかぐま 京都府加茂神社内
- (6) *Gymnogramme Makinoi* Maxim. からべろしだ 京都府下鞍馬路
- (7) *Phegopteris Totta* Metten. (= *Gymnogramme Totta*, Schlecht.) みぞしだ 京都府下若王子谷
- (8) *Polypodium niponicum* Metten. わせねかづら 京都府下鞍馬路
- (9) *Polypodium hastatum* Thunb. みつぞうらばし 京都府下大文字山
- (10) *Polypodium linearifolium* Hook. びろうをしだ 京都府下鞍馬山
- (11) *Polypodium Loxogramme* Metten. (= *Gymnogramme lanceolata* Hook.) やかづら 京都府下貴船、鞍馬
- (12) *Scolopendrium vulgare* Symons. (= *S. officinarum* Sw.) こたにわたり 京都府下鞍馬、貴船
- (13) *Vitaria japonica* Mig. しんらん 京都府下清瀧、比叡山
- (14) *Woodsia manchuriensis* Hook. ふくろしだ 京都府下清瀧

○日本藥局方植物篇 (前號ノ續キ)

澤田駒次郎

種類 歐羅巴ニ於テ規那皮ニ製造用及ビ藥局用ノ二種アリ製造用ハ其外觀ニ憑據セズ專ラ亞爾嘉魯乙度ノ含量多キヲ以テ良シトス故ニ根皮及ヒ銅色規那皮ヲモ用フ藥局用ニハ其外形ノ美麗ナルヲ用フ又目下培養ノ規那皮ハ其產地ニ因テ之ヲ區別シ或ハ之ヲ輸出スル地名ヲ以テ名稱トスルモノアリ瓜哇産規那皮錫蘭規那皮「ロキザ」規那皮(*Loxa* China) 瓜亞基爾規那皮(*Guaiaquili-China*)等是ノナリ

南亞米利加産ノ規那皮ハ其外觀ニ因リ赤色規那皮(*Cortex Chinae ruber*) 黄色規那皮(*Cortex Chinae Flavus*)

褐色規那皮 (Cortex Chinae fuscus) 等ノ別アリ又従前ハ規那皮ノ價格ヲ評スルニ其外觀ヲ以テシ或ハ其產地及ヒ輸出地ノ異ナルニ因テ種々ノ名稱ヲ附シ品種ヲ鑑別スルコト頗ル困難ナリシト雖モ現今ハ外觀ニ係ラズ專ラ亞爾嘉魯乙度含量ノ多寡ニ因テ其品格ヲ評定ス

印度ニ於テ培養スル規那皮ハ其種類少ナキニ因リ之ヲ區別スルコト容易ナリ目下赤色規那皮黃色規那皮ノ二種ヲ以テ最モ醫藥ニ適應スルモノトス

南亞米利加産ノ規那皮ハ殆ンド絶盡ニ歸シ目下藥用ニ供スルモノハ印度ヨリ産出ス此等ノ規那皮ハ培養ノ樹ヨリ剝取セシモノトス

性狀 赤色規那皮ハ之ヲ剝取セル樹ノ年齢ニ因リ其形狀多少ノ差異アリ

本品ハ幹皮及ヒ枝皮ニシテ厚サ一「センチメートル」ニ至リ殆ンド扁平ナル皮片ヲ爲シ外面常ニ暗褐色或ハ灰褐色ノ外皮ヲ被ムリ之ヲ剝離スレバ赤褐色ヲ呈シ其内面モ亦赤褐色ニシテ平滑ナリ此皮ハ年ヲ經ルニ從ヒ淡明ト爲ル又横斷面ヲ製シ「ルーペー」ヲ以テ之ヲ檢スルモ特異ノ徴候ヲ有セズ然レドモ其破碎面ニ於テ纖維ヲ檢出ス此レ規那皮ノ特異トスル所ナリ又内部ヲ精密ニ檢スレバ白色ノ小斑點ヲ有ス此斑點ハ鞣酸加爾叟膜ヲ含有スル細胞ノ筈在スルニ基因ス此規那皮ハ大ニ亞爾嘉魯乙度ニ富ミ従前ハ甚ダ之ヲ貴重セシガ現今ハ殆ンド絶滅ニ歸セシガ如シ偶々之レアルモ其價極メテ貴シ

東印度ヨリ産出スル赤色規那皮ハ猶ホ幼稚ニシテ其大サ南亞米利加産規那皮ニ及バズト雖モ亞爾嘉魯乙度ヲ含ムコト多量ニシテ平均六「ベルセント」ヨリ十一「ベルセント」ニ至ル是レ專ラ諸國藥局方ノ之ヲ收載シテ藥用品ニ規定スル所以トス然レドモ此規那皮ハ規尼涅ヨリモ聖古尼實涅ニ富ムルヲ通常トス

印度産赤色規那皮ハ管狀或ハ髓狀ヲ爲シ長サ大約五十乃至六十「センチメートル」直徑大約六「センチメートル」厚サ五乃至六「ミリメートル」ニ至リ外皮ハ暗灰褐色ヲ呈シ縱紋ヲ有シ又橫裂ヲ現ハス内部ハ暗赤褐色ニシテ其破折面ハ中央ノ皮部平坦ナリト雖モ内皮部ニ於テ平坦ナラズ矮短細小ナル纖維形ヲ有ス

赤色規那皮ヲ水ニ浸シ其截面ヲ製シ之ヲ顯微鏡下ニ檢スルモ赤褐色ノ色素ヲ含有スルニ因リ其組織明カナラズ故ニ先ツ截面ヲ稀薄ナル加里滲液(醋酸三四滴ヲ加フルヲ良トス)ニ浸シ然ル後水ニテ洗滌シ偏里設林ニテ裝置シ檢スルトキハ明瞭ニ認メ得ルナリ

本品ノ横斷面ヲ製シ檢スルニ其外部ニハ胞層ヲ有シ此層中ニハ皮口ヲ存シ之ヲ圍擁スルニ平等ノ細胞ヲ以テス而シテ第一期ノ皮部ハ其細胞主モニ觸線ノ方向ニ延長シ胞間ヲ存シ其縱斷面ニ於テハ同形ヲ現ハシ葉綠粒及ヒ澱粉單一澱粉ヲ有スルコトアリ又核酸加爾叟謨ノ結晶ヲ以テ充盈シタル細胞ヲ有ス又處々ニ周圍ノ細胞ヨリ遙ニ著大ナル乳脈管(乳液)ヲ箵在ス此乳脈管ハ特ニ外皮部ト内皮部ノ境界ニ於テ疎ニ輪帶狀ヲ爲シテ排置ス第二期ノ皮部即チ内皮部ノ組織中ニハ内皮纖維ヲ有ス此纖維ハ屢バ一定ノ規律ヲ爲シテ半徑ノ方向ニ排置シ其皮壁頗ル厚化シ内空極メテ狭小ニシテ光澤ヲ帶ヒ其縱斷面ニ於テハ兩端尖銳ニ走り單一ニシテ決シテ分岐セザル所ノ縱直ナル纖維或ハ洋刀狀ニ彎曲セル紡錘狀ヲ爲シ其皮壁ニ溝渠ヲ有ス此レ規那皮ニ特異ナル標徵ニシテ本生藥殊ニ扁平ナル黃色規那皮ヨリ輒ク之ヲ搔取ス此纖維ハ長サ三「ミリメートル」直徑〇・一二「ミリメートル」ニ至ルモノアリテ各種ノ規那皮中ニ存在スルモノ概シテ其形狀ヲ同フス又内皮部ニハ髓線ヲ通過ス廣サ一列乃至二列高サ九列ヨリ十八列ニ至ル細胞ヨリ成ル此髓線ヲ觸線ノ方向ニ裁斷スレバ兩線間ハ纖維篩狀脈管及ヒ延長セル細胞ヨリ成リ又髓線ニ接近シテ巨大ナル細胞ヲ有ス之ヲ大細胞ト云フ縱斷面ニ於テ殊

ニ顯著ナリ而シテ大細胞中ニハ細小ナル尿酸加爾叟謨ノ結晶ヲ有スト雖凡横斷面ニ於テ之ヲ見ルコト稀レナリ此レ輒ク脱落スルガ故ナリ又乳脈管ハ老皮ニハ發見スルコト能ハス

規那皮ノ構造ハ前記ノ如ク極メテ特異ノ形狀ヲ有スルニ因リ決シテ他皮ト錯誤スルコト無カル可シ

日本藥局方曰規那皮ハ管狀半管狀或ハ扁板狀ヲナシ内皮ノ破折面ハ纖維狀ヲ現ハス顯微鏡ヲ以テ横截面ヲ檢視スレバ規那皮ノ特徵タル内皮纖維ヲ見ル

本品ノ粉末ヲ小硝子管中ニ熱スレバ美麗ナル洋紅色ノ釜兒ヲ生ス

本品ハ次ニ掲クル方法ニ由テ試驗スレバ百分ニ付キ少ナクモ四分之一ノ規那「アルカロイド」ヲ檢出セザル可カラズ

本品ノ粉末十五「グラム」ヲ水化石灰二十「グラム」酒精二百二十五立方「センチメートル」ト共ニ硝子壺ニ容レ其全量ヲ秤定シ酒精ノ著ルシク蒸散セザルニ注意シ二時間重湯煎上ニ熱ノ煮沸シ冷後蒸散セル酒精ヲ補充ノ原量ニ復シ濾過シ其濾液百五十立方「センチメートル」ヲ取リテ重湯煎上ニ蒸發シ其殘留物二十立方「センチメートル」ノ定期酸液ヲ加ヘ温ヲ與ヘツ、親密ニ研和シ次ニ十立方「センチメートル」ノ水ヲ加ヘ小濾器ヲ用ヒテ分液漏斗中ニ濾入シ少量ノ水ヲ以テ尙ホ二三回濾器ヲ洗ヒ分液漏斗中ニ存スル全濾液ニ那篤倫滴液ノ過剩ヲ加ヘテ後逐次三回各五十立方「センチメートル」ノ依的兒ヲ和シ振盪シ豫メ秤定セル小硝子壺ニ其依的兒液ヲ瀉取シテ蒸餾シ其殘留物ヲ百度ニ於テ充分ニ乾燥スルニ茲ニ得タル「アルカロイド」ハ少ナクモ〇、四「グラム」ノ重量ヲ有セザル可カラズ此「アルカロイド」ヲ稀硫酸ヲ以テ酸性トナシタル水ニ溶解シテ得タル液ハ格魯兒水ヲ和シ安母尼亞ヲ滴加スレバ綠色ヲ呈スベシトアリ

幼稚ナル規那皮ハ其味苦ク收斂性ニシテ不快ナラズ老皮ハ純苦味ニ近カシ

(以下次號)

○豆相植物採集略記

大渡 忠太郎

同學河野福太郎君ト共ニ松村博士ニ從ヒ四月一日新橋發車駿州沼津ニテ下車修善寺着、養氣館泊、翌二日午前修善寺村採集午後出發湯ヶ島村落合樓泊、三日ヨリ五日迄同地滞在天城山及湯ヶ島村採集、六日發足修善寺ヲ經テ駿州三島ニ至リ世古六大夫方投宿、七日箱根ノ舊路ヲ登リ元箱根、蘆湯宮、下ヲ經テ塔澤洗心樓泊、翌八日東京着、歸校。見ルトコロノ概略左ノ如シ

沼津ヨリ三島道ヲ行クト凡半里、狩野川ニ沿フテ多ク柳ヲ植ウ其内木振しだれやなぎニ似テ枝端ノ天ニ向フモノアリ之ヲ檢スルニ蜜糟シラント及ビ子房ノ狀態常種ト同ジカラズ先生假ニれはたちやなぎノ名ヲ附セリ白井光太郎氏モ同頃筑波推尾地方ニ於テ採集セラレタリト云フ越テ十二日及ビ翌五月十三日余亦再ビ之ヲ筑波山麓ニ獲タリ之ニヨレバ其葉亦常種ト異ナリテ廣ク且光澤アルヲ知レリ恐ラクバしだれやなぎノ變種ナランカ
修善寺湯ヶ島間採集セルモノねこやなぎ♀、みやまさけまん、もくれいし、りんぼく、あかしで、等凡テ五十三種

天城山中得ルトコロ九十一種其重ナルモノ左ノ如シ

あかばなかごのき、ふさゞくら、いづせんりやう、えいざんかたばみ、せんとうさう、こすみれさいしん、
ちやるめさう、びろうどしだ、さぢよらん(花ナシ)、みやましきみ、さくざさいちりんさう、しろがね
さう、みつばこんらんさう、やまねこやなぎ、やましやくやく(蕾)、さよすみひめわらび、せりばわうれ

ん、いはひば、あをねかづら、やまうぐいす、いはみの、くりはらん、やのねした、こくざぎ、はるとらのを、

ひかげつ、ヒ 天城峠道、世古瀧道等ノ溪間ニアリ盛ニ黄花ヲ開ク(前號松村博士ノ豆州植物漫録參照)

Vitataria Fudinoi, Makino. 天城山中公な樹上ニツケリ

湯ヶ島ヨリ天城峠ヲ越エ下田ノ方ニ採集ヲ試ムルモノハ其盛ニ樹木ヲ切倒シ滿目裸山ニノ一見燒野ノ如キヲ以テ天城山既ニ採集ノ價ナキガ如ク思ヘリト雖厄本道ヲ避ケ谷又谷ヲ越ヘ山又山ヲ登ルルハ樹木蒼鬱恰ンド日光ヲ漏サズコ、ニ至リテ赭山的天城山ノ觀念ハ殆ンド想像スルヲ能ハザルニ至ラン湯ヶ島ハ天城山ノ麓ニアリ質朴ナル一村ニノ温泉ノ設アリ夏期ニ當リ永クコ、ニ滞在シテ天城山ニ採集セラレナバ其得ルトコロ蓋シ少カラザルベシ記シテ同好ノ士ノ一遊ヲ促ス

人家栽培植物ニシテ天城山中自生セルモノ四アリ曰しゆる、曰みつまた、曰ゆづりは、曰つばさ、

湯ヶ島邊盛ニ椎茸ヲツクル、寄主ノ重ナルモノなら、しで、しひのき、もみ、ノ四ナリ

豆州見ルトコロノ櫻五種アリまめざくら、しろざくら(ヤマザクラノ一種
白花ノモノ假稱)、ひがんざくら、しだれざくら及ビや

まざくら、東都ニ多ク見ルトコロノよしのざくらハ終ニコレナカリキ

柳八種アリねこやなぎ(雌雄共ニ)、しばやなぎ、やまねこやなぎ↑、こりやなぎ、かはやなぎ、しだれやな

ぎ、ねほたちやなぎ(假稱)たちやなぎ

豆州方言一東 ウサギノミ、(さばをぐるま)、五月マメ(そらまめ)、ミツマタカンザウ(みつまた)、アクシ

バ(ひさかき)、サハグハ(ふさぐくら)、ツサ(あぶらちやん)、ヤマコンニヤク(むさしあふみ)、コガ(あか

ばなかごのき)、サクラガンビ(ねにしばり)、ランドリバナ(げんげ)

莊内産顯花植物

修善寺三島間得ルトコロ僅二十四種、やまも、花アリ、うばめがし水晶山に生ゼリ、

箱根得ルトコロ三十六種、ふつささう、はるとらのを、えびすみれ、こばのねこのめさう、たまねこのめさう、ねほくぼしだ、あせび、等アリ

ねほくぼしだ、元箱根ヨリ蘆湯迄ノ間一岩一石ノ横ハルアレバ必ラズ之ヲ檢シ行クニ博士ノ先ツ之ヲ得ラレシヨリ此所ノ岩蔭彼所ノ石面ニテ漸ク二三本ヅ、ヲ得タリ此植物元來微細ニ一見藓類ノ觀アリ且ツ好デ岩蔭ニ潜ミ蒺生スルコナキガ故ニ餘程注意セザレバ得ルコト能ハザルベシ大久保氏ノ之ヲ蘆湯ニ得ラレシヨリ以來未ダ他ノ方面ニ於テ發見セラレザルモ畢竟之ガ故ナルベシ此行得ルトコロニヨレバ蘆ノ湯元箱根間ハ正ニ其產地ナルベク尙ホ密ニ精査セバ箱根聖山、否、我邦諸山ニモ或ハ有之ン只恐ル、ハ世ニ採集ヲ以テ業トスル人アリ珍草奇木ト云ハバ其根絶ニカ、ルモノ少シトセズ學術上歎ズベキ限ニコソ可恐可惡

第一高等學校芦澤房二郎君湯ヶ島ヨリ此行ニ加ハラル
此行終始松村博士ノ懇篤ナル御指導ヲ辱フシ迂夫亦幸ニ智識ヲ啓發スルコトヲ得タリ此略記ヲ終ルニ當リテ河野君ト共ニ謹デコ、ニ之ヲ感謝ス

○莊内産顯花植物

(前號ノ續キ)

川上 瀧 爾

Leguminosae. 162. *Thermopsis fabacea*, DC. センダイノギ 酒田—163. *Lotus corniculatus*, L. var.

japonicus, Regel. ミヤコグサ 松嶺—164. *Indigofera decora*, Lindl. ミンナチ 松嶺—165. *I. tinctoria*,

L. コマツナギ、クサンギ(方言) 堀野—166. *Wistaria chinensis*, S. N. フヂ 松嶺—167. *Desmodium*

- podocarpum, DC. var. japonicum, Max.* ヌスビトハギ、イナクサリ(方言) 松嶺—168. *D. Oldhami, Oliv.*
 フヂカンザウ 松嶺—169. *Lespedeza bicolor, Turcz.* ヤマンギ、ンギ(方言) 松嶺—170. *L. sericea, Miq.*
 メドハギ 十里塚—171. *L. tomentosa, Sieb.* イヌンギ 堀野—172. *L. pilosa, S. Z.* ネホンギ 松嶺、鶴岡
 —173. *L. striata, Hook. et Arn.* ヤンスサウ 鶴岡、松嶺—174. *Vicia Fauriæ, Franchet.* 〇かるとん
 (新稱) 小國、升田、坂本—175. *V. Cracca, L. var. japonica, Miq.* シサノギ 福原、檜嶋—176. *V.*
amena, Fisch. シルフヂバカマ 最上川岸、福原—177. *V. pallida, Turcz. var. japonica, Max.* ヌンハ
 くらふち(新稱) 女鹿—178. *V. sativa, L.* ヤンスエンダウ 鳥海山麓—179. *Lathyrus maritimus, Bigel.*
 ハマエンダウ、ハマヨドメ(方言) 青塚、酒田、鼠ヶ關—180. *L. palustris, L. var. pilosus, Ledeb.* 〇
 のれんりちう(新稱) 福原、小泉、鶴岡—181. *Amphicarpaea Edgeworthii, Benth. var. japonica, Oliv.*
 ヤブマメ、キツメ(方言) 鶴岡—182. *Dumasia truncata, S. Z.* ノサ、ゲ、金峯山—183. *Glycine Soja,*
S. Z. シルマメ 山寺—184. *Apios Fortunei, Max.* ホト松嶺、少蓮寺、坂本—185. *Pueraria Thunbergiana,*
Benth. クズ、クン(方言) 松嶺—186. *Cladrastis amurensis, Benth. var. Buengeri, Max.* イヌトシ
 エンシユ(方言) 鬼坂峠—187. *Sophora angustifolia, S. Z.* クラシ、ヒカマラコ(方言) 堀野、観音寺—188.
Gleditschia japonica, Miq. サイカナ 大淵—189. *Cassia mimossoides, L.* カハラケツメイ 松嶺—190.
Albizia Julibrissin, Durazz. ナムノキ、ヨッコノキ(方言) 松嶺
Rosaceae. 191. *Prunus Pseudo-Cerasus, Lindl.* サクラ 鳥海山、飛鳥—192. *P. Cerasoides, Max.* チャヤシ
 サクラ 月山、鳥海山—193. *P. Miqueliana, Max.* ヒガンザクラ、ヤマザクラ(方言) 松嶺—194. *P. sp.* 杉澤

莊内産顯花植物

- 195. *P. Grayana*, *Max.* ウンニヅザクラ、コンカサキツラ(方言) 松嶺—196. *Aruncus sylvestris*, *Kost. var. americana*, *Mecha.* ヤマブキシロウマ、シヨウナ(方言) 月山、松嶺、井田—197. *Spiraea cantoniensis*, *Lour.* コシマリ 松嶺—198. *S. japonica*, *L. f. sinensis*, サシキスナ(方言) 横ノ代—199. *S. betulifolia*, *Pall.* マルバシモツケ 月山、鳥海山—200. *Filipendula kantschatica*, *Max.* シモツケサウ、ねじりつげ 井田—201. *F. purpurea*, *Max.* ギヤウガノロ 小國—202. *Kerria japonica*, *DC.* ヤマブキ 松嶺—203. *Rubus peccinellus*, *Max.* コボンノユイチゴ 鳥海山—204. *R. crataegifolius*, *Bunge.* サンザシノイチゴ、クマイチゴ(方言) 松嶺—205. *R. palmatus*, *Th.* キンヂイチゴ、イチゴ、イチゴツラ(方言) 松嶺—206. *R. spectabilis*, *Pursh.* ヲリンナイチゴ、クマイチゴ(方言) 月山、鳥海山—207. *R. parvifolius*, *L.* ナンメロイチゴ、クサイチゴ(方言) 観音寺—208. *R. phoenicolasius*, *Max.* エビガライチゴ 松嶺—209. *Geum strictum*, *Ait.* オホダイコンサウ 關根—210. *G. japonicum*, *Th.* ダイロンサウ 松嶺—211. *G. dryadoides*, *S. Z.* イングルマ 月山、鳥海山—212. *Waldsteinia sibirica*, *Tratt.* コキンバイ 坂本—213. *Fragaria elatior*, *Elmh.* シロバナヘビイチゴ 月山—214. *F. indica*, *Andr.* くぶイチゴ 鶴岡、観音寺—215. *Potentilla gelida*, *C. A. Mey.* むぎすくさなばら 月山、鳥海山—216. *P. fragarioides*, *L. var. sprengeliana*, *Max.* キジムシロ 坂本—217. *P. fragarioides*, *L. var. ternata*, *Max.* ミンバンチヅリ 鳥海山麓—218. *P. anserina*, *L.* ツルキンバイ 小岩川—219. *P. chinensis*, *Ser. var. hirtella*, *F. S.* カハラサイチゴ 女鹿—220. *P. Wallichiana*, *Del.* オくぶイチゴ 牧會根—221. *P. centigiana*, *Max. var. japonica*, *Max.* オクべイチゴ 小泉—222. *Agrimonia pilosa*, *Ledeb.* キンミツヒキ、イチナクサ(方言) 松嶺—223. *Sanguisorba*

tenuifolia, Fisch. var. alba, Trant. et, Mey. ナガホノシロフシモコウ 南野—224. *S. canadensis*, Torr. et Gray. var. media, Max. シロバナトウチサウ 月山、鳥海山—225. *Rosa multiflora*, Th. var. adeno-phora, F. S. ノイバラ、ノヅラ(方言) 観音寺、狩川—226. *R. rugosa*, Th. ハヤナス 酒田—227. *Pyrus Torings*. Sieb. ヤツモノ、ズミ 森片—228. *P. Aria*, L. var. *kumaonensis*, Wall. ウラシロノキ 松嶺、羽黒山—229. *P. Miyabei*, Sarg. (*P. alnifolia*, Koch.) アツキナシ 松嶺、湯田川—230. *P. sambucifolia*, Cham. et Schlecht. みやまなノカサヅ、シヤケシ(方言) 月山、鳥海山—231. *P. anouparia*, Gaertn. var. japonica, Max. ナノカマド 松嶺—232. *Photinia villosa*, DC. カマツカ、ヤマナシ(方言) 観音寺

〔未完〕

黒岩恒氏採集琉球植物 (承第九十七號)

牧野 富太郎

Mr. Hisashi Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants. (Continued from

No. 97.) By Tomitaro Makino.

(23) *Aspidium* (*Polystichum*) *Sp.*

やへやまごらのを(田代安定氏) (しだ科) 小本ノ一羊齒ニシテ四五寸其葉叢生シ葉軸細長羽片多數全葉ノ狀線形ヲ成ス其形貌頗ル英領印度地方ヨリ臺灣ニ産セル *Aspidium anniculatum* Sw. (四國産) ちてんだハ或ハ此品乎) ニ類似ス予ハ不日其詳狀ヲ公布ス可キ期アルヲ信ズ ○入表島仲間村(明治廿五年八月十四日黒岩恒氏採、第一回ノ第廿號)

(24) *Thuarea sarmentosa* Pers. (= *Thuarea latifolia* R. Br.; *Thuarea media* R. Br.; *Thuarea involuta* R. Br.; *Ornithocephalochloa arenicola* Kurz.)

くろスは^カ、(牧野) (禾本科) 禾本科ノ一族 Panicæ 所屬ノ一植物ニシテ海濱沙丘ノ上ニ長ク匍匐シ節々鬚根ヲ下シ稈ハ瘠長ニシテ毛ヲ帶ビ葉ハ披針形ニシテ兩面無毛タ^レ其邊緣ニ糙澁毛ヲ生ズルノミ又小舌ハ上下ニ狹ク横ニ長クシテ毛多ク鞘ハ其縁邊ヲ除クノ外亦無毛ナリ花穂ハ横臥セル稈節ヨリ生ジテ朝上セル枝梢ニ在リテ穂下ニ佛燄狀ノ一苞ヲ具ヘ花穂ヲ擁セリ苞ノ外面ニハ疎毛ヲ布ケリ花穂ノ梗軸ハ擴張ノ頗ル肥厚トナリ前ハ縱溝ヲ成シ後ハ隆背ヲ成ス全面ニ白色ノ細軟毛ヲ密布シ穗長約ソ三四分アリ小穂ハ縱ニ一列ニ生ジテ梗軸ノ内側内ニ相駢ビ上部ノ四小穂ハ各二個ノ雄花ヨリ成リ最下ノ一小穂ハ雄花一個ト兩全花一個トヨリ成レリ穎ノ外面ニハ細毛ヲ生ジ雄蕊ハ三數ニシテ花絲ハ絲狀、葯ハ線形ナリ花柱二數子房ノ頭端ヨリ分出シテ子房ヨリ長ク密毛ヲ攢束シタル柱頭ハ花柱ヨリヤ、長シ穂軸ハ花後漸次ニ増大シ遂ニ中部ヨリ屈折シテ全ク密ニ穎果ヲ掩蔽シ一ノ大粒ヲ成ス其狀極メテ奇ニシテ他ノ禾本ニ於テ見ル可カラザル殊態ヲ呈ス ○石垣島四箇村海濱(明治廿五年八月九日黑岩恒氏採、第一回ノ第廿一號) ○琉球産ノ品ハ其葉上無毛ノ點ニ於テ他地方(濠洲「マダカスカル」島、「ソサエチ」諸島并ニ「ニコバル」諸島)産ノモノト相異ナレリ然レ予ハ此ニ之ヲ一ノ特殊ナル變種ト認ムルノ極メテ早計タルヲ信ズルヲ以テ今之レニ論及スルヲ欲セズ ○此屬ハ單ニ *Thuarea sarmentosa* Pers. ノ一種ヨリ成ルト雖レ亦之ヲ其標徵ノ異同ニ徴シテ四個若クハ五個ノ異品ニ分ツテ得可シ其散布ハ廣ク前記濠洲、「マダカスカル」島、「ソサエチ」諸島并ニ「ニコバル」諸島ノ間ニ跨ガリ延テ我琉球ニ及ベルナリ黑岩恒氏ノ採集ハ始メテ我版圖内ニ之ヲ産スルヲ確

認セシメタルモノト謂フ可キナリ

(25) *Goodyera procera* Hook. (= *Nectia proera* Ker; *Goodyera carnea* A. Rich.; *Cloniaceus lanceolatus* Breda; *Cordylestylis foliosa* Falconer; *Goodyera lanceifolia* Franch. et Sav.)

さんぎんさう (らん科) 葉ハ有柄、葉面ハ長橢圓形ヲナシテ兩端漸次ニ殺ゲテ末尖レリ予ノ標品ハ花穂

ヲ有セザル極メテ不完全ノモノナリ ○入表島仲間村齋間 (明治廿五年八月十四日黒岩恒氏採、第一回ノ

第廿一號b) ○本種ハ亦英領印度「チャバ」島、支那及ビ臺灣ニ産ス未ダ本邦内地ニ自生アルヲ知ラズ然レ
凡往々花戸ニ培養セラル、ヲ見ル

(26) *Triumfetta rhomboidea* Jacq. (= *Triumfetta angulata* Lam; *Triumfetta angulata* Lam. var. β .
acuminata Wall; *Triumfetta Parvanna* Roxb; *Triumfetta trilocularis* Roxb; *Triumfetta vestita* Wall.)

かぢのはらせんさう(田代安定氏) (しなのさ科) 直立一年生本ニノ莖葉兩ニ粗毛ヲ被ムル葉ハ長柄ヲ有

シ澗クノ淺ク三岐ス邊縁ニ鈍鋸齒ヲ駢列シ且ツ鈍頭ナリ而シテ底部ハ圓形ヲ成ス予ノ標品ニハ花ヲ有セズ且

ツ極メテ不完全ナリ 石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第廿二號) ○亞細亞、亞

非利加及ビ亞米利加ノ熱帶地ニ廣布シ殊ニ亞細亞洲ニ在テハ英領印度、支那ノ東南部地方并ニ臺灣ニ在リ

而シテ亦馬來諸島ニ産スルヲ知ル ○Bentham氏曰ク「花ハ細小、黄色ニシテ葉腋ニ密集シ萼片殆ンド無毛長

サ凡ソ二英分アリ花瓣ハ微ニ萼片ヨリ長ク滿ハ卵圓形或ハ圓シ凡ソ二英分アリテ滿面ニ生ゼル刺ノ間ニハ
軟毛ヲ布ケリ刺ハ時ニ一英分ノ長アリ」ト記ノ以テ參考ニ供フ (未完)

◎ 雜 錄

○ 繇條書屋植物雜記 (其十八)

牧野富太郎

● 日本「フロラ」ノ新品むぎがらがやつり

Pycurus angulatus Nees (= *Cyperus angulatus* Nees;

Cyperus unioloides R. Br.; *Cyperus bromioides* Willd.;

Cyperus lanceus F. Muell.; *Cyperus luteolus* Boeckl.;

Cyperus tosaensis Makino.) ナルかやつり科ノ一

草アリ南ハ濠洲ニ産シ東ハ南米巴西國ニ見西ハ南部亞

非利加ニ生シ東印度ノ地亦之レガ産區タリ而シテ此品其

最北ノ産地ヲ實ニ我日本トナス明治十八年十月二十七

日始メテ之ヲ土佐國幡多郡ノ南瀬頭集村^{カシノヘ}濕沭ノ地ニ採

收ス是レ本品ノ本邦「フロラ」トシテ吾人ニ承認セラレタ

ル始メナリ程高サ二三尺瘦長ニシテ葉亦瘦セタリ而シテ

ヨリ短シ苞葉二三數、繖梗二三出、四五數ノ小穗相接

在シ各小穗平廬長橢圓形ニシテ其色褐黃ナリ穎片濶ク

略、剛シ果粒ハ暗灰色橢圓形ニシテ稍平廬而シテ著シク穎

ヨリ短ク其側縁ヲ以テ小軸ニ向ヘリ花柱兩岐シ雄蕊三
數ナリ予ハ嘗テ新稱ヲ之ニ與ヘテ之ヲむぎがらがやつ
りト云ヘリ

● 日本「フロラ」ノ新品あづますげ

Carex adumana Makino (nova spec.) ナル新學名ノ

下ニ予ハすげ屬ノ一種ヲ記述ス可シ根莖斜メニ横臥シ

數多相並ビ以テ一座ノ叢ヲ成ス花時新葉未ダ暢ビズ而

シテ去年ノ舊枯葉ヲ伴フ葉幅約ソ半「セ、メ」アリテ滿面

ニ毛ヲ布ケリ鬚狀ノ花梗疎々タル傘形ヲ成シテ直ニ葉

腋ニ出デ雄穗ヲ其頂ニ戴ケル一梗ハ直立スト雖モ雌穗

梗ハ之ヨリ短クノ點頭シ穎ハ紫褐色果粒ハ其表面ニ毛

ヲ有ス明治廿七年四月五日始メテ之ヲ常陸筑波山中ニ

採ル本年四月再ビ之ヲ武藏秩父地方ノ山地ニ集ムあづ

ますげノ新稱ヲ之ニ命ジ以テ稱呼ニ便ニス Franchet

并ニ Savatier 兩氏合著ノ日本植物目錄中ニ之ヲ見ズ

其狀略、北米産ナル *Carex umbellata* Schk. 及 *Carex*

pedunculata Nees. ニ似ル所アリ然レモ固ヨリ全ク別物

ニ屬スルヲ知ル

●日本「フロラ」ノ新品あをてんつき

嘗テあをてんつきノ新稱ヲ命ジタルかやのりぐさ科てんつき屬ノ一草アリ今其學名ヲ擧グレバ

Fimbristylis verrucifera Makino.

== *Isolepis verrucifera* Maxim. Prim. Flor. Annu.

p. 300.

== *Fimbristylis nipponensis* Makino in Bot. Mag.

Tokyo, VI. p. 47.

ノ如シ一年生ノ小草ニシテ砂地ニ生ジ科苗ヲ成ヌ無毛ニ
ノ葉ハ莖本ニ一二數ヲ具ヘ鬚狀ニシテ短シ莖ハ數多一處
ヨリ發出シテ横斜シ細長ニシテ長キモノ四五寸アリ頂ニ
繖梗ヲ分チ梗一一八數許、苞葉ハ二―四數許鬚狀ニシ
長ク繖梗ニ超ユ繖梗ハ頂ニ各一花莖即チ小穗ヲ戴キ
中央ノ一小穗ハ全ク無梗ナリ花莖ハ淡綠色ニシテ圓錐形
卵形若クハ長橢圓狀卵形ヲ成ヌ穎鱗次ノ密生シ長橢圓
形、薄膜質白色透明ニシテ淺キ舟形ヲ成シ中脈頗ル大ニ

ノ綠色ヲ呈シ頂邊ニ延出ノ銳尖ヲ成シ且ツ眞直ナリ雄
蕊一個、果粒ハ黃褐色ヲ呈シ線狀長橢圓形ニシテ微ニ彎
曲シ不明ナル横線ヲ印ス果粒ノ長サハ穎長ニ半バシ短
柄アリ兩側ニハ數個ノ大ナル有柄突起アリテ排列シ突
起ハ頭狀ヲ成シ頭部ハ膜質無色ノ數胞ヲ以テ成リ其果
粒ノ兩側ヲ飾ルノ狀誠ニ奇ナリ花柱ハ基部少シク膨大
シ柱頭ハ兩岐シテ纖長ナリ○本品ノ黑龍江地方ニ産ス
ルコトハ既ニ世人ノ知ル所タリト雖モ然ルニ之ヲ本邦ニ見
シテ實ニ近年ノ事ニ屬ス即チ明治二十三年之ヲ常陸水
戸并ニ陸前岩切ニ得シヲ以テ正ニ之ヲ本邦ノ地ニ採集
セシ始メナリトス爾後更ニ之ヲ武藏國利根河畔ノ地ニ
採リ又之ヲ羽前ヨリ得タリ乃チ知ル關東以北ハ之レガ
産區タルコトヲO. B. Clarke氏本品ヲ以テ之ヲ *Fimbristylis*
dissecta Benth. (= *Scirpus dipsacens* Rothb.;
Isolepis dipsacea Roem. et Schult.)ト同種ナリトス然レ
モ其穎末ノ眞直ニシテ背曲セザルト果粒ノ穎ト同長ナラ
ズノ唯其半長ナルトハ主トシテ之レト異ル標點ナリトス

予ハ *F. dipsacea Benth.* ノ標品ヲ得テ兩々相比較シ以テ之ヲ精研セシ後ニ非ザレバ今遽カニ Clarke 氏ノ說ニ從フコ能ハザルナリ

●日本「フロラ」ノ新品とねてんつき

今此ニ *Fimbristylis tonensis Makino (nova sp.)* ナル新學名ヲ下セルてんつき屬ノ一種アリとねてんつき(新稱)ト呼ブ明治廿六年八月始メテ之ヲ利根河畔ノ砂場ニ得タリ其地武藏ニ屬ス小岩村ト云フ全草極メテ能クひめてんつき即チ *Fimbristylis autumnalis Koem. et Sch.* (北米「チャマイカ」「ブラジル」并ニ本邦ニ産ス而シテ東印度ニ見ズ)ニ類似シ其花序ノ如キ全ク相同ジ然レモ小穂ノ形狀彼レガ如ク長橢圓狀披針形ナラズノ濶キ長橢圓形ヲ成シ且ツ穎外ニ超越シ四方ニ散出セル褐色柱頭ヲ以テ之ヲ裝飾セル狀ハ直ニ本種ノ殊ニ他ト標異セルヲ知ルニ足ル可シ而シテ穎ハ長橢圓形ニシテ中脈一條ヲ有シ其尖端上ニ斗出ス舟形ニシテ其色白ク其質薄膜様ニシテ淡褐色ノ采アリ以テひめてんつきノ卵形ニシテ

色深キト同ジカラズ加之ひめてんつきニ在テハ柱頭花柱ヨリ短ク且ツ穎外ニ出デズト雖モ本品ハ之ニ反シ毛ヲ有セル柱頭(三岐ノ反曲ス)ハ長大ニシテ其長サ花柱ニ超ヘ而シ著シク穎外ニ超出シ小穂ヲシテ爲メニ一種ノ特徴ヲ呈セシムルニ至レリ

●日本「フロラ」ノ新品さかばやしん

新學名 *Asarum sakawanum Makino (nov. sp.)* ノ下ニ予ハさかしん屬ノ一新種ヲ公示ス可シ此種予ガ郷里土佐國高岡郡佐川村市街附近ノ山地ニ普通ニシテ予ハ幼時ヨリ此植物ニ慣熟セリ今佐川村ニ多キノ故ヲ以テ其村名ヲ取テ之ヲ其種名ニ擇ビ以テ之ヲ標示シ且ツ新ニ其通名ヲ選ンデ之ヲさかばやしんと呼ベリ○本邦ニ産スルさかしん屬 *Asarum* ニ七種(琉球ニ別ニ一種アリ今姑ク之ヲ省ク)アリ就中(甲)其莖壺内平滑ニシテ隆起セル縦脈ノミヲ有スル者亦一種(*A. Sieboldi Nag.*)アリ此二種共ニ其葉一年生タリ其他(丙)ノ諸種(*A.*

variegatum, Blumei, albivenium, parviflorum, et Thunbergii) ハ皆悉ク萼壺内ニ隆起セル網眼脈絡ヲ有シ其葉霜雪ヲ凌イデ凋マズ今此ニ命名セル新種 *Aserum sakawanum Makino.* ヲ取テ之ヲ此等ノ諸種ト比較ス

ルニ當テハ其隆起セル縦脈ヲ萼壺内ニ有スルノ點ハ(乙)ナル *A. Sieboldi Miq.* ト相一致シ其葉ノ常緑ナルハ(丙)ノ諸種ト擬スルヲ得可シ然レモ其萼裂片ノ延長セル三角形ノ狀貌ハ一モ他ニ比ス可キナシ予ハ乾腊標品ヲ有スト雖モ記述ノ便ヲ得ンガ爲メニ尙ホ酒精ニ浸セル材料ヲ得ルニ力メリ故ニ不日其委曲ヲ公示ス可キ期アルヲ信ズ

● 琉球産 *Sedum uniflorum.*

田代安定氏編輯沖繩諸島植物譜(未刊稿本)ニ云フ「こいめまんねんぐさ 各島砂濱間ニ生ジ一根數莖若クハ數十莖ヲ抽キ巨叢ヲナス葉ハ短細多肉ニノ略ホ米粒ヲ綴ルニ似タリ故ニこいめまんねんぐさノ假號ヲ附ス花實未檢」ト而シテ同氏ノ沖繩島并ニ八重山島ニ於テ採集

セラレタル乾腊標品(花實ヲ具ヘズ)ハ理科大學ノ標品彙中ニ在リ其生本ハ本年五月沖繩縣尋常師範學校黒岩恒氏ノ惠送ヲ忝フシ今現ニ帝國大學植物園ニ在リ田代氏ハ又之ヲこいめまんねんぐさ又ふきづめまんねんぐさト呼ビタルヲアリ○予ハ始メ田代氏採集ノ標品ヲ大學ニ見ルヤ乃チ本品ノ内地産たいとごめ即チ *Sedum*

oryzifolium Makino. ト同一ノ品種ニ非ザルヲ認メタリ然レモ花實ナキヲ以テ其詳細ヲ知悉スルニ由ナク從フテ其學名モ亦未考ノ中ニ在リシ黒岩氏送致ノ生本植物園ニ在テ六七月花ヲ著ケ莖頭一花ヲ戴キたいとごめノ花穂ヲ成スガ如キニ肖ザルヲ見ルヤ此ニ至テ始メテ本品ノ *Sedum uniflorum Hook. et Arn.* タルヲ知ルニ至レリ此種ハ始メ *Beechley* 氏航海書中ニ於テ極メテ簡略ニ記述サレタル一品ニシテ其莖ノ二根ヨリ叢生スルガ如キ又下部ノ葉ノ筒狀ヲ成スガ如キ誠ニたいとごめト同シカラズ○*Hemsley* 氏著支那植物目錄中 *Sedum uniflorum Hook. et Arn.* ノ下ニ附記シテ曰ク 'The

same or a closely allied species is in Oldham's Japan and Corean collections without a locality.....”ト是レ恐クハ *Sedum uniflorum Hook. et Arn.* 其物ニ非ラズ内内地ノ海瀕ニ稀少ナラザル *Sedum oryzifolium Makino.* 即チたいとごめナラン

●日本産 *Alocasia* 屬二種

Alocasia 即チくはずスも屬ハてんなんしやう科ニ屬ス本邦版圖内新領臺灣ヲ除キテ本屬ノ者二種ヲ産ス一ハ四國ノ南端及ビ九州ヨリ延テ琉球諸島ニ見ルくはずスも一名シスも、とくも(草木圖說ニ百品考ニ據テさんしやうとん)是ナリ學名ヲ *Alocasia macrorrhiza Schott* (= *Arum macrorrhizon* Linn.; *Colocasia macrorrhiza* Schott.) ト稱ス一ハ琉球ニ産ノ内地ニ見ズしやくはずスも(新稱)ト呼ブ *Alocasia cucullata Schott* (= *Arum cucullatum* Lour.; *Colocasia cucullata* Schott.) 即チ是ナリ兩種共ニ其相貌概テ相類スト雖モ其葉脈ニ留意セバ則チ之ヲ識別スル敢テ難シトナサズ

即チ支脈ノ排列中肋ノ兩側ニ羽狀ヲ成ス者ハくはずスもニ支脈主トノ葉ノ下部ヨリ射出シ彎曲ノ走ル者ハしまくはずスもナリ琉球ニ在テハ此兩品一處ニ雜生スト雖モ乙種ハ甲種ヨリ少シト云ヘリ本年五月黒岩恒氏之レガ生本數株ヲ遠ク琉球ヨリ贈ラル乃チ之レヲ帝國大學植物園ニ獻ズ○くはずスも屬 *Alocasia* ハちとスも屬 *Colocasia* ニ類似ス然レモ子房ノ裏胚珠僅數ニノ房底ニ直立スルニ由リ之ヲ *Colocasia* 屬ノ胚珠多數ニ側壁胎座ニ附著スル者ト相分テリ而シテ胚珠ノ位置ハ頗ル切要ナル標徴ニシテ Engler 氏之ニ基キテ **COLO-CASIEAE** 即チちとスも族ノ諸屬ヲ二亞族ニ綜ヘ區チ其側壁胎座ニ著生セル胚珠ヲ有スル者ヲ *Colocasineae* 即チちとスも亞族ト定メ底生セル胚珠ヲ有スル者ヲ *Alocasineae* 即チくはずスも亞族ト定メリちとスも即チ *Colocasia Antiquorum Schott* (= *Arum Colocasia* Linn.) はずスも即チ *Colocasia gigantea Hook. fil.* (= *Leucocasia gigantea* Schott; *Colocasia Indica* Engl. non Kunth.

而シテ *Colocasia indica* *Kunt.*、即チ *Alocasia indica* *Schott.* ノ異名ニシテ Engler 氏ハ之ヲ *Colocasia gigantea* ト混同セリ此植物ハ本邦ニ生セズ、ハ甲亞族ニ隸シクはずも屬ハ乙亞族ニ屬ス

○高山ノ花 大久保 報

同一種類ノ植物ニシテ高山ニ生ズルモノハ低處ニ生ズルモノヨリ花色燦爛タル品夥多ノ例ヲ擧ケテ甲ノ然ル所以ハ受精ノ媒介トナルベキ昆蟲ノ高處ニ寡少ナルニ歸セリ生存競争場裏ニアリテ存命シ得ル植物ハ特ニ花ノ大若クハ美ニシテ昆蟲ヲ誘フ力ヲ有スルヲ要ス、夥多ノ昆蟲ハ高山ニ在リテ寒氣ノ爲メ凍死スル如キハ黄昏ニ當リ雪光ノ爲メニ誘惑セラル、ニアリトハドクトルジョリー氏ノ解ク處ナリ

○「アルカンナ」 大久保 三郎

西部亞細亞及歐州ノ南東部ニ草アリ名附テ *Alkanna tinctoria* トイフ紫草科ニ屬ス高サ一尺ニ達スルハ罕ナ

リ花ハ藍色ニシテ咽喉紫色筒部ハ白色ナリ根ハ多年生ニシテ尺内外ニ達ス太サ指ノ如シ「アルカニン」ト稱スル紅染素ヲ含有ス依テ以テ紅色ノ染料及貼料ヲ用ヒテ他色ヲモ製出ストイフ此ノ染料ハ油類ヲ染色ス故ニ髪油ノ染料ニ用ヒ或ハ油中ニ根ヲ浸シ其油ヲ以テ花梨木ローズヲ模擬セル料トナス、油ヲ美麗ノ紅色ニ染ムルヲ以テ植物組織中ニ含有セル油類ノ試験藥ニ用フ染素ハ「アルコール」ニ容易ニ溶解ス、樹脂ヲ染色スルニハ點檢スベキ標品例セバ樞材ノ薄片ヲ水ニテ裝置シ乾燥セル「アルカンナ」根皮ヲ薄ク切り水ニテ洗ヒ塵埃ヲ除去シ樞ノ薄片上ニ置キ覆ヒグラスヲ覆ヒ五十%亞爾箇保兒ヲ流入シ二、三分長キハ半時間乃至一時間ノ後「アルカンナ」皮ヲ除キ顯微鏡下ニ材ヲ瞰ヘバ樹脂ハ暗紅色ヲ呈スベシ樹脂ハ亞爾箇保兒ニ溶解シ易キヲ以テ成ルベク水ヲ多量ニ使用スルヲ要ス「アルカンナ」丁幾ハ半時間乃至一時間ノ後ニハ原形質ヲモ稀薄ナル薔薇色ニ染色ス

○植物名稱考

野村彦太郎

第二 Tobacco と Tea.

今日我國ニ喫用スルたばこ(烟草)ノ義ニ就テハ諸説アリテ一定セス一説ニ據レハ亞墨利加土人ガ喫用スル器具ノ Tabac ニ出ヅト Robert Bently 氏ノ藥用植物編及ヒ Webster 氏 英辭典ニモたばこノ語ハ西印度即チカリフピア人カ喫煙セシ管名ナルヲ直ニ其草ノ名トセシナリトイヘリ然レモ他説ニ據レバ西班牙人ガ墨西哥ノユカタンナル Tabaco (或ハ Tabago) 島ニ於テ始テ之ヲ發見シタルニ起ルト余ハ前説ヨリ寧ロ後説ヲ採ルモノナリ古事記袋ニモ亦、玄澤氏カ薦録ヲ引キテたばこノ島名ナルコトヲ證セリ其説ニ曰クたばこト云ハ亞墨利加ノ中ノ小島ノ名ナリト目ざまし艸ニモ此説ヲ採レリ又外務省刊行ノ外交志稿ニモ後陽成天皇慶長十年乙巳(西曆一千六百五年)葡萄牙人烟草ノ種子ヲ南海たばこ嶋ヨリ傳ヘテ本邦ニ傳フト此等ニ據ルルハたばこハ島名ナルヲ明ケシカ、ル故ニヤたばこ萬國其語勢

相似タリ例之ハ佛國ニテハ Tabac トイヒ獨國ニテハ Tabak トイヒ以國、英國ニテハ Tobacco ト云フ今日、我國ニテたばこト呼ベルハ蓋シ西班牙語ノ Tabaco ニ基クナルベシ支那國ニテモ淡巴菰香祖筆記、姚旅露書書隱叢說漳州淡把姑物理小識淡婆姑支峯類說擔不歸秘傳淡芭姑府志淡把姑秘傳花傳淡婆姑類說擔不歸花鏡ナドト書クモモト外國ノ字音ヲ借リシ名ナルガ故ナルベシ茲ニ最モ怪ム可キハ Loureiro, Dallas, Rumphius, Willa 諸氏ノ説ニ據レハ閣龍氏ガ未ダ亞墨利加國ヲ發見セザル前、既ニ亞細亞地方ニテハ喫煙セリト云ヘリ(林娜氏、フンホルド氏等ノ説ハ全ク之ニ反セリ)然リト雖モたばこノ亞細亞ニ自生アルコトハ事實ニシテ Lancaster 氏ハ其著書ニ亞細亞種トシテ Nicotiana Rustica 及ビ N. Persia ノ二種ヲ擧ゲ Wood 及ビ Baehne 兩氏合著ノ書ニハ亞細亞種トシテ N. frutescens ノ一種ヲ記述シタリカ、ルたばこノ亞細亞ニ自生アルヲ見テ喫煙法モ既ニ行ハレシモノト附會セシモノナラン歟余ハ其説ノ當否ヲ詳ニセズト雖モ兎ニ角亞細亞ノ他國ハイザ知ラズ支那國ニ

テハ古クヨリ喫煙法ノ行ハレザリシヲハ清姜文燦謝
 レ贈^{タバコ}煙啓ニ神農百草親管^{ラム}。獨遺^{ラス}其味^ナ。張^ツ騫^フ徧植^ス。未
 レ列^セニ斯珍^ナ。云々ノ句アルヲ見テモシルシ

今日我國ニテ茶ヲちやト稱スルハ支那音ニ據レリサレ
 ハ茶ヲ英語ニテ Tea トイヒ佛語ニテ The トイヒ獨語
 ニテ thee ト云ヘルモ皆支那音ノ轉ナル可シ又此羅甸
 語ニ Thea ト命名セシハ Kampher 氏ニシテ支那音ノ Teh
 ノ音ヲ採リシト云フ扱我國ニテ茶ト云フモノ、正史ニ
 見エシハ最モ古キコトニテ嵯峨天皇、弘仁六年近江ノ國
 滋賀、韓崎^ニ行幸ノ時崇福寺ノ大僧都永忠茶ヲ煎シテ奉
 リシヲ類聚國史ニ詳カナリ、サレモ何レノ國ヨリ之ヲ
 傳ヘシヲ載セズ兎ニ角是レヨリ先^キ。外國ヨリ傳ヘシ
 モノナリトハ既ニ古人ノ論スル所ニ筆のすさび等ノ
 書ニハ傳教大師支那ノ種ヲ舶齎シテ江州坂本ヘ栽エ玉
 ヒシヲハ坂本日吉社ノ舊記中ニ見ユト又類聚國史ニ據
 レハ同年六月壬寅令^ニ畿内并近江、丹波、播磨、等國植
 レ茶每年獻^ニ之ト見エ又内裏ニ方一町ノ茶園ヲ置レシヲ

モ拾芥抄ニ見ユレハ當時茶樹ノ栽培モ行ハレシカ知シ
 ト雖^レ何^レ時^{イッシカ}其茶種モ中絶セシモノニヤ重テ明惠上人、

支那ノ茶種ヲ得テ梅尾ニ植エ後チ之ヲ宇治ニ移シタリ
 然ルニ他書ニハ誤テ此時ヲ以テ我國ニ茶種ヲ輸入セシ
 紀元トナスモノ多シ Siebold 氏モ亦其著書ニ此誤ヲ傳
 ヘタリ其說ニ明惠 (Samuel Ball 氏ノ著書ニハ Meo-we
 トアリ蓋シ Meo-we ノ誤植ナルベシ) ナル一僧、支那
 國ヲ旅行シ同國ヨリ茶種ヲ携帶シ此種ヲ皇城ヲ去ル二
 里ナル梅ノ尾ノ山ニ植エシヲ記シ且ツ之ニ附記シテ曰
 ク凡ソ茶樹ハ北緯三十度ヨリ三十五度ニアタル日本ノ
 南部ニアツテ田間ノ徑^{ユミチ}、大道ノ傍^ヲ、及ヒ畦上ニハ恰モ
 自生スルカ如ク繁茂シ或ハ又瘠田ニ之ヲ栽培スルアル
 モ山丘ニ登ルニ隨ヒ之ヲ見ズ故ニ同氏ハ日本ノ茶樹ヲ
 以テ輸入品ト判定シタリ然レモ Siebold 氏ハ茶樹ノ元
 產地ヲ朝鮮ニ歸シ同國ヨリ支那ニ傳ヘシモノトナセシ
 ハ最モ疑惑ニ堪ヘザル所ナリ今茲ニ嘗テ東印度會社茶
 業監督官タル Samuel Ball 氏ノ說ヲ掲ゲバ自カラ其疑

或モ水解シ得可シ其說ニ曰ク德宋 (Te Tsong) ノ十四年ニ茶稅ヲ興セシコハ(資治通鑑綱目ヲ按スルニ唐ノ德宋ノ貞元九年ト見エ) Siebold 氏ノ所謂ル朝鮮ヨリ支那國ニ傳ヘシ時即チ西曆八百二十八年ニ先ツコト三十年(其實際ヲ調査スルニ此年數ニ超過セリ)ナルヲ見テモ同氏ノ說ノ誤レルヲ證スルニ足レリ又同氏ノ日本ニ就テ述ベタル前說ヲ茲ニ引證スルキハ愈ヨ自家撞着ノ說タルヲ免レズ何トナレバ現近茶樹ノ自生スル處ハ其本產地ナリト然ルニ今ニ支那中部ノ山丘ノ間ニハ茶樹ノ自生アレハナリ余ハ今茲ニ東國通鑑ヲ引用シテ Ball 氏ノ說ノ確實タルコトヲ證スベシ同書ニ新羅國遣_ニ大廉_ニ如_{ユキ}唐_ニ得_ニ茶_子來_ル王命_{シテ}智_山 (唐文宋太和二年)是乃朝鮮國種_ニ茶始ナリト(和漢三才圖會ヨリ引用セリ) Ball 氏ノ說ニ據レハ楊子江邊ヨリ支那ノ西南部ニ達スルノ地勢ハ甚タ高カラズシテ茶樹ノ自生ヲ見サルモヒマラヤニ接スル山脈ニハ一面ニ茶ノ自生ヲ見ルトサレバ近時 Dr. Farconer 氏ガ茶ノ異種ナリト稱スルあツ

さむ茶モ此近傍ニ於テ發見セリト此レニ由テ之ヲ觀レバ支那近傍ハ茶樹ノ本產地ニシテ我國ノちやトイヒ泰西ノ Tea トイヒ Thee トイヒ The トイヘルモモト支那音ヨリ導キシコト明カリ

○「バクテリア」ノ說 (九十九號ノ續)

K、D、山人譯

能ク齊整具備シタル水道ニ於ケル大仕掛ノ澆水法ノミ汚水中ヨリ含蓄セル微菌ヲ除去スルニ足ル一ノ方法トナルベシ
微菌ヲ殺スニハ少クトモ一時間許水ヲ沸騰セシムレバ可ナリ故ニ若シ飲料水ニシテ病毒ヲ發生若シクハ養成スルニ疑アル時之ヲ清潔ナラシムルノ法ハ只此一法アルノミナリ此清潔法タルヤ實ニ容易ニシテ各人之ヲ爲スヲ得ベク然スルニ於テハ各人自分清水ヲ供シ得ラルモノニシテ此レ通常多クノ市街中ニ傳送セラル、モノト異ナルコトナシ

飲料水不潔ニシテ病毒傳播ノ危険既ニ一般ニ知レ渡リタル時ハ各人ハ最モハヤ銘々ニ其水ヲ清潔ナラシムルノ勞ヲ取ルニハ及バザルナリ何トナレバタトヘ常ニハ政府若クハ私立共同會社等ノ貪慾ナル又一般人民ノ不學無情ナル決シテ衛生上又ハ飲料水監督保護ノ上ニ意ヲ注ガザルベキモ斯ル時ニ際シテハ最早是等病毒ノ掃蕩策ニ一步モ躊躇シ得ザレバナリ

田舎ニ住居スル人及ビ夏時保養ノ爲メ暑ヲ田舎ニ避クル人ハ能ク注意シテ井水ヲ用ヒタキモノナリソヲ如何トイフニ市外村落ニ於ケル井戸ニ竄入シ來レル水ハ其邊ノ土地ヲ通過スルモノナレバ通常ノ場合ニハ爲メニ其不潔分子ヲ漉シ去リテ清淨ナルコト無論ナレドモ間々土地ノ表面ヲ流レ來レル水ガ井戸口ヨリ入り込ムコトアルノミナラズ其近邊ニ在リテ洗濯ナドナスコトモ屢々ニシテ又不潔ナル水ガ直ニ其中ニ浸入スルコトモ少シモ其不潔ヲ取り去ルコトナクシテ之ヲ汲ミ上グルコトアリ、サレバ廣告若シクハ新聞紙ナドニテ身體保養

ニ適セルトコロナリト誇稱セル旅宿ニシテソノ井戸ニ近ク塵穴小屋豚小屋等ノアルコトハ田舎ニ於テ通例見ル所ナリ是レ唯ニ廉價ナル旅宿ニ於テ然ルノミナラズ人氣アル家ニ於テモ又然リ

避暑ノ爲メ自ラ田舎ニ遊ブモノ或ハ家族ヲ行カシメントスル人ニハ先ヅ其地ノ飲料水ヲ試ミ其良好ナルヤ否ヤヲ自ラ明カニスベキナリ是事タル實ニ部室ノ大小食料ノ高低、娛樂ノ多少等ヲ考查スルヨリモ其肝要ナルコト更ニ幾何ナルヲ知ラズ然ルニ避暑ヲ企ツル人々ハ常ニ能ク前者ヲ問ヒ究メテ後者ナル飲料水ノ如何ニ至テハ之ヲ等閑ニ付シ去ルモノ多シ

地面ヨリ下八尺乃至二十尺ノ間ニ於ケル井戸側ハタ、キニテ製スベク而シテ地面ノ上ニ出ヅルコト數寸ナラシムベシ其堀リ方ハ井戸口ヨリ漸々廣ク削リ下クベキナリ是レ地上ノ點滴若シクハ水ヲシテ地中ニ竄入スルマデ是非トモ數尺ノ地ヲ經過セシムガ爲ナリ

普通ノ井戸トイヘルハ地面ニ於ケル水カ地中ヲ通ジ來

リテ其中ニ集レルニ過キザルモノナリサレバ人口稠密ナル場所ニ在リテハ元ト水ヲ漉シテ清潔ナラシムベキ効力ヲ有スル土地モ忽チ不潔トナルガ故ニ獨リ水ヲ清クスル能ハザルノミナラズ却テ其中ヲ通ジ來レル水ヲシテ有毒汚穢ノモノトナラシムルモノナリ

更ニ規則ヲ設ケテ避地村落ニ於ケル井水ヲ無害清淨ノモノタラシメムコト此レ頗ル困難ニシテ到底行フベカラザルモノナリサリナガラ少シク衛生ノ道理ヲ聞カシムレバ幾分カ注意ヲナスノ効アランソモ村落ニ於ケル水ノ不潔有害ナルヲ疑フモノハ曰ク井戸ノ所有主ノ父タルモノモ祖父タルモノモ其所有主モ其家族モ皆其井水ヲ飲ミタレドモ高齢ニ達スルコトヲ得タルニアラズヤ以テ其無害ナルヲ見ルニ足ルベシ然レドモコハ所謂一ヲ知テ未ダ二ヲ知ラザルモノナリ何トナレバ長キ間同一ノ場所ニ生活スレバ敗物下水ハ年ヲ經ルニ隨ヒ漸次家ノ附近ニ於ケル土地ノ中ニ侵入シ而シテ市街村落ノ増加スルニ隨ヒ馬小屋羊小屋モ擔端近ク建テ列

スルガ故ニ之ヲ約言スレバ祖先ノ時ト其ノ衛生上ノ狀態全ク變化スルモノナリサレバニヤ實際ヲ覘フニ米國ニ於ケル多クノ村落ノ井水ハ動モスレバ之ヲ用フル人々ノ健康生命ヲ害セントスルノ觀アルモノ、如シ

(未完)

○播磨國ヨリノ植物通信

播磨國揖東郡香島村ナル大上宇氏ヨリ屢書ヲ本會ニ寄セ以テ植物ニ關セル事項ヲ報ゼラル今其書中ニ就テ其二三ヲ評記セン

信天生

●大上氏假稱ノふくらやどりさハ從來既ニひのさばやどりさノ名アリ一名テうづのきト云フ本邦西南地方ニ普通ニ産セリ東京ノ地亦往々之ヲ見ル敢テ奇品ト稱スルニ足ラズ ●山しやくじやう、山どうがらし共ニ方言ナリト云フ蘭科ノ寄生本ナリ其果實ノ効用ハ俗ニ切傷ニ付シ乳瘡及淋病等ニ水煎シ用ヒ効アリト云フト云ヘリ ●蘭科植物トトメ地上ニ塊アリ且ツ二葉ヲ具ヘシ圖

ヲ添エ揖東揖西郡界ノ天乞山ニ産スト稱スル者ハ恐クハくもさうさうナラン花ナキ故判然タラズ蘭科ニ屬ス

●方言山かむとおもひぐさ一名なんばんさせるナリ列當科ニ屬ス●方言ととこざいしんハいちやくさうナ

リ効用ハ俗ニ陰乾シテ煎用シ解熱ノ効アリト云フト記セリ●同氏ノ送レル播磨地方ノ衛矛科植物ノ表ハ名稱

混亂シテ辨ジ難シ方言たうみやうハ何ノ樹カ標品ナケレバ分明ナラズ●日本産ノ植物ニノたけにぐさノ外黄

色ノ乳液ヲ有スルモノニくさのわら及ビやまふささうアリさけまん(方言うばころしナリト云)ニハ黄乳ナク

シテ臭氣アル水様液アリ●延胡索ハ北海道ノ外本州北地或ハ之ヲ産セン●はへとりたけハ處ニヨリ其物ヲ異

ニス故ニ其的物ヲ實見セザレバ其學名ヲ定ムルヤ難シ●大和本草等古書ニ記載セル植物ノ學名ヲ知ラント欲

セバ能ク之ヲ實物ト照合シ其標品ヲ送ラル可ク否ラザレバ能ク其實物詮索ノ上其學名ヲ日本植物名彙、理科

大學植物標品目錄等ニ就テ之ヲ搜索ス可シ●播磨産毛

蕘科表末ノ第一圖ハるりちげ即チ *Anemone Keiskeana* To. ナリ本邦西南地方ノ産ナリ其第二圖ハせつぐんさうナリ其第三圖ハひめうづナリ●播磨産蘭科ト題

セル項下(1)をもとぼくり一名ひとつばぼくり共ニ方言ハさいはいらんナリ、同項中(2)方言ナシ芝蘭ニ似テ

花莖二三尺黄花六月ニ咲クレト稱スルモノ或ハさるめんえびねカ粗圖識ニ辨シ難シ又同項(3)ハとささうナリ

(4)ハぎんらんナリ(5)ハおはやまささうナラン略圖殆ンド明ラメ難シ●なんきんまめ即チ落花生ハ *Arachis*

hypogaea L. ナリ●せるでれー即チこせうやうハ *Lepidium sativum* L. ナリ●おらんだはくハ *Montha*

viridis L. ナリ

○新名稱ニ就キテ 賛化園主人

凡ソ物ニ名稱アルハ一物ト他物トヲ區別センガ爲メナラン火ヲ入ル、物ヲ差シテ火入レトイヒ水ヲ入ル、器ヲ水入レトイフガ如シ又同ジク點燈ノ用ニ供スル器ニ

モ「ランプ」アリあんどウアリ燭臺アリ手燭アリ提燈アリがす燈等種々アリ而シテ誰カあんどウトしよくだいとヲ誤マラン然レモ一品一物ニシテ數多ノ稱呼ヲ有セバ如何錯雜ノ患ヘ果シテナキヤ又新タニ物品若クハ人畜草木等ニ名稱ヲ附セントスルニ當リ川村一名川上一名川田太郎若クハ一郎或ハ始等トセバ如何又鳥類ニテ已ニくろしろさぎノ名稱ヲ附セシモノヲ某ハくろかわりしろさぎト命ジ某博士ノくろしろさぎ是レナリトイフ者アリトセンカ諸人彼レヲ學者トイフヤ將又前記ノ川村一名何々トセバ其人ノ考力ノ多キヲ稱讚ナスヤ度量大ナリトイフヤ見識高シトスルヤ投書家ノ惑フ處ナリ若シ是レヲ多能トヨビ成程ト感服スル者アラバ其惑ヒヤ甚シカララン然レモ文人墨客等ニシテ號、字、ヲ附スルハ敢テ言フヲ要セズ只々植學ヲ學バント欲スル人ノ爲メニハ已ニ前稱アルヲ殊更ニ新稱ヲ下シ若クハ一時ニ夥多ノ名稱ヲ下セバ何ノ益カアル聊感ズル處アリ以テ貴誌ニ投ヌ

◎質問應答

前號ニ掲載セル神保小虎氏ノ質問ニ對シテ本日迄ニ領手シタル應答左ノ如シ

第一(3)、紀藩畔田翠山氏ノ古名錄、及ビ薩藩編輯ノ成形圖說菜部二十八卷ニ芟ノ記事アリ舊時ハ芟ヲ要害ノ爲メニ城ノ堀ニ植タリ此事西山遺事ト云書ニ出タルカト覺フ
神風山人

第二、林中ニ蜜蜂ヲ養フコトハ日向地方ニモアリト見エ賀來飛霞氏ノ日州探藥記ノ中ニ圖說アリト覺フ
神風山人

第一(2)、越前福井平瀬 ○加賀國小松(婦女子多嗜ス)

澤田 ○東京安田 ○肥前國佐賀(小兒嗜食ス爲メニ賣リ歩ク程ナリ 大渡 ○土佐國高知收野

○寄贈書目録

明治廿八年六月廿二日
以降領收ノ分

- | | |
|--|--------|
| 動物學雜誌 第八十號 | 動物學會 |
| 東京醫學會雜誌 第九卷第十二號 | 東京醫學會 |
| 大日本山林會報 第二百五十號 | 大日本山林會 |
| 日本藥業雜誌 第二百六十八號 | 衛生會社 |
| 同志教育 第十號 | 同志教育會 |
| 東洋學藝雜誌 第六十五號 | 東洋學藝社 |
| The Gardeners' Chronicle, Vol. XVII, No. 432, 433, 435, 437. | 1895. |
| Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 4. | 1895. |
| The Journal of Botany, Vol. XXXIII, No. 389. | 1895. |
| Bulletin du Muséum d'Histoire Naturelle, No. 2. | 1895. |

I am not yet ready to decide whether it is the general rule that the quantity of nourishment locally supplied during the development of a flower is the chief cause which determines its sex.

What serves as the cause determining the sex of a flower may differ in quantity and quality in different species according to their "Biologie."

There may be, however, a great number of plants in which the chief cause determining the sex of the flower is the quantity of nourishment locally supplied. In fact, there occurs in flowers of some cultivated plants the transformation of stamens into pistils, while the opposite seems to be very rarely the case. This seems to be certainly in favour of the view.

I may add here that I intend to publish the details of my present communication with plates in some other journal.

July 9th, 1895.

these shoots some "Kurztriebe" of the last year which were transformed into "Langtriebe" of the year. This fact indicates that the local increase of nourishment took place from some cause in the top of these branches.

It is evident from the above discussions that in the two trees I experimented upon no formation of female or hermaphrodite flowers in the positions proper to male flowers took place without some cause that brings about local increase of nourishment.

Moreover, my observations made in several places during the last three years on a great number of garden trees of this species, which are similar in form to the two trees I experimented upon, show that the formation of such abnormal flowers on the shoots of uninjured branches of the last year is extremely rare. I may state here in passing that the two trees I experimented upon are not of the natural shape but rather flat-topped and much branched from the base as are most garden trees of this species.

I made also some experiments in the same species for the purpose of producing male or hermaphrodite flowers in the positions proper to female flowers, but they failed probably on account of a certain error in the method and of other circumstances. However, it is certain that the formation of such abnormal flowers of *Pinus densiflora* takes place, though rare, in nature; for I observed in the spring of 1892 some male or hermaphrodite flowers developed in the positions proper to female flowers in garden trees.

The main points to be deduced from the above are as follows:—

1. Any "Kurztrieb", which is transformed into a "Langtrieb" in case of serious injury of the mother shoot, can produce reproductive organs; thus such a "Kurztrieb" can replace the portion above the injured of the mother shoot both morphologically and physiologically.
2. The sex of the flowers of *Pinus densiflora* is not determined by their morphological positions on the shoot.
3. The sex of the flowers is undetermined until a certain stage of their development.
4. A flower which will otherwise develop into a male has tendency to become a female, when local increase of nourishment takes place at a certain stage or during certain stages of its development.

Number of the branches of the last year whose shoots of the year produced normal flowers in their normal positions.	D. Branches whose shoots of the year were cut off.....	12.
	E. Branches with marks of previous injuries	7.
	F. Branches whose shoots of the year were not cut off, and without marks of previous injuries.....	1385.
Number of all the branches of the last year which produced fertile shoots of the year		1415.

TREE II.

Number of the branches of the last year whose shoots of the year produced female or hermaphrodite flowers in the normal positions of male flowers.	A'. Branches whose shoots of the year were cut off.....	5.
	B'. Branches with marks of previous injuries	4.
	C'. Branches whose shoots of the year were not cut off, and without marks of previous injuries	1.
Number of the branches of the last year whose shoots of the year produced normal flowers in their normal positions.	D'. Branches whose shoots of the year were cut off.....	24.
	E'. Branches with marks of previous injuries	9.
	F'. Branches whose shoots of the year were not cut off, and without marks of previous injuries.....	891.
Number of all the branches of the last year which produced fertile shoots of the year		934.

When the results in both trees are considered together, we see that out of 45 branches on whose shoots of the year I experimented those of 9 branches produced female or hermaphrodite flowers in the positions proper to male flowers; that out of 21 branches with marks of previous injuries the shoots of 5 branches produced female or hermaphrodite flowers in the positions proper to male flowers; and that out of 2283 branches which were neither pollarded nor had any marks of previous injuries the shoots of only 7 branches produced female or hermaphrodite flowers in the positions proper to male flowers. And the ratio $\frac{7}{2283}$ is very small when compared with either $\frac{9}{45}$ or $\frac{5}{21}$.

From this, we may conclude that the formation of such abnormal flowers in these 9 branches (A and A' of the tables) and 5 branches (B and B' of the tables) is mainly due to the effect of the pollarding and the previous injuries.

Besides, all those branches of the last year, which were neither pollarded nor had any marks of previous injuries and yet produced the abnormal flowers in question on the shoots of the year, had just below

of the year of *Pinus densiflora* in their operations of annual pollarding. But the "Langtrieb" which is transformed from a "Kurtrieb" of the last year does not necessarily bear female or hermaphrodite flowers in the positions of male flowers.

From these facts it may be inferred that a flower of *Pinus densiflora* which will develop in normal conditions into a male may be transformed into a female or hermaphrodite, when a local increase of nourishment takes place.

The local increase of nourishment in young shoots of *Pinus* can be easily effected in springtime in the early stages of their development; firstly, by pollarding the shoots and thus inducing all the nourishment in store to be used in the development of the remaining portions of the shoot, especially the flowers and "Kurtriebe" nearest the wound; secondly, by keeping only one or two and breaking off all the other adjacent young shoots at the top of the last year's shoot; thirdly, by combining these two processes.

By applying these processes I have succeeded in some measure in producing female and hermaphrodite flowers which would otherwise grow into male flowers. It was on April 30th 1895, in the Botanic Garden of the Imperial University, that the pollarding for my researches was done on two young trees of *Pinus densiflora*, whose shoots of the last year were left uninjured by the gardeners. At that time the "Anlagen" of the flowers were already apparent in every fertile shoot. The pollarding in both trees was done at random, but it was found afterwards that the branches whose shoots were cut off had no traces of any previous injuries. The effects of pollarding were chiefly examined in the beginning of May and later on, and also on July 6th 1895.

The following tables show the number of experiments and the outlines of the general results:—

TREE I.

Number of the branches of the last year whose shoots of the year produced female or hermaphrodite flowers in the normal positions of male flowers.

A.	Branches whose shoots of the year were cut off.....	4.
B.	Branches with marks of the previous injuries.....	1.
C.	Branches whose shoots of the year were not cut off, and without marks of previous injuries.....	6.

Physiological Researches on the Sexuality of the Flowers of *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.

(Preliminary communication.)

BY

Kenjiro Fujii, *Rigakushi*.

Post-graduate student in Botany, Imp. Univ. Tōkyō, Japan.

Many instances of androgynous cones of conifers are on record. As to the pines, MASTERS describes hermaphrodite flowers of *Pinus rigida* and *P. Thunbergii*;* and the formation of female or hermaphrodite flowers in the positions of male flowers and that of male or hermaphrodite flowers in the positions of female flowers of *Pinus densiflora* were described a few years ago by T. MATSUDA.** STRASBURGER, EICHLER, and many other authors have made very extensive and valuable studies on the flowers and cones of conifers, but their theoretical considerations are chiefly about the purely morphological points. We find, however, many special studies by various workers on the causes which determine the sexes of flowers, but such studies are not yet fully worked out. I need not comment on the great importance of further researches on this subject. During the last three years I have observed in *Pinus densiflora* in various localities a great number of female or hermaphrodite flowers developed in the position of male flowers, and found that the formation of such flowers are in a great measure limited to the "Langtriebe" which are transformed from "Kurztriebe" of the last year; that such transformation of "Kurztriebe" into "Langtriebe" regularly takes place when "Langtriebe" are seriously injured in any way; and that the "Kurztriebe" which are transformed into "Langtriebe" are those which stand nearest to the point of injury of the "Langtriebe. In fact, the injuries producing such effect are frequently given by Japanese gardeners to the shoots

* The Journal of the Linnean Society, Vol. XXVII, p. 313.

** The Botanical Magazine, Vol. VI, p. 238.

A new Corean *Thalictrum*.

BY

J. Matsumura.

Thalictrum (Sect. *Euthalictrum*.) ***coraiense* sp. nov.**

Caule elato, glabro, striato; foliis exstipellatis, 2—ternatis; foliolis crassis, saepe magnis, orbiculatis vel reniformibus, cordatis, glabris, plerunque trilobatis; floribus hermaphroditis; antheris linearibus, muticis; stylo brevi; stigmatе dilatato; akeniis sessilibus, subfusiformibus, longitudinaliter sulcatis.

Hab, Ad fossulis prope Enzin. Legit M. Enuma; Fl. et fr. Sept., 1883.

Corianice: *Gongtari*.

Allied to *Th. Dalzielii*, W. J. Hk. and *Th. glaucum*, Desf., differing from them in having a less number of carpels. In this plant carpels are only 3-4!

東洋學藝雜誌

(第百六十五號)六月廿五日發兌
木版圖十數個定價一册金拾錢

論說

●横讀縦讀ノ利害元良勇次郎 ●生物學上ノ一
●大問題ニ付(承前)石川千代松 ●志筑忠雄星氣
●野亭吉 ●力學初歩クレブシユ ●皇極紀の
●鶴田賢次譯 ●五月ノ野外松村任三 ●雜錄 ●童謠并にた
●といふ語 ●雜報 ●記臆術實驗會 ●又 ●ヘリユムの
●中邨秋香 ●存在 ●氣象と洪水 ●偽造牛酪 ●獨
●人が日本文字に就ての評言 ●懸賞問題 ●被催眠者の藥
●の遠効 ●志筑忠雄の星氣說 ●アラデー賞牌 ●河豚の
●中毒死亡者 ●東京府下失火の原因 ●獨國地葦全書 ●獨
●逸萬有學會 ●植物の數 ●木石板或は人工石板 ●數學物
●理學會記事 ●矢津氏の日本地誌 ●フレゼニユース氏化
●學實驗場 ●アワノ白光熱の應用 ●學會記事應問等數件

發行所

東京神田 裏神保町 東洋學藝社

動物學雜誌

第八十號 ●六月十五日發行

一册金拾錢郵稅壹錢六册前金六拾六錢

目次

●霞ヶ浦の動物に就て(承前)北原多作君 ○ぎ
●んざめノ一新屬に就きて(第十六版附)箕作佳吉
●君 ○昆蟲の話(十三)石川千代松君 ○雜錄 ●動物學上新
●著論文を讀む會 ●紐蟲の分類 ●品川沖動物採集 ●日本
●蚯蚓の追加海産動物の新保存法 ●Lencomauripes ●
●海蜘蛛集實驗記 ●志賀島通信 ●動物學研究用藥劑便覽
●正誤 ●動物學雜誌第七十九號正誤 ●東京動物學會記事

發賣所

神田裏 神保町 敬業社

速記彙報

定價 郵稅 共金 拾錢 六 ●冊前 金郵 稅共 五拾 七錢

●速記彙報第五十九冊概目 ●
●松岡康の蜻蛉脚 ●毅君の結婚媒妁所の内幕 ●重野博士の演劇談 ●井上毅君の行政談 ●隅田川翁の奇乞巧 ●盲人用速記器の話 ●中村君釣の話 ●利吉君のパンoram館の内幕 ●三浦安君の丁汝昌 ●東京神田區裏 神保町一番地 速記彙報發行所

地質學雜誌

第二十二號 七月十五日發行

一册金拾錢郵稅壹錢六册前金五拾四錢郵稅共

目錄

●論說 ●輝岩說(石版入) ●理學士佐藤傳藏君
●志摩地方の蛇紋岩(石版入) ●理學士
●佐藤傳藏君 ●野野氏の新說理學士石井八次郎
●藏君 ●雜錄 ●頓野氏 ●東北信州温泉理學士清水實隆君
●雜報 ●朝鮮東海岸に於ける龍騰水の實況 ●甘樂溪谷
●本邦隕石畧記 ●石綿の磁性 ●教員試驗問題 ●神保
●理學博士

發賣所

神田裏 神保町 敬業社

敬業社編纂

●小物理學

(訂正十二版)

全一冊 定價金卅五錢 郵稅金四錢

同社編纂

●化學書

(訂正四版)

全一冊 定價金二十錢 郵稅金二錢

同社編纂

●理化示教

(訂正六版)

全一冊 定價金卅五錢 郵稅金四錢

高橋豊夫君編纂

●幾何學初步

全三冊 定價金八十錢 郵稅金十錢

飯島魁君編

●普通動物學教科書

全一冊 定價金二十錢 郵稅金四錢

敬業社編纂

●動物學

全一冊 定價金二十錢 郵稅金二錢

尋常 中學

教科用書類發賣廣告

東京神田 裏神保町

電話二五八

敬業社

三好學君編

●普通植物教科書

(訂正七版)

全一冊 定價金五十錢 郵稅金四錢

敬業社編纂

●植物學

(訂正十六版)

全一冊 定價金二十錢 郵稅金二錢

同社編纂

●礦物學

(訂正十二版)

全一冊 定價金二十錢 郵稅金二錢

濱田俊三郎君著

●博物示教

(訂正七版)

全一冊 定價金廿五錢 郵稅金四錢

敬業社編纂

●佳氏生理學

(訂正四版)

全一冊 定價金卅五錢 郵稅金四錢

西村豊君著

●支那史綱

全一冊 定價七十五錢 郵稅金十八錢

THE WAR READER.

(再 版)

PUBLISHID BY.

(發 賣)

THE KEIGYOSHA.

全一冊定價廿錢郵稅金貳錢紙數九十二頁
 東京市神田裏地
 神保町一番地
敬業社
 電話番號
 二五八番

メテ價值アリ
 英文體修者ノ參考書トシテモ極
 ガ邦人ノ普ク知悉セル所ナレバ
 メテ多ク且ツ其ノ事項ハ既ニ我
 用フルモ事實嶄新ニシテ興味極
 ナラズ之ヲ英語ノ教科書トシテ
 ニハ春日閑消ノ好資料タルノミ
 經タリ故ニ苟モ英語ヲ解スル人
 等學校教師「ワルツ」君ノ校訂ヲ
 纂セルモノニシテ同君及第一高
 クリ「君ノ贊諾ヲ得テ撰抜編
 止マルコトヲ患ヒ社主「プリン
 モノモ空シク新紙一日ノ讀了ニ
 ノ永ク記録ニ留ムベキ價值アル
 般ノ讀者ニ向テ最趣味アル事項
 將校ノ行爲ヲ始メトシ内外一
 國忠勇ノ氣慨ヲ興起スベキ兵士
 載セル日清戰爭ノ記事ニ就キ愛
 者武信由太郎ガ過般同新聞ニ連
 本書ハ「シヤパンメール」新聞記

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金五錢
 三回以上割引仕候
 ○本誌毎月一回發兌一冊金拾貳錢○六冊前金七拾貳錢
 ○十二冊前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り一冊金拾錢
 ○配達概則
 第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セ
 ズ○第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發
 兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ
 ○第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四
 條 特ニ一冊限御入用ノ向ハ壹錢切手十二枚御送致ア
 レバ御届可申候

明治廿八年七月十九日印刷
 明治廿八年七月二十日發行

所 版
 有 權

編輯兼 發行所
 印刷者 印刷所
 發行者 發行所
 賣捌所 同所

井 上 蘇 吉
 東京市神田區錦町三丁目一番地
 野 村 宗 十 郎
 東京市京橋區築地一丁目廿番地
 株式會社 東京築地活版製造所
 東京市京橋區築地二丁目七番地
 植物學雜誌編輯所
 東京市神田區裏神保町一番地
 敬業社
 同所
 丸 善 書 店
 東京市日本橋區通三丁目

018262

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治二十二年二月三日内務省許可

明治二十六年六月三十日遞信省認可

Vol. IX.] JULY, 20TH 1895. [No. 101.

CONTENTS.

— — — — —

A new Korean <i>Thalictrum</i> . By Prof. J. Matsumura.	276
Physiological Researches on the Sexuality of the Flowers of <i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc. (<i>Preliminary communication</i>). By K. Fujii.	275
A new Parasitic Fungus on the Japanese Cherry Tree. By Prof. M. Shirai.	241
Ueber Membrandurchbohrung durch Pilzfäden (Vorläufige Mit- theilung.) Von Prof. M. Miyoshi.	243
Forteen Species of Ferns growing in the Vicinity of Kyōto. By T. Makino.	245
Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia. By K. Sawada.	246
Plants collected in Izu and Sagami. By T. Owatari.	250
Phanerogams of Shōnai. By T. Kawakami.	252
Mr. H. Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants. (<i>continued</i> <i>from No. 97.</i>) By T. Makino.	255

MISCELLANEOUS:—

Miscellaneous Notes on the Plants of 'Yōjōsho-oku.'—
Publications Received.—etc.

All letters and communications to be addressed to the

TOKYO BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1, Urajimbōchō, Kanda, Tokyo, Japan.

植物學雜誌第九卷第一百二號

明治廿八年八月二十日

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. IX.]

August 20, 1895.

[No. 102.]

○倒生ノ公孫樹

安 田 篤

今八十餘年ノ昔ナリキ予ノ未ダ小學校ニ在リシ日長サ四〇「センチメートル」、直徑三「センチメートル」許ノ公孫樹ノ枝ヲ得戲レニ之ヲ倒マニシ其一端ヲ地中ニ埋メ置キシコアリ然ルニ偶然ニモ頓テ發芽シ根サヘ生ゼシ者ト見エ不定芽モ諸處ニ生ジ遂ニ獨立ノ植物トナレリ當時予ハ幼年ナリシヲ以テ愛翫置カズ之ヲ培ヒ以テ今日ニ至リ長サ三、七「メートル」、周圍一六「センチメートル」、直徑五、四「センチメートル」ノ者トハナレリ然レ此樹元ト倒生ナルヲ以テ自ラ自然木ト違フ所アルガ如シ埋挿ノ初メ其芽ノ伸長シテ莖トナルヤ下方ニ向テ伸ビントスル者ガ *Positiven Heliotropismus* ト *Negativen Geotropismus* トノ爲ニ餘儀ナク彎曲シ上方ニ向ヒテ直立シタレ凡其先端ノ部分ハ尋常ノ莖ノ如クナラズシテ常ニ下方ニ傾キ屈曲シ易カリキ予ハ數多萌發セシ芽ノ中最上部ニアリシ二個ヲ除キ他ヲ悉ク切去リ此二個ノ芽ニ支柱ヲ設ケテ之ヲ扶ケ以テ自由ニ生長セシメタリ而シテ此幹ヨリ枝ノ生ズルニモ通常ノ場合ト異ナリ水平ニ出ヅルコト多ク加之甚シキニ至テハ更ニ下方ニ垂ル、コアリテ其先端ハ何レモ垂下セリ尤通常ノ公孫樹ニテモ老樹ノ下枝ニハ多少此ノ如キ現象ヲ見レ凡予ノ公孫樹ニ在テハ出ヅル新枝ノ殆ト總テガ以上ノ觀ヲ呈スルヲ以テ觀レバ是ハ全ク倒生ニ原因スルニハ

アラザルヤトモ思ハル、ナリ凡ソ向日性及ビ向地性ノ實驗ヲ爲スニ當リ植物ヲ顛倒シタル地位ニ置クコトハ容易ナリト雖根ヲシテ上下全ク其位置ヲ異ニセシムルコトハ挿木、取木、接木等ノ方法ニ由ラザレバ能ハズ予ノ倒生公孫樹ハ偶然ニモ生理學上ノ試驗材料トナリシコン面白ケレ以上述ブル所ニ依レバ莖ノ大部ヲ形成セル Holzノ Saugkraftハ倒ニモ働クコトヲ得氣壓、毛細管引力、Osmose, Imbibition 等ハ全ク顛倒シタル作用ヲ營ムコトヲ得ルヲ知り倒生ノ場合ニハ多少自然木ト異ナリタル性質ヲ有スルガ如シ以テ世ノ識者ニ質ス

○黑岩恒氏採集琉球植物 (承前)

牧野富太郎

Mr. Hisashi Kuroiwa's Collections of Iiukiu Plants.

(Continued from No. 101.) By Tomitaro Makino.

(27) *Lindsaya cultrata* Sw. (= *Adiantum cultratum* Willd.) var. *β. japonica* Baker.

ほんぐうしだ (しだ科) 根莖細瘦、枝ヲ分テ横行シ紫黑色ナリ葉ハ其長サ約ソ四寸前後、葉柄畧シ絲狀ニ

シ紫黑色光澤アリ葉面ハ長楕圓狀線形ニシテ單羽狀ヲ成シ羽片互生ノ且ツ離在シ斜上ノ平出ス絲狀葉軸ト共

ニ無毛ニシテ各片長楕圓狀卵形ヲ成シ寧ロ薄質ナリ下縁ハ直或ハ微屈シ上縁ハ横走ノ長ク連續セル囊堆ヲ有

シ無性者ニ在テハ細鈍齒ヲ成ス上縁ノ下部ハ略シ葉軸ト平行シ基部ハ外縁ノ下部ト合ノ尖點ヲ作シ以テ短

小ノ柄ト成ル囊堆ハ葉縁ニ横リテ兩片ノ苞膜之ヲ擁シ以テ其口、外ニ向ヘリ内方ノ片ハ膜質ヲ成シ葉脈ハ

分生ス ○入表島仲間村山中(明治廿五年八月十四日黑岩恒氏採、第一回ノ第廿三號) ○本種ハ我内地西

南地方ニ亦之ヲ見ル

(28) *Uraria picta* Desv. (= *Hedysarum pictum* Jacq.; *Doodia picta* Roxb.; *Uraria linearis* Hassk.)

ほそばふちばぐさ(新稱) (マメ科) 直立多年本ニシテ木質ヲ成ス莖ハ強壯ニシテ毛ヲ帶ビ殊ニ梢部ニ多シ葉ハ互生シ長葉柄亦毛ヲ被ル托葉ハ銳尖卵形ニシテ硬質、其邊緣ニ毛ヲ有シ小托葉ハ細形ニシテ鉞狀ヲ成ス上部ノ葉ハ二對ト一片ノ頂生小葉トヨリ成リ各小葉線形ニシテ硬質ナリ支脈羽狀ニ出デ脈間ノ細脈葉裏ニ在テ隆起シテ網眼ヲ成シ且ツ疎毛ヲ布ク上面ハ中央ニ白斑ノ采アリ中脈ヲ除キテ他部ハ裸出シ毛ヲ認メズ而下部ノ葉ハ其小葉長橢圓狀線形ヲ成ス花序ハ直立シテ頂生シ圓柱形ノ密集總狀花ヲ成シ下部ノ小花間幾多ノ小苞ハ頭長ク尖リテ邊緣殊ニ毛多シ予ノ標品ハ花蕾極メテ稚嫩ニシテ苞葉相重疊シ以テ之ヲ護スルヲ見ル

○石垣島名藏村ノ原野(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第廿四號) ○該種分布ノ疆域ハ英領印度ヲ中心トシテ西ハ亞非利加洲ノ熱帶地ヲ限リ南ハ濠洲ノ地ニ迨ビ東北ハ馬來諸島「フィリッピン」群島ヲ包ミテ支那南部ニ跨ガリ延テ我琉球ニ及ベルナリ ○別ニ本品類似ノ一品アリ亦琉球ニ産ス *Uraria cinnita* Desv. ト云フふちばぐさト稱ス田代安定氏ノ採集品理科大學ニ在リ而シテ予ハ未ダ之ヲ黒岩氏ニ得ズ

(29) *Buxus sempervirens* Linn. var. *hinkuensis* Makino (nov. var.)

Jap. name. *Okinawatsuge* (Y. Tashiro). おきなはつげ(田代安定氏)

A small tree. Leaves oblong-ovate, obovate-oblong, ovate, or ovate, 3-5cm. long including slightly puberulous short petiole, with the attenuate base and the emarginate apex. Male flowers subsessile.

Sepals membranaceous, concave, ciliated at the margins; 2 outer ones broadly ovate; 2 inner ones larger than the outer ones, orbicular, with inflexed margins, 3×3mm. Rudimentary ovary one-third as long

黑岩恒氏採集琉球植物

as inner sepals. Stamens exserted; filaments stout; anthers ovate. Capsules ovoid, about 1cm. long, smooth; persistent styles suberect.

ISHIGAKI-ZIMA: Shika-mura (*H. Kawoia*, Aug. 9, 1892, No. 25).

たかどうだい科ノ小木ニシテ小枝極ニ微毛アリ葉ハ常緑ニシテ長楕圓狀卵形、倒卵形若クハ卵形ヲ成シ微毛アル短柄ト共ニ其長サ約一寸乃至一寸七分許ヲ算ス革質ニシテ全邊、凹頭ニシテ漸殺底ナリ花ハ葉腋ニ聚リテ小團ヲ成シ雌花ハ獨リ其頂端ニ占居シ他ハ皆雄花ナリ又全團皆雄花ノミアリテ雌花ヲ缺如セル者少カラズ花團軸ノ基部ニハ小鱗片ヲ具ヘ各小花ノ下ニハ略、硬質ノ細苞ヲ有ス雄花ハ極メテ短キ小柄アリテ殆ンド無柄ト稱ス可シ萼片四數膜質ニシテ内凹シ邊緣ニ毛ヲ具フ其外列二片ハ卵圓形ナリ其内列二片ハ圓形ニシテ外列片ヨリ其形大ナリ而シテ邊緣内疊ス雄藥四數高ク花外ニ出テ花絲ハ強壯ナリ葯ハ長キ卵形ニシテ約シテ花絲ノ四分一長アリ不熟子房ハ花内ニ潜居シ短矮ニシテ頂部擴大シ全體ノ長サ内列萼片ノ三分一許ナリ蒴果ハ卵狀體ニシテ毛ナク堅硬ニシテ長サ三分餘アリ頂ニ三個ノ宿存花柱ヲ戴キ該花柱ハ微ニ外方ニ傾クト雖モ然モ殆ンド直立ノ姿勢ヲ保テリ胞背開裂式ヲ以テ三殼片ニ開裂シ三花柱各ニ二分ノ六個數ト成ル而シテ内皮ハ殼片ト分離シ種子ハ糝落ス種子長楕圓形ヲ成シ黑色ニシテ光澤アリ ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黑岩恒氏採、第一回ノ第廿五號) ○田代安定氏ノ所説ニ據レバ本品ハ沖繩島并ニ八重山列嶋中ノ石垣、西表兩嶋ノ高山上ニ自生シ大島列島其他ノ各島ニ在テハ園栽シ藩籬等トナスモノアリト云ヘリ方言ヲツゲト呼ブ ○本品ハ其葉形并ニ花ノ大小ニヨリテ之ヲ *Buxus sempervirens* *Linn.* ト判別スルヲ得可ク *B. sempervirens* *Linn.* ニ在テハ葉形花狀之ヨリ小ナリ然モ其不熟子房ノ大小形貌ハ互ニ能ク一致

ノ状態ヲ保シ本邦ニ普通ナルわさまつげ即チはちぢうつげ *Buxus sempervirens* Linn. var. *japonica* m. (= *B. japonica* Muell. Aug.) トハ此點ニ在テ大ニ相同シカラズ故ニ本品ハわさまつげニ接邇スルヨリハ寧ロ *B. sempervirens* L. ニ親近ノ種ナリト評定ス可ク決メわさまつげノ一變品ニ非ズン全ク其源ヲ異ニセリ伊豆七嶋中ニ多ク産スル者ハ決メテ琉球産ト同シカラズン全ク内地産ノわさまつげト異ナラズひめつげ一名くわつげ *B. sempervirens* L. var. *microphylla* Hook. fl. (= *B. microphylla* Sieb. et Zucc.) アリわさまつげノ一群ニ屬ス *J. Mueller* 氏嘗テ之ヲ其一變種トナシ以テ *B. japonica* Muell. Aug. var. *microphylla* Muell. Aug. ノ學名ヲ制定セシハ至當ノ見ト稱ス可シ此者亦此ノ如クわさまつげノ親近者ニシテ *B. sempervirens* L. ヨリ離ル從テ琉球産ト異ナル點多シ香港産ナル *B. Harlandi* Hance 又ハ *B. stenophylla* Hance ノ兩種ハ亦わさまつげノ近種ニシテ葉形并ニ不熟子房ノ大小從テ琉球産品ト同シカラズ又 *B. Wallichiana* Baill. モ亦葉ノ大小形狀及ビ萼片ノ狀ニ於テ琉球産品ト同一ナリト云フヲ得ズ之ヲ要スルニ琉球産品ハ花ノ大小并ニ葉ノ形貌ニ異アリト雖凡不熟子房等ノ狀能ク相符合セル上ヨリ之ヲ歐洲普通ノ *B. sempervirens* L. ニ最モ近キ縁者ト認メ之ヲ其一變種ト考定スルヲ以テ自ラ正鶴ヲ誤ラザルモノト信ズルナリ

(30) *Mosla grosseserrata* Maxim.

ひめヒそ (唇形科) 直立一年生本ニシテ分枝シ莖枝共ニ四稜ヲ成シ微々毛ヲ有ス而シテ節上ニ密毛アリ葉ハ對生シ卵形鈍頭ニシテ粗大ノ齒アリ下底ハ狹窄ノ楔狀ヲ呈シ以テ葉柄トナル葉面微毛ヲ帶ビ殊ニ下面ニハ細微ナル腺點ヲ布ケリ子ガ標品唯一個ニシテ未ダ花穗ヲ出サハル稀本ニ係ル故ニ此ニ花狀ヲ略ス ○石垣嶋四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第廿六號) ○本品ハ我邦内地ノ普通品ニシテいぬかうじ

Mosla punctata Maxim. ト雜生シ兩種共ニ極メテ相似タリ又支那ニ産ス

(31) *Justicia* (Sect. *Postellularia*) *simplex* D. Don (= *Justicia mollissima* Wall.; *Postellularia mollissima* Nees pro parte; *Justicia orbiculata* T. Anders. pro parte; *Postellularia rotundifolia* Nees; *Justicia procumbens* Wall. pro parte; *Postellularia abyssinica* Brongn.; *Postellularia glandulosa* Nees)

さつねのひまご(新稱) (さつねのつめ科) さつねのまごニ酷似セル小草本ニノ根ハ鬚狀ニ分枝ス莖ハ下部

斜臥ノ往々節々曲折シ上部ハ直立セリ枝椹ヲ分チ節上ハ稍膨腫シ節間ハ眞直ニノ莖面ニ縱稜アリ且ツ疎毛ヲ有ス葉ハ對生シ毛アル短柄アリ葉面ハ卵形ニ鈍頭圓底ヲ成シ邊緣微々皺縮シ鏡下ニ微短刺ノ疎列スルヲ見ル上下兩面共ニ滿地ニ粗ク白毛ヲ布キ上面ニ在テハ殊ニ無數ノ微細ナル爪痕點ヲ印ス然レ肉眼ヲ以テハ分明ニ之ヲ認ム可ラズ花穂ハ頂生シ圓柱形ニノ直立シ長キ者約ソ寸許而シ穂軸ニ毛アリ苞并ニ小苞ハ其長サ約ソ萼長ト同ジクシノ萼下ニ接在シ苞ハ長橢圓狀披針形或ハ披針形ヲ成シ小苞二片ハ線狀披針形ヲ成シテ共ニ短ク尖リ中央部ハ縱脊ヲ成シ深綠色ヲ呈シ兩邊ハ淡綠色ノ膜質ヲ成シ緣邊并ニ脊背ニハ節アル粗毛ヲ列植ス花ハ細小ニノ穗軸ニ對生シ互ニ密在シ無柄ナリ萼ハ四深裂ヲナシ各片線狀披針形ニノ末尖レリ中央部ハ縱脊ヲ成シ深綠色ヲ呈シ兩邊ハ無色膜質ニノ邊緣并ニ脊背ニ節アル毛ヲ有スルト宛モ苞ト同ジ花冠ハ萼ヨリ超出シ中部ヨリ兩唇ニ分レ筒部ハ短大ニノ外面ニ毛ナシ上唇ハ略ニ三角形ニノ外面ニ疎々毛ヲ生ジ上頭ニ裂シ裂片圓クシ且ツ小ナリ下唇ハ上唇ヨリ大ニノ廣濶略圓形ニノ外面ニ毛多ク頭端ニ三裂シ裂片圓頭其中者ハ殊ニ廣シ上下兩唇其内面ハ毛ヲ生セズ下唇ノ喉部ハ中央ノ兩側凸起シテ斜メニ四條許ノ起脈ヲ有シ其面凹凸ヲ成ス下唇内部ハ其中央ニ二條ノ縱引セル狹翼堤アリテ筒中ニ走下シ其中央部ニ相止リテ

其處ニ毛ヲ密生ス其反對ノ面即チ下唇ノ下部ニ當ル處モ亦毛ヲ有ス雄藥ニ數兩唇裂痕ノ下ヨリ生ノ唇頭ヨリ短シ花絲稍廣ク其長サ藥ニ三倍シ尖端藥隔ニ接合ス藥隔ハ分明ニ其兩側ニ藥胞ヲ著ケ一ハ高ク一ハ低シ從テ藥隔此ニ歪形ト成リ其低キ一藥胞ハ下ニ斗出セル尖尾ヲ有セリ雌藥ハ花冠ヨリ短ク花絲ハ絲狀、眞直、下部子房ニ連リテ毛ヲ生ズ柱頭不明ニ兩耳ヲ成スノ痕アリ子房ハ長キ卵形ニノ上部ニ毛ヲ有ス兩室ニノ每室胚珠二顆ヲ容ル基部ニ略ニ一裂セル小形ノ輪盤アリテ緣端平坦ナラズ蒴果ハ長サ二分ニ充タズ長橢圓形ニノ尖頭ヲナシ宿存萼ノ間ニ出デ頂邊ニ微毛アリ兩側面各一條ノ縱溝アリ即チ縫線ノ處ニ當ル而ノ胞背開裂式ヲ以テ彈裂シ以テ兩片ト成リ反屈ス ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第廿七號) ○英領印度、馬來地方、支那南部并ニ亞非利加内「アビシニア」ハ即チ本種ノ産域ナリ

(32) *Indigofera* sp.

なほなほしぐさ(田代安定氏) (さめ科) 本品ハ Subgen. *Enindigofera* Benth.; Group *Tinctorieae* Baker.

中ノ一種ニノ白毛ヲ平布セル三出葉ヲ有シ莖ハ多々分枝ノ斜臥シ梗軸ハ葉柄ヨリ短クノ花ハ細小ナリ ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第廿八號) ○此品ハ元ト田代安定氏ノ發見セル

所ニ係リ其形狀如何ハ近日他ノ雜誌ニ於テ之ヲ詳述シ以テ之ヲ世ニ報告セン而ノ本品ノ最モ類似セル種ハ

Indigofera trifoliata L. ニシテ此品ハ即チ英領印度「チャバ」島、「フリッピン」島、濠洲北地并ニ支那南部ニ産

スル所ナリ ○田代安定氏本品ニ就テ説アリ今此ニ掲ゲテ考證ノ資トナス即チ明治廿八年一月十三日同氏

ヨリ予ニ送ラレタル信書ニ曰クなほなほしぐさは小生モ先年帝國大學理科大學ノ植物學教室ニ復命スル日

本州南諸島草木叢說編輯ノ際其學名ノ檢索ニ一時非常ニ熱心シ教室内ノ各書ヲ抽出ノ檢較セシニ Wright

氏 *Icones plantarum ind. orient.* 中ノ *Indigofera* 屬中ニ近似ノ品アリ殊ニ貴論ノ如ク *Indigofera trifoliata* 頗ル能ク近似スト雖凡同品ト決シ難キ諸點アリ乍去其花質、莢、子核ヨリ推究スルニ *Indigofera* 屬ノ微候ニ尤モ近キモノト考思シ右草木叢説ニハ なはねばしぐさ *Indigofera?* ト爲シ留メ置ケリ又露國聖彼得府滯在中マキシモウイチ氏ノ講說筆記中同植物園ノ腊葉檢究ノ備忘ニ左ノ如ク記シ置ケリ

Leguminosae No. 37. (安定備忘用) *Indigofera trifoliata*, L. Hab. Kwangfong.

莖高サ一尺許ニシテこまづあぎノ莖ヨリ細小ニシテ屈撓性ヲ爲シ葉ハやはらぎう狀ヲナシテ蒼綠色半面白粉ヲ帶ブ花枝梢三四個ヅ、簇着シ繖穗狀ヲナス然凡穗咲ニアラズ

琉球ノすいめはぎ(なはねばしぐさ)ノコヲ當時斯ク名ケ居タリ)ニ似タレドモ其巨大ナルヲ以テ異トスルガ如シ

右露京日誌中ノ一節

なはねばしぐさノ花[○]色ハ最モ嬌美ナル猩臙脂色ナリ *Carmin* ニシテ *Brun* ヲ帶ビタル一種ノ暗紅帶紫ス、タケ色ナリ先ヅ概シテ鮮麗愛スベキ帶紫猩紅色ナリ葉[○]色ハ生時全部蒼綠帶灰色背部微白灰色ヲ帶ビ細毛密布シテ此色ヲ現表スト記臆シ居レリ枝莖ハ叢生シテ草本ナルモ矮小ナル木本狀即チ小灌木狀ニ繁茂ス或ハ匍匐體ヲナシ或ハ勁直ニシテ多枝叢出シ大ナルモノハ高サ八九寸小ナルモノハ二三寸根際ハ老木様ニ結節隆起ヲナス枝條凡ソ一尺方徑ニ繁茂スルモノモアリ又州南諸島草木叢説ニハ左ノ文章ヲ録シ置ケリ

那覇えはしぐさ 沖繩島ノ西南海岸殊ニ那覇港邊ノ磯石間若クハ砂濱雜草間ニ混生シ草搦地シテ根際ヨリ數枝ヲ抽キ叢ヲナス葉ハ二三出シテ稍えはしぐさ葉ニ似テ狹長ナリ質軟薄ニシテ實シ白細毛密布ス三四五

月ノ間枝梢間ニ絶ヘズ暗紅色ノ小娥形花ヲ着ク全形えぼしさノ花ニ似テ瓣狹長ナリ太ダ美觀アリ莢ハ方稜角形ヲナシテ長サ七八分横徑五厘許外面軟細毛密布シ内ニ菴子大ノ黒核子ヲ收ム此品ハ花藥ノ徴候ト莢ノ内部ニ隔膜アル等頗ル *Indigofera* 屬ニ近キモノ、如シト (未完)

日本藥局方植物篇 (前號ノ續キ)

澤田駒次郎

成分 規那皮及ビ之ニ近似スル *Remijia* 屬植物ノ皮中ニハ未ダ曾テ他ノ植物中ニ發見セザル所ノ多數ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含有ス之ヲ總稱シテ規那亞爾嘉魯乙度ト云フ此亞爾嘉魯乙度中最モ多量ニ存在シ解熱ノ特效アルハ規尼涅 (*Chinin*) 規尼實涅 (*Chinidin*) 聖古尼涅 (*Cinchonin*) 聖古尼實涅 (*Cinchonidin*) ノ四種ニ基因シ規尼涅及ヒ規尼實涅ハ共ニ $C_{20}H_{21}NO_2$ ナル集成ヲ有シ聖古尼涅及ヒ聖古尼實涅ハ同質異性體ニシテ其集成 $C_{20}H_{21}NO_2$ トス而シテ此四種ノ亞爾嘉魯乙度ハ總テ結晶性ヲ有ス

規尼涅及ヒ規尼實涅 (又 *Conchinin* ト名ク) ハ依的兒ニ溶解シ結晶水ヲ抱有スル所ノ稜柱狀ノ結晶ヲ爲ス之ニ硫酸ヲ加ヘテ酸性ト爲セル水溶液ハ藍色ノ螢石彩ヲ呈ス其溶液ニ格魯兒水及ヒ安母尼亞水ヲ加フレバ綠色即チ「タルライアヒン」反應 (*Thalleiochin-Reaction*) ヲ呈ス聖古涅及ヒ聖古實涅ノ二種ハ依的兒ニ甚々微ニ溶解シ結晶水ヲ攝取スルノ機能ヲ有セズ其鹽類ノ水溶液ハ螢石彩ヲ現ハスコト無ク又「タルレイアヒン」反應ヲ呈セズ而シテ此四種ノ亞爾嘉魯乙度ハ分極光線ニ對シテ其列序ヲ異ニシ規尼涅及ヒ聖古尼實涅ハ分極光線ノ平面ヲ左旋シ聖古尼涅及ヒ規尼實涅ハ之ヲ右旋ス

規那皮中亞爾嘉魯乙度ノ含有量ハ大ニ不同アルノミナラス又規那皮ニシテ亞爾嘉魯乙度ヲ有セサルモノアリ

之ニ反シテ印度ニ培養セル規那皮中多量ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含有スルニ至ル即チ *Cinchona Ledgeriana* ノ乾燥セル皮中ニハ十三、六「ベルセント」ノ亞爾嘉魯乙度(四種ノ亞爾嘉魯乙度ノ混和物)ヲ有セリ此レ嘗テ得タル所ノ最高量ナリトス又和蘭國規尼涅製造會社検査人 De Vries 氏ノ調査ニ據レハ瓜哇ニ培養セル王規那樹ニシテ七箇年ヲ經タル皮中ニ〇、六四「ベルセント」ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含ミ六箇年半ヲ經タル皮中ニハ五「ベルセント」ヲ有ス又瓜哇國ウタカマント(海面ヲ抽クコト六千尺乃至七千尺ノ地)ニ培養ノ *Cinchona officinalis* ノ皮中ニハ規尼涅ヲ有スルコト一、四「ベルセント」ヨリ九、三「ベルセント」ニ至レリ又一千八百六十九年ニ於テ瓜哇產赤色規那根皮ヨリ十二「ベルセント」ノ亞爾嘉魯乙度ヲ得タリ概シテ根皮ハ亞爾嘉魯乙度ニ富メルモノトス又 *Pain* 氏ハ牙買加ニ培養ノ王規那根皮ヨリ規尼實涅四「ベルセント」ヲ得タリ此レ規尼實涅ノ最高量トス又一千八百七十九年ニ於テ *Aleens* 氏ハ瓜哇產規那皮八十種ヲ分析シタリシニ亞爾嘉魯乙度ノ含有高一、〇九「ベルセント」ヨリ十二、五「ベルセント」ニ至レリ然レドモ五「ベルセント」以下ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含ムモノハ僅々十三種ニ過キズ而シテ規尼涅ノ含量一、八「ベルセント」ヨリ十一、六「ベルセント」ニ至ルト云フ

印度產赤色規那皮ハ六乃至十一「ベルセント」ノ總亞爾嘉魯乙度ヲ含ムト雖モ規尼涅ノ含量些少ニシテ屢バ「ベルセント」罕レニハ四「ベルセント」ヲ包有ス聖古尼實涅ハ三乃至四「ベルセント」ヲ含有スルヲ通常トス故ニ坊間ニテ鬻賣スル硫酸規尼涅中ニハ多少聖古尼實涅ヲ含ムヲ常トス又枝皮ハ通常幹皮ヨリ遙ニ少量ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含有スルモノトス聖古尼實涅及ヒ聖古尼實涅ハ規尼涅ニ續テ汎ク發見セルモノニシテ或ル規那皮ニ在テハ規尼涅ヨリモ多量ニ之ヲ含有ス而シテ規尼涅ハ往々其含量十「ベルセント」ニ至ルコトアリ然レトモ前記二種ノ亞爾嘉魯乙度ハ決シテ斯ノ如ク多量ニ存在スルコト無シ規尼實涅ハ四「ベルセント」ヲ含有スルコト

甚ダ稀レナリ又一千八百八十一年ニ於テ瓜哇産赤色規那皮ヲ調査セシニ亞爾嘉魯乙度ノ總含量三、〇乃至九、八「ペルセント」中規尼涅〇、四乃至二、八「ペルセント」聖古尼實涅一、八乃至五、四「ペルセント」ヲ含有スト云フ

日本藥局方法解曰近來印度ニ於テ頻ニ多量ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含有シ且ツ其含量ニ不同ナキ所ノ規那樹ヲ培養スル方法ヲ考究スレモ未ダ其目的ヲ果ス可能ハス、Cinchona Ledgeriana ハ亞爾嘉魯乙度ヲ含有スルノ多キ實ニ比類ナキ樹ニシテ最モ望ヲ屬スヘシト雖モ或ハ其含量少キモノナキニ非ラス凡ソ規那皮中亞爾嘉魯乙度ノ含量ニ多少アルハ地質、肥料等ニ關スルカ將タ他ノ原因ニ由ルカ仍ホ不明ニ屬ス總テ規那亞爾嘉魯乙度鹽類(殊ニ其揮發性酸ノ鹽類)ハ之ヲ熱灼スルキハ未タ其本性ヲ詳ニスル可能ハサル洋紅色ノ分解成續體(爹兒)ヲ生成ス而シテ規那皮ニシテ規那鹽基ヲ含有スルモノハ之ヲ熱灼スルキハ亦能ク赤色ノ爹兒ヲ生ス故ニ此反應即チグラ―へ(Gratie) 氏ノ反應ヲ以テ最モ簡便ニ規那皮中亞爾嘉魯乙度ノ存否ヲ鑑別スルコトヲ得、其法ハ検査スヘキ規那皮大約一「デシグラム」ヲ取り之ヲ粉碎シテ細キ試験管ニ容レ熱灼スヘシ茲ニ前條ニ列記セル四種ノ規那鹽基中ノ一種ダモ存在スルトキハ必ス赤色ノ爹兒ヲ生スヘシ而シテ規那皮ニシテ亞爾嘉魯乙度ヲ含有セザルモノ所謂擬規那皮ハ決シテ此反應ヲ徴セズ

規那皮ノ苦味ハ膏ニ規那鹽基ニ基由スルノミナラス亦 Chinovin (C₂₀H₁₆O₃) ナル糖原質ニモ關スルモノナリ而シテ「ヒノウイン」ハ規那鹽基ヲ含有セザル規那皮即チ擬規那皮中ニモ亦發見スルモノトス「トアリ又生藥學曰規那皮ヲ稀釋亞爾加里溶液ト共ニ温浸シ稀釋鹽酸ヲ飽和スレハ「ヒノウイン」ヲ沈澱ス更ニ之ヲ石灰乳ニ溶解シ鹽酸ヲ以テ沈澱セシメ酒精ニ溶解シ之ニ水ヲ加フレバ「ヒノウイン」ハ鱗片狀ノ結晶ヲ成シテ析出ス」ヒ

ノウイン」ノ酒精溶液ニ格魯兒水素ヲ通シテ飽和セシムレハ「ヒノワ」酸 (Chinosäure) 及ヒ葡萄糖トナルトアリ

規那皮水煎液ノ酸性ヲ徴スルハ規那酸 (Chinasäure) $\text{C}_6\text{H}_4(\text{OH})_4$ ニ係リ大約九「ベルセント」ヲ有スト生藥學

曰而ノ其煎液ニ石灰乳ヲ加ヘ攪拌ノ濾過シ其濾液ヲ蒸發シテ濃厚トナスキハ漸次規那酸ノ加爾叟鹽ヲ析出ス
 尿酸ヲ以テ之ヲ分解スレバ規那酸ヲ遊離セシムルコトヲ得規那酸ハ水ニ溶解シ易キ著大ノ結晶ヲ爲シ純酸味ヲ有ス又咖啡豆中ニモ存在ス」ト

規那皮中ニ一種ノ鞣酸ヲ含有ス之ヲ規那鞣酸 (Chinagerbsäure) ト云フ此鞣酸ハ只規那皮中ニノミ固有スルヤ否ヤハ仍ホ不明ニ屬ス又規那皮中ニ存在スル規那赤色素 (Chinaroth) ハ此鞣酸ヲ百度ニ熱シ又ハ稀鹽酸ヲ加ヘテ煮沸スルトキハ生成スルモノトス

其他規那皮中ニハ Homocinchonin, Cinchonidin, Cinchotin, Chinamin, Conchinamin, Hydrochin ノ少量及ヒ不結晶性ニシテ仍ホ不明ニ屬スル Diconchinin, Dicinchonin, ヲ含有ス Diconchinin 及ヒ Dicinchonin ハ Chinoiden ト稱シテ黑色通常棒狀ト爲シテ販賣ス其効驗顯著ナルニ因リ貧人ハ之ヲ應用ス

規那皮ノ試験 日本藥局方注解ニ據レハ左ノ如シ

(第一) 本條ニ本品ノ粉末ヲ小硝子管(小試験管)中ニ熱スレハ美麗ナル洋紅色ノ爹兒ヲ生ストアルハ所謂

グラ―へ氏ノ反應ニシテ本品ハ規那亞爾嘉魯乙度ヲ含有ス可キヲ證明スルモノナリ(宜ク前文成分ノ條ヲ

参照スヘシ)、(第二) 藥用規那皮ハ其百分中規那亞爾嘉魯乙度少ナクモ四分ヲ含有セサル可ラス之ヲ定量ス

ルニハ本條ニ示ス如ク本品即チ規那皮ヲ細微ニ粉碎シ其十五「グラム」及ヒ水化石灰二十「グラム」ヲ硝子壺

ニ容レ之ニ酒精二百二十五立方「センチメートル」ヲ注加シ其全量ヲ秤定シ第五十九圖ニ示ス如ク之ニ還流冷却管ヲ裝シ二時間重湯煎上ニ熱シテ煮沸シ冷後再ビ該硝子壺ヲ秤量シテ煮沸ノ際蒸散セル酒精分ヲ補充シテ原量ニ復ス可シ但シ右ニ示ス如ク還流冷却管ヲ裝シテ煮沸スル片ハ酒精ノ減却分ハ「グラム」ニ超ヘサルヘシ爾後濾過シ其濾液百五十立方「センチメートル」(應用シタル規那皮ノ「十」グラムニ適應ス)ヲ適當ノ盜皿ニ取り重湯煎ニ上セ徐々ニ蒸發シテ殆ンド乾涸スルニ至リ其殘留物ニ定規酸液十立方「センチメートル」ヲ加ヘ重湯煎ニ上セ温ヲ與ヘツ、均等ニ混攪研和ス可シ但シ必スシテ定規酸液ヲ用ユルヲ要セス稀硫酸ヲ加ヘテ酸性トナセル水ヲ代用スルヲ得ヘシ更ニ水立方「センチメートル」ヲ注加シ成ルヘク小濾紙ヲ用ヒテ第六十一圖ニ示ス如キ分液漏斗ニ濾入シ成ルヘク少量ノ水ヲ用ヒテ盜皿中及ヒ濾紙中ノ殘渣ヲ洗滌シ爾後分液漏斗中ニ存スル亞爾嘉魯乙度ノ溶液ニ其亞爾嘉魯乙度ヲ遊離セシメンガ爲メ那篤倫滴液ヲ加ヘテ著ク亞爾加里性トナシ逐次三回依的兒五十五立方「センチメートル」ヲ和シテ毎回大約十分時間ツ、振盪スヘシ然ル片ハ前ニ遊離シタル亞爾嘉魯乙度ハ依的兒ヨリ攝取セラルヘキヲ以テ豫メ秤量セシ小硝子壺ニ其依的兒ヲ瀉取シ(必要ナル場合ニ於テハ濾取シ)蒸餾シテ依的兒分ヲ除去シ該硝子壺ヲ第三十一圖(第百二十九丁ヲ見ヨ)ニ示ス乾燥函中ニ收メ百度ノ温ヲ以テ充分ニ乾燥シ冷却セシムルノ後秤量スルニ硝子壺中ニ於ケル殘留物即チ規那亞爾嘉魯乙度ノ重量ハ少ナクモ〇、四「グラム」ナラザル可ラズ即チ本品百分中規那亞爾嘉魯乙度四分以上ヲ含有スルヲ要ス而シテ本條ニ此規那亞爾嘉魯乙度ヲ稀硫酸ヲ以テ酸性トナシタル水ニ溶解シテ得タル溶液ハ格魯兒水ヲ和シ安母尼亞ヲ滴加スレハ綠色ヲ呈スヘシ「トアルハ規尼涅ニ固有スル「タルレイヲヒン」反應成分ノ條)ニシテ右ノ亞爾嘉魯乙度中ニハ必ス規尼涅ヲ含有スヘキヲ檢明スルモノナリ

莊内産顯花植物

但シ右ノ検査ヲ行フニ際シ消石灰ヲ加フルハ規那皮中ニ存スル規那鞣酸、規那赤色素等ヲ結合セシメ且ツ亞爾嘉魯乙度ヲ遊離セシムルノ目的トス而シテ南米産規那皮ハ往々多量ノ聖古尼涅ヲ含有スルコトアリ此規那皮ハ右ノ定量法ニ由テ往々其亞爾嘉魯乙度ヲ定量シ難キコトアリ如何トナレハ聖古尼涅ハ諸規那亞爾嘉魯乙度中ニ於テ最モ依的兒ニ溶解シ難キ者ナレハナリ此場合ニ於テハ依的兒ニ代フルニ嚼囉仿謨ヲ以テスベシ(圖ハ略ス)

(以下次號)

莊内産顯花植物

(前號ノ續キ)

川上 瀧 彌

- Saxifraga*. 233. *Astilbe japonica*, *Miq.* アハモリシヨウマ 余目新田、鶴岡—234. *A. Thunbergii*, *Miq.* トリアシシヨウマ、アハモリ(方言) 松嶺—235. *Rodgersia podophylla*, *A. Gray.* ヤグルマサウ、ヌスビトノヒガサ(方言) 杉澤、羽黒山、加茂山—236. *Saxifraga sarmentosa*, *L.* ユキノシタ、キミンサウ(方言) 金峯山—237. *S. cortusaefolia*, *S. Z.* ダイモンシサウ、インホキ(方言) 鳥海山、月山、羽黒山、松嶺—238. *S. lycocotoniifolia*, *Max.* アラミダサ 鳥海山—239. *S. fusca*, *Max.* タロクモサウ 月山、鳥海山—240. *Fiarella polyphylla*, *Don.* ツダヤクシユ 月山—241. *Mitella japonica*, *Makino.* コチャルメルサウ 金峯山—242. *Chrysosplenium kamtschaticum*, *Schlecht.* もしねこのめ 杉澤、北俣、松嶺、鬼坂峠—243. *C. Grayanum*, *Max.* チロノメサウ 北俣、金峯山—244. *C. ramosum*, *Max.* マルバンネロノメサウ 升田—245. *C. Aageiiferrum*, *F. Schum.* コバンチロノメサウ 北俣—246. *Parussia palustris*, *L.* ウメバチサウ 月山、鳥海山、市野山、松嶺—247. *Hydrangea paniculata*, *Sieb.* ノリノキノッダマ(方言) 杉澤—248. *H. hortensis*, *Smith*,

var. pubescens, F. S. インガク 杉澤、観音寺—249. ———— *var. acuminata, A. Gray.* サンアチサ

キ 松嶺—250. *H. scandens, Max.* ツルカチサキ、ツタ(方言) 観音寺—251. *Schizophragma hydrangeoides, S. Z.* インガラン 松嶺—252. *Deutzia scabra, Th.* ウツギ 松嶺

Crassulaceae. 253. *Sedum kamtschaticum, Fisch.* キリンサウ、ナトコモンタイ(方言) 杉澤—254. *S. Aizoon,*

L. ホンズキリンサウ 松嶺—255. *S. Rhodiola, DC. var.* Tachiroi, *F. S.* しばんけい 月山、鳥海山—256. *S. japonicum, Sieb.* マンモンネンダサ、ツメギリンサウ(方言) 杉澤、小國

Droseraceae. 257. *Drosera rotundifolia L.* モウセンゴケ 月山、鳥海山、鬼坂峠、杉澤、市野山

Hamamelidaceae. 258. *Hamamelis japonica, S. Z.* マンサク 杉澤、松嶺、鳥海山

Haloragaceae. 259. *Haloragis micrantha, R. Br.* マリノタングサ 三崎山道—260. *Myriophyllum spicatum,*

L. var. muricatum, Max. ホザキノフサモ 飛鳥沼、大久保

Lythraceae. 261. *Kotala indica (w.) Koehne.* キカシダサ 湯田川、福原、観音寺—262. *Lythrum virgatum,*

L. マンギ、キンスナ(方言) 松嶺—263. *L. Salicaria, L.* エンミンソング 月山

Onagraceae. 264. *Epilobium angustifolium, L.* ヤナギサウ 唯一産ナ松嶺ニ採集セシ者マツ月山、鳥海山中多ク産スルニコロマン—265. *E. cepha-*

lostigma, Hausskn. やわわかばな(新稱) 月山、鳥海山—266. *E. lyrichelolophum, F. S.* アカバナ 鶴岡

—267. *E. glandulosum, Telen.* やわわかばな(新稱) 月山、横ノ代—268. *E. Hornemannii, Rehb.* むやば

わかばな(新稱) 鳥海山、月山—269. *E. dahuricum, Fisch.* ヒメアカバナ 月山—270. *Ludwigia prostrata,*

Rorb. チャウヂダテ 鶴岡、小泉—271. *L. ovalis, Miq.* ミヅキノミタ 福原、大山—272. *Circea erubescens,*

F. S. タニタデ 赤剝、松嶺、杉澤—273. *C. cordata*, *Boz.* ツミタキサウ 小國、赤剝—274. *C. mollis*, *S.* *Z.* しんばなのみづたぢぢぢ(新稱)〔本草圖譜所載〕「本草圖譜所載」松嶺、赤剝—275. *Trapa quadrispinosa*, *Boz.* オリンシ
大山沼—276. *F. incisa*, *S. Z.* (*F. Maximowiczii*, *Korsch.* ?) ヒメビシ(方言) 福原、飛鳥沼

Cucurbitaceae 277. *Trichosanthes japonica*, *Regel.* キカラスウリ、カラメウリ(方言) 松嶺—278. *Melothria*

Regelii, *Neud.* スシメウリ 松嶺—279. *Gynostemma pedata*, *B.* アマチャヅル 升田—280. *Schizopepon*

bryoniaefolius, *Max.* ニヤマリガウリ 羽黒山、鳥海山、升田、杉澤

Ficoideae, 281. *Tetragonia expansa*, *Ait.* シルナ 鼠ヶ關—282. *Mollugo stricta*, *L.* ザクロサウ 鶴岡、小泉

Umbelliferae. 283. *Hydrocotyle Willfordi*, *Max.* ノチヌメ、ヤトチヌメ、コトサ(方言) 松嶺—284. *Ranuncula*

elata, *Hornb.* タマノニシシ 湯ノ田—285. *Bupleurum sachalinense*, *Fr. Schum.* ホタルサイコ 三崎山—

286. *Cicuta virosa*, *L.* タシガリ 廣野、小泉—287. *Sium Ninsi*, *L.* マカコリンシ 鶴岡、湯田川—288.

Cryptotaenia canadensis, *DC.* ニシシ 松嶺—289. *Osmorhiza japonica*, *S. Z.* ヤブリンシ 松嶺、鶴岡—

290. *Anthriscus sylvestris*, *Hoffm.* シヤク、ノニンシ(方言) 松嶺—291. *Seseli*. *Libanotis*, *Koch.* イブキ

ホウソウ 杉澤—292. *S. Libanotis*, *Koch.* *var.* *Sibirica*, *DC.* ヒメウシ(方言) 三崎山道—

293. *Chamaele tenera*, *Miq.* ホントウサウ 松嶺、観音寺—294. *Phellopteris littoralis*, *Fr. Schum.* ハマ

ホウソウ、ホウソウ(方言) 湯之濱、酒田—295. *Eranthe stolonifera*, *DC.* ヤリ 松嶺—296. *Ligusticum*

japonicum, *Max.* ヤマニンシ(白川防風) しばた、月山、鳥海山—297. *L. acutilobum*, *S. Z.* タウ

キ 鳥海山、杉澤—298. *L. sp.* ヤマニンシ(方言) 観音寺、松嶺、小岩川、金峯山—299. *Selinum Tilingia*,

Max. ちしやにんじん、ホソニンミン(方言) 月山、鳥海山—300. *S. Benhami*, *Watson* ? てふかいせり(新稱) 鳥海山頂、月山頂—301. *Angelica refracta*, *Fr. Schm.* オホベンケンキノウ 観音寺、月山、鳥海山—302. *A. edulis*, *Miyabe* ぶすけら 松嶺—303. *A. ussura*, *Max.* ぶすけら、サミンヤク(方言) 杉澤—304. *A. Nigueliana*, *Max.* ヤマゼリ、マンスヌクロニンミン(方言) 月山、鳥海山—305. *Pucedanum decursiva*, *Max.* ノダケ 観音寺—306. *Heracleum barbatum*, *Ledeb.* ハナウタ、ミヤク(方言) 観音寺—307. *Caucalis praetermissa*, *Hance*. (*C. scabra*, *Makino*.) オヤベシラニ 観音寺—308. *Torilis japonica*, *DC.* ハヤギリ小岩川、三瀬、湯ノ田

Araliaceae. 309. *Aralia racemosa*, *L. var. sachalinensis*, *Pegel.* ウチ 松嶺—310. *A. spinosa*, *L. var. canescens*, *F. S. Mey.* シロノキ 松嶺—311. ———— *var. glabrescens*, *F. S. Mey.* シロノキ 鶴岡—312. *Panax repens*, *Max.* トチノニンミン、ノニンミン(方言) 松嶺—313. *Acanthopanax aculeatum*, *Seem.* ウロギ 松嶺—314. *A. ricinifolium*, *S. Z.* ヤシノキ 松嶺—315. *A. divaricatum*, *S. Z.* オニウロギ 大岩川—316. *A. sciadophylloides*, *F. S.* コシノブシ 杉澤、湯殿山—317. *Fatsia japonica*, *Decne. et Planch.* ハリブキ 月山、鳥海山—318. *Helwingia japonica*, *Diels.* ハナイカゲ 杉澤、松嶺—319. *Hedera Helix*, *L.* キヅタ、ツタ(方言) 観音寺

Cornaceae. 320. *Marlea begoniifolia*, *Horb.* ウリノキ 松嶺、鳥海山—321. *Cornus macrophylla*, *Wall.* ツギ 松嶺、月山—322. *C. Kousu*, *Buery.* ヤマボウシ、ヤブツク(方言) 松嶺、金峯山—323. *C. ignorata*, *C. Koch.* シモノミツキ 山寺—324. *C. canadensis*, *L.* コシノバナ 月山、鳥海山—325. *Aucuba japonica*,

Th. アヲキ 松嶺、鳥海山

(未完)

左ノ目錄中羊齒類ノ種名ハ牧野富太郎氏ノ蕨類ノ種名ハ大久保三郎氏ノ檢定ヲ經タルモノナリ

藤井健次郎

○京都産植物目錄追加

淺田學一

羊齒類 *Aspidium Tsussimensense* Hook. ヒメカナソラビ 比叡山—*Asplenium squamigerum* Mett. キヨタケ

シダ 澁谷—*Blechnum Spicant* Roth(= *Lomaria Spicant* Desv.) シノガシラ 隨所ニ生ズ

蕨類 *Atrichum undulatum* 比叡山—*Dicranum scoparium* 比叡山—*Fissidens adiantoides* ? 比叡山—

Fissidens japonicum 比叡山—*Hedwigia ciliata* 愛宕山—*Leucobryum minus* 比叡山—*Mnium rostratum*

愛宕山—*Mnium speciosum* ? 大悲山、愛宕山—*Ochrobryum Gardneri* 比叡山—*Pogonatum grandifolium*

比叡山—*Polytrichum formosum* 比叡山—*Pottia truncata* 人家庭園—*Rhizogonium Dozyanum* イタチ

ノシツボ 比叡山—*Sphagnum cymbifolium* ミヅコケ(ノ一種) 鳴—*Thamnum Sandei* 愛宕山—*Tham-*

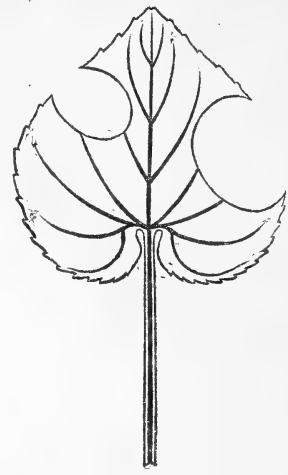
nium japonicum 愛宕山—*Thuidium japonicum* 隨所ニ生ズ (未完)

○穴峰ノ一種ノ植物ノ葉ニ及ボス害

理學士 安田 篤

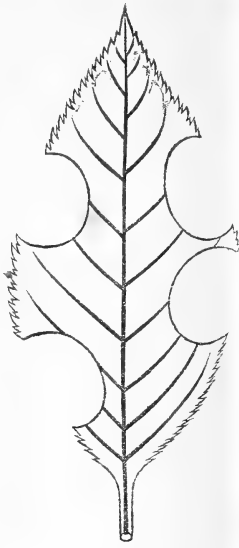
植物ノ葉ノ草タルト木タルトヲ問ハズ縁邊ヨリ稍半圓狀ニ蝕取セラレタル痕ハ吾人ノ屢目撃スル所ナリ此
中木ハ充分開伸シタル若葉ノミ其害ヲ受ク此現象ハ一葉中一處乃至數處ニ於テ見ラレ其半圓ノ直徑ハ一乃至

二「センチメートル」以上アリ予ハ此ノ如キ痕跡ヲはぎ、たちつぼすみれ、さくら、かし、かいどうニ於テ見



たちつぼすみ
れノ葉ノ二處
ニ於テ虫害ヲ
受ケタルモノ

テモ無ク Hymenoptera ニ屬スル者ニシテ其目的モ全ク食物ノ爲ニハアラズシテ他ニ其用アルヲ知レリ當日



さくらノ葉
ノ四處ニ於
テ虫害ヲ受
ケタルモノ

ノコナリキ予ハ何氣ナク庭前ヲ眺メ居タルニたちつぼすみれノ葉上ニ異様ノ怪物ノ動クヲ見タリ乃チ之ヲ熟視セントテ近キシニ此時遅シ彼時早シ彼ハ忽チ飛去リタリ予ハ之ヲ見送リシモ遂ニ之ヲ見失ヘリ因テ残念ナガラ彼レ何ヲカ爲セルト思ヒテ

たちつぼすみれノ葉ヲ檢セシニ其數葉ハ何レモ縁邊ヨリ半圓狀ニ蝕取セラル、ヲ見タリ此ニ於テ此虫害ノ原因ヲ親驗スルト同時ニ未ダ充分ノ觀察ヲ爲サル前ニ當リ之ヲ取逃シタルヲ悔ヒ逸ヲ以テ勞ヲ待タント欲シ悠然彼ガ再度ノ來侵ヲ待テリ果セル哉彼ハ忽焉再ビ其影ヲ顯ハシ同ジクたちつぼすみれノ葉上ニ來レリ乃チ之ヲ熟視セシニ全クあぢばちノ一種ナリキ彼レノ葉上ニ止マルヤ縁邊ノ一處ヲ起點トシ體ヲ横タヘMandible

穴蜂ノ一種ノ植物ノ葉ニ及ボス害

ヲ以テ半圓狀ニ葉片ヲ切取ス其速ニノ巧ナルヲ恰モ利及ヲ以テ之ニ向フガ如ク切取シ終レバ則チ之ヲ肢間ニ卷狹シ直ニ飛去ルナリ予ハ今度コソハ不覺ヲ取ルベキヤハト馳セテ之ヲ追躡セシニトアル倒懸セル竹筒中ニ入レリ此ニ於テ占メタリト思ヒ其口ヲ下ヨリ押へ遂ニ之ヲ生擒シタリ其後竹筒ヲ窺ヒシニ乾枯シタル同様ノ葉片生葉ト相混ジ其間ニ綿様ノ分泌物ヲ附着セシメ葉片ハ全ク巢ノ骨格トナレルヲ見タリ之ニテ右ノ葉ヲ蝕取スル害虫ハあなばちノ一種ナルヲ知リ且ツ其侵害ノ目的ハ造巢ニ供スル者タルヲ明カニスルヲ得タリ

◎ 雜 錄

○ 生活細胞ニ於ケル少量效驗的

現象ニ就テ

大概各種ノ溶液ハ其濃厚ナルト稀薄ナルトヲ問ハズ細胞ノ生活上ニ有害ナル働作ヲ加フルモノニシテ終ニハ全ク其生息ヲ停止セシムルニ至ルモノナリ之レ即チ普通ノ化學的毒殺ニシテ天然ノ自滅ト相伴フ顯象タリ然ルニ茲ニ或種ノ物質ノ極メテ少量ニ溶解セル時ニ於テノミ效驗アル一種奇異ナル細胞殺害ノ一例アリ此死ヤ化學的ノ毒殺ト全ク異ナルモノニ決シ其ノ緩漫ナル

モノト見做スヲ得ス後ニ述ブルガ如ク働作反テ急突ニシテ死後ノ狀態モ化學的毒殺若クハ天然自滅ノ場合ト大ニ異ナレリ斯ク一定ノ物質ノ唯タ少量ニ溶解セル時ニ於テノミ發スル死ノ一新現象ヲバ少量效驗的 (Oligodynamisch) 現象ト名ク

之レ即チ O. von Nägeliガ晩年ノ研究ノ一大問題ニシテ今述ベントスル所ロノモノハ其研究ノ大畧ナリ而シテ不幸 Nägeliハ未タ此ノ研究ニ最終ノ手ヲ加ヘズナシ Ueber oligodynamische Erscheinungen in lebenden Zellenト題シテ世ニ公ニセリ同年十一月ノ

Botanische Zeitung。ニ於テ Klemm 其要ヲ掲ケテ且ツ之レヲ批評シタリ次テ昨年ノ春 Robert Keller ハ Biologisches Centralblatt ニ「植物生理學現今之進歩」ナル題ヲ掲ケテ其ノ中ニモ此研究ヲ畧述シタリ余ハ今主トシテ之レヲ譯述シ傍ラ Botanische Zeitung ヲ參考セントスルモノナリ

Spirogyra ノ培養ニ當テ井水又ハ蒸溜水ヲ使用スルキハ忽チ其生活ヲ停止スルコトアリ之ニ反シテ河水池澤ノ水ノ如キ所謂不潔ノ水ハ能ク其生活ヲ保續セシムルモノナリ

余ハ先ツ簡單ニ自然ノ死ハ如何ナル變化ヲ此ノ植物ノ細胞内ニ生スルカラ述ベントス

Spirogyra ハ糸狀ノ綠色藻ニソ所々隔壁ヲ以テ區劃セラル各區劃内ニハ一個又ハ數個ノ綠色ヲ有スル縲旋狀ノ紐アリ大凡〇、一—〇、六「ミリ」ノ長サヲ有スル細胞ニ於テ驗スルニ其固性原形質ハ次ノ如キ位置ニアリ先ツ最初ニ細胞膜ノ内面ヲ一體ニ蔽フ甚ダ薄キ原形質ノ

層アリ次テ此ノ薄層ノ内面ヲ縲旋狀ニ取卷ケル綠色ノ帶アリ此ノ帶ハ其表面平カナルモノニ非ズ縱ニ少シク彎曲シテ溝ノ如キ形狀ヲ成シ其凸出セル面ハ細胞ノ中心ニ向ヘリ而シテ此綠色帶ハ其兩緣ヨリ射出スル糸狀原形質ノ尖端ヲ以テ前キノ原形質ノ薄層ト連絡ス以上二種ノ外部原形質系ニ對シテ多少相距タリテ中央ノ原形質アリ細胞核ハ此中ニ存在ス其周圍ヨリ外方ニ向テ無數ノ分枝セル原形質ノ突起ヲ出シ彼ノ澱紛ヲ含有セル縲旋狀溝帶ノ背面ニ連絡ス細微ナル原形質粒ハ凡テ此等ノ固性原形質ノ系内ヲ貫流シ蠢々トシテ動テ止ムコトナシ内外原形質二系間ノ間隙及綠色帶ノ溝ハ一般ニ細胞内液ノ充實スル處ロトナル

自然ノ死之レヲ詳言スレハ外界ヨリ有害ナル働作ヲ受ケテ生活作用ヲ停止セル者ハ實ニ次ニ陳ブルガ如キ變化ヲ其細胞内ニ現出ス第一ニ縲旋狀溝帶ハ尙ホ原形質ノ薄層ト接觸セリ然レモ其形狀ヲ變シ兩緣ノ突起ヲ去リ帶ノ幅ヲ挾バメ溝ノ形ヲ失ヒ以テ圓又ハ橢圓ノ横斷

ニ此現象ノ原因ハ恐ク其水自身ノ中若クハ之レヲ盛レル器ノ物質ノ中ニアラザル可カラズト云フハ Nageliト同ク吾人ノ先ツ念頭ニ浮ブ所ロナル可シ實ニ從來ノ實驗ニ於テハ常ニ *Spirogyra* ノ割合ニ多量ヲ用ヒ來レルガ今一〇立方「センチ」ノ水中只數條ノ藻ヲ投ゼシニ此水ハ即チ單純ナル蒸溜水ナリシニ係ラズ暫時ニシテニハ僅カニ四分時ニシテ殺害セリ而シテ井水モ亦タ全一ノ效驗アリタリ

單純ノ水ノ此ク有毒ナルハ果シテ何物ヲ含有スルニ由ルカ通例水ニ溶解スル瓦斯ニアリテハ炭酸、アンモニア、オゾン、アリ此等ハ普通ノ池水、河水ニモ多量ニ存在シ而カモ藻細胞ノ生活ヲ妨ケズ以テ少量效驗的現象ノ原因タル能ハザルヲ知ル亞硝酸瓦斯ハ如何ト云フニ其一〇〇〇〇分一ノ水溶液ハ尙ホ化學的ニ有毒ナル效果アリ一〇〇〇〇〇分一ニ至ラシムルハ初メテ少量效驗的現象ヲ呈ス其感應ハ單ニ蒸溜水ヲ用ヒタルハヨリモ鋭敏ナリ之レヲ *Grass* ノ試液ニ由テ驗スルニ

多クノ場合ニ於テ HNO_3 ハ表顯シ得可キ量ニ於テハ存在セズ其レニモ係ラズ此水ハ著ルシク少量效驗的性質ヲ帶ベリ而シテ試液ヲ施シテヤ、紅色ヲ認め得ベキモノハ實ニ HNO_3 ノ一〇〇〇〇〇〇〇分一ヨリモ多量ナルヲ知レリ

此ノ如クシテ水自身モ此ノ變死ノ因タル能ハズトスレバ自然吾人ハ其器ノ性質ニ注目スルニ至ル可シ是ニ於テ Nageli ハ吾人ノ通常見テ不可溶性ノ物體トナス固性ノ金屬有機物ノ類ニ對スル關係ヲ究メント欲シ種々實驗ヲ試ミルニ此場合ニ於テハ甚タ複雑ナル關係アルヲ發見セリ即チ此等ノ物體ハ或ハ少量效驗的有毒ナル蒸溜水中ニ入りテ其毒ヲ消滅セシメ或ハ中性ノ水(少量效驗的現象ヲ發セザル無害ノ水)ニ入りテ新タニ之レニ少量效驗的性質ヲ負ハシム而シテ一方ニ於テハ *Spirogyra* 自家一個ニ於テハ死ヲ免レサル水モ多數ノ同類相集テ其棲スルハ能ク其ノ生活ヲ維持スルヲ得タル事實アリ且ツ又數時間少量效驗的性質ヲ具スル水

ヲ入レタル器ハ後日ニ至リテモ著ルシク局部ニ餘毒ヲ留メ之レニ中性ノ水ヲ加フルモ此水再ヒ少量效驗的的作用ヲ逞ス

例ヘバ今一個ノ玻璃瓶ニ水ト *Spirogyra* ノ少量ヲ入レ之レニ能ク研磨セル銅貨ヲ一枚投入スルキハ之レニ最モ接近セル藻ヨリ先ツ少量效驗的現象ヲ發顯シ漸次遠方ニアルモノニ及ブ然ルニ硫黃、炭素(石墨、煤烟)、炭、石炭、泥炭、澱粉、細胞膜質(漉紙、綿、麻、木材)、絹、毛ノ類ハ一旦金屬物ニ由テ賦與セラレタル少量效驗的性質ノ水ヲ中和スルノ効力アリ又今同一量ノ水ヲ盛レル器ノ數多ヲ準備シ *Spirogyra* ノ種々ノ量ヲ之レニ投スルキハ其少量ナルモノ程容易ニ少量效驗的現象ヲ發起シ一器ニ多量ノ藻ヲ投ジタルモノニテハ能ク安穩ニ其生活ヲ持續スルヲ見ル可シ而シテ銅貨ハ能ク玻璃瓶ニ其固有ノ毒質ヲ分與シ一度ヒ水ヲ盛リテ銅貨ヲ浸セル器ハ其後幾回洗滌スルモ餘毒ヲ去ルヲ能ハス特ニ銅貨ガ直接ニ器ニ接觸シタル局部ニ於テ最モ顯著ニ毒ヲ留ム

上來ノ研究ニ由レバ終ニ溶液ハ少量效驗的現象ノ原因トナル能ハザルカ、如何ナレバ吾人ノ殆ント不可溶性ノ物體ト稱スル金屬物ガ水中ニ入レバ此クモ速カニ生活細胞ノ生命ヲ奪ヒ去ルノ魔力ヲ具フルニ至ルカ又如何ナレバ全然不可溶性ノ物體ハ身ヲ毒水中ニ投ジテ其ノ毒ヲ消散スルノ功德ヲ有スルカ而シテ何ノ爲メニ此毒液ハ内外滑澤ナル玻璃瓶ニ何時迄モ餘毒ヲ殘留シテ數回ノ洗滌ノ後數日ヲ經過シテモ尙ホ中性ノ水ニ彼ノ魔力ヲ賦與スルノ能アリヤ

是ニ於テ *Nageli* ハ物理學上ニ其原因ヲ探求セントシ極メテ精密ナル試驗ヲ以テ温度、光線、電氣ニ對スル關係ヲ研究シタルガ一モ目的ヲ達スル能ハズ反テ此等ハ其原因タルヲ得ザルノ反證ヲ得タリ

此クテ *Nageli* ハ暫ク此研究ヲ中絶セシガ後再ビ勇ヲ奮テ此問題ニ着手シ終ニ此ノ奇異ナル現象ノ正體ヲ看破スルノ端緒ヲ捕ヘタリ即チ實驗再興ノ結果トシ第一ニ金屬體ト雖モ全ク水ニ融解セサルモノ(金、白金ノ如

キ)ハ決メ水ニ入テ少量效驗的作用ヲ見ハサルコト第一
 二ニ稀薄ナル鹽酸又ハ硝酸ハ能ク少量效驗的餘毒ヲ玻
 璃瓶ヨリ排除スルモノナリトノ新事實ヲ得タリ由是觀
 之、此等ノ酸類ハ素ト水中ニ溶解セル有毒ナル物質ヲ
 玻璃器底ヨリ溶解シ去ルヲ得ルモノニシテ其毒物ハ銅分
 子ニ他ナラザルヲ推論シ得ベシ

今中性ノ水ニ銅貨ヲ加ヘテ十二立ノ水中ニ錢ノ銅貨
 十二個ヲ投ジタリ之レヲ少量效驗的ナラシメ而シテ普
 通化學分析術ニ依リ「アンモニア」ヲ用フルキハ能ク此
 水中ニ銅ノ溶解スルヲ知ルヲ得ベシ即チ假ニ「プロ
 セント」ノ $CuSO_4$ 溶液ニ過量ノ「アンモニア」ヲ加ヘテ
 生スル青色ノ液ニ徐々ニ水ヲ足シ其色合ヲシテ恰モ前
 キノ銅貨ヲ入レタル液ヨリ得タルモノト同様ナルニ至
 テ止メタルニ一立方「センチ」ノ溶液ハ〇、〇〇〇一三
 瓦ノ CO_2 ヲ含有スルヲ知レリ此方法ニ依リテ $ZnCO_3$ ニ
 ハ常ニ其少量效驗的實驗ニ使用スルノ液中ノ銅ノ分量
 ハ其一分ニ對シテ水ノ一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇分ノ割合

ニ定メタリ此實驗ニ由テ見レバ少量效驗的現象ハ全ク
 水中ニ溶解スル物質ノ作用ニ歸着スルコト疑フ可カラズ
 其ノ鹽水、砂糖水ノ類ト異ナル點ハ之レニ不可溶性ノ
 物體ヲ投シテ其性質ヲ消滅スルヲ得ルト然ラザルトニ
 在リ又其溶液ヲ盛レル器ニ其性質ヲ賦與スルト否トニ
 モ存ス而シテ此ノ如キ差異ハ如何シテ來レルカト云フニ
 $ZnCO_3$ ニノ說ニ由レバ之レ全ク金屬物質ノ水ニ溶解スル
 コト甚タ困難ナルノ事實ニ基クモノナリ

若夫レ一片ノ銅ヲ水中ニ浸シ此水ヲ少量ノ酸素ト炭
 酸トヲ含有セシムルキハ銅ノ分子ハ絶エズ徐クニ分離
 シテ二度ビ水中ニ溶解シ更ニ游離シテ器ノ内壁ニ衝突
 シ此ノ處ロニ固着ス可シ此ノ如クシテ溶液ノ濃厚ニナ
 ルニ從テ器ニ沈澱スル銅モ多量トナリ液既ニ飽充スル
 モ尙ホ銅片ハ分解シ器壁ノ銅分子ガ再ビ水中ニ溶解ス
 ルヨリモ多量ノ銅分子ガ溶液ヨリ沈澱シテ器壁ニ附着
 シ終ニ器ノ内面ニ一種ノ銅鍍金ヲ形成シ而シテ後絶エズ
 之レヨリ液中ニ溶解シ去ル銅分子ノ數ガ溶液分解シテ

器壁ニ沈澱スル銅分子ノ數ト常ニ相等シキニ至テ平衡ヲ保チ銅片ノ分解初メテ止ム

若シ溶液ノ未ダ全ク飽充セザル間ニ水中ヨリ銅片ヲ取去ルルハ溶液中尙ホ銅分子ノ移動行ハレ終ニ又器ノ壁ヨリ水中ニ溶解シ去ル銅分子ノ數ハ恰モ水中ニ溶解セル銅分子ガ器ノ壁ニ沈澱スル數ト常ニ同量ニナル如キ分配ヲ成シテ平衡ヲ得ルナリ

此ノ銅溶液ヲ他ノ清淨ナル器ニ注グルハ其溶液ト新タニ此器ノ壁ニ生スル銅ノ鍍金トノ間ニ更ニ一種ノ平衡ヲ生シ畢竟新タニ器ノ内面ニ鋪ケル銅ノ量丈ケ溶液ハ稀薄トナルナリ若シ又反對ニ銅鍍金ヲ施セル器ノ中ニ新鮮ナル水ヲ盛ルルハ壁ニ附着セル銅ノ一部分水中ニ溶解シ溶液ト器ノ壁トカ互ニ其銅分子ヲ交換シ其數常ニ不變ナル如キ分配ヲナス

此様ニ考フルルハ毫モ水ニ溶ケザル物體ガ溶液ヲ中和スルノ理由ヲ悟リ得可シ即チ此ノ如キ物體ハ溶液ヨリ銅ヲ分離シテ自己ノ表面ニ沈澱セシムルノレ猶ホ其

物體ノ表面丈器ノ壁ノ面積ヲ取り廣ゲタルガ如シ從テ溶液内ノ銅ノ量ヲ減小シ其ノ少量ナルヤ細胞ノ生活ニ何等ノ影響ヲモ與フルヲ得ザルニ至ル之レ少量效驗ノ液ガ不可溶性物體ニ由テ其性質ヲ消滅スル所以ナリ
 多量ノ藻ガ少量效驗ノ液中ニ在ルヤ其ノ少量ナル時ニ於ケルヨリ效驗ノ微弱ナルモ之レト同理ナリ銅ハ先ツ其細胞膜ノ外面ニ沈澱シ其後溶液其内部ニ浸入シテ少量效驗の現象ヲ喚起スルモノナル可キガ故ニ細胞膜ニ附着ス可キ銅ノ量多量ナルルハ其内ニ進入スル液中ノ銅ハ其レ丈ケ少量ナラザル可カラズ臆言スレバ溶液ハ銅ニ乏シクノ細胞ノ生息ニ無害ナリ
 然ラバ何ガ故ニ純粹ノ水ハ其源ノ異ナルニ由テ或ハ少量效驗の性質ヲ具ヘ或ハ否ザルカト云フニ先ツ河、沼、泉、池ノ水ノ無事ナルハ元ト此等ノ水モ或ハ金屬ノ如キ少量效驗の有害ナル物質ヲ溶解セルノナキヲ保セズト雖モ其自然ノ境遇ノ無際ナル不可溶性物質ニ接觸スルヲ常トスルガ故ニ毒質ハ凡テ此等ニ塗抹シ去リ爲メ

ニ細胞ノ生活ヲ妨ゲザルニ至レルモノト云フ可シ之レ
 ニ反シ井水ハ其水道ヲ通シ引水機ヲ通過スルノ際鐵、
 鉛、眞鍮ノ如キ金屬質機器ニ接スルヲ極メテ多ク從テ
 之レ等ヲ溶解シテ少量效驗の性質ヲ具フルニ至ルモノ
 ナリ蒸溜水モ亦金屬製ノ器ヨリ得タルモノハ少量效驗
 的性質ヲ有シ玻璃ノ器ニテ蒸溜セルモノハ中性ナリ
 先ニ陳タル如ク少量效驗の現象トハ本來綠色原形質ノ
 特別ナル感應ヲ指シテ名ツケタルモノニ即チ此ノ原
 形質ガ未ダ其餘ノ原形質依然トシ變化ヲ見バサル内
 ニ位置ト形狀ニ格段ナル變化ヲ示スモノヲ云フ
 少量效驗の現象ハ種々ノ原因ヨリ影響ヲ受ク當ニ藻ノ
 種類ノ異ナルヨリ感應ノ度ヲ異ニスルノミナラズ同種
 類ノモノト雖モ其生育ノ状態ノ異ナルニ由テ影響モ亦
 異ナリ
 タハ一般ニ細胞内同化作用ヨリ生ジタル產物ニ富メリ
 此時少量效驗のニ感應スルヲハ朝ノ產物ニ乏キヨリ
 モ極メテ薄弱ナリ又節間隔ノ短カキ藻系ハ其延長セル

モノヨリモ此反應ニ抵抗スルノ力強シ就中溶液ノ密度
 ノ厚薄ニ關スルヲ著ルシ而シ極メテ濃厚ナルキハ終ニ
 化學的ニ有毒トナル(一〇〇〇分ノ一〇〇〇〇分ノ
 一) 中鹽化銅ノ一分或ハ一〇〇分ノ水中 KNO_3 ノ一
 分) 其稀薄ナルモノハ即チ少量效驗的作用アリ(一〇
 〇〇〇〇分ノ水中一分ノ鹽類或ハ一〇〇〇分ノ水中
 KNO_3 ノ一分) 若シ極大密度ノ少量效驗の溶液ヲ漸次
 稀薄ナラシメ行クキハ終ニハ必ず再ビ彼ノ少量效驗的
 動作ニ固有ナル縲旋狀溝帶ノ原形質膜ヨリ分離スルテ
 フノ現象ヲ見ルヲ得ザルノ點ニ達ス可シ其レト共ニ不
 溶解性ノ原形質ノ細胞内液中ヨリヤ、著ルシク離出ス
 ルヲ認ム可シ之レ即チ細胞ノ天然ノ病態ニ於テ見ル所
 ロノ變化ト一般ニシテ又溫度ノ變化ヨリ生セル害ノ最モ
 微弱ナル場合(三十一度—三十三度) 若クハ電氣ノ爲
 メニ害セラレタル場合ニ於テ見ル所ノ變化ト同一ナ
 リ
 此ノ終ノ事タル少量效驗的反應ノ微弱ナルモノト云ハ

ンカ抑モ亦タ天然ノ病死ノ例中ニ屬セシメンカ
蓋シ想フニ天然ノ死ナルモノハ或ハ其ノ生體ノ近邊ニ
有害ナル他生體ノ排泄物又ハ腐敗セル物質ノ在ルアリ
テ其極微少量ノ溶液ニ因テ中毒スルモノナル無カラ
カ吾人ハ此等ノ有害ナル化合物モ極メテ少量ニ於テハ
上ノ例ニ於ケルト同一ノ作用ヲ呈ス可ク而シテ此様ノ作
用アリトスレバ其細胞内部ニ起ル變化モ亦タ同一様ナ
ル可キヲ信ゼントスルモノナリ

是ニ於テ吾人ハ溶解密度ノ最大ナルキハ化學的有毒
ニ、小ナルキハ少量效驗的ニシテ而シテ猶ホ小ナルキハ自
然ニ在ル場合ト同一ノ病狀ヲ呈スル死ヲ誘起スルノ物
體アルヲ知レリ然リト雖モ少量效驗的現象ハ決シテ化學
的毒死ノ緩漫ナルモノト云フヲ得ス又天然ノ死ノ急激
ナルモノトモ云フ可カラズ曾テ述タル如ク其死狀ニ奇
異ナル經過アルヲ及ヒ凡テノ毒液ハ必スシモ皆少量效
驗的現象ヲ發起スルニ非ルノ事實(亞硝酸アンモニア)
ヲ以テモ其全ク特種ノ現象タルヲ知ルニ足レリ

然ラバ何故ニ最大密度ト最小密度ノ溶液ハ其働作ニ於
テ相一致シ中間ノ溶液ニハ全ク特別ナル現象アルカト
云フニ Nageli ノ語ヲ應用スレバ次ノ如シ曰ク、此三
種ノ溶液ニ對スル Spirogyra 細胞ノ特異ナル反應ハ次
ノ如ク説明スルヲ得可シ最濃密ナル溶液ハ極メテ急激
ニ化學的有毒ナル働作ヲ加ヘ其レガ爲メニ少量效驗的
現象ヲ發動セシムルノ猶豫ナキモノトス中間密度ノ溶
液ハ極メテ徐々ニ化學的有毒ナル働作ヲ加ヘ其間ニ於
テ充分ニ少量效驗的現象ヲ演ズルノ餘裕アリ然ルニ最
少量溶液ハ同ク化學的毒殺ノ緩漫ナルモノナレモ毒物
少量ニ過ギ綠色帶ヲ刺戟シテ少量效驗的現象ヲ呈セシ
ムルノ作用ヲ逞フスルヲ能ハザルモノナリ而シテ天然
ノ自滅トハ本來此ノ終リノ場合ト同一ノ現象ヲ謂フモ
ノナリ

終リニ Nageli ハ此等ノ點ニ關シテ區別シ次ノ三
種ヲ得タリ

第一、徐々ニ溶解スルモ終ニハ多量ニ溶ケ得ル物――

濃厚ナルキハ化學的有毒、稀薄ナルキハ少量效驗、

第二、唯タ少量ニノミ溶解スルモノ——常ニ少量效驗

銅、水銀等ノ金屬之レニ屬ス

第三、一層少量ニノミ溶解スルモノ——天然ノ死ノ因

トナル

渡 部 久 吉

○游子ニ生ズル鞭毛ノ運命

安 田 篤

凡ツ下等植物ノ游子ニ生ズル鞭毛ノ運命ニ就テハ其說
 二ニ分レ或學者ハ鞭毛ノ性質タル暫時ハ游泳ノ具トナ
 ルモ終ニハ胞子ノ體內ニ吸收セラル、者ナリトシ之ニ
 反シテ或學者ハ鞭毛ハ決シテ體內ニ吸收セラル、者ニ
 ハアラズシテ全ク脱落スル者ナリトセリ然ルニ近來
 Rother 氏ハ Phycomyces ノ Zoospore ニ就テ精細
 ナル試驗ヲ行ヒタルニ右ノ二說ハ何レモ學說トシテ誤
 謬ナキヲ知レリ氏ノ實驗ニ依レバ Saprolegnia ノ第二

游泳期ノ游子並ニ Perenosporae ノ游子ハ其休眠ノ有
 様ニ違スルヤ直ニ其鞭毛ヲ脱落スルヲ常トス尤或場合
 ニハ鞭毛全ク脱落セズシテ其儘發芽ノ後ニ至ルマデ永
 久ニ胞子ニ附着シテ殘存スルヲアリ以上ハ第二ノ說ノ
 誤ナキヲ證明スルニ足ル者ナレモ氏ハ又 Saprolegnia
 ノ第一游泳期ノ游子ニ於テ圖ラズモ鞭毛ガ一樣ニ胞子
 ノ原形質中ニ吸收セラル、ヲ見タリ而シテ其退却スル
 ヤ初ハ徐々ニシテ後ハ甚速ナリキ此事實ハ第一ノ說ノ
 誤ナキヲ證明スルニ足ル者ナリ次ニ何レノ場合ニモ殊
 ニ第一ノ場合ニ於テ鞭毛ハ甚シク回絡シ以テ襍狀ヲ呈
 スルヲ目撃シ得ベシ是ハ鞭毛ノ何處ノ部分ヲモ撰バザ
 ルナリ此襍ハ鞭毛ガ未ダ胞子ニ附着セル時分若クハ脱
 落シタル後ニ生ズル者ニシテ必竟胞子ノ休眠後通常一
 乃至三分間ニ於テ生ズル者ナリ其後鞭毛ノ直部ハ襍部
 ノ中ニ取込マレ襍ハ爲ニ其厚ミヲ増加スルニ至ル氏ハ
 此事ニ就キ說ヲ爲シテ曰ク鞭毛ノ襍部ヲ生ズルハ其生
 力ノ然ラシムル所ニシテ其直部ノ襍部内ニ取込マル、

ハ單ニ物理學上ノ現象ニ起因シ所謂表面緊張力ノ (Surface tension) ノ爲メニハアラザルヤト氏ハ又鞭毛ハ胞子内ニ少量ニ存スル一種ノ Cytoplasm ヨリ生ジ游泳ノ第一期ノ終リニハ之ヲ原形質中ニ退却セシメテ後來ノ爲メニ之ヲ節約貯藏スルナルベシト推論セリ因ニ云フ氏ノ實驗ハ Pythium, Saprolegnia 等ノ胞子ヲ懸滴法ニテ蒔キ以テ觀察セン者ナリ

(近着ノ米國博物雜誌拔萃)

○植物雜俎

松村任三

植物ノ和名タル元學術上ノ稱呼ニアラズ新名ヲ下シタリトテ敢テ誇ルニ足ラズ況ンヤ命名ノ時日ノ前後ヲ爭フニ於テヤヤ森林ニ生スル樹木ノ名稱ノ如キハ山民樵夫ノ稱呼スル者ヲ採用スルヲ宜シトス唯各地方言ノ往々衝突スルアルヲ以テ止ムヲ得ズ新稱ヲ設ケテ其衝突ヲ避クルニ外ナラズ故ニ人新種和名ナキモノヲ得タルキハ其花色草狀他種トノ關係ヲ以テ稱

呼ニ便ニシテ且優美ナル名ヲ擇バザルベカラズ命名ニ窮シテ人名ヲ附スルガ如キハ最忌諱スベキ所ナリ庭園ノ植物ニ在テハ花戸ノ稱呼ヲ貴シトスサルヲ腊葉ニ由テ學名ノ原意ニ取り人ノ稱呼シ易ラザル窮名ヲ附スルハ拙モ亦甚シト云フベシ和名ハ前述ノ如ク學術的ノ者ニアラザル以上ハ一草ニシテ本副ノ兩名ヲ有シ若クハ幾多ノ異名ヲ添フルモ妨アルコトナシ數名アルガ爲ニ記憶ニ存スルコ余ノ經驗スル所ナリ

庭園ノ植物新稱

Fumaria muralis Sond. セイヤウエンゴサク 細裂葉ニシテ小紅花ヲ開キ球形平滑ノ細莖ヲ結ブ七八月共ニ花アリ

Cuphea procumbens Cav. クサミンハギ 千屈菜科ノ草本、ミンソハギ様ノ紅花ヲ開ク

Phacelia congesta Hook. タチホロギク 葉ハ菊ニ略似テ紅紫色五裂ノ合瓣花ヲ開ク五雄蕊アリ花柱二裂花冠ノ本ニ壁積アリ是レ此特徴

Ononis spinosa L. ハリモクシユク 紅色ノ莢花ヲ開ク 莢ハ萼ノ長サニ均シ枝端ニ針アリ (Sect. *Acanthonis*) ニ屬ス

Galetia candicans (Bak.) *Dyene*. ツリガ子オモト 濱オモト様ニ似テ鐘狀ノ白大花ヲ下垂ス百合科ノ植物栽培シテ價直アリ

Encemis punctata (Thunb.) L. *Her.* ホシオモト新稱フサラン舊名 百合科ノ植物盆栽トシテ價直アリ

Solidago occidentalis Nutt. ヤナギバキリンサウ *S. lanceolata* Chem. et Sch., *Euthamia occidentalis* Nutt., *Aplopappus baccarioides* Bth. 等ノ異名アリ 平滑披針狀ノ葉ニ三條ノ縦脈著シク邊縁粗糙ナリ本邦アキノキリンサウト同狀ノ小黄花ヲ綴ル草丈三四尺ニ及ブ

Silphium perfoliatum L. ツキスキオグルマ *S. con-natum* L., *S. tetragonum* Mich., *S. scabrum* Mich., *S. conjugatum* Willd., *S. Hornemannii* Schrad., *S.*

erythrocalton Berk. 等ノ異名アリ方莖貫穿葉ヲ有シ粗糙ニシテ大ナル黄色ノ菊花ヲ着ケ草五六尺ニ及ブ

Scorpiurus mucicata L. シヤクトリムシマメ 葉ハ篋形ヲナシ黄色ノ小莢花ヲ開ク莢ノ狀生時綠色ニシテ螺旋シ宛然尺蠖ニ似タリ

Onobrychis caput galli Lam. イガエンドウ 葉狀カラスノエンドウニ似テ刺アル短莢ヲ結ブ豆科ノ品

Cleome pungens Willd. ハリフウテウサウ 曾テ米人 Sargent 來朝シ此植物ヲ見テ *Gynandropis pentaphylla* トシ米國ノ産ナリト云ヒシニ由リ今尙ホ植物園ニ其名ヲ傳ヘリ大ナル誤ナリ

Polanisia (Sect. *Eupolanisia* Pax.) *uniglandulosa* A. P. DC. ミツバフウテウサウ 此草 *P. graveolens* Raf. ノ名ヲ植物園ニ傳フ別ニ「フウテウサウ」アリ 其説ハ洋文ニ讓ル

Lantana Camara L. コウソウタツ 菊科ノ品中ニ既ニ

コウワウサウ」ノ名アリ未タコウワウクワ」ノ名アル
植物ヲ聞カズ蓋シ此名ハ此馬鞭草科ノ灌木ニ適スル
ガ如シ

Verbascum Thapsus L. 毛蕊花ノ名ハ曾テ余ガ下シタ
ル所ニシテ最拙中ノ拙ナル者今其草狀ニ由テ [ニハ
タバコ]ノ新稱トスベシ

本邦産植物學名ノ變更

Tetrapanax papyrifer (Hook.) K. Koch. 通脱木 臺灣

ニ産ス製紙用ノ植物五加科ニ屬ス

Echinopanax horridus (Sm.) Deneke et Pl. ハリブキ

Gilbertia japonica (Jungb.) Harms. カクレミノ

Hedera colchica K. Koch. キヅタ

Firmiana platanifolia (L. f.) K. Br. アラギリ *Stenocilia*

ハ心皮木質ヲナスモノナリ

Campsis grandiflora (Thunb.) K. Sch. ノウゼンカツラ

Tecoma ハ卷鬚ヲ以テ纏繞スルモノナリ

Pandorea jasminoides K. Sch. シケイノウゼン栽培品

Cardamine hirsuta L. ケタネツケバナ新稱 四雄葇花
ナリ六雄葇ニアラズ大渡氏ノ發議ニ由リ新稱ヲ設ケ
テ尋常ノ「タネツケバナ」ト區別ス

本邦産新種植物

ハナナヅナ 新考和名、蓋シ新屬ノ十字科品、信州ノ

人高島氏ノ發見ニ係ル

オホヒキヨモギ 新種名、常陸ノ人綿引氏ノ發見ニ係

ル別ニ余カ洋文ノ說アリ

ミコシギク 草木圖說所載ノ品ト同物ナラント牧野氏

ノ說ナリ下總ノ人岡田氏ノ發見ニ係ル別ニ余カ洋文

ノ說アリ

筑波山植物方言

ハナ ハアヲハダ コメゴメ ハムラサキシキブ ニシ

コレ ハニシゴリ 子リ ハノリウツギ サハフタギ ハ

キフヂ ナンジャ ハヤマカウバシ モンジセ ハアブ

ラチヤン カミサカキ ハサカキ サルスベリ ハリヤ

ウブ コクハ ハサルナシ シウノキ ハシヒノキ クロ

ソネハタマシデシロソネハンソロオカマノキハホ
 ソバノコマユミアラギリハウリノキサカキハヒ
 サカキ尙ホ許多アラン、ソハ大渡氏ノ研討ヲ待ツノ
 ミ

○日本土馬駿類略述 承前

大久保三郎

Pogonatum

帽ハ僧帽狀ヲナシ長毛夥多密生シ莖ノ全體若クハ殆ン
 ド全體ヲ覆フ、蓋ハ凸圓ノ中央ヨリ伸長シテ嘴狀ヲナ
 ス、莖ハ直立又ハ垂下シ整齊若クハ僅カニ内曲ス壺齒
 三十二、葉質硬ナリ、披針形ヲナス脚部ハ薄質ノ鞘ヲ
 有ス、葉肋ノ下部狹ク上部甚ダ廣クシテ數多ノ「ラメ
 ラ」ニテ被ハル、ヲ普通トスレモ稀ニ「ラメラ」缺如セ
 ルアリ、花ハ雌雄異花ナリ、雄花ハ「コツプ」狀ヲ呈ス
 Pog. acanule, Sch. 無莖、莖柄通常七、八分竿ニ二分長、
 葉少數ナリ且地ヨリ直チニ生スル如キ觀アリ、本蘚ハ

數個マダラニ集生ス武、相ニ産ス

Pog. otanense, Besch. 葉硬質、乾燥セバ内曲ス、赤綠

色ナリ、濕セバ直立開出、脚卵形廣披針形、漸尖鈍頭、

鋸齒遠隔、「ラメラ」夥多凡四肋平滑、有莖、無枝、矮

小ノ蘚ナリ フオリエー氏之レヲ小樽ニ發見ス

Pog. sphaerotheium, Besch. 種名ハ圓實ノ義莖ハ二十乃至二十

五ミ、メ長、莖ノ下部彎曲シ且無葉ナリ、葉邊ニ鋸齒ナ

シ、肋ノ上部太クシテ暗色、平滑又ハ僅カニ鋸齒ヲ有

ス乾燥ノ時ハ直立密觸ス、硬質、赤色、濕リタル時ハ

壓着セズシ直立或ハ直立開出ス、頂端内曲ス、脚卵形

舌狀ニシテ薄質ナリ脈細カニ網狀ヲナス、「ラメラ」ハ

上部ニノミ存ス其數二十五乃至三十、蒴球狀ニシテ其

ノ柄ノ基脚ヲ圍メル葉ハ膜質、最小、頂部ノミニ「ラメ

ラ」ヲ有ス囊柄鞘芽房囊柄ノ脚部ヲ圍繞セル鞘ナリ短小、有毛、「バラフヒ

シス」絲狀ナリ、莖柄合セテ凡五仙、迷長、明治十九年七

月「フオリエー」氏之レヲ岩城山ニ採集セリ、余ハ之ニ
 まるみすぎごけナル和名ヲ下ス

Pog. rhopalophorum, *Besch.* 矮小ニシテ無枝又ハ嫩枝ヲ「ペリケチア」邊ヨリ生ズ、葉甚ダ多シ、濕レバ開出シ内曲ス、乾ケハ和カニ回旋ス、下葉ハ卵形、上葉ハ始メ小ナレモ後披針狀銳尖或ハ鈍頭漸尖トナル、邊緣ノ中央以上ハ遠隔ノ細鋸齒アリ「ラメラ」短棍棒狀凡四十條ヲ存ス、邊緣ニ存スル細胞ハ大ナリ、葉面ニ細微ナル隆起アリ、肋背ノ上部ニ鋸齒アリ、葉柄ノ長サ一半乃至三仙、迷萌ハ卵形圓筒狀ニ、三ミ、メ長細微隆起アリ、萌口ノ下部大ニ縊ス、蓋ハ凸圓ニシテ中央突起短小ニシテ直立ス、雄本ハ高サ二、三仙、迷、上部多葉下部ハ殆ント無葉、「ペリゴニウム」雄器ヲ被包セル葉トイフ雄器被ト譯スノ中央ヨリ枝ヲ抽出ス、橫須賀、日光ニ産ストイフ

Pog. nitense, *Besch.* 莖ノ高サ凡一寸、頂部ハ葉集生スレモ中央以下ハ粗ナリ、乾燥ノ時ハ内曲シテ回旋スルニ非サレバ螺旋狀ニ撚扭ス、脚部短卵形ノ廣被針形ニシテ中央以上ハ遠隔ニ小鋸齒ヲ有スレモ以下ハ全縁ナリ、頂上ハ只僅カニ鋸齒ヲ存ス、「ラメラ」四十許ニ

シテ邊緣ノモノハ兩枝ス、肋背ノ上部ニ鋸齒アリ、萌ハ其柄トモニ十五ミ、メ、長、紅色、平滑、卵狀ノ圓筒ニシテ斜形ス、背ヤ、膨大ナリ、蓋ハ少シク嘴狀ヲナス、帽毛ハ長クシテ黃色、下部ハ稍ヤ白シ 產地 秋田、七戸共ニホーリ
エー氏採集

Pog. asperinum, *Besch.* 莖ノ高サ五乃至八セ、メニ達シ弓形ニシテ傾臥シ下部畧無葉ナリ、葉ノ大ナルハ一セ、メ許アリ基脚廣卵ニシテ忽チ細ク披針形トナリ鈍頭漸尖、鋸齒銳尖「ラメラ」四十條、萌ハ畧莖頂ヨリ抽出スル一三仙、迷紫色、平滑ナリ、青森ニ産ス

Pog. grandifolium, *Link.* せうかどうじん本品ハ莖ハ高サ凡ソ十仙、迷大ナルハ二十仙、迷ニ達ス、萌ハ莖頂及ヒ側ヨリ出ズ葉柄長サ二乃至二半仙、迷 青森、橫須賀、日光、伊香保、石槌山等ニ産ス

Pog. himalayannum, *Mitten* 莖ノ脚部ニ存スル葉ハ小ニシテ卵形披針狀、中間ノ葉ハ基脚ニ廣鞘ヲ有スル漸尖披針形夫ヨリ回旋セル仲長卵形頂端螺旋狀ニ撚扭シ

細微ナル隆起ヲ有ス、蓋ハ凸圓中央彎曲ノ嘴伸長ス、帽毛黃色ニシテ菊全體ヲ覆フ富士山ニ産ストイフ

Pog. urrigerum, L. 莖頂分枝ス、葉ハ披針狀ニシテ脚部短鞘ヲナス、鋭尖、鋸齒アリ「ラメラ」急ニ其邊緣厚化ス菊圓筒形、表面顆粒狀ヲナス高サ五乃至十仙、迷北海道、日光等ニ産ス

Pog. pellicens, Besch. 無枝ナリ、葉直立、梗質、「ラメラ」缺如ス、サバチー氏横須賀近傍ニ之レヲ發見ス

Pog. spinulosum, Mitten 前種ニ似タレモ葉質硬ナラズシテ内曲シ鋸齒密ナリ、莖極メテ矮短、長崎、日光ニ産ストイフ

Pog. aloides, Brid. 莖通常短小ナリ葉鈍頭、線形、披針狀、鋸齒アリ莖長楕圓、殆ンド直立、芽胞綠色 產地、東京、箱根、上州、北海道小沼邊、

一種 *var. longicollis, Mitten* ハ伊香保、箱根、日光ニ産ストイフ

Pog. japonicum, Sulliv. et Jacq. 箱根、伊香保、男體山、

富士山、中禪寺等ニ産スト

Pog. inflexum, Lindb. ナルモノモ本邦ニ産ストイフ

○ 繇條書屋植物雜記 (其十九)

牧野富太郎

● 新植物二品

此ニ新種二品ヲ得タリ一ハ日本ヲ通ジテ各州ノ山地ニ之ヲ産シ往々 *Asperula odorata, Lam.* 即チくるまびさうト混視セラル然モ其花冠ニ注意スル者ハ直ニ此ニ此迷誤ヲ避クルヲ得可シ予ハ今之レニ新學名ヲ與ヘテ

Galium japonicum (nov. sp.) ト云ヒ新和名ヲ與ヘ

テくるまびさうト云フ、一ハ日本中部以北ノ地ニ産シかやつりぐさ科ニ屬スしづむ(新稱)ト稱ス高サ二三尺稗并ニ葉ハ三稜ヲ成シテ其體柔軟ナリ花繖扶疎ト小穗ノ數多カラズ皆小梗ヲ有シテ梗開出ス每花雄蕊二個ヲ具ヘテ子房下刺ハ果粒ヨリ長シ新定ノ學名ヲ *Scirpus nipponicus (nov. sp.)* ト云フ此二種之ヲ十月發

刊ノ本誌上ニ於テ記述シ以テ其詳狀ヲ世ニ告ゲン

●ひるがはニ兩品アリ

ひるがはニ兩品アリ一ハひるがはナリ一ハおほひるがはナリおほひるがはノ花ハひるがはヨリ大ニシテ葉形彼レガ如ク脚耳稜角ヲ成サズ且ツ葉ノ兩邊相平行ス今兩種ノ學名ヲ左ニ記セン而シテ(1)ハ其名稱ヲ新訂セルナリ。

(1) *Calystegia Sepium* R. Br. var. *japonica*

(Thunb.) Makino.

== *Convolvulus japonicus* Thunb.

== *Calystegia japonica* Choisy.

Jap. name. *Ohirugao.* オホヒルガホ

(2) *Calystegia hederacea* Wall.

== *Convolvulus acetosifolius* Turcz.

== *Calystegia acetosifolia* Turcz.

Jap. name. *Hirugao.* ヒルガホ

此兩品ハ共ニ野外ノ普通品タルコト衆ノ能ク知ル所ナ

リ

●わけおとざりハ新種ナリ

予ハ「マキシモキッチ」氏ノ査定セシ所ニ從ヒわけおとざりヲ以テおとざりさうノ一變種ト爲シ以テ之ヲ

Hypericum erectum Thunb. var. *δ. obtusifolium* Blume.

ニ宛テ來リシト雖モ然モ予ハ本品ヲ以テ此ノ如クおとざりさうノ變種ト爲スニ同意スルコト能ハズ是レ極メテ重要ノ點ニ於テ兩者相異ル所アレバナリ予ハ近日其委曲ヲ世ニ報ス可キノ期アルヲ信ズ而シテ本品ハ原野生ノ多年本ニシテ莖叢生シ斜臥シテ直立セズ葉ハ長楕圓形ニシテ葉頭鈍圓ヲ成シ線點透徹ス花ハ疎在シ細小ニシテ萼片葉狀ヲ呈ス

●びはばがしハいさめがしノ異品ノミ

びはばがしハちりめんがしナリ其葉皺縮シ其觀殊ニ奇ナリ往々之ヲ庭園ノ裏ニ見ルト雖モ未ダ嘗テ之ヲ山野ニ得ズ教授松村博士先キニ帝國大學理科大學植物標品目錄(明治十九年刊行)ヲ編セラル、ニ當リ疾ク既ニ之

ヲいませがしノ一變種ナリト斷ゼラレ之ヲ *Quercus phyllireoides* A. Gray var. *Bivalvatushi*. ト爲ス其後此植物ニ *Quercus crispata* Sieb. ノ學名アルヲ明カナルニ至ルニ及ンデ再ビ之レヲ Var. *crispata*. (本誌第四十八號松村博士著「日本産櫟櫛柯ノ諸種ヲ論ズ」ノ項中)トセラル客年晩秋予江州彦根ニ詣ル同地尋常中學校ノ前庭此樹ヲ植ウルヲ見ル時ニ樹身ノ地上部偶々新枝數條ヲ抽キ葉ヲ著クル少シモ尋常ノいませがしト異ナラズ而シテ注視スルニ固ヨリ本ト接枝セシ等ノ痕ヲ見出セズ乃チ此ニ本品ノいませがしト同種異品タルノ確證ヲ認ムルヲ得テ其標品ハ今之ヲ理科大學植物標品彙中ニ保存スルニ至レリ

● おたふくぐるみハおにぐるみノ變種ノミ
 おたふくぐるみ即チ *Juglans cordiformis Maxim.* ハ本邦何ノ地ニ自生アル乎予ハ未ダ之ヲ識ルニ及バズ唯人ノ之ヲ栽植セル者ヲ見タルノミ然ルニ其自生ナルト家植ナルトハ姑ク措テ問フヲ用キズ予ハ之ヲおにぐるみ

ノ一變種ナリト斷決シ左ノ如ク其學名ヲ改訂セントス只ニ其畸形ノ核上ニノミ略ル者或ハ異論ヲ其間ニ挿マシ然ルニ其各部ノ形相ヲ查スレバ此ニ始メテ本品ノ殊ニ特異ノ一種ニ非ザルヲ知り得ルニ至ランひめぐるみト稱スル者アリ單ニおたふくぐるみノ一品ニシテ核形少シク異ナルノミ

Juglans Sieboldiana Maxim. var. cordiformis

|| *Juglans cordiformis Maxim. in Mel. Biol.*

VIII. p. 635.

● わかぬまさうハ晃山ノ特産ナル乎

晃山ノ山中赤沼原アリ原中一草アリ夙ニ本草家ノ注意セシ所ニシテ之ヲわかぬまさうト名ケタリ叢爾ノ小草此ニ生ズル者莖枝ヲ分ツ鮮ク高サ寸ニ出入ス此者只ニ該處ノミノ特産ニ係ル乎將タ其他ニ於テ之ヲ見ザル乎、本邦ノ各地ニ採集スル者往々さはたうがらし (*Gratiola violacea Maxim.*)ニ兩品アルヲ見シ一ハ即チ尋常品ナリ一ハ其葉鐵狀ニシテ莖本枝極ヲ分チ叢ヲ成ス尋常品

ノ如ク高大ナラズ予ハ嘗テ仙臺近傍田間ノ平地ニ之ヲ探リ又之ヲ三河ノ野ニ得タリ其繁ク枝ヲ分チ叢ヲ成ス
 一わかぬまさらノ分枝稀疎ナルニ似ズト雖モ然モ是レ固ヨリ同品タルニ論ナキナリ一ハ山上ノ高地ニ生ジ一ハ低下ノ汚地ニ産ス發育ノ狀自ラ差等アルハ固ヨリ其所ナリ予ハ言ハンわかぬまさらハ晃山ノ特産ニ非ラズ
 ノ諸國田間ノ平地ニ之ヲ見ル亦稀ナラズト

●本邦植物ノ新和名

たかねはんしゅうづる(新稱) *Clematis lasiandra Maxim.*
 ハ之レガ學名ナリわくのてノ稱呼非ナルヲ覺ユ故ニ今之ヲ改ムわくのてハばたんづるノ異名ノミ〇みやまうぐひすかぐら(新稱) *Loniceera gracilipes Miq. var. glandulosa Maxim.* 是ナリ葉花梗等ニ毛ヲ被ル〇よこぐらのさ(新稱) *くろうめもどら* 科ノ喬木ニ冬ハ葉ナシ葉ハ長楕圓形ニシテ深綠色ニシテ全邊ナリ花ハ穂ヲ成シ樹身ハ皮粗ラシ *Berchemia* 屬ニ近シト雖モ材料不足シ今邊カニ之ヲ決ス可ラズ土佐横倉山中唯一株

ヲ見ル極メテ稀少ノ一樹ニ屬ス〇みづすぎな(新稱)嘗テ田中芳男先生ニ其標品ヲ得テ予ノ先キニすぎなも即チ *Hippuris vulgaris L.* ト誤認セシ者ナリ(本誌第六十五號絲條書屋植物雜記其一ヲ見ヨ) 此品三河尾張并ニ伊勢ニ産ス *Potalia* 屬ノ一種ナリ〇ひめさかしぐさ(新稱)亦 *Potalia* 屬ノ一種ニシテ矮小ノ草本ナリ小葉對生シ葉腋一花ヲ著ク田間ニ産ス始メテ之ヲ土佐國龍田村ニ採ル〇ひめのだけ(新稱)土佐國一宮村ニ採ル又九州ニ産スルヲ知ル葉ハ羽裂シ裂片往々再ビ羽裂ス高サ一二尺分枝シテ花白シ〇しろバナのだけ(新稱)のだけノ白花品ナリ *Penedanum deursivum Maxim. var. β albiflorum Maxim.* 是ナリ〇ほとばおもだか(新稱)おもだかノ狹葉品ナリ學名ヲ *Sagittaria sagittifera L. var. longiloba Turcz.* ト云フ〇やまたつなみ(新稱)花穂ノ間苞葉著シク且ツ葉ノ齒尖リタル一品ナリ根莖ヲ引テ繁殖ス花色白ク紫采アリ〇たまがはぬかば(新稱)ぬかばノ一種ニシテ武州多摩川河畔ニ採ル莖ノ下部

斜臥シ花穂疎散ス Agrostis ハ之レガ屬名ナリ〇こにしきさう(新稱)にしきさうニ似テ毛ヲ有ス武州本牧屋南ノ地并ニ東京ニ採ル學名未考固ヨリ Euphorbia 屬ノ一種ナリ〇ひめんごたく(新稱) Corydalis bulbosa DC. (= *C. solida* Sw.)ノ一變種ニ屬シ小葉圓ク葉柄絲狀ヲ成セル小形品ナリ土佐國深山中ニ見ル〇うすゆきなき(新稱) Podocarpus caesia Maxim. 是ナリ葉面白霜ヲ帶ブ是レ一種特立ノ種ニ非ズノ單なき即チ *P. Nagaiia* *P. Br.* ノ一異品ノ

○獨國植物學研究生要領

獨國各大學植物學教室ニ入りテ某々ノ教授ニ就キ數學期間某々ノ研究又ハ實驗ヲナサント欲セバ豫メ先ヅ書信ヲ以テ直接ニ該教授ニ問ヒ合ハセ然ル後後ルヲ宜シトス教室內空席アレバ大抵快ク承諾ヲ受ク、他國學校ノ教授又ハ卒業生ニシテ已ニ稱號若クハ學位アルノ人或ハ已ニ多少植物學上ノ研究アル人ハ別段大學ニ入學

セズトモ概テ教授ノ特別ノ許諾ヲ受ケ實驗場内ニテ他學生ト同ジク仕事スルコトヲ得ルモノトス、教室内ノ圖書、器具、藥品、顯微鏡等ハ皆ナ借り受クルヲ得又「プレバラー」用ノ諸道具及ビ特別ノ藥品等若クハ器具ハ名、自辨スルナリ、諸教授ノ講義ハ各、許諾ヲ得テ聽聞スルカ或ハ單ニ聽講者トナリテ大學ニ届ケ出テ聽講料ヲ拂フモアリ(尤モ大學々生トナレルトハ何ヅレモ「無料講義」ヲ除クノ他ハ該料ヲ拂ハザルベラカズ)、物理學、化學(普通)化學、物理化學、生理化學等)生理學、普通動物學、土壤學、地質學、金石學若クハ心理學ノ如キハ何ヅレモ多少植物學ニ關係アルヲ以テ該學研究生ノ常ニ聽講スル所ナリ、又物理學及ビ化學ノ實驗プラクティムノ如キハ初學ノ人ハ一ト通り鍊修スルヲ要ス

研究生ハ概テ最初數月間ハ生理、解剖等ノ一般實驗ヲ爲シ研究ノ方法ヲ習ヒソレヨリ新問題ノ研究ニ從事スルヲ常トス大抵ノ研究ハ少ナクトモ一年間即チ二學期(冬、夏)ヲ要ス時トシテハ數年ニ涉ルコトアリ又都合ニ

ヨリ夏期、春期、冬期等ノ休業間モ特別ノ許ヲ得テ實驗ヲ連續スルコアリ歐洲各國中可ナリ遠隔ノ地ニテモ獨逸各大學マデ行程僅カニ數日ニ出デザルヲ以テ該國諸大學ノ教授、助手等毎年夏期休業中、某々ノ植物學教室ニ來リテ實驗ヲナスモノアリ然レモ米國濠洲又ハ本邦ノ如キ大洋ヲ隔テル國ニアリテハ此等ノ便ナキ故ガニ留學生ハ數年間在留スルヲ常トス

植物學研究生留學ノ費用ハ一定ナラズ且ツ土地ニヨリ物價ノ高低アリト雖モ通常衣食住、及ビ研究上費用(書籍、器具、聽講料)雜用トモニ抵テ月々二百「マーク」餘ヲ要ス尤モ夏學期中ニハ折々近所ノ植物採收、遠足ヲナシ及ビ夏期ノ永キ休業中(春期休業ハ三月上旬ヨリ四月下旬マデ、夏期休業ハ八月初旬ヨリ十月下旬マデ此他ニ「フイんクステン」休業一週間及ビ冬期休業十二月下旬ヨリ一月上旬マデ)アルプス山又ハ所々へ研究旅行ヲ催シ或ハ各地植物園、植物學教室等ヲ巡覽スルルハ固ヨリ相當ノ費用ヲ要スルモノトス(旅費ハ獨逸

内ハ瀛車賃ヲ除キ大約一日八麻内外ニテ足レリ、瀛車賃ハ大抵一「キロメートル」ニ付通常列車三等、四「ベニヒ」、二等、一等ハ各二「ベニヒ」ヲ加フ、)

三好學

○寄贈書目録

明治廿八年七月十五日
以降領收ノ分

- | | | |
|---|--------------|---------|
| 動物學雜誌 | 第八十一號 | 動物學會 |
| 地質學雜誌 | 第二十二號 | |
| 東京醫學會雜誌 | 第九卷第三十三號 | 東京醫學會 |
| 日本蠶業雜誌 | 第八十四號 | 日本蠶業雜誌社 |
| 日本園藝會雜誌 | 第六十五號 | 日本園藝會 |
| 大日本山林會報 | 第一百五十一號 | 大日本山林會 |
| 地學雜誌 | 第七集第七十九卷 | 地學協會 |
| 日本藥業新誌 | 第二百六十九、二百七十號 | 衛生社 |
| 同志教育 | 第十一號 | 同志教育會 |
| Hedwig, Dt. XXXIV, Heft 3. | 1895. | |
| The Gardeners' Chronicle, Vol. XVII, | | |
| No. 431, 438, 439, 440, 443. | 1895. | |
| Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 5. | 1895. | |
| The Journal of Botany Vol. XXXIII, No. 388, 390. | 1895. | |
| Bulletin Mensuel du Cercle Horticole No. 14 | 1895. | |
| Missouri Botanical Garden. | 1894. | |
| Farmers' Bulletin No. 15, 17. | 1894. | |
| Bulletin No. 5, 7.—U. S. Department of Agriculture. | 1894. | |
| Boletim da Sociedade Brotteriana. | XII. 1895. | |

廣告
理科大學教授博士松村任三先生著

日光山植物目錄

全一冊
定價六拾錢
學名及和名
索引附

白根、男體ノ高峯、馬返ノ峻峻、赤沼ノ曠原、金精ノ鬱林其他鉢石、中禪寺、湯本等ノ勝區ニ野生スル九百有餘種ノ花卉草木ヲ盡ク網羅シタル目錄ナリ此名山勝地ヲ探檢スル内外ノ人士殊ニ修學旅行ヲ企圖セラル、教員、學生諸君ハ必ス一本ヲ備ヘサル可カラス、理科大學教授博士松村任三先生著

和漢洋譯本草字典

全一冊
定價六拾錢

本書ハ英語其他數十ヶ國ノ語ニ於ケル植物及藥品等ノ名稱ヲ和漢兩名ニ對譯スルニ羅馬字ト假字トノ兩様ヲ以テシ加之植物所屬ノ科名ヲモ記入シタルモノナレハ是亦坐右ニ缺クヘカラサル良辭書ナリ
池野成一郎譯

顯花植物分科檢索篇

全壹冊 正價貳拾錢 郵稅四錢

本書ハ嘗テ植物學雜誌ニ附録トシテ連載セルモノヲ集メテ一冊トナシ別ニ詳細ナル和洋科名ノ見出表ヲ附シタルモノ也

賣捌所

東京神田
裏神保町
東京日本橋
區通三丁目

敬業社
丸善書店

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金拾錢
三回以上割引仕候
○本誌毎月一回發兌一冊金拾貳錢○六冊前金七拾貳錢
○十二冊前金壹圓四拾四錢○會員ニ限リ一冊金拾錢
○配達概則
第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セズ
第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ
第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四條 特ニ一冊限御入用ノ向ハ壹錢切手十二枚御送致アレバ御届可申候

明治廿八年八月十九日印刷
明治廿八年八月二十日發行

版權所有

編輯兼發行者 印刷者 印刷所 發行所 賣捌所 同

井上 蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地
野村 宗十郎
東京市京橋區築地二丁目廿番地
株式會社 東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目七番地
植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
敬業社
丸善書店
東京市日本橋區通三丁目

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治二十二年二月三日内務省許可

明治二十六年六月三十日遞信省認可

Vol. IX.]

AUGUST, 20TH 1895.

[No. 102.

CONTENTS.

- ←—
- An Inverted Cutting of *Giukgo biloba*. By **A. Yasuda**. 277
- Mr. H. Kuroiwa's Collections of Luikiu Plants (*Continued*
from No. 101). By **T. Makino**. 278
- Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia.
By **K. Sawada**. 285
- Phanerogams of Shōnai. By **T. Kawakami**. 290
- Additions to the List of Ferns collected in Kyōto. By
G. Asada. 294
- Injury of Leaves caused by a Kind of Humble-Bee. By **A. Yasuda**. 294

MISCELLANEOUS:—

- Sort Notes on Plants.—Notes on Japanese Mosses.—Miscel-
laneous Notes on the Plants of "Yōjōsho-oku" XIX.—
Publications received.—etc.

All letters and communications to be addressed to the

TOKYO BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tokyo, Japan.

植物學雜誌第九卷第百三號

明治廿八年九月二十日

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. IX.

September 20, 1895.

No. 103.]

○葉ヲ以テ繁殖スル植物

理學士 安 田 篤

凡ソ植物ノ繁殖スルヤ通常ハ種子ヲ以テスト雖凡其種類ヲシテ不朽ニ傳ヘシメ絶滅ノ憂無カラシメンガ爲ニハ又諸種ノ妙匠アリテ存セリ例ヘバ匍匐莖ニ由テ繁殖スル者アリ或ハ纖匐枝ニ由ル者アリ或ハ根莖ヲ以テスル者アリ或ハ根ヲ以テスル者アリ或ハ珠芽ニ由ルアリ或ハ葉ヲ以テスルアリ其方法一樣ナラズト雖而モ其目的ニ至テハ何レモ軌ヲ同フセリ此中葉ヲ以テ繁殖ノ用ニ供スルコトハ殘餘ノ場合ト異ナリ世人ノ濫リニ散見セザル所隨テ興味モ稍多カルベシ抑葉ハ植物ノ榮養器官ニシテ主トシテ同化、蒸發、呼吸等ノ諸作用ヲ營ム者ナルニ之ヲシテ無性的ノ繁殖作用ヲモ兼ネシムルトハ隨分拔目ナキ裝備ト謂ハザル可ラズ是等ノ芽ハ何レモ不定芽ニシテ或ハ葉ノ莖上ニ於テ盛ニ生活シツ、アル間ニ生ズルコトアリ或ハ其脱落シタル者ニ生ズルコトアリ或ハ人工的ニ切取リタル者ニ生ズルコトアリ之ヲ總稱シテ „Blattbürtige Brutknospen“ ト云フ彼ノこもらしたノ葉ノ上面ニ數多ノ芽ヲ生ジおびづるしだ及ビくものすしたノ葉ノ末端ニ芽ヲ生ズルコトハ皆人ノ知ル所ナリ顯花植物ニテハみづたがらし、たねつけばな、すべりひゆ、もうせんぐさ、はへとりぐさ、いしもちさう、あをさ、かきどほし、しうかいどう類等ノ葉上ニ不定芽ヲ生ズルコトアリト雖是等ハ稀ニ見ル所ニシテ未ダあ

葉ヲ以テ繁殖スル植物

葉ヲ以テ繁殖スル植物

かばなれんげ (*Echeveria lurida* Lindl.) ノ落葉毎ニ芽ヲ生ズルノ奇觀ヲ呈スルニ如カザルナリ此植物ハ景天科ニ屬シ葉ハ頗ル多肉ニシテ叢生スルコト猶 *Small scale* ノりうせつらんニ於ケルガ如ク八月ノ候葉腋ヨリ長キ花梗ヲ抽出シ此上ニ數多ノ赤花ヲ開ク然リ而シテ花梗ニハ許多ノ苞アリ苞腋毎ニ一花ヲ挾ム此苞ハ名コソ苞ナレモ其實通常ノ葉ノ少シク小トナリタル者ニシテ毫モ葉ト異ナルコトナシ此苞即チ葉ハ全ク繁殖ノ用ニ供セラル、者ニシテ之ガ觀察ハ亦一片ノ値ナシトセズ花梗ハ花ノ未ダ蕾ヲ破ラザル時ニ在テハ依然苞ヲ有スト雖花ノ將ニ開カントスル頃ヨリ漸ク苞ノ脱落ヲ來シ此植物ハ元ト下花先開ナルヨリ上部ノ花ノ開ク曉ニハ殆ト其總テガ脱落シ去リ花梗上亦一苞ヲ止メザルニ至ル苞ノ落ツルハ面白ク決シテ偶然ノ作用ニ依ルニアラズシテ最初ハ能ク花梗ニ附着スルモ漸ク其基底ノ下部ガ花梗ヨリ離レ少シク外方ニ彎曲シ以テ附着面ヲシテ甚ダ僅少ナラシム故ニ此際一陣ノ風到ルカ雨滴ノ之ヲ撲ツカ若クハ人ノ之ニ觸ル、アラバ忽チ脱落シテ地上ニ散布スルナリ此ノ如ク脱落シタル葉ハ多肉ナルヲ以テ容易ニ枯萎セズ數日ヲ經レバ葉ノ基底ニテ花梗ヘノ附着點内ノ上方ニ於ケル中央部ニ芽ヲ發生シ漸ク大トナルニ從ヒ赤色ノ根ヲ出ス時ニハ葉ノ未ダ脱落セザル前ニ當リ花梗ニ附着シナガラ既ニ發芽セルコトモアリ此芽ハ葉ノ上面中該一處ニ限リテ生ジこもらしたノ如ク上面ノ全部ニ生ズルコトナク又 *Bryophyllum calycinum* Salisb. (景天科植物) ノ如ク葉ノ周邊ヲ沿フテ生ズルコトナシ尤此芽ハ一個ノミナラズ二個生ズルコトモアレモ其基點ハ必一ナリ斯ノ如クシテ葉ガ地上ニ落ツレバ其一端ニ生ジタル芽ノ漸ク勢ヲ得ルニ從ヒ葉ハ漸ク凋萎シテ終ニ枯死シ芽ハ全ク獨立ノ生活ヲ營ムニ至ルナリ故ニ其繁殖ノ速ナル舌駟モ及バザル程ニシテ一夏間一母株能ク數十個ノ娘株ヲ作ルコトヲ得ルナリ豈盛ナラズヤ

其如何ニシテ葉ガ不定芽ヲ出スヤニ就テハ Hansen 氏既ニ說アリ氏ノ所見ニ依レバ凡ソ植物ノ葉ノ不定芽ヲ

圖 一 第

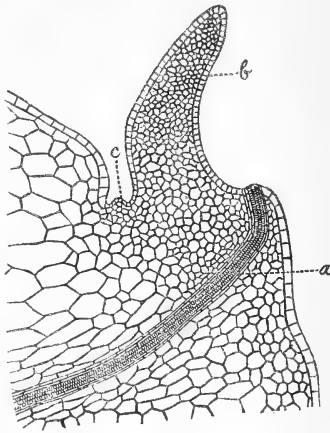


圖 二 第



第一圖ハあかばな
れんげノ苞ノ發芽
セル者ヲ上面ヨリ
見タルモノ
第二圖ハ全上ヲ側
面ヨリ見タルモノ

圖 三 第



第三圖ハ苞ノ基底
部ノ縱斷面ヲ示
シ、aハ中肋ヲ成
セル維管束、bハ
芽ノ葉、cハ極若
キ葉ナリ

Hansen 氏既ニ說アリ氏ノ所見ニ依レバ凡ソ植物ノ葉ノ不定芽ヲ
生ズルヤ葉中ノ充分發達セル組織内ノ一點ニ新タニ細
胞ノ分裂ヲ來シ以テ該處ヲ發生組織ニ變ジ此處ニ生長
點ヲ生ジ遂ニ之ヨリ發芽スルニ至ルナリト予ハ之ヲ實
驗ニ徵セント欲シ數多ノ苞ヲ取り局部ヲ通シテ之ヲ上
下ノ方向ニ縱斷セシニ其斷面ハ適ニ上圖ニ示スガ如ク
先ヅ葉ノ中央ニ纖弱ナル中肋アリ是ハ普通ノ植物ニ於
テ見ル如ク決シテ下面ニ偏スルコトナシ而シテ其他ノ部分ハ
多層ノ大ナル「パレンキマ」細胞ト表皮細胞トヨリ成
ルナリ此中肋ハ多肉ノ結果トシテ發育惡シキ維管束ヨリ
成リ苞ノ基底ニ於テハ遊離シテ終ルモノ元ハ花梗中ノ維
管束ノ苞ニ出ヅル枝ト連續セシ者ナリ試ニ花梗ヲ取り
之ヲ檢スレバ維管束ハ輪狀ヲ爲シテ排列シ之ヨリ出ヅ
ル枝ガ彎曲シテ苞ノ方ニ赴クヲ目撃シ得ベシソレハ偕
置キ不定芽ノ生ズルハ實ニ此中肋ヲ形クル維管束ノ

遊離端ニ近キ部分ニ於テスル者ニシテ苞ノ他ノ部分ハ全ク成長セザルニモ係ラズ夙ニ該維管束ノ近傍ニ於テ新
タニ細胞ガ分裂シ始メ一個ノ「メリステム」トナリ尋ダ生長點ヲ生ジ之ヨリ發芽シ葉ヲ生ジ根ヲ出シ終ニ獨

葉ヲ以テ繁殖スル植物

立ノ植物トナリテ自ラ生活ヲ營ムニ至レリ

○黒岩恒氏採集琉球植物 (承第百二號)

牧野富太郎

Mr. Hisashi Kuroiwa's Collections of Liuku Plants.

(Continued from No. 103.) By Tomitarô Makino.

(33) *Emilia sonchifolia* DC. (= *Cacalia sonchifolia* Linn.; *Senecio sonchifolia* Moench.; *Emilia sinica* Miq.; *Cacalia glabra* Herne; *Gynura ecalyculata* DC.; *Prenanthes sarmentosa* Wall.)

ラすべに、がな (さく科) 一年生草本ニ約ソ一尺内外ノ高サアリ莖ハ直立ノ分枝シ下部ニハ微毛ヲ有ス葉ハ互生シ羽裂琵琶形ヲ成シ毛ヲ疎布ス脚葉ハ基部狭窄スト雖モ上部ノ者ハ無柄ニシテ往々廣披針形ヲ成シテ莖ヲ抱キ脚耳ヲ成ス小頭花ハ分枝セル長梗端ニ獨在シ前部稍、放大セル圓柱形ヲ成シ底部ハ圓ク且ツ小苞ヲ伴ハズ長サ約ソ四分餘アリ總苞ハ長サ略、小花ト等シク而シテ一列ニ相并ビ綠色ニシテ往々微毛ヲ有ス各片銳頭線形ニシテ廣狹アリ邊側狹ク膜縁ヲ成シ互ニ密觸ス花托ハ薄クシテ窪面ヲ成シ裸出ス小花ハ多數ニシテ皆同一ナル兩性管狀小花ヨリ成リ管部纖瘠ニシテ前方ヤ、放大シテ上端五裂シ裂片線形ニシテ略、銳頭ヲ成ス雄蕊ハ管内ニ潜在シ雌蕊ハ少シク管外ニ出ヅ花柱絲狀纖長ナリ柱頭二腕ハ狹長ニシテ盡頭ニ毛ヲ有ス冠毛ハ白色精細ニシテ花冠ヨリ短ク果實ハ圓柱様ニシテ五稜ヲ成シ短毛ヲ有ス ○宮古島 (明治廿五年八月廿八日黒岩恒氏採、第一回ノ第廿九號) ○普ク亞細亞、亞非利加ノ暖地ニ廣布シ又亞米利加ニ移リテ此ニ繁殖スト云フ琉球ノ近傍ニ在テハ支那南部ニ之ヲ産シ又之レヲ臺灣ニ見ル本邦内地ニ在テハ四國九州之レガ産區ニシ

夏秋ノ際淡紅可憐ノ小花ヲ山足等ノ草間ニ發クラ見ル

(34) *Verbena officinalis* Linn. (= *Verbena spuria* Linn.; *Verbena sororia* D. Don; *Verbena selosa* Martens et Gal.)

くまのつばら (くまのつばら科) 直立草本ニシテ往々下部ハ横斜ス莖葉疎毛ヲ帶ビ殊ニ葉裏ニ於テ稍多シ莖ハ四稜ヲ成シ分枝シ葉ハ對生シ倒卵形、長楕圓形或ハ卵形ニシテ分裂シ裂片更ニ裂齒ヲ有ス花序ハ纖長ナル穗狀ヲ成シ軸梗ニ毛并ニ腺毛ヲ有ス花ハ細小無柄ニシテ個々穗軸上ニ獨在シ且ツ互ニ離在ス然レモ蓇葖ノ時ハ穗軸短キガ爲メ花々相密接ス苞ハ細小ニシテ毎花ノ下之ヲ伴ヒ卵狀鉞形ニシテ末尖リ邊緣并ニ背ノ中脊ニ直毛アリテ背面ニハ腺毛ヲ見ル苞長ハ宿存萼ノ長ニ及バズ萼ハ圓筒ヲ成シテ外面略五稜ヲ呈シ并ニ毛ヲ有シ毛間雜ユルニ更ニ腺毛ヲ以テ上口邊ハ不明ニ五齒ヲ成シ就中其一齒ハ細微ナリ齒下ノ筒部ハ縱ニ綠質ニシテ其間隙ハ無色ノ膜質ナリ即チ五萼片ノ合體セシ者ニシテ其中ノ一ハ微弱ナリ漏斗狀花冠ハ藍紫色ニシテ萼ヨリ超出シ外面ニ微毛アリ管部圓柱形ヲ成シテ全花冠長五分二以上ハ花脰ヲ成ス花脰ハ稍歪形ニシテ五裂シ裂片鈍圓ナリ喉口ニ毛アリ以テ管口ヲ塞グ雄蕊四數ニシテ喉下ノ管壁ニ生ジ二個ハ稍高ク二個ハ低シ花絲短小ニシテ藥ヨリ短ク藥ハ楕圓形ナリ花柱ハ直立シ略壯強ニシテ位置ヨリ高カラズ柱頭ハ二耳ヲ成シテ其一耳ハ尖レリ子房ハ長キ卵形ヲ成シ果實ハ宿存セル萼筒ヨリ稍短ク四分シ各分顆圓柱狀長楕圓體ヲ成シ稜角アリ每室種子一個ヲ藏セリ ○石垣島四箇村(明治二十五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第三十號) ○本品ハ *Verbena* 屬中 Sect. *Verbena* § *Leptostachyae* (J. C. Schauer 氏ニ從フ) 群中ノ一種ニシテ極メテ廣ク世界ノ温帶并ニ半熱帶ノ地ニ産シ我日本内地ニ在テモ亦野徑ノ邊之ヲ見ルノ普通ナリ

(35) *Eurya japonica* Thunb. var. *nitida* Dyer (= *Eurya nitida* Korts.; *Eurya Bozbergii* Wall. pro parte; *Eurya systyla* Miq.; *Eurya Wightiana* Wall.; *Eurya fasciculata* Wall.)

もちばひさかさ(田代安定氏)

(もくこく科)

灌木本ニシテ枝上ニ毛ナク唯芽ニ微毛ヲ布ク枝皮ハ暗紫褐色ニシテ其面ヤ、粗ク小枝ハ往々白色ヲ帯ビタリ葉ハ常緑ニシテ互生シ葉々繁密ナリ倒披針形ニシテ下部ハ長ク狭殺ノ途ニ短キ葉柄ト成ル上端ハ鈍頭ヲ成シテ中央微凹シ邊緣ハ鈍鋸齒ヲ有シ革質ナリ長サ凡ソ一寸二三分乃至一寸七八分アリ花ハ葉腋ニ出デ、一―二個集在シ小梗ヲ有ス萼五片細小ニシテ宿存シ未熟漿果ハ楕圓狀卵形ニシテ合體ノ一ト成リタル花柱ヲ其頭端ニ立テタリ

○入表島仲間村(明治二十五年八月十四日黒岩恒氏採、第一回ノ第三十一號) ○理科大學所藏田代安定氏採集ノ標品ニ依リ予ハ今其雄花ノ形狀ヲ此ニ附記セン即チ其細小ナル花ハ短キ小梗ヲ有シ一個若クハ二個葉腋ニ出デ梗ハ稍彎曲スルヲ常トス萼下ニ細微ノ苞二片アリ萼ハ五數ニシテ覆瓦襞ヲ成シ外部ノモノハ細小ニシテ卵形ト成リ内部ノモノハ形之ヨリ大ニシテ圓形ヲ呈シ共ニ全邊ニシテ内面陷凹シ且ツ中部肥厚ニシテ邊緣薄シ花瓣五數亦覆瓦襞ヲ成シ各片ノ大小ヤ、差違アリ倒卵狀長楕圓形ニシテ中部以上ノ邊緣波狀ヲ呈シ頂端元來圓シト雖モ花放ク時往々裂ケテ回頭ノ狀ヲ粧ヘリ雄蕊ハ花托ヨリ生ジテ花冠ヨリ短ク其數七個アリテ絲狀花絲ノ下部ハ合體シ藥ハ花絲ヨリ短ク長楕圓狀線形ヲ成シ藥胞ノ下部ハ少シク下ニ出デ、耳狀ト成ル

○内地普通(琉球亦之ヲ産ス)ノひさかさニ在テハ其雄花ハ一―四個葉腋ニ出デ花體ヤ、大ニシテ雄蕊ノ數十五個許ヲ算ス可シ又雌花ニ在テハ其花柱殆ンド基部ヨリ三分シテ相合體セズ今上ニ記述シタルもちばひさかさニ在テハ則チ雄花ハ細小ニシテ

ノ毎花雄蕊只七個ヲ具ヘ且ツ雌花ノ花柱ハ中部以上合體ノ一トナレリ以テ普通ノひさかさト異ナルヲ見ル

可シ ○本品ノ產地ハ「チャバ」、「スマトラ」、「ボルネオ」并ニ英領印度ニ跨ガル

(36) *Oxalis corniculata* Linn. (= *Oxalis repens* Thunb.; *Oxalis pusilla* Salisbury)

かたばみ (ふうろさう科) 根ハ鬚狀ヲ成ス全體疎毛ヲ有セル草本ニシテ莖ハ匍匐ノ繁衍シ葉ハ互生ノ直立

シ纖長ナル葉柄ヲ有シ柄本ニ沿附セル托葉アリ葉面ハ三小葉ヲ以テ成リ各小葉ハ倒心臟形ヲ成ス ○宮古

島(明治廿五年八月廿八日黒岩恒氏採、第一回ノ第三十二號) ○地球上一般ニ散布セル普通品ナリ

(37) *Erigeron linifolius* Willd. (= *Congyu ambigua* DC.; *Erigeron ambiguus* Schult-Bip.; *Erigeron crispum*

Pourr.; *Erigeron contortum* Desf.; *Erigeron canadense* Ten.)

われちのぎく いぬちわらぎく (ぎく科) 一年生草本ニシテ高サ一二尺全體ニ直出セル粗毛ヲ被ル莖直立

シ圓柱形ニシテ梢ニ分枝ス莖葉ハ無柄ニシテ散生シ線形全體ニシテ時ニ一二ノ小裂片ヲ有スルコトアリ而シテ葉底ハ

長ク瘠窄ノ葉頭ハ尖レリ花序ハ枝梢ニ在テ頂生圓錐狀ヲ成シ梗下ニ狹長ノ苞ヲ有ス小頭花ハ大形ナラズ

每梗ノ頂ニ各一個アリ其形頭部ヲ截去シタル半圓狀卵形ヲ成ス總苞ハ其數多ク三列ニ相并ビ細長線形ニ

シ末尖リ外面ニ毛ヲ有ス而シテ其外圍者ハ内圍者ヨリ長ク短シ花床ハ殆ド平面ヲ成シテ裸出シ小花ハ多數ニ

シ外圍ノ數列ハ皆雌花ヨリ成リ外邊ノ總苞ヨリ高シ管部ハ絲狀ニシテ頭端三裂若クハ四裂シテ其一方ノ裂片

ハ他ヨリ長シ又往々筒口斜截シタル者アリテ其舌片ヲ成セル處ハ頂端二裂ス花柱絲狀ニシテ二柱頭亦纖長ナ

リ而シテ高サ管口ニ出入ス兩性管狀小花ハ中央ニ其位置ヲ占メ周圍ノ雌性小花ヨリ稍低シ管部細長ニシテ中

邊ヨリ以上ハ稍放大シ口端五裂シ裂片長三角形ヲ成シテ其邊縁稍厚シ雄蕊ハ管ノ中部放大セル處ヨリ出

テ、花絲々狀ヲ成シ葯ハ菊科ノ常套ナル聚成葯ト成リテ少シク管口ヨリ超出ス花柱ハ絲狀ヲ成スト雖モ雌性

小花ノ者ヨリ壯強ニシテ二柱頭亦之ヨリ短大ナリ成熟ノ時ハ聚成葯ノ上ニ抽ク冠毛ハ其數約ソ三十本許ニシテ一列ヲ成シ其長サ花管ニ等シク刺毛狀ニシテ體上更ニ微短刺ヲ有ス果實成熟セル時ハ其色茶白色ヲ成ス子房ハ細小、長橢圓狀線形ニシテ疎毛ヲ有シ瘡果ハ略、圓柱狀線形ヲ成シ褐色ナリ ○石垣島四箇村(明治二十五年八月九日黑岩恒氏採、第一回ノ第三十三號)

○今本品ヲ取テ其各部ノ標徵ヲ精査スル時ハ忽チ之ヲ

Erigeron 屬ニ編入ス可キカ但シハ *Conyza* 屬ニ屬ス可キカ一タビハ之ヲ決定セザル可ラザル一難事ニ遭遇ス可シ而シテ此植物ノ呈セル標徵ノ劃然タラザルヨリ一ニ記者ハ嘗テ之ヲ *Conyza* 屬タラシメタルコトアリ然ルニ此兩屬ノ判ル、所以ハ主トシテ其雌性小花ノ花冠管口舌狀ヲ成スト不ラザルトニ在リテ存シ而シテ此一事ハ管ニ此兩屬ヲ別ツノ鑄タルノミナラズ亦其小族ノ分ル、主點ナリ即チ一ハ其雌性小花全ク管狀ヲ成ス之レヲ *Conyza* 屬ヲ含メル *Conyzeae* 亞族トシ一ハ其雌性小花舌狀ヲ成ス之レヲ *Erigeron* 屬ヲ含メル

Heterochromera 亞族トス故ニ其所屬ヲ決定センガ爲メニ其雌性小花ノ全ク管狀ヲ成スカ又ハ舌狀ヲ成スカ

ヲ究明スルハ最モ緊要ノ一事タリわれらのとくニ在テハ則チ其雌性小花ノ管口舌狀ヲ呈スルコト稍明瞭ナル者少ナカラズト雖モ然モ亦只管口三四片ニ分裂シ其一側ノ二三片ハ他片ヨリ少シク長キノミニテ分明ニ舌狀ト成ラザル者多ク強テ抗辯ヲ逞クセバ亦以テ之ヲ *Conyza* 屬ニ收ムルヲ得ベシ然モ之レヲ全然管狀ヲ成セル *Conyza* 屬ノ者ト爲サンヨリハ寧ロ之レヲ *Erigeron* 屬ノ者ト爲スノ稍優レルニ如カズ故ニ今之ニ從フ ○本品ハ元來歐洲ノ南境地中海地方ノ原産タリト雖モ今ハ廣ク世界ノ各處ニ散布セリ (C. Bentham 氏曰ク是レ蓋シ歐洲人ノ世界ノ各地ニ造ルニ從ヒ之レニ伴ハレテ此ノ如ク廣ク散布スルニ至リシナラント

(38) *Randia sinensis* Reem. et Schult. (= *Oxyceros sinensis* Lour.; *Randia chinensis* Spreng.)

ひぢはりのき(新稱) (わかね科) 灌木本ニシテ材質堅剛、枝條ハ圓柱形ニシテ枝極ヲ分ツキハ兩岐式ニ開出

シテ廣キ角度ヲ成ス皮色灰白、枝端ニハ少シク毛ヲ帶ビタリ直出セル短刺アリテ枝上ニ對生シ葉腋ノ上ニ位
ス葉ハ對生シ莖節ニハ毛ヲ生ズ葉長サ約ソニ寸五分乃至三寸許アリテ三四分長ノ葉柄ヲ具ヘ乾ク時ハ黑色
ヲ帶ブ葉柄間托葉ハ三稜形ニシテ後脫落ス葉面ハ長橢圓形全邊ニシテ上下共ニ銳形ヲ成セリ支脈ハ中肋ノ兩側
ニ各六七條ヲ曳キ以テ緩ク彎曲ス葉ノ表面ハ全ク裸出シ下面脈又ノ處毛ヲ生ジ葉柄ノ上面モ亦毛ヲ有セリ
花序ハ頂生ノ攢簇セル聚繖花ヲ成シ毛ヲ被ル梗短クシテ苞ハ細ク其形三稜狀鋸形ヲ成ス果實ハ球形ニシテ簇集
シ各二分半許ノ徑アリ梗柄短ク表面ハ稍粗糙ニシテ微毛ヲ被リ頂ニハ萼筒ノ上部脫去セル爲メ灰色ノ輪痕ヲ
印セリ果皮ハ革質ニシテ内部ニシテ二胞ニ分レ隔膜薄シ種子ハ細小、平區、有稜ニシテ各胞内ニ數個ヲ藏シ而シテ果肉
ノ中ニ埋メラル ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第三十四號) ○予ガ標品
ニハ唯果實アリテ花ヲ具ヘズ理科大學所藏明治廿年八月田代安定氏採八重山産標品ニハ花ヲ著クルト雖モ
不幸ニシテ蓓蕾タルニ過ギズ然レ今之ヲ檢メ其萼筒ニ毛ヲ被レル、萼ノ五裂ノ其裂片ノ三稜形ヲ成セル、花
冠裂片ノ蕾中ニ在テ回旋變ニ疊メル、又雄蕊ノ五數ナル等ノ諸點ハ明ニ之ヲ見ルヲ得ベシ田代氏ハ之レ
ヲ未詳品中ニ置キ學名ト和名ト亦共ニ之レヲ附記セズ ○本品ハ從來唯支那南部ノ地即チ香港、「ランマ」
島并ニ廣東邊ノ外ニ産スルヲ知リシ者無カリキ故ニ其他ノ産地ハ一モ之レヲ書籍中ニ見ルコトヲ得ズ田代
黒岩兩氏ノ標品ハ始メテ我版圖内ノ琉球ニモ亦之ヲ産スルコトヲ確證セシ者ト謂フ可キナリ

(39) *Boerhaavia repens* Linn. var. *diffusa* Hook. fl. (= *Boerhaavia diffusa* Linn.; *Boerhaavia repens*
Wall. pro parte; *Boerhaavia hispidula* Hook. et Arn.)

なはかのこさう(田代安定氏) ばといも(宮古島方言) (おしろいばな科) 莖稍圓柱形ニ瘦長二尺ニ超

エ長ク地上ニ偃臥擴散ノ梢部斜メニ朝上シ又疎々ニ枝ヲ分ツ節間長ク莖面塵毛ヲ布キ葉ノ下部亦往々然リ
 葉ハ節上ニ對生ノ其一葉ハ多クハ一方ノ一葉ヨリ小ナリ葉柄アリ葉面ヨリ短シ葉面ハ長キ卵形或ハ卵狀披
 針形ヲ成シ梢部ノ者ハ更ニ狹長ナリ周緣稍波狀ヲ呈シ葉頭銳ク葉底ハ鈍形若クハ圓形ヲ成ス質稍厚クノ支
 脈ハ中助ノ兩側ニ各三四條アリ花梗ハ頂生或ハ腋生ニ極メテ纖長、長サ著シク葉ニ超ユタリ上ニ分枝シ
 多少不正ナル複繖狀ヲ成形シ小梗下ノ苞ハ細形ニ披針形ヲ成シ周邊ニ腺毛ヲ飾ル而シテ花下亦多クハ一二
 ノ小苞ヲ有セリ花ハ細小ニメ長サ凡ソ一分許、短梗ヲ有シ或ハ時ニ殆ンド無柄ナリ花蓋ノ中央狹繫セラレ
 テ其下部ハ上部ト全ク其質ヲ異ニシ肥厚草質ニシテ倒卵形ヲ成シ縱ニ五脊ヲ有シ脊間有柄腺ヲ布ケリ其上
 半部ハ全ク之ニ反シテ其質薄ク其色淡紅ニシテ花瓣狀ヲ呈シ鐘狀ヲ成シテ舩緣淺ク五耳片ヲ爲ス而シテ此部ハ
 花後其下部變質部ヲ遺シテ離脫ス雄蕊ハ三個アルヲ常トシ花蓋ヨリ微ニ高ク絲狀花絲ハ子房柄ニ附着セル
 齒緣杯狀體ヨリ出デ葯ハ略雙頭形ヲ成ス子房ハ全ク花蓋ノ變質部ニ掩蔽セラレ下ニ小柄ヲ有ス絲狀花柱ハ
 雄蕊ヨリ少シク高ク柱頭顯著ニシテ菌頭形ヲ呈ス果實ハ花蓋下部ノ變質部ニ包裹セラレテ成熟シ其變質部ハ
 成熟セル果實ヲ宿シテ花後更ニ其長サヲ増シタル梗端ニ立チ長楕圓狀紡錘形ヲ成シ表面腺刺ヲ布ク長サ約
 ソ一分許アリ其内部ニ幽閉セラレタル果實ハ倒卵形ニシテ稍壓匾シ果皮薄ク且ツ平滑ナリ胚ハ大ニシテ背倚
 成シ子葉圓形ニシテ内部ノ一片ハ稍小形ナリ幼莖ハ強壯ニシテ子葉ヨリ稍長ク胚乳ハ幼莖并ニ子葉ノ間ヲ填
 メリ ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黑岩恒氏採、第一回ノ第三十五號) ○亞細亞、亞弗利加及
 ビ亞米利加ノ熱帶并ニ亞熱帶地ニ産シ又之レヲ濠洲ノ地ニ見ル「ヂャバ」島「サン」ド「キ」チ「島」等亦之レヲ生

ゼリ帝國版圖内ニ在テハ琉球及ビ臺灣ニ産セリ

(40) *Zanthoxylum Arnotianum* Maxim. (= *Zanthoxylon piperitum* Hook. et Arn. non DC.)

ひれぞんせう(田代安定氏) (まつかせさう科)(即チへんろうだ科) 灌木ニシテ枝繁ク枝面ニ小白點ヲ散布ス老

枝ハ無毛ナリト雖モ嫩枝ニハ塵毛ヲ布ケリ枝上ノ刺ハ細小ニシテ葉柄本ノ兩側ニ立チ以テ托葉ノ位置ヲ占メ
尖錐狀ヲ成ス葉ハ互生シ奇數羽狀ニシテ小葉四對乃至七對ヲ算ス項生小葉ハ對生小葉ヨリ消長ク對生小葉ハ
倒卵形或ハ倒卵狀長楕圓形ニシテ底部略楔形ヲ成シ無柄ニシテ長サ二三分許アリ葉頭圓クシテ微小ナル一凹缺ヲ
有シ其兩緣ニハ不明ナル鈍齒ヲ見ル中肋獨リ看取ス可シト雖モ支脈ハ分明ナラズ表面ニハ光澤アリテ下面
ニハ腺点ヲ散布ス葉ノ中軸ハ兩邊ニ狹翼ヲ具ヘ全葉ノ長サ一寸乃至一寸三四分アリ予ノ標品ニハ花果ヲ有
セズ ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黒岩恒氏採、第一回ノ第三十六號) ○小笠原島亦本品ヲ産
ス而シテ歐米ノ書ニ未ダ琉球ノ產地ノ載セタル者無シ

○附記 左ニ掲出シタル一植物ハ曾テ田代安定氏ノ發見且ツ採集セラレタル者ニシテ先キニ露國 Maximowicz
氏ノ檢定ヲ經タル者ニ係ル而シテ今田代氏ノ標品ニヨリ細心其各部ノ相貌ヲ歴驗スルニ予ハ Maximowicz 氏ノ
意見ニ首肯スル能ハズ依テ此ニ其名稱ヲ改訂スルヲ左ノ如シ

Shortia rotundifolia Makino.

= *Schizocodon rotundifolius* Maxim. in Mel. Biol. XII. p. 743; Hemsley in Journ. Linn. Soc.

黒岩恒氏採集琉球植物

XXVI. p. 34.

Rocky place in a mountain of Nishionote-zima. Yageyama, Luukru (*Yasusada Tashiro*,

August 1887.) Herb. Imp. Univ. Tôkyô, Japan.

Shortia 屬ノ本邦ニ生スルモノ *S. uniflora Maxim.* 即チいはかゞみアリテ日本中部以北ノ山地ニ見ル稀ナ
ラズ然レ之レヲ四國九州ノ地ヨリ得ズ八重山諸島ハ本邦版圖極南ノ島嶼ニシテ亦此ニ本屬ノ一植物ヲ見ル本邦
ニ在テ本屬分布ノ狀誠ニ奇狀ヲ呈ス田代安定氏會テ其稿本ニ記シテ曰ク其八重山列島ニ自生スルハ地理植物
學上ノ一注意點ナリト其說誠ニ然リ

黒岩氏採集ノ標品中未ダ本品ヲ見ズト雖レ今其學名改訂ニ際シ殊ニ此ニ附記スルコト爾リ而シテ予ハ後日其完備
ノ標品ヲ得ルニ會セバ直ニ之レヲ圖說シテ世ニ示シ以テ其狀ヲ明ニス可シ田代氏ノ標品不幸ニシテ花冠ヲ缺ギ
材料具サニ備ハラズ豈ニ遺憾ノ事ト謂ザル可シ哉、後ノ植物ヲ該處ニ採集スル者須ラク此ニ注意ス可キナリ

○日本藥局方植物篇 (前號ノ續キ)

澤田駒次郎

製劑

第一 枸橼酸鐵規尼涅 *Chininum ferro-chinicum.* (Feri et Chinini Citras.)

日本藥局方ニ據レバ其製法左ノ如シ

枸橼酸鐵規尼涅ハ

硫酸規尼涅

三分

ヲ取り之ニ

蒸餾水

二十四分

ヲ和シ稀硫酸ヲ加ヘテ全ク溶解スルニ至リ稍過剰ノ安母尼亞水ヲ和シテ規尼涅ヲ沈降セシメ之ヲ濾器上ニ集メ蒸餾水ヲ以テ能ク洗洗シ硫酸及安母尼亞ノ反應ヲ見サルニ至リ

枸橼酸鐵液

三十分

ニ和シ六十度ニ超ヘサル温ヲ與ヘテ溶解スルニ至リ蒸發シテ舍利別稠トナルヲ度トシ薄ク硝子板上ニ塗布シ小葉片トナシテ剝離シ得ルニ至ル迄微温ヲ與ヘテ乾燥シ製スヘシ

本品ハ光澤アル透映帶綠黄色或ハ帶黃褐色ノ薄キ小葉片ニシテ僅微ノ引濕性ヲ有シ弱酸性ノ反應ヲ徴シ其味苦ク微ニ鐵味ヲ帶ヒ水ニハ徐々ナレバ全ク溶解シ酒精ニハ僅微ニ溶解ス

本品ノ水溶液ハ鹽酸ヲ加ヘテ後始メテ黄色血滴鹽ニ由テ藍色ヲ呈ス安母尼亞水ヲ加フレバ依的兒ニ全溶スヘキ白色ノ沈澱ヲ生シ其依的兒溶液ヲ蒸發シテ得タル殘滓ニ格魯兒水ヲ和シ安母尼亞水ヲ滴加スレハ綠色ヲ呈ス

本品ノ水溶液(1||2)ニ加里滴液ノ過剩ヲ和シ其鐵分悉ク沈降スルニ至ル迄煮沸スルニ安母尼亞ヲ發ス可カラス其沈滓ヲ濾別シテ得タル液ニ醋酸ヲ加ヘテ酸性トナスニ久シキヲ經ルモ結晶性ノ沈澱ヲ生ス可ラス又其水溶液(1||20)ニ硝酸拔留膜ヲ和スルモ僅微ノ濁濁ヲ起スニ過ク可カラス

本品ヲ大氣中ニ熾灼シテ得タル殘留物ハ亞爾加里性ノ反應徵ス可カラス

本品ニ「グラム」ヲ枸橼酸〇・五「グラム」水二十立方「センチメートル」ニ和シ温ヲ與ヘテ溶解シ其溶液ヲ分液

漏斗ニ盛リ那篤倫液ノ過剩及依的兒二十立方「センチメートル」ヲ加ヘ強ク之ヲ振盪シ次ニ豫メ秤量セル器中ニ澄明ナル上層液ヲ取り尙ホ二回毎十立方「センチメートル」ノ依的兒ヲ加ヘテ振盪分收ス可シ斯ノ如ク集採シタル依的兒液ヲ蒸餾シ其殘留物ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量大約〇・二五「グラム」ナルヘシ是レ本品百分中無水規尼涅ノ含量十二・五分ヲ徵スルモノトス

燻中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ又日本藥局方注解曰本品ヲ製出スルニ當リ宜ク本條ニ掲クル方法ニ從ヒ新ニ製出セル規尼涅ヲ用ユヘシ其時日ヲ經タルモノハ結晶性ヲ有シ枸橼酸液ニ溶解スルコト甚ダ困難ナリ又之ヲ枸橼酸鐵液ニ溶解スルニ際シ六十度以上ノ温ヲ施サ、ルヲ要ス蓋シ其已上ノ高温ヲ與フルトキハ其溶解甚ダ困難トナルノ虞アレハナリ

性狀 枸橼酸鐵規尼涅ハ枸橼酸鐵 ($\text{Fe}_2(\text{C}_6\text{H}_5\text{O}_7)_2$) 及枸橼酸規尼涅 ($(\text{C}_{20}\text{H}_{21}\text{NO}_6)_2\text{C}_6\text{H}_5\text{O}_7$) ノ混合鹽ヨリ成リ規尼涅ノ含量ハ其混合鹽ノ重量百分ノ十二・五分ニ居ルモノナリ而シテ透映帶綠黃色乃至帶黃褐色ノ小葉片ヲ爲シ臭氣ナク微ニ濕氣ヲ引キ弱酸性ノ反應ヲ呈シ其味若クハ稍、鐵味ヲ帶ヒ冷水ニハ徐々ナレテ全ク溶解シ酒精ニハ僅ニ溶解ス其水溶液ハ鹽酸一二滴ヲ加フルノ後ニアラサレハ黃色血滲鹽ニ由テ藍色ノ沈澱(即チ酸化鐵ノ反應)ヲ生セサルモノトス

實性反應 本品ノ水溶液ハ鹽酸ヲ加ヘテ後始メテ黃色血滲鹽ニ由テ藍色ヲ呈ス又安母尼亞水ヲ加フレハ依的兒ニ全溶ス可キ白色ノ沈澱ヲ生シ其依的兒液ヲ蒸發シテ得タル殘滓ニ格魯兒水ヲ和シ安母尼亞水ヲ滴加スレハ綠色ヲ呈ス、黃色血滲鹽ニ由テ生スル藍色ハ伯林藍色素ニ係リ酸化鐵ヲ含有ス可キヲ證明スルノ反應ナリ而シテ安母尼亞ニ由テ生スル白色ノ沈澱ハ規尼涅ニシテ亦之ヲ含有スヘキヲ證明スルモノナリ、此沈澱果シテ

規尼涅ヨリ成ルキハ依的兒ニ全ク溶解シ(不溶解分ヲ留ムルキハ類似ノ亞爾嘉魯乙度殊ニ聖古尼涅ヲ混有ス)其溶液ヲ蒸發シテ得タル殘渣ニ強格魯兒水ヲ加ヘタル後安母尼亞水ヲ和スレハ綠色ヲ呈ス之ヲ「タルレイヲヒン」反應 (Thalleisohinreaction) ト云フトアリ

(以下次號)

○子コノメサウ屬檢索表譯述 (八十八號ノ續キ)

德淵 永治郎

第八十八號正誤 二五二頁五行六字目(チ)ハ(ニ)ノ誤同九行ノ中(觀シミレバ)ハ(顧リミレバ)ノ誤同行下(出ツル)ノ三字ヲ除ク同十三行(種シテ)ハ(決シテ)ノ誤二五四頁九行(子コノメサウ)ハ(ヤマチコノメサウ)ノ誤二五〇頁十一行下(カムチャツカ)ヲ脱ス二五五頁八行廿二字目(純)ハ(鈍)ノ誤同十三行十三字目(ノ)ハ(ハ)ノ誤

(II) 對生葉(種子平滑或ハ有毛或ハ溝紋ヲ呈ス)

(A) 萼ハ草本質ニシテ綠色若クハ帶黃綠色ナリ

(a) 萼ハ中央以上マデ萼内ニ沈充シ頂端截形或ハ少シクニ裂シ各裂不同ナラズ屢多少開潤ナル鈍角ヲ成シ若クハ地平ニ開出ス

十種子面ニ溝紋ヲ呈セズ

* 種子面平滑ナリ

20. *Chrysosplenium valdivium*, Hook, f. 南米智利地方

莖ノ諸處ヨリ根ヲ出シ花葉腋ヨリ生シ每花長キ花梗上ニ在リ葉ハ邊緣鈍齒ヲナス

21. *Ch. macranthum*, Hook, f. マデラン海峽及其近傍

ネコノメサウ屬檢索表譯述

全體強剛多肉花枝端ニ着キ花梗短シ葉ハ前種ヨリ大ニシテ邊緣粗大ナル鈍鋸齒ヲナス

22. Ch. nepalense, Don. ヒマラヤ地方、支那西部

全體柔弱多汁葉ハ卵圓形若クハ卵圓狀圓形ニシテ邊緣著明ナル多數ノ鈍齒ヲ有シ莖ニ裂シテ各裂開放ス全體ハ平滑ナリ

23. Ch. glechomaeifolium, Nutt. 亞米利加西北部

全體甚ダ柔弱平滑葉ハ圓形ニシテ邊緣鈍齒ヲナス莖ニ裂シテ每裂片ハ少シク開出ス

○24. Ch. ramosum, Max. マルバネコノメサウ 西比利亞東部 滿州東方 函館

全體甚ダ柔弱屢根上ヨリ長キ枝ヲ抽出シ葉ハ腎臟形甚低截形ヲナシ邊緣ニ不明ナル鈍齒ヲ有シ葉ハ莖ノ上部ニ多シ葉腋葉柄俱ニ帶褐淡赤色ノ毛茸ヲ生ズ

** 種子面毛茸若クハ小隆起ヲ有シ若クハ粗糙ナリ

25. Ch. oppositifolium, L. 歐洲、亞細亞洲

葉圓形邊緣不明ナル鈍齒ヲナシ種子面微細ナル隆起ヲ現ハス

26. Ch. americanum, Schw. 亞米利加東北部

葉圓形邊緣不明ナル鈍齒ヲナシ種子面ニ白色ノ長剛毛ヲ具有ス

27. Ch. trichospermum, Edgw. ヒマラヤ地方

葉ハ潤卵圓ニシテ邊緣鈍鋸齒ヲナシ匍枝ノ葉ト同形種子面長剛毛ヲ有ス

28. Ch. trachyspermum, Max. 支那西部滿州

葉橢圓形邊緣ハ中央以上ニ鈍齒ヲナス匍枝端ノ葉ハ極メテ大ナリ種子面ハ極メテ微細ニ粗糙ナリ

竹種子面ニ溝紋ヲ呈ス

29. Ch. baicalense, Max.

西比利亞東部

嫩枝ハ匍匐シ葉ヲ生ジ枝上纏縮セル *Conferva* 狀ノ毛茸ヲ以テ被ハレ種子橢圓形兩端銳角ヲナス

30. Ch. Delavayi, Franch.

支那東部

全體柔弱嫩枝ハ匍匐セズ唯其末端ニ葉ヲ着ケ平滑葉ノ邊緣波狀齒ヲナシ種子潤倒卵形兩端鈍角ナリ

31. Ch. sulcatum, Max.

チバリア

全體平滑稍多肉質ニシテ葉ハ每對莖上ニ密生シ邊緣鈍齒ヲナシ多數ナリ

(b) 莖ハ僅カニ莖中ニ沈在シ(其成熟セザル時ニ在リテモ全長過半ハ現出ス)ニ裂シテ各裂ノ長サ著シ

ク不同ニシテ少シク開出ス

十種子面溝紋ヲ呈セズ平滑若クハ小隆起ヲ具有ス

32. Ch. dubium. I. Gay.

伊多利亞、亞細亞西方

雄蕊八個種子面小隆起ノ縦線ハ概テ十五列ナリ

○33. Ch. Grayanum, Max. ネコノメサウ

越後新潟、佐渡、秋田、津輕、森岡、渡島、膽振、小樽、札幌、シベチヤ、支那中央

雄蕊四個種子面小隆起ノ縦線ハ概テ三十列アリ或ハ不規則ナル縦條ヲ呈シ而シテ屢終ニ消滅スルアリ

○β. Dickinsii, Fr. et Sav. ネコノメサウ

種子全面不規律ナル微隆起アリ

○*r. nipponica*, Fr. et Sav. ミヅネコノメサウ

廿種子面ニ溝紋稜條ヲ呈ス

* 葉ハ莖ノ基脚ヨリ發ス

(a) 種子面稜條ノ脊面ニ微細ナル横線アリ若クハ小起節ヲ存ス

○34. *Ch. kantschaticum*, Fisch. チシマネコノメサウ

南部、津輕、秋田、鹽原、渡島、膽振、小樽、釧路、根室、千島、樺太、カムチャツカ、チユークツク地方嫩枝ハ柔弱ニシテ枝上ノ葉ハ皆其末端ニ相集マリテ密集葉束ヲナシ花莖ノ葉ハ二個其基低ハ長楔狀ヲナシ種子倒卵圓形ニシテ其面ノ稜上并ニ稜側ハ細キ横線ニテ刻マレ其溝床ニ細粒アリ、全體平滑、花序ノ邊ニ生ズル葉ハ小ナリ

○35. *Ch. costulatum*, Franch. チシマネコノメサウの一種 八甲田、小港、秋田、渡島、小樽、室蘭

形狀前種ニ類似スレモ全體二三乃至四倍大ナリ花序ニ近キ處ノ葉ハ莖ノ基脚ニアル葉ヨリ少シク大ナリ

36. *Ch. nodulosum*, sp. nov. チシマネコノメサウの一種

Ch. kantschaticum ニ類似スレモ全體長大ニシテ種子面一條ノ稜起ハ殊更ニ隆起シテ其脊上ニ小起節ヲ現ハス

○37. *Ch. zomorense*, sp. nov. チシマネコノメサウの一種 青森、三ノ戸

嫩枝ハ上端密集葉ノ下ニ多數ノ葉ヲ生ジ葉ハ總テ密接ナル波狀邊緣ヲナシ植物全體ハ平滑種子ハ *Ch. kantschaticum*

schaticum ニ於ケルガ如シ

○38. Ch. crenulatum, Franch. チシマネコノメサウの一種

南部、塩原、秋田、青森、三本木、石狩、小樽、函館

嫩枝ハ其上端密集葉ノ下ニ葉ヲ生ジ葉ハ稍圓形邊緣鈍齒ヲナシ種子ハ紡錘狀、面ノ稜條ハ脊上鈍角ニシテ横走ノ線ハ屈曲シテ恰モ蠕蟲様ノ斑紋ヲ著ハセリ植物全體柔弱葉腋毎ニ帶褐淡赤色ノ毛茸ヲ生ズ

(b) 種子面稜條ノ脊上ニ太キ隆起アリ若クハ薄板一列ニ相駢ビテ板上粗糙ノ剛隆起ヲ具ス

39. Ch. pilosum, Max. 滿州東部

全體ハ多少帶褐淡赤色ノ長剛毛ヲ生ジ種子面ハ顆粒ヲ密布シテ稜條ノ脊面ニ小瘤ヲ着ケ瘤上ハ細微ノ凸頭ヲナス

○40. Ch. macrostemon, Max. シヤマネコノメサウ 箱根、日光、横須賀

全體毛ナシ多肉、葉ハ濶倒卵形雄蕊ハ萼上ニ抽出シ種子ノ稜條ニ圓筒狀ノ粗糙剛隆起ヲ具有ス (未完)

○二三ノ植物粘質物 (Plant-slime) ノ化學的成分

於福岡縣農事試驗場 吉村清尙

從來學者ノ研究ニヨリテ植物粘質物ハ重ニグリコース (Glucose) ガラクトース (Galactose) マンノース (Mannose) 或ハアラビノース (Arabinose) ノ如キ糖類ノポリアンハイドライド (Polyanhydride) ヨリ成立スルモノナルコトヲ發見セラレタリ而シテ此等ノ化合物ハ頗ル廣ク植物界ニ存現スト雖モ其研究タル未タ一小部

二三ノ植物粘質物ノ化學的成分

ニ限ラレ殊ニ我邦ニ於テハ此種ノ研究ヲ欠クガ如シ依テ余ハ左ノ六種ノ植物ヲ採集シ以テ試料ニ供シタリ

あざざり (*Sterculia Platanifolia*) (稚枝)

ねらつらみそと (*Oenothera Jaguinii*) (莖及葉)

しやばてん (*Opuntia*) (莖)

かねかづら (*Kadzura Japonica*) (蔓)

やぶからし (*Vitis pentaphylla*) (莖及葉)

里芋 (*Colocassia antiquorum*) (塊莖)

此等ノ植物ハ何レモ粘質物ニ富ミ就中あをざり及さねかづら等ノ如キハ製紙用ノ糊料ニ用キラル、ト多シ今化學的成分ヲ記スルニ先チ余ガ一般ニ採用セシ研究方法方ノ概略ヲ述ベシ

試料ヲ細碎シ水ヲ加ヘテ粘質物ヲ浸出シ寒冷紗ヲ以テ濾過シ濾液ニ強アルコロールヲ加フレバ一種ノ沈澱ヲ生ズコレ即チ粗粘質物ナリ此沈澱ヲ濾紙上ニ集メ稀薄アルコロールヲ以テ能ク洗滌シ然ル後稀薄硫酸ニ溶解セリ但シ硫酸ノ強度ハ二、五乃至四「ベルセント」ニシテ大概二三時間強クコレヲ熱シタリ、炭酸重土ヲ以テ硫酸溶液ヲ中和シ次ニ濾シ若シ濾液着色セラレシトキハ獸炭ヲ以テ色ヲ除去シタリ此無色ノ濾液ヲ湯煎鍋上ニテ砂利別狀ニ至ル迄蒸發コレヲ以テ次ノ試験ヲ行ヘリ

第一、其少量ヲ取り強硝酸ト共ニ蒸發シ以テ粘液酸 (Mucic acid) ノ生成如何ヲ觀察セリコレ同酸ノ生成ハガラクトース存在ノ特徴ナレバナリ

第二、其少量ニフェニールハイドラジンノ酢酸鹽 (Acetate of phenyl-hydrazine) ノ濃厚溶液ヲ加ヘマンノ

ースフ[※]ニールハイドラゾン (Mannose-phenyl-hydrazone) ノ成生スルヤ否ヤヲ驗セリ若シ此化合物存スルヲ見バマンノース存在ノ證ナリ

第三、其少量ヲ取リコレニフロ、グルシン (Phloroglucin) 及ビ鹽酸ヲ加ヘ以テペントース變化 (Pentose reaction) ヲ呈スルヤ否ヤヲ驗セリ

第四、常法ニヨリオサゾン (Osazone) ヲ作クリ能ク精製シタル後其熔融點ヲ驗定セリ

右法方ニヨリテ余ハ左ノ結論ニ到着セリ即チ^あを^ざりノ粘質物ハ少量ノガラクタン (Galactan) 及ビ多クノアラバン (Araban) ヲ成リ^さね^かづ^ら及^びお^うつ^さみ^うふ^ノ粘質物ハ主トシテアラバン及ビガラクタンノ二者ヨリ成リ^やふ^から^し及^びし^やば^てん^ノ粘質物ハ主ニガラクタンニシテ里芋ノ粘質物ハクリュコースノポリアンハイドライド (Polysaccharide of α-Glucose) ヲ成ルガ如シ

○澎湖列島自生植物 (第二報)

田代安定

Catologue des plantes de l'Archipelago Pescadore, II.

雙子葉植物

Menispermaceae

但シ極テ稀少ナリ

(71) *Cocculus Thunbergii?*

Capparidaceae

ツ、ラフヂ (澎湖島圓頂半島、戎克島ニ自生ス)

(72) *Polanisia viscosa, Max.*

日本普通ノ「ツ、ラフヂ」ト同種タル徵候ヲ具ス

八重山フウテウサウ (澎湖島、漁翁島、戎克島)

澎湖列島自生植物

ノ一部分ニ自生ス。花黄色雌雄葉共短小、莢羊角狀ヲ爲シ多縦線アリ

第一報ニハ白花葉夥多ニシテ該列島ノ全部ヲ蔽フ

コトヲ述ヘ置ケリ而シテ此黄花品ハ沖繩縣八重山

列島ニ夥多ニシテ本島ニハ甚タ稀少ナリ

Violineae

(73) *Viola* sp.

クハガタスミレ

澎湖列島ニハ堇菜科植物至テ稀少ニシテ只僅ニ本

種ヲ澎湖島ノ拱北砲臺壘畔ニ於テ見ルノミ葉潤

犁頭狀ニシテ柄短、叢葉間ヨリ淡青色巨大花ヲ着

ク日本普通ノ「クハカタスミレ」即アキスミレ同

品ナルベシ

Portulacaceae

(74) *Portuloma polyandrum*, Fenzl.

ハマスベリヒユ(田代)

該列島中ノ白沙島近傍「大倉島」ヨリ通譯官某採

來ルモノニ就テ檢スルニ沖繩島産ト全ク同種ナリ

Malvaceae

(75) *Hibiscus tiliaceus*, Lin.

シマハマボ

Tiliaceae

(76) *Corchorus acutangulus*, Lam.

シマツナノ(田代)沖繩島産ト同種

Rubiaceae

(77)

澎湖島及戎克島ニ稀ニ自生スル藤蔓灌木ニシテ葉

ハ尖頭倒卵形ヲ爲シ柔薄ニシテ長サ一寸許花ハ長

筒白色ニシテ五尖裂徑三分許雌雄蕊瓣内ニ潜ム

子實ハ丁香狀ヲ爲シ長サ一寸許粘質細粒起點アリ

Compositae

(78) *Siegesbeckia orientalis*, Lin.

メナモミ(普通品)

(79) *Emilia sonchifolia*, DC.

ウスベニニガナ

(80) *Lactuca repens* Benth.

ハマニガナ一名ヂシバリ

(81) *Veronia cinerea*, Less.

ヤンバルヒロタイ(田代) 沖縄産ト同シ

(82) *Artemisia vulgaris*, L. var.

ヨモギ(艾)日本普通産ト大異ナケレドモ葉短濶
ニシテ缺刻深ク花穂稍巨大ナリ澎湖島ノ一部分ト
戎克島ニ自生ス至テ稀少ナリ

Goodeniaceae.

(83) *Seevola Koenigii*, Vahl.

クサトベラ(澎湖島ノ一部分及戎克島ニ自生ス)

Convolvulaceae.

(84) *Ipomaea* sp.

澎湖グンバイヒルガホ(田代新名)

澎湖島圓頂半島及西衛海濱ト漁翁島ニ産ス常ノ

「グンバイヒルガホ」ニ近似シテ葉圓小頭四裂セ

スシテ全葉卵圓狀ヲ爲ス多肉質ニシテ海岸沙地ニ

匍匐生ヲ爲シ莖間根ヲ生スル「グンバイヒル

ガホ」ニ同シ花白色ニシテ瓣團圓咲ヲ爲ス此草「グ

ンバイヒルガホ」(*Sponoeca biloba* or, *pee-caprae*)

ニ近似スレドモ全ク別種ノ植物ナルヲ認ム

(85)

キクバ子コアサガホ(田代) 八重山島産ト同シ

特生草ニシテ莖ハ地上ニ四散シテ各莖長サ一尺許

ニ延ブ葉ハ菊葉狀全草帯紫紅色ニシテ多毛花細小

横徑四五分ニ過キス淡紅色花殆んど無梗ナリ其

形状ハ沖縄植物紀事篇中ニ詳記シ置ケリ此草ハ

香港「フロラ」中ニ載セアル一異屬ノモノト覺ユ

即「イボメア」屬ノ外ナルベシ

Solanecae.

(86) *Lycium chinense*, Mill.

クコ(枸杞)常ノ品但シ稀少ナリ

Verbenaceae.

(87) *Bouchea maritima* (田代新名)

宮古島クマツヅラ

明治十八年宮古島ニ於テ其自生ヲ檢出シ頗ル珍異草ト爲シ來ル所ナリシガ今回澎湖列島ノ或ル部分ニ著シク多ク自生シ且驚クベキ肥大ノ草アルコトヲ知レリ此草ノ事ハ「イコチス、プランタルム、インドヲリエンタリス」ニ詳記シ且完全圖アリ澎湖島ニテモ全部ニハ生セス且其草ノ肥大ナルハ高サ二尺五寸許ニ達ス宮古島ニテハ一尺已下ノ細小草ノミヲ目撃シ來レリ

(88) *Clerodendron inerme*, R. Br.

イボタクサキ(藤野寄命氏)沖繩方言「ガジヤンギ」

Labiatae.

(89) *Leucas morissima*.

ヤンバルツルハクカ(田代)沖繩産ト同シ但シ稍

稀少ナリ

Amaranthaceae.

(90) *Amaranthus* sp?

マルバホシノケイトウ(圓葉星野鶏頭ノ義)田代

新名

此草ハ澎湖島ニ於テ初テ見ル所ナリ余ガ滞在中華蕃ノミニテ未ダ花候ニ至ラザリシモ全草 *Amaranthus* 屬ノ植物タルベキ徵候ヲ具セリ

Chenopodiaceae.

(91) *Chenopodium australe*?

シマハママツナ(田代)沖繩産ト同種? 澎湖列島ノ中ニテ半坪島ト云ヘル一小島濱岸ニ生ス島民採テ日常ノ菜品ニ充ツ

該草ノ説ハ州南諸島草木誌中ニ載掲シ置キシト思ヘリ故ニ略ス

Polygonaceae.

(92) *Rumex japonicus*, Meisn.?

ギシギシ (戎克島、漁翁島及ヒ澎湖島ノ一部分ニ稀ニ生ス)

Aristolochiac.

(93) *Aristolochia* sp.

ハスノハウマノスツ (田代新名)

戎克島ニ生ス全草漢防已ニ近似シテ葉「ハスノハカヅラ」狀ヲ爲シ柔薄質ニシテ莖細小ナリ花實未ダ見ズ又臺灣島ニモ自生ス

Euphorbiaceae.

(94) *Securinea japonica*, Miq. ?

コマバハキ同種ト思フ

(95) *Phyllanthus* sp.

コムンノキ一種

單子葉植物

Commelinaceae.

(96) *Commelina polygama*, Renth.

奄美^{アム}ツユクサ (田代)

(97) *Benghalensis*, L.

マルバツユクサ

Pandanaceae.

(98) *Pandanus* sp.

アダン (露兜樹) 沖縄産ト同種ニシテ小笠原島ノ「タコノキ」ナル凸頭子實ノ品ト異レリ但シ至テ稀少ナリ漁翁島、澎湖島、戎克島ノ或ル部分ニ生ズ

Varidace.

(99) *Potamogeton* sp.

ミヅヒキモ一種 澎湖島東衛諸村ニ生ス

Cyperaceae.

(100) *Cyperus nutans*, Vahl.

シチトウキ 稀少ナリ

(101) *rotundus*, L.

香附子

(102) *Fimbristylis* sp.

澎湖島自生植物

澎湖島ヒゼリコ(田代新名)海濱沼澤地ニ生ス

Gramineae.

(103) *Dactyloctenium Aegyptium* Willd.

宮古島ヲヒシム又ヤンバルヲヒシム(田代)

(104) *Spinifex squarrosus*, L.

ハリンママギ(田代新名)

白沙島ヨリ友人採來ルモノニ就テ檢スルニ沖縄

産ト同種

(105) *Arundo Roxburghii*, Kunth.

ヨシタケ(蘆竹)日本産ト同種

(106) *Zoysia pungens*, Willd.

シツクサ

(107) *Cynodon Dactylon*, Pers.

ギヤウギシム

(108) *Setaria viridis*, Beauv.

エノコロクサ

(109) *Panicum crus-galli*, L.

ノビエ

(110) *Paspalum Thunbergii*, Kunth.

スツメノビエ

(111) *Miscanthus* ?

トキンストキノ類未檢

(112)

アカヒゲヲヒシバ(田代新名)

(113) *Imperata arundynacea*,

チガヤ 極テ稀少ニシテ海岸等ニ生ス

(114)

カリマタサウ?

蔭花植物

(115) *Salvinia* sp.

田字草 日本普通品

fin.

外ニ Haloragaeae ? ノ小草一品アリ

(已上)

○川上廣衛氏採集盛京省占領地植物

宮 部 金 吾

昨年 皇國征清ノ舉アル本會々員川上瀧彌氏ノ實兄川上廣衛氏徵サレ第貳師團野戰砲兵第貳聯隊第貳大隊ニ隸シテ征途ニ上レリ發スルニ臨ミ弟氏ト約スルニ軍陣ノ暇占領地ノ植物ヲ採集スルコトヲ以テス氏太平山及田庄臺ニ戰ヒ旋リテ金州附近ニ守備タリ恰モ四月雪融ケ花笑フノ候ナリ乃チ約ヲ履テ植物ヲ集ム已ニシテ駐屯ノ處ヲ換ユルモノ數タビ收ムルトコロ漸ク多シ船便及郵便ニ託シテ札幌ノ弟氏ヘ送附セラレシモノ百卅種(重複品及多少不完全ノモノヲ含ム)

拉子山村董家屯……………十八種 辛塞子……………十三種

生家屯……………廿七種 大赫山……………卅六種

大和尚山……………二十種 紅旗營子……………十六種

爾後紅旗營子及現ニ駐屯ノ處ナル後格鎮堡ニ於ケル採品許多アリト故ニ第貳次ノ送品ヲ得バ更ニ多クノ種數ヲ加フルヤ必セリ

フォルブス及ヘムスレイ(Forbes & Hensley) 共著支那植物總目錄ニ據レバ盛京省ノ採集ハ専ラロス(Poss)及ウエブスター(Welster)氏ノ勞ニ賴ルモノナリ今ヤ神保小虎氏地質調査ノ傍植物ノ採集ヲ試ミラルベシト聞クモ此前ニアリテ本邦人ノ此地ニ探究セシ人アルヲ知ラズ故ニ曰ク川上氏ハ本邦人ノ占領地ニ於ケル植物採集ノ嚆矢ナリト

川上氏ノ採集タル嚴律ノ下ニ在リテ干戈ヲ採ルノ餘暇採集ニ要スル一ノ器具ナク壓紙ハ僅カニ給與ノ塵紙ヲ以テ之ニ充ツルカ如キ不便ナル境遇ニ於テ之ヲ爲ス其勞ヤ多ナリ而シテ其腊葉ヲ見ルニ實ニ學術的ノ標品ト

川上廣衛氏採集盛京省占領地植物

ナスベク又常ニ注意シテ參考ニ供スベキ事項ヲ附記セリ其特志感ズルニ餘リアリ
余今請ハレテ之ガ調査ヲナシ次ヲ追フテ本誌上ニ公報シ一ハ以テ採集者ガ厚意ヲ謝シ一ハ以テ同好諸士ノ參
考ニ資セントス

(1) *Anemone (Pulsatilla) chinensis Bunge.* — Forbes

& Hemsley, Index Fl. Sinensis I. p. 10.; Regel

& Maack, Flora Ussuriensis Tab. II. fig. 3.

オキナグサ白頭翁ノ一種

盛京省拉子山董家屯(明治廿八年四月廿三日花)

點々散生ス

北支那諸省及滿州ウスリ地方ニ産スルモ本邦ニ

産セズ

(2) *Lepidium rudemale, L.* — Forbes & Hemsl. l. c.

p. 48.

コセウサウ獨行菜ノ一種

紅旗營子路傍(六月廿一日花及實)

北支那及滿州以西歐洲ニ擴ガル

本邦ニ産セズ

(3) *Viola Patinii, DC. var. chinensis, Ging.* — Forbes

& Hemsl. l. c. p. 53.

スミ

生家屯(五月二十日葉)

日本朝鮮滿州支那ヲ經テ印度ニ擴布ス

(4) *Viola pinnata, L. var. dissecta, Turcz.* — F. &

H. l. c. p. 54.

エゾスミレノ一種

拉子山村董家屯(四月廿一日花)

此變種本邦ニ産セス北支那滿州及東方シベリヤ

等ニ産ス

(5) *Viola phalaenocarpa, Maxim.*

アカチスミレ○オホミヤマスミレ

拉子山董家屯(四月廿一日花)

本邦及滿州南方朝鮮境等ニ産ス

(6) *Polygona tenuifolia*, Willd. — F. & H. l. c. p.

62; Regel Pl. Radd. I. p. 521. Tab. VII. fig. 24.

ヒメハギ遠志ノ一種細葉ノモノ

紅旗營子(六月廿一日花及實)紫小花アリ

北支那及滿州ヨリ蒙古ヲ經テアルタイ地方ニ擴

ガル

(7) *Dianthus superbus*, L. — F. & H. l. c. p. 64.

カハラナデシコ瞿麥

大赫山諸所ニ散生ス(五月廿三日葉)

歐洲ヨリ以東本邦及樺太ニ擴布ス

(8) *Silene Tatarinowii*, Rgl. in Pl. Radd. I. p. 562;

F. & H. l. c. p. 65.

マンテマノ一種

大赫山(五月二十二日花蕾)

北支那地方

(9) *Erodium Stephanianum*, Willd. — F. & H. l. c.

p. 98.

オランダフウロノ一種

紅旗營子(六月廿一日紫花及實)

朝鮮北支那滿州東方シベリヤヨリ西藏ニ擴ガル

(10) *Evonymus Thunbergianus*, Bl. — F. & H. l. c.

p. 121.

ニシキツ衛矛

大和尚山(五月廿三日蕾)

日本滿州及支那

(11) *Rhannus parvifolius*, Bunge. — F. & H. l. c. p.

129.

クロムメモドキ鼠李ノ一種

大和尚山岩石間ニ點々生ス拉子山ニモアリ(五

月廿三日花)

北支那及ソングリヤニ産ス

(12) *Acer lobelii*, Ten. — Pax in Engler's Jahrb. VII.

p. 236; F. & H. l. c. p. 140.

var. *platanoides*—Leaves cordate, 7-lobed, lobes grossly sinuatelydentate, cuspidate.

イタヤカヘデノ一種クロビイヤニ葉形似タルモノ

◎ 雜 錄

○ 植物雜俎

松村 任三

庭園ノ植物

キバナハギ 豆科ノ木本、黄色ノ蛾形花穂ヲナシテ開
ク瓣ニ褐色ノ線條紋アリ葉ハ三葉ニ帯宛然胡枝子ノ

如シ之ヲ *Crotalaria* (Sect. *fruticosa*) トス *striata*,

P. DC. ナルツシ

クロバナエンジユ 暗紫色ノ花種狀ヲナス豆科ノ植物

ニシテ翼瓣ト龍骨瓣トヲ缺ク灌木ナリ短莢ヲ結ブ之

ヲ *Amorpha fruticosa* L. トス

チリメンハクカ 舊名「オランダハクカ」ナルベシ薄荷

ノ一種舶來品花ハ國産ノ如ク葉腋ニ簇ラス梢頭ニ穂

ヲナス葉ニ縮紋アリテ平坦ナラス此レ *Mentha*

大赫山(五月廿三日葉)
直隸省及盛京省ニ産ス

(未完)

silvestris, L. var. *crispata*, Schrad. ナリ唇形科ノ植物

ヤグルマクワクカウ 矢車藿香ト書ク唇形科ノ草本紅

色ノ唇形花冠莖頭ニ團簇シ遂ニ其排列矢車ノ狀ヲ呈

ス米國ノ産ナリ *Monarda altissima* ノ名ヲ傳フ即チ

M. fistulosa L. var. *rubra*, A. Gr. ナリ

茄科ノ植物庭園ニ頗ル多シ **セイヤウハシリドコロ** ハ

藥草ナリ國産ノ **ハシリドコロ** ニ似テ草長大、多ク枝

ヲ分ツ花色亦國産ニ彷彿タリ *Atropa Belladonna* L.

是ナリ

ムラサキハリナスビ アリ花紫碧色、雄蕊ハ四莖黄色

ニシテ下位ノ一莖ハ紫色ヲ帯ヒテ獨リ長シ多刺ノ萼

ハ花後子實ヲ包圍ス莖ニ帯紫色ノ直生刺ト小腺毛ト

ヲ生ス此レ *Solanum* (Sect. *Nyctenium* Fent.) ニシ

テ *cirrullifolium*, R. Br. ナルガ如シ

ルリナナギ

アリ粉緑柳葉ノ如キ葉ヲ散布シテ枝頭ニ

紫色ノ花ヲ繖狀ニ綴ル下總佐倉ニモ之ヲ植ユルヲ見

ル此ノ *Solanum* (Sect. *Pachystemon*) ナルベシト雖

モ今多書ヲ參考スルニ暇ナシ

ムラサキタウガラシ

アリウヅタウガラシトモ稱ス花

實共ニ紫色ナリ之ヲ *Capsicum longum* DC. var.

violaceum, Fingh. トス

アマダマシ

アリ葉狀花容宛然亞麻ノ觀アリ然レモ藤

色ノ花冠合瓣タルハ茄科タラザルヲ得ズ之ヲ *Viola-*

inbergia frutescens, Dur. トス此草ハ晩秋ニ至ルマ

テ花絶エサルヲ以テ秋季學生ノ植物識別法實驗ノ資

トナル

ルリマガリバナ

アリ亦秋季實驗ノ資料トナル廣卵形

ノ葉ヲ互生シ紫碧色大ノ字様ノ色ヲ開テ美麗ナリ之

ヲ *Browallia demissa*, L. トス

ヒメアカナス

アリ六月柿アカナスニ似テ葡萄大ノ赤實彙々總

房ノ狀ヲ呈ス花モ六月柿ニ似テ黄色ナリ *Solanum*

Humboldtii, Willd. 是ノナリ

Statice (*Eulimonium* Pax.) *latifolia*, Sm.

ニハハナビ

ト稱スヘシ國産「磯ハナビ」ノ一種舶來ノ

品、久シク植物園ニ栽植ス葉窠形ヲナシテ濶大、星

狀毛ヲ被フルヲ以テ種標トス磯松科ニ屬ス、淡紫色

ノ小花火花ノ如ク枝杪ニ滿布ス

Lobelia bicolor, Sm.

ルリミゾカクシ

ト云フ紫碧色ノ花ヲ開ク小草愛スベ

シ桔梗科ニ屬スルコ國産ノ「ミゾカクシ」ト同シ *L.*

Erinus, L. ト辨シ難シ唯此ハ方莖ナルノミ

庭園ニ栽植ノ菊科品頗ル多シ「マツバハルシヤギク」ア

リ線狀ノ細葉間長梗ヲ抽テ黄色團子ノ如キ花頭ヲ着

ク總苞綠色柔軟ニシテ外反スルノ特徴アリ *Helenium*

tennifolium, Nutt. ト云フ米國ノ産ナリ花壇ニ植テ

價值アリ一種「ヤハズダンゴ」アリ莖ニ綠色ノ翅翼ヲ

走ラス葉ハ細長ナラズ *Helenium Bigalovii*, A. Gr.

ナルハシ *H. puberulum*, D. C. ニモ肖似ス容易ニ辨シ難シ他ノ識別ヲ俟ツ

ヤグルマアザミ アリ紅花ヲ開ク *Centaurea Jacea*, L. ナリ

オホハンゴンサウ アリ草本四五尺ニ及ビ分裂葉ヲ有

シ大ナル黃頭花ヲ着ク *Rudbeckia laciniata*, L. ナリ
米國ノ産

ヤナギタムラサウ アリ紅花ノ頭狀國産ノタムラサウ

ニ似テ總苞ニ長刺毛アリ小花冠ノ本ニ褐色ノ冠毛アリ其外圍ニ再ヒ短鱗ヲ繞ラス米國ノ産ナリ之ヲ

Vernonia noveboracensis, Willd. トス

○獨逸植物學會總會 該會ハ獨逸万有學會ト共ニ本

月十七日獨國リューベック市ニ開會スルコトナレリ會

長ハ昨年末プリングスハイム氏ノ物故セルヨリ本年ハ

ウヰーン大學植物園長、教授ケルナー、フオン、マニラ

ウン氏推薦セラレタリ、リューベック市ハ獨國北部ノ

古キ都市ニシテ建築上古雅ナルモノ多ケレバ一昨年ノニコルンベルヒ市ニ於ケルト一般來會員ニ數多ノ興味ヲ與フベシ、集會ノ形況ハ後日更ニ報道スルコトアルベシ

○植物學上新刊雜誌 今回獨逸國スツットガルト工

藝學校教授ヒュンフスツク氏新ニ一雜誌ヲ刊行セリ題シテ、*Beiträge zur wissenschaftlichen Botanik* ト云フ

第一卷第一冊ニハ三論文ヲ載セタリ、近年來植物學上新論文ノ出ヅル夥多シク舊來刊行ノ諸雜誌 (*Jahrbuch für wissenschaftliche Botanik*, *Flora*, *Botanische Zeitung*, *Botanische Centralblatt* 等) ニハ材料堆積シ急速

ノ出板ヲ見ガタキヨリ斯クハ別種ノ新雜誌ヲ生ズルニ至レルナラン植物學研究ノ爲メニハ喜ブベキノ至リナ

リ

○コレブホン氏高山植物試植園 瑞西國ゼネバ市ノ

有名ナル該試植園ニテハ舊年來經驗ヲ積ミ夥多ノアル
プス植物ヲ平地ニ栽培シ好結果ヲ得來レルガ近年益々

規模ヲ大ニシテ完全ナル種子目錄ヲ絶エズ出版シ以テ需用ニ應ズルニ至レリ、委細ハ H. Correvon, Liste des Graines récoltées par le jardin alpin d'acclimatation de Genève (janvier 1895.) ヲ見ルベシ

○故ブリングスハイム氏ノ遺稿 昨年十月病没セル獨國植物生理學大家ブリングスハイム氏ノ遺稿トシテ „Ueber chemische Niederschläge in Gallerte“ ノ一篇頃 日出版ノ Jahrbuch für wissenschaftliche Botanik 第二十八卷第一冊ニ出デタリ、該論文ハ同氏創意ノ一種ノ装置ニヨリ主トシテ液體交流カスモーセノ速度ニ關スル顯象法則ヲ研究セルモノニシテ惜イカナ論證未ダ完結ニ至ラズト雖モ亦交流顯象研究上肝要ノ一論文トシテ見ルベシ、

○ケルナー、フオン、マリラウン氏 奧國ウーティン大學教授兼植物園長ナルケルナー、フオン、マリラウン (Kerner von Marilann) 氏ハ彼ノ有名ナル „Pflanzenleben“ ノ著者トシテ人ノ知ル所ナリ氏ハ分類學及ビ生

態學オホキノ研究ニ從事シ從來數多ノ著述アリ現時ハ該植物園内ニ住シ盛ニ變種上ノ實驗ニ從事ス氏ハ夏時ニハ常ニ氏ノ別墅ナル奧國チロール山中、ブレンナー、ハッス (奧國ヨリ伊國へ到ルアルプス越エナリ) ノシニニッツ、タールト稱スル溪村ニ來住ス同所ヨリハ雪山氷河ヲ望ミ閑靜淒涼ノ區ナリ、氏ハアルプス植物ニ付テ數多ノ觀察セル事實アリ氏ノ „Pflanzenleben“ 及ビ他ノ論著ニ記述セリ、氏ハ往年來奧國及ビウングルンノ「フロラ」編集ニ從事シ „Flora exsiccata Austro-Hungarica“ ヲ現今モ陸續蒐出ス氏ハ該「フロラ」編纂ニ付テ氏ノ門人、知己等數十人ヲ撰ミ各々若干種ノ植物ヲ採收セシメ毎種百本ヅ、集メシム採收者ハ後ニ報酬トシテ該腊葉集一部ヅ、ヲ得ルモノトス該集ハ此ノ如ク唯百部ニ限ラル、ヲ以テ固ヨリ頒賣セラレズ故ニ別ニ „Schedae ad Floram exsiccata Austro-Hungaricum“ ヲ出版シ右腊葉集内ノ各植物ノ解説ヲ編集シ世間ニ頒カテリ現今已ニ數冊ヲ發兌セリ又集收セル顯隱兩科植物ニ於テ已

ニ數千種ニ達セリ、氏ハ昨年九月ヅ^キーンニテ集會セ
 ル獨逸萬有學會總會ノ事務委員長トナリ該會全體及ビ
 獨逸植物學會總會ニ於テ大ニ盡カスル所アリ又來會セ
 ル植物學者一同ヲ植物園ニ招キ園内ヲ案内シテ説明シ
 欸待ヲ盡クセリ

○海藻學者リヒテル氏ノ新水藻 *Phykotheka uni-*

*versalis*ノ發兌者ト^ン有名ナルライプチヒノバウル、

リヒテル(P. Richter.)氏ハ近頃氏ノ水藻集ニ入ルベキ

新種若干ヲ檢定セリ皆顯微鏡的水藻ニシテ左ノ名稱ヲ

附セリ

Gongrosira Schmidlei P. Richt.

Osmarium Gerstenbergeri P. Richt. (*Phykotheka*,"

Gloeocapsa Reichelti P. Richt. *Fasc. XIII*)

Merismopedium affixum P. Richt.

以上 (*Hedwigia* Bd. XXXIV. P. 22. 1895.)

Scendesmus Opoliensis P. Richt.

同上水藻集第十四集ニ入ルベキモノ

以上 (*Zeitschrift für angewandte Mikroskopie*,
 Leipzig. 1895.)

○商陸科植物解剖上ノ研究 ^{ヤヌスツ}カール、シユルツ

(Carl Schulze) 氏ノ研究セル商陸科植物ノ葉及ビ莖軸
 ノ造構ニカ、ル一論文 (*Ueber den anatomischen Bau*
des Blattes und der Achse in der Familie der Phyto-

laccaceen. Diss. Danzig 1895.) 出版セラレタリ此篇ハ

氏ガエルランゲン大學植物學教授レース氏ノ指導ノ下
 ニ爲セル研究ノ結果ニシテ該科植物分類上ノ徵候ヲ彼

ノラードルコーフェル氏ノ所謂^{アナトミッシュメソッド}ユル解剖法ニ依リテ求
 メタルモノナリ、氏ハ該科植物現存ノ二十二屬ノ中ヨ

リ十九屬ヲ該方法ニヨリ比較的ニ研究シタリ
 ○向日性ト向地性ノ共同作用 ^ツキーン大學植物生

理學教室ノチャベック(F. Czapek)氏ハ近頃氏ノ研究
 ニカ、ル向日性ト向地性が共同ニ働ク場合ニ於ケル顯

象ニ付テノ論文 (*Ueber Zusammenwirken von Helio-*
tropismus und Geotropismus.) ヲ本年三月ノウ^キーン

學士會院ノ會報ニ掲載セリ、氏ノ研究ノ結果ヲ總括スレバ植物體ガ光線及ビ引力ノ作用ニ感應スルノ度ハ該刺撃ガ種々ノ場合ニ於テ同時又ハ異時ニ働クノ状態ニヨリテ變化スルモノニシテ植物體ガ畢竟最後ノ位置ヲ保ツニ至ルハ右複雑ナル作用ノ結果ニヨルナリ、

(以上八件 三好 學報)

○日本土馬駿類略述 (承前)

大久保三郎

Polytrichum. 屬

本屬ハポゴナートムニ極メテ似タリ然レモ蒴ハ四一六角ニシテ壺齒六十四個一列ニ排置ス

Poly. gracile. *Menz.* 密ニ簇生ス、莖ハ直立、纖長、

葉ハ長クシテ線狀披針形鋭尖、邊緣薄色、鋸齒アリ、蒴ハ長柄上ニ直立ス乾燥ノ時ハ水平トナル、卵形、六角、壺齒六十四短長不同、帽ハ殆ンド蒴ノ基脚ニ達ス
富士山ニ産ストイフ

附言 本種ハ歐米共ニ産ス而シテ *Sollivant* 氏ノ米國叢書ニハ蒴四一六面、鈍角ナリトアリ

Poly. fromosum, *Hedw.* 簇生ス然レモ密ナラズ、莖

長シ時ニ極メテ長キモノアリ平臥セル部分ヨリ直生

ス、下部ノ葉ハ小ニシテ膜質、有鞘、上部ノモノハ光澤

アル白色ノ鞘ヨリ曲反シ開出ス、上面帶白綠色ナリ、

鋸齒ハ鞘ノ少シク上部ヨリ存ス、帽ハ蒴ノ脚下ニ達ス、

蒴ハ濕スレバ直立シ乾スレバ垂下ス、空虚ナル蒴ハ水

平トナル、六角又ハ三角「アポフヒシス」アリ「アポフヒ

蒴ノ表面ノ一部 膨大スルタイプ

札幌ニ産ス
var. pallidisetum, *Bruch. et Schimp.* 莖ハ元種ヨリ

短小、葉亦短ニシテ鮮綠色、蒴モ狭ク往々略圓筒形ナ

ルアリ、蒴ノ柄ハ黃色ニシテ基脚ノミ紅色ナリ

Poly. piliferum, *Schreb.* 莖ハ小根ヲ有スル匍匐根莖

ヨリ直生シ無枝ナリ、下部無葉ナリ、下葉ハ極小ニシ

テ莖密觸シ殆ンド見エガタシ上葉ハ急ニ大ニシテ密生

シ帶白綠色ナリ全縁ニシテ邊緣内曲ス、中肋葉頂ニ伸

出シ白色ノ小棘ヲ有ス「ベリケチア」葉線形舌狀、直

立、極メテ凹、内部薄肉中肋圓ク「ラメラ」缺如ス芒甚
ダ長シ、帽ハ薊下ニ達ス、薊卵形四角、直立、乾燥ノ
時ハ垂下ス七月實アリ 富士山ニ産ス

Poly. juniperum, Hedw. 無枝若クハ有枝、葉ハ線形
披針狀鋭尖、背ニ細棘アリ、邊緣内曲シ全縁ナリ薊ハ
四面アリ鋭角ナリ、蓋ハ凸圓ニシテ嘴短ナリ高サ四乃
至七寸 北海道ニ産ス

Poly. commune, L. 莖ハ直立、殆ンド無枝、葉ハ
開出又ハ反曲ス扁平、背ニ棘アリ邊緣ニ鋸齒アリ「ラ
メラ」多少ニ裂ス、薊並蓋ハ前種ニ同ジ、高サ六乃至
略一尺ニ達ス 青森フカリ 御岳海面上六千呎ノ處ニテ
エー氏 御岳ビセツト氏之レチ採集ス

var. *Maximowiczii, Lamb.* 南部ニ産スト
var. *pallidisetum, Besch.* 札幌ノ西ニ産ストイフ

Poly. sp. 本品ハボトリクム コンミニ子ニ似タレ
凡「ラメラ」ニ裂セズ明治十九年七月清水峠ニテ採集ス

○驅蟲用植物

Pterena excelsa, Lamb. ハシヤマイカ、アンチグア、

シントビビンセントノ産ナリ、黄楝樹科ニ屬スル喬木
ニシテ高サ四丈乃至六丈直径一、二尺ニ達スルモノア
リ葉ハ羽狀、花ハ小ニシテ黄緑、果實ハ黑色ノ小漿果
ニシテ味ヒ苦シ材ハ良好ノ驅蟲劑トナル昨年十一月ノ
Kewノ Bull. Misc. Informationニ此件ニ掲載セル大
意ハ左ノ如シ

材ノ浸劑ハ動物ニハ麻醉毒トナルモ人ニハ無害ナリ浸
劑ヲ「バビエームリ」ト稱シ蠅類ヲ殺害スルニ用フ又

果實及ポツ栽培者ハ大ニ「ブライツ」ト稱スル「アフヒ
ヅ」ヲ驅除スルニ用フ、多量ニ此ノ浸劑ヲ作ラント欲

セバ材ヲ極メテ細片トナシ水ニ軟石鹼ヲ加ヘ煎ズ石鹼
ヲ加ヘザルモ有功ナリ而シテ煖室用ノモノハ水ノミノモ

ノヲ使用スベシ、本劑ハ無臭ニシテ安全ナリ故ニ石油
又ハ煙草浸液ヨリヨシトス石油劑ノ使用ハ最モ注意者

ニテモ多少危険ノ恐レアルノミナラズ特ニ厭フベキ臭
氣アリ若シ本劑ニシテ廣ク世人ノ知ル處トナラバ柔弱

ナル煖室植物ノ驅蟲劑トシ使用セル煙草劑ハ大概本品

ニ且亦石油劑モ大ニ壓セララル、ニ至ラン、一樣ニ植物ニ灑グバ蟲害ノ憂ヘ全ク去ラン

因日前ト全科植物ニシテ本邦ノ黃棟樹モ防蟲ノ功アリトイフ
大、三報

○有毒仙人掌

Lumholz 氏等ハ曩ニメキシコヘ旅行ヲ企テシガ氏等ノ報告ニ依レバ該地ノ土民ハ或種類ノ仙人掌ヲ食ヒテ醉睡シ得々然タルコトハ猶支那人ガ鴉片ヲ喫スルガ如シト云ヘリ近頃 Lewin 氏ハ北メキシコノ Anhalonium Lewinii ト名クル仙人掌ノ一種ヨリ Anhalonin ト呼ベル「あるかろいど」ヲ分離シ得タリ此「アルカロイド」ハ温血動物ニモ冷血動物ニモ有毒ニシテ嘗テ氏ハ種々ノ動物ニ就キ實驗ヲ爲セシニ其○、○ニ乃至○、○四「グラム」モ甚シキ中毒ヲ引起シ其○、一六乃至○、二「グラム」ハ全ク死ヲ招ケリト云而シテ有毒ナル仙人掌類ハ獨リ此種ニ限ルニアラズシテ同屬ニ屬スル他ノ四

種モ其量ニ多少ハアレ同ジク有毒ナルコト知ラレタリ加之 Mammillaria uberiformis 及ヒ Rhipsalis

conferta ノ汁液モ多少毒性ヲ含有スルヲ以テ觀レバ他ノ種類ノ仙人掌中ニモ或ハ有毒ノ者ヲ發見スルコトアルベシ此「アルカロイド」モ他ノ「アルカロイド」ト同ジク研究ヲ積メバ他日藥用ニ供スルニ至ルベキカ以上ハ近着ノ "American Naturalist," ニ載スル所ナレモ予ハ仙人掌類ノ普通品ナルおぼづ、 (Cereus multiplex

Pfeiff.) ノ動モスレバ蝸牛ニ襲ハレ其肉ノ一部ノ食去ラル、ヲ見ルコトアリ而シテおぼづ、ノ中ニハ果シテ「アルカロイド」ノ存スルヤ否ヤヲ知ラズト雖若シ幾分カ之アリトスレバ彼レ蝸牛モ之ヲ食ヒ以テ一時醉睡ノ快ヲ買ハントスル者ニアラザルナキカ呵々

○珪藻ノ生長

抑珪藻ノ池沼中ニ生ズルヤ停滞ノ現象ト直接ノ關係ヲ有スルガ如シ一年ノ中ニテモ池水ノ下層ガ靜謐ノ有様ヲ呈スル時ハ該植物ハ發生スルコトナシ之ニ反シテ池水

ノ表面ヨリ下底ニ循環スル時期ニハ其發達最旺盛ナリトス概シテ珪藻ハ泥底ノ池ニ繁殖シ深水ノ池沼中ニ在テハ其生長ヲ促ガスニ二時期アリ即チ春秋ノ二候是ナリ又珪藻ノ生長ニ欠ク可ラザル要素ハ硝酸鹽類ノ存在ト空氣流通ノ普及トニアリ而シテ溫度ハ其發達ニ餘リ關係ヲ有セズトハ Whipple 氏ノ說ナリ

○生傷ヨリ黴菌ノ吸收

Schimmelbusch 及 Ricker ノ兩氏ハ黴菌ノ生傷ヨリ入込ミテ内部ノ器官ニ達スルニハ幾何ノ時間ヲ要スルヤヲ知ラント欲シ種々ノ試験ヲ行ヒシニ彼ノ有名ナル病毒黴菌 *Bacillus anthracis* ハ驢鼠ノ脊部若クハ尾部ニ種エラレテヨリ三十分間ヲ經テ該動物ノ肺、肝、脾、腎諸臟ニ達シタルコトヲ見タリ又 *Bacillus mycoides* 並ニ下等菌類ノ胞子ヲ熟兔ノ股部ニ種エタルニ早キ場合ニハ五分間ヲ經テ諸臟ニ達シタリト云フ其繁殖ノ迅速ナル驚クベクモ亦寒心スベキニアラズヤ

○衣服類ニ附着スル黴菌

衣服類ニ黴菌ノ附着シ往々病源ヲ醸スコアルハ夙ニ吾人ノ知ル所ナレモ其數ノ多寡ヲ知ルハ蓋シ容易ノ業ニアラズ Jahn 氏茲ニ見ル所アリ之ガ試験ヲ爲サント欲シ諸種ノ衣服類ヨリ直徑三「ミリメートル」ノ圓片ヲ切り之ヲ「ジュラチン」培養ニ附シタリ其結果ヲ摘載スレバ平常穿チタル毛糸製ノ履襪ヨリハ九百五十六、同ク綿糸製ノ履襪ヨリハ七百十二ノ團體ヲ得タリ次ニ未ダ使用セザル新シキ手袋ヨリ三十三、同様ノ絹布ヨリ二十二、綿布ヨリ二十、麻布ヨリ九ノ團體ヲ發見セリ又八日間使用シタル麻布ヨリハ二十三、同ジク着用シタル天鵞絨ヨリハ二十六、同様ノ絹布ヨリハ三十二ノ團體ヲ得タリ以上ハ僅カ直徑一分許ノ面積ニ就テノ計算ナレバ之ヲ吾人ノ着用スル衣服ノ面積ニ改算スレバ其數ノ夥シキ蓋シ豫想ノ外ニ出デン人身ニハ長短アリ肥瘠アリ隨テ衣服ノ面積亦同ジカラズ讀者諸君若シ意アラバ自ラ改算ノ勞ヲ取ラルベシ是亦一興ナランカ昔ハ虱ヲ捫テ當世ノ務ヲ談ゼシ人アリ今モ其流ヲ汲ミ黴菌

ヲ捫テ議會ニ口沫ヲ飛バス人モアラン唯其見エザルヲ如何センコレゾ黴菌ニ取テハ没計ノ幸ト謂フベキナリ

○普通ノ根モ亦能ク生活組織内ニ

穿入ス

寄生植物ニアラザル通常ノ植物ノ根モ亦或方法ヲ用フレバ他ノ植物ノ生活組織中ニ穿入シ能ク其生ヲ保ツ者ナリ之ヲ見ント欲セバ豌豆、蠶豆等ヲ馬鈴薯ノ塊莖ニ培養スベシ然レモ此ノ如ク生活組織中ニ穿入シタル根モ尋常ノ植物ニ在テハ寄生植物ノ *Hansfordia* トハ全く其性質ヲ異ニシ後者ハ澱粉ヲ打破スル酸酵素ヲ分泌シ有機並ニ無機ノ榮養物ヲ吸收スルモ前者ハ單ニ水及ビ水中ニ溶解シタル物質ヲ吸收スルニ過ギズシテ何處マデモ天賦ノ性質ヲ失ハズ之ヲ證明セシハ G. J. Peirec 氏其人ナリ (以上五件 安 田 篤報)

○浮游性褐色藻浮游ノ原因

夏秋ノ候所々ノ池澤ノ水面上ニ一齊ニ碧色又ハ褐色ノ采

紋ヲ現ズルヲアリ世ニ之ヲ水荒ト稱フ多クハ褐色藻ノ

無數ニ浮游スルモノニシテ彼ノ片片隨風去、紛紛逐水

流ト云フモノ之ナリ此藻常ニ水ノ上層ニ於テ繁殖シ空

閑カニ浪平カナル時池水ノ面ヲシテ恰モ碧色ノ膜以テ

蔽ハル、如キノ觀ヲ呈セシム吾人ハ此光景ニ接シテ直

チニ此ノ藻類ノ比重ノ水ヨリモ小ナルヲ思フ可ク而シテ

猶ホ之ヲ實驗セント欲セハ水ト共ニ之ヲ一器ニ汲ミ取

リ充分攪亂シテ後靜カニ放置ス可シ暫時ニシテ藻ハ皆

水面ニ浮ビ出ルヲ見シ抑此藻ノ斯ク其比重ヲ減殺セル

所以ノモノハ其ノ如何ナル細胞内部ノ構造ニ基ク可キ

カ同シ褐色藻ノ極メテ近親ノモノニシテ而カモ水ニ浮

ブ一能ハザルモノアルハ如何這般ノ問ニ對シハ人ノ多

ク以テ答トナスガ如ク脂肪ノ有無ニ由ルモノト云ハン

カ脂肪ハ必スシモ常ニ左程多量ニ此藻ノ細胞内ニ見エ

ザルヲ如何セン去レバトテ彼ノ高等ナル浮萍ニ於テ見

ル如ク細胞間隙ノ瓦斯ニ基クノ理ハ此處ニ適用ス可ク

モアラザルナリ之レ世人ノ未ダ深ク注意セザル處ナリ

シガ昨夏 Plön ノ S. Strodtmann ハ同地湖水ノ水鏽ヲ成ス Gloiotrichia echinulata P. Richter ナル一種ノ褐色藻ヲ研究シテ其浮游ノ理ヲ明カニセリ然レモ吾人ハ今ハ只タ氏ノ今年二月ノ Biologisches Centralblatt ニ出セル豫報ニ由テ其結果ヲ知レルノミ未タ詳細ナル研究ノ方法ノ報告ニ接セズ從テ吾人ノ知識モ水鏽ト一般根底アルモノニ非ズト雖モ今暫ク氏ノ說ニ從テ左ニ目下諸方ノ古池ニ碧紋汎々タル水鏽ノ浮上ノ原因ヲ說明セントス

總テ此等ノ浮游性褐色藻類ニハ極メテ顯著ナル性質アリ今其ノ水上ニ浮ベルモノヲ採來リテ水ヲ盛レルガラズ瓶ニ入レ瓶ノ口ヲハコロップニテ密閉シ次ニ此ノコロップヲハ強ク壓下スルキハ藻ハ忽チ水底ニ沈没スルヲ見シ此ノ現象ハ曾テ Ahlborn ノ發見セルモノニ當時解剖學上ニ其理由ヲ説明スルヲ得ザリシハ蓋シ氏ノ實驗ニ供セシ藻ノ今回 Strodtmann ノ研究セル G. echinulata ノ如ク解剖學上ノ研究ニ適當ナルモノニハ

アラザリシ爲メナラン然ルニ今回ノ藻類ニテハ實ニ明瞭ニ其細胞内部ノ構造上浮游ノ時ト沈没ノ後トニ一大變アルヲ認識セリ即チ曾テ細胞内ニ存在セル所謂紅色粒——曩キニ P. Richter ノ之レヲ硫黃ト鑑識セルモノ——ナルモノ、細胞ノ沈没ト共ニ全然消失セルノ之レナリ猶ホ此外種々ノ實驗ニ於テ證明シ得ルガ如ク實ニ此紅色粒コフ浮游性褐色藻ニ浮游ノ力ヲ賦與スル唯一ノ原因ト云フ可ケレ紅色粒ノ多數ナル程藻細胞ハ容易ニ水ニ浮ビ一旦之レヲ缺クキハ忽チ水底ニ沈没シ而シテ紅色粒ノ數僅小ナルキハ從テ徐々ニ下降ス是ニ於テ吾人ハ紅色粒ノ何物ナルカヲ知ラント欲ス然レモ直接ニ其本體ヲ究メンコトハ頗ル困難ナル事トス之ヲ要スルニ唯タ非常ニ水ヨリモ輕キモノナラザル可カラザルガ故ニ Strodtmann ハ其壓力ノ實驗ノ後直チニ想像シテ曰ク之レ蓋シ原形質ヲ以テ圍繞サレタル瓦斯體ニシテ即チ一種ノ氣胞ナル可シト果シテ然ラハ強盛ナル氣壓ノ下ニ在テ其氣胞ヲ消失シ同時ニ藻ノ沈没スルノ理ヲ悟

リ得ベキナリ終リニ此瓦斯體ノ成分ニ關シハ氏單ニ炭酸ノ同化作用ニ際シテ遊離セル酸素ナラントノ臆測ヲ述ブルニ止マレリ

氏ハ猶モ其說ヲ確カメンガ爲メニ種々ノ實驗ヲ重テ終ニ氏ノ今日迄實驗セル *Chroococcaceae*, *Nostocaceae*

*Rynulariaceae*ノ諸科ニ屬スル浮游性褐色藻ハ必ス皆其ノ細胞内ニ紅色粒即チ氣胞ヲ含有スルヲ知り而シテ又紅色粒ハ唯以上ノ藻類ニ於テ目撃スルヲ得テ他ノ附着性褐色藻ニハ其ノ跟跡ヲモ認メザリシト云フ

渡 部 久 吉

○田代安定氏の書翰

拜啓爾來一向書信不差上多罪謝スルニ辭ナシ 小生モ過日當地ニ來着仕候テハ殖産部附ト相成尙滯在中ニ候先ニ澎湖島ニ向ケ御送被下候植物雜誌二冊ト外ニ押葉用紙并ニ採集管一包正ニ相届難有拜受仕候其際愚弟永野彦吉迄書狀ヲ以テ大學へ參上ノ上詳細御禮申上吳候様

申遣置候處如何ニ候哉案シ候右押葉紙ハ尙大切ニ使用仕居候採集管ハ船中ニテ破損致シ居候ニ付支那人ニテ漸ク之ヲ直スモノヲ見出シ今ハ完全トナレリ是亦大切ニ相用居候詳細ハ次回可申上候

澎湖島植物ハ表面記載ノ品ガ乃チ滯在中ニ目撃シタル總品ナリ植物ノ種類ハ極テ稀少ニシテ僅々タル百餘種ヲ以テ全列島ヲ蔽ヒ且樹木ノ種類尠キコト前後兩回報告ノ如シ當秋中是非再行ノ心得ニ付其節尙檢索スベキモ双子葉植物ニハ種類ヲ新タニ増スコト至テ寡カラシ但シ前回「アリノトウ」科草カト疑ハル、一小草ヲ此目錄外ニ見タレドモ花實モ未檢ノ爲メワザト此一品ノミハ省キ置ケリ其草ハ臺灣島ニモ有之候ニ付追テ檢シ報スベシ但ダ本科其他單子葉植物ニテ新タニ種類ヲ檢出シ得ルモノアランカト思ヘルノミ隱花植物中ニテハ田字草ノ外未ダ一品モ目撃セス亦苔蘚殆ンドナシ右外ニ「小アマモ」及ビ「イバラモ」類ノ植物アリ是ハ次報二期ス

標本ハ過日來送致ノ心組ナレドモ未ダ其方便ヲ得ス來月ニ至ラバ此便開ケンカ甚ダ不本意ノ至ニ堪ヘス

又臺灣島ハ意外ニ水草ニ富メリ昨今専ラ水草及禾本、

莎草採集中ナリ「タヌキ」藻兩品ヲ得タリ一ハ花「ミ、

カキグサ」ノ如クシテ水中ニ莖蔓延スル異品アリ又「シ

ヤジクモ」「フラスモ」等多シ臺北ハ北緯二十五度ノ割

合ニハ意外ニ内地植物多ク八重山島ノ方却テ熱帶植物

ニ富メリ水草中ニテハ「ラニバス」ト *Plata striatosa*

豫想外ニ多シ各藩川沼池ノ殆ント全面ヲ蔽フ「ヒシ」ハ

普通品ナルベシ是亦多シ近日中東北方ノ山地ニ行ク筈

ユヘ初テ本島植物ノ一斑分ルカモ知レスト心得候已上

明治廿八年八月廿日

田代安定拜

○「バクテリア」ノ説 (前號ノ續)

K、D、山人譯

不潔ノ氷

氷ハ食物ヲ保存シ或ハ飲料トシテ近世人間ノ生活上最

要用ナル物トナレリ而シテ老幼貧富ノ區別ナク其德澤ヲ被ルコトマタ實ニ尠少ナラズトイフヘシ

水ノ凍結スル時ハ其不潔物ヲ消滅スルコト實ニ大ナリ

トハ曾テ人々ノ信ゼシ所ナリ而シテ或點マデハ是事ノ

眞ナルヲ知レドモ多クハ實驗家ガナシ、精密ナル試驗

ノ結果ニ據レバ最モ有毒ナル元素ノ微菌ハ不潔ナル水

中ニ在リテ長キ間寒氣ニ抵抗シ而モ能ク生存スルコト

ヲ得ルモノナリ故ニ良好ナル氷ニ在リテハ透徹玲瓏玉

ノ如ク其結晶中微細ナル無數ノ微菌ヲ含有スルトハ殆

ンド信ジ難キ所ナレドモ其實全ク之ヲ含メリト

新約克及ビ其他ノ大都會ニ於テ販賣セラル、水中ニハ

無數ノ微菌ヲ含有ス

加之微菌中最モ畏ルベキ窒扶斯微菌ハ長キ間氷塊中ニ

生存シ其害毒少シモ前ニ異ナルヲナシ

斯ノ如ク掩フ可ラザル事實アルニヨリ吾人ノ用ニ供ス

ル氷ノ產地モ猶ホ水ニ於ケルガ如ク嚴密ニ試察セザル

可カラズ然ルニ不幸ニシテ凍結ハ十分水ヲ清潔ナラシ

ムルモノナリトノ舊説ニ感化セラレテ之ヲ販賣スルモノ多クハ其産地ノ不潔ナルニモ拘ラズ市場ニ近キ處若シクハ運搬ニ便利ナル處ヨリ之ヲ取り來ル是レニハ其運送ノ費ヲ省キテ以テ利ヲ獲ントスルガ故ナリ

新約克府内ニ供給セラル、氷ノ如キハ即チ其一例ニシテ府内ニ販賣セラル、氷ノ大部分ハ下水ノ注キ入ルホドソン河ヨリ來ルモノナリ且通例下水ノ口ニ近キ處ヨリ切り取ルモノナリ同シク同府内ニ販賣セラル、氷ニシテ可ナリ清潔ナル池若シクハ湖ヨリ來ルモノアレドモ該府内ニ於ケル氷ノ消費者ハ果シテ清潔ナル氷ヲ用ヒ得ルヤ否之ヲ明カニスルコト能ハザルベシ

故ニ少クトモ飲料ニ用フル氷丈ハ其凍結セザル時ニ於テ飲ムヲ能ハザル氷ヲ湛フル處ヨリ切り取ルベカラザルナリホドソン河ニ於ケル氷及其他多クノ處ヨリ來ル氷ノ如キハ固ヨリ飲料ニ供ス可カラザルモノトス

(未完)

○自然齋植物雜誌 (一)

在筑前粕屋 長野 菊次郎

〔一〕 福岡近傍ニ於ケル植物播布ノ觀察

●ヒメムカシヨモギ 方名ヲヒいしんぐさ又ハよか

はりぐさナド唱ヘリ元來此草ハ燕麥ニ混シテ外國ヨリ輸入セラレシモノナリト聞キヌサレバニヤ明治ノ初年ニハ福岡近傍ニ於テ見ルヲ能ハザリシ品ナリキ然ルニ今日ニ及ビテハ各地殆ンド之ヲ見ザルナキニ至リ隨テ田圃ノ害ヲナスヲ少カラズ菊科植物中果實ニ瓣毛ヲ備ヘ風ノ爲メニ飛散セラレテ其蕃殖ヲ助クルモノ少カラズト雖ヒひめむかしよもぎノ如キハ特ニ非常ナリト云フベシ王政維新時代變遷ノ後蕃布セシニヨリ前ニ掲ケタルカ如キ方名ヲ得タルモノナリト云フ

●ヒメコバンサウ 此品モ亦近來播布セルモノニシテ明治ノ初年ニハ見ルヲ能ハザリシ品ナリト云フ現今各地普通ニ産シ殆ント自生ト異ルヲナシ

●マチヨヒグサ 此モノモ亦明治年間ニ播布シタルモ

ノニシテ河邊砂積ノ地海濱等ニ多シ方名ヲカヒバなト
 呼ビ之ヲ採リ歸ヘレバ火災ニ罹ルナドノ妄説ヲ唱ヘテ
 之ニ觸ル、人サヘ少シ蓋シ花瓣四個ニシテ夜間開クヲ
 以テ之ヲ忌ムモノナルベシ

●マンテマ 此品筑前國ニ播布シテ殆ント自生ノ有様

トナレルハ實ニ近來ノコナリ余ガ初メテ之ヲ見出シシ

ハ明治廿五年六月十日那珂郡堅粕村ノ松原ヲ通過スル

際僅カ一株ヲ得シコナリ次ギテ翌十一日粕屋郡名島ノ

近傍ヘ採集ニ赴キシニ多々羅河ノ邊ニ於テ再ヒ彼小草

ノ簇生スルコヲ認メヌ是ニ於テまんでまハ古來此邊ニ

自生スルモノナルヤヲ疑ヒ之ヲ古老ニ訂シシニ之レ古

來認ムル所ノ品ニアラズト答ヘタリ然ルニ翌廿六年再

ヒ全植物ヲ討究セシニ獨リ名島ノミナラズ箱崎近傍ヨ

リ福岡營所ノ裏手大堀ノ近傍ニ及ビ早良郡西新町等迄

モ播布セルコヲ認メタリ元來此舶來植物如何ニシテ當

地ヘ持チ來ラレシカ又何所ヨリ何レノ方向ニ向ヒテ播

布セシヤハ今之ヲ確ムルニ由ナシト雖モ今後ノ觀察ハ

大ニ注意ヲ要スベキモノナリ之ヲ要スルニまんでま現
 今ノ播殖地ハ地質上ヨリ云ヘバ沖積層ナルガ如シ嗚呼
 彼ハ終ニ洪積層及ヒ三紀層等ヘ進入スルノ勇氣アルヤ
 否ヤ余ハ刮目シテ以テ之ヲ觀察ヲ怠ラザルベシ

○寄贈書目録 明治廿八年八月十五日
 以降領收ノ分

- | | | |
|---|-----------------------------|---------|
| 動物學雜誌 | 第八十二號 | 動物學會 |
| 地質學雜誌 | 第二十三號 | 動物學會 |
| 東京醫學會雜誌 | 第九卷第十六號 | 東京醫學會 |
| 日本蠶業雜誌 | 第八十五號 | 日本蠶業雜誌社 |
| 大日本山林會報 | 第一百五十二號 | 大日本山林會 |
| 地學雜誌 | 第七集八十卷 | 地學協會 |
| 日本藥業新誌 | 第二百七十一號 | 衛生社 |
| 氣象雜誌 | 第十四年第八號 | 大日本氣象學會 |
| 同志教育 | 第拾二號 | 同志教育會 |
| 東京地學協會報告 | 第十七年一號 | 東京地學協會 |
| The Gardeners' Chronicle, | Vol. XXVIII. No. 448, 1895. | |
| Bulletin de l'Herbier Boissier, | Tome III. No. 6, 1895. | |
| Bulletin of Miscellaneous Information.—Kew. | | |
| The Botanical Gazette, | Vol. XX. No. 8, 1895. | |
| | No. 102, 103, 1895. | |

廣告
理科大學教授博士松村任三先生著

日光山植物目錄

全一冊
定價六拾錢
學名及和名
索引附

白根、男體ノ高峯、馬返ノ峻峻、赤治ノ曠原、金精ノ鬱林其他鉢石、中禪寺、湯本等ノ勝區ニ野生スル九百有餘種ノ花卉草木ヲ盡ク網羅シタル目錄ナリ此名山勝地ヲ探檢スル内外ノ人士殊ニ修學旅行ヲ企圖セラル、教員、學生諸君ハ必ス一本ヲ備ヘサル可カラス、理科大學教授博士松村任三先生著

和漢譯本草字典

全一冊
定價六拾錢

本書ハ英語其他數十ヶ國ノ語ニ於ケル植物及藥品等ノ名稱ヲ和漢兩名ニ對譯スルニ羅馬字トノ兩様ヲ以テシ加之植物所屬ノ科名ヲモ記入シタルモノナレハ是亦左右ニ缺クヘカラサル良辭書ナリ
池野成一郎譯

顯花植物分科檢索篇

全壹冊
正價貳拾錢 郵稅四錢
本書ハ嘗テ植物學雜誌ニ附録トシテ連載セルモノヲ集メラ一冊トナシ別ニ詳細ナル和洋科名ノ見出表ヲ附シタルモノ也

賣捌所

東京神田
裏神保町
東京日本橋
區通三丁目
敬業社
丸善書店

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金拾錢
三回以上割引仕候
○本誌毎月一回發兌一冊金拾貳錢○六冊前金七拾貳錢
○十二冊前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り一冊金拾錢
○配達概則
第一條 代價收受セザル内ハ縦令御注文アルモ遞送セズ
第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ
第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絕ス
第四條 特ニ一冊限御入用ノ向ハ壹錢切手十二枚御送致アレバ御届可申候

明治廿八年九月十九日印刷
明治廿八年九月二十日發行

版權所有

編輯兼 井上 蘇吉
發行者 野村 宗十郎
印刷者 東京市神田區錦町三丁目一番地
印刷所 東京市京橋區築地一丁目廿番地
發行所 株式會社 東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目七番地
賣捌所 植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
敬業社
同所
丸善書店
東京市日本橋區通三丁目

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. IX.]

SEPTEMBER, 20TH 1895.

[No. 103.

CONTENTS.

- A Plants propagable by Means of Leaves. By A. Yasuda. 317
- Mr. H. Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants (*Continued from No. 102.*) By T. Makino 320
- Plants employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia.
By K. Sawada. 328
- Conspectus of Chrysosplenium (*Continued from No. 88, vol. VIII.*)
By E. Tokubuchi. 331
- Chemical Constituents of mucilaginous Substances of some
Plants. By K. Yoshimura. 335
- Catalogue des Plantes récoltées aux Îles de Pescadore, II. Par
A. Tashiro. 337
- On Plants Collected in Shingkin China, By H. Kawakami—
K. Miyabe. 343

MISCELLANEOUS:—

Short Notes on Plants.—General Meeting of “Deutsche Botanische Gesellschaft.”—A new Botanical Journal.—Mr. Correvon's “Jardin Alpin d'acclimatation de Genève.”—A work left by late Prof. N. Pringsheim.—Prof. Kerner von Marilaun.—New Algae of Mr. P. Richter.—C. Schulze's Researches on Phytolaccaceae.—F. Czapeck on Co-operation of Heliotropisum and Geotropisum.—Notes on Japanese Mosses.—Publications received.—etc.

All letters and communications to be addressed to the

TOKYO BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tokyo, Japan.

明治二十一年二月三日內務省許可

明治二十六年六月三十日遞信省認可

植物學雜誌第九卷第四百號

THE BOTANICAL MAGAZINE.

明治二十八年十月二十日

[Vol. IX.]

October 20, 1895.

No. 104.]

○醬油液ヲ菌類培養基ニ用フル實驗

三 好 學

Anwendung japanischer Soja und deren Gemisch für Pilzkultur (Resümé deutsch)

von Professor M. Miyoshi.

かび (Schimmelpilze) 類純粹培養ニ用フル混合液若クハ固體培養基ノ種類ハ、吾人が從來使用セルモノ一ニシテ足ラズ、クノップ (Knop) 氏液ノ如キモ亦混合液中便利ナルモノナリ、(Nobbe, Die landwirth. Vers. Stat. 1884. Bd. 30. p. 292.) 近來ブォートマン (Wortmann) 氏ハ亦「トラウベンモスト」ヲ培養基ニ應用スベキヲ論ゼリ (Bot. Ztg. 1893. p. 177.) 最モ便利ニシテ良好ノモノト云フベシ、

本邦ノ醬油ヲ培養液ニ用フベキカニ就キテハ、予往年來獨國ライプチヒ大學植物學教室ニ於テ實驗ヲ行ヒタリ、現今該國ニテハ醬油ノ需用徐々ニ多ク、各大都市ノ罐詰舖等ニテ販賣スルモノ少ナカラズ、(「リットル」價二麻、五十片) 何ゾレモ東京醬油會社製造ノ商標ヲ有シ、良好純粹ノ品質タリ、予ハ該醬油ヲ用ヒ蒸餾水ヲ混シテ種々ノ稠度トナシ、初ハ先ヅ單獨ノ溶液ヲ作り、後之ニ砂糖又ハ更ニ葱浸出液等ヲ混入シ消毒ノ後實驗ニ供セリ、

醬油ヲ菌類培養基ニ用フル實驗

醬油ヲ菌類培養基ニ用フル實驗

實驗用ノ菌類ハ *Penicillium glaucum*, *Aspergillus niger*, *Botrytis cinerea*, *Mucor Mucedo*, *M. stolonifer* ノ諸種ニシテ、何ヅレモ皆ナ通常植物生理學實驗場ニ培養シ置キ、種々ノ實驗用ニ供スベキモノナリ、培養液ハ皆ナエーレンマイアー氏玻璃瓶(容量一二〇ccm)ニ各、五〇ccmヅ、盛り、綿ニテ栓ヲ爲シ、初メニ先ヅラウテンシユレーガー氏蒸氣消毒器内ニ入レ攝氏百度中ニ凡ソ一時間置キ、更ニ冷却セル後、數時間ノ後再ビ同温度ニテ消毒セリ、予ハ斯ノ如ク兩回乃至三回ノ充分ナル間斷蒸熱法ヲ施シ消毒ヲ充分ナラシメタリ、然ル後之ニ通常方法ノ如ク菌類ノ孢子ヲ接種シ暗室ノ棚上(室内温度攝氏二十度乃至二十三度)ニ置ケリ、斯クシテ培養液内ニ發生セル菌絲及ビ其生殖部ノ生長ニ就テ一々看察セリ、今左ニ三種ノ菌類ニ於テ爲セル實驗ノ結果ヲ記スベシ、

<i>Botrytis cinerea.</i>	<i>Aspergillus niger.</i>	<i>Penicillium glaucum.</i>	100% 溶液中 醬油ノ分量
W ₂	W ₂	W ₁	0.5%
W ₃	W ₂	W ₂	1%
W ₄	W ₃	W ₃	5%
W ₅	W ₃	W ₃	10%
W ₅	W ₄	W ₄	20%
W ₁	W ₁	W ₄	50%
0	0	W ₂	75%
0	0	0	90%
0	0	0	100%

(符號)

W₁.....生長最モ弱少ナリ
 W₂.....生長弱少ナリ
 W₃.....生長通常ナリ
 W₄.....生長盛ナリ
 W₅.....生長最モ盛ナリ

前表ニテ見ル如ク *Botrytis cinerea* ニテハ一〇%溶液已ニ充分ノ發生ヲ爲サシムルニ適セリ、更ニ稀薄ナル溶液〇・五%ニテモ該菌ノ生長多少ノ度ニ達スルヲ見ル、予ハ更ニ最モ稀薄ナル液即チ〇・〇五%ノ割合ニテ實驗セルニ、猶ホ該菌ノ最弱ナル生長ヲ明ニ認ムルヲ得タリ、然ルニ *Penicillium glaucum* 及ビ *Aspergillus niger* ハ共ニ此ノ如キ最弱度ノ溶液中ニハ全ク生長スルニ至ラズ、即チ前二種ノ菌ニテ二〇%溶液尤モ適應スルヲ見ル、但シ *Penicillium glaucum* ハ *Aspergillus niger* ヨリモ更ニ稠度ノ密ナル溶液中ニモ盛ニ發生スルノ差異アリ、

生長ノ速度ハ一定度以上ハ溶液稠度ノ濃密ナルニ隨ヒ減却ス、攝氏二十度乃至廿三度ナル室温ニテ *Botrytis cinerea* ハ一〇%液内ニテ三四日ニシテ充分ノ生長ニ達シ、全ク液體ノ表面ヲ密被スルニ至レリ、*Aspergillus niger* 及ビ *Penicillium glaucum* ニ於テハ二〇%液ニアリテ凡ソ一週間ノ後充分ノ生長ヲ見ル、

Mucor Mucedo, *M. Stolonifer*, *Phycomyces nitens* ハ二〇%溶液中ニ尤モ善ク蕃生シ、盛ニ子囊柄絲ヲ條出ス、(*M. Mucedo* ハ子囊全ク成熟スルノ後ニハ、菌絲ハ一面ニ培養液面ヲ密被シ、氈狀ヲ呈ス、液中ニハ夥多ノ孢子ヲ存有シ、一定時期間ハ發芽力ヲ保ツ、故ニ後日該液中ヨリシテ更ニ新鮮ノ培養液中ニ孢子ヲ轉植スルコトヲ得、)

以上記載セル諸菌類ハ濃純ナル醬油原液ニハ何ツレモ發生スルモノナシ、

予ハ又「ゼラチン」五%、醬油一五%、水八〇%ヲ用ヒ、固體培養基ヲ製シテ前記ノ諸菌ヲ試植スルニ、何ツレモ善ク蕃生セリ、

左ニ醬油溶液ヲ用ヒテ *Soprotogonia ferax* ニ施セル實驗ヲ記スベシ、予ハ該菌ヲ成ルベク純粹ニ培養セルモ

醬油ヲ菌類培養基ニ用フル實驗

ノヨリ、缺ヲ以テ二三ノ菌絲ヲ切り取り、之ヲ消毒セル蒸餾水ニテ洗除シ、然ル後二%ノ醬油溶液中ニ入レタリ、充分ノ注意ヲ用ヒテ「バクテリア」、「インフーソリア」ノ更ニ竄入スルヲ防キタレバ、該菌絲ハ速ニ蕃生シ、十五六時間ニシテ球形白色ノ菌絲叢ヲ形成シタリ、該培養ニテハ後「バクテリア」類ノ發生ヲ見ルコトナク、凡ソ一週間液體透明ノ儘ニテ保存スルコトヲ得タリ、蓋シ醬油ハ他ノ牛肉「エキス」又ハ「ペプトーン」ノ如クニ速ニ「バクテリア」ノ侵ス所トナラザルヲ以テ該類ノ實驗培養ニハ尤モ適セリ、

前記ノ結果ヨリシテ見ルキハ、醬油溶液ハ菌類培養基トナシテ至テ便利ナリト雖モ、未ダ決シテ至良ノモノト云フ能ハズ、何トナレバ其成分中炭水化合物 (Kohlenhydrate) (砂糖ノ如キ)ノ量甚ダ少ク、之ニ反シテ食鹽最モ多量ナレバナリ、故ニ該液ニ一定量ノ砂糖若クハ果實浸出液等ヲ混用スレバ始メテ良好ノ養液トナル、予ガ平常諸菌類(主トシテ前記ノ種類)ノ培養ニ用フル醬油混入培養液ノ一例ハ左ノ如シ、(Miyoshi, Durchbohrung der Membranen durch Pilzfäden. Pringsh. Jahrb. f. wiss. Bot. Bd. XXVIII, Heft II. 1895. p. 272 参照)

二〇分 醬油

五分 薯糖

二五分 稠密ナル葱煮出液

五〇分 蒸餾水

醬油液ハ前記ノ菌類ニ對シテ盛ナル向化性 (Chemotropismus) ヲ有ス、試ミニ一—二%液ヲ用ヒドラデスカンチア葉片ニ注射シテ葉ノ裏面(氣孔ヲ有スル方)ニ孢子ヲ蒔クキハ、發芽セル菌絲ハ盛ニ氣孔内ニ穿入スルヲ見ルシ、(Miyoshi, Ueber Chemotropismus der Pilze. Bot. Ztg, Heft. I. 1894. 并ニ官報三一四五號、植

○川上廣衛氏採集盛京省占領地植物

(前號ノ續キ)

宮部金吾

去月遼東半島ヲ守備セル第二師團ノ殘部ハ台灣總督ノ指揮下ニ入りテ南征ノ命アリ川上氏亦山砲隊トシテ台灣ニ進ム發スルニ際シ好便ニ頼リテ紅旗營子大和尚山採品ノ殘餘及ヒ後格鎮堡ノ採品百餘種ヲ送リ來ル是レ概テ前回ノ送品外ノ種類ニシテ殊ニ趣味アルハ若干ノ樹木ヲ得タルコトナリ今之ヲ整理シテ前回ノ分ト合セ報スルコトトシ首メニ前號既ニ記載セル分科中今回新タニ得タルモノヲ掲グ

(13) *Dontostemon dentatus*, Ledeb.—F. & H. l. c. p.

45.

ハナハタザホ

紅旗營子(六月二十一日花)多ク産セス

日本朝鮮北支那滿州等ニ産ス

(14) *Polygona tenuifolia*, Willd.—(6.)ヲ見ヨ

後格鎮堡路傍(七月十日花及實)

(15) *Dianthus chinensis*, L.—F. & H. l. c. p. 63.

カラナデシコ石竹

後格鎮堡(七月十日花)大赫山諸處ニ散在ス(五)

(16) *Malva sylvestris*, L.—F. & H. l. c. p. 84.

ゼニアフヒ錦葵

紅旗營子(六月廿一日花)

亞細亞、歐洲温帶地方ニ擴布ス

(17) *Hibiscus Trionum*, L.—F. & H. l. c. p. 88.

川上廣衛氏採集盛京省占領地植物

ギンセンクワ。テウロサウ野西瓜苗後格鎮堡路
傍ニ生ス黄花愛スベシ(七月十五日花)紅旗營子
(六月廿一日花)

支那各地ニ産ス本邦自生ナシ

(18) *Tribulus terrestris*, L.—F. & H. l. c. p. 97.

ハマビシ 蒺藜

紅旗營子(六月廿一日花)

日本支那其他熱帶温帶地方ノ海邊ニ廣ク散布ス

(19) *Zanthoxylum schinifolium*, Sieb. et Zucc. F. &

H. l. c. p. 107.

イヌザンセウ崖椒

紅旗營子(六月廿一日蕾)

日本朝鮮支那ニ産ス

(20) *Zizyphus vulgaris*, Lam., var. *spinosa* Bunge.

—F. & H. l. c. p. 126.

サネブトナツメ酸棗

後格鎮堡(七月十五日花)紅旗營子(六月廿一日

蕾)

北支那地方ノ産ニシテ本邦へハ享保年中ニ傳ハ
リシト云

(21) *Vitis heterophylla*, Thunb.—F. & H. l. c. p. 133.

ノブドウ蛇葡萄

後格鎮堡(七月十五日花)

日本、朝鮮、支那

(22) *Melilotus alba*, Desr.—F. & H. l. c. p. 154.

シナガハ、キノ一種

生家屯(五月五日葉)

北支那地方ニ多ク産ス亞細亞、歐羅巴ノ諸處ニ

擴布ス

(23) *Indigofera macrostachya*, Vent.—F. & H. l. c.

p. 157.

ニハフチノ一種

大和尚山(五月廿三日花ハ薄紫ニシテ美ナリ)

後格鎮堡(七月十五日花)

北支那及朝鮮ニ産ス

(24) *Caragana frutescens*, DC.—F. & H. l. c. p. 163.

ムレスズメノ一種

大和尚山諸處ニアリ(五月廿三日花、六月廿一日葉)

支那、西比利亞ヲ經テ歐洲露國ノ南部ニ擴カル

(25) *Oxytropis hirta*, Bunge—F. & H. l. c. p. 167.

董家屯諸所稀ニ散在ス紫花美ナリ(四月廿一日花)紅旗營子(六月廿一日實)

北支那及ヒモンゴリヤ地方ニ産ス

(26) *Lespedeza bicolor*, Thunb.—F. & H. l. c. p. 179.

ハギ胡枝子

大赫山(五月廿一日苗)大和尚山(五月廿三日苗)日本、朝鮮、支那、滿州等ニ産ス

(27) *Lespedeza trichocarpa*, Pers.—F. & H. l. c. p.

183.

ハギノ一種

後格鎮堡(七月十五日花)

北支那及ヒ東方西比利亞ニ産ス

(28) *Lespedeza medicaginoides*, Bunge.—F. & H. l.

c. p. 182.

ハギノ一種

後格鎮堡(七月十五日花)紅旗營子(六月廿一日葉)

支那ノ北部及中部ニ産ス

(29) *Lespedeza villosa*, Pers.—F. & H. l. c. p. 183.

(*L. tomentosa*, Sieb.)

イヌハギ

後格鎮堡(七月十五日葉)

日本、朝鮮、支那及ヒ滿州ニ産ス

(30) *Lespedeza juncea*, Pers. var. *sericea*, Hemsl.—

F. & H. l. c. p. 181. (*L. sericea*, Miq.)

メドハギ鐵掃帚
後格鎮堡路傍ニ生ス(七月十日花)

日本、朝鮮、支那、北方印度及ヒ濠洲ニ産ス

(31) *Lespedeza striata*, Hook. et Arn. var. *stipulacea*,

Makino, Tokyo Bot. Magazine Vol. VII. p. 156,

and Vol. VIII. p. 129.—F. & H. l. c. p. 182.

マルバヤハズサウ

紅旗營子路傍(六月廿一日葉)

日本、朝鮮、支那、滿州、樺太等ニ産ス

(32) *Vicia unijuga*, Al. Br.—F. & H. l. c. p. 186.

タニワタシ 歪頭菜

後格鎮堡路傍(七月十日葉)

日本、朝鮮、支那、西比利亞、樺太等ニ産ス

(33) *Vicia amoena*, Fisch.—F. & H. l. c. p. 184.

ツルフヂハカマ

辛塞子(五月十一日葉)

日本、朝鮮、支那、西比利亞等ニ産ス

(34) *Sophora flavescens*, Ait.—F. & H. l. c. p. 202.

(*S. angustifolia*, Sieb. et Zucc.)

クラ、苦參

大和尚山(六月廿一日花)

日本、朝鮮、支那、滿州等ニ産ス

(35) *Prunus tomentosa*, Thunb.—F. & H. l. c. p. 222.

ユスラムメ 杏桃樹

董家屯(四月廿二日花)

支那各所ニ産ス

(36) *Prunus Armeniaca*, L.—F. & H. l. c. p. 217.

杏樹

董家屯(四月二十五日花)

北支那及東方西比利亞ニ産ス

(37) *Prunus Persica*, Sieb. et Zucc.—F. & H. l. c. p. 220.

モ、桃樹

董家屯及陳家屯(四月廿二日花)

董家屯及陳家屯(四月廿二日花)

(38) *Prunus communis*, Huds.—F. & H. l. c. p. 218.

スモ、李樹

董家屯(四月廿三日花)生家屯(五月二十日葉)

(39) *Sorbaria Kirilowi, Maxim.* in Act. Hort. Petrop.

VI. p. 225.—*Spiraea sorbifolia*, L. in F. & H.

l. c. p. 227, in part.

ホザキナ、カマドノ一種

大和尚山(六月廿一日蕾)

支那ノ北部及ヒ中部ニ産ス

(40) *Rubus crataegifolius*, Bunge.—F. & H. l. c. p.

230.

サンザシバノイチゴ ○ タチイチゴ

大赫山(五月廿二日蕾)

日本、朝鮮、支那及ヒ滿州ニ産ス

(41) *Rubus parvifolius*, L.—F. & H. l. c. p. 235.

ナハシロイチゴ 薔田薔

後格鎮堡(七月十五日花)

日本、朝鮮、支那及ヒ東濠洲ニ産ス

(42) *Potentilla fragarioides*, L. var. *typica*, Maxim.

Mel. Biol. IX. p. 159.—F. & H. l. c. p. 242.

キンヤマコ

辛塞子(五月十一日花)濕地ニ點々散在シ若クハ

火山岩ノ如キ岩石間ニモ見受ク

日本、朝鮮、支那、北印度、西比利亞等ニ産ス

(43) *Potentilla Anserina*, L.—F. & H. l. c. p. 240.

ツルキンバイ

紅旗營子(六月廿一日花)

日本、支那其他北温帶各地、濠洲及ヒ南亞米利

加等ニ擴ク散布ス

(44) *Potentilla chinensis*, Ser.—F. & H. l. c. p. 241.

カハラサイゴ 委陵菜

紅旗營子(六月廿一日花)後格鎮堡路傍(七月卅

一日花)生家屯(五月二十日葉)

日本、朝鮮、支那、滿州等ニ産ス

(45) *Potentilla discolor*, Bunge.—F. & H. l. c. p.

241.

- ツチグロ○ブクリヤウサウ 雞腿兒
 生家屯(五月二十日花) 辛塞子ニモ産ス
 朝鮮及ヒ支那ニ産ス
- (46) *Potentilla flagellaris*, Willd.—F. & H. l. c. p. 242.
 蛇合ノ一種
 生家屯砂地ニ生ス(五月二十日葉)
 北支那及西比利亞東南部ニ産ス
- (47) *Potentilla supina*, L.—F. & H. l. c. p. 245.
 紅旗營子路傍(六月二十一日花及ヒ實)
 支那ヨリ西歐洲及北亞弗利加へ擴ガリ又北亞米
 利加ニモ産スヘムズレー氏ニ據レバ日本ニモ産
 スト云
- (48) *Agrimonia eupatoria*, L.—F. & H. l. c. p. 246.
 キンミヅヒキ 龍芽草
 生家屯(五月廿日葉) 樹木ノ根際ニ繁生ス
 北温帶各所ニ産ス
- (49) *Rosa multiflora*, Thunb.—F. & H. l. c. p. 253.
 ノイバラ 野薔薇
 紅旗營子(六月廿一日花)
 日本、朝鮮、支那等ニ産ス
- (50) *Rosa rugosa*, Thunb.—F. & H. l. c. p. 253.
 ハマナス 玫瑰
 紅旗營子(六月廿一日花)
 日本、樺太、カムチャツカ、朝鮮、支那等ニ産ス
- (51) *Pyrus sinensis*, Lindl.—F. & H. l. c. p. 257.
 ナシ 梨○野梨
 生家屯(五月二十日葉)
 日本、朝鮮、支那、滿州等ニ産ス
- (52) *Crataegus pinnatifida*, Bunge.—F. & H. l. c. p. 259.
 サンザシノ一種 迎桃樹
 生家屯(五月二十日蕾) 紅旗營子(六月廿一日花)
 實ハ食スル由

朝鮮、支那、滿州等ニ産ス

(53) *Dentzia grandiflora*, Bunge.—F. & H. l. c. p.

276.

ウツギノ 一種敎交柴

大赫山(五月二十二日花)白花ヲ開キ岩間ニ生ス

其狀我「ホウシバ」(莊内ノツクバホ)ノ如シ

北支那及ヒ朝鮮ニ産ス

(54) *Cotyledon spinosa*, L.—F. & H. l. c. p. 282.

昨葉荷草

大赫山(五月廿二日葉)

支那、滿州及ヒ東方西比利亞ニ産ス

(55) *Bupleurum falcatum*, L.—F. & H. l. c. p. 327.

ミシマサイゴ 北柴胡

紅旗營子(六月廿一日葉)

日本、朝鮮、支那ヨリ歐洲ノ南部ニ擴ガル

(56) *Siler divaricatum*, *Penth. & Hook. f.*—F. & H.

l. c. p. 332.

バウフウ防風

後格鎮堡(七月十五日花)

北支那及ヒ東方西比利亞ニ産ス

(57) *Acanthopanax reinifolium*, *Seem.*—F. & H. l.

c. p. 340.

ハリギリ刺楸樹

大和尚山(六月廿一日葉)

日本、樺太、朝鮮、支那等ニ産ス

(未完)

○菌耳ト葉菌 (*Himeola* and *Fixidia*.)

理學士 安 田 篤

菌耳トハ木耳即チ「きくらげ」ノ謂ニシテ葉菌トハ甚ダ之ニ類似シタル一種ノ菌類ヲ指スナリ予ハ昨二十七年

八月小石川植物園ニ於テ數個ノ葉菌ヲ得本年七月帝國大學構内ノ二個處ニ於テ菌耳數個ヲ得タリ此二種ノ菌

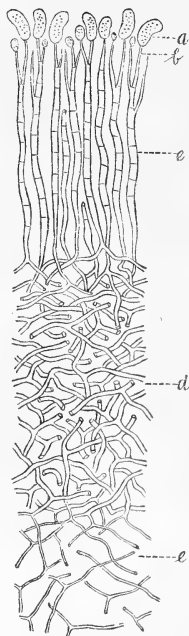
類ハ特性ヲ有スルヲ以テ面白ク子實體ハ殆ト無柄ニシテ朽樹上ニ生ジ其形ハ耳狀若クハ盃狀ヲ呈シ其質ハ瓊^カ脂樣ニシテ之ニ觸ルレバ震蕩ス色ハ何レモ多少褐色ヲ帶ビ上面ト下面トハ稍其色ヲ異ニセリ上面ハ凹形ニシテ平滑ニ「ヒメニウム」ハ通常ノ茸類ニ於テ見ル如ク下面ニアラズシテ却テ此上面ニアリ且ツ突起スルコトナシ而シテ胞子ハ此滑面ニ居スルヲ以テ頗ル脱落シ易シ之ニ反シテ下面ハ凸狀ヲ呈シ天鷲絨樣ニシテ細毛ヲ以テ被ハル其質ノ瓊脂樣ニシテ之ニ觸ル、ヤ震蕩スルハ是等菌類ノ特性ナルヲ以テ之ガ屬スル科名ヲ殊ニ震菌科 (Tremellini = Zitterpilze) ト云フコハ羅甸語ノ Tremere 即チ震蕩ヲ意味スル語ヨリ來リシモノナリ

先ヅ初メニ菌耳ト葉菌トニ就キ各別ニ述ベ次ニ之ガ異同ヲ舉グベシ

菌耳ハ Hirneola 屬ニ屬シ子實體ハ其形耳ニ似タルヲ以テ「Judasohr」ノ名アリ Hirneola ハ羅甸語ノ Hirnea ヨリ導カレ是ハ小塚ヲ意味スル語ナリ蓋シ盃狀ヲ呈スルヨリ斯ク名ケタルナルベシ學名ヲ Hirneola auricula-Judae Berk. ト云フ此菌ハ重ナリテ生ジ薄クシテ多肉ナラズ表面ニ脈襞アリ瓊脂樣ニシテ軟骨質ヲ帶ビ半透明ナリ乾ケバ硬クシテ骨ノ如ク濕ヘバ忽チ柔軟トナル凹ミタル上面ハ黑褐色ヲ呈シ平滑ニシテ一毛ノ之ヲ蔽フ莫シト雖下面ハ之ニ反シ平滑ナラズシテ絨毛ヲ具ヘ之ニ觸ルレバ天鷲絨ノ如シ灰褐色ヲ帶ブ「ヒメニウム」ハ上面ノミニアリ「バシヂア」ハ絲狀ヲ呈シ普通ノ茸類ニ於テハ其先端ヨリ通常四個ノ「ステリグマ」ヲ出スト雖本品ニ在テハ「バシヂア」ニ數個ノ隔膜アリテ相關節シ數關節ハ延長シテ外方ニ走レル一個ノ「ステリグマ」トナリ其先端ニ各一胞子ヲ戴ク胞子ハ長橢圓形ニシテ彎曲シ長軸ノ終リニテ「ステリグマ」ニ附着ス予ハ一度ハ本品ヲ「にはどこ」、一度ハ之ヲ「もみぢ」ニ於テ得タリ其探テ以テ食用ニ供スベク其味ノ淡脆ナルヲハ皆人ノ知ル所ナリ今本草綱目啓蒙ヲ按ズルニ菌耳ハ木ニ因テ良毒アリ宜シク其木ヲ撰ブベシ桑、槐、楮、柳ヲ五木

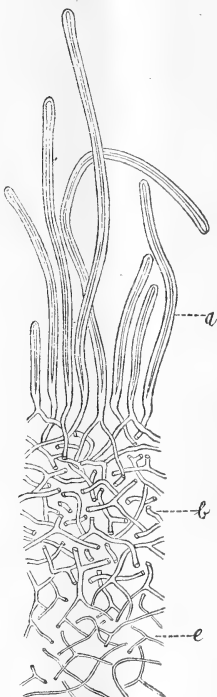
耳トスルコト蒸ノ説ニ見エタリ楮、接骨木、榕等ノ木茸最佳ナリトアリ然ラバ予ノ採集シタル品ハ安心シテ食
 テ可ナリ歐洲諸國ニテハ其通常接骨木屬 (Pambucus) ノ朽莖上ニ生ズルヨリ "Fungus sambuci" ト名ケ之ヲ
 冷熱劑トシテ藥用ニ供スト云フ

圖 一 第



第一圖ハ菌耳ノ上
 面ニ近キ組織ヲ顯
 ハシタルモノ、a
 ハ孢子、bハハス
 テリグマ、cハ糸
 狀ノ「バシチア」
 dハ之ニ次グ組織
 eハ瓊脂層ナリ

圖 二 第



第二圖ハ菌耳ノ下
 面ニ近キ組織ヲ示
 セルモノ、aハ絨
 毛、bハ之ニ次グ
 組織、cハ瓊脂層
 ナリ

圖 三 第

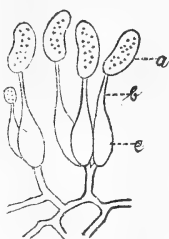
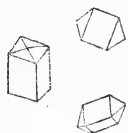


圖 四 第



第三圖ハ葉菌ノ上
 面ニ近キ一部ヲ顯
 ハセルモノ、aハ
 孢子、bハ「ハス
 テリグマ」、cハ卵圓
 狀ノ「バシチア」ナ
 第四圖ハ菌耳ノ組
 織中ニアル瓊脂石
 灰ノ結晶ヲ示ス

ニ1.2μ.ノ直徑ヲ有スルニ過ギズシテ種々ノ方向ニ走り其數モ甚ダ稀疎ニシテ瓊脂質其間ヲ充タス此層ハ最
 厚キ組織ニシテ最固有ナル者ナリ之ヨリ漸ク密トナリトシテノ直徑ヲ有シ且ツ不定ノ方向ニ走ル菌糸ヨリ成レ

之ヨリ進デ「さくらげ」ノ解

剖上ノ内幕ヲ詳述スレバ先ヅ

上面ニ孢子アリ長サ15μ.幅

3μ.ノ大サナリ次ニ是等ヲ載

スル「ステリグマ」アリ「バシ

チア」ハ太クシテ「バシ」ノ直徑ヲ

有シ何レモ表面ニ直角ヲ爲ス

其次ノ組織ヲ見ルニ菌糸ハ殆

ト方向ヲ定メズシテ走り太サ

モ稍細ク直徑「バシ」アリ其内部

ニ位スル者ハ所謂瓊脂層ニシ

テ此中ニアル菌糸ハ最細ク管

莊内産顯花植物

ル組織ニ移リ其次ハ下面ニ見ル所ノ絨毛層ナリ絨毛ヲ成セル菌糸ハ太クシテ直径「ミ」ニ達シ鈍頭ニ終リ細胞膜ハ先端最薄クシテ側面ハ頗ル厚ク爲メニ「ルーメン」ハ甚狹小トナレリ此菌糸ノ長サハ通常〇、一乃至〇、二「ミリメートル」内外ナレドモ時トシテハ〇、五「ミリメートル」ニ達スル者アリ

菌耳ノ組織中ニハ諸處ニ碳酸石灰ノ結晶アリ其大ナル者ハ長サ「10ミ」幅「ミ」ニ達ス

葉菌ハ *Exidia* 屬ニ屬シ子實體ハ葉狀ヲ呈スルヲ以テ「Lappenziller」ノ名アリ *Exidia* ハ希臘語ノ *epithema* ヨリ來リ分泌ヲ意味スル語ナリ蓋シ瓊脂様ノ子實體ガ宿主ヨリ分泌セラレト考ヘシニ因ルナリ此菌ハ皿狀ヲ呈シ黃褐色ヲ帶ビ其實ハ瓊脂様ニ甚軟カニ軟骨性ヲ帶ブルニ至ラズ故ニ菌耳ヨリ更ニ透明ナリ「バシデア」ハ糸狀ヲ爲サズシテ卵圓狀ヲ呈シ三個若クハ四個ニ分レ其各個ハ糸狀ノ「ステリグマ」一個宛ヲ具ヘ其上ニ坐スル孢子ハ腎臟形ヲ爲ス其他ノ性質ハ畧ボ菌耳ト同ジ

以上掲ゲタル二種ノ菌類ヲ比較スルニ菌耳ハ重ニ黒褐色ヲ呈スレト葉菌ハ黃褐色ヲ呈シ前者ハ其質軟骨性ヲ帶ブレト後者ハ瓊脂質稀薄ニシテ甚軟カニ甲ハ半透明ナレト乙ハ更ニ之ヨリ透明ナリ是等ハ多少兩者ノ區別トハナレドモ其最著シキ區別ト見做スベキ點ハ形態上ノ性質ニアラズシテ解剖上ノ性質ニアリ即チ菌耳ニ在テハ「バシデア」ハ糸狀ヲ爲シ關節ニ因テ結付ケラレ其數節ガ「ステリグマ」ヲ有スト雖葉菌ニ於テハ之ト異ナリ「バシデア」ハ卵圓狀ヲ呈シ三個若クハ四個ニ分レ其各個ガ一個宛ノ「ステリグマ」ヲ具フルト是ナリ

○莊内産顯花植物 (第百二號ノ續キ)

川上瀧彌

Caprifoliaceæ. 326. *Adoxa Moschatellina*, L. レンブクサウ 金峯山—327. *Sambucus racemosa*, L. *var.*

Sieboldiana, *Miq.* ニントロコ、ナノカマド(松嶺)ケンクロ(鶴岡方言)松嶺—328. *Viburnum fireatum*, *Bl.* ム

シカリ、サルノコシカケ一名イタチノコシカケ(方言)松嶺、鳥海山—329. *V. tomentosum*, *Th.* ヤブデマリ 坂本、

常禪寺—330. *V. dilatatum*, *Th.* ガマズミ、シツミ(方言)吹浦—331. *V. Wrightii*, *Miq.* シヤマカマズミ、

(ソウマ方言)金峯山、松嶺—332. *V. Opulus*, L. カンボク 松嶺—333. *Abelia spathulata*, *S. Z.* シンベンチ

ウツギ、(ホウキシメ方言)鳥海山、松嶺—334. *Lonicera japonica*, *Th.* スヒカヅラ 松嶺、三崎山道—335. *L.*

Morrowii, *A. Gray*, キンギンボク、(ソウマ方言)松嶺—336. *L. pilosa*, *Max.* むらびひょうたんぼく(新

稱)坂本—337. *L. caerulea*, L. クロミノウグヒスカグラ 鳥海山—338. *Diervilla japonica*, *DC.* タニウ

ツギ、(ガザ方言)松嶺、鳥海山

Rubiaceæ. 339. *Hedyotis stipulata*, *R. Br.* シシカグサ 赤剝、松嶺、田川—340. *Oldenlandia diffusa*, *Roxb.*

フタバムグラ 大山—341. *Paederia tomentosa*, *Bl.* ヘクシカヅラ 松嶺、観音寺—342. *Michelia undulata*,

S. Z. ツルアリドホシ 松嶺、鳥海山—343. *Rubia cordifolia*, L. *var.* *mungista*, *Miq.* マカキ 松嶺—344.

Galium kantschaticum, *Steller.* オホノヨシヅムグラ 月山、鳥海山—345. *G. triflorum*, *Miehr.* キクム

グラ 松嶺—346. *G. gracile*, *Bunge.* ヨシヅムグラ 杉澤、観音寺—347. *G. trifidum*, L. ホンノヨシヅ

ムグラ 杉澤、小泉—348. *G. Aparine*, L. ヤムムグラ 小泉—349. *G. verum*, L. *var.* *lasiocarpum*, *Ledeb.*

カハラマツバ 松嶺—350. *G. verum*, L. *var.* *leiocarpum*, *Ledeb.* 青塚—351. *G. japonicum*, *Malino.* ク

ルマムグラ 松嶺、常禪寺—352. *Asperula odorata*, L. クルマバサウ 大山、常禪寺、坂本、升田

Valerianae. 353. *Patrinia scabiosifolia*, Fisch. オミナ(シ)、コガチバナ(方言) 松嶺—354. *P. villosa*, Tuss.

ヲトコ(シ) 松嶺、金峯山—355. *P. gibbosa*, Mac. ヲルバキンレイクワ、ひろは(おみな)へし 松嶺、月山、
鳥海山—356. *Valeriana faccidissima*, Mac. ツルカノコサウ 松嶺 (未完)

○日本藥局方植物篇 (前號ノ續キ)

澤田駒次郎

(試驗) 日本藥局方注解曰(第一)本品、水溶液(1||2)ニ加里滴液ノ過剰ヲ和シ其鐵分悉ク沈降スルニ至ル迄煮沸スルニ安母尼亞ヲ發生ス可カラス、玆ニ安母尼亞ヲ發生スル片ハ本品ヲ製出スルノ際規尼涅ノ洗淨不充分ニシテ安母紐鹽ヲ混有ス、(第二)其涎滓(水酸化鐵)ヲ濾別シテ得タル液ニ醋酸ヲ加ヘテ酸性トナスニ久シキヲ經ルモ結晶ノ性沈澱ヲ生ス可カラス、是レ酒石酸ノ混有ヲ檢明スルモノニシテ其存在スル片ハ醋酸ニ溶解セサル所ノ重酒石酸加留謨ヲ沈澱ス、(第三)又其水溶液(1||20)ニ硝酸拔留謨ヲ和スルモ僅微ノ溷濁ヲ起スニ過ク可カラス、是レ硫酸ノ少量ヲ許宥スルモノナリ、(第四)本品ニ「グラム」ヲ枸橼酸〇・五「グラム」水二十立方「センチメートル」ニ和シ温ヲ與ヘテ溶解シ其溶液ヲ分液漏斗ニ盛り那篤倫滴液ノ過剰及依的兒甘立方「センチメートル」ヲ加ヘ強ク之ヲ振盪シ次ニ豫メ秤量セル澄明ナル上層液ヲ取り尙ホ二回每次十立方「センチメートル」ノ依的兒ヲ加ヘテ振盪分取ス可シ斯ノ如ク集採シタル依的兒ヲ蒸餾シ其殘留物ヲ百度ニ於テ乾燥スルニ其重量大約〇・二五「グラム」ナルヘシ是レ本品百分中無水規尼涅ノ含量十二・五分ヲ徵スルモノトス、此法ニ由リ規尼涅ヲ定量スルニハ本條ニ掲クル如ク本品ニ「グラム」ニ枸橼酸〇・五「グラム」ヲ添加シテ水二十立方「センチメートル」ニ温ヲ加ヘテ硝子器中ニ溶解シ之ヲ第四十七圖ニ示ス如キ分液漏斗ニ容

レ其硝子器ヲ洗滌シ其洗水ヲモ右ノ分液漏斗中ニ注入シ其溶液ノ充分ニ冷却スルヲ待チ那篤倫液ヲ加ヘテ充分ニ亞爾加里性トナシ(此時水酸化鐵ニ伴フテ規尼涅ヲ洗滌ス)直チニ二十五立方センチメートルヲ注入シ分液漏斗ヲ密栓シテ大約五分時間振盪シ其振盪混和液ノ充分ニ分離スルニ至ル迄放置ス可シ爾後其規尼涅ヲ溶有スル上層液(依的兒)ヲ其下部ニ位スル水酸化鐵分ノ混入セサル様ニ注意シ傾瀉シテ成ル可ク充分ニ豫メ秤量セル硝子器中ニ容レ尙ホ依的兒十立方センチメートルツヽヲ分液漏斗ニ注加シテ前ノ技術ヲ二回反復シ此依的兒ヲモ右ノ硝子器ニ容レ成ル可ク低度ノ温ヲ施シテ依的兒分ヲ蒸散セシメ百度ニ於テ充分ニ乾燥セシムルノ後秤量ス可シ茲ニ得タル規尼涅ノ量ハ大約〇・二五グラムナルヲ要ス右ノ方法ニ據ルキハ依的兒ヲ水酸化鐵ト清淨ニ分離シ難キノ不便アリ故ニ左ノ方法ニ由テ定量スルヲ佳トス即チ枸橼酸鐵規尼涅ニ「グラム」ニ生石灰四「グラム」ヲ加ヘ水ヲ注攪シテ糜粥狀トナシ重湯煎上ニ蒸發シテ乾涸スルニ至ラシメ其殘渣ヲ番木鱉越幾斯ノ條ニ示ス所ノマキエル浸出器ニ容レ依的兒ヲ用ヒテ一時間浸出シ其浸出液ヲ豫メ秤量セル硝子器ニ容レ蒸發シ茲ニ殘留スル規尼涅ヲ百度ノ温ニ於テ充分ニ乾燥スルノ後秤量ス可シトアリ

(貯法) 硝子瓶中ニ密封シ日光ヲ遮斷シテ貯フ可シ

第二 鹽酸規尼涅 (格魯兒水素酸規尼涅) *Chinium hydrochlorium* (*Chinini Hydrochloras*)

日本藥局方曰鹽酸規尼涅ハ光澤ヲ有スル白色鍼狀ノ結晶ニシテ氣中ニ於テ變化セス味甚タ苦ク中性或ハ極メテ弱キ亞爾加里性ノ反應ヲ徵シ三十四分ノ水、三分ノ酒精及九分ノ嘔囉仿謨ニ溶解ス其水溶液ニ稀硫酸ヲ加フレハ藍色ノ螢石彩ヲ現ハス

本品ノ水溶液ニ格魯兒水ヲ和シ安母尼亞水ヲ滴加スレハ綠色ヲ呈ス又硝酸銀ヲ和スレハ稀硝酸ニ溶解セサル

白堊ヲ生ス

本品ヲ白金板上ニ熱灼スレハ固性物ヲ殘留セスシテ燃化スヘシ又本品ハ硫酸ニハ全ク或ハ殆ト無色ニ溶解シ硝酸ニハ赤色ヲ呈セスシテ溶解スヘシ又石灰乳ニ和シテ煮沸スルニ安母尼亞ノ蒸氣ヲ發ス可カラス

本品ノ水溶液〔100〕ニ稀硫酸ヲ加フルモ溷濁セス又硝酸拔留膜ヲ加フルモ蛋白石濁ヲ起スニ過ク可カラス
本品ニ「グラム」ニ水二十立方「センチメートル」ヲ和シ温ヲ與ヘテ溶解スルニ至リ其溶液ニ硫酸那篤留膜ノ粉末一「グラム」ヲ投シ茲ニ生シタル糜粥狀塊ヲ攪和シツ、重湯煎上ニ二三分間温メタル後大約十五度ニ於テ一時間放置シテ濾過シ其濾液五立方「センチメートル」ヲ取り之ニ安母尼亞水七・五立方「センチメートル」ヲ加ヘテ輕ク搖動スルニ初メ生シタル溷濁更ニ溶解シテ澄明ノ液トナルヘシ

本品ハ百度ニ於テ乾燥シ復タ重量ヲ變セサルニ至ル其減失百分ニ付キ九分ニ過ク可カラス」トアリ日本藥局註解曰鹽酸規尼涅ハ絹糸様ノ光澤ヲ帶ヘル白色針狀ノ結晶ニシテ氣中ニ變化セズ七十度乃至七十五度ニ於テ熔融ス其少量ニ製出セルモノハ細微ナル針狀ノ結晶ヨリナレル純白色ノ粉末ヲ爲ス反應ハ中性或ハ極メテ微ニ亞爾加里性ヲ呈シ味甚ダ苦シ十五度ノ温ニ於ケル水三十四分、沸湯二分其他酒精三分及嚼囉仿膜九分ニ溶解ス其水溶液ハ螢石彩ヲ呈セサレモ(硫酸規尼涅トノ區別)之ニ稀硫酸一滴ヲ加フレバ藍色ノ螢石彩ヲ現ハスニ至ル

(實性反應) 本品ノ水溶液ニ格魯兒水ヲ和シ安母尼亞ヲ滴加スレバ綠色ヲ呈ス又硝酸銀ヲ和スレバ稀硝酸ニ溶解セサル白堊ヲ生ス」格魯爾水及安母尼亞ニ由テ生スル綠色ハ規尼涅ニ固有スル反應即チ「タルレイヲヒン」反應(Thaliochrominreaction)ニシテ稀硝酸ニ由テ生スル沈澱ハ格魯兒銀(AgCl)トス (以下次號)

○黑岩恒氏採集琉球植物 (承前)

牧野富太郎

Mr. Hisashi Kuroiwa's Collections of Irikiu Plants.

(Continued from No. 103.) By Tomitarô Makino.

(41) *Asclepias curassavica* Linn.

たうわた (すいめのをこけ科) 高サ二三尺莖直立シ圓柱形ナリ葉ハ對生シ長橢圓狀披針形ニシテ上下狹尖、全邊、平滑且ツ無毛ナリ短柄アリ柄ヲ合セテ葉長約ソ四五寸許アリ花梗ハ葉腋ニ出デ、直上シ細長ニシテ葉ヨリ短シ多數ノ亞梗繖形ヲ成シ數片ノ小形總苞ヲ具フ梗ト亞梗ト共ニ短毛ヲ布ク萼五數ニシテ細小、銳頭披針形ヲ成ス花冠黃赤色、五深裂、各片長橢圓形ニシテ小凹點アル鈍頭ヲ成シ花開キテ後背反ス雄蕊柱ハ下部柄ヲ成シ藥胞ハ五個ニシテ略、長方形ヲ成シ其兩縁ハ隣者ノ邊縁ト相觸接ノ外面ニ向ヒ稜ヲ成ス中部以下ハ其内面囊狀ト成リ中隔アリテ斜メニ二胞ヲ成シ每胞ニ花粉塊一個ヲ容ル上端ハ別ニ略、圓形ノ一片ト成シ前ニ傾キテ柱頭ノ上縁ヲ掩フ花粉塊ハ此ノ如ク藥ノ每胞ニ一個ヅ、ヲ容ル、ルト雖モ其花粉塊ハ同藥ノ者更ニ相關セズノ却テ隣藥ノ者ト一對ヲ成シ小柄アリテ之レヲ連結シ柄本ノ一腺體ヲ以テ之レヲ柱頭ノ面ニ懸ク故ニ花粉塊ハ柱頭ノ側面ニ懸垂ノ藥胞ノ裏ニ其塊部ヲ挿入セルノ狀ヲ呈セリ而シテ其塊部ハ卵狀長橢圓形ニシテ壓扁シ其色鮮黃ナリ雄蕊ノ附飾物ハ黃色ニシテ藥胞ノ基部ヨリ出デ五個相匝リ以テ藥胞ノ周圍ヲ壓シ各、卵形ノ帽狀ヲ成シ爪狀體、帽中ヨリ抽テ上ニ出デ内方ニ彎曲シテ以テ柱頭ノ上ニ向ヘリ子房ハ細小ニシテ二個接在シ略、卵形ヲ成シ花柱ハ細長、柱頭ハ大形ニシテ上端廣キ凹面ヲ成ス ○宮古島 (明治廿五年八月廿八日黑岩氏採、第一回ノ第三十七號) ○本品ハ今ハ最モ廣ク地球上ノ熱帶地ニ散布ノ以テ天然生

ノ如キ狀ヲ呈スト雖凡其原產地ハ「チャマイカ」、「キューバ」、「カリビアン」群島ノ西印度地方并ニ「メキシコ」、「ブラジル」是ナリ

(42) *Vitis lanata* Roxb. (= *Vitis Labrusca* Linn. var. *γ. lanata* Regel; *Vitis indica* Hook. et Arn. non Linn.; *Vitis wugosa* Wall. pro parte; *Vitis cordifolia* Roth non Michx.; *Vitis Heyneana* Roem. et Schult.; *Vitis succisa* Seem.)

りうきょうかねぶ(松村任三氏) (ぶだう科) 藤本ニシテ嫩莖、嫩卷鬚並ニ葉ニ在テハ白褐色ノ綿毛ヲ密布ス莖ハ圓柱形、卷鬚ハ葉ト對生シ而シテ葉ヨリ短ク細長強健ナリ、兩岐シ其一方ノ者上部更ニ兩岐セリ葉ハ心臟狀廣卵形ニシテ底部廣ク頂端尖レリ極メテ淺ク三裂シ邊緣粗齒ヲナス大ナルモノ長廣凡ソ四寸餘、上面ハ綿毛疎布スト雖凡下面ハ殊ニ大ニ密布ス葉柄ハ葉長ヨリ短シ、予ノ標品ニハ花果共ニ之レヲ有セズ ○石垣島四箇村(明治廿五年八月九日黑岩恒氏採、第一回ノ第三十八號) ○該品ノ産區ハ其他英領印度、緬甸、香港並ニ臺灣是ナリ

(43) *Sida rhombifolia* Linn. (= *Sida chinensis* Retz; *Sida philippica* DC.; *Sida canariensis* Willd.; *Sida compressa* Wall.; *Sida scabrifolia* Wight et Arn.; *Sida rhombifolia* var. *scabrifolia* M. T. Mast.; *Sida retusa* Linn.; *Sida rhombifolia* var. *retusa* M. T. Mast.; *Sida rhomboides* Roxb.; *Sida rhombifolia* var. *rhomboides* M. T. Mast.; *Sida obovata* Wall.; *Sida rhombifolia* var. *obovata* M. T. Mast.; *Sida microphylla* Cav.; *Sida rhombifolia* var. *microphylla* M. T. Mast.; *Sida orientalis* Cav.; *Sida corymbosa* Wall.)

さんごじくわ (田代安定氏) (せにあふひ科) 命根瘠長ニシ地中ニ直下ス莖ハ地上ニ分岐ノ斜上シヤ、擴

散セリ而シテ莖面星芒毛ヲ疎布ス葉ハ互生シ卵狀長楕圓形ニシテ粗齒牙縁ヲ成シ上面ハ疎々星芒毛ヲ散布スト

雖モ下面ハ密ニ之ヲ被リテ以テ爲メニ白色ヲ呈セリ短キ葉柄アリ托葉ハ細鍼狀ヲ成ス花ハ寧ロ小形ニシテ梗

頂ニ孤在ス梗ハ葉腋ニ出デ、獨在シ其長サ略、葉長ニ半バズ細長眞直ニシテ上部ニ一節アリ而シテ星芒狀ノ毛

ヲ有ス萼ハ杯狀ヲ成シ十大脈縱通シ五脊稜ヲ成ス中部ヨリ五裂シ裂片銃頭三角形ト成リ外面ニ毛ヲ有ス而

シテ宿存ス花瓣五片ニシテ萼ヨリ長ク略、楔形ヲ成シテ上端ノ一隅尖出ス下部ハ莖柱ノ基部ト連合シ黃色ナリ

莖柱ハ直立シ頂端多裂シテ三十餘ノ絲狀ト成リ以テ各、腎形ノ葯ヲ載ク花柱ハ下部合體スト雖モ直ニ相分

レ絲狀ト成リ上部ニ至ルニ從ヒヤ、放大シ雄莖柱ヨリ尙上ニ抽キテ反曲シ端末小頭狀ト成リテ短毛ヲ有セ

リ而シテ其數七個ヲ算ス(予ノ標品ニ就テ言フ)子房ハ卵圓形ニシテ毛ヲ有ス果實ハ宿存萼ノ内部ニ坐シ七數ノ

心皮環列シ熟時ニ至レバ各心皮中軸ヨリ離レテ且開裂シ種子ヲ慘ス暗色ニシテ壁膜薄シ頂ニ二芒刺ヲ戴キ心

皮背裂ノ二分セバ其兩半各、此芒刺ノ一ヲ分取ス種子ハ每胞一顆ヲ藏シ其色黒褐ナリ ○石垣島四箇村(明

治廿五年八月九日黒岩恒氏探、第一回ノ第三十九號) ○地球上熱帶及ビ亞熱帶ノ諸國ニ多キ普通品ナリ

○予ノ標品ハ G. Bentham 氏著 Flora hongkongensis p. 321 ナシ Sida rhombifolia Lam. ノ條下ニ掲グ

ル所ノ説文中 “sometimes much branched, very spreading, with oblong or almost ovate leaves, scarcely

an inch long, and very white underneath.” ト記シタル品ト一致シ而シテ同説文中 “tall and erect, with oblong-

lanceolate leaves 3 in. long, green above, and only slightly hoary underneath.” ト記セル品ト一致セス元

來本種ハ其形狀ニ變態多ク Hooker 氏ノ Flora of British India ニ於テ Maxwell T. Masters 氏之レヲ五

變種ニ區別セシト雖凡然凡其中間ニ立チテ甲乙兩變種ヲ連絡セル品アリテ其分別極メテ截然タルモノニ非ラズト言ヘリ予ハ今予ノ標品ヲ取テ其五變種中ノ就レニモ之ヲ充ツルヲ能ハズ何トナレバ同標品ハ之レヲ決ス可キ充分ノ標徴ヲ具ヘタル善良完全ノモノニ非ザレバナリ

◎ 雜 錄

○ 奥羽ノ旅草

H. SHIRASAWA.

今歲夏期暇ヲ得テ奥羽地方森林植物調査ノ途ニ上ル道ニ見タルトコロノモノ、得タルトコロノモノ今爰ニ記セン標題ニハ旅草トアレト凡生ノ本職ハ草ニアラズシテ木ナルヲ以テ主ニ木本植物ニ就キテナリ

上野午後二時發青森直行ノ瀛車ニ乗ル時ハ東北ノ大都會仙臺ハ中夜ニ通過シ陸中國一ノ關ニ至リテ天明ク四面ノ風光植物分布ノ情况爰ニ至リテ大ニ革マリ東京附近トハ異ナルトコロアルヲ觀ル此地方ヨリ以北往々停車場ニテ米國種苹果ヲ賣ル本場ダケアリテ停車場ノ賣物トシテハ價モ較安ク味モ亦美ナリ山岳林ノ大部ヲ占有スルモノハ赤松ニシテ是等ハ陸中ヲ通シテ陸奥ニ至

ル

陸奥國野邊地近傍ニ於テ見タル樹木ハ

みずから かしわ くり やまならし ほくのき
のりのき けんぼなし あははだ みつばかへで

此地方植物分布ノ狀況ハ恰モ日光中禪寺近傍ニ似タリ、

● 黒松帶ノ名稱

黒松ハ野邊地近傍海岸ヨリ其沿岸ヲ通シテ秋田縣ノ海岸ニ至ル斯ノ如ク其分布ノ區域廣ク且ツ海岸ニノミ繁殖スルヲ見レハ此種ノ分布ニ最大影響ヲ有スルモノハ温度ニアラズシテ主トシテ海岸ノ氣候及地質ニアルガ如シ是故ニ大日本植物帶調査報告ニ常綠櫟類ノ繁殖スル地方ニ第一帶即黒松帶ノ名稱ヲ附シタルハ其當ヲ得

タルモノニアラザルガ如シ予ハ寧ロ常綠潤葉樹帶ノ名ヲ用フル方宜シキヲ考フモノナリ然レドモ若シ強ヒテ一樹種ノ名ヲ用キント欲セハ夫レ樟樹カ是此樹木ハ氣候ノ變遷ニ最感覺強キモノナレバナリ

●青森ノ「あすなる」

青森縣ハ有名ナル「あすなる」[Thuya dolabrata, L.] (同地方言「ひのき」往々檜ノ字ヲ用フ)ノ產地ニシテ建築用材柱棟、梁板、屋根板、戸障子類ニ至ルマデ盡ク之レヲ用井ザルナシ而シテ其最良質ノモノハ北津輕ノ官林ニ生ズ、下北郡恐山附近ニモ亦良材ヲ産ス此地幼木ノ發育法ハ東京近傍關西地方ニ於テ決シテ觀サルトコロナリ即同地方ニハ冬期積雪多キガ故ニ其母樹ノ下枝ハ之レガ爲メニ地上ニ壓着セラレ此上ヲ土壤其他腐朽セル落葉ガ被フテ數年ノ後ニハ其部ヨリ根ヲ出タス而シテ其根部ノ發育盛ナルニ從フテ其枝ノ上部モ愈生長熾ニシテ直立シ遂ニハ其最初ノ母樹トノ連絡斷絶シテ立派ナル一己ノ稚木トナルナリ同地方ノ森林ハ多ク此

等ノ稚木ヨリ成レルモノニシテ種子ヨリ發育セル稚木ハ却ツテ少ナシトス

●秋田ノ「杉」

青森縣弘前市ヨリ奥羽街道ヲ通シテ秋田縣ニ至ル時ハ漸次此「あすなる」ヲ減シテ杉林遂テ増加シ兩縣界近傍ハ實ニ本邦否世界ニ有名ナル杉ノ產地也而シテ其最良場處ニ至テハ直徑僅カ二尺五寸許ニシテ長三十間ニ至ルモノ密ニ森林ヲ爲ス實ニ山中ノ壯觀ナリ是等ノ杉林ハ元來天然生ノモノカ將タ人工栽植ニ據レルモノカハ須ラク吾人森林家ノ研究ス可キ問題ニシテ或ハ又植物學上ヨリモ此樹種ガ本邦南部屋久島ヨリ九州四國本州ヲ通シテ此極端マデ至ルノ情況ハ充分ニ研究スルノ價値アルモノナリ我邦ニテ現時天然下種ニテ杉林ヲ造成シ得ルノ地方アルヲ聞カス而シテ同地方ノ杉林モ亦向後天然下種ニテハ而シテ今日ノ如キ林相ヲ維持シ得ルノ見込ナシ然レ雖モ同地方今日ノ森林ノ形況及ヒ其分布ノ狀態ヲ觀察スル時ハ此樹種ハ本來此地ニ自生シ時

ノ主治者ガ非常ノ注意手入ト嚴重ナル保護ヲ爲シテ以テ今日ニ至ラシメタルモノナルヤ疑ナシ

此ノ如クシテ秋田縣ニハ古來杉林多ク其建築用材ハ一トシテ杉ナラザルハ無シ恰モ青森ニ於ケル「あすなろ」ノ如シ

●やちだも (*Fraxinus mandshurica*, Rupr.)

北海道ニ多ク産スル此樹種ハ亦津輕地方人家ノ周圍ニ多ク栽植セリ一見恰モ東京附近ニテ人家ノ周圍ニ植ユル「シンシユ」(*Alnus glandulosa*, Desf.)ノ如シ八甲田山中谿谷ノ間ニ於テ亦此種ノ野生ヲ見タリ 同地方言「ヤチ」トハ濕地ノ意味ニシテ又 *Fraxinus* 屬ノモノニハ「タモ」ノ語ヲ用フ

●やちやな *Myrica Jale*, var. *tomentosa*.

是亦北海道ニ産スト聞ケルモノ予ハ青森縣下北郡田名部近傍ノ原野ニ於テ之レヲ採集セリ

●「さびた」ハ「のりのさ」ナリ

北海道若シクハ青森地方ヨリ來タルノ旅行者ハ往々屈

曲セル根株ニテ作レル卷煙草用「パイプ」ヲ持チ來タリテ曰ク是彼地ニテ産スル「サビタ」ト稱スル樹ニテ作レリト予ハ最初其何種ノモノタルヲ知ラザリシガ今回始メテ之レ「のりのさ」ナルヲ知レリ其莖ノ節部ニ三個ノ芽痕對立スルハ是レ此種ノ特性

●はまなす

青森秋田ノ海岸多クノはまなす *Rosa rugosa*, Thunb.ヲ生ス當時其花萼膨大紅色ヲ帶ビ恰モ小サキ柘榴ノ如シ婦女子小兒等ハ多ク其内容ノ種實ヲ出タシテ其外部ヲ食フ其味甘酸下北郡田名部街道ニ於テ各斗餘ヲ採集シタル少女ノ群ヲ數度見タリ濱茄子^{ハマナス}ノ名空シカラス

●青森ノ「ウツギ」ハ *Abies Mariesii*, Mast. ナリ

八甲田山中多クノ *Abies Mariesii* ヲ生シ殆シト純林ヲ爲ス此地方一般此種ヲ稱シテとゞまつト謂フ北海道産とゞまつ *Abies Sachalinensis* ト混ス可カラス

●つばき山

陸奥國夏泊崎ノ半嶋ニつばきノ多ク天然生ノ場所アリ

土人つばき山ト稱ス春期開花ノ際遊覽スルモノ多ク此
地方ノ勝地ナリト云フ此地方ニシテ之レアリ是レ亦地
理植物學上注意ス可キノ價値アリ

●青森縣地方ニハ *Betula* 屬ノ種少ナシ

予ノ探檢未タ至ラザル爲メカ予ハ今回ノ行ニ於テ此地
方ニ *Betula* 屬ノ種甚タ少キヲ感セリ野邊地近傍ニ於
テ只一種「しらかば」ヲ觀八甲田山ニ於テ只一種だけか
ばヲ得タルノミ是レ亦輕々看過ス可キモノニアラス

○植物雜俎

松村 任 三

庭園ノ植物

ヒアフギスキセン 鳶尾科ノ草本ニシテ水仙ノ類ニア

ラズ穂ヲ生シテ赤黄色美麗ノ花ヲ開ク根ニ堅キ球アリ

Watsonia angusta, Ker. ナルンシ *Tritonia aurea*,

Pappe. ナリト云フモノアリ

菊科ノ品類例ノ如ク多シ其一ニヲ擧グレバ

ヒメキクイモ 草狀菊芋ニ彷彿タリ根ニ芋アルニアラ

ズ小花冠ニ冠毛ナシ臺盤ニ鱗狀ノ苞アリ放射瓣ニ筒ナ
ク皆雌蕊ヲ具ス總苞ハ葉狀ニシテ外反セズ *Helipopsis*
laevis, Pers. ト稱ス

【バレンギク】 葉ハ「オホハンゴンサウ」ニ似タリ黄色ノ

放射瓣ハ下垂シテ馬簾ノ如シ放射瓣ニ短筒アリ雌蕊ナ
シ小花冠ニ小筒ナク又冠毛ナシ鱗苞ハ舟狀ヲナシテ瘦
果ヲ包ム總苞外反ス之ヲ *Lepachys pinnata*, Torr. et
Gr. トス

【アザミコンギク】 細葉紫花ノ品 *Aster canescens*, Pursh.

ノ名ヲ傳フ米國ノ産

山蘿蔔科ノ品ニ「キバナノマツムシサウ」アリ國産ノ

「マツムシサウ」ニ似テ花淡黄色ナリ *Cephalaria pro-*
cera, Fisch. et Loh. ノ名ヲ傳フ

【サボテンギク】 ト稱スル植物ハ菊ノ如キ花ヲ着ケテ葉

ハ多肉仙人掌ノ觀アリ然レモ菊科ニアラズ仙人掌科ニ
モアラズ蕃杏科ニ屬ス黄花ヲ開ク *Mesembryanthemum*
grandiflorum, Haw. ナルガ如シ三百ノ多品中能ク之ヲ

識別スルヲ得ズ

ヒゴタイサイコ ハ平江帶柴胡ト書ク菊科ノ觀アル繖

形科ノ品ナリ淡青碧色ノ小花ヲ攢簇スルヲ菊花頭ノ如

ク總苞及葉ニ刺アリテ人ヲ刺ス莖葉モ稍々青碧色ヲ帶

ブ奇品ナリ *Eryngium giganteum*, M. B. ノ名ヲ傳フ

未タ其種名ノ當否ヲ知ラズ

茄科ニ *サキブトアカナス* アリ *Solanum pyriforme*,

Poir. 是レナリ草狀六月柿ニ似テ實ハ西洋梨ノ形ニ類

ス

蕃椒ノ一品 *フデタウガラシ* ト云フアリ實ハ上ニ向ヒ

圓錐狀ニシテ先尖ル熟シテ紅色 *Capsicum annuum*,

L. var. *acuminatum*, Fingh. 是レナリ *タカノツメ* モ

之ト同品ナラン

カキタウガラシ アリ實ハ柿ノ形ニ似テ短ク先尖ラス

堅ニ溝アリ熟シテ紅色之ヲ *Capsicum annuum*, L. var.

angulatum, Fingh. トス

ニツクワウタウガラシ アリ漿果ハ長ク下垂シテ頭曲

ル之ヲ *Capsicum longum*, D.C. var. *incrassatum*, Fingh.

トス

ハフリノヒモ ト稱スル一品アリ *Capsicum longum*,

D.C. var. *ceratoides*, Fingh. 是レナリ或人ハ之ヲ日光

「*タウガラシ*」ト云フ

ハリナスビ アリ莖葉共ニ白色ノ大刺アリ花ハ二三相

聚リテ短房狀ヲ呈ス花冠白色其裂片ハ披針狀ニシテ長

シ漿果ハ白色ニシテ縁紋アリ頗ル美ナリ葉ハ五裂狀ヲ

呈ス之ヲ *Solanum* (Sect. *Leptostemonum*) トス

marginatum, L. *acutissimum*, Jacq. 等ニ近似ス尙

ホ吟味ノ一

荳科ニ *ムラサキツルマメ* アリ三葉一帯ノ蔓草、葉腋

ニ長梗ヲ抽テ紫色ノ荳花ヲ綴ル *Kennedya* (Sect. *Phy-*

solobium, Heg.) *comphiforia* ノ名ヲ傳フ濠洲ノ産

馬鞭草科ニ *ハリマツリ* アリ灌木ナリ梢頭葉腋ニ花梗

ヲ抽テ淡碧紫色ノ花數個ヲ綴ル之ヲ *Duranta Plum-*

ieri, Jacq. トス莖ニ刺アルニ由リ針茉莉ノ名ヲ附ス

苋科中 **アラビユ** アリ單性花ニシテ雄花ニ四雄蕊アリ

葯黃色雌花ニ三柱アリ瘦果平滑ナリ苞ハ花蓋ヨリ長ク

先刺ノ如ク尖ル *Amarantus retroflexus*, L. ナルシ

大戟科中 **ニシキダイゲキ** アリ葉ハ對生シテ有柄、披

針狀ニシテ鋸齒アリ花叢ニ接近ノ葉ハ白色又ハ紅色ヲ

帶ブ之ヲ *Euphorbia dentata*, Michx. トス

Roseda alba, L. ノ名ヲ傳フル木犀草科ノ一品アリ葉

ハ羽裂シ花瓣白色ニシテ細ク頭三裂ス子房稜形ヲ呈シ

頭五裂ス之ヲ **シノブモクセイサウ** ト名付ク

日本自生ノ植物

Acanthopanax japonicum Fr. et Sav.

ヤマウコギ 新稱 岩代國會津湯本 (標品目錄ニ登

録セル者) 越後出湯村、相州箱根、日光中禪寺、駒場農

科大學植物園ニ栽植ノ者葉面ニ小刺アリ 葉面ノ小刺ハ此品ニモ限ラズ 葉縁

ノ鋸齒狀尋常ノ「ウコギ」ト大ニ趣ヲ異ニシ粗且深クシ

テ齒頭内ニ向ハズ小葉ハ倒卵狀ノモノ多クノ披針狀ノ

モノ鮮シ種類ヲ増加スルヲ欲セサレバ *Acanthopanax*

spinosum Miq. var. *japonicum* (Fr. et Sav.) Matsumura.

トシテモ可ナラン

Rhamnus virgata, Roxb.

クロツバラ 陸奥福岡、武州片山、(標品目錄ニ)ク

ロウメモドキ」トス)同戶田原、同小佛峠、信州戶隱山、

同和田峠、駒場農科大學植物園外ニ一株アリ

葉ハ十分熟シテ長楕圓ニシテ頗ル大ク花ハ萼片尖

銳ナルト花柱長キトヲ以テ「クロウメモドキ」ト別

ル var. *syvestris* Maxim. ナルヤ否ハ未タ分明ナ

ラズ

Thalidantha dubia, Bunge.

此蒟蒻科植物ハ大渡忠太郎氏ガ信州分追ニ於テ發見セ

ル者清國ニテ王瓜ト稱スルハ此ナリ 本邦從來王瓜ヲ

「カラスウリ」ニ充タルハ此品ナキニ由レルノミ葉ハ廣

橢圓形ニシテ有柄基ハ心臟形ヲ呈シ邊緣微ニ鋸齒アリ

黃花ヲ開ク頗ル大ナリ蓋シ追分邊ハ西洋人ノ避暑地ナ

レバ清國種ノ墜シナランカ **オホスツメウリ** ノ和名頗

ル之ニ適スルガ如シ

○絲條書屋植物雜記 (其二十)

牧野富太郎

●日本ニ産スル *Thalictrum alpinum* Linn.

本邦ノ地ニ於テ始メテ *Thalictrum alpinum* Linn.ヲ
採集シタルハ陸中ノ人須川長之助氏ニシテ即チ明治廿年
甲斐國八ヶ嶽ニ於テセリ同人ハ時ニ露國 Maximowicz
氏ノ爲メニ本邦植物ヲ採集セルノ際ナリシヲ以テ之
レガ一個ヲ同氏ニ送リ同氏ハ翌年(西曆一千八百八十
八年)之レヲ同國出版ノ *Mélanges biologiques* 第十二
卷第七百十四頁ニ於テ世ニ公布シタリ予頃日須川長之
助氏ノ採集セル八ヶ嶽産ノ標品ヲ見ルヲ得テ之ヲ歐洲
産ト比較スルニ分葉ノ底部ハ楔形更ニ甚ダシク分葉頭
ノ裂耳ハ其頭端殊ニ圓ク葉裏ノ脈ハ其隆起著シカラズ
花梗ハ更ニ纖長ニシテ其殊ニ異ナルノ點ハ子房ニ小柄ヲ
有スルコト是ナリ歐産ノ者ニ在テハ其子房無柄ニシテ之

書編ニ探ルモ亦之ヲ實物ニ徴スルモ皆其無柄ナルヲ證
セザルナシ然レ印度「ヒマラヤ」山ノ者其瘦果ニ有柄ノ
者アリ又露國領地産ノ者ニ就テハ心皮狹窄ノ短柄ヲ成
スノ記事アリ由是觀之瘦果ニ小柄ノ有無ハ各地産ノ品
種ニヨリテ相異ルアルガ如シ而シテ日本産ノ者ニ在テハ
子房(瘦果ニ非ラズ)已ニ明ニ小柄ヲ具ヘ其長サ子房
ノ半長ニ超ヘ以テ歐洲産ノ普通品トハ自ラ其間ニ徑庭
アルヲ知ル、和名ヲひめからまつさうト云フ先キニ矢
田部良吉氏ノ命ゼラレシ所ナリ

● *Dryas octopetala* Linn. 日本ニ産ス

Dryas octopetala Linn. は *Sibbaldia* 科ニ屬シ歐羅巴、
亞細亞及ビ北米洲ノ寒帶地并ニ該三洲温帶地ノ諸高山
ニ産ス本邦ニ在テハ之ヲ越中立山ニ見ル然レ固ヨリ稀
品ニ屬ス明治廿二年八月須川長之助氏ノ採收スル所ニ
シテ予ハ今之レヲ *ちゅうのすけさう* (長之助草) ト命名シ
以テ發見者ノ名ヲ永ク後世ニ傳ヘント欲ス
今其形狀ノ梗概ヲ述ベン莖ハ木質ニシテ枝ヲ分チ横臥ス

枝端簇葉ヲ著ケ每株平布セル座叢ヲ成ス葉ハ軟毛アル柄ヲ有シ托葉ハ柄本ニ衍附ノ尖端分離ス葉面ハ楕圓或ハ長楕圓形ニシテ四五分許ノ長アリ鈍頭圓底ニシテ邊縁四乃至七許ノ裂痕深キ鈍齒牙ヲ整列ス葉脈羽狀ニシテ排列正シク殆ド無毛ナル葉ノ上面ハ其脈ニ沿フテ線溝ヲ印セリ下面ハ綿毛ヲ平布シ其色白シ花梗單一ニシテ直立シ高サ一二寸アリ綿毛ヲ被リ毛間交フルニ疎々粗毛ヲ以テシ前方時ニ狹長細形ノ一苞ヲ著クルヲアリ萼片八數狹長ニシテ花弁ヨリ短ク且ツ毛ヲ有ス花弁開展シ亦八片ニシテ鈍頭長楕圓形ヲ成シ白色ナリ雄蕊多數花弁ヨリ短ク瘦果ハ軟毛多キ長尾ヲ曳ク

● 十有七種植物ノ產地

とりがたはんしやうづる。あをばこへ。くちなしぐさ。

こへびのぼらさ (Berberis Sieboldi Max.)。共ニ伊勢菰

野山〇ひうがみづき。伊勢菰野山并ニ丹後宮津港杉山

峯〇ひなすげ (Carex grallatoria Maxim.)。ひめじんこ

さく。共ニ近江大川原村高野岳〇おほあぶのめ。丹波

雜 錄

小守村〇こまんば (Waldsteinia sibirica Turcz.)。くろたきかつら (Nastium japonicum Makino-OLACINE-
き)。但馬丹土村四ヶノ山〇てつかへで。因幡甲地村小吹山〇ぢひかで (Cassiope stellariane DC.)。越中立山〇じんぬふすいば。なでしこ一種。おやまのふんぞう。共ニ越中三吉山〇なんざんこぞくら。加賀白山三田ヶ原〇やうらくつゝへ (Menziesia purpurea Maxim.)。加賀別山^{峯ヨリ} 貳町下

右ハ曾テ須川長之助氏ノ採集セシ所ニシテ同人調製ノ標品帖三冊ヨリ鈔出シタルモノニ係レリ而シテ此三冊ハ渡邊協氏が先キニ同人ヨリ貰ヒ來リタルモノナリ

● 日本産 BULBOSTYLIS 屬

Bulbostylis ノ屬群ハかやつりぐさ科ニ屬ス始メ Kunth 氏ノ設クル所ニ係リ同氏著 Enumeratio plantarum 第二卷中ニ之レヲ掲ゲ以テ Isolepis 屬中一群ノ植物ヲ此區ニ配セリ而シテ其標徴ハ花柱ノ基部縮緊ノ果粒ト節合スルニヨリテムとる屬 Scirpus ト自ラ相分レ又花後花

柱落ルノ後果粒ノ頭ニ一ノ疣顆ヲ遺スニヨリテてんつ
 屬 *Fimbristylis* ト相分ツヲ得ルニ○本邦此屬ノ植物
 ヲ産スルニ一ニ曰ク *Bulbostylis barbata Kunth*
 (= *Scirpus barbatus* Roth., *Isolepis barbata* R. Br.;
Fimbristylis barbata Benth.) 和名ヲはたがやト云フ、
 二ニ曰ク *Bulbostylis capillaris Kunth*. 此種ニ屬
 スル者本邦ニ二變種アリ一ヲ *Bulbostylis capillaris*
 var. *trifida* Clarke. (*Isolepis trifida* Nees; *Isolepis*
capillaris Roem. et Sch. var. *trifida* Miq.) ト云フ之ハ
 ヲ云とはなびてんつと稱ス繖梗散出シ宛モひめてん
 つと云ノ如シ一ヲ *Bulbostylis capillaris* var. *capitata*
 (Miq.) Makino. (= *Isolepis capillaris* Roem. et Sch.
 var. *capitata* Miq.) ト云フ云と云と稱ス小穗相
 集リテ頭狀ヲ成シはたがやノ態アリ○ *Miquel* 氏著
Annales Musei Botanici Lugduno-Batavi 第二卷第百四
 十五頁ニ収録スル所ノ *Fimbristylis capillacea Hochst.*
in Steud. var. *β. japonica* Miq. 同書第百四十三頁ニ

出ヅル所ノ *Isolepis capillaris* Roem. et Schult. var.
trifida (Nees) Miq. ト全ク同品ニテ即チ上ノ云とはな
 びてんつと云はナリ本品其學名ヲ異ニシ同氏ノ書ニ重出
 セルナリ

● びんばかづらノ學名

びんばかづらハ又やぶがらシト云ヒふだう科ノ極メテ
 普通品ナリ今其學名ヲ稽フルニ *Thunberg* 氏著 *Flora*
japonica p. 104. ニ記述セル *Vitis japonica Thunb.* ニ相當
 ス別名之ハ *Cissus japonica Willd.* ト云フ *Thunberg*
 氏ノ同書別ニ *Vitis pentaphylla Thunb.* ナル者ヲ載ス
 同氏其花狀ヲ述ズルニ “*Flores racemosi. Racemi axilla-*
res folio longiores, flosculis remotis minimis.” ト云フ
 以テやぶがらシト異ナルヲ見ル可シウリ科ニあまぢ
 づるアリ本品即チ是ナリ *Thunberg* 氏偶々誤テ之ハ
 ヲ *Vitis* 屬ニ入レシノミ故ニ此名ハあまぢづる即
 チ *Gynostemma pedatum Blume* (= *Zanonia cissoides*
Wall.; *Gynostemma cissoides* Fr. et Sav.) ノ異名トナス

ベキナリ先輩既ニ定説アリト雖本邦ニ在テハ尙往々此認誤ヲ襲グモノアリ故ニ此ニ之ヲ明ニスルヲ爾リ

○新著「レフ、ラート」(Referate.)

Johann Bachmann, Einfluss der äusseren Bedingungen auf die Sporenbildung von *Thamnidium elegans* Link (Botanische Zeitung. I. Abth. Heft. 1895.)

往年バーゼル大學植物學教授クレープス氏ハ *Vaucheria sessilis* ノ生理的研究ヲ爲シ該水藻ノ生殖作用ハ外界ノ狀態ヲ變異スルヲニヨリテ容易ニ爲サシムルヲ得ルヲ知レリ然ルニ菌類ニ於テモ又外界ノ狀態ニヨリテ生殖部ニ種々ノ變化ヲ來タスノ理ハ當然ノコニシテ殊ニ *Thamnidium elegans* ノ如キ孢子着生ノ狀態種々アルモノニ於テハ必ズヤ其原因タルモノナクンバアラズ著者ハ該菌ヲ種々ノ培養基ニ培生シ且ツ養液ノ稠度、外界ノ濕度、溫度、光線等種々ノ原力フハクトルニ對シテ實驗ヲ爲セリ其結果ニヨレバ該菌ノ外形殊ニ孢子着生ノ

狀態、孢子ノ形狀、大小等ハ主トシテ養液又ハ養料ノ化學的成分ニ關スルヲ知レリ、即チ多量ノ含窒物、少量ノ炭水素抱合物及ビ脂肪トニテ成レル養液中ニ於テハ一種ノ形態(擔子菌絲ノ甚シク分歧シ且ツ子囊ニ少數ノ孢子ヲ容ル、モノ)ヲ生シ又之ニ反シテ後者ノ養分其大半ヲ占ムルキハ他種ノ形態(擔子菌ノ分歧比較的ニ少ク且ツ子囊ニ數多ノ孢子ヲ有スルモノ)ヲ生ズルガ如シ此ノ如ク種々ノ溶液又ハ物質ヲ用ヒテ培養ヲ爲シ該菌ニ五種ノ異ナレル形態ヲ生ゼシムルヲ認メタリ(子囊ノ大小、孢子ノ大小、數、擔子菌絲ノ分歧ノ度、主軸菌絲ノ頂端ニ孢子ノ有無等)或ハ又培養基ノ性質如何ニヨリテハ全ク生殖部ノ發生ヲ止メシムルコアリ、溫度ハ攝氏二十七度尤モ適應シ生長迅速ナリ、三十一度以上ニ至レバ孢子ノ發生機能ヲ失フ、日光ハ孢子發生ニ影響ナク、向光性ハ *Mucor Mucedo* ニ於ケルヨリモ弱シ

Miyoshi

Otto V. Darbishire, Kritische Bemerkungen über

das „Mikrogonidium.“ (Hedwigia Bd. XXXIV Heft 4. 1895.)

今ヨリ十七年前千八百七十九年地衣共生説ノ争ヒ猶ホ盛ナリシ頃ミンクス氏ハ有名ナル「ミクロゴニヂア」ノ説 („Mikrogonidium“) ヲ出シ地衣ニハ一種特殊ナル體アリ以テ該植物ヲ菌類ヨリ區別スルノ確徴トセリ、即チ今一ノ地衣體ノ截面ヲ水ニ浸シ此中ヘ加里ノ濃液 (三三%ニ至ル) 並ニ稀薄液ヲ注キ然ル後ニ水ニテ洗除シ稀薄ナル硫酸ニテ浸シ此中ニ四十五分乃至一時間入レ置キ最後ニテ水ニテ洗ヒ「ヨート、ヨードカリ」ニテ染ムレバ地衣ノ絲狀體ノ内部ニ一種綠色素ヲ有セル小顆粒若干ヲ認メ得ベシ、是レ即チ地衣體ニ固有ナル者ニシテ菌絲ニハ絶ヘテ見ザルモノナリトミンクス氏ハ氏ノ前記ノ著述中ニ於テ該「ミクロゴニヂア」ノ發生ヨリ綠顆體ヲ生ズルニ至ルノ形狀ヲ詳論セリ當時數多ノ地衣學者ハ米國ノタッカーマン氏ヲ主トシゲンフノミラー氏其他何ツレモミンクス氏ノ説ヲ喜ビミユヴェン

デナー氏ノ共生説ニ反對スル一大証據ヲ得タリトナセリ、爾後ミンクス氏ノ該體即チ「ミクロゴニヂア」ニ就テハ植物學者ノ之ヲ顯微鏡的ニ證明セルモノナク又之ヲ充分ニ非駁セルモノアラズ著者ハキール大學所藏ノ有名ナルラーベンフ^{ホル}ルス^ト氏ノ一大地衣標品集ニツキテ多クノ地衣ヲ檢シ該「ミクロゴニヂア」ノ存在如何ヲ檢セリ氏ノ研究ノ結果ニヨレバ現今製造ノ最良顯微鏡ヲ用ヒ高度ニ廓大シテ檢スルモミンクス氏ノ所謂「ミクロゴニヂア」ナルモノヲ發見スル能ハズ蓋シミンクス氏ノ爲セル方法ノ如ク強キ「アルカリ」又ハ酸ニテ「プレバレート」ヲ浸スルハ原形質ノ造構ニ變狀ヲ起シ種々ノ異看ヲ呈スルハ恠ムニ足ラズ故ニ此ノ如キ「プレバレート」ニテ認メ得タルモノヲ以テ之ヲ一般ニ論ズルルハ大ナル過謬ヲ至スハ明ナリトス故ニ著者ハ地衣體ノ截面ニ何ツレノ試液ヲモ用ヒズシテ有リノマ、ニテ檢シタリ原形質内ニ數多ノ顆粒狀ノ球體ヲ見且ツ甚シク光線ヲ屈折スルモノアルハ著者ガ屢、地衣ノ絲

状態ニ於テ認ムル處ニテ時トシテハ少シク綠色ヲ帶ブ
 ルヲアリコレ蓋シミンクス氏ノ「ミクロゴニデア」ト爲
 セルモノナルベケレモ其實、單ニ原形質内一種ノ造構
 ニ過ギズシテクラトー氏ノ所謂ユル「フエソードン」ノ
 類ナラン、且又該體ガ淡綠色ヲ帶ブルモ敢テ奇トスル
 ニ足ラズ菌絲ノ原形質内ノ綠顆體ニ淡綠色アルハ屢、
 見ル所ナリ、畢竟ミンクス氏ノ所謂ユル「ミクロゴニ
 デア」ナルモノハ如何ナル最良ノ高度鏡ニテモ見出ス
 一能ハス况ンヤ亦該體ヨリシテ綠顆體即チ「ゴニデア」
 (Gonidium)ノ發生等ヲ認ムルノ理アラシヤ、要スルニ
 ミンクス氏ノ研究ハ實驗ノ方法ヲ誤リ正確ナラザルハ
 勿論、徹頭徹尾、空想ニヨリテ書キ出ダセル一種ノ奇
 說ニシテ現今、學問進歩ノ點ヨリ見レバ單ニ歴史上ノ
 興味アルニ過ギザルナリ、

Miyoshi.

Hans Molisch, Das Phycoeyan, ein krystallisirbarer
 Eiweisskörper. (Botanische Zeitung, Originalabhandl-
 ung. Heft. VI. 1895.)

著者ハ曩ニ (Botanische Zeitung 1894) 藻紅素 (Phyco-
 erythrin) 即チ紅藻 (Florideen)ノ色素ヲ研究シ其結晶體
 ヲ得テ化學的性質ヲ檢シ該體ガ蛋白質ニ屬スルヲ知レ
 リ爾後著者ハ同様ノ研究ヲ藻靑素 (Phycoeyan)ニ及ボシ
 其結果ヲ報セリ氏ガ研究ノ材料ニ供セル水藻ハ顛藻ノ
 一種ナル *Oscillaria leptotricha* Kützingerニシテ新鮮ナル
 該藻ノ一定量ヲ採リ之ヲ數滴ノ硫化炭素溶液ニテ速ニ
 死セシメ一日間其儘少量ノ水ヲ盛レル器中ニ貯ヘ置ケ
 リ後該溶液ハ藍色トナリ反射光線ニ對シテ盛ニ「カル
 ミン」紅色ヲ呈セリ、即チ之ヲ濾過シ暗處ニ於テ徐々
 ニ水分ヲ蒸散セシムルニ粉狀ノ色素ヲ得タレモ結晶體
 ヲ得ルヲナク又「アルコール」ヲ以テ沈澱ヲ得ントスレ
 ハ色素ヲ變質スルニ至レリ、故ニ著者ハ氏ガ前記ノ藻
 紅素ノ實驗ニ用ヒタルト同方即チ少量ノ硫酸「アムモ
 ニア」ヲ以テ該液ニ混シ暗處ニ於テ徐々ニ水分ヲ發散
 セシメタリ此方法ニヨリテ藻靑素ハ結晶體トナリテ徐
 々ニ顯ハル、ニ至レリ結晶ノ大サハ五乃至四二「ミユ

「」ニシテ六角形又ハ菱形ヲ爲シ單斜系 (Monoklines System) ニ屬スルガ如シ色ハ美麗ナル眞藍ニシテ角邊ハ稍、透明ナリ一般蛋白質結晶體ニ見ルト同一ノ吸水性ヲ有シ水分ニ逢ヘバ彷彿大シ乾燥スレハ裂割ス、新成セル結晶體ハ水、「グリチエリン」、種々ノ「アルカリ」等ニ溶解シ又無水「アルコール」、「エーテル」、「ベンゾール」、硫化炭素、稀薄酸類ニ溶解セズ、純硫酸ニハ直ニ溶解シ、通常純鹽酸ニ逢ヘハ分解シテ泡沫狀トナリ硝酸ハ之ヲ紅色ニ染メ後分解ス、又之ニ一々蛋白質ニ對スル反應ヲ試ミルニ何ツレモ適應ス、又其水ニ溶解スベキ「熱湯ニ逢フテ凝結スル」、「アルコール」、「エーテル」、稀薄酸類ニ逢フテ溶解力ヲ失フ、「水分ニ接シテ膨大スル」、「沃度」、「エオシン」、「フクシン」、「ゲンチヤナ」、「ヒオレット」等ノ色液ニテ染着スル「容易ナル」、又腐敗シ易キ、「蛋白質ノ反應ヲ呈スル」等ノ諸事實ヲ總括シテ考フルルハ該結晶體ガ蛋白質ノ性質タルハ疑ナキカ如シ即チ該 *Oscillatoria* ノ *Phycocyan* ハ

蛋白質體ニテ成レルモノト論決スベシ然レモ藻青素ガ即チ該蛋白質體ナルカ但シハ右色素ガ一種ノ蛋白質體ト化學的ニ合結シタルモノナルカ(「ベモグロビン」ニ於ケル如ク)或ハ又前記實驗ニ用ヒタル硫化炭素カ該結晶體ノ形成ニ付テ關係アルモノナルヤ是等ノ諸點ハ著者ガ更ニ疑問ヲ設クル所ニシテ後日研究ノ問題トナセリ、

Miyoshi.

○「バクテリア」ノ説

(前號ノ續キ)

K、D、山人譯

衛生ノ爲メニ用フル水ハ何レノ處ニ在リテモ能ク之ニ注意シテ其不潔ナルモノヲ避クベキハ勿論ノコトトス殊ニ茲ニ新約克ニ於ケル水ノ有様ヲ摘出シテ論ジタルハ他ノ理アルニ非ズ即チ銳敏明智ノ人民モ其習慣ノ感化力ヨリ若シクハ其誤謬ノ性質ヲ知ラザルヨリシテ知ラス、有害危險ノ所爲ヲナシツ、悟ラザルノ一例ヲ示シタルニ過ザルナリ

新約克府内ニ供給セラル、氷ノ不潔危險ナルコトヲ知ル人ニ在リテハ氷販賣人ヲシテ更ニ其氷ヲ切り取ル場處ヲ改良セシメント論ズルモノアリ或ハ製氷會社ヲ設立シテ一旦蒸溜シタル清水ヲ以テ之ヲ製スベシトスルモノアリ然レドモ現今ノ所ニ在リテハ到底氷販賣人ヲシテ急激ノ改良ヲ爲サシメムコト得テ望ムベカラザルガ故ニ法律ノ制定ニ由ルカ若クハ多數ノ消費者更ニ相合シ一定ノ運動ニ由リテ強行セシムルノ外アラザルナリ實ニ市街ノ近邊ニ於ケル空地若クハ水中ニ腐敗セル物質ヲ捨テ去ルガ如キハ眞ニ野蠻ノ所業トイフベシ之ヲ燒失スル器械ハ其効多クシテ且廉ナリ而シテ無智ナラザル人々ハ既ニ之ヲ使用スレドモ一般人ハ殆ンド之ヲ顧ミザルカ如シサレバ都府ニ接近セル川、湖、沼ノ岸ハ之ガ爲メニ敗腐シ去ラル、ノ觀アリ若シ下水ヲシテ川或ハ湖ニ注ギ以テ之ヲ腐敗スルコトナカラシメムガタメ各處ノ下水ヲ破壞スルヲ得バ清潔ニシテ且ツ安全ナル水ト氷トヲ得ルコト當ニ疑ナキナリ何トナレバ川

流湖水ハ其大サト其位置トニ因リテ清潔ナル水ト氷トヲ其近隣ナル都府ニ供給シ得ベキヲ以テナリ

第十三章 結論

業既ニ微細ナル有機物カ疾病ノ原因ヲナスコトヲ知りタル以上ハ須臾モ之ヲ等閑ニ付シ去ルベキモノニアラズ故ニ諸開明國ニ於ケル多數ノ科學者ハ日夜ソノ熱心ト忍耐トヲ以テ是等有毒ナル微菌ノ研究ヲ怠ルコトナシサレハ其究メ得ル所ヲ實地ニ施シ以テ吾人々類ニ恩惠ヲ與ヘンコト亦決シテ遠キニアラザルベシ斯ノ如キ研究ヲナスニハ當ニ非常ノ注意ト手術ノ簡易ナルトニヨリ能ク實行シ得ベキコトヲ要ス然レドモ是レ決シテ容易ノ業トイフベカラズ吾人ガ微菌研究ノ方法ヲ知り得タルハ日尙淺キガ故ニ數多ノ微菌病中既ニ知リ得タルハ實ニ其一小部分タルニ過キズサレバ其知リ得タル所ノモノヲ解明セントシテ屢誤謬ニ陥ルコトアルカ如キハ驚クベキコトニアラズシテ固ヨリ當然ノ事ナリトイフベシ

微菌學ニ從事スル人々ハ往々自己ノ觀察シ得タルコトヲ張大ニシ或ハ其不完全ナル觀察若シクハ其誤解セル事實ヲ以テ世界改革ノ發見ナリト稱スルモノアリ實ニ傍腹痛キ事共ナリ

此學問ノ少シク曙光ヲ放テル今日ノ有様ニ在リテモ既ニ疾病ノ蔓延ヲ防ギ得ル望アルガ如キハヤ、人意ヲ強ウスルニ足ルモノアリサレバソノ有益ナル新發明ノアラシコト亦當ニ足ヲ翹ゲテ待ツベキナリ曾テニユーエングランドニ於テ新思想ノ發スベキコト遠カラサルコトニ就キローエルイヘリシコトアリ曰ク「イグトラシル」樹ノ無名ノ鷺カ竟ニ止ルノ日アルベシ其時コソ多クノ熱心者ハ眼ヲ皿大ニシテ四方ヨリ馳セ來リ更ニ靈鳥ノ羽翼ノ下ナル白キ卵ヲ取ラント爭フナラメ而シテ機到着スル時ハ此卵ヨリ一新世界ヲ孵化セントスト。サテ微菌學ノ社界ニ在リテ誤謬解アリシニモ拘ラズ又曾テ之ヲ研究スル人々ガ其熱心ヲ抛チ去リテ築キシ堅固ナル經驗ノ基礎ヲハ顧ミサルモノ多キニモ拘ラズ吾

人ハ日々新シキ事實ト有力ナル見解トヲ得テ醫學史上
一新时代ヲ造ラントスルニ至レルハ實ニ幸ナリトイフ
ベシ

夫ノ人類社會ニ於ケル一種畏ルベキ傳染病ノ不可思議
ナルコトハ實ニ積年來之ヲ觀破スルコト能ハサリシ所ナ
ルカ今日ハ最早ソノ假面ヲ剝キ取ルコトヲ得タルカ故
ニ再ヒ不可思議ナル敵ト戰フノ思ナク殆ント暗ヨリ明
ニ移リ面ト面ト相接シテ對立スルガ如キ感アリ
十年以前ニ在リテ人若シ實驗室ニ於テ勞症室扶斯熱實
布的里亞虎列刺及其他疾症ノ本體及原因ヲ研究シ得ベ
シト言ヒツランニハ唯放言奇談ナリトシテ之ヲ顧ミル
モノナカリシナランマタ人若シ是等疾病ノ原因ヲナセ
ル物質ヲ恰モ園丁ノ植物ニ於ケルガ如ク栽植培養シ而
シテ其觀察ヨリ得タル所ヲ以テ更ニ其發生スル所ノ疾
病ヲ治療シ若クハ預防スルニ効力アル方法ヲ發明シ得
ベシト言ヒツランニハマタ均シク奇言放語ナリトシテ
顧ルモノナカリシナラン然ルニ今日ニ在リテハ實際之

ヲ行フコトヲ得ルニ至レリ科學ノ功亦大ナルカナ

以上説キ來リタル所ニテ黴菌談ノ終ヲ告ルニ至レリ其梗概ニシテ盡サザル所アルハ唯簡單ナル方法ヲ取リタルニ因レリ而シテ上來述ベシ所ヲ顧ミレバ人ヲシテ心ヲ安カラサラシメマタ不愉快ヲ感セシムルガ如キ大ニ現今人間生活ノ煩雜ニシテ頗ル厭フベキガ如キ觀アリ而シテ更ニ自然ヲシテ心アルモノトスレバマタ甚タ人類ニ不信切ナルヤノ感ヲ起サシムルモノナシトセズ然レドモ多クノ人類ニ取リテハ病ヨリモ死ヨリモ一層心ヲ安ンセシメザル實ニ不愉快ニ且ツ不信切ナルモノアリテ存スルナリ而シテ是等ノモノタルタトへ人々ガ天然ノ法則ノ無情ナルコトヲ知ルモ知ラサルモ早晚必ズ人々ノ注意ヲ惹クニ至ルベキモノナリ

人アリ其四邊ニ有毒ナル黴菌ガ不快ナル慘毒ヲ逞フスルモ恬トシテ更ニ之ヲ顧ミサルモノアリ是ノ如キ人ハ獨リ他人ノ權利ヲ烏有ニ歸セシムルノミナラズマタ併セテ自己ノ良心ヲモ苦マシムルモノナリ何トナレバ自

己一身ニノミ關スル時ハ更ニ清潔法ニ注意セザルモ可ナリ或ハ自ラ良シト定メタル衛生規則ヲ等閑ニ付スルモ可ナレドモ故意ニ自ラ病ヲ得テ之ヲ他人ノ人々ニ嫁セシムルニ至リテハ大ニ不可ナルノミナラズ斯ノ如キコトハ殆ンド人類ノ爲シ得ベキ權利ニアラザレハナリ

人類生存ノ爲メニ斷エズ活動ヲナセル千萬無數ノ微細ナル生物中ニ在リテ吾人々類ノ死敵タルモノ其數實ニ少シ是レ上來既ニ説ケル所ニ由リテ明カナレバ若シ人々ニシテ能ク之ニ注意シ頭ヲ隠シテ畏レ戰キ或ハ躊躇懈怠シテ徒ニ時ヲ費スカ如キコトナクバ是等微細ナル生物ノ危險ナル勢力ヲ避ケ得ンコト實ニ簡單ニシテ而カモ其効力ヤ大ナリトイフベシ

人類ノ生命ニ關シテ不安不快ナルモノ實ニ多シ吾人ハ宜ク眼ヲ是等ニ向ケザルコソ得策ナレ然レドモ本書ニ述ベタル如キ原因ヨリ生ズル疾病ニ至リテハ先ツ之ヲ避ケム其性質ヲ知ラサルベカラズサレバ書中往々快ラサルコトヲ明カニ書キ記シ、節ナキニアラズ然レトモ

コモマタ一般人々ノ安寧幸福ヲ偏ニ増進セムノ真心ナレバ讀者モ其心シテ強チニ著者ヲナ責メゾ

○臺灣ノ植物

英人ドクトル、エ、ヘンリイ氏ハ東亞植物採集ヲ以テ有名ナリ氏ノ臺灣ニ至ルヤ其内部諸山ニハ入ル能ハザリシモ尙其蒐集セル植物ノ數ハ實ニ一千七百五十アリトイフ今ヤ同地ニ田代安定氏ノアルアリ必ズヘンリイ氏ノ探檢セザリシ地方ヲモ跋涉セラルベシ而シテ分類學上大ニ裨益ヲ與ヘラル、ト遠キニアラザルヲ信ス

○ Venus' fly-trap 本邦ニ産スルヤ?

某年某月某日某氏某山ニ探檢シ其地方尋常中學生徒ニ會ス生徒某氏ニ告テ曰ク我縣下一奇草アリさんごしゆ葉大ノ剛葉地上ニ簇生シ夏時花軸ヲ挺ク一尺餘、頂ニ白花ヲツク、虫アリ來テ此葉ニ觸ル、ヤ葉尖忽チ起キ來リテ卷旋シ終ニ虫ヲ獲ヘテ其食餌トス洋名ヲ Venus'

fly-trap ト云ヒ去歲我校ノ教諭○○氏ノ某沼ニ於テ採集セラレタルモノナリ君之ヲ獲タリヤ否、ト某氏一驚、問フテ曰ク聞ガ如クンバ之レ天下ノ一奇品タリ子其捕虫ノ狀ヲ見タリヤ否、生徒答テ曰ク先生ノ腊葉ヲ示スヤ手ニ之ヲ捧ゲ只一瞬時ノ觀察ヲ與タルノミ先生嚴ニ質問ヲ許サズ此面白キ植物モ講義終ルノ後直チニ孰レニカ持去リテ熟覽ヲ許サレザルガ故ニ捕虫ノ狀ハ勿論實物ノ如何モ生徒ノ之ヲ記スルモノナシト。後數日靈山ニ登リ一樵夫ニ會フ樵夫又某氏ニ告ルニ縣下ノ奇草ヲ以テス其言フトコロ符節ヲ合スルガ如シ只異ナルハ葉狀正ニふきの葉ノ如シト云フニアルノミ樵夫ニシテ此言ヲナス頗ル異觀タリ怪ンデ之ヲ問ヘバ今春當縣中學生徒ノ登山セルモノ之ヲ説示セルナリト、某氏コ、ニ於テ啞然タルヲ久シ、天ヲ仰テ嘆ジテ曰ク世界既知ノ食虫植物ニシテ如斯モノアルヲ聞カズ眞ニコレアラバ正ニ是レ天下ノ奇品ナリ教諭先生タルモノ宜シク之ヲ大學ニ送致シ世界ニ紹介シテ可ナリ何ヲ苦デカ之ヲ

庫中ニ密藏シ之ヲ生徒ニ示スニ三十夜月然タルヲ要セ
ンヤ然リト雖モ苟モ身ヲ以テ中等教育ニ任ズルモノ
Venus' fly-trap ノ如何ナルモノナルカヲ知ラザルノ理
アランヤ其所謂採集標品ヲ精覽セバ他物タルヤ一目瞭
然タルベキナリ而シテ又もふせんごけいしもちそうこ
うしんそうノ類ニアラザルモ明ナラン其はへどりぐさ
ニ非ザルヲ知テ尙之ヲ誤教スルハ抑モ何ノ意ゾ、其邦
産 *Diosera* ニ非ズ *Pinguicula* ニ非ズ *Utricularia* ニ非ザ
ルヲ知ツテ之ヲ公ニセザルハ果シテ何ノ意ゾ、余ハ我
帝國ニ斯ノ如キ教諭先生アルヲ信ズルコト能ハザルナリ
先生ノ自ラ知ラザルハ恕スベシ博識ヲ裝フテ誤ヲ生徒
ニ傳フルニ至リテハ實ニ社會ノ罪人タルノミナラズ我
學術上ノ大罪タルヲ免レズ方今植物旺盛ノ時代ニ當リ
斯様ノ人アリトモ覺ザレド聞クガ儘ニ之ヲ報ズ、モシ
夫レ地方教員諸君ニノ時々上京、我帝國大學植物園ヲ
訪ヒ其温室内ヲ一覽セラレナバ斯ノ如キ誤ヲ生ズルコ
トモナカルベシ感慨ノ餘、植物雜誌ノ餘白ヲ借用スルコ

如斯多罪々々(紫山仙士投)

○柘植千嘉衛氏逝ク

明治二十八年九月十四日東京植物學會々員理學士柘植
千嘉衛氏逝ケリ氏ハ職ヲ第一高等學校及ビ陸軍幼年學
校ニ奉ジ前途多量ノ人ナリシニ今ヤ俄然其訃音ニ接シ
痛惜ノ至リニ堪ヘズ同十六日葬典ヲ染井ニ舉グ會葬ス
ル者頗ル多シ此際協會ノ總代理學士安田篤氏左ノ吊詞
ヲ朗讀セラレタリト云フ

編 者 識

維時明治二十八年九月十六日東京植物學會々員某等
謹デ會員拓植千嘉衛君ノ靈ニ告グ君嘗テ大學ニ在リ
夙夜孜々心ヲ植物ノ學ニ潜メ業既ニ成リテ日夕蹇々
身ヲ教育ノ務ニ致ス才識類ヲ出デ、盛名一時ヲ壓シ
操行常ヲ守リテ令望衆人ヲ服ス君ガ如キ人宜シク福
ヲ萬年ニ受ケテ斯學ト共ニ久シカルベシ何ゾ圖ラン
天君ニオヲ假シテ年ヲ假サラントハ抑本會員ノ君
ニ於ケル眉ヲ接スル多年恩誼殊ニ深シ今ヤ君一朝ニ

シテ館舎ヲ捐ツ君ノ高論ヲ拜セントスルモ復タ得ベカラズ本會ノ雜誌亦將ニ光ヲ失ハントス嗚呼哀哉茲ニ會員一同ニ代リ謹デ衷情ヲ述ブ君若シ靈アラバ庶幾クハ區々ノ誠辭ヲ聞ケ

東京植物學會々員總代

明治二十八年九月十六日

安田篤

○柘植千嘉衛君小傳

澤田駒次郎

君姓ハ柘植、名ハ千嘉衛、父ハ柘植傳八氏世々有馬侯ニ仕フ、母ハ菅谷氏今尚ホ存ス君ハ其三男ニシテ文久元年一月廿一日筑後國久留米十軒屋敷ニ生ル君夙ニ泰西ノ學ヲ受ケ後久留米師範學校ニ入り明治十二年東京ニ出デ直ニ東京大學豫備門ニ入學ス十六年七月豫備門ヲ卒業シ更ニ東京大學ニ入り専ラ植物學ヲ修メ廿年七月理科大學ヲ卒業シ理學士ノ稱號ヲ得同年大學院ニ入り益々植物學ヲ研究ス廿一年六月四日第一高等中學校

教諭ニ任セラレ奏任官五等ニ叙セラレ下給俸下賜廿二年一月陸軍教授ニ任セラル廿三年七月第一高等中學校教授ニ任セラル廿四年六月二日從七位ニ叙セラル同年十二月八級俸下賜廿八年三月高等官六等ニ陞叙セラル同年六月廿一日正七位ニ叙セラル同年九月七級俸下賜同年九月十四日從六位ニ叙セラル君人ト爲リ温厚寡言ニシテ書生ヲ誘掖スル諄々トシテ倦色ナク而カモ自カラ威嚴ノ風彩ヲ帶ブ實ニ君ノ如キハ良教師トシテ罕ニ觀ル所ナリ然ルニ今春以來腸胃ヲ患ヒ病勢漸次ニ進ミタレモ病ヲ力メテ教授ニ從事シ一日モ其職ヲ空フセス八月病愈ヨ危篤ニシテ遂ニ起タズ九月十四日駿河臺ノ家ニ逝去ス享年卅有四室ハ瀧氏一女二男ヲ舉グ君ハ力ヲ植物學ニ專ニシ殊ニ蘚苔ハ君ノ最モ長所ニシテ刻苦精勵他日ノ成効ヲ期セシモ天年ヲ斯人ニ假サズ空シク志ヲ齎シテ中道ニ夭折ス後進ノ君ヲ欽慕スルモ亦故ナキニアラス又植物會員トナツテ同會ノ爲ニ君ノ計畫盡力セシ所少カラサリシニ今ヤ則チ亡シ嗚呼悲哉

○弘田貞守氏逝ク

明治二十八年十月十六日東京植物學會々員大學院學生
理學士弘田貞守君易簀セラル同十八日葬典ヲ日暮里村
火葬場ニ營ム此日陰曇ニシテ時ニ微雨ヲ漏ラシ天モ亦
吾人ト哭泣ヲ分ツ先ヅ箕作博士ハ動物學者代表者トシ
テ飯島博士ハ東京動物學會總代トシテ安田學士ハ東京
植物學會總代トシテ吊詞ヲ述ベラレ次ニ高知縣同志會
總代及ビ帝國大學寄宿舍總代ノ吊辭アリ抑君ハ大學院
ニ於テ甲殼類ノ研究ニ從事セラレ屢笠原島ニ航シ專ラ
カヲ斯學ニ盡サレシモ一朝病ヲ得テ薨ニ臥スルコト月
餘遂ニ起タズ嗚呼悲哉曩ニハ會員理學士柘植千嘉衛氏
ヲ失ヒ殘淚未ダ乾カザルニ今亦君ノ訃報ニ接ス天何ゾ
生物界ニ禍スルノ甚シキヤ金玉ノ才空シク地下ニ埋モ
レ錦繡ノ文復タ見ルヲ得ズ嗚呼哀哉

○英國植物學者バビングトン(Babington)

氏沒ス

同氏ハ去ル七月二十二日ケムブリッジニ病沒セリ氏ハ千
八百八年十一月二十三日生レ植物分類學者トシテ英國
ノ學術社會ニ名アリ沒スルマデケムブリッジ大學ノ教授
職ヲ帶ビタリ、氏ハ數多ノ學會ノ名譽會員又ハ通信員
トナリ居レリ

◎質問應答

出雲松江の中橋君に答ム 信天生

(1)ヘラシダ(2)トラノヲシダ(3)ミツデウラボシ(4)標品毀
損シテ分ラズ(5)オホバキノモトサウ(6)キノモトサウ(7)
スツメノヒエ(8)アゼスゲ(9)カサスゲ(10)ズゲの類名稱未
詳(11)スカボシサウ(12)スゲの類名稱未詳(13)チャルメルサ
ウ(Mitella longiscapa Makino)(14)コバノガマズミ(15)イ
チャクサウ、附箋に曰く當地方に於てロクテンサウト
稱し醫藥に供すと

應答者曰く質問の標品は完全なるものを送られたし
斷枝片葉にては應答する事甚だ困難なるを以て時々

誤りを來すの恐れなしとせず其邊御注意可然事なり

◎東京植物學會錄事

去月廿八日午後二時ヨリ植物學教室ニ於テ植物學會ヲ開ク第一席ニ堀正太郎君ハ「農作物病害ニ就テ」其標品ヲ示シ二三ノ懇話アリ第二席ニハ三好學君「日光山ノ硫黃」バクテリアヤニ就テ」講話セラレタリ其大要《氏ハ日光湯本温泉場ニ於テ數種ノ「硫黃バクテリア」ヲ發見シ其内ツ^并ノグラツキ^氏及ビ他學者ノ未ダ記載セザル類ニ就テ其ノ新種ナル事ヲ論シ又エンゲルマン氏ノ所謂ユル「ブルブル、バクテリア」Chromatium 屬中日光産ノ種類ナルO. Weissiニ就テ氏ノ爲セル生理的實驗主トシテ走化性 (Chemotaxis)ノ顯象ヲ説明セリ即チ硫化水素溶液水ニ對シテ盛ニ陽性走化性ヲ起シ、食鹽溶液ニ對シテ陰性走化性ヲ呈スルガ如キ尤モ顯著ナルモノナリ、」ト顯微鏡ヲ以テ其「バクテリア」ヲ示サレタリ

○寄贈書目録

明治廿八年十月十五日
以降領收ノ分

動物學雜誌	第八十三號	動物學會
地質學雜誌	第二十四號	地質學會
東京醫學會雜誌	第九卷第十八、十九號	東京醫學會
日本蠶業雜誌	第八十六、八十七號	日本蠶業雜誌社
北海道水産雜誌	第二十一、二十二號	北水協會
日本園藝會雜誌	第六十六號	日本園藝會
大日本山林會報	第五百五十三號	大日本山林會
地學雜誌	第七集第八十一卷	地學協會
日本藥業新誌	第二百七十二號	衛生社
大日本農會報	第百六十五、六號	大日本農會
Hedvigia, Bd. XXXIV, Heft 4, 1895.		
The Gardeners' Chronicle, Vol. XVII, No. 441, 442, 444, 445, 446, 1895.		
Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 7, 8, 1895.		
The Journal of Botany, Vol. XXXIII, No. 391, 1895.		
Bulletin du Muséum d' Histoire Naturelle, No. 3, 1895.		
Dr. O. Kuntze, Geogenetische Beiträge, 1895.		
The Journal of Mycology, Vol. VII, No. 3, 1893.		

Die Kulturflüssigkeit wurde im Dampfsterilisirapparate stets 2 oder 3 mal unterbrochen sterilisirt. Ein solches Verfahren ist nach Erfahrung nothwendig.

Trotz dieser Resultate kann Soja keineswegs Anspruch machen als vorzüglichen Nährstoff für Pilze zu gelten. Sie enthält verhältnissmässig wenig Kohlenhydrate und unter anderen zu vieles Kochsalz. Zusätze von Zucker, Pflaumendekokt oder desgl. vermehren den Nährwerth bedeutend.

Folgendes Gemisch 1) benutze ich deshalb mit Vortheil und Bequemlichkeit für die Kultur gewöhnlicher Schimmelpilze im Laboratorium:—

- 20 Theile Soja,
- 25 Theile conc. gekochter Zwiebelsaft,
- 5 Theile Rohrzucker,
- 50 Theile dist. Wasser.

Ausser der Nähreigenschaft übt Soja auch sehr starken chemotropischen Reiz für Schimmelpilze aus. Alle von oben genannten Pilzen werden durch 1-2% Lösung stark angelockt.

October 1895.

Botanisches Institut der Kaiserlichen Universität zu Tokio.

1) Vergl. Miyoshi, Die Durchbohrung von Membranen durch Pilze, (Pringsh. Jahrb f. wiss. Bot. Bd. XXVIII 1895, p. 272).

Anwendung japanischer Soja und deren Gemisch für Pilzkultur

VON

Professor M. Miyoshi.

(Résumé.)

In einer 10% Lösung von reiner, guter Soja wächst *Botrytis cinerea* sehr üppig. Derselbe Pilz kann in viel schwächerer Lösung z. B. 0.5% noch ziemlich gut gedeihen.

Für *Penicillium glaucum*, *Aspergillus niger* bedarf es einer weit concentrirteren Lösung d. i. 20% um sie in der Flüssigkeit üppig vegetiren und fruchtiren zu lassen.

Mucor Mucedo, *M. stolonifer* und *Phycomyces nitens* gedeihen alle in 20% Lösung vorzüglich gut mit reichlicher Sporangienbildung. Ein Soja haltender fester Nährboden, (z. B. 5% Gelatine, 15% Soja, 80% destil. Wasser) ist ebenfalls geeignet für Kultur oben erwähnter Schimmelpilze.

In Zimmertemperatur 20-22°C erreicht *Botrytis cinerea* in 10% Lösung 3-4 Tage nach der Aussaat der Sporen ihre vollständiges Wachstum und bedeckte die ganze Fläche der Kulturflüssigkeit. Dieselbe ist aber bei *Aspergillus niger*, *Penicillium glaucum* in 20% Lösung nur nach ca. einer Woche zu erreichen. Keiner von den oben erwähnten Pilzen wächst gut in sehr starker Lösung und mit der Concentration der Flüssigkeit nimmt die Wachstumsgeschwindigkeit ab.

Fäden von *Saprolegnia Ferax* in 2% Lösung wachsen schnell und bilden einen üppigen Rasen. Derartige Kulturen kann man mit Vortheil länger aufbewahren als diejenigen mit anderen organischen Stoffen z. B. Pepton, da die erstere, d. i., Soja-Lösung besser von Bakterien frei gehalten werden kann.

地質學雜誌

第二十五號
十月十五日
發行

一冊金十錢 郵稅金一錢六冊前金五十四錢

目錄論說

越後米山最古噴出岩に就て(岩崎里三君) 斷層地震の一例(理學士山崎直方)

雜錄

初太郎君(長石類(小川琢治君)) 飛騨産リッブライト

に就て(篠本二郎君)

史傳

傳(鐵椎子君) 雜報(鮮朝)

地質第三號○白石岩、或因○北支那地方「レイ」土に就ての一説○柘榴石と岩石との關係○赤間關硯石○型石○熊ヶ嶽噴出○吾妻山の噴出○雄岳の鳴動阿蘇山の異狀○「ホド」ラス○大地震○「リヒト」ホッフエン」氏の書信○神保博士○理科大學地質學教室文庫新著書籍○地質談話會記事

動物學雜誌

第八十三號 明治廿八年九月十五日發行

一冊金十錢 郵稅金一錢六冊前金六十六錢(郵稅共)

目錄

文蛤(柳察(承前)澁江富貴三君) ○柳馬地方動物實驗雜記(第七十二號) 續(酒井寅造君) ○ひらさくら岸上鎌吉君(小川三記君) ○「Thysanos」千藏君 ○靜岡地方鳥類一班小川三記君 ○「Thysanos」*tondus scriptum* 就て 英文岸上鎌吉君

雜錄

相摸海浮動物ノ一班 小田原沖ノぎほしむし 小動物水抜き法 房州西ノ海岸ノしばえび

●カウガひひるノ保護糸 ●蠶ノ氣門に存するキチン質 棒ノ位置に就て ●カマキリとアブラゼミ ●帝國大學臨海實驗所日誌 ●正誤

發賣所

東京神田 裏神保町

敬

業

社

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金拾錢 三回以上割引仕候

○本誌毎月一回發兌一冊金拾貳錢○六冊前金七拾貳錢 ○十二冊前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り一冊金拾錢 ○配達概則

第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セズ○第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ

○第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四條 特ニ一冊限御入用ノ向ハ壹錢切手十二枚御送致アレバ御届可申候

明治廿八年十月十九日印刷

明治廿八年十月二十日發行

版權所有

編輯兼 發行者 印刷者 印刷所 發行所 賣捌所 同

井上 蘇吉

野村 宗十郎

株式會社 東京築地活版製造所

東京市京橋區築地二丁目七番地

植物學雜誌編輯所

東京市神田區裏神保町一番地

丸善書店

東京市日本橋區通三丁目

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. IX.]

OCTOBER, 20TH 1895.

[No. 104.]

CONTENTS.

- Anwendung japanischer Soja und deren Gemisch für Pilzkultur
(Résumé deutsch). Von Prof. M. Miyoshi 361
- On Plants collected in Shingking China. By H. Kawakami
(From No. 103). By K. Miyabe 365
- Hirneola and Exidia. By A. Yasuda 371
- Phanerogams of Shōnai. By T. Kawakami 374
- Plants employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia.
By K. Sawada 376
- Mr. H. Kuroiwa's Collections of Liukiu Plants (Continued from
No. 103). By T. Makino 379

MISCELLANEOUS:—

Short Notes on Plants.—Miscellaneous Notes on the Plants of
„Yōjōsho-oku,“ XX. — Referate, — Bachmann, Einfluss der äusseren
Bedingungen auf die Sporenbildung von *Thamnidium elegans* Link.
Darbishir, Kritische Bemerkungen über das „Mikrogonidium.“ —
Molisch, Das Phycocyan, ein krystallisirbarer Eiweisskörper.—Profess-
or Babington.—Proceedings of the Tōkyō Botanical Society.—Public-
ations Received.—etc.

All letters and communications to be addressed to the

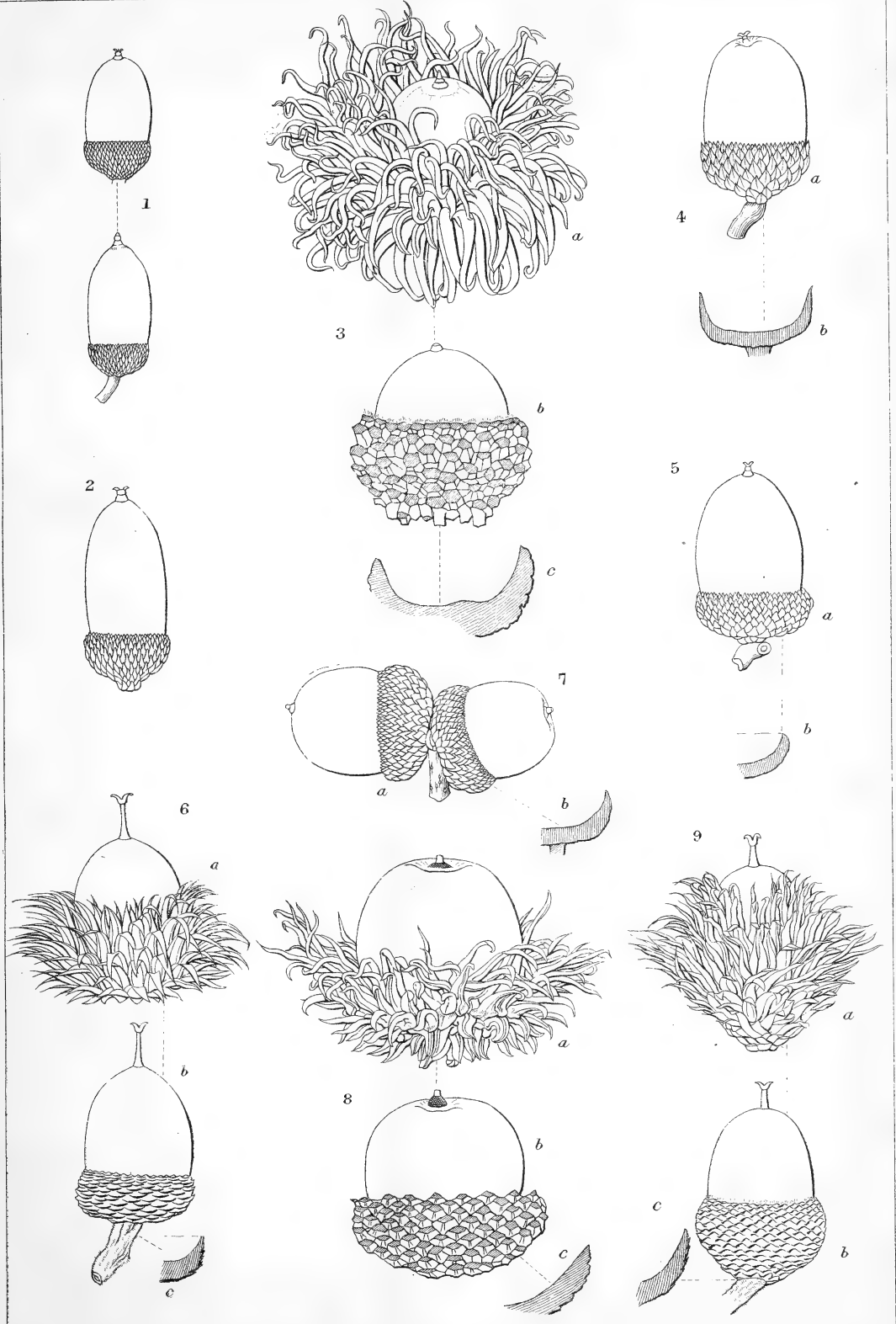
TOKYO BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tokyo, Japan.

明治二十一年二月三日内務省許可

日本植物学会会報





植物學雜誌第九卷第百五號

THE BOTANICAL MAGAZINE.

明治二十八年十一月二十日

[Vol. IX.]

November 20, 1895.

No. 105.]

○日本產落葉櫟屬ノ説 (第七版)

理學士 白井光太郎

總 說

日本產落葉櫟屬ノ種類ニ就テハ佛國フランシエー、サバチエー兩氏合著日本產植物目錄ニハ九種五變種ヲ列舉シ帝國大學植物標品目錄ニハ六種一變種ヲ記載シ松村博士ノ日本產櫟檜櫟柯ノ諸種ヲ論ズテフ論文ニハフ、サ兩氏ノ列舉セル九種五變種ヲ審查シ之ヲ五種四變種中ニ包括シ一々詳細ノ註釋ヲ加ヘ諸種ノ異同ヲ辨明セラレタリ予亦頃年此等諸種ノ異同ニ注意シ本年漸ク其枝葉果實ノ蒐集ヲ完フシ之ヲ比較研究スルヲ得タレバ更ニ先輩ノ遺著ヲ探リテ各種ノ名稱ヲ考證シ此ガ圖說ヲ作ルコト左ノ如シ

按スルニ山城、大和、近江邊ニテは、そ (ほをそと呼フ以下同シ) ト云ヒ關東ノ諸地ニテならト云ヒ木曾ニテまさト云フハ落葉櫟屬ヲ總稱スルノ名ニ近シ例ヘバ木曾ニテハまさニならまさ、こまさ、まさしば、ほうすまさ、ふしまさ、ノ諸種ヲ區別シ其ならまさハ關東ノみづならニ當リこまさハこなら、まさしばハながは、そ、ほうすまさハあべまさ、ふしまさハくぬぎに當レリ又和州吉野邊ニテハこからヲまほ、そ、ながは、そヲせぼ、そ、みづならヲやまほ、そ、かしはなら(Quercus aliena)ヲかしは、そ又單ニかしはト云ヘリ

此かしはは、そハ山城大和邊ニテ其葉ヲ以テ端午ノかしは餅ヲ包ムニ用ユルコト猶關東ノ諸地ニテ *Quercus dentata* ノ葉ヲ用ユルガ如シ小野蘭山翁ノ本草啓蒙ニ所載ノ櫟(かしは)ハ則此かしはは、ろニシテ關東邊ノ所謂かしはニ非ズ予ハ是迄同書ノ櫟ノ條ヲ東京邊ノかしはヲ謂フ者ト爲シ其種々ノ異名ニ錯誤ナキカヲ疑ヒ居タリシガ本年八月和州五條ノ薪林ニ於テ此かしはは、そヲ採集シ始メテ東西兩種ノかしはアルコトヲ知リ多年ノ疑團ヲ解釋スルコトヲ得タリ此かしはは、そハ帝國大學植物學教室ニモ其標品ヲ缺キシノ故ヲ以テ吾人ノ久シク其存在ヲ疑ヒ居リシ者ニシテ今回圖ラズ之ヲ檢出セルハ予ノ僥倖ナリ

此かしはニ東西兩種ノ別アルコトハ已ニ古人モ注意セルモノト見エ古今要覽稿ニ京畿ノ人ハ關東ノかしはヲゑどがしはト稱シ以テ彼地ノかしはト相別ツヨシヲ記セリ左レバ東京邊ノかしはハ之ヲゑどがしはト稱スルヲ適當トス此ゑどがしはニハこがしは、おほがしは、はごろもがしはノ別アリこがしはノ名モ亦始メテ要覽稿ニ出ヅおほがしはトこがしはトノ區別ハ從來ノ記述ハ唯其葉形ノ差違ニ限レリ予ハ今回其子實ヲ審査シ此ガ形狀ヲ圖セリ

おほなら (*Q. crispula* Bl.) トみづならノ區別ニ就テハ西籍ノ所載ハ専ラ其葉形ノ如何ニ在リ札幌宮部金吾氏ノ所著千島植物篇ニ始メテ異實ノ相異點ヲ註記セラレタルヤニ覺ユ今回予ガ圖スル所ノおほならノ果實ハ昨年冬學友牧野氏ノ滋賀縣下ヨリ採集シ來ラレタル標品ニヨリみづならノ果實ハ予ガ日光、秩父、富士ノ諸山ニテ採集スル標品ヲ寫セリ

こならニハ子實ノ短小ナルト長形ナルトアリ短小ナルヲこならト云ヒ長大ナルヲこは、そ一名ながは、そト云フ此ながは、そハ東京目黒村駒場邊ニテハ之ヲみづならト云ヒ普通ノこならト相別テリ

此編和名ノ考證ヲ主トシ漢名ニ至リテ別ニ鑿索ヲ用キズ從來用キ來レル普通ノ文字ヲ注記セリ羅丁名ハ專ラ先輩ノ充用スル所ニ從ヒタレモ正種變種ノ區別明瞭ナラザルモノハ大抵舊說ニ從ヒ之ヲ別種トナセリ是其名ヲ記スルニ易キノミナラズ其果實ノ形狀ニ相違アルヲ以テナリ後來篤志ノ士アリテ各種ノ花部ヲ比較研究シ其果シテ同種トスベキヤ否ヤヲ論定スルアル迄ハ予ハ寧ロ舊名ノ簡潔ナルヲ用キント欲スルナリ又子實葉形ノ記載ハ之ヲ綿密ニ記述スル時ハ頗ル長文トナルノ恐アルヲ以テ唯其大意ヲ記載セリ

○各種ノ區別

(一) こがしは (*Quercus dentata* Thunb.)

こがしはノ名ハ始メテ古今要覽稿ニ見ユ此種ハ通常東京邊ニテハかしハト云フ種類ナレモ總說部ニ記述セルガ如クかしは、は、は、は等ノ名ハ東西其品ヲ異ニシ誤解ヲ招キ易キガ故ニ今之ヲ取ラズ代ユルニ此名ヲ以テセリ此名ハ此ノ變種ナルおはかしハノ名ト對照スル片ハ殊ニ此種ヲ言ヒ表ハスニ適當セルガ如ク考フレバ學者間ニ採用セラル、コトモアランカト特ニ此處ニ標出セリ本草一家言ニ大葉櫟和名山鈍栗ト云フ者アリ此種若クハ次ノおはかしハヲ指スニ似タリト雖モ詳ナラズ江戸がしハノ名モ亦此ト同シクこがしハ、おはかしハノ兩種ニ通用スベキ者ナレバ精シク言ハント欲スレバことかとがしハ、おはとかとがしハト云ヒテ別々ザル可ラズ本草正正譌ニ大葉櫟和名なががしハ一名はびろがしハト云フ者ヲ記載ス是ハこがしハヨリハ次ノおはかしハヲ云フ者ニ似タリ

此種ノ葉ハ長四五寸許ニシテ本窄ク末濶ク周邊ニ單波動狀ノ鈍頭粗齒ヲ具ヘ裏面ニ褐色絨毛ヲ密布ス子實ハ卵圓ニシテ殼斗ハ深クシテ上部碗狀ヲナシ下部ハ漸次ニ窄少シ尖レリ殼斗ノ外面ニハ長サ三四分許

ノ細長尖銳ノ褐色鱗片狀毛茸ヲ密布シ各鱗毛斜ニ上方ニ向ヒ其先端微シク皺縮シ外反ス(第九圖)

(二) おほがしは (*Q. dentata*, Thunb. var. *Wrightii*, A. DC.

一名おほは、そ此二名は飯沼氏草木圖説ニ出ツ物品識名ニおほほうそ一名ほつたり東濃ト記セリ

此種ハ葉形前條ニ似テ大ナリ其大ナルハ長一尺餘リ葉頭ニ近キ鋸齒間、二重トナルモノアリ裏面ニ絨毛アルコトこがしはニ同シ果實ハこがしはニ似テ子實ノ頭部稍圓ク殼斗ハ彼ヨリ淺クシテ平椀狀ヲナシ底部ノ外面平圓ニシテ尖ラズ外面ノ鱗毛長四五分許ニシテ著シク外反シ先端尖リ縮ミタル狀ナシ(第六圖)

樹ハ高大ニシテ周圍三尺餘ニ及ブ者アレハ建築材トナラズ専ラ薪炭材ニ充ツ又定木、床板等ニ用ユルコトアリ樹皮ハ多量ノ鞣酸ヲ含ムガ故ニ染色用鞣皮用等ニ稱用ス

北海道ニハかしはノ純林ヲナス處アリト聞ケトモ未ダ兩種何レカ多キヤヲ詳ニセズ

(三) はごろもかしは (*Q. dentata* Bl. var. *pinatifida* (Fr. et Sav.) (Matsumura.)

此種ハ培養的變種ニシテ花戸ニノミアリテ接換ニヨリ増殖スル者ナレバ正種トナスベキ者ニ非ズ葉片横脈ニ沿フテ深ク分裂シ剪影狀ヲナシタル者ナリ予未ダ此果實ヲ見ズ

(四) ならがしは (*Q. aliena* Bl.)

和州吉野山邊ニテハかしはは、そ又單ニかしはト云フ小野蘭山本草啓蒙櫟ノ條ニ

は、そ一名なら一名ほそ一名ほを一名ほうそがしは一名かしは一名もちかしは一名かしはぎ一名まさ一名ごうごうしばノ十名ヲ擧ゲ其説ヲ掲グルト左ノ如シ

喬木ナリ葉ハ櫟ヨリ長大徑リ三寸餘長六七寸末廣ノ尖リ廣ノ粗キ鋸齒アリ互生ス端午ニ糕ヲ兩葉ニ挾ミテかしは餅ト云春新葉生ノ後花穂ヲ出ス栗ノ花ノ如ク小シ枝梢ニ實ヲ生ス形苦櫛ノ實ニ似テ大ナリ蒂モ相似タリ木ハ大ナレモ材用ニ堪ヘズ唯薪トナシテ上品ナリ樹皮ヲ藥用トス赤龍皮ト云フ云云

前文果實ノ條ニ注目スベシ其形苦櫛實ニ似テ大ナリ蒂モ相似タリト云フニ至リ前條第六及第九圖ノ_ニは_ハがしはヲ云フニ非ザルヲ知ルベシ(第七圖)

予ハ本年八月農科大學ヨリ植物實地研究ノ命ヲ蒙ムリ諸州ヲ巡行セルノ途次和州五條ヲ過ギ路傍ノ薪林ニ方テ此種ヲ檢出シ其枝葉及未熟ノ果實ヲ採集シ始メテ此種アルヲ知レリ頃日彼地ヨリ其熟實ヲ取寄セ第七圖ヲ作レリ枝葉ノ形狀西書ノ記述ト吻合スルヲ以テ予ハ之ヲ *Q. aliena* Bl. ナリト云フニ躊躇セザルナリ植物學雜誌四十八號ニ松村博士ノ記載セラレタル *Q. aliena* Bl. ハ此ト別ナルガ如シ

此ニ採用セルならがしはナル名稱ハ小野蘭山著和名識名錄其他諸書ニ出ヅ又此種ノ圖ハ備荒草木圖ニアリ

葉形こがしはニ似ルアリこならニ似テ大ナルアリ狭ク長キアリ濶ク大ナルアリ一樹ニシテ二様ノ葉ヲ生ズ周邊ノ鋸齒ハ單性ニシテ銳鈍一ナラズ葉ノ裏面ニ白絨毛ヲ布キ一寸餘ノ葉柄ヲ具フ横脈十乃至十二アリ花穂葉腋ニ生シ少數ノ花ヲ着ケ子實ハおほならノ實ニ似テ圓ク頭部ニ白浮毛アリ殼斗ハ甚淺シ

フランシエー、ザハチエー兩氏著日本植物目錄此種ノ條下ニ *var. pellucida* Bl. *var. acutidentata* Maxim. ノ二變種ヲ記載セリ然レモ余ヲ以テ之ヲ見レバ其 *var. acutidentata* ハこなら葉ニ似タル葉ヲ着ケタル標品ヲ見テ之ヲ變種ト考定シタルモノナラント考フルナリ

(五) みづなら (*Q. grosseserrata* Bl.)

日光、秩父、富士等ノ諸山ニテみづならト呼フ者是ナリ材質中水ヲ含ムコト多ク薪炭トナスニ容易ニ燃ヘザルガ故ニ名クト云フ又和州前鬼山ニテハ之ヲやまほト云ヘリ

葉長四五寸許ニシテ周邊ニ銳頭粗鋸齒アリテ間、其鋸齒ノ緣邊僅ニ齒狀ナスモノアリ子實ハ大ニシテわかがしノ實ニ似テ其殼斗深ク椀狀ヲナシ緣邊甚薄シ(第四圖)日光山湯本及中禪寺湖畔、勝負ガ濱等ニ多シ大ナル周圍六七尺乃至一丈五尺高十間餘ニ及ブモノアリ材ハ専ラ薪炭用トス又香葦ノ作り木トス

(六) おほなら (*Q. crispula* Bl.)

一名まなら一名のいしなら此二名草木圖説ニ出ヅ本草正譌ニ「ならまき一名くぬき其葉潤大ニシテ櫟ニ似テ薄シ是櫟ナリ炭ニ燒良ナリ」ト云フ者此種ニ相當セリ滋賀縣下ニテハ之ヲはゝと云フト謂フ通例櫟字ヲ此種ノ漢名トス

葉潤大ニシテ長五六寸乃至八九寸葉柄一分乃至五分周邊單性ノ粗鋸齒アリ其葉小ナル者ハ鋸齒銳ク大ナル者ハ鋸齒鈍頭ナリ葉薄ク光澤アリテ裏ニ毛ナシ果實ハ大ニシテ殼斗淺ク皿狀ヲナシ子實ノ下端ヲ覆ヒ殼斗ノ緣邊甚厚シ(第五圖)

(七) こなら (*Q. glandulifera* Bl.)

遠州秋葉山ニテハすのきト云ヒ和州吉野山ニテハまほと和州前鬼山ニテハのほと木曾ニテこまき豊後ニテはさこ伊豫ニテはさのと云フ漢名抱又宇落樹

葉長二三寸許ニシテ本窄ク先稍潤ク先端尖レリ周邊單鋸齒アリ齒頭内向シ腺點アリ七乃至十二ノ横脈ヲ

具へ裏面ニ白絨毛ヲ密布セリ葉柄長一寸許アリ子實ハ三分許ニシテ殼斗ハ碗狀ヲナシ下端突出セリ（第一圖）樹大ナル者ハ周圍四五尺トナル山地ニアル者秋ニ至リ紅葉スルコト美麗ナリ材ハ薪炭用トシ又香蕈ノ造リ木トス新葉ハ以テ田ノ^{カシキ}蒔敷トスベシ

樹枝ニ二種ノ虫癭ヲ生ズ俱ニ蜂類ノ寄生ヨリ起ル一ヲならのき團子又木ノ餅ト名クならのき團子ハ米澤邊ノ方言ナリ本草考彙ニ出ヅ木ノ餅ノ辨ハ平賀鳩溪ノ風來六部集ニ見ユ形圓ク毬ノ如ク圓徑一寸許外面平滑ニシテ始メ青色長ズルニ及ビ紅色ヲ呈シ遂ニ茶褐色トナル之ヲ取り貯へ置ク時ハ蚊ヨリ小ナル孔雀色ノ蜂出ヅ一ヲならごうト云フ一名おほぢのぶくり一名しばぐり一名さるのも、一名からすのふぐりト云フ外面軟毛アリテくぬぎノ殼斗ノ形ノ如シ又稍粟毬ニモ似タリ此兩種ノ虫癭ハみづならニモ生ズ平賀氏ノ木ノ餅ノ辨ニハ此兩種ヲ混淆セリならごうハ此ヲ採リ集メ煎シテ黑色ノ下染トス佐藤成裕中陵漫錄ニ「ならごうヲ集メ煎シ染テ其上ニ漆ノ葉ヲ煎ジテ掛ルキハ上黒トナル奥州白川ノ山中ニテ此法ヲ用ユ」トアルモノ是ナリ

(八) こばらそ (*Q. canescens* Bl.)

一名ながほうそ一名なががし、ながは、そノ名ハ阿淡産志ニ出ヅ本草啓蒙綱ノ條ニ「一種こば、そアリ葉ノ長二寸許其實八九分俗ニなががしト呼ブ」ト云者是ナリ東京近郊村里ノ薪林ニ多シ駒場邊ニテハ之ヲみづならト云フ果實ハ相似テ唯長大ナルノミ此種ハ葉裡ニ殊ニ毛多シ松村博士ハ之ヲこならト同物ト論定セラレタレモ山地ノ者ハ子實葉形共ニ小ニシテ村里ニアルモノハ長大ナルガ如シ先輩已ニ別名ヲ作リテ之ヲ別テリ依テ姑ク舊説ニ從ヒ別條トスレモ前條ノ變種若クハ產地ニヨリ形狀ヲ

變セシニ過ギザルベシ

(九) ぬき (*Q. serrata* Bl.)

一名くにき一名くのぎ木曾ニテふしまき伊豫ニテめくぬぎ秩父ニテヒんだんほを又ハかたぎ甲州ニテせんぐり但州ニテぢざいがしトイフ通例櫟、又ハ柶ノ字ヲ用ユ樹大ナル者ハ周圍六七尺高四五丈トナルモノアリ材堅ク水桶、抗ノ類ヲ作り久シキニ堪ユ又薪炭トナシ火力熾ナリ池田炭佐倉炭ハ此ヲ燒キタル者ナリ樹皮ハ染料鞣皮料トシ木材ハ香葦ノ造リ木ニ適セリ啓蒙ニ唐山ニテハ此ノ殼ヲ以テ皂色ヲ染ム故ニ皂斗ノ名アリ本邦ニテモ古ハ衣服ヲ染ムツルバミ色ト云フ今モ播州ニテ鐵漿ヲ加ヘ皂色ヲ染ムト云フ云

松平君山本草正譌ニ一種ふしまき其葉長ニシテ山人葉ヲ煎ジテ膏ノ如クシ婦人ノ齒ヲ染ル五倍子ニ代フトアル者是ナリ松村博士ノ考說中一種ふしばト稱スルモノハ葉形あべまきニ相異ナシト雖モ葉背平滑ナリ小野蘭山翁がめくぬき、をくぬきノ二別ヲナスモノ或ハ此中ニ包含セラル、ナランカ云云」トアルフジシバハ此フシマキナルベシ按ズルニ蘭山翁ノめくぬき、をくぬきハ之ヲ啓蒙其他ノ書籍ニ考フルニ別ニ異品アルニ非ズシテくぬぎトあべまきヲ云フニ外ナラズ啓蒙ニ「メクヌギハ葉形正シカラズ或ハ多クユガミ或ハ葉ノ末廣シト」云フハ常ノくぬぎノ葉形ヲ説明セルモノニシテ「オクヌギ」ハ形正シク栗葉ニ混シヤスシ」ト云フハあべまきノ葉形ヲ説明セルモノナリ阿淡産志ニクリガシハ今ヲクヌギト云フ葉ハ栗ニ似テ厚ク斜ナラズ薪トス炭ニナスニ惡シ、雲伯州ニテハ端午ニ此葉ヲ用キテ粽ヲ包ムコト櫟葉ヲ用ユルニ同ジ大和本草辯正曰栗カシハノ條ニ雌雄アリ栗カシハト云ハヲクヌギナリ實櫟ノ實ニ似タリ

實栗ニ似タルハ雌クヌギナリ且ヲクヌギハ葉栗葉ニ似タリメクヌギハ其葉カタクユガメリ此二種共ニ
 械ナリトアリ參考スベシ(第八圖)

(十) 十あひまき (*Q. variabilis* Bl.)

一名わたくぬぎ一名わたまき一名わへくのぎ一名くりがしは一名おくぬぎ一名ほうすまき一名はくと最
 後ノ二名は本草正譌ニ出ヅ木曾ノ方言ナリおくぬぎノ名ハ前條ニ於テ引用セル諸書ニ出ヅわへくのぎノ
 名ハ風來山人ノ木ニ餅のなる辯ニ見ユ又東京近郊ニテハ之ヲさはぐりト云フ

此木モ亦高大ニ至ルコトくぬぎト異ナラズ樹皮ニ厚キコルク皮ヲ生ズ取リテ栓子ヲ製スベシ皮ノ厚サニ
 寸餘ニ及ブ者アリ葉ハ栗ニ似テ裏面ニ白絨毛アルヲ異トス子實ハくぬぎヨリ大ニシテ殼斗淺ク其狀第三
 圖ノ如シ

第七版圖解

- 第一圖 こなら (*Quercus glandulifera* Bl.)
- 第二圖 こはーぞ (*Quercus canescens* Bl.)
- 第三圖 あへまき (*Quercus variabilis* Bl.)
 - a. 完全ナル果實
 - b. 殼斗ノ軟毛刺ヲ取去リタルモノ
 - c. 殼斗體ノ縱斷面
- 第四圖 みつなら (*Quercus grosseserrata* Bl.)
 - a. 完全ナル果實
 - b. 殼斗ノ縱斷面
- 第五圖 おほなら (*Quercus crispula* Bl.)
 - a. 完全ナル果實
 - b. 殼斗縱斷面ノ一部
- 第六圖 おほまきしは (*Quercus dentata*, Thunb. var *Wrightii*, A. DC.)
 - a. 完全ナル果實
 - b. 殼斗ノ鱗片刺ヲ取去リタルモノ
 - c. 殼斗體ノ一部縱斷
- 第七圖 ならまきしは (*Quercus aliena* Bl.)

莊内産顯花植物

第八圖 くぬぎ (*Quercus serrata* Bl.)

- a. 完全ナル果實
- b. 穀斗ノ軟毛刺ヲ取去リタルモノ
- c. 穀斗體ノ縱斷面

第九圖 こむごは (*Quercus dentata* Thunb.)

- a. 完全ナル果實
- b. 穀斗ノ鱗片刺ヲ取去リタルナリ
- c. 穀斗體ノ一部縱斷面

○莊内産顯花植物 (前號ノ續キ)

川上瀧彌

Compositeae. 357. *Eupatorium Lindleyanum*, DC. ノヂバカマ 月山、杉澤、小岩川—358. *E. japonicum*, Th.

ヒョドリソバナ 松嶺—359. *E. japonicum*, Th. var. *sachalinensis*, Fr. Schum. ミヅヒョドリソバナ 金峯山—

360. *Solidago Virga-aurea*, L. ノキノキノクサ 月山、鳥海山—361. *Aster indicus*, DC. ミヅナ 松

嶺、酒田、常禪寺—362. *A. indicus*, DC. var. *pinnatifida*, Max. ナムバギタ 観音寺、松嶺—363. *A.*

Savateri, Makino. ミヤマモメナ、(ハルノギ) 松嶺、観音寺—364. *A. trinervius*, Roxb. var. *ovatus*, F. S.

ヤマシロギタ 観音寺、大綱—365. *A. trinervius*, Roxb. var. *adustus*, Max. コノギタ 観音寺—366. *A.*

Glehni, Fr. Schum. コマナ 鳥海山、金峯山—367. *A. fastigiatus*, Eisch. et Mey. コメシラン 升田、酒田—

368. *A. scaber*, Th. ミヤマギタ、三崎山、田川湯—369. *Erigeron Thunbergii*, A. Gray. アンヤギタ、

(ヤトギタ) 松嶺、金峯山、観音寺—370. *E. canadensis*, L. コメムカシモギ 観音寺、酒田、松嶺—371. *Ana-*

phalis margaritacea, Benth. et Hook. f. ヤマノコ 月山、鳥海山—372. *A. yedoensis*, Max. カンラン

ノコ 最上川岸—373. *Gnaphalium multiceps*, Wall. ノコトササ、(カウラ) 酒田、松嶺—374. *G. japonicum*,

- Th. チ・ロンサ 松嶺—375. *Leontopodium alpinum*, DC. ビメウスノキサウ 月山、鳥海山—376. *Inula ciliaris*, Mac. ニツギン 月山—377. I. *briannica*, L. *var. japonica*, F. S. ヲダルマ (草木圖説) 観音寺—378. I. *briannica*, L. *var. vulgaris*, Ledeb. ヲダルマ (本草圖譜) 松嶺—379. I. *salicina*, L. カネンサウ 三崎山、青塚—380. *Carpesium cernuum*, L. サミガントビサウ 松嶺—381. C. *divaricatum*, S. Z. ガンクビサウ 升田—382. C. *rosulatum*, Mig. ビメガントビサウ 金峯山—383. C. *abrotanoides*, L. ヤブタバコ、イナクサリ (方言此屬及キンニツボギノ如ク其實人衣ニ附キ易キモノ凡チイナクサリノ方言アリ) 鶴岡、吹浦—384. *Adenocaulon adhaerescens*, Mac. ブキ 松嶺、観音寺—385. *Xanthium Strumarium*, L. ヲナキニ湯ノ田—386. *Siegesbeckia orientalis*, L. メナモミ、[△]メクサ 鶴岡—387. *Eclipta alba*, Hassk. タカサブラウ湯ノ田、小岩川—388. *Bidens tripartita*, L. タウロギ 小泉、松嶺—389. *Achillea sibirica*, Ledeb. ノロギリサウ 松嶺—390. A. *Parmica*, L. *var. speciosa*, Herder. エンノロギリサウ 小岩川、鳥海山—391. *Centipeda orbicularis*, Lour. トギンヤハ松嶺、小泉—392. *Artemisia japonica*, Th. ナトロモギ 酒田、杉澤—393. A. *keiskeana*, Mig. イヌモギ 松嶺、杉澤—394. A. *vulgaris*, L. モモギ、[△]サササ 松嶺—395. A. *vulgaris*, L. *var. integrifolia*, Mac. トンハヨモギ 月山、鳥海山—396. A. *Stelleriana*, Bess. シロモギ、[△]トモギ (方言) 青塚—397. A. *Schmidtiana*, Max. アサギリソウ、[△]サササ 十里塚—398. *Petasites japonicus*, Mig. ナギ 松嶺—399. *Arnica unalaschensis*, Less. ウサギギク 月山、鳥海山—400. *Mallotopus japonicus*, F. S. チャウシギク 杉澤、月山、鳥海山、升田、吹浦—401. *Senecio Stenoccephalus*, Mac. タカラカウ 月山—402. S. *cacaliaefolius*, Schultz-Bip. ナタカラカウ 月山、鳥海山—403. S. *Zuccarini*, Mac. モニヂガサ、[△]シドク 松嶺、観音寺—404. S. *sagittatus*,

莊内産顯花植物

- Schultz-Bip. var. glaber*, *Max.* エンヌマサウ 鳥海山—405. *S. farfaraefolius*, *S. Z. var. farfaraefolius*, *Max.* カウモリサウ 松嶺、鳥海山—406. *S. bulbiformis*, *Max.* タマノキ 金峯山、観音寺—407. *S. campestris*, *D.C.* サノゾグンマ、(ヤチブキ 方言) 鶴岡、観音寺—408. *S. nemorensis*, *L. var. Fuchshii*, *Koch.* キモン月山—409. *S. nemorensis*, *L. var. genuinus*, *Koch.* コウキミナクム 月山—410. *S. palmatus*, *Pall.* ハンチンサマ 三崎山—411. *Oniscus arvensis*, *Hoffm. var. setosus*, *Tedel.* エンノキンネアザニ 松嶺、最上川岸—412. *C. nipponicus*, *Max.* なんぶこむねみ 松嶺、酒田—413. *C. dipsacolepis*, *Max.* モリアザニ 月山、鳥海山—414. *C. suffulus*, *Max. var. incomptus*, *Max.* ニツクワウアザニ 日光瀧上(升田)—415. *C. Buergeri*, *Miq. var. Albrechti*, *Max.* スズメのゆねみ(新稱)観音寺、松嶺—416. *C. japonicus*, *D.C. var. typicus*, *Max.* ハアザニ 松嶺—417. *C. japonicus*, *D.C. var. intermedius*, *Max.* 鳥海山—418. *C. japonicus*, *D.C. var. yezoensis*, *Max.* オホノアザニ 杉澤—419. *Saussurea Tanakae*, *F. S.* タウロン 月山、鳥海山、升田—420. *S. japonica*, *D.C.* ヒメヒコタイ 三瀬、松嶺、観音寺—421. *S. Biederi*, *Herd.* みたねみ 鳥海山—422. *Serratula coronata*, *L.* タムラサウ 小國、観音寺—423. *S. atriplicifolia*, *Benth. et Hook. f.* ヤマボクチ、(ヤムボクチ 方言) 油戸、松嶺—424. *Ainsliaea apiculata*, *Schultz-Bip.* キンクワングマ 松嶺、金峯山—425. *A. acrifolia*, *Schultz-Bip.* モニギンヅマ 松嶺—426. *A. triloba*, *Makino.* オヤリングマ 松嶺、金峯山—427. *Gerbera Anandria*, *Schultz-Bip.* ヤンギンヤリ 小泉—428. *Lampyris parviflora*, *A. Gray.* ヤンタバヒラコ 松嶺、小泉—429. *Pieris japonica*, *Th.* コウゾリナ 松嶺、福原—430. *Crepis japonica*, *Benth.* オニタバヒラコ 松嶺、観音寺—431. *Hieracium japonicum*, *F. S.* ニヤマコウゾリナ 月山、鳥海山—432. *H. umbellatum*, *L.* ヤナギタ

ンボ、新出—433. *Toraxacum officinale*, *Weber*. タンボ、酒田、松嶺—434. *Lactuca brevirostris*, *Champ.*
 アキノゲシ 松嶺、鶴岡、観音寺—435. *L. Raddiana*, *Max.* ヤマニガナ 松嶺、観音寺—436. *L. denticulata*,
Max. ヤクシサウ 高尾山—437. *L. Thunbergiana*, *Max.* ニガナ 松嶺—438. *L. albiflora*, *Max.* ミロニ
 ガナ 月山—439. *L. versicolor*, *Schultz-Bip.* タカサゴサウ 最上川岸—440. *L. repens*, *Max.* ハマニガ
 ナ、^{ハヤキミズ}酒田—441. *L. stolonifera*, *Max.* イハニガナ 松嶺—442. *L. debilis*, *Max.* チミヅリ 酒田—
 443. *Prenanthes ochroleuca*, *Hemsl.* スイタンボ、オホニガナ 観音寺、鶴岡

Campanulaceae. 444. *Lobelia sessilifolia*, *Lam.* サハギキヤウ 月山、鶴岡 金峯山—445. *L. radicans*, *Th.*

ミツカクシ 松嶺、観音寺—446. *Platycodon grandiflorum*, *DC. var. glaucum*, *S. Z.* キキヤウ 月山、松
 嶺—447. *Codonopsis lanceolata*, *Benth. et Hook. f.* ツルニンミン、^{ダミズナ} 月山、鳥海山、松嶺、赤剝—4

48. *Campanula punctata*, *Lam.* ホタルブクロ 鶴岡—449. *C. lasiocarpa*, *Cham.* イハギキヤウ 鳥海山—450.

Perocarpa cireneoides, *Feer.* タニギキヤウ 常禪寺、關根—451. *Adonophora verticillata*, *Fischl.* ツリガ
 ネニンジン、^{メノメ}鳥海山、月山、松嶺—452. *A. remotiflora*, *Miq.* ソバナ 菅ノ代、杉澤、升田 (未完)

○日本薬局方植物篇 (前號ノ續キ) 澤田駒次郎

(試験) 日本薬局方注解曰(第一)本品ヲ、白金板上ニ熱灼スレハ、固性物ヲ殘留セス、燃化ス可シ、是レ無機鹽
 類殊ニ格魯兒拔、留謨、格魯兒那篤、留謨等ヲ混有ス可カラサルヲ檢明スルモノナリ、(第二)又本品ハ、硫酸ニハ全
 ク或ハ殆ト無色ニ溶解シ、硝酸ニハ赤色ヲ呈セズシテ溶解ス可シ、硫酸ニ由テ着色スレバ他ノ亞爾、嘉魯乙度(例

之ハ「アコニチーネ」、勿拉篤里涅等ヲ混有シ又硝酸ニ溶解スルノ際赤色ヲ呈スレバ莫爾比涅ヲ混有ス、(第三)又石灰乳ニ和シテ煮沸スルニ安母尼亞ノ蒸氣ヲ發ス可カラズ、是レ安母尼亞鹽類ヲ混有ス可ラサルヲ檢明スルモノナリ、(第四)本品ノ水溶液ニ(1:100)ニ稀硫酸ヲ加フルモ溷濁セス又硝酸拔留膜ヲ加フルモ蛋白石濁ヲ起スニ過ク可カラズ、稀硫酸ニ由テ溷濁スルモノハ格魯兒拔留膜ヲ混有シ藥用ニ堪ヘス、硝酸拔留膜ニ由テ蛋白石濁ヲ呈スルニ過キササルモノハ硫酸ヲ夾雜スルモ痕跡ニ過キササルヲ以テ藥用ニ供スルヲ得ヘシ、(第五)本品ニ「グラム」ニ水二十立方「センチメートル」ヲ和シ温ヲ與ヘテ溶解スルニ至リ其溶液ニ硫酸那篤留膜ノ粉末一「グラム」ヲ投シ玆ニ生シタル糜粥狀塊ヲ攪拌シツ、重湯煎上ニ二三分時間温メタル後大約十五度ニ於テ一時間放置シテ濾過シ其濾液五立方「センチメートル」ヲ取り之ニ安母尼亞水七、五立方「センチメートル」ヲ加ヘテ輕ク搖盪スルニ初メ生シタル溷濁更ニ全ク溶消シテ澄明ノ液トナルヘシ、此一項ハ本品中ニ他ノ規那亞爾嘉魯乙度ヲ混有スルモ一定量ニ超ユ可カラサルヲ規定スルモノナリ而シテ此試驗ヲ行フニハ本品ニ「グラム」ヲ長大ナル試験管ニ取り之ニ水二十立方「センチメートル」ヲ注加シ寬ク其試験管ヲ栓塞シ時々之ヲ搖盪シツ、沸湯ニ浸シテ本品ノ全ク溶解スルニ至リ之ニ硫酸那篤留膜ノ粉末一「グラム」ヲ投シ能ク搖盪ス可シ之ニ依テ鹽酸規尼涅(及其中ニ混有スル他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ鹽酸鹽)硫酸那篤留膜ト交換分解シテ硫酸規尼涅(及他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ硫酸鹽)及格魯兒那篤留膜トナリ甲ハ冷水ニハ甚タ困難ニ溶解スルカ故ニ大半不溶解物トナリテ凝結シ他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ硫酸鹽ハ大半溶存ス今其硫酸規尼涅ヲシテ充分析出セシメンカ爲メ其冷却スルヲ待チ試験管ヲ十五度ノ温ヲ保テル水中ニ浸シ時々搖盪シツ、一時間放置スルノ後直徑八「センチメートル」ニ超ヘサル濾紙ヲ用ヒテ濾過ス可シ但シ其濾液ノ量五立方「センチメートル」ニ足ラザ

ル片ハ指ニテ濾紙上ノ硫酸規尼涅ヲ輕ク壓シテ尙ホ濾液ヲ取ル可シ而シテ茲ニ得タル濾液ハ十五度ノ温ニ於ケル硫酸規尼涅ノ飽和液ナリ、其毫モ他ノ規那亞爾嘉魯乙度ヲ含有セサルモノニ在テハ此濾液ノ五立方、センチメートルヲ他ノ試験管ニ取り之ヲ搖盪シツ、之ニ安母尼亞水(十、ベルセント)ヲ滴下スレハ初メ生シタル白色ノ沈澱(規尼涅)其安母尼亞水ノ大約三、五立方「センチメートル」ヲ滴加スルニ至リテ澄明ニ全溶ス可シ然レモ他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ硫酸鹽ハ硫酸規尼涅ニ比シテ遙ニ水ニ溶ケ易ク且ツ安母尼亞水ニ溶解スルコト甚タ困難ナルカ故ニ其混有量愈々多ケレハ愈々多量ノ安母尼亞水ヲ滴加スルニ非ラサレハ初メ生シタル沈澱再ヒ澄明ニ溶解セサル者トス而シテ本條ニ「安母尼亞水七、五立方」センチメートルヲ加ヘテ輕ク搖盪スルニ初メ生シタル溷濁更ニ溶解シテ澄明ノ液トナル可シトアルハ他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ硫酸鹽類(但シ硫酸聖古論スル)ヲ混有スルモ本品百分ニ付キ大約七分ニ過キサル者ハ藥用ニ供スルヲ許有スルモノナリ(此試驗ニ關スル要領ハ尙ホ次條硫酸規尼涅(第六)本品ハ、百度ニ於テ乾燥シ復タ重量ヲ變セサルニ至ルニ其減失百分ニ付キ九分ニ過ク可カラス本品ノ正當ノ集成ヲ有スルモノハ結晶水二分子ヲ包有シ其一「グラム」ヲ豫メ秤量セル白金坩堝(小硝子壺ニ取り百度ノ温ヲ施シテ充分ニ乾燥シ乾燥器中ニ冷却セシムルノ後秤量スルニ其重量ノ減却分ハ〇、〇九〇八「グラム」(即チ百分ノ九分)ニ超ユ可カラス其量之ニ超ユルモノハ本品ノ乾燥不充分ナルカ將タ故意ニ水ヲ注テ重量ヲ増加セシモノトス」トアリ

本品ハ大氣ニ觸ル、トキハ結晶水ヲ放チテ風化シ日光ニ感スルトキハ變質シテ褐色ヲ呈スルカ故ニ暗色ノ硝子瓶中ニ密封シテ貯フヘシ

第三 硫酸規尼涅 Chininum Sulphuricum. (Chinini Sulphas.)

日本藥局方曰硫酸規尼涅ハ白色輕嫩絹絲様ノ光澤ヲ有スル鍼狀結晶ニシテ大氣ニ觸レテ風化シ臭氣ナク味甚タ苦ク中性或ハ弱亞爾加里性ノ反應ヲ徵シ大約八百分ノ水、三十分ノ沸湯及大約六十分ノ酒精ニ溶解ス其水溶液ニ稀硫酸ヲ加フレハ藍色ノ螢石彩ヲ現ハス

本品ノ水溶液ニ格魯兒水ヲ和シ安母尼亞水ヲ滴下スレハ綠色ヲ呈シ又硝酸拔留膜ヲ加フレハ酸類ニ溶解セサル白堊ヲ生ス

本品ヲ白金板上ニ熱灼スレハ固性物ヲ殘留セスシテ燃化スヘシ又本品ハ硫酸ニハ全ク或ハ殆ト無色ニ溶解シ硝酸ニハ赤色ヲ呈セスシテ溶解スヘシ又石灰乳ニ和シテ煮沸スルニ安母尼亞ノ蒸氣ヲ發ス可ラス又本品ノ冷飽和溶液ハ稀硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀ヲ加フルモ溷濁ス可ラス

本品一「グラム」ニ「噶囉仿謨」ニ容量純酒精一容量ヨリ成レル混和液七立方「センチメートル」ヲ和メ微温ヲ與フルニ澄明ニ溶解シ冷ユルモ溷濁ス可ラス

本品二「グラム」ニ水二十五立方「センチメートル」ヲ和シ絶エス攪拌シツ、大約六十度ノ温ヲ與ヘ溶解セシメタル後十五度ニ於テ一時間放置シテ濾過シ其濾液五立方「センチメートル」ヲ取り之ニ安母尼亞水七、五立方「センチメートル」ヲ加ヘテ輕ク搖盪スルニ初メ生シタル溷濁更ニ全ク溶解ノ澄明ノ液トナルヘシ

本品ハ百度ニ於テ乾燥シ復タ重量ヲ變セサルニ至ルニ其減失百分ニ付キ十六分ニ過ク可ラズトアリ

(製法) 日本藥局方註解曰硫酸規尼涅ハ他ノ規那鹽類ヲ製出スルノ原料ニシテ其製造法ハ製造所ノ異ナルニ由リ一定ナラス或ハ之ヲ秘密ニ附セリ往々規那皮ノ產地或ハ輸出地ニ於テ製出セル粗製規尼涅ヲ歐米諸國ニ輸致シ之レヨリ硫酸規尼涅ヲ製出スルコトアリ此法ハ大ニ運搬費ヲ省減シ硫酸規尼涅ノ價額ヲ廉ナラシムルノ

益アルモノトス今歐洲ニ行ハル、硫酸規尼涅製造法ノ大要ヲ舉クレハ左ノ如シ

従前ハ規那亞爾嘉魯乙度ヲ溶出スルニ硫酸ヲ含有スル水ト共ニ規那皮ヲ煮沸シ或ハ其粉末ニ石灰乳ヲ混和シ酒精ヲ注加シテ煮沸スルノ法ヲ以テセリ此法ニ由ルトキハ甚タ困難ニ除去スルヲ得可キ汚物ノ溶入スル害アルカ故ニ現今ハ此方法ヲ改良シ色素類、鞣酸等ヲ溶解セサル所ノ諸液例之ハ石油ヲ使用ス規那皮ノ粉末ニ消石灰ヲ混和シ水ニテ潤ホシ乾燥スルノ後石油ヲ注加シテ煮沸シ其煮沸液ニ硫酸ヲ含有スル水ヲ加ヘテ振盪ス之ニ由テ石油中ニ溶存セル規那亞爾嘉魯乙度類ハ硫酸鹽トナリテ水液中ニ溶入スルヲ以テ其水液分ヲ油分ト分離シ(油分ハ更ニ規那皮ノ溶出ニ利用ス)之ニ那篤倫液ヲ加ヘテ規那亞爾嘉魯乙度(粗製規那亞爾嘉魯乙度)ヲ沈澱セシメ適量ノ硫酸ヲ含有スル温水ニ之ヲ溶解シ動物炭ヲ加ヘ煮沸シ脱色セシメテ冷却セシム然ルキハ硫酸規尼涅ハ他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ硫酸鹽ヨリモ遙ニ水ニ溶解シ難キニ由リ他ノ亞爾嘉魯乙度ノ硫酸鹽類ニ先チテ結晶シ來ルベキガ故ニ之ヲ採集シ反復温水ヨリ結晶セシメテ精品トナス而シテ現今純粹ノ硫酸規尼涅ヲ製スルニハ屢先ツ粗製規那亞爾嘉魯乙度ヨリ酸性硫酸規尼涅ヲ製シ更ニ之ヲ硫酸規尼涅ニ變成スルノ法ヲ用ユルコトアリ(實性反應)日本藥局方註解曰本品ノ水溶液ニ格魯兒水ヲ和シ安母尼亞水ヲ滴加スレハ綠色ヲ呈シ又硝酸拔留膜ヲ加フレハ酸類ニ溶解セサル白垢ヲ生ス是レ格魯兒水及安母尼亞水ニ由テ生スル綠色(即チ「タルレイヲヒン」反應)(鹽酸規尼涅ノ條當該ノ項ヲ見ヨ)ハ規尼涅ヲ含有スヘキヲ徵シ硝酸拔留膜ニ逢フテ生スル白垢(BaSO₄)ハ硫酸ヲ含有スヘキヲ徵スルモノナリトアリ

(以下次號)

○植物學上新刊行物略報

三好學

F. A. Knight, Botanische Abhandlungen. Herausg. von H. Ambrohn. Leipzig, Engelmann.

本版ナイト氏ノ植物學論文集ハ Ostwald's Klassiker der exakten Wissenschaften ノ「セリー」トシテ此程出版シ印刷明瞭簡便ノ小冊ナリ同「セリー」中已刻ノ植物學上「クラミーカー」ハ左ノ如シ

Théod. de Saussure, Chem. Untersuch. üb. d. Vegetation (1804) 2 Hälfte. Übers. v. A. Wieler.

L. Pasteur, Die in der Atmosphäre vorhandenen organisierten Körperchen. Prüfung der Lehre von der Urzeugung (1862.) Übers. v. A. Wieler.

D. Joseph Gottlieb Köhreuter, Vorläufige Nachricht von einigen das Geschlecht der Pflanzen betreffenden Versuchen und Beobachtungen, nebst Fortsetzungen 1, 2 und 3. (1761-1766.) Herausg. v. W. Pfeffer.

Ch. Knor Sprengel, Das entdeckte Geheimniss der Natur im Bau und in der Befruchtung der Blumen (1793.) Herausg. v. P. Knuth. in vier Bändchen.

Allgemeine Botanische Zeitschrift für Systematik, Floristik, Pflanzengeographie etc. Herausg. v. **A. Kneucker**. Karlsruhe.

本誌ハ今年十一月ヨリ創刊セルモノニシテ表題ノ如ク主トシテ分類學、「フロラ」、植物地理學等ニ關スル記事ヲ載セ併セテ新著ノ「レフェラート」、植物腊葉交換及ビ各地植物學教室、植物園等ニ關スル消息ヲ掲ク、毎月一冊(小板、凡ソ二十余頁)ヅ、出版シ三ヶ月分代價一麻五十片ナリ

A. Dodel, Biologischer Atlas der Botanik. Serie „Jris“ Ausgabe für Hoch- und Mittelschulen (7 Tafeln.

84: 120 cm.) mit erläuterndem Texte. Zürich. 1894. 40 Mk.

現今世ニ行ハル、植物生理、解剖、分類學ノ掛圖ニシテ彼ノ Frank, Errera, Kny, Peter 諸家ノ撰ニカ
、ルモノ、他ニ植物生態學(Plantenbiologie)上ノ圖說ヲ著セルハ本著者ノ勞ニヨル獨リ大學中學用ノミ
ナラズ一般ノ學校ニ於テ普通植物學教授ノ際ニ適應シテ尤モ便利ナリ

M. Finstüek, Taschenatlas der Gebirgs- und Alpenpflanzen. Stuttgart 1896. 5 Mk.

年々數十萬ノアルプス地方遊歴者ニハ植物學者ト否トヲ問ハズ高山幽谷跋渉ノ際、奇花異草ヲ採取シテ
一興トナスハ普通ノコナリ故ニ從來アルプス山中ノ「フロラ」、書入植物録ノ如キ懷中小冊尠ナカラズ著
者ノ該書モ亦簡便ノ冊子ニシテ數多ノ彩色書ヲ入レ看ル者ヲシテ容易ニ實物ト比較シ易カラシム記載ス
ル所ノ植物ハ獨リアルプス山ノミナラズ歐洲各地ノ高山産ノモノヲモ含メリ

M. Wildermann, Jahrbuch der Naturwissenschaften 1894—1895. Freiburg i. B. 6 Mk.

本冊子ハ去ル千八百九十年以來毎年刊行スルモノニシテ年々一般理學ノ進歩ヲ簡單ニ報知スルモノト云
フベシ、即チ物理學、化學、應用工學、氣象學、地文學、星學、數地理學、動物學、植物學、山林學、
農學、地質學、金石學、人類學、人種學、衛生學、醫學、生理學、貿易、交通、工業等ノ諸科ニ就キ各、
専門家ノ報告ヨリ成ル植物學ハ Zimmermann (Chemnitz) 氏ノ擔當ニシテ篇中ノ記事ハ左ノ諸項ヨリ成
ル是レ皆一々原論文ニ就テ其要領ヲ拔摘シタルモノナリ、

(1) 植物體水分蒸散ト同化作用ニ就テノ實驗

- (2) 氣象主トシテ降雨ガ果實ノ形狀ニ影響ヲ及ボスコトニ就テノ觀察
- (3) 啖蟲植物 *Drosophyllum Lustranicum*.
- (4) *Lonicera Periclymenum* L. ノ花部ノ組成
ケモトロヒス
- (5) 菌絲及ビ花粉管ノ向化性
- (6) 新發見ノ二三ノ「ゴム」植物
- (7) 有毒仙人掌類主トシテ *Anhalonium Lewinii* 及ビ同類屬ノ種ニ就テ
- (8) *Physostigma* 屬及ビ其產地
- (9) 歐洲新來植物ナル北米「ブレーリー」地方産ノ二種ノ “*Nachtschatten*”
- (10) *Hymenolichenen*.
- (11) 八孢子ヲ有スル「アルコール」醱酵素 (*Schizosaccharomyces octosporus*.)
- (12) 「プランクトン」航海ノ際ニ得タル海中ノ「バクテリア」
- (13) 「フォルム、アルデヒード」ヲ植物體保存液ニ應用スルコト

C. Hoffmann, Botanischer Bilder-Atlas. II. Auflage (18 Lieferungen à 1 Mk.). Stuttgart.

本冊畫グトコロノ彩色石版畫及ビ木版トモ最良ニハアラザルモ亦頗ル鮮美ナリ、デカンドル氏ノ分類式
ニヨリテ記述シ初學者ニ便ナリ、

Willkomm, Pflanzenatlas. (15 Lieferungen à 50 Pf.) Ekingen b. Stuttgart.

本圖ハ前者ニ比スレバ小ニシテ且ツ劣レリ、

Edm. Michael, Führer für Pilzfunde. Ausgabe A. 8 Mk. Ausgabe B. 6 Mk. Zwickau.

本冊ハ歐洲ニ於ケル食用菌蕈ノ圖解ニシテ(解説附)實物自然大ノ彩色畫ナリ、畫ト印刷ト共ニ善美ヲ盡シ鮮明美麗眞物ヲ欺クニ足ル菌蕈圖說ノ類少ナカラスト雖モ此冊子ノ如ク善良精妙ナルモノ少ナシニ様ニ出版シA版ハ學校用ニシテ五枚ノ掛圖トナシ四十七ノ菌類ヲ載ス、B版ハ懷中用ノ小冊子ニシテ解説ヲ附セリ、日用必携書ノ一ナリ、

A. Tschirch und O. Oesterle, Anatomische Atlas der Pharmakognosie und Nahrungsmittelkunde. ca. 16-20 Lieferungen à 5 Tafeln 1.50 Mk. Leipzig.

藥用植物解剖ニ於テ著名ナルルチシ氏及ヒエステルレ氏ノ合著ニシテ大版ノ圖說ナリ凡百ノ藥材及ヒ食用品等ヲ精覈ニ顯微鏡下ニ檢セル解剖上ノ密圖ニシテ其製藥學、衛生學等ヲ修ムル人ニ必須アルハ論ヲ俟タズ

A. Engler, Die Pflanzenwelt Ost-Afrikas und der Nachbargebiete. Berlin.

本書ハ、Deutsch-Ost-Afrika “ナル一大著述中植物ニ關スルモノヲエングラ一氏ノ編纂スル所ニシテ書中ノ細目ノ記述ハ各専門家ノ擔任ニカ、ル、三大篇ニ分カチ第一篇ハ獨逸領東アフリカ及ビ其近圍ニ於ケル植物分布第二ハ同地方ノ有用植物第三篇ハ現今マテニ發見サレタル同地方ノ植物名稱是レナリ、一部分ツ、陸續出版ス總計凡ソ八十麻内外ナリ、

R. Groppler, Vergleichende Anatomie des Holzes der Magnoliaceen. Bibliotheca Botanica. Heft 31. 1894. 12 Mk.

本書ハ木蘭科植物ノ比較的解剖及ビ「モノグラフヒー」ニテ該植物組織ノ特異ナル點ヲ明了ニ記述セリ松田定久氏ノ同植物ニ於ケル論文ノ刊行ヲ去ル幾許モナシ、

K. Eifert, Ueber die Aufangsweise der sekundären Zellmembranen der Samen bei ihrer Keimung.

Bibliotheca Botanica Heft 30. 1894.

本論文ハ種子發芽ノ際ニ細胞膜後生層ノ溶解スル顯象ニ就テノ研究ニシテ其結果ニヨレバ「チェルローセ」質ニヨレル後生層ニ於テモ發芽期ニ全ク溶解消耗セラル、モノ(ねぎ、たで)ト然ラザルモノトアリ(はうちほまめ)故ニ前者ノ場合ニテハ後生肥厚層質ヲ貯存「チェルローセ」(Reservecellulose)ト見做シ得ルモ後者ノ場合ニテハ然ラス、著者ハ猶澱粉物質^{アミロイド}其他ニ就キテ種々研究ノ結果ヲ報ゼリ、

B. Fischer und C. Brebeck, Zur Morphologie, Biologie und Systematik der Kahmpilze der Monilia

candida Kausen und des Soorerger. Jena. 1294. 4 Mk.

著者ハ該害菌ヲ精密ニ研究シテ其解剖、生理、生態、分類ニ就テ論ゼリ、

G. Loporio, Die Schwärze des Getreides (Landwirth. Jahrb. 1894, P. 969-1008.)

著者ハフランク氏植物生理學教場ニ在リテ該害菌(Cladosporium herbaceum Link.)ノ發生、生理、生態等ヲ研究セリ、著者ハ該菌ヲ試験植物ニ植ウルニ禾本類ノ葉端ノ水分蒸散ヨリ生ズル水滴球ヲ利用シ該水滴ニ菌子ヲ注點セリ菌子ハ發芽ノ後ニ或ハ葉ノ氣孔ヨリ或ハ表皮膜ノ間壁ヲ透シテ入レリ、著者ハ亦植木鉢ノ中央部ニハ病種子(該菌ノ寄生セル)ヲ、周圍ニハ健康ノ種子ヲ蒔キ其發生ヲ檢セルニ後者ノ發芽植物ノ莖葉ハ依然トシテ健全ナルニ其花部ハ該菌ノ侵ス所トナレリ、蓋シ病植物ノ花部ノ(花粉)ヨリ

シテ直ニ傳染シタルモノナラン又該菌ニカ、レル種子ヲ兔、鼠、犬、雞、馬等ニ食セシメシモ毫モ害患
ナカリシ、
Miyoshi.

◎ 雜 錄

○ 植物雜俎

松 村 任 三

日光山植物目錄拾遺

Scelopendrium vulgare Sym.

コタニワタリ 鹽谷郡栗山郷ニアリ湯元ニ於テハ之ヲ

盆栽トス余カ目錄ニナシ

Polypodium tricuspe Sw.

イハオモダカ 中禪寺湖ノ石上ニ生ス余カ目錄ニナシ

Muehlenbergia japonica Steud.

ネズミガヤ 鉢石及ヒ中禪寺ニアリ余カ目錄ニナシ

Panicum acroanthum Steud.

ヌカキビ 鉢石ニアリ余カ目錄ニナシ

Arthraxon ciliare Beauv.

コブナグサ 鉢石ニアリ余カ目錄ニナシ

Pollinia imberbis Hack. var. Willdenowiana Hack.

アシボソ 鉢石ニアリ余カ目錄ニナシ

Pollinia nuda Hack.

サ、ガヤ 鉢石ニアリ余カ目錄ニナシ

Angelica Miqueliana Maxim.

セリモドキ 鉢石ニアリ余カ目錄ニナシ

Swertia bimaculata Clark.

アケボノサウ 中禪寺ニアリ余カ目錄ニナシ 萼四片アリ 倒卵長橢圓

披針形ナリ花弁亦四、其形萼ニ同クシテ白色、黄色ノ一徑ト暗紫色
ノ斑點アリ四雄蕊アリ花弁ヨリモ短シ白糸ニ碧藪ヲ着ケテ美ナリ
ハニ裂シテ 種子ヲ收ム

日光山植物方言

タンペソ ハ オホカメノキ

エチゴブナ ハ ミヤマイヌザクラ

タケミヅモ ミヤマイヌザクラ ナリ 材竹ノ如ク破レテ水木
ノ如シ惡木ノ謂ヒナリ

イシッピ ハ アスナロ ニシテ石檜ノ義ナリ

ヘツビリ ハ ミヤマザクラ

アヲンボウザクラ モ ミヤマザクラ ナリ

トリハマツ ハ ヤマナシ 鳥類好テ此
實ヲ食フ

シロバナ ハ カデカヘデ

南湖ノ砂地ニ一種ノ唇形科植物ヲ發見ス

キバナノクルマバナ 新考和名 一年草ナリ方莖ニシ

テ節下大ニ膨脹スルノ殊標アリ葉腋ニ唇形花ヲ攢簇

スルコト宛然車花ノ狀ニ似タリ淡黃色ノ花冠ハ上唇

淺ク二裂シ其裂片ニ小齒牙アリ下唇ハ深ク三裂シテ

其裂片ノ頭毎ニ微缺アリ中央ノ裂片ニ紫色ノ斑點ア

リ左右ノ裂片ニモ之ナキニアラズト雖モ中央ノ者ヨ

リモ鮮シ花冠ノ外面ニ毛アリ帽ニ生ズルモノ殊ニ長

シ花冠ニ筒アリ長シ四雄蕊アリ殆ト同長花喉ニ臨ム

葯ニツニ別ル子房ハ深ク四裂ス一柱アリ平滑ニシテ

頭三裂シ花外ニ抽出セズ萼ニ七尖アリ頗ル鋭ニシテ

針ノ如シ内外ニ長腺ヲ交ヘテ一種ノ香氣ヲ放ツ五尖

ノ萼モアリ是レ正式ノ者ナリ萼尖ハ殆ト平等ニシテ

敢テ唇形ヲ呈セズ花冠六裂スル者アリ

花冠變化ノ狀ヲ以テ觀レバ天然此處ニ生セサルモノ

ニシテ外國人ト共ニ中禪寺ニ進入セルモノ、如シ因

テ外國ノ書ヲ參考スルニ *Galeopsis Tetrabit* 〇ニ吻

合スル所アリ然シテ *Galeopsis Tetrabit* ハ北海道千

島ニ産シ學友宮部君ノ探檢ニヨリテ既ニ チシマヲ

ドリコ ノ和名アリト雖モ *Galeopsis Tetrabit* ニハ

種々ノ變種アレバ千島ノ産ト異ナレルヤモ圖ラズ茲

ニ形狀ヲ記述シ置テ他日ノ研討ヲ待ツ

土馬騮類和名新考

教育上通俗ヲ旨トシテ土馬騮類百餘種ノ和名ヲ新考

シテ自他ノ採集ニ便セントス形狀殊標ノ記事ハ他日

ニ譲リ先ツ茲ニ名稱ノミヲ列舉スルコト左ノ如シ

(1) センボンゴケ 東京ニ産ス

(2) コマメゴケ 東京ニ産ス

- (3) クチバシゴケ 東京ニ産ス
- (4) クロゴケ 日光金精峠ニ産ス
- (5) ハカバナコケ 東京ニ産ス
- (6) ホヽキゴケ 箱根ニ産ス
- (7) ムカデゴケ 東京ニ産ス
- (8) フサゴケ 箱根ニ産ス
- (9) ミヤマフサゴケ 信州御嶽ニ産ス
- (10) サナダゴケ 東京ニ産ス
- (11) マルバハヒゴケ 日光裏見ニ産ス
- (12) チリメンゴケ 日光霧島ニ産ス
- (13) キヌゴケ 日光ニ産ス
- (14) シノブゴケ 北海道及日光ニ産ス
- (15) コバノキヌゴケ 東京ニ産ス
- (16) ツチノウヘノコゴケ 東京ニ産ス
- (17) シラガゴケ 和州春日山ニ産ス
- (18) アビゴケ 東京ニ産ス
- (19) ウチハチヤウチンゴケ 和州春日山ニ産ス
- (20) ツルゴケ 日光ニ産ス
- (21) タヌキゴケ 日光及箱根ニ産ス
- (22) ホソバミヅゴケ 日光及箱根ニ産ス
- (23) スナゴケ 日光湯元ニ産ス
- (24) ギバウシゴケ 日光ニ産ス
- (25) イタチゴケ 日光ニ産ス
- (26) トラノヲゴケ 日光ニ産ス
- (27) ホソゴケ 東京ニ産ス
- (28) キノウヘノケゴケ 東京ニ産ス
- (29) キノウヘノヒダゴケ 東京ニ産ス
- (30) イシノウヘノヒダゴケ 東京ニ産ス
- (31) ヒナノハヒゴケ 東京ニ産ス
- (32) キクビゴケ 日光ニ産ス
- (33) チャウチンゴケ 箱根ニ産ス
- (34) タマゴケ 日光及箱根ニ産ス
- (35) ツイチゴケ 東京ニ産ス
- (36) タチゴケ 東京ニ産ス

- (37) スギタマゴケ 箱根及日光ニ産ス
- (38) オホチリメンゴケ 東京ニ産ス
- (39) ザラツキキノゴケ 箱根ニ産ス
- (40) リウビゴケ 信州墨澤ニ産ス
- (41) ウスバハヒゴケ 箱根ニ産ス
- (42) マルバノサナダゴケ 日光ニ産ス
- (43) イハダレゴケ 日光ニ産ス
- (44) スノキゴケ 日光ニ産ス
- (45) フデゴケ 日光ニ産ス
- (46) ヒジキゴケ 日光ニ産ス
- (47) ヒナゴケ 東京ニ産ス
- (48) シロゴケ 日光及東京ニ産ス
- (49) ビラウドゴケ 信州淺間山ニ産ス
- (50) ヒメタチゴケ 箱根ニ産ス
- (51) チロミカハキゴケ 東京ニ産ス
- (52) オホヘウタンゴケ 下總ニ産ス
- (53) ミヤマスキゴケ 富士山ニ産ス

- (54) ハリスギゴケ 日光湯元ニ産ス
- (55) タカネスギゴケ 富士ニ産ス
- (56) ミヤマセイタカスキゴケ 信州御嶽ニ産ス
- (57) オホスキゴケ 岩代飯豊山ニ産ス
- (58) ヤマコスギゴケ 箱根ニ産ス
- (59) ホウワウゴケ 越後ニ産ス
- (60) コホウゾウゴケ 箱根ニ産ス
- (61) ハミズゴケ 東京ニ産ス
- (62) ナギナタゴケ 加州白山ニ産ス
- (63) コスギゴケ 東京ニ産ス
- (64) クジヤクゴケ 京都ニ産ス
- (65) シモフリゴケ 富士山ニ産ス

(未完)

○高山ニ生ズル植物ノ葉ノ特徴

高山ニ生ズル植物ノ尋常植物ト自ラ其性質ヲ異ニスル
 コトハ夙ニ諸學者ノ注意ヲ惹キシ所ナルガ此頃 *Boergeren* 氏ガ研究ノ結果トシテ世ニ公ニセシ該植物

ノ葉ノ特徴ヲ舉グレバ高山ニ生ズル植物ノ多數ハ葉ノ
 兩面ニ氣孔ヲ有シ往々通常ノ植物ニ反シ下面ヨリモ却
 テ上面ニ多數ノ氣孔ヲ具フルコトアリ而シテ氣孔ハ決シ
 テ表面下ニ陥没セズ葉ノ組織ハ一般ニ甚ダ鬆疎ニシテ
 「パリセード」組織ハ日光ノ薄弱ナルガ爲メニ其發達頗
 ル微々タリ殊ニ高緯度ニ生ズル者ニ至テハ全ク之ヲ缺
 如スルコトアリ又機械的ノ組織モ甚ダ不完全ナル發達ヲ
 爲シ屢之ヲ缺クコトアリ云々

○南瓜ノ實ノ生長ニ關スル二時期

「たうなす」ノ子房ガ授精シテヨリ成熟スルマデニ其生
 長ニ二時期アリトハ A. P. Anderson 氏ノ唱フル所ナ
 リ其第一期ニハ子房ガ授精後絶ヘズ盛ニ成長シテ其極
 ニ達シ第二期ニハ此成長ノ度ガ日毎ニ減ジ斯ク減ジタ
 ルマ、成熟期ノ初メニ至リ第三期ニハ今マデ減ジタル
 生長ノ度ガ俄ニ勢ヲ得テ増加シ以テ成熟スルナリ而シ
 テ成長ノ極ニ達スル時分ニハ一日間ニ於ケル重量ノ増
 加ハ實ニ七百八十二「グラム」(我二分七厘弱)ナリトゾ

○節ノ向地性彎曲ニ就テ

彼ノ莖節ノ向地性彎曲ヲ呈スルノ狀ハ禾本科植物、
 ヲヨクさ、たで類ノ莖ニ於テ屢目撃スル處ノ現象ナリ
 Balf. 氏茲ニ見ル所アリ諸種ノ植物ヲ集メテ此問題ヲ
 解カンコトヲ勉メタリ其結果ニ依レバ凡ソ彎曲ノ位置
 ハ各植物ニ由テ一様ナラズシテ或ハ節間ノ基底ニ於テ
 スルモノアリ或ハ稀ニ其頂ニ於テスルモノアリ或ハ基
 底ト頂トヲ兼ヌルモノアリ場合ニ依リテハ莖ノ葉ノ基
 底ニテ包マレタル部分ニ於テスルアリ或ハ葉鞘中ニア
 ル節ノ部分ニ於テスルアリ或ハ莖ト葉鞘ト共ニ之ヲ兼
 スルコトアリ此ノ如ク彎曲ノ傾ヲ有スル節ハ一般ニ
 「コレンキマ」ノ頗ル能ク發スルコト、「スクレンキマ」
 及ビ韌皮細胞ノ全ク缺如セルコトニ依テ莖ノ他部ト區
 別スルコトヲ得ベシ又葉鞘ノ性質堅固ナルトキハ其彎
 曲ノ運動ハ成長シツ、アル間ノミニ起ルモ時ニハ既ニ
 充分發達シタル節ニ於テモ猶能ク此向地性感應ノ行ハ
 ル、ヲ見ルコトアリ多數ノ禾本科植物ニ於テハ葉鞘モ莖

モ共ニ此運動ニ與ルモノナリ概シテ言ヘバ此ノ如キ彎曲ノ性質ヲ有スル植物ニ在テハ節ニセヨ節間ニセヨ表皮細胞ハ此運動ヲ爲スニ必要ナラズト雖髓ト厚皮トハ之ヲ行フニ須臾モ缺クベカラザルモノタルヲ知レリ

○飲料水中ノ生物

蒸溜水ヲ除キテハ如何ニ清淨ナル水ト雖多少生物ノ存在スルヲ免レザルコトハ生物學者ノ皆知ル所ナリ曩ニ G. v. Istvanffy 氏ガ澳國ノ飲料水中ニ如何ナル生物ノ含マル、ヤヲ檢セシニ藻類ノ芽胞ハ一年中絶ユル時ナク存在シ殊ニ春秋ノ候ヲ多シトシ降雨ノ後ハ又格別ナリ此藻類ハ重ニ單細胞ヨリ成レルモノニシテ珪藻類、Scenedesmus 屬ヲ多シトス菌類中ニテハ Saprolegnia-ceae ニ屬スル者最多ク是等ハ四時共ニ存在シ其游子ハ常ニ目撃セラル、ナリ以上ハ藻類ト菌類トノ話ナレト此外ニ種々ノ微菌ノ存在スルコトハ決シテ疑ナキヲ信ズ

○茸類ノ分布ニ虫類ノ及ボス影響

下等植物ニハ思ヒ掛ケヌ處ニ分布ノ方法モアレバアルモノナリ彼ノ鳥類ノ木ノ實ヲ啄ミ糞ト共ニ排泄セラレタル種子ハ毫モ其發芽力ヲ失ハズシテ大ニ分布ヲ助ケラル、トハ吾人ノ常ニ見ル所ナレト未ダ蝸牛ヤ蟾蜍ガ植物ノ分布ニ預テ功アルコトハ聞カザリシニ近比 P. Voglino ト云ヘル人ノ以上ノ動物ガ菌類ノ孢子ヲ分布スルコトノ實驗談アリ即チ氏ハ蝸牛ト蟾蜍ヲ解剖セル際其消化器管中ニ Agaricini 中ノ Russula 屬、Tricholoma 屬、及ビ Lactarius 屬等ニ屬スル茸類ノ孢子ヲ數多發見セリ此ニ於テ氏ハ之ヲ取テ培養セシニ何レモ其發芽力ヲ失ハザリシトゾ

○花ノ開閉ニ就テノ實驗

花ニハ暫時開キテ忽チ閉ツルモノアリ或ハ數日ヲ經ルモ猶閉ヂザルモノアリ或ハ朝ニ開キテ夕ニ閉ヅルモノアリ或ハ夜間ノミニ開花スルモノアリ是等ノ花ニ就キ F. Oltmanns 氏ハ周圍ノ有様ヲ變ジテ其開閉ノ時期ニ如何ナル變化ヲ及ボスヤヲ實驗セシニ暫時開キテ忽チ

閉ヅル花ノ場合ニ於テハ之ヲ暗處ニ置ケバ大ニ其開花
 時間ヲ長ムルコトヲ得ベク而シテ晝トカタトカ時期ニ
 依テ開閉スル花ニ似タル有様ヲ呈スルニ至ル又夕刻ニ
 閉ヅル花ノ場合ニテハ夜眼ノ運動ヲ爲ス植物ノ葉ト其
 要點ニ於テ相一致シ夜間開綻スル花ハ人工的ニ光線ヲ
 操ツレバ其開閉ノ時期ヲ左右スルコト難カラズ即チ光
 線ヲ減少スレバ之ヲシテ能ク開カシムルコトヲ得ベク
 光線ヲ増加スレバ之ヲシテ能ク閉ヂシムルコトヲ得ベ
 シ

○茄科植物中ニ含有セララル、「ア

ルカロイド」ノ位置

茄科植物中ニハはしりどころト云ヒきちがひなすびト
 云ヒたばこト云ヒ有毒ノ者多シ M. P. Molle 氏ハ茄科
 植物ノ諸器官中ニ存在スル四種ノ「アルカロイド」即チ
 「アトロピン」、「ヒラスシアミン」、「ヒラシン」及「ビ」ニ
 コチン」ノ分布ヲ研究セシニ是等ハ一般ニ地上ニ出デ
 タル部分ニ擴ガルモ嫩莖嫩葉ノ中ニ最多ク殊ニ表皮ト

維管束鞘トニ著シク凝集セリ又根ニモ見出サルト雖
 是ハ根冠ニアリ生殖器官中ニテハ心皮ト胚球トニ最多
 ク成熟シタル種子ニテハ唯珠皮ニノミアリテ胚若クハ
 胚乳中ニハ決シテ之ヲ見ルコト無カリキ

(以上七件 安 田 篤 報)

○繇條書屋植物雜記 (其二十一)

牧野富太郎

●しろのせんだんぐらノ學名

しろのせんだんぐらハ其學名ヲ *Bidens pilosa* Linn

(= *B. chinensis* Willd.; *Glossogyne chinensis* Less.;

B. leucantha Willd.)ト云フ其舌狀瓣ノ白色ナルト其葉

ノ單羽狀ヲ成セルトニヨリテ直ニ之レヲ普通ノせんだ

んぐら即チ *Bidens bipinnata* Linn. (= *B. Wallichii*

DC.; *B. chinensis* Wall. pro parte)ト區別スルヲ得

シ Maximowicz 氏嘗テしろのせんだんぐらヲ稱シテ

Bidens pilosa Linn. var. *albiflora* Maxim. (inlitt.)ト云

へる、さちらざつぱう、さゝらざつぱう、どうなつ、

どうなす、にょろりノ呼名アリテ此類中最モ早ク本邦

ニ舶載セシ一種ナリ本邦西南暖地ニ在テハ殊ニ能ク生

長シ三冬ノ候ト雖モ霜雪ヲ凌ゲテ猶ホ晏如タリ大舌狀ヲ

成セル節莖ハ其長サ一尺ニ超ヘ深綠色ニシテ節々層重

シ各方ニ突出シテ其上ニ花實ヲ生ズ瓣色黃赤ナリ予ガ

郷國土佐ニ在テハ往々之レヲ廩倉ノ傍ニ種ユ

本品ノ學名ニ至テハ從來世人ノ之ヲ究追セシコト鮮シ

西曆一千七百八十四年ニ出版セル O. P. Thunberg 氏

ノ日本國產植物篇ニ *Cactus Ficus indica* Linn. トシテ

之レヲ收録セシ以來後人タゞ此名ヲ襲フコトアルモ更

ニ複ビ之レヲ討究シテ其正名ヲ確認セシ者アラザリシ

予頃日之レヲ探求シテ始メテ其本名ヲ得タリ即チ *O-*

puntia monacantha Haw. (= *Cactus Opuntia Tuna*

DC.) 是ナリ而シテ此名稱ハ未ダ曾テ日本ニ關セル内

外ノ植物書ニ記入セルアルヲ見ズ本品ハ元來南米ブラ

ジル國ノ産ニシテ其節莖倒卵狀長橢圓形ヲ成シ刺針弧

在シ強直ニノ尖シ花色黃赤ニノ外面紫采アリ而シテ

Sect. *Grandispinosa* Haw. ノ群區ニ屬ス是レ其體上ノ

刺針強大ナレバナリ

前述ノ如ク Thunberg 氏ハ之ヲ *Cactus Ficus-Indica*

Linn. ニ宛ツ然レモ是レ固ヨリ正當ノ見ニ非ズシテ疾

ク既ニ其名ノ適用ヲ錯マレリ該品ハ現時稱スル所ノ

Opuntia Ficus-Indica Haw. ニシテ Sect. *Parvispinosa*

Haw. ニ屬シ鍼狀葉ノ腋ニタゞ鬚毛アリテ針ヲ具ヘズ

節莖卵狀長橢圓形或ハ廣橢圓形或ハ倒卵形ニシテ花色

硫黃、果實ハ内部紅色ニシテ食フ可シ以テ其狀ノ大ニ

さげてんと異ナルヲ見ル可ク殊ニ其刺針無キノ一點ハ

直ニ其不同ヲ表示セルモノト謂フ可キナリ此種モ亦南

米ノ産ニシテ又北米合衆國フロリダ州ノ南部ニ産ス

香港並ニ英領印度ノ土地ヲ其中ニ含有シテ廣ク亞細亞

洲南部ノ地質氣候ニ適應シ以テ此ニ繁殖シテ久シク土

産ノ態ヲ粧ヘル熱帶亞米利加産ノ一品アリ之レヲ *Opun-*

tia Dillenii Haw. (= *Cactus Dillenii* 'Bot. req.'; *Cactus*

indicus Roxb.) ト云フ節莖倒卵狀圓形ニシテ波狀ヲ呈シ其色帶白ナリ東在セル刺針ハ強大ニシテ開出シ黃色ナリ此レモ亦さばてんと異ナルヲ見ル可シ

又 *Opuntia Tuna Mill.* (= *Cactus Bonplandii* H. B. et K.)

アリ南米ノ産ナリ節莖廣キ卵狀長楕圓形ヲ成シ東在セル刺針ハ長鍼狀ニシテ黃色ナリ花ハ銀白色ニシテ淡紅ノ暈アリ其他又タ *Opuntia vulgaris Mill.* (= *Cactus Opuntia* Linn.) アリ北米ノ南部並ニ歐南ノ地ニ産ス全體偃臥シ節莖卵形或ハ倒卵形ニシテ刺針極メテ短細ナリ此等モ亦皆さばてんと同ジカラザルナリ

漢名仙人掌ハ果シテ從來本邦ニ培植セル上述ノさばてんと同物ナリヤ否ヤノ點ニ至テハ之レヲ在來ノ漢籍ニ徴スルモ到底其是非ノ確證ヲ得ベカラズ是レ其漢籍ノ行文極メテ曖昧ニシテ截然其物ヲ的知スルコト能ハザレバナリ然レ予ハ聊カ此ニ之レガ評記ヲ試ミント欲ス

本草綱目卷之二十、草之九、石草類中ニ之レアル仙人

掌草ハ其説文ニ依リ又其圖ニ依ルモ明カニさばてんノ類ニ非ラズ本草綱目啓蒙ニ之レヲさばてんニ宛テシハ何ノ據ル所ゾ蘭山翁或ハ秘傳花鏡ニ圖說セル仙人掌ノさばてん類ナルヲ見テ本草綱目ノ本文并ニ附圖共ニ明カニ別植物ナルニ拘ハラズ之レヲさばてんと爲シタルナラン是レ同名異物ノ二品ヲ取テ之レヲ混視シ以テ一トセルナリ極メテ穩當ト言フ可カラズ岩崎灌園其著本草圖譜三十六卷さばてんノ條下ニ記シテ曰ク「苔類(絲條書屋主人曰ク是本草綱目中ノ苔類部ナリ然レ苔類ニ非ラズシテ石草類ナリ灌園自ラ謬レリ)ノ仙人掌草ハけいぞくさうニシテさばてんノ類ニアラズ」ト云ヘリ此説是ナリ而シテ秘傳花鏡ノ粗圖ニ依レバ同書ノ仙人掌ハ是レ或ハさばてんと同一物ナラン乎然レさばてんに在テハ類似ノ種類多キヲ以テ或ハ同屬中他種ノ品タルヤモ未ダ料リ知ル可ラズ其説文ニ就テ之レヲ驗覈スルモ所説漫然未ダ其如何ヲ判ス可カラザルナリ嶺南雜記ニ記スル所ハタゞ依約其さばてん類タルヲ認ム可キ

而已

今此ニ再ビ其名ヲ整理シテ示セバ即チ下ノ如シ

Opuntia monacantha Haw.

== *Cactus Opuntia Tuna* DC.

== *Cactus Ficus indica* Thunb. non Linn.

== *Opuntia Ficus indica* Miq. n. n. Haw.

== *Opuntia sapoten* Sieb.

== *Saboten.* さぼてん

== 仙人轡(? T. Makino)

○柳屬葉脈ノ研究 大渡忠太郎報

米國ミヅリ植物園第五回報告ヲ閱スルニグラトフ

タ氏(N. M. Glafelder, M. D.)ノ全國産、柳屬ノ葉脈

ニツキテナセル研究ノ報告アリ、該書ヲ見ラレザル人

ノ爲メニ今其概要ヲ叙センニ、全氏ハ

A Study of the Venation of the

Species of Salix described in

Gray's Manual, with Reference
to their Determination.

ト題シ序論ニ於テ其葉脈ノミニヨリテ分類センノ敢
テ出来ベカラザルコトニアラザルヲ論ジ、「吾人ガ人ノ顔
ヲ認識スルヤ顔ノ如何ナル部分ガ如何様ニナレルニヨ
ルカ明ニ之ヲ説明スルコト能ハザルモ尙ホ何故ト云フコ
トナク能ク甲乙ヲ見別クルハ吾人ノ常ナリ。少シク經驗
アル人ナラバ立木ノ枝振ヲ遠方ヨリ眺望セルノミニテ
モ是ハ櫛ナリ彼ハ櫻ナリト指點スベク、一層進ンデ其
何櫛ナリヤモ認識スルハ敢テ難キ業ニアラザルナリ」
全様ノ理由ニヨリ柳ノ葉脈トテモ深ク之ヲ研究セバ甲
乙ヲ識別スル能ハザルニアラザラント云ヒ、次ニ記者
ハ異ナレル二種ニシテ其葉脈甚ダ能ク相類似スルアリ全
一ノ種ニシテ大ニ趣ヲ異ニスル(葉ノ老幼ニヨリ)アルガ
故ニ葉脈ノミニヨリテ柳屬ヲ分類センコトハ強チ完全
ナル法ト云フニアラズ只柳ヲ記述スルニ當リテ聊カ
補助(Supplement)ニ資セントスルニアリト云ヘリ。

葉脈ノウチ記者ノ取リテ以テ標準トセルハ第二次脈 (the *secondaries*) ニテ其排列ノ整不整ニヨリ左ノ三大群ニ分チ相類似セル度ノ順序ニヨリテ左ノ如ク分類シ其 Synopsis ヲ掲ケ而シテ附スルニ透過光線ニヨリ見タル二十二個ノ鮮明ナル寫真版ヲ以テセリ、

GROUP I.—Secondaries regular.

- 1. *Salix alba*, L.
- 2. *S. fragilis*, L.
- 3. *S. lucida*, Muhl.
- 4. *S. phylicifolia*, L.
- 5. *S. Argyrocarpa*, Anders

GROUP II.—Secondaries partly irregular.

- 6. *S. nigra*, Marsh.
- 7. *S. amygdaloides*, Anders.
- 8. *S. adenophylla*, Hook.
- 9. *S. discolor*, Muhl.

GROUP III. Secondaries irregular.

- 10. *S. cordata*, Muhl.
- 11. *S. sericea*, Marsh.
- 12. *S. petiolaris*, Lmitch.
- 13. *S. candida*, Willd.
- 14. *S. mytilloides*, L.
- 15. *S. humilis*, Marsh.
- 16. *S. tristis*, Ait.
- 17. *S. rostrata*, Rich.
- 18. *S. glaucophylla*, Bebb.
- 19. *S. balsamifera*, Baratt.
- 20. *S. purpurea*, L.
- 21. *S. Babylonica*, Tourm.
- 22. *S. longifolia*, Muhl.
- 23. *S. herbacea*, L.
- 24. *S. Uva Ursi*, Pursh.

大患接スルニ、正整トカ不整トカ云ヘル辞ハ元來比較

的ノコナレバ見ル人ノ考ニヨリテ甲ノ整ト見ルモノモ乙ハ以テ不整トスルアルベク、マシテ第一群ト第二群、第二群ト第三群トノ如キニハ往々前後シタキモノスラミユレバ實ニ記者ノ自ラ云ハルモ如クコハ寧ロ正確ナル分類ナリトセラレンヨリモ只葉脈ノ周密ナル研究トノ贊美センコソ至當ナラメ然レモ其葉脈ヲ記述スルニ當リ第一次、第二次ハ愚カ第三次、第四次ノ微細ニ至ルマデ一々其曲直整否ヲ研メラレタルハ實ニ敬服ノ至ナリ、本邦柳屬ノ研究ニ從事セラル、士ハ參考シテ裨益スルトコロ必ズ少カラザルベシ、

◎東京植物學會錄事

去月廿六日午後二時ヨリ植物學教室ニ於テ例會ヲ開キ第一席ニハ理學士白井光太郎氏ノ「紀州旅行談」第二席ニ理學博士神保小虎氏ノ「清國盛京省占領地ニテ植物ヲ採集シタル報告」アリテ四時半過キニ散會セリ

雜錄

○寄贈書目録

明治廿八年十月十五日
以降領收ノ分

- | | | |
|--|-------------|---------|
| 動物學雜誌 | 第八十四號 | 動物學會 |
| 地質學雜誌 | 第二十五號 | 地質學會 |
| 東京醫學會雜誌 | 第九卷第二十、二十一號 | 東京醫學會 |
| 大日本山林會報 | 第百五十四號 | 大日本山林會 |
| 地學雜誌 | 第七集第八十二卷 | 地學協會 |
| 日本藥業新誌 | 第百七十三號 | 衛生社 |
| 氣象集誌 | 第十四年第九、十號 | 大日本氣象學會 |
| 大日本農會報 | 第百六十八、百六十九號 | 大日本農會 |
| 軍醫學會雜誌 | 第七十號 | 陸軍軍醫學會 |
| 昆蟲雜誌 | 第一號 | 昆蟲雜誌社 |
| The Gardeners' Chronicle, Vol. XXVIII; No. 447, 449, 450, 451, 452, 453, 434, 456. 1895. | | |
| The Journal of Botany, Vol. XXXIII, No. 392, 393. 1895. | | |
| The Botanical Gazette, Vol. XX, No. 9. 1895. | | |
| Fertilization of the soil as affecting the Orange in Health and Disease. By H. J. Weber. 1895. | | |
| Water as a Factor in the Growth of Plants. By B. T. Galloway and A. F. Woods. 1895. | | |
| Grape Diseases on the Pacific Coast. By N. B. Pierce. 1895. | | |
| The Grain Smuts: Their Cause and Prevention. By W. T. Swingle. 1895. | | |

subordinary ones at the lateral portions. The latter are probably the secondary formations developed during the growth of the "Masercylinder".

The development of the provisional and the adventitious buds concerned in the formation of the "Masercylinder" is always found accompanied with an indication of local increase of nourishment and also often of local decrease of pressure.

Tokyo, Nov. 18th 1895.

Explanation of PL. VIII.

A photographic plate representing a part of an old Ginkgo tree in the grove of the Mine-hachiman temple, about five miles north-east of the Akabane station. MM main trunk; LL lowest lateral branch; AA vigorous adventitious shoots; 1-20 "Masercylinder" of various sizes.

The "Masercylinder" numbered 12 is the largest one; its lower portion was cut off many years ago at the distance of 1.6 m. from its base, and on the growing margin of the callus at the cut end are seen the beginnings of seven "Masercylinder".

above stated exactly coincide with those of "Maserkropf" or "Kropf-maser" of German authors.

From this, I conclude that the "chichi" of the Ginkgo tree is a pathological formation, a particular form of "Maserkropf" or "Kropf-maser"; and it may be named hereafter "Masercylinder" or "Cylindermaser."

Development of "Masercylinder" or "Cylindermaser".— As to the formation of "Maserholz" in general, many authors, as MEYEN, GÖPPERT, SCHACHT, RATZEBURG, TRÉCUL, DUTROCHET, TH. HARTIG, R. HARTIG, MASTERS, FRANK, SORAUER, &c., have described their own observations. And, as to the origin of "Maserkropf", recent authors seem to agree in the view that the formation of "Maserkropf" may be in some cases, traced back to an aggregation of buds, and, in others, to a simple outgrowth of tissues of the cortex formed without the cooperation of buds. But the Knowledge of earlier stages of development of "Maserkropf" seems to be yet in an imperfect state.

In case of *Ginkgo*, the formation of "Masercylinder" or "Cylindermaser" can be always traced back to either a number of adventitious buds or a "kurztrieb" and provisional buds developed from it.

I may state here the following four cases of the origin of "Masercylinder" or "Cylindermaser":—

1. By the careful study of the numerous sections passing through both the basal portion of the "Masercylinder" grown from a lateral branch and that part of the branch from which the "Masercylinder" grows, I have always found imbedded in the centre of the "Masercylinder" a "Kurztrieb" of many years' growth and a number of provisional buds developed from the "Kurztrieb" through a number of the annual rings of the mother branch and those of the "Masercylinder".

2. The "Masercylinder" formed as a secondary growth of callus formation may be always traced back to a number of adventitious buds developed in the callus.

3. By the study of the "Masercylinder" formed near the insertion of the graft in a grafted Ginkgo tree, I have found the first stage of its development to be the formation of a single adventitious bud.

4. In the smaller "Masercylinder" formed in the root system, I have also found a stronger adventitious bud at the apex and

in the majority of cases, one or two towards the centre suddenly increase in thickness.

A number of elongated parenchymatous masses is commonly found radially arranged in the central portion of the section.

In a longitudinal section these annual rings appear as U-shaped layers of variable thickness. The thickness of each layer gradually increases from the end of both arms of U towards its curved base. At the thickest portion the layer often measures even two cm. The elongated parenchymatous masses are found running across a number of annual rings in a curved course from the axial portion towards the periphery of the "chichi", and some of them reach the cortex. These parenchymatous elements are especially abundant at the tip of the "chichi".

A longitudinal section, passing through both the basal portion of a "chichi" grown from a lateral branch and that part of the branch from which the "chichi" grows, reveals that the annual layers of the "chichi" are the direct continuations of those of the branch. So the entire wood of the "chichi" appears in such sections like a bulged out portion of the wood of the branch.

The tracheides of the wood of the "chichi" present very winding courses, and the medullary rays are increased in their bulk. Thus the regularity of arrangement is greatly destroyed in the elements of the wood portion. The cross section of the wood often shows the longitudinal section of the tracheides; and the longitudinal section of the wood, the cross section of the tracheides; and sometimes a single section cuts through a group of tracheides in all directions.

When the cortex is peeled off, the wood of the "chichi" shows a very wavy surface with a great number of small conical protuberances. A closer examination shows that the parenchymatous masses stated before ends in the interior of these protuberances.

On examining the earlier stages of development of the "chichi", we find always a latent bud at the tip of the small protuberance, and scalariform-reticulate cells among the elongated parenchymatous masses above stated. Thus the small conical protuberances on the surface of the wood of the "chichi" represent the tips of shoots of many years' growth, remaining dormant in the tissue of the cortex.

Nature of "chichi".—Notwithstanding the peculiar form and extraordinary sizes, the mode of occurrence and the anatomical structure

The other peculiarity of this plant is the formation of so-called "chichi" (nipple), commonly met with in old trees. The nature and development-history of the "chichi" have never been investigated. So, it would not be superfluous to give here a brief note of the results of my researches on this monstrous formation of Ginkgo trees.

My observations have been made in Tokyo chiefly and also in many other districts of Central Japan.

The external appearance and mode of occurrence of "chichi" (nipple)—The so-called "chichi" of the Ginkgo tree is a cylindrical or rather elongated conical body with a round tip, generally grown downwards from the underside of a larger branch of the tree, and of various sizes. Smaller ones are in form and size like the tip of a finger, while the largest ones I have measured are 2.2 m. in length and 30 cm. in diameter. It grows either single or in clusters.

In external characters, it agrees with branches of the tree, except that its bark is often cleft into smaller and more irregular pieces; and it is apparently, in young forms in particular, destitute of leaf systems. Thus the general appearance of the "chichi" reminds one of a nipple, a stalactite, or a large aerial root of some *Ficus* (PL. VIII.). In fact, it takes roots and produces leaf system, when it has grown down to the ground.

Its growth is, however, by no means confined to above-ground portions of the tree; I have often met with "chichi" formed in the subterranean portion of the trunk; and sometimes it is also formed in root system.

It is more often formed in old trees, in broken hollows of the trunk, or at the basal portion of strong adventitious shoots. Sometimes it is also formed near the insertion of the graft in grafted Ginkgo trees. In many cases, its development accompanies callus formation.

When its tip comes, during its growth, in contact with some other strong solid body, such as a branch or a portion of the trunk of the tree, the direction of its growth is turned away from the object; and when it passes over the object, it resumes its downward course. In this respect, it apparently behaves like the primary root of any plant.

Anatomical considerations.—In the cross section of a "chichi" of many years' growth, we find a number of annual rings as in a stem or a root. But those nearest the margin are comparatively thin, while,

On the Nature and Origin of so-called "Chichi"
(nipple) of *Ginkgo biloba*, L.

(Preliminary note.)

BY

Kenjiro Fujii, *Rigakushi*.

With PL. VIII.

"*Ginkgo biloba*, the single living type of the Salisburias, stands, as we know, alone, a perfect stranger, in the midst of recent vegetable forms."*

It is a deciduous tree, one of the exceptional cases among conifers. Its leaves, being fan-shaped and dichotomously veined, are closely related to those of ferns such as *Adiantum*. Its distribution is at present limited to Japan and China, and even there it is unknown in the wild state.**

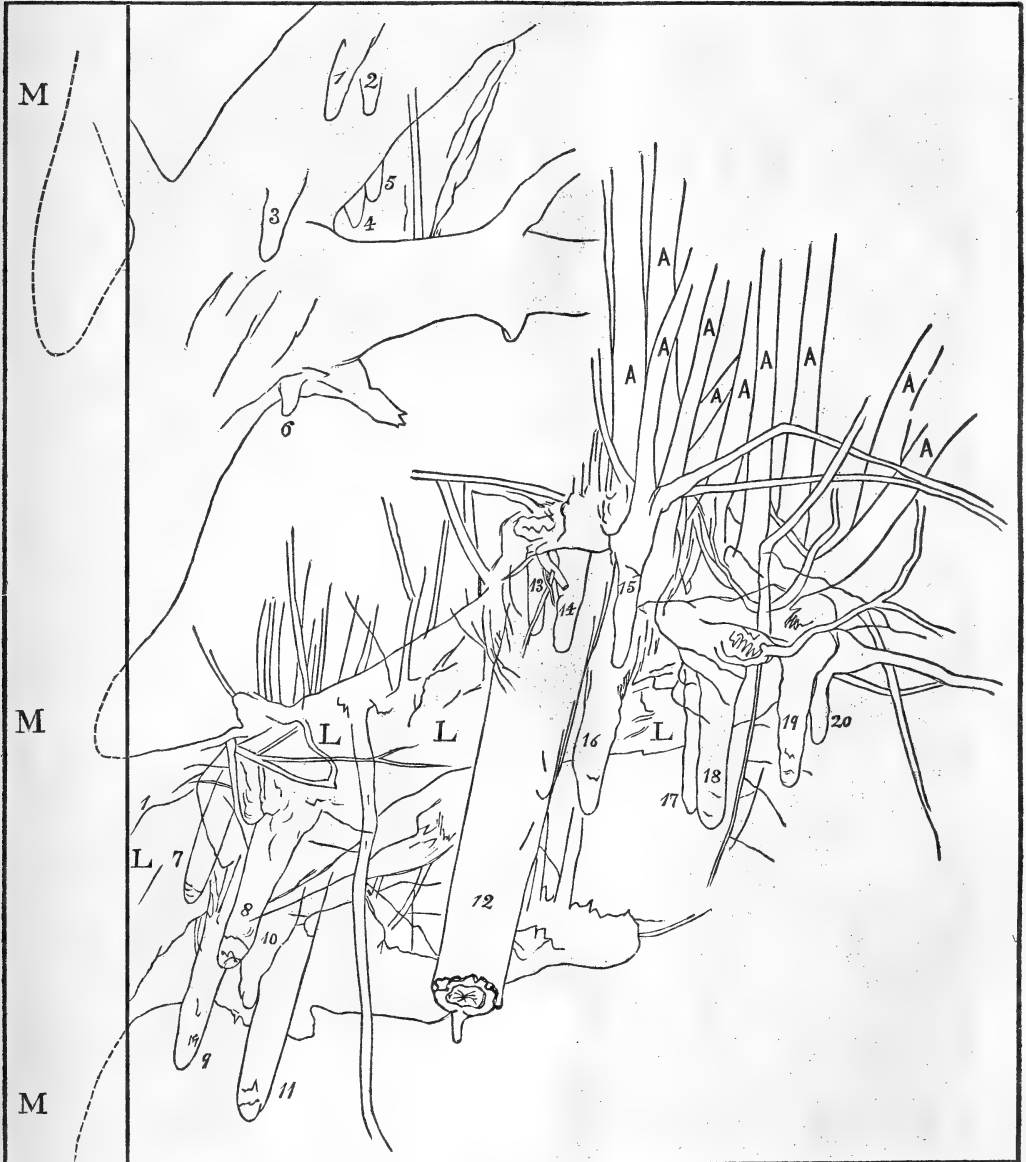
A few years ago, the formation of its fruits upon its foliage leaves was discovered by M. SHIRAI† Since then, I have observed the later stages of development of ovules and also the formation of pollensacs upon its foliage leaves.‡ These facts also remind us of vascular cryptogams.

* Solms-Laubach, Fossil Botany.

** Solms-Laubach states in his Fossil Botany "The tree, unknown in the wild state and preserved only in the groves of Chinese temples, seems to have been kept from extinction by the care of priests." But what caused the extinction of the wild plants of this species, which now flourishes in tolerably wide ranges of climate is a matter of question. The two thoughts can be suggested here in this respect. First, the important parts (endosperm and embryo) of the seeds are eaten by man in large quantities; second, there may have been the extinction of animals that largely feed on the pulpy portions of the seeds and are the chief agencies for the distribution of the seeds. I have often seen crows hold *Ginkgo* seeds between their beaks, but whether they actually feed on the pulpy portions of the seed is very doubtful. At any rate, it is certain that crows have contributed very little to the distribution of the seeds of *Ginkgo*.

† Vol. V, Page 341. (Japanese).

‡ The morphological considerations of such formations of flowers and fruits will be soon



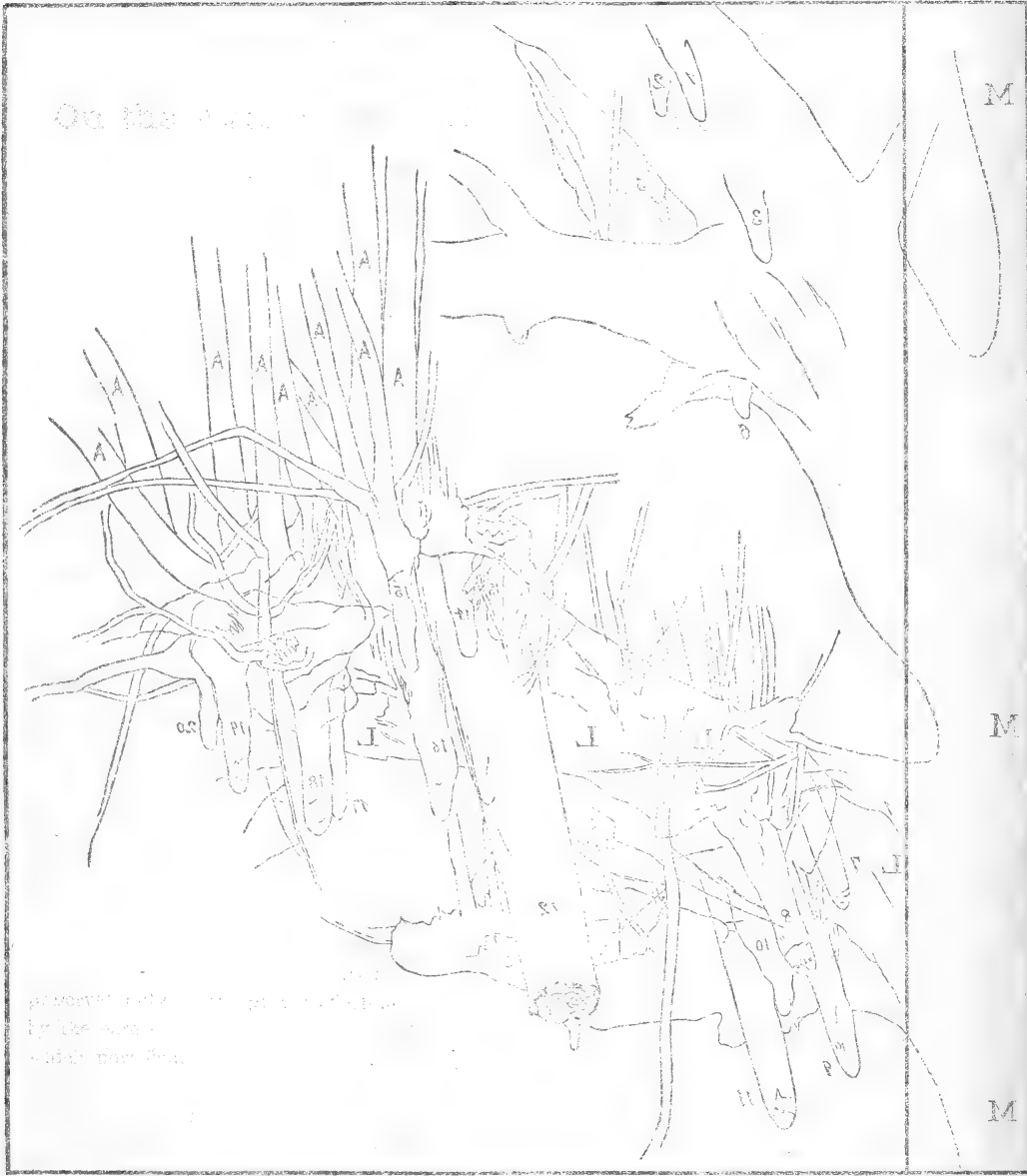


Figure 1. *Phlebotomus* sp. (1/2 natural size).
 1. Head, 2. Antenna, 3. Compound eye, 4. Thorax,
 5. Leg, 6. Abdomen, 7. Genitalia, 8. Tarsus,
 9. Wing, 10. Malpighian tubule, 11. Salivary gland,
 12. Midgut, 13. Ventral nerve cord, 14. Heart,
 15. Dorsal nerve cord, 16. Brain, 17. Ovary,
 18. Testis, 19. Spermatheca, 20. Egg, 21. Larva,
 22. Pupa, 23. Imago.

needs between the
 s very definite
 anatomical in the
 Vol. V, Page 100
 The morphological
 (1910)



理學士白井光太郎君著

訂正 植物病理學 全二册 上 各定價四拾錢

此書ハ分テ上下二卷ト爲シ上卷ニハ總論及各種ノ緊要ナル成長要件ノ過不足ヨリ起ル病患及突然來侵スル有害ナル無機勢力ノ作用ヨリ起ル病患及人爲ノ損害ヨリ起ル病患及其防除法ヲ説キ下卷ニハ顯花寄生植物隱花寄生植物雜草及虫癭等ヨリ起ル諸病及其防除法ヲ記載ス。農稼、林園、樹藝ノ諸業ニ從事スル諸士其他一般植物學ニ志ス人志必讀スベキ良書ナリ
本書上編ハ初版已ニ盡キ久シク愛顧ニ背キ居リシ處今般再版成効候ニ付此段廣告候也

廿八年十一月

發兌書肆

有隣堂
業社
敬
丸善書店
東京市神田區裏神保町
一丁目
東京市日本橋區通三丁目十四番地

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金拾錢
三回以上割引仕候
○本誌毎月一回發兌一册金拾貳錢○六册前金七拾貳錢
○十二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り一册金拾錢
○配達概則
第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セズ
第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ
第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四條 特ニ一册限御入用ノ向ハ壹錢切手十二枚御送致アレバ御届可申候

明治廿八年十一月十九日印刷
明治廿八年十一月二十日發行

版權所有

編輯兼發行者 井上 蘇吉
印刷者 野村 宗十郎
印刷所 株式東京築地活版製造所
發行所 東京市神田區裏神保町一丁目七番地
賣捌所 植物學雜誌編輯所
同所 東京市神田區裏神保町一丁目
丸善書店
東京市日本橋區通三丁目

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治二十一年二月三日内務省許可

明治二十六年六月三十日遞信省認可

Vol. IX.]

NOVEMBER, 20TH 1895.

[No. 105.]

CONTENTS.

- On the Nature and Origin of so-called "Chichi" (nipple) of
Ginkgo biloba, L. By Kenjiro Fujii. 444
- On the Japanese Species of Deciduous Quercus. By M. Shirai.
. 405
- Phanerogams of Shōnai. By T. Kawakami. 414
- Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia.
By K. Sawada. 417

REFERATE:—

T. A. Knight, Botanische Abhandlungen (Ostwald's Klassiker-serie);
A. Kneucker, Allgem. botan. Zeitschrift; A. Dödel, Biologische Atlas
der Botanik. Serie "Jris"; M. Fünfstück, Taschenbuch der
Gebirgs-und alpenpflanzen. M. Wildermann, Jahrbuch der Natur-
wissenschaften (1894-1895) C. Hoffmann, Botanische Bilder-
Atlas; Willkomm, Pflanzenatlas; Edm. Michael, Führer für
Pilzfreude; A. Tschirch und O. Oesterle, Anatomische Atlas
der Pharonakognose und Nahrungsmittelkunde; A. Engler, Die
Pflauzenwelt Ost-Afrikas; R. Goppler, Vergleichende Anatomie
des Holzes der Magnoliaceen; E. Elfert, Ueber die Auflösungs-
weise der sekundären Zellmembranen der Samen bei ihres
Keimung; B. Fischer und C. Brebeck, Zur Morphologie,
Biologie und Systematik der Kahmpilze der Monila candida Kau-
sen und der Soorereger; G. Lopriore, Die Schwärze des Getreides.

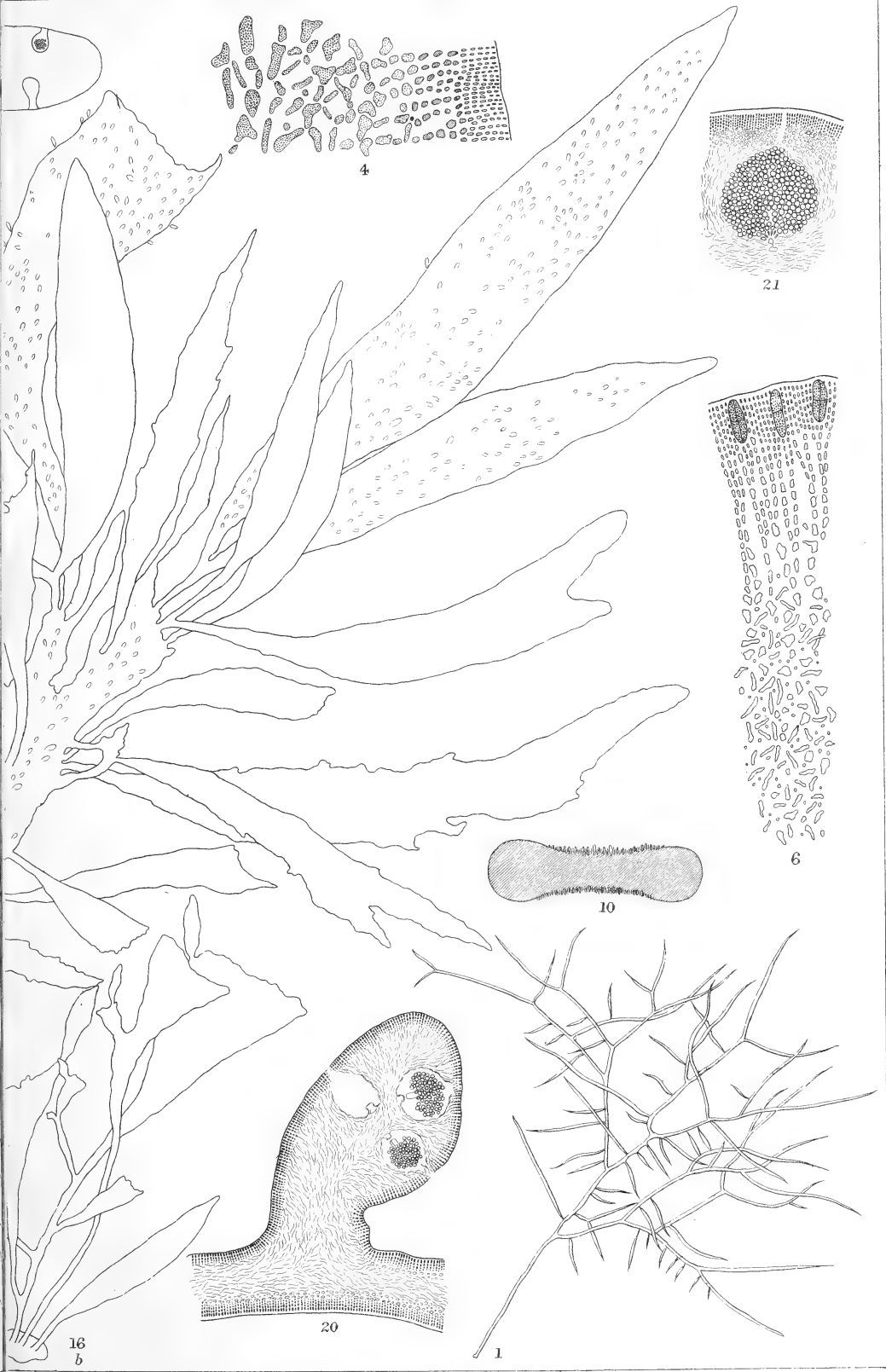
MISCELLANEOUS:—

Short Notes on Plants.—Miscellaneous Notes on the Plants of
"Yōjōsho-oku," XXI.—Proceedings of the Tōkyō Botanical
society.—Publications Received.—etc.

All letters and communications to be addressed to the

TOKYO BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tokyo, Japan.



16
b

20

1

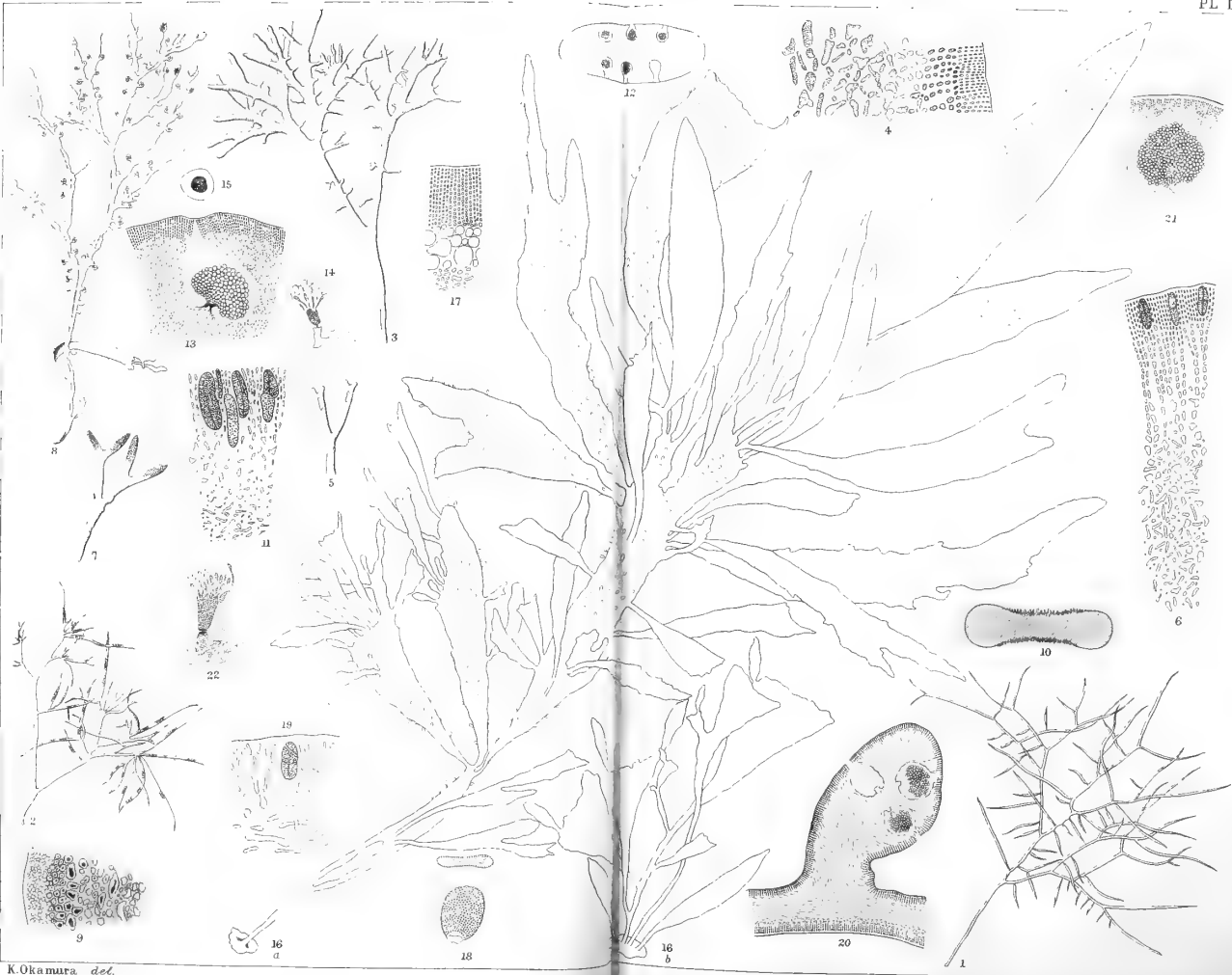
4

21

10

6





植物學雜誌第九卷第百六號

明治二十八年十二月二十日

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. IX.]

December 20, 1895.

No. 106.]

NEW OR LITTLE KNOWN ALGAE FROM JAPAN. (第九版附)

理學博士 岡村金太郎

一昨年十二月二十三日故プロフェッソルシユミツツ氏ニ一書ヲ寄せ以下記ス所ノ植物ノ標品及ビ其記載並ニ圖ヲ送リテ余ノ確定ニ對スル氏ノ意見ヲ求メタリ其植物ハ *Cryptomenia angusta*, *Crypt. Wilsoni?* 及ビ *Polyopes Polyideoides* ニシテ余ノ新種ト斷定セルモノナリ氏ノ意見モ余ノ斷定ト同カリシヲ以テ少シク氏ノ意見ヲ加ヘテ之ヲ *Hedwisia* 誌上ニ載センコトヲ約シタリシガ不幸ニシテ氏中途病ヲ以テ逝キ此約束モ茲ニ畫餅ニ屬シタリ而レモ氏ノ訃音ニ接スルヤ余ハ更ニ此等植物ノ研究ニ從事シ茲ニ之ヲ報ズルノ運ビニ至レリ

I. *GRATELOUPIA DIVARICATA* sp. nov.

體ハ狹細線狀ニシテ扁壓軟骨質ニシテ不規則ニ叉狀ニ分岐シ多少長キ莖ヲ有シ基部及ビ先端ニ狹マレリ枝ノ兩緣ヨリ殆ト水平ニシテ單條若クハ分叉セル小枝ヲ發ス小枝ハ長端不同ニシテ基部溢レリ 四分胞子ハ上部ノ枝及ビ側生ノ小枝ノ中央部及ビ上部ニ聚生ス 囊果ハ頂端ヨリ一二節ノ枝及ビ側生ノ小枝ニ散在ス (細記) 體ハ同一ノ盤狀根ヨリ數多叢生シ各一莖ヲ以テ直立シ七一五セ、メ長ク稀ニ二十セ、メ以上ニ達シ

其基部狭ク基部ヨリ少シク上ニ扁壓シ上部ニ達スル迄殆ト一、五セ、メノ巾ヲ有シ頂端ニ近クニ從テ再ビ狭クナリ遂ニ尖銳ニ終ル 莖ハ多少長距離ノ間分岐スルコナク後數回分叉シ枝々開展ス下部ノ枝ノ距離ハ上部ノモノヨリ長シ 枝ハ往々規則正シク又狀ニシテ扇ノ如ク開展スレモ多クハ不規則ナリ 此不規則ハ管ニ枝ノ廣開スルガ爲ニ然ルノミナラズ側生ノ小枝ノ延長スルガ爲ニシテ此小枝ハ單ニ伸長スルノミナラズ體ノ他ノ部分ノ如ク數回又狀ニ分岐ス 或標品ニ於テハ分岐セル部分稍巾廣クシテ一方ニ反卷シ溝狀ヲナス枝ハ各部兩縁ニ小枝ヲ有シ稀ニ表面ヨリス其長凡ソ一、二セ、メニシテ又狀ヲナシ水平ニ開展シ或ハ互ニ密着シ或ハ稍隔リ或ハ一方ノ縁邊ヨリ生ジ或ハ兩縁ニ生ズ其基部緊約シテ頂端ニ尖リ短クシテ單條若クハ又狀ヲナス

兩種ノ孢子ハ最末ノ枝及ビ側生小枝ニ生ズ 四分孢子ハ小枝ノ中央若クハ上部ニ密生シ各孢子長橢圓形ニシテ皮部ノ糸狀細胞間ニ生ズ 囊果ハ體ノ上部及ビ側生小枝ニ其處此處ニ散在シ下部ノ老成部ニハ生スルコナシ

色ハ暗紫色ニシテ綠色ヲ帶ビ或ハ帶黃綠色ナリ 質ハ硬軟骨質ニシテ乾ス際臺紙ニ附着スルコナシ

此植物ハ J. Agardh 氏ノ分類ニ從ヘバ亞屬 *Chondrophyllum* ニ加フベキモノニシテ *Grateloupia dichotoma*,

Gr. spatulata 及ビ *Gr. Coseintinii* ノ近所ニ置クベキモノナリ此植物ノ數回又狀ニ分岐セル様子ハ能ク *Gr.*

dichotoma トノ關係ヲ示スモノニシテ實ニ之ト近縁ノモノナリ然レモ *Gr. dichotoma* ノ規則正シク又狀ニ

シテ小ナルハ本植物ノ不規則ニシテ大ナルト同ジカラズ且ツ余ガ曩キニ帝國大學ノ腊葉室ニテ見タル此植物ノ標本ニ於テハ其質本植物ノ質ヨリ薄クシテ柔軟ナリ *Gr. spatulata* ハ其大サ其中廣キ枝及ビ其上部ノ籠狀

ノ枝等ニ依テ本植物ト異ナリ Gr. Cosentini ハ主トシテ其體質ノ粘柔ナルト其囊果ノ位置ニ於テ異ナレリ又此等植物ト同ジク此亞屬中ニ屬スルモノニシテ余ガ嘗テ本誌第七卷第七十五號第五版ニ記載シタル Gr. seb-
nis 及ビ Var. carnosu トハ多言ヲ要セズシテ其差異ヲ知ルベキナリ

他ノ方面ヨリ考フルニ本植物ハ各地ニ普キ Gr. filicina ト或關係ヲ現ハス何トナレバ本植物ノ或標品ニ於テ此植物ニ能ク類似シタル外貌ヲ有スルモノアレバナリ此ノ如キモノニアリテハ體ハ著シク伸長シ基部ヨリ長距離ノ間單條ニシテ後一二回隔リテ分叉シ下部ヨリ上部ニ至ルマデ枝ノ兩緣ヨリ長キ枝ヲ發ス此側枝ハ單條若クハ僅ニ一二回隔リテ分叉シ水平ニ開キテ枝ナク或ハ小枝ヲ生ズ故ニ人若シ此ノ如キ標本ヲ見バ一見直ニ之ヲ Gr. filicina ト思フベシ然レモ此ノ如キモノニテモ體質ハ Gr. filicina ヨリハ硬クシテ遙ニ軟骨質ナリ且四分胞子ハ此ノ如キ標本ニ於テモ側生ノ幼枝ノミニ密生シテ老成ノ下部ニハナシ然ルニ Gr. filicina ニ於テハ四分胞子並ニ囊果ハ各部ニ散在ス

以上論スル所ヲ以テ考フルニ若シ余ニシテ前陳セル如キ標品ヲ本植物トナスニ於テ誤ナカリセバ疑フラクハ本植物ハ Gr. filicina ノ一變種ニシテ又狀ニシテ遙ニ軟骨質ナルモノニハアラザルカ然ラザレバ Gr. filicina ト亞屬 Chondrophyllum トノ中間ニ立ツモノ、如ク思ハル

此海藻ハ分布區域狹隘ナルモノ、如シ何トナレバ能登若狹及ビ出雲等ニ於テ數多採集シタレモ未ダ嘗テ太平洋沿岸ヨリ得タルコアラザレバナリ

II. POLYOPES POLYIDEOIDES sp. nov.

體ハ多數叢生シ稍圓柱狀ニシテ下部ハ少シク太ク上部ニ扁壓シ鈍頭ニ終ル枝ハ數回又狀ニ分岐シ 枝々直出

ス枝ノ距離ハ上部ニ近キ程短ク腋角圓クシテ廣開シ通常不規則ニ分岐ス 枝ハ諸處少シク縊レ殊ニ又狀ノ部ニ然リ 枝ノ兩縁ヨリ單條若クハ又狀ノ小枝ヲ地平ニ發出ス其形狀及ビ質ハ共ニ他ノ部ニ同シ 二様ノ子實ハ最末枝ノ兩面ニ長橢圓形ニ密集ス

(細記) 體ハ廣キ盤狀根ヨリ數多叢生シ五—一五セ、メ高ク基部圓柱形ニシテ上部ニ少シク扁壓シ—一—二ミ、メノ巾ヲ有ス 枝ハ扇狀ニ分又シ上部ノ枝密ナリ而シテ各部線狀殆ト圓柱形ニシテ其處茲ニ縊レ廣開シ鈍頭若クハ二裂頭ニ終ル 小枝ハ縁邊及ビ折レタル枝頭ヨリ生シ殆ト地平ニシテ基部緊約シ單條ナリ始メハ小ニシテ小突起ノ如クナレモ後伸長シテ他ノ部ト同一ノ形狀ヲナス

囊果ハ頂部ノ枝ニ集生シ其部ハ他ノ部ヨリ縊レヲ以テ區別セラル而シテ枝ノ兩面ニ長橢圓形ニ集リ後開口ス 仁(胞子)ノ一塊ヲ云)ハ枝ノ皮部ノ下ナル空所ニアリテ球狀ノ一塊ヲナシ糸狀細胞ヲ以テ圍繞セラル此糸狀細胞ノ底部ニ一胎座アリテ之レヨリ胞子ハ放射狀ニ密集ス

四分胞子モ亦頂部ノ枝ノ兩面ニ長橢圓形ニ集リ各長橢圓狀ニシテ十字狀ニ分レ皮部ノ念珠狀細胞系ノ間ニ存在ス

體ハ二層ノ細胞ヨリ成リ内層ハ縱走セル糸狀細胞ニシテ密ニ網羅ス 其縱斷面ヲ見ルニ糸狀細胞ハ網狀ニ連絡シ其目ハ周圍ニ近クニ從テ短クナリ巾ト堅ト同一ナルニ至ル外層ハ分又セル念珠狀細胞系ヨリ成リ粘液質ヲ以テ堅ク密着ス

體質ハ軟骨様ニシテ乾燥スル片ハ殆ト骨様ナリ色ハ暗紅色ニシテ黃色ニ褪色ス

產地 志摩 遠江 土佐

本植物ハ *Polydes Imbricatus* ノ外形ニ酷似スレモ多クノ點ニ於テ異ナレリ而シテ *Polyopes constrictus* トモ又能ク類似スルヲ以テ余ハ其標品ヲ見ル能ハザルガ故ニ唯其記載ノミニ依リ本植物ヲ以テ此植物ナラント思ヒ其學名ヲ付シテ之ヲ故ブロフェソソルシユミッツ氏ニ送り氏ノ意見ヲ問ヒシニ氏ハ左ノ如ク答ヘタリ

「貴下ヨリ *P. constrictus* トシテ御送り相成候植物ハ未ダ充分ニ確定シ難ク候ヘ共喜望峰ノ *P. constrictus* トハ一見全ク別ニ御座候然シ之ト同屬ノモノニハ相違ナキ様相見ヘ候」此植物ト本植物トノ差違ハ余ノ見ル所ニテハ體ノ遙ニ扁平ナルト緊約ノ屢々ナルトニ存スルモノ、如シ近頃ゼーアガード氏ニ依リテ元ト *Cryptonemia* 屬中ニ置カレタルモノ、此屬ニ轉ゼラレタル種即チ *Pol. ligulata*, *P. rigida*, *P. Phyllophora*, *P. decipiens* 及ビ *P. lata* ト本植物トノ差異ハ本植物ト *P. constrictus* トノ差ヨリ更ニ甚シ之ニ依テ余ハ本植物ノ *Polydes Imbricatus* ニ似タルニ依リ本植物ニ與フルニ *Polydesoides* ノ種名ヲ以テシテ之ヲ新種トナサントス

III CRYPTONEMIA ANGUSTA (Harv.) Okam.

(細記) 體ハ數多廣キ盤狀根ヨリ直立シ基部ハ老成ノ標品ニ在テハ往々畧ホ圓柱狀ニシテ上部ニ扁壓シ一〇—二〇セ、メニ達ス

枝ハ又狀ニシテ擴開シ往々三又若クハ多又狀ニ分レ屈曲錯雜シテ腋角圓扁平線狀ニシテ一、五—二ミ、メ廣ク上部ハ腋下少シク擴リ或ハ五ミ、メ餘ニ達シ往々中央線ニ肋ノ如ク厚クナレリ上部ノ枝ハ下部ノ如ク線狀ニシテ鈍頭ニ終リ或ハ大ニ或ハ少ク擴ガリ枝頭圓シ縁邊ハ或ハ全縁ナレモ往々諸處緊約シ小枝ハ枝縁ニ沿フテ隆起セル腺狀突起ヨリ生シ又枝頭ヨリ生ズ側枝ハ通常短カクシテ結實セルモノニテハ圓形ナレモ往々多少伸

長シテ枝トナル上部ヨリ生ズルモノハ殊ニ然リトス

二様ノ實ハ側枝ニ集生ス囊果ハ圓形ナル側生小枝ノ表面下ニ密集シ又頂生及ビ側生ノ枝端ニ生ジ或ハ上部ノ枝ノ上端ニ生ズ四分胞子ハ圓キ側生小枝及ビ上部ノ枝ニ長橢圓形ニ集生シ周邊ハ厚ク隆起シテ縁ヲナス。

體ノ造構ハ甚ダ緻密ニシテ髓層ハ密集セル短キ糸狀細胞ヨリ成リ無色透明ナル細胞間粘質ヲ以テ充填セララル中層細胞ハ稍圓ク角張りタル稍大ナル細胞ニシテ皮部ニ近クニ隨テ小サク成リ以テ皮層ヲナス四分胞子ヲ藏スル小枝ノ造構ハ稍之ト異リ中層細胞ヲ欠ク髓層ハ稍弛緩ニシテ夫ヨリ念珠狀糸細胞ヲ生シ其間ニ四分胞子ヲ藏ス體質ハ軟骨様ニシテ乾燥スルキハ甚ダ固シ色ハ深紅色ニシテ乾燥スルキハ暗紅色ヲナス

產地 房相邊ヨリ土佐ニ至ル迄知ラレタレモ日本海ニハアラズ

本植物ハ曩ニ *Gymnogongrus ligulatus* var. *angustus* トシテハーバー氏ノ記載スル所ナリ (Harvey's Char. of New Algae No. 29) 氏ノ命名セル *Gymnogongrus ligulatus* ハ復 J. Agardh 氏ノ爲ニ *Cryptonemia* 屬中ニ轉ゼラレ更ニ *Polypoies* 屬中ニ移サレタリ (J. Agardh's Till alg. syst. IV, p. 17) 其論據ハ上部ノ枝ニ囊果ノ密集スルヲ以テナリ余ハ先頃他ノ二種ト共ニ本植物ニ *Cryptonemia ligulata* var. *angusta* (Harv.) Okam. ノ名ヲ付シテシユミッツ氏ニ送リ氏ノ意見ヲ問ヒシニ氏ハ之ニ答テ曰ク貴下ノ植物ヲハーバー氏ノ原植物ト比較シタルニハーバー氏ガ日本ヨリ得タルモノト全ク同一ナルヲ知レリ然レモハーバー氏ノセーロンヨリ得タル *Cryptonemia ligulata* トハ別種トシテ區別セラレザルベカラズト」此返書ヲ得テ余ノ確定ノ誤リナラズシテセーロンノ *Cryptonemia legulata* Harv. ト同一種ナラザルヲ知レリ

本植物ノ分類上ノ位置ニ就テ余ハ之ヲ *Cryptonemia* 屬ニ置クベキカ或ハ *Polypoies* 屬ニ加フベキカヲ疑ヘリ

ゼーアガード氏ノ説ニ從フニ (Thil alg. IV, p. 17.) 上部ノ枝ニ密集スル嚢果ヲ有スルコトハ以テ *Polyopes* 屬ヲ *Cryptomenia* 屬ヨリ區別スルニ足ルト偕本植物ニ於テハ嚢果ハ多ク圓ク短キ側生小枝ニ集生シ或ハ又其伸長シタルモノ、上部ニ生ズ且體ノ上部ノ枝端ニモ時トシテ生ズルコトアリ之ニ依テ本植物ハ *Polyopes* 屬ト *Cryptomenia* 屬トノ中間ニ立ツモノ、如シ然レモ側生小枝ニ嚢果ノ生スル場合多キヲ以テ本植物ヲ *Cryptomenia* 屬中ニ於クヲ至當ナリト思考ス

次に余ハ體ノ造構ヲ以テ論セントス *Cryptomenia* 屬ニ在テハ體ハ三層ヨリ成リ皮部ノ小細胞層ト髓部ノ糸細胞層トノ間ニ圓キ細胞ノ中層アリ *Polyopes* 屬ノ植物ニ中層ノ存スルハ余疑ナキ能ハズ試ニ本植物ヲ余ノ前記セル *Polyopes Polydeoides* ト比較スルニ本植物ニハ中層ヲ存スルニ後者ニハ存スルコトナシ而シテゼーアガード氏ハ氏ノ Thil alg. IV, p. 17ニ記シテ曰ク *Polyopes* 屬ノ多數ノモノニ於テハ中層ハ存スルコトナケレモモノ (P. *phyllophora* Harv.) ニアツテハ後著シク發達スト然ルニ故シユニ ヱツ氏ハ *Poly. phyllophora* Harv. ヲ *Carpopeltis*. ト云ヘル新屬トナセリ (Schmitz. *Floriengattung* p. 19) 余ハ上記ノ外參考書ナキヲ以テ如何ナル性質ニ依リテシユニ ヱツ氏ハ此種ヲ新屬トナセルヤヲ知ルニ由ナシ然レモ余ハ敢テ考フルニ氏ハ恐ラクハ中層ノ大ナル細胞アルニ依テ之ヲ新屬トナシタルナラン何トナレバ他ノ性質ニテハ *Polyopes* ノ種トシテ考ヘザルベカラザレバナリ余ハ余ノ蒐集セル標品中 *Cryptomenia* 屬ノモノトテハ只 *Cryptomenia lomatium* ノ一小片ヨリ所有セザルヲ以テ其造構ヲ比較シタルニ中層ニ大ナル細胞アルヲ知レリ尤モ髓層ハ本植物ニ於ケルヨリ遙ニ弛緩ナリ斯ク體ノ造構上ヨリスルモ亦余ハ本植物ヲ *Cryptomenia* 屬ニ置クヲ至當ナリト思考ス

以上ハ本植物ヲ *Cryptonemia* 屬ニ置クニ就テ余ノ論スル所ナリ余ハ比較スベキ標品ヲ所有セザルヲ以テ本植物ト他種トノ關係ニ就テハ茲ニ論スル能ハザルヲ遺憾トス

IV. *CRYPTONEMIA WILSONI* J. AG. ?

(細記) 根ハ吸盤狀 體ハ全ク單一ナルルハ短莖ヲ有スル披針狀ノ葉ニシテ枝ナク往々凡ソ二十五セ、メノ高ニ達シ幅四セ、メアリ然レモ尙ホ普通ニハ體ハ下部細クシテ單條若クハ分岐セル長短不定ノ莖ヲナシ體ノ表面及ビ縁邊ヨリ枝ヲ生ズ(縁邊ヨリ枝ヲ生スルルハ恰モ羽狀ニ分岐セルモノ、如シ)體ノ全長四〇セ、メ餘ニ達シ巾一、五一五セ、メニ至ル枝ハ(又害セラレタル部分ヨリモ生ズ)披針狀若クハ楔形様披針狀ニシテ單一若クハ一回分叉シ各柄ヲ有シ多クハ尖銳ニ終リ稀ニハ鈍頭ナレモ多クハ上部耗損ス其長サ二二セ、メニ至リ一―五セ、メノ巾ヲ有ス縁邊ハ幼キルハ全綠ナレモ老成スルルハ不整トナル囊果ハ多肉ナル長橢圓形ノ有實葉(實ヲ生スル葉)ニ密生ス(長凡一ミ、メ)仁ハ單一團塊ニシテ基部ヨリ射出セル胞子ノ塊ヨリ成ル四分胞子ハ同形ナレモ稍薄キ有實葉ニ密集シ兩面ノ皮部細胞中ニ生ス體質ハ膜様軟骨質ニシテ乾燥スルルハ臺紙ニ附着スルヲナシ色ハ幼者ハ紅色ナレモ老者ハ暗紅色ナリ

產地 江ノ島 志摩等

曩ニ余ハ本植物ヲ其造構及ビ有實葉ノ點ヨリ *Cryptonemia* 屬ノ一種ト思考セリ然レモ其屬ノ數種ノ性質ヲ考フルニ當リ他ノ性質ハ之ヲ *Cryptonemia* ノ種トナスニ於テ差支ナキモノトナスモ本植物ノ外形ハ他ノ種類ヨリ僅ニ異ナルモノアルニ依テ一疑團ヲ生ゼリ依テ余ハ之ニ *Cryptonemia lanceolata* sp. nov. ノ名ヲ付シ之ヲ故シユミツ氏ニ送り氏ノ意見ヲ問ヒ若シ氏ニシテ之ヲ一新種ト斷定スルルハ一適當ナル誌上ニ登載セ

ンコヲ請ヘリ氏ハ此間ニ對シテ曰ク貴下ノ植物ハ一見全ク一新種ナリ然レモ余ハ之ヲ *Cryptonemia* 屬トナスカ或ハ一新屬トスベキヤニ就テ疑ナキ能ハズト然レモ氏ハ如何ナル性質ニヨリテ之ヲ一新屬トナスヤハ余ニ告ゲザリキ余ハ此返事ヲ得テヨリ尙ホ仔細ニ本植物ノ研究ニ從事セリ然レモ余ハ外形ノ異ナルト體ノ表面ヨリ有實葉ヲ生スルトノ二點ヨリ他ニ本植物ヲシテ一新屬タラシムル程著シキ差異アルヲ見ルヲ得ザリキ(余ハ此屬ニ屬スル種類ノ標品ハ見ザレモ *Cryptonemia* ノ諸種ニハ生實葉ハ專ラ體ノ縁邊ヨリ生ズルモノ、如ク其表面ヨリ出ルモノアルヲ知ラズ)而シテ仁ノ造構ヲ研究スルニ當リ仁ヲ圍繞スル糸細胞組織ノ基部ニ一細胞ノ胎座アリテ其上ニ一圓柱狀ノ顆粒狀ニ見ユル細胞アリ之ヨリ胞子ハ射出シテ塊狀ニ集マレルコトヲ知レリ此顆粒狀圓柱細胞ハ以テ本植物ヲ *Cryptonemia* 屬ヨリ區別スベキ一性質ナラント思考シ之ト比較スル爲ニ余ノ命名セル *Cryptonemia angusta* ノ仁ヲ調査シタルニ仁ノ造構ハ本植物ト異ナル所ナキヲ知レリ此外別ニ本植物ニ於テ著シキ點アルヲ見ズ故ニ今假ニ本植物ヲ一新屬ト論スニ當テハ勢ヒ外形ノ異ナルト表面ヨリ有實葉ヲ生スルトノ二點ニ依ラザルベカラズ然レモ斯ノ如キ主要ナラザル性質ハ一新屬ヲ建ツルニ充分ナリトハ思ハレズ

余ノ研究ノ際余ハセーアガード氏ノ設ケタル一新種即チ *Cryptonemia Willsoni* (J. Ag. Till Alg. IV. p. 25) ヲ發見セリ此植物ハ本植物ニ酷似スルヲ以テ余ハ本植物ト此植物ト同一ナラザルヤヲ疑フニ至レリ其脈ナキ大形ノ體、縁邊ヨリ羽狀ニ生スル線樣披針狀ノ葉、其色及ビ造構ハ悉ク此植物ト本植物ト同一物ト考ヘザルヲ得ザラシメタリ氏ノ此植物ニハ實ヲ存セザレモ氏ハ體面ニ點狀隆起物アルコトヲ記セリ即チ「老成セル體ニ時トシテ點狀物ノ散在セルヲ見タリ然レモ余ハ其實ナラザルヲ知ルニ至レリ」ト此點狀物ハ余ガ本植物ニ於

テ嘗テ目撃セル如ク有實葉ノ始マリナルベシト思ハル若シ果シテ然ラバ氏ノ此植物ニモ有實葉ハ體面ニ存スルナルベシ

斯ク余ハ始ニ本植物ヲ *Cryptonemia* ノ一新種ト考ヘ次ニ之ヲ *Schmitzia* ト云ル名ヲ以テ一新屬トナサント欲シタレモゼーアガード氏ノ記載ト比ブルニ當リ更ニ之ヲ *Cryptonemia Willsoni* ト同一ナラン考フルニ至レリ然レモ若シ本植物ニシテ後日之ト同一ナラザルコトヲ知ルニ至ラバ余ハ本植物一與フルニ *Schmitziana* ノ種名ヲ以テシ之ヲ一新種トナサントス

第九版圖解

1. *Grateloupia divaricata*. 新種
 第一圖 孢子ヲ有スル體ノ小ナルモノ 自然大
 第二圖 囊果ヲ有スル體ノ小ナルモノ 自然大
2. *Polyopes Polyileoides*. 新種
 第三圖 實ヲ有セザル體ノ一部 自然大
 第四圖 體ノ縱斷面ノ一部 二百四十倍
 第五圖 四分孢子群ヲ有スル枝ノ上部 自然大
 第六圖 四分孢子群ノ橫斷面 二百四十倍
 第七圖 囊果ヲ有スル枝ノ上部 自然大
3. *Cryptonemie angusta* (Harv.) Okam.
 第八圖 囊果ヲ有スル體ノ一部 自然大
 第九圖 體ノ橫斷面 二百四十倍
 第十圖 四分孢子ヲ有スル枝ノ橫斷 全上ノ一部 二百四十倍
 第十一圖 全上ノ一部 二百四十倍
 第十二圖 囊果ヲ有スル枝ノ橫斷面 少シク郭大シタルモノ 第十三圖 囊果(孢子ハ一部除去シタリ) 少シク郭大シタルモノ
 第十四圖 胎座ノ細胞 二百四十倍
 第十五圖 孢子 二百四十倍
4. *Cryptonemia Willsoni* J. Ag.?
 第十六圖 a 四分孢子ヲ有スル有實葉ヲ存スル體 二分ノ一 第十六圖 b 體ノ他ノ狀態 自然大
 第十七圖 體ノ橫斷面ノ一部 二百四十倍
 第十八圖 四分孢子ヲ有スル有實葉及其橫斷面 少ク郭大シタルモノ
 第十九圖 全上ノ皮部 二百四十倍
 第二十圖 囊果ヲ有スル有實葉ノ縱斷面 少シク郭大シタルモノ

第廿一圖 胎座ノ細胞ヨリ射出スル胞子ノ一塊 廿八倍

第廿二圖 胎座ノ細胞

二百四十倍

○日本藥局方植物篇 (前號ノ續キ)

澤田駒次郎

(試驗)

日本藥局方注解曰(第一)本品ヲ白金板上ニ熱灼スレハ固性物ヲ殘留セスシテ燃化スヘシ」是レ本品ハ無機性汚物ヲ混有ス可カラサルヲ檢明スルモノナリ、(第二)又本品ハ硫酸ニハ全ク或ハ殆ト無色ニ溶解シ硝酸ニハ赤色ヲ呈セスシテ溶解スヘシ」本品ノ少量ヲ時計硝子ニ取り強硫酸ヲ以テ潤ホスニ赤色ヲ呈スレハ撒里聖又黒色ヲ呈スレハ砂糖ヲ混有シ硝酸ヲ以テ之ヲ潤ホスニ血赤色ヲ徴スレバ本品ハ硫酸莫兒比涅ナルカ或ハ之ヲ混有ス、(第三)又石灰乳ニ和シテ煮沸スルニ安母尼亞ノ蒸氣ヲ發ス可カラス」茲ニ安母尼亞ヲ發生スルハ安母紐謨ヲ混和シテ贗僞セルモノト知ル可シ、(第四)又本品ノ冷飽和溶液ハ稀硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀ヲ加フルモ溷濁ス可カラス」本品ニ水ヲ加ヘテ能ク振盪シ其濾液ヲ硝酸ニテ酸性トナシ硝酸銀ヲ加フルニ溷濁スル者ハ格魯兒ヲ混有ス、(第五)本品一「グラム」ニ「硝酸」ニ「容量純酒精」一容量ヨリ成レル混和液七立方「センチメートル」ヲ和シテ微温ヲ與フルニ澄明ニ溶解シ冷ユルモ溷濁ス可カラス」硫酸聖古尼實涅及硫酸規尼實涅ハ此混和液ニ溶解セサルカ故ニ本品若シ此諸物ヲ混有スルハ右ノ混和液ニ澄明ニ溶解セザルヘシ而メ次項ノ試驗ハ亦他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ存否ヲ檢明スルモノナルヲ以テ本項ノ試驗ハ敢テ無用ニ屬スルニ似タリ、(第六)本品二「グラム」ニ水二十立方「センチメートル」ヲ和シ絶ヘズ攪拌シツ、大約六十度ノ温ヲ與ヘ溶解セシメタル後十五度ニ於テ一時間放置シテ濾過シ其濾液五立方「センチメートル」ヲ取り之ニ安母尼亞水七、五立方「センチメートル」ヲ加ヘテ輕ク搖盪スルニ初メ生シタル溷濁更ニ全ク溶解シテ澄明ノ

液、トナル、ヘシ」此一項ハ殊ニ必要ナル檢査ニシテ他ノ規那鹽基殊ニ聖古尼涅、聖古尼實涅、規尼實涅、「ヒドロ」規尼涅等ヲ混有スルモ一定量ニ超ユ可ラサルヲ製限スルモノナリ而シテ此試驗法タルヤケルナル(Kamer)氏ノ方法ニシテ其原理ハ硫酸規尼涅ハ他ノ規那鹽基ノ硫酸鹽ニ比スレハ遙ニ水ニ溶解シ難ク遊離規尼涅ハ之ニ反シテ他ノ規那鹽基ヨリモ容易ク安母尼亞ニ溶解スル性アルニ基由スルモノトス即チ硫酸規尼涅ハ十五度ノ温ニ於テハ大約八百分、硫酸規尼實涅ハ百十分、硫酸規尼實涅ハ九十八分、硫酸聖古尼涅ハ五十四分及ヒ硫酸「ヒドロ」規尼涅ハ二百八十分ノ水ニ溶解シ十五度ノ温ニ於ケル純硫酸規尼涅ノ飽和水溶液五立方「センチメートル」ハ安母尼亞水（十、ベルセント）ノ大約三、五立方「センチメートル」ヲ加フレハ澄明ニ涅和スレテ硫酸規尼實涅ハ同一ノ場合ニ於テ其安母尼亞水七十七、硫酸聖古尼實涅ハ六十二、五、硫酸聖古尼涅ハ一千五百立方「センチメートル」以上ヲ得ルニ非ラサレハ澄明ニ混和セズ、故ニ坊間ニ販賣スル硫酸規尼涅ヲ取り之ヲ全溶スルニハ適ニ不足ナル水量ヲ加ヘテ浸出スルキハ其浸出液ハ常ニ硫酸規尼涅ノ一定量ヲ包有スルノ傍ラ主トシテ夾雜鹽基（聖古尼實涅等）ノ硫酸鹽ヲ含有スヘシ今其濾液ニ安母尼亞水ヲ加フレハ鹽基ヲ沈澱シ更ニ過剩ヲ加フレハ再ヒ溶解ス而シテ茲ニ使用スル安母尼亞水ノ量ハ硫酸規尼涅中ニ含有スル夾雜鹽基ノ量愈、多ケレハ愈、多キヲ要スヘシ而シテ此法ニ由リ硫酸規尼涅ヲ檢査スルニハ其二「グラム」ヲ秤取シ之ヲ長大ノ試験管ニ容レ水二十五立方「センチメートル」ヲ注加シ栓塞シ硫酸規尼涅ト化合シ重複鹽トナリテ存スル他ノ規那鹽基ノ硫酸鹽類ヲ分解セシメンカ爲メ重湯煎中ニ浸シ時々振盪シツ、半時間六十度乃至六十五度ノ温ヲ施シ之ヲ重湯煎ヨリ下シ精密ニ十五度ノ温ヲ有スル水ニ浸シ復々時々振盪シツ、二時間（本條ニハ一時間トアリ）放置シ爾後濾過シテ得タル液ノ五立方「センチメートル」ヲ試験管ニ取り其試験管ヲ徐ロニ動搖シツ、「ビュレット」

ヨリ安母尼亞水(精密ニ 100 「ベル」ヲ滴加シ初メ生成シタル沈澱(規那鹽基)ノ再ヒ澄明ニ溶解スルニ至ルヘシ)而シテケルネル氏ノ實驗ニ由レハ純硫酸規尼涅ニ在テハ茲ニ費ス所ノ安母尼亞水ノ容量ハ三、五立方「センチメートル」トス硫酸聖古尼實涅四「ベルセント」ヲ含有スル者ハ四立方「センチメートル」、其七「ベルセント」ヲ包有スルモノハ七立方「センチメートル」ノ安母尼亞水ヲ要ス而シテ本條ニハ「安母尼亞水七、五立方「センチメートル」云々ト記スルニ由リ藥局方ハ聖古尼實涅ヲ以テ論スルハ其七「ベルセント」ヨリ稍多量ノ混有ヲ許宥スルモノナリ

獨乙藥方ハ他ノ規那亞爾嘉魯乙度硫酸鹽ノ混有量一「ベルセント」ニ超エルモノハ已ニ藥用ニ供スルコトヲ許サレレ日本藥局方ニ於テハ其混有量ノ七「ベルセント」ニ超ユルモ尙ホ且ツ藥用ニ供スルニ足レリトス是レ本邦ニハ曾テ獨乙ニ行ハル、如キ良好ノ硫酸規尼涅ヲ輸入セサルニ由ルモノナランカ而シテ本品中他ノ規那鹽基ノ含有量一「ベルセント」ニ超ユルヤ否ヤハ又左ニ掲クルシェーフェル(Schäfer)及ビテフライ(De Vry)兩氏ノ法ニ由リ之ヲ鑑定スルコトヲ得

シェーフェル氏ノ法ハ規那鹽基ノ中性核酸鹽類ハ各、其水ニ溶解スル比例ヲ異ニシ核酸規尼涅ハ他ノ規那鹽基ノ核酸鹽類ニ比スレバ遙ニ水ニ溶解シ難キカ故ニ硫酸規尼涅ノ水溶液ニ核酸加留膜ノ溶液ヲ加フルヤ硫酸規尼涅ハ核酸規尼涅トナリテ折出スレ他ノ規尼涅鹽基ノ硫酸鹽類ハ核酸鹽ニ變遷セズ依然トシテ液中ニ溶存スルニ基ケルモノナリ今此法ニ由リ硫酸規尼涅ヲ試驗スルニハ其一「グラム」ヲ豫メ秤量セル小硝子壺ニ取リ之ニ水三十五立方「センチメートル」ヲ注加シ煮沸シテ溶解セシメ中性核酸加留膜($C_2K_2O_4 + H_2O$)〇「11」グラム「ヲ水五立方「センチメートル」ニ溶解セルモノヲ之ニ注加シ更ニ水ヲ注加シテ其全量ヲ四十一、四「グラム」

トナシ時々其硝子壘ヲ搖動シツ、半時間二十度ノ温ヲ保テル水中ニ浸シ此際折出シタル沈澱(格羅規尼涅)ヲ濾過シ其濾液十立方「センチメートル」ヲ取り之ニ那篤倫濾液一滴ヲ加フベシ硫酸規尼涅中硫酸聖古尼實涅ヲ混有スルモ其含量一「ベルセント」ヨリ少ナキモノハ毫モ溷濁ヲ生セサレモ一、五「ベルセント」以上ニ至ルモノニ在テハ直チニ溷濁或ハ沈澱呈スベシ

デ、フライ氏ノ法モ亦シエーフェル氏ノ法ト同一ノ理即チ格羅護酸規尼涅ハ他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ格羅護酸鹽類ニ比スレバ難溶性ナルニ基ケル者ナリ而シテ此法ハ硫酸規尼涅二「グラム」ヲ水九十立方「センチメートル」ニ煮沸シテ溶解セシメ温ニ乘シテ之ニ純格羅護酸加留謨(K_2CO_3)〇、五五「グラム」ヲ加ヘ其溶液十五度ノ温ヲ微スルニ至ル迄冷却セシメ茲ニ析出シ來ル格羅護酸規尼涅ヲ濾別シ寬ク壓メ成ルベク母液ヲ滴下シ其濾液ノ全量再ヒ九十立方「センチメートル」トナルニ至ル迄少量ノ水ヲ以テ濾紙上ノ沈澱ヲ洗滌シ其溶液ノ十立方「センチメートル」ヲ取り之ニ那篤倫濾液一二滴ヲ加フ可シ本品中他ノ規那亞爾嘉魯乙度ノ硫酸鹽ノ含量一「ベルセント」ニ過ギザルモノハ澄明ノ混和液ヲ呈スレモ其一「ベルセント」ニ超ユルモノハ多少溷濁ス」トアリ

貯法 大氣ニ觸ル、トキハ風化シテ水分ヲ消失シ又日光ニ感ズルトキハ漸次類褐色ヲ呈スルニ至ル故ニ暗色ノ硝子壘中ニ密閉シ貯フベシ

(以下次號)

○新著「レフェラート」

理科大學教授
理學博士 松村 任三 編著

改正 增補 植 物 名 彙

東京 丸善株式會社 發兌

著者カ日本植物名彙ヲ編セルハ今ヨリ十一年前即チ明治十七年ノ初ナリ當時本邦植物ノ學名ヲ編彙セル精覈ナル成書ナキノ秋ニ際シ該書ノ世ニ公ニセラレタルハ獨リ我邦植物學者ヲ益シ又一般博物學者、農學者、林學者、藥學者等ヲ裨益セシノミナラズ亦大ニ海外植物學者ノ參考トナリ引用セラル、ト多シ爾來今日ニ至ル十有一年ノ間本邦「フロラ」ノ探檢大ニ洽キニ至レルト共ニ植物ニ種數ノ發見セラル、モノ頗ル多ク又分類學上ノ進歩ニ從ヒ舊名ノ改正、科屬ノ變換ヲ致セルモノ少ナシトセズ又一方ニハ外邦產ノ植物ニシテ本邦ニ舶來セルモノ愈々其數を増セリ、著者ハ是ニ於テカ新ニ第二版ノ編纂ヲ企テ更ニ規模ヲ大ニシテ内外產ノモノニ係ハラズ和漢ノ名稱アルモノハ之ヲ取リテ學名ヲ擧ケ此ノ如クニシテ偏ク編成シタレバ其網羅スル所ハ第一版ニ於ケルガ如ク唯本邦植物ニ止マラズシテ汎ク外產ノ種類ヲモ含ムニ至レリ是レ著者ガ自序ニモ言ヘルガ如ク日本ノ二字ヲ削リテ單ニ植物名彙ト題セル所以ナリ植物學名ノ編次ハ第一版ノ如クABC別ケトナシ記載セル種數總計三千三百九十一種ニ及ビ之ヲ第一版ニ比スレバ更ニ九百八十五種ヲ増セリ今本版即チ第二版ニ就テ特ニ改訂増補セルノ諸項ヲ列記センニ(第一)本邦產ノ植物ハ太キ字體ニテ印刷シ外邦產ノモノハ悉ク「イタリク」體ヲ用ヒタリ又未ダ我邦ニ種植ナキモ已ニ其名稱ノ世ニ知ラレタルモノハ「イタリク」ノ頭ニ星稱ヲ附セリ(第二)漢名ハ一々其出所(Literatur)ヲ舉ゲ又和名ノ方言ハ特ニ之ヲ記別セリ(第三)第一版ニ記載セル學名ハ高等隱花植物(羊齒、石松、木賊類等)ニ止レモ本版ニテハ更ニ區域ヲ廣メ下等隱花植物(蘚苔、地衣、菌茸、水藻等)ニ及ベリ(第四)分類法式ハ本版ニテハ改メテエングラ(Engler)氏ニ據レリ、(第五)卷首ニエングラ(Engler)氏植物綱目一覽ヲ掲ケ一々譯稱ヲ附シ又學名ヲ命セル植物學者ノ人名略字解アリ是レ皆ナ本書ヲ使用スルモノニ必須ナルハ言ヲ待タス而シテ其最モ讀者ニ有用ナルハ和歐兩種ノ參考書目ナリ其中第一ハ歐

交植物書目ニシテ本邦植物ニ關係ヲ有セルモノ、書名三百十七ヲ列舉セリ次ニ邦文本草書類(明治以前ノ著述ニ係ルモノ)ハ三百十三種ノ題目ヲ掲ケ一々著者名及ビ出版年月若クハ編纂年月ヲ載セタリ」以上諸項ハ今回刊行ノ本書ニ就テ認ル所ノ主點ニシテ要スルニ著者ガ現今我邦植物學進步ノ度ニ適應シテ新ニ增訂ヲ加ヘタルモノナレハ其完備精密ナルハ論ヲ竣タサレハ本書ガ植物學專門家ニ取リテ坐右ノ必携タルノミナラズ又稍^レ之ト關係アル諸學科ヲ修ムル人ノ需用ヲ充タスニ餘アリ本書ニシテ學問界ヲ益スル此ノ如クナラバ著者多年ノ勞豈徒然ナランヤ

(三) 好學

◎雜錄

○植物雜俎

土馬駿類和名新考(承前)

松村 任三

- (66) ヒノキゴケ 豆州天城山ニ産ス
- (69) コタチゴケ 日光ニ産ス
- (72) ヒメシノブゴケ 日光ニ産ス
- (75) ネチクチゴケ 東京ニ産ス
- (78) エビゴケ 箱根ニ産ス
- (81) ラシヤゴケ 淺間山ニ産ス
- (67) コヒノキゴケ 小笠原島ニ産ス
- (70) ナシマスギゴケ 千島ニ産ス
- (73) クサゴケ 日光ニ産ス
- (76) チヤボスギゴケ 日光ニ産ス
- (79) コチバミゴケ 攝津ニ産ス
- (82) ラセイタゴケ 箱根ニ産ス
- (68) ヘウタンゴケ 東京ニ産ス
- (71) ミヤマハヒゴケ 御嶽ニ産ス
- (74) マルバハヒゴケ 日光ニ産ス
- (77) オホタテゴケ 箱根ニ産ス
- (80) サハゴケ 日光ニ産ス
- (83) ヒメスナゴケ 湯殿山ニ産ス

- (84) ヒメトラノヲゴケ 湯殿山ニ産ス
- (87) エダフサゴケ 日光ニ産ス
- (90) スギバチヤウチンゴケ 日光ニ産ス
- (93) コウチハチヤウチンゴケ 日光ニ産ス
- (96) クロミゴケ 産地不明
- (99) ナガダイゴケ 箱根ニ産ス
- (102) オホハヒゴケ 伊豆ニ産ス
- (105) イハイトゴケ 美濃ニ産ス
- (108) ヒムロゴケ 伊豆ニ産ス
- (85) ヒメムカデゴケ 霧島山ニ産ス
- (88) カシハバチヤウチンゴケ 日光ニ産ス
- (91) オホバチヤウチンゴケ 日光ニ産ス
- (94) ホソミノハヒゴケ 東京ニ産ス
- (97) キツ子ゴケ 熱海ニ産ス
- (100) 子デゴケ 産地不明
- (103) オホチノミゴケ 熱海ニ産ス
- (106) ゲジゲジゴケ 那智山ニ産ス
- (86) ハリガ子ゴケ 箱根ニ産ス
- (89) ナガバチヤウチンゴケ 日光ニ産ス
- (92) コカラカサゴケ 日光ニ産ス
- (95) ヒメスノキゴケ 駒岳ニ産ス
- (98) ヒメクジヤクゴケ 四國ニ産ス
- (101) ハナガゴケ 全上
- (104) オホミヅゴケ 箱館ニ産ス
- (107) コバカウヤノマンチングサ 駒岳ニ産ス

○いてふノ乳附いてふノ絶滅ノ

原因 (前號英文摘譯)

いてふガ現植物界ニ於テ只獨リ奇異ノ觀ヲ呈スル他國
 人ノ如シトハ學者ノ既ニ認定スル所ナリ其種々ノ特點
 ノ中彼ノ乳房ノ如キモ他ニ見サル所ナリ此乳ノ性質發
 生等ニ就キ著者ノ研究ニヨレバ乳ハ老木ニ多ク枝ヨリ
 モ幹ヨリモ又根ヨリモ生ジ或ハ人工的ニ之レヲ生ゼシ

ムルヲ得ルヲモアリテ其解剖上ノ構造乃其習性ニ於
 テ概ネ所謂木癭 (“Maserkropf”) ト一致スト云フ故ニ
 てふノ乳房ハ木癭 (“Maserkropf”) ノ特別ノ形ニ外ナラ
 ズ而シテ著者ハ之レヲ “Maserylinder” 又ハ “Cylinder-
 Maser” ト名ケタリ

其發生ノ初期ハ只一ノ不定芽ニアルヲアリ又數多ノ不
 定芽ノ形成ニアルコトアリ又發育ヲ害セラレタル短枝

(“Kunzried”)及其短枝ヨリ發育シタル潜伏芽ニ起因スルヲアリテ其形成ハ何レモ其極部養料過分ノ徵候ヲ呈シ又タ極部ノ壓力減少ノ徵候ヲモ呈スルヲ多シト云フ。』
 いてふハ其生育前地質時代ニテハ亞細亞ノ他部及歐洲ニテモ類屬アリシヲハ化石ニテ明了ナルニ現今ハ其生育日本及支那ニ限ラレ此二國ニテモ自生無シト云フ然
 凡隨分寒キ地方ニモ生育シ亦琉球ノ如キ熱キ地方ニテモ十分生育スルヲ見レバ其絶滅ノ原因ハ一ノ問題ナリ
 Solms-Laubach氏ハシテふ現時生育スルハ僧侶ノ手ニテ其正ニ絶滅セントスルヲ保護サレテ殘リシモノナルベシトイヘリ
 著者ハ又其絶滅ニ歸セントスルニ至リシ原因ニ就キニ説ヲ考ヘタリ第一ハいてふハ他ノ樹木ノ實ニケ於ルト異ニシテ種子中ノ緊要ナル部分ハ盛ンニ人ノ食トスルカ故ニ其後裔ヲ殘ス可能ハザルヲ第二ハ彼ノ如キ異狀ノ臭氣ヲ有スル種子ノ軟部ヲ食スル動物ハ現存セザル如シ然レモ古來如此種子ノ軟部ヲ食トナシ其堅部ヲ糞

出シテいてふノ種子ノ主ナル散布者タリシ動物(鳥類、獸等)類ノ絶滅シタルヲナリ

○植物ノ生育上ニ磷酸鹽類ノ及ボ

ス影響

Loew氏ハ植物ノ生育上ニ磷酸鹽類ガ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ試験センガ爲メニ先ヅ磷酸鹽類ヲ全ク除キ去リタル榮養基ト磷酸鹽類ヲ共ニ混ジタル榮養基トヲ作り此中ニ形ノ小ナルガ爲メ預メ己レノ體中ニ含有セル磷酸鹽類ヲ忽チ使ヒ切ルヲ得ル種子若クハ植物體ノ一部分ヲ培植セリ氏ノ用キタル植物ハ「ミリメートル」ノ長サヲ有スル「びらさきおもと」ノ葉ト「からし」ノ種子ナリキ其生長ノ結果ヲ見ルニ是等ハ何レモ初メノ間ハ磷酸鹽類ノ有無ニ關ラズ同様ニ生育スレドモ一旦己レノ體中ニ預藏シタル磷酸鹽類ヲ消費シ盡スヤ故ラニ該鹽類ヲ除去シ置キタル榮養基中ノ植物ハ全ク生長ガ止マリ新葉ヲモ生ズルヲナシ是レハ生長點ノ

「メリステム」細胞内ノ原形質ガ磷酸鹽類ヲ得ザルガ爲メニ働クコトヲ得ザル者ト知ルベシ然レモ是等ノ植物ハ永ク生活シ若シ之ニ少量ノ磷酸鹽類ヲ與フレバ再ビ生長シ始ムルナリ又之ニ反シテ磷酸鹽類ノ量ガ多キニ過グレバ植物ニ取テ却テ害アリ故ニ肥料トシテ磷酸鹽類ヲ用フルニハ溶ケ易キ磷酸加里ヨリモ寧ろ溶ケ難キ磷酸石灰ヲ良トス

○單細胞ヨリ成レル生物ノ向熱性

ニ就テ

凡ソ温度ノ爲メニ生物ノ生活ガ左右セラル、コトハ事實ニシテ生物ノ向熱性 (Thermotropismus) ナル者ハ亦向日性、向地性、向水性等ト同ジク原形質ヲ刺激スル一元素トスルコトヲ得ベシ曩ニ Mendelssohn 氏ハ滴虫類中ノ「ばらめしうむ」ヲ取テ試験セシニ〇、〇一度ノ温度ノ差モ猶能ク其運動ニ變化ヲ起サシメ或場合ニハ更ニ微小ナル〇、〇〇三度サヘ向熱性ノ影響ヲ與ヘタリト云フ原形質ノ感應ハ實ニ細巧ヲ極メタリト謂フベシ又温

熱ノミナラズ寒冷モ同様ニ刺激ヲ與フル者トス此ノ如ク温熱ガ滴虫類ノ運動ニ及ボス影響如何ハ滴虫類ノ生存上最必要ナル者ニシテ若シ氣候寒冷ナレバ彼レハ深キニ下リテ暖層ヲ求メ春ニ至レバ暖カキ水面ニ來リテ浮游ス是等ノ運動ヲ起スハ他ナシ總テ原形質ノ向熱性ニ原因スルモノナリ (以上二件 安田 篤報)

○「ヒノキバヤドリキ」ノ寄主

在筑前粕屋 長野 菊次郎

「ヒノキバヤドリキ」ノ寄主ニツキテハ本誌第五十四、五十六、七十五等ノ諸號ニ於テ既ニ其報告アリ然レバ今事新ラシク報ズルノ必要モナケレモ筑前國遠賀郡山鹿村狩尾神社ノ境内ハ之カ寄主ヲ觀察スルニ最モ適當ノ地ナリト信ズルヲ以テ蛇足ノ謗ヲ顧ミズ今茲ニ之ヲ報スルコトハナシス 狩尾神社ハ山鹿村ノ海岸ニアリテ境内ノ樹木ニ寄生植物ノ生ズルモノ甚タ多シ地方ノ人曰ク古昔該所ニ八足

ノ鹿棲ミタリト又曰ク天智天皇ノ御代宗像郡白峰ト云フ山ヨリ八足ノ鹿ヲ狩出シ終ニ當地ニテ捕獲シ之ヲ献上シタリ故ニ鹿角ノ形狀ニ象リテ以テ奇異ノ植物ヲ生ズト日本書紀天智天皇紀ヲ按ズルニ十年夏四月云々是月筑紫言八足之鹿生而即死トアルハ蓋シ地方俗説ノ根據トナリシモノナルベシ余此俗説ヲ耳ニスルコト久シヨリテ先年之ヲ取り寄セテ之ヲ驗セシニコレ紛フ方ナキ「ヒノキバヤドリギ」ナリ奇品ニアラズ稀品ニアラズ他ニ産スルコト少カザルモノナリ是ニ於テ地方ノ俗説終ニ顏色無シ

余明治二十六年八月旅行ノ節同地ニ至リ全神社境内ノ木本植物ヲ取調ブルト共ニ「ヒノキバヤドリギ」ノ寄主ヲ取調ベシニ左ノ如シ

境内ノ木本植物大略三十六種ニシテ其中之カ寄主タルモノ十一種アリ即チ一ヲ符シテ之ヲ表ハス

海洞花科トベラ。厚皮香科、ツバキ、サカキ、ヒサカキ、モクコク、ハマヒサカキ。芸香科サンセウ。

冬青科、トリモチ、漆樹科ハゼノキ、フシノキ。薔薇科、カマツカ、サクラ、ムメ、ナシ。五加科カクレミノ。山菜萹科クマノミヅキ。茜草科ハクサンボク。

石南科、シヤシヤンポ。柿樹科カキ。齋墩果科、ク

ロバイ。木犀科、チズミモチ。馬鞭草科ヤブムラサ

キ。樟科、ヤブニクケイ、イヌグス。胡頹子科ナハ

シログミ、アキグミ。大戟科アカメガシハ。蕁麻科

エノキ、イヌビハ。楊梅科ヤマモ。穀斗科コナラ。

シヒノキ。松柏科アカマツ、クロマツ、スギ、イテウ。

○孟宗竹ノ壽命

長野菊次郎

竹類ハ禾本科ノ一ニ屬スルモノナレバ早晚花ヲ開キ實ヲ結ビテ枯死スルモノタルコトハ古人モ既ニ之ヲ知レルニヤ花鏡ニ竹滿三六十年一易根必結實枯死ト記セリ余ガ知己某萬延元年ニ生ヘ出デシ孟宗竹ニ記號ヲ附ケ置キタリシガ去ル明治二十五年ニ及ヒテ枯死シタリ因テ其年數ヲ數フルニ三十二年若干月ヲ經タリト云ヘリ素ヨリ土地氣候等ノ如何ニヨリ其命數ニ長短アルコト勿

論ナレモ試驗シ易カラザル結果ナルヲ以テ參考ノ爲メ
 之ヲ記スルコ此ノ如シ唯惜ムラクハ枯死ノ前花ヲ開キ
 シヤ否ヤハ某氏ノ之ヲ驗セザリシコトヲ

◎東京植物學會錄事

去ル十四日午後二時ヨリ植物學教室ニ於テ例會ヲ開キ
 幹事先ツ前月末ニ開クベキ例會ヲ都合ニヨリテ本日ニ
 延ベ且ツ今回ヲ以テ本年ノ納會トスルコトヲ陳シ次テ理
 學士藤井健次郎君ハ「いてふノ花ニ就キ形態學上ノ理
 論」ト題シいてふノ葉ニ生ジタル花ノ標本數多ヲ示シ
 テ從來ノ學說ニ付氏ノ意見ヲ懇話セラレタリ尙本論文
 ノ大要ハ鮮明ナル圖版ヲ添ヘテ來一月發刊ノ本誌ニ登
 載セラルベシト云フ

○寄贈書目録 并寄贈金

明治廿八年十一月十日
 五日以降領收ノ分

動物學雜誌	第八十五號	動物學會
地質學雜誌	第二十六號	地質學會
東京醫學會雜誌	第九卷第二十二號	東京醫學會
日本蠶業雜誌	第七十八號	日本蠶業雜誌社
日本園藝會雜誌	第六十七號	日本園藝會
大日本山林會報	第一百五十五號	大日本山林會
地學雜誌	第七集第八十三卷	地學協會
氣象集誌	第十四年第 號十一	大日本氣象學會
東洋學藝雜誌	第七十號	東洋學藝社
訂正植物病理學	上編	理學士 白井光太郎君
教育通志	第二號	教育通志社
農事新報	第八十六號	有隣堂(東京)
尾三水產會報告	第三號	尾三水產會
昆蟲雜誌	第二號	昆蟲雜誌社
Hedwigia, Bd. XXXIV, Heft 4.	1895	
Bulletin de l'Herbier Boissier, Tome III, No. 10.	1895.	
Bulletin du Muséum d'Histoire Naturelle, No. 6.	1895.	
The Botanical Gazette, Vol. XX, No. 10, II.	1895.	
Rivista di Patologia Vegetale, Vol. III.	1895.	
Annuario del R. Istituto Botanico di Roma, Anno VI.—Fasc. I.	1895.	

一金貳圓也

理學士 藤井健次郎君

狀ヲナシテ開ク萼ハ鐘狀五裂、裂片ハ延長ノ頂部ニハ鋸齒アリ花冠ハ唇狀ヲナシ正開ス、上唇ハ兜狀ヲナシ、頂端ヤ、内方ニ彎曲スルモ嘴ヲ出スヲナシ下唇ハ三裂シ中央ノモノハ頂端ニ一缺刻アリ、花絲ニ毛茸ナシ、

59. *Pedicularis resupinata*, L. シホガマギク 小舟港

Lentibulariaceæ. タヌキモ科

60. *Pinguicula vulgaris*, L.!! ムシトリスミレ 得撫島

Caprifoliaceæ. ニンダウ科

61. *Sambucus racemosa*, L., var. *Suboldiana*, Mig.
ニハトコ 色丹島

Campanulaceæ. キキョウ科

62. *Adenophora*, sp. 標品不完全、種名ヲ知ル能ハズ 得撫島

Compositæ. キク科

63. *Anaphalis margaritacea*, Benth. ヤマハハコ 小舟港及眼鏡
64. *Achillea ptarmica*, L. エゾノコギリウサ 眼鏡
65. *Chrysanthemum arcticum*, L. コハマギク 得撫島
66. *Arnica angustifolia*, Vahl! キンクルマ
本道産ノモノニ比シテ毛茸甚多シ 眼鏡
67. *Senecio davuricus*, Schultz Bip. ミヽコウモリ 知利保似島
68. *Senecio palmatus*, Pall. ハンゴンサウ 小舟港
69. *Cnicus Kamtschaticus*, Max. 和名ナシ 小舟港
70. *Saussurea Reideri*, Herd! キタアザミ 小舟港
71. *Picris japonica*, Benth. カウゾリナ 小舟港
72. *Lactuca repens*, Benth. ハマニガナ 小舟港

Cornaceæ. ミヅキ科

46. *Cornus suecica*, L. エゾゴゼンタチバナ 色丹島

Ericaceæ. シヤクナン科

47. *Vaccinium vitis-idaea*, L. コケモロ 小舟港
 48. *Cassiope lycopodioides*, Don. イハヒゲ 知理保以島
 49. *Rhododendron chrysanthum*, Pall.
 キバナシヤクナゲ 知理保以島

Diapensiaceæ. イハムメ科

50. *Diapensia lapponica*, L. イハムメ 知理保以島

Primulaceæ. サクラサウ科

51. *Primula farinosa*, L., var. *Fauriæ Miyabe*.
 ユキワリサウノ一種 得撫島
 52. *Androsace villosa*, L., var. *latifolia, dedeb.*
 和名ナシ 得撫島
 53. *Trientalis europæa*, L. ツマトリサウ 眼鏡及色丹島

Oleaceæ. モクセイ科

54. *Fraxinus Sieboldiana*, Bl. シホヂ 色丹島

Barraginaceæ. ムラサキ科

55. *Myosotis intermedia*, Link. イハムラサキ 得撫島
 56. *Mertensia maritima*, Don. ハマベンケイサウ 眼鏡

Scrophulariaceæ. ゴマノハグサ科

57. *Pedicularis chamissonis* Stev. ヨツバシホガマギク
 ノ一種 知利保似島
 58. *Pedicularis Sudetica*, Will? (D.C. Reg. Veg. X. p.
 568; Le. Fl. Ros. III. p. 286.) 得撫島

莖ノ高サ四五寸、單一ニノ分岐セズ上部ニハ白色ノ
 毛茸ヲ有スルモ下部ニハナシ葉ハ殆ンド皆根生シ、
 莖ニアルモノ少ナシ葉柄ハ甚長ク底部ハ稍ヤ膨大
 ス葉ハ羽狀裂シ各裂片ハ鋸齒ヲ有ス、苞ハ披針形下
 部ハ膨大シ上部ハ鋸齒ヲ有ス頭ハ尖銳ナリ花ハ穂

Rosaceæ. バラ科

34. *Spiræa Kamtschatica*, *Pall.* シモツケサウ 小舟港
 35. *Aruncus sylvester*, *Kostel.*, var. *Kamtschatica*, *Max.*
 ヤマブキシヨウマノ一種 得撫島
 36. *Potentilla fragiformis*, *Willd.* チシマキンバイ 得撫島
 37. *Pyrus aucuparia*, *Gaertn.* ミヤマナカマド 知理保以島

Leguminosæ. マメ科

38. *Thermopsis fabacea*, *DC.* センダイバギ 色丹島

Geraniaceæ. フウロサウ科

39. *Geranium erianthum*, *DC.* フウロサウノ一種
 ズンナイフウロニ酷似ス 眼鏡及小舟港
 40. *Geranium* sp. フウロサウノ一種前者ニ似テ矮小、花
 ノ直径一セメ、ヲ超ヘズ莖葉ハ五六深裂シ各裂片ハ
 披針状ヲナシ鋸齒状ニ深裂、鋭頭ナリ兩面白毛ナリ
 表面殊ニ甚シ 色丹島

Empetraceæ. ガンカウラン科

41. *Empetrum nigrum*, *L.* ガンカウラン 知理保以島

Aceraceæ. カヘデ科

42. *Acer mono*, *Max.* (*A. pictum*, *Thunb.*)
 イタヤカヘデ 眼鏡

Violaceæ. スミレ科

43. *Viola biflora*, *L.* キバナノコマノツメ 得撫島

Onagraceæ. アカバナ科

44. *Epilobium*, sp. ヒメアカバナノ一種葉ハ橢圓形ニシテ
 密生ス對生ナルモ上部ノ二三葉ハ粗ボ互生ス 眼鏡

Umbelliferæ. 繖形科

45. Sp. 葉形略ボシラネニンジンニ類似スルモ花部及果
 實ヲ欠クヲ以テ屬名及種名ヲ確ムルヲ能ハズ 眼鏡

17. *Alnus incana*, Willd., var. *kirsuta*, Spach.

ヤマハンノキノ一種

色丹島

Polygonaceæ. タデ科

18. *Polygonum tenuicaule*, Bisset, et Moore!

ハルトラノヲ

眼鏡

19. *Polygonum viviparum*, L. コモムトラノヲ

眼鏡及知理保以島

20. *Rumex acetosa*, L. スイバ

眼鏡

21. *Oxyria reniformis*, Hook!! マルバギシギシ

(ジンエウギシギシ)

色丹島

Caryophyllaceæ. セキチク科

22. *Cerastium alpinum*, L. var. *Fischerianum*, Regel.

オホバノミ、ナグサ

眼鏡

23. *Stellaria ruscifolia*, W! ハコベノ一種

眼鏡

24. *Arenaria peploides*, L., var. *oblongifolia*, A. Gray.

ハマハコベ

色丹島

Ranunculaceæ. キンポウゲ科

25. *Thalictrum minus*, L., var.

アキカラマツサウノ一種

色丹島

26. *Anemone narcissiflora*, L., var. *villosissima*, DC.

センクワサウ

得撫島

27. *Frollius patulus*, Salisb., var. *genuinus*, l. pe-

dunculatus, Regel. et Fil. キンバイサウ

得撫島及小舟港

28. *Aquilegia glandulosa*, Fisch! ヤマラダマキ

得撫島

29. *Aconitum Fischeri*, Reich. トリカブト

小舟港

Crassulaceæ. ベンケイサウ科

30. *Sedum Rhodiola*, DC. ベンケイサウノ一種

得撫島

Saxifragaceæ. ユキノシタ科

31. *Parnassia palustris*, L. ムメバチサウ

眼鏡及小舟港

32. *Hydrangea paniculata*, Sieb. ノリノキ

(方言サビタ)

色丹島

33. *Ribes petraeum*, Wulf., var. *tomentosum*. Maxim!

エゾスグリ

色丹島

Lickenes. 地衣類

1. Xanthoria (Physicia) parietina, *Th. F.*
2. Ramalina inflata. var. gracilis, *Mull. Arg.*

Equisetaceæ. トクサ科

3. Equisetum hyemale, *L.* トクサ 小舟港

Coniferæ. マツ科

4. Taxus cuspidata, *Slib. et Zucc.* イチキ 色丹島
5. Picea Ajanensis, *Fisch.* 色丹島
6. Abies Sacchalinensis, *Masters!* トマツ 色丹島

Graminæ. 禾本科

7. Elymus mollis, *Trin.* ハマニンニク 眼鏡

Cyperaceæ. カヤツリクサ科

8. Carex sp. スゲノ類 *C. podogyna* ニ酷似ス 色丹島

Liliaceæ. ユリ科

9. *Majanthemum bifolium*, *DC.*, var. *Kamtschaticum* *Frantv. et Mey.*
マヒヅルサウノ一種 眼鏡
10. *Allium victorialis*, *L.* キヤウジャニンニク 小舟港
11. *A. Japonicum*, *Regel?* ヤマラツキヨウ(?) 花部ヲ欠クヲ以
テ果シテ此種ナルヤ否ヤヲ断定スル能ハズ 得撫島
12. *Tofieldia gracilis*, *Fr. et Gav!* チャボゼキシヨウ 得撫島

Orchideæ. ラン科

13. *Orchis aristata*, *Fisch.* 眼鏡
14. *Habenaria* (*Peristylus*) *bracteatus*, *Benth. et Hook.* forma.
Major, *Max?* ネムロチドリ(?) 色丹島

Salicaceæ. ヤナキ科

15. *Salix Pierotii*, *Miq!* ヲノヘヤナギ 色丹島

Betulaceæ. ハンノキ科

16. *Betula Ermannii*, *Cham.*, var. *typica* *Regel.*
サウシカンバノ一種 色丹島

List of Plants

Collected in Kurile Islands by T. Kitahara.

By

H. MATSUDAIRA.

北原多作氏採集ノ千島植物目錄

松 平 齊

千島ハ我國極北ノ群島ニ航路甚惡キヲ以テ古來採集家ノ同島ニ遊ビシモノ甚稀レニ、邦人トシテハ實ニ宮部ドクトル、内田學士(本誌六十及六十一號參照)ノ兩氏アルノミ然ルニ本年夏期知友北原多作氏ハ官命ヲ奉シテ水産取調ノタメ同島ニ出張セラレタル際公務ノ傍植物ヲ採集セラレ以テ其標品ヲ余ニ贈ラレタリ氏ハ實ニ我國第三ノ同島植物採集者ニシテ余ハ深ク氏ニ其勞ヲ謝スル所ナリ、氏ノ採集セラレタルハ色丹(草本ハ七月五日、木本ハ九月中旬)得撫(眼鏡ハ本島ノ北岸(八月一日ヨリ九日迄)小舟港(Boat Harbour)ハ其南部即チ中央部ノ東岸、單ニ得撫島トアルハ本島ノ最南部ノ東岸及西岸(七月十二日)ヲ指ス)及知利保(チリボイ)以(Three brothers)ノ三島ノ海岸及其附近ノ地ニシテ其種類僅々七十餘種ニ過ギザレド宮部ドクトルノ千島植物誌ニ追加スベキモノ十有餘種、殊ニムシトリスミレ、ジンエフギシギシ、キバナノコマノツメ、キンクルマノ如キハ其ノ最著シキモノナリ(此等ノ種類中内田學士ノ既ニ採集セラレタルモノアル可レモ余ハ學士ノ採集目錄ヲ閱スル能ハザリシヲ以テ其ノ如何ヲ知ルニ由ナシ)之ヲ以テ余ハ其目錄ヲ本誌ニ掲載スル必要アルヲ信ゼシカバ遂ニ茲ニ之ヲ公ニスルコトナシヌ余ハ本目錄ヲ草スルニ當リ松村、三好兩教授ノ教示ヲ受ケタルヲ深謝ス

(附言、目錄中「!」號ヲ附シアルモノ、及ビ植物形狀ノ略記アルモノハ宮部ドクトルノ植物目錄ニ追加スベキモノ他ハドクトルノ既ニ採集セラレタルモノナルモ、產地ノ異ナルモノナキニ非ラザルヲ以テ茲ニ之ヲ併載セリ)

Explanation of Figures in Plate IX.

1. *Grateloupia divaricata* sp. nov.

- Fig. 1. A smaller form bearing tetraspores; nat. size.
 Fig. 2. A smaller form bearing cystocarps; nat. size.

2. *Polyopes Polyideoides* sp. nov.

- Fig. 3. A portion of sterile frond; nat. size.
 „ 4. A portion of the longitudinal section of frond; $\frac{240}{1}$.
 „ 5. A terminal portion with tetrasporic sori; nat. size.
 „ 6. A cross-section through the tetrasporic sorus; $\frac{240}{1}$.
 „ 7. A terminal portion with cystocarps; nat. size.

3. *Cryptonemia angusta* (Harv.) Okam.

- Fig. 8. A portion of frond bearing cystocarps; nat. size.
 „ 9. A cross-section of frond; $\frac{240}{1}$.
 „ 10. A cross-section of a tetrasporic ramulus; slightly \times^d .
 „ 11. Portion of the same; $\frac{240}{1}$.
 „ 12. A cross-section of a ramulus bearing cystocarps; slightly \times^d .
 „ 13. A cystocarp, some of spores removed; $\frac{25}{1}$.
 „ 14. A Placental cell; $\frac{240}{1}$.
 „ 15. A spore; $\frac{240}{1}$.

4. *Cryptonemia Wilsoni* J. Ag.?

- Fig. 16a. A frond bearing tetrasporic sporophylls; $\frac{1}{2}$.
 „ 16b. Other forms of frond; nat. size.
 „ 17. A small piece of the cross-section of frond; $\frac{240}{1}$.
 „ 18. A sporophyll bearing tetraspores, with its cross section; slightly \times^d .
 „ 19. Cortical layer of the same; $\frac{240}{1}$.
 „ 20. Longitudinal section through a sporophyll with cystocarps; slightly \times^d .
 „ 21. A mass of spore radiating from a placental cell; $\frac{25}{1}$.
 „ 22. Placental cells. $\frac{240}{1}$.

no specimen of the species of this genus). On examining the structure of nucleus I found that there is, connected with surrounding filamentous plexus, a basal placental cell, on which rests a subcylindrical granular cell, from which a globular mass of spores are radiated. Each spore is enclosed with a colorless perispore, which is also the case in *Crypto. angusta*. The presence of this granular cell I thought to be a characteristic point distinguishing the present plant from the genus *Cryptonemia*. On examining the nucleus of *Cryptonemia angusta* for comparison, (as I have no specimen of *Cryptonemia*, as I have stated in other pages) I found the structure of nucleus to be similar. Otherwise, I could not find any distinguishing character in this plant. If I am to consider the present plant as a new genus, I must take the difference of habit and the presence of sporophylls from the surface of frond into account. But such secondary characters seem to me to be insufficient to establish a new genus.

In the course of my study I found a new species of *Cryptonemia* established by Prof. J. Agardh, *i.e.* *Crypt. Wilsoni*. (J. Ag. Till Alg. Syst. Vol. IV p. 25). It seems strongly to resemble my plant, so much so that I am inclined to consider whether it is not identical with my plants. Its veinless large-sized frond, pinnated by marginal linear-lanceolate proliferations, its color and structure induces me to identify my plant with his species. His plant was not furnished with no fruits, but he mentions the presence of dot like protuberances—"Fronds adultiores nunc maculis punctiformibus sparsis instructas vidi; at frustra fructus indicia certa quaesivi." (J. Ag. l.c. p. 26). Those dot-like protuberances, I suppose to be the beginning of sporophylls, as I met with the similar case in my plant. If this supposition of mine proves to be correct, the sporophylls will be found over the frond in his plant.

Thus at first I considered this plant as a new species of *Cryptonemia*, and in the next place I inclined to establish it in a new genus under the name *Schmitzia*; but lastly, on comparing my plant with the description of *Crypt. Wilsoni* J. Ag., I came to incline to identify the present plant with his species. But as I have not seen his plant, I marked my plant with (?). If my plant afterwards proves to be not identical with it, I shall propose a new specific name *Schmitziana*.

about 1.5 mm long; nucleus simple, globular, lodged in a cavity beneath cortex. Tetraspores forming a dense sorus in a similar but thinner sporophylls, situated among moniliform cortical filaments of the both surfaces, oblong, cruciate.

The structure of frond is dense, consisting of three layers of cells; the medullary, of densely interwoven short filaments; the intermediate, of a few-layers of large roundish cells, often elongating tangentially; the cortical, of vertically seriated subcubic cells, arranged not in dichotomous filaments. The cells of intermediate and medullary layer are filled with highly refractile substance. The structure of a sporophyll differs from that of the sterile portion of frond; the filamentous layer is more loosely constructed, and the cortical layer is composed of vertical dichotomous moniliform filaments in tetrasporic sporophyll, while in cystocarpic ones, the structure of cortical layer is the same as in other portion, the intermediate cells being smaller. In an old specimen I found small dot like protuberances densely scattered all over the surface of frond. I took them, at first, for the younger formation of tetrasporic sori; but, afterwards, on examining fully formed sporophylls, I came to the conclusion that they were in fact the beginning of sporophylls.

Color is rosy-red when young, becoming darker in age. Substance is pergamenous in younger portion, more cartilaginous in older, and the plant does not adhere to paper in drying.

Formerly I considered the present plant to be a new species of *Cryptonemia*, taking into account the structure of frond and the characters of sporophyll, but not without a doubt on the difference of habit. So I sent it to the late Prof. Fr. Schmitz under the name *Cryptonemia lanceolata* to ask him of my determination. In reply, he wrote to me: "Ihre *Crypt. lanceolata* ist augenscheinlich eine ganz neue Art. Ich zweifele jedoch, ob diese Art zu *Cryptonemia* zu stellen ist oder in eine ganz neue Gattung." He wrote to me so, but he did not tell me on what character it should be established in a new genus. On receiving his answer, I entered into more close examination of my plant; but I could not find any difference so important as to be established in a new genus, except the difference of habit and the presence of sporophylls on the surface. (It seems to me that sporophylls in the species of *Cryptonemia* are mostly proliferated from margin, though I have seen

the structure of that fragment in comparison and I found that there is intermediate cells, though the medullary layer is more loose than in the present plant. From the point of view of the structure of frond, also, I venture to suppose that it is more proper to place the present species in the genus *Cryptonemia*.

So far is my reason on placing the present plant in the genus *Cryptonemia*. I can say nothing about the relations of the present plant with other species of *Cryptonemia*, as I have no specimen of that genus to compare with.

4. *Cryptonemia Wilsoni* J. Ag.? Fig 16-22.

Frond membranous, rosy-red, leaflike, without midrib, with a stem, rarely simple and broadly lanceolate, usually expanding into broadly linear cuneate rachis, from whose margin and surface (rather rarely) similarly leafy simple or once-forked pedicellate lanceolate proliferations arise in a pinnate manner. Fruits of both kind collected in a small oblong or roundish sporophyll densely arising from the surface and margin. Cystocarps lodged in a cavity beneath the cortex of thick fleshy sporophyll. Tetraspores forming a dense sorus in more flattish sporophyll.

Hab. Perhaps on rocks in deep tide. Bōshū, Sagami, Shima.

Root a scutate disc. Frond, when quite simple, is a simple lanceolate leaf furnished with a short cylindrical stem, destitute of midrib, often attaining the height of ca 25 cm by 4 cm; more usually, however, it assumes a linear cuneate form, with simple or branched stipe, loaded with proliferations from the margin and surface. The frond then often attains the height of 40 cm or more, and the breadth of rachis is usually 2-3 cm. Proliferations (also arising abundantly from harmed ends) are lanceolate or cuneato-lanceolate, simple or once forked with patent axils furnished with their own pedicels, mostly ending in an acute point, or rarely in a blunt apex, often wasting off at upper portion, attaining the length of some 22 cm by 1-5 cm. Younger proliferations are naked, but in older, again loaded with smaller sorts of proliferations. Margin entire when newly formed, lacerated when old.

Cystocarps are collected in a minute fleshy oblong sporophyll,

In answer to my question he wrote: "Ihre *Crypt. lig. v. angusta* habe ich mit den Original-Pflanzen HARVEY's verglichen und habe dabei erkannt, dass Ihre Alge in der That mit der HARVEY'schen Pflanze aus Japan identisch ist, von der HARVEY'schen Pflanze aus Ceylon aber specifisch getrennt werden muss." From these lines I ascertained that my determination was not mistaken and my plant is not the same with *Crypt. ligulata* Harv. from Ceylon.

Of the systematic position of the present plant I am in doubt, whether it should be placed in *Cryptonemia* or in *Polyopes*. According to Prof. J. Agardh's view (Till Alg. Syst. IV p. 17) the nematheciose collection of cystocarps in terminal segments separates *Polyopes* from *Cryptonemia*. Now, in my plant cystocarps are mostly aggregated in lateral proliferations which are short and roundish, and are also formed like a nemathecium below the apex of lateral elongated proliferations. They are again found below the apex of terminal non-proliferous segments, though not frequent in case. Thus my plants seem to me to stand in an intermediate position between *Polyopes* and *Cryptonemia*. But owing to the prevalence of the presence of cystocarps in lateral proliferous segments, I think that it is more proper to place the present plant in the genus *Cryptonemia*.

Next, I took the structure of frond into consideration. In *Cryptonemia* the frond is composed of three strata, there being an intermediate stratum of roundish cells between cortical minute cells and medullary filamentous layer. In *Polyopes*, I doubt the presence of intermediate cells. On comparing it with my *Polyopes Polyideoides* I find that the present species has an intermediate layer, while in the former there is none. And in J. Agardh's Till Alg. Syst. l.c., the author says: "in plurimis (Polyopis) stratum intermedium vix adest, in nonnullis (Poly. phyllophora Harv.) admodum evolutum conspiciatur." On the other hand, the late Prof. Fr. Schmitz established *Polyopes phyllophora* Harv. in a new genus *Carpopeltis* (Schm. syst. übersich. und bisher bekannt. Gatt. und Florid. p. 19). I do not know on what character he established this species in that new genus, as I have no reference but the above cited; but I venture to suppose that he would perhaps do so on the character of intermediate large angular cells; for it seems to me on its other characters it must be considered as a species of *Polyopes*. I regret that in my collection I have no specimen of *Cryptonemia* but a very small fragment of *Crypt. lomation*. I took

ments in some are linear as in lower portion, ending in blunt or bifid apex or slightly broadened or much more expanded with round apex. Margin is in some specimens subaequal throughout, but more frequently is constricted at different distances. Proliferations arise from glandular elevation along margin, also from terminal portion and more usually from harmed ends. Lateral proliferations usually remain short and roundish in fructified frond, but often elongate into more or less long branches which are more frequently the case in those issuing from the terminal portion.

Fruits of both kinds collected in marginal proliferations in a nematheciose manner. Cystocarps are collected beneath the flattish surface of marginal roundish proliferated sporophylls; they are also found forming a roundish nemathecium beneath the apex of marginal and terminal elongated proliferations and sometimes in the similar position of terminal non-proliferous segments. Tetraspores are aggregated forming an intramarginal sorus in lateral roundish proliferations, whose margin remain sterile and is elevated into a thick rim.

The structure of the frond is very dense; the medullary layer consists of densely aggregated shortish filamentous cells firmly united to each other by hyaline intercellular substance; the intermediate cells are of roundish angular cells which become gradually smaller above, forming a cortical layer. In the sporophyll bearing tetraspores the structure is little different; there is no evident intermediate cell and medullary layer is more loose, from which moniliform filaments arise, among which oblong tetraspores are lodged.

Color is deep blood-red, becoming darker in drying. Substance is strongly cartilaginous becoming very stiff when dried.

The present plant has been formerly described by Prof. Harvey under the name of *Gymnogongrus ligulatus v. angustus* in his Cha. of New Algae No. 29. His *Gym. ligulatus* from Ceylon has been referred to the genus *Cryptonemia* by Prof. J. Agardh (Epicr. p. 162) who, again, transferred it in the genus *Polyopes* (J. Ag. Till Alg. Syst. IV p. 17), on account of the nematheciose aggregation of cystocarps in terminal segments.

I sent the present plant together with other two species to the late Prof. Fr. Schmitz under the name of *Cryptonemia ligulata v. angusta* (Harv.) Okam. to ask his judgement on my determination.

favoured with the following reply: "Die Pflanze, die Sie mir als *Poly. constrictus* sandten, genau zu bestimmen, ist mir aber noch nicht gelungen; mit *P. constrictus* vom Cap. b. Sp. ist diese Pflanze augenscheinlich nicht identisch, doch scheint sie derselben Gattung anzugehören." The difference of the present plant from that typical plant seems to consist in its more flattish and more frequent constrictions at "mostly shortish intervals" (Turn. Fuci III p. 40). From other species of *Polyopes* which have been transferred from the species of *Cryptonemia* by J. Agardh (Till Alg. Syst. IV. p. 17), i.e. *Poly. ligulata*, *P. rigida*, *P. Phyllophora*, *P. decipiens* and *P. elata*, my plant seems to be much more different than it is from *P. constrictus*. Thus I venture to establish the present plant as a new species under the specific name *Polyideoides*, on the supposition of its resemblance to *Polyides lumbricalis*.

3. *Cryptonemia angusta* (Harv.) Okam. Fig. 8-15,

syn. *Gymnogongrus ligulatus* var. *angustus*

Harv. Cha. of New Alg. no. 29.

• Frond rigid cartilaginous, compressed or sometimes thickened in the median line and two-headed, divaricately decomposito-dichotomous. Segments linear or linear-cuneate, here and there constricted, ending in blunt, bifid or ligulate apex, pinnately seriated along the margin with proliferations which form roundish phyllae in fructified frond, or grow up into branches, similar to other segments. Fruits of both kinds collected in marginal proliferations or beneath the apex of terminal segments.

Hab. On rocks in deep tide. Bōshū, Sagami, Idzu, Tōtōmi, Shima.

Fronds, numerous rising from a broad basal disc, the basal portion is often almost cylindrical in older specimens, more flattened and compressed above 10-30 cm high. The ramification is divaricately dichotomous, often tri-polychotomous with widely patent, recurved and entangled segments which have rounded patent axils. Segments are compressed and linear being 1.5-2 mm broad or cuneate beneath forks in upper portion; in some more widened into 5 mm or more in breadth and often thickening in the median line like a costa. Terminal seg-

and substance to segments. Fruits of both kinds collected in an oblong group on both surfaces of ultimate segments.

Hab. On rocks between tide marks; Sagami, Suruga, Tōtōmi, Shima, Tosa.

Fronds numerous rising from an expanded callous disc, 5-15 cm high, cylindrical at base, slightly compressed above, 1-2 mm broad, and are fastigiato-dichotomous, dichotomies being more closer above. Segments are linear-cuneate, almost cylindrical, here and there very slightly constricted, patent, ending in blunt apex or bifid. Proliferations arise both from margin and from harmed apex. They are simple, almost horizontal, constricted at base; at first minute and glandulose, but afterwards elongate and assume the shape similar to other segments of frond.

Cystocarps are collected in terminal segments, which are often somewhat separated from lower portion by constriction. They form an oblong subnematheciouse aggregation on both surfaces, opening afterward by a carpostom; nucleus lodged in a cavity beneath the cortical layer, simple, globular, surrounded by the circumnuclear filaments, at the base of which a placental cell is situated, from which radiates a mass of spores.

Tetraspores also form an oblong sorus on both surfaces of ultimate segments leaving marginal portion sterile; they are oblong, cruciate, immersed among the cortical filaments.

Frond consists of two layers of cells; the inner, of densely interwoven longitudinal anastomosing filaments; in a longitudinal section, filaments are seen to anastomose forming a net-work with elongated meshes, which become gradually shorten outward, the length of meshes almost equalizing their breadth; the outer, of vertical moniliform dichotomous filaments strongly bound together by mucilage.

Substance is carnosu-cartilaginous when recent, almost corneous in drying. Color dark purplish-red, fading to yellowish.

The present plant has a habit very similar to that of *Polyides lumbricalis*, from which, however, it differs in many respects. It seems to me so closely resembled *Polyopes constrictus* that I took my plants for that species, since I relied upon its description, without seeing any specimens of it. On sending my plant under that name to the late Prof. Fr. Schmitz, asking him his opinion of my identification, I was

Cosentini differs chiefly in its more gelatinous substance and the position of Cystocarps. From *Grat. Affinis* and *var. carnosa Okamura* (Bot. Mag. Tokio Vol. VII. No. 75 p. 100 and 101 Pl. V. fig. 3-10), one of the members belonging to this section, it so greatly differs in habit, that there is no need to enter into a minute demonstration.

With *Grat. filicina*, on the other hand, the present alga shows some relations; for, there is, in some specimens, a very close resemblance in appearance between the two species. In such specimens, the frond is very much elongated and remain for a greater length simple; then once or twice forks at longer distances, and the segments from the base to apical portion are beset on both sides with proliferous very elongated, simple or once distantly forked horizontal, distichous branches, either naked or clothed with lesser sorts of ramuli. One may easily take such forms for *Grat. filicina*, though dichotomous ramification is rarer in case in that species. The substance, however, is firmer and more cartilaginous than *Grat. filicina*, and moreover, even in those specimens, tetraspores are collected in proliferous younger branches not in older segments, while in *Grat. filicina*, tetraspores and cystocarps are equally scattered over the frond.

Thus I doubt, on the one hand, whether the present plant may not be a dichotomous and more cartilaginous variety of *Grat. filicina*, if I am not mistaken in referring such forms to this species. On the other hand, the present alga seems to me to be an intermediate form between *Grat. filicina* and the section to which *Grat. dichotoma* etc. belong.

The alga is distributed in a narrow range, having been abundantly collected in Noto, Wakasa and Idzumo, which are provinces along the coast of the Japan Sea, and hitherto has not been brought from the Pacific side.

2. *Polyopes Polyideoides* sp. nov. Fig. 3-7.

Fronds numerous from the same base, firmly cartilaginous, subterete below, somewhat compressed and thickened above, ending in a blunt apex, subfastigiato-dichotomous, dichotomies being closer above, more usually irregularly dichotomous, with patent roundish axils, slightly narrowed here and there, mostly at forks, more or less beset with horizontal simple or forked marginal proliferous ramuli, similar in shape

it again grows narrower, and ends in a sharpish point as it began. Stem is undivided at the base for a more or less long distances, then becomes divaricately dichotomous, the distance between the lower dichotomies being longer than that between the upper ones. Sometimes the ramification is more regularly dichotomous in somewhat flabellate manner, but more usually it is irregular, irregularities being assisted by divaricately decompound segments and by large secondary branches, which have developed from proliferations, either simply elongating or similarly dichotomo-decompound as other portion of frond. In some specimens, segments expand somewhat beneath the forks, being slightly canaliculated. All the branches are beset on both sides (rarely from surface) with proliferous ramuli, usually 1-2 cm long, distichous, scattered, some standing nearer to each other in secund manner, others rather remote; some remain simple and short, others forked. Proliferations are linear constricted at base, tapering at apex. Terminal segments often elongate.

Fruits of both kinds are formed in ultimate segments and proliferous ramuli. Tetraspores forming a subsorus in the median or terminal portion of ramuli, oblong, immersed among cortical filaments. Cystocarps here and there scattered in a few groups in terminal portion of frond and in proliferations. They are not found in older and lower segments.

Color dull purplish-green, becoming greenish-yellow. Substance cartilaginous, becoming firmer in drying. Plants do not adhere to paper in drying.

The present plant which may be referred to the section *chondrophyllum* distributed by Prof. J. Agardh, and may be placed in the vicinity of *Grateloupia dichotoma*, *Gr. spathulata* and *Gr. Cosentini*. The many times dichotomous frond of the present plant induces us to think of its relation with *Gr. dichotoma*, to which it seems to me to be most closely related; but the more regularly dichotomo-fastigiate, small sized habit of the latter differs from the more divaricate and large size of the present. Moreover, I remember the substance to have been thinner in *Gr. dichotoma*, a fragmental specimen of which I have seen in the herbarium of the Imperial University in Tokio. *Grat. spathulata*, on the contrary, differs from the present by its larger size, its broader segments, and its terminal spathulate lacineae. *Grat.*

New or Little Known Algae from Japan.

By

K. Okamura, *Rigakuhakushi.*

With Pl. IX.

In December 23, 1893, I wrote to the late Prof. Fr. Schmitz sending him some specimens of the following plants together with their descriptions and illustrations, and asking his judgment on my determination. They are *Cryptonemia angusta*, *Cryp. Wilsoni?*, and *Polyopes Polyideoides*. They were considered by me to be new and he agreed with me, but not without some different views. He promised me to publish them in Hedwigia, under the title "Neue japanische Florideen von K. OKAMURA mitgetheilt von FR. SCHMITZ." But this promise was interfered with by his lamented death. On receiving the news of his death, I took up again the subject, and after a closer study of those algae, I am now about to publish these results of my investigations.

1. *Grateloupia divaricata* sp. nov. Fig. 1-2.

Fronde narrow-linear, compressed cartilaginous, irregularly divaricato-dichotomous, with \pm long stipe, tapering to both apex and base, beset with marginal horizontal; distichous, irregularly inserted longer or shorter, simple or forked proliferous ramuli which are constricted at base. Tetraspores collected in the median and terminal portion of proliferations and in terminal segments. Cystocarps here and there scattered in a small group in last and last but one or two segments, and also in proliferations.

Hab. On rocks between tide marks; Noto, Wakasa, Idzumo.

Fronde, numerous from a common callous disc, each rising with a single stem, from 7-15 cm high, rarely 30 cm or more, narrowed at its base, soon becoming compressed and afterwards preserving everywhere a nearly equal width of 1-1.5 mm till, approaching to the apices,

理科大學教授
理學博士

松村任三先生編著

改正植物名彙 增補

全 壹 册
定價金貳圓
郵稅金拾四錢

曩に本書の出るや有要無比の好評を博し印本忽にして盡く今や第二版は斯學の新分類法に據て學名を改正せられ更に植物種類を増こと無慮一千二百餘種和名を加ふること無慮二千有餘言且つ之が附録には植物綱目の一覽表植物記者の畧字解及び日本植物に關する和洋の參考書目をも載せたり斯學を志す諸君は速に此の寶典を座右にせられよ

東京市日本橋區通三丁目

丸善株式會社 書店

大坂市東區北久寶寺町四丁目

丸善株式會社 書店出張

發行所

明年四月醫術開業並ニ藥劑師兩試驗ノ執行ア

杉浦重剛君序

醫學博士 長井長義君

醫學博士 大澤謙二君序

醫學博士 西澤公雄君

西澤公雄君

共編(上十一月二十日發賣)中下續出

有機化學

全三册

上卷、定價金 一圓七十五錢
郵税金十二錢
中卷、定價金 一圓七十五錢
下卷、定價金 一圓五十錢
(郵税未定)

本書ハ我國化學泰斗タル長井博士ト大學ニテ化學ヲ攻究セラレタル西澤君トノ協力ニ係リ其目的醫師藥劑師及其受驗生他ノ化學專修者ノ教科書參考用トスルニアリ之ヲ編纂スルニ博士數年新說新發見ノ藥品等ハ悉ク網羅各化合物ノ下ニハ英獨佛羅匈語ヲ記載シ其他生理衛生分析裁判化學ノ緊要事實ト飲食物品ノ鑑識法組成表定量法ヲ附加シ五ヶ年ノ長星霜ヲ閱シテ脱稿シタル一大最近化學書レ其當否ヲ試ラレン

發兌書肆

神田裏神保町 電話二五八番

敬業社

東京大坂

其他各地方書林ニテ賣捌ス

リ受驗志望者ノ諸君ハ必ズ一讀セラル可シ

菊池熊太郎君校閱外山脩三君武谷佐一君編纂(十一月十日發賣)

受驗 必携 物理學問題正解 全定拾五錢 壹冊稅金貳錢

陸軍候補生東京工業學校 又各學校ノ入學試驗問題ヲ附録トナシタルハ受
 驗生ノ座右ニ欠ク可ベラサル良書ナリ
 敬業社 府下各地方書林ニ販賣ス

速記彙報

定價郵稅共拾錢●六冊前金郵稅共七拾錢

速記彙報發行所

●速記彙報第六十冊概目
 ●狩野芳崖翁逸話 岡倉
 ●禪學の流行 重野
 ●河村瑞賢 釋宗
 ●釣の語 重野
 ●演劇 重野
 ●音樂 重野
 ●姨捨山 鳥居
 ●川路利良 重野
 ●乞食の境涯 安藤
 ●三千尺の芥井 古藤
 ●中村敬字翁逸事 田中
 ●附録○萬國速記術景況 鈴木
 ●東京神田區裏神保町一番地

地質學雜誌

第廿六號 十一月十五日發行

一冊金拾錢郵稅金壹錢六冊金五拾四錢(郵稅共)
 目錄論說●伊豆半島石英安山畧●雜報●日
 礦物雜說(高壯吉君)●伊香保及草津温泉に就て(岩崎
 重三君)●人工に起因する地震に就て(理學士山崎直
 方君)●地震の破壊力に就て(理學士今村明恒君)●飛
 彈產「リ」グライトに就て(理學士三期層中より噴
 篠本君に答ふ(高壯吉君) 雜錄●乳獸の化石出つ○
 紀州有田郡糸川村の岩石灰中の「フスリナ」○備前三石
 の臘石○「アンスロフキライト」○アルミニウム南
 北亞米利加の接續せし時代○霧島嶽の破裂○「ナイア
 ガラ」瀑布○「アラスカ」○泰西學者の動靜○地質學會
 第十八月次會○地質談話會

發賣所

東京神田 裏神保町

敬業社

地學雜誌第八拾二卷

定價一部金拾錢郵稅壹錢 六部前金郵稅共五拾四錢
●北洋洲無日夜地方之實景 (卷首挿圖)

論說

●フヰリッピン群島實見録(承前) ●杉野宗太郎 ●氣象叢談
(第八十二卷の續き)海軍大佐 ●肝付彗行 ●日本石灰石一斑
理學士 ●山上萬次郎 ●人事地理學考(承前) 理學士 ●金
田檜太郎

雜錄

●上總國に發掘せし所謂蛇骨并其發掘現場視察の顛末
理學博士 ●横山又次郎 ●能登三郡巡遊土産話(承前) ●
石川一男 ●近江國田ノ上山に登るの記 ●篠本二郎 ●朝
鮮通信(第二) ●西和田久學 ●沙堆、淺灘及深水底堆 ●婆
心子

雜報

●北白川宮殿下 ●東京地學協會の演說 ●早川山上掘内
の三氏 ●西和田久學氏 ●佐井の神懸岩 ●有戸濱の瑪瑙
石 ●甌島の交通 ●荒雄岳の鳴動 ●霧島山の破裂 ●北海
道の島名 ●臺灣生蕃の言語 ●鹿兒島縣黑島 ●地理探究
に於る地名の價值 ●遼東の礦物の富 ●最古の雨量測定
●昨年中に於ける蘇士運河の交通 ●セワストーポリ港
閉鎖の勅令 ●モンブラン峰上の最低溫度 ●ナイヤガ
ラ瀑布の器械的實力 ●テハンテヘック横斷鐵道 ●ブラ
ジル國未來の首府 ●南及東濠洲の河川 ●東濠洲主要の
高山 ●英語の播布 ●世界中に於ける銅の産額

發行所 東京京橋 東京地學協會
東京神田 敬業社
裏神保町

大賣捌 東京京橋 東京地學協會
東京神田 敬業社
裏神保町

東洋學藝雜誌

第百三十九號

明治二十八年十月二十五日發兌
定價一冊金拾錢郵稅金一錢

論說 ●試驗ノ成績 ●後藤 ●フエツフ
●石版圖入 ●牧太 ●アー氏ノ
●植物養分撰擇ニ關スル新研究 好
●新國字論 萬年 ●みづん
●力學初步 卷之二第
●紅毛

●石川千代松 ●力學初步 卷之二第
●紅毛

●全國各地方ニ於ケル地所
●建船舶 ●賣讓與賣入
●故鏢德繆爾列兒先
●生之銅像建設 ●耐震
●家屋雜形陣列 ●耐震家屋仕様書 ●日光山紅葉樹
●の種類 ●頌學ルイ ●バスツール氏逝矣 ●第三萬
●國動物學會 ●アルゴンの所在 ●神保博士と田代
●安定氏 ●石器時代遺跡の溝淺ひ ●尿素の生成に
●就きて ●故プリングスハイム氏の交流現象に就
●ての研究 ●東京數學物理學會記事 ●對數表及三
●角表 ●臺灣の植物 ●學會記事 五件 ●應問 ●高等
●動物ノ細胞分裂石川千代松

●全國各地方ニ於ケル地所
●建船舶 ●賣讓與賣入
●故鏢德繆爾列兒先
●生之銅像建設 ●耐震
●家屋雜形陣列 ●耐震家屋仕様書 ●日光山紅葉樹
●の種類 ●頌學ルイ ●バスツール氏逝矣 ●第三萬
●國動物學會 ●アルゴンの所在 ●神保博士と田代
●安定氏 ●石器時代遺跡の溝淺ひ ●尿素の生成に
●就きて ●故プリングスハイム氏の交流現象に就
●ての研究 ●東京數學物理學會記事 ●對數表及三
●角表 ●臺灣の植物 ●學會記事 五件 ●應問 ●高等
●動物ノ細胞分裂石川千代松

●全國各地方ニ於ケル地所
●建船舶 ●賣讓與賣入
●故鏢德繆爾列兒先
●生之銅像建設 ●耐震
●家屋雜形陣列 ●耐震家屋仕様書 ●日光山紅葉樹
●の種類 ●頌學ルイ ●バスツール氏逝矣 ●第三萬
●國動物學會 ●アルゴンの所在 ●神保博士と田代
●安定氏 ●石器時代遺跡の溝淺ひ ●尿素の生成に
●就きて ●故プリングスハイム氏の交流現象に就
●ての研究 ●東京數學物理學會記事 ●對數表及三
●角表 ●臺灣の植物 ●學會記事 五件 ●應問 ●高等
●動物ノ細胞分裂石川千代松

●全國各地方ニ於ケル地所
●建船舶 ●賣讓與賣入
●故鏢德繆爾列兒先
●生之銅像建設 ●耐震
●家屋雜形陣列 ●耐震家屋仕様書 ●日光山紅葉樹
●の種類 ●頌學ルイ ●バスツール氏逝矣 ●第三萬
●國動物學會 ●アルゴンの所在 ●神保博士と田代
●安定氏 ●石器時代遺跡の溝淺ひ ●尿素の生成に
●就きて ●故プリングスハイム氏の交流現象に就
●ての研究 ●東京數學物理學會記事 ●對數表及三
●角表 ●臺灣の植物 ●學會記事 五件 ●應問 ●高等
●動物ノ細胞分裂石川千代松

發行所 東京京橋 東洋學藝社
東京神田 敬業社
裏神保町

大賣捌 東京京橋 東洋學藝社
東京神田 敬業社
裏神保町

理科大學教授
理學博士
三好學君著

大洲植物學最近之進歩

全壹册
定價金四拾錢
郵税金四錢
紙數百拾餘頁

本篇ハ著者ガ方今學術ノ中心タル獨國ヲ主トシ其
他各國ニ於テ實地看察セル日新植物學界一般進歩
ノ現況ヲ錄スルモノニシテ左ノ數項ノ記說ヨリ成
ル

- 植物學研究ノ現狀
- 植物學教室及ビ實驗場
- 植物園、植物標品館、腊葉館
- 植物生理學用器具
- 植物學上新著及ビ雜誌
- 植物學會
- 附錄 ジャバ島
ポイテンツォグ植物園看覽記(增訂)

發兌書肆

東京神田區裏神保町
電話番號二百五十八

敬業社

醫學博士
ドクトル

杉浦重剛君序
大澤謙二君序
長谷川泰君序

醫學博士
ドクトル

長井長義
西澤公雄 共編

有機化學

上中下三册全
菊判紙 一千頁 上卷十一月十日
數大凡一 續 定價五圓
出三册

本書ハ我國化學ノ泰斗タル長井博士ト久シク大學ニアリテ化學ハ醫師藥劑師及其受
ヲ專攻セラレタル西澤君トノ協力ニナリシモノニシテ其目的ハ醫師藥劑師及其受
驗生 有名ナル研究發明ニ係ル新論卓說及貴重ナル藥品ハ細大遺漏ナク之ヲ記載シ以テ理論ト應
用ト相半スルヲ勉メラレタリ特ニ本年今月ニ至ル迄ノ間ニ於ケル新發見ノ有効藥品ハ其人工の製法
性質鑒識等ヲ悉ク網羅シ實地演習ノ用ニ供シ猶且ツ各化合物ノ章下若クハ卷尾ニハ附録トシテ生理
化學衛生化學分析法等ヲ講述シ大ニ醫師藥劑師等ノ參考ニ供セラレ又編纂ノ順序排列等ハ全ク從前
成分ノ表鑒識檢査法等ヲ考案ニ因リ受驗者ヲシテ速ニ相互ノ關係ヲ知リシ大ニ記憶ニ便シシメラル
ノ化學書ヲ一變シ一種ノ考案ニ因リ受驗者ヲシテ速ニ相互ノ關係ヲ知リシ大ニ記憶ニ便シシメラル
一々實驗ノ特色一トシテ足ラズ而モ此等ノ事實ハ長井博士ガ十數年來經驗セラレシ五ヶ年ヲ長星霜ヲ閱
シテ漸ク脱稿セラレシモノニシテ之ニ殆ンド四十部ノ引用書ヲ以テ補綴附加シラレシ結果ト西澤君ガ
現今ノ化學進步ニ伴フ正確ナル一大最近化學書リ其他ハ多言ヲ俟ズシテハ世上自ラ定評
アラシ又何ヲカ言ハシ唯速ニ座右ニ備ヘラレ其當否ヲ試ミラレンコトヲ希望ス

發兌書肆

東京神田
裏神保町

敬業社

府下各地方書林ニ於テ販賣セリ

地質學雜誌

第貳拾七號

十二月十五日發行

一冊金十錢 郵稅一錢六冊前金五十四錢

目錄論說

●美濃國產黃玉石(理學士比企忠君)

●神保氏採集黑龍江岩石の記事(小川琢治治井)

●日本產物礦物雜說(續)(高山壯上禧之助君)

●「ゲルランド」及「フオン、レポイル、バシユウキト」二氏の列國聯合地震觀測を興すの議(理學士山崎直方君)

●熔岩分體說摘要第二(「チール」及「デーキンス」氏)(石原初太郎君)

●支那極東の三角洲平原と及黃河流域の變更(岩崎重三君)

●日本產礦物雜說補遺(篠本二郎君)

●田倉山○葛產石灰洞○佐野公園○水無澤なる名稱○錢函近邊の火山岩崖○市房山の噴出○再ひ飛彈產の「リープライト」に就て○釜石の磁鐵礦○湯の澤の犬齒晶○世界金銀產出額○「チツテル」教授の新著○理學士石井八萬次郎君○地質學會第十九月次會○地質談話會

發賣所

東京神田
裏神保町

敬業社

○本誌廣告料五號文字 一行(二十五字詰)一回金拾錢 三回以上割引仕候

○本誌毎月一回發兌一冊金拾貳錢○六冊前金七拾貳錢

○十二冊前金壹圓四拾四錢○會員ニ限り一冊金拾錢

○配達概則

第一條 代價收受セザル内ハ縱令御注文アルモ遞送セズ

第二條 前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マデ雜誌ヲ郵送セズ

第三條 郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四條 特ニ一冊限御入用ノ向ハ壹錢切手十二枚御送致アレバ御届可申候

明治廿八年十二月十九日印刷

明治廿八年十二月二十日發行

版權所有

編輯兼發行者

印刷者

印刷所

發行所

賣捌所

同

井上蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地

野村宗十郎
東京市京橋區築地一丁目廿番地

株式會社東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目七番地

植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地

敬業社

丸善書店

同所

東京市日本橋區通三丁目

327329

THE

BOTANICAL MAGAZINE.

明治二十一年二月三日内務省許可

Vol. IX.]

DECEMBER, 20TH 1895.

[No. 106.

CONTENTS.



New or Little Known Algae from Japan. By **K. Okamura**. . . 472

List of Plants collected in Kurile Islands by Mr. T. Kitahara.
By **H. Matsudaira**. 466

Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopœia.
By **K. Sawada**. 455



REFERATE:—

J. Matsumura, SHOKUBUTSU MEI-I. Enumeration of selected scientific Names of both native and foreign Plants, with Romanized Japanese Names, and in many cases Chinese Characters,



MISCELLANEOUS:—

Short Notes on Plants.—Publications Received.—etc.

All letters and communications to be addressed to the

TOKYO BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tokyo, Japan.

化石學書の嚆矢

理科大學教授理學博士橫山又次郎先生著

化石學教科書

洋裝背草上中下全三冊
既成中卷新刊
各篇珍奇畫數百個入
正價一冊金七十五錢宛
郵稅上卷六錢下卷八錢

新刊報告

化石學ノ要ハ前世界ノ動植物ヲ知ルニアリ前世界ノ動植物ハ化石ト稱シ現世界ノモノト大ニ異ナル者アルノミナラス又其奇狀吾人ノ意想外ニ出ルモノアリ因テ此等ヲ究ムルハ目下地質學ノ急務ニシテ又地球發育ノ歴史ヲ編ムニモ必須欠ク可ラザルモノナリ今ヤ化石學ノ中卷成リ

化石動物學完結 ス上卷ニハ專ラ下等動物ヲ載セ中卷ニハ頭足節足及脊椎動物ノ三類ヲ載セタリ而シテ殊ニ脊椎動物ノ章ハ

奇禽怪獸ノ圖 ヲ掲クルト少カラス中ニハ泰西ノ教科書他ニ比シ精ヲ盡シ

チ劍龍ノ如ク三騎龍ノ如シノ請フ苟モ

地質・地文・地理・鑛物・動物・植物

●其**自然界**ノ學ニ志ス君子ハ勿論過去ニ於テ造化ノ妙ヲ探ント欲スル江湖ノ諸彦一本ヲ購フテ如何ニ前世界生物ニ富ミ如何ニ前世界ノ怪物ヲ産セシヤヲ知り玉ヘ又世ノ玩石家諸君モ本書ニ依リ其化石ノ名稱ヲ明ニシ大ニ其樂ヲ増シ玉フコアルベシ (因ニ記ス下卷ニハ化石植物學ヲ敘述スベシ)

博物學家の師友

富山書店發兌

東京 神保町 田町

地質學雜誌

第二十四號
九月十五日
發行

一冊金十錢 郵税金一錢六册前金五十四錢

目錄
●論說 ●紀州中生層に就て (理學士 值賀威一)
●伊豆半島石英安山岩層說 (小川琢治)
●東亞高地の隆起說 (值賀威一)
●海嶽の如何にして鹹性となりしや (伊木常誠)
●雜報 ●地水の秤考說 ●河水の運搬力 ●流紋岩中石英粒の眞珠狀構造 ●洋水鹹性の成因に就ての化學的考說 ●特生砒礦の發見 ●半田銀山 ●諏訪湖は火口にあらざる ●本邦火山の職 ●第三紀層の研究 ●俗間に於ける一二の地理學上の言葉 ●霧中に於て見たる美麗なる虹 ●明治廿八年六月全國氣象摘要 ●野阪のうつせ貝 ●近江石山寺の石

發賣所

東京神田區
裏神保町

敬業社

動物學雜誌

第八十二號 八月十五
日發行 一冊金十錢
郵税金一錢 六册前
金六十六錢

目次
●文蛤ノ觀察 澁江富貴三 ●*Syllis ramosa* ノ芽生ニ就テ (本紙獨文摘要) ●丘淺次郎 ●吸口蟲ノ排泄器ニ就テ (未定稿中ヨリ) ●原十太 ●ねばり及其近縁ノ分類の徵候 中川久知 ●*Syllis ramosa* ノ出芽ニ就テ (獨文) ●丘淺次郎 ●琵琶湖魚類豫報 (英文) ●石川千代松 ●雜錄 十七件

發賣所

東京神田
裏神保町

敬業社

發賣雜誌代價表

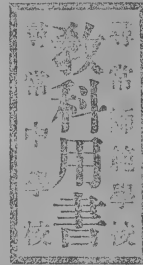
發兌	一月	誌	雜	學	地	●
錢八圓	一冊	金	前	冊	四	辛
					冊	六
					冊	十
					冊	一
發兌	廿五	日	誌	人	本	●
錢二十	四冊	金	前	冊	六	○
					錢	八
					冊	一
行	日一	月	誌	神	精	●
錢六十三	冊	金	前	冊	六	○
					錢	一
					冊	二
					○	(共稅郵)
發兌	廿五	日	誌	雜	會	藝
錢六十五	冊	金	前	冊	六	○
					錢	一
					冊	十
					冊	一
發兌	廿五	日	誌	報	彙	記
錢四十七	冊	金	前	冊	六	○
					錢	二
					冊	八
					部	一

發兌	五月	誌	雜	藝	學	洋
錢四十五	冊	金	前	冊	六	○
					錢	一
					冊	十
					冊	一
發兌	廿五	日	誌	雜	學	物
錢一十六	冊	金	前	冊	六	○
					錢	一
					冊	十
					冊	一
發兌	廿五	日	誌	雜	學	物
錢二十七	冊	金	前	冊	六	○
					錢	一
					冊	二十
					冊	一
發兌	八月	誌	雜	校	學	理
錢六十三	冊	金	前	冊	六	○
					厘	五
					錢	六
					冊	六
					冊	一
發兌	廿五	日	誌	雜	學	質
錢四十五	冊	金	前	冊	六	○
					錢	一
					冊	十
					冊	一

目及手候 誌數シ上 雜冊ト申 上テ一願 以總專御 リハラ文 謀誌速注 ヲ雜迅御 利ノズ々 便行セ續 御發論間 ノテヲ候 君ニ少仕 諸京多次 讀東ノ取 愛外高御 社ノ金ク 弊錄ビ廣

東京 神田 裏神 保町 敬業社 雜誌部 電話 二百五十番

以下の文部省検定出版
書籍



定價は従前通り變更
無之候也

◎發兌書肆

東京神田裏神保町

(電話二五八番)

敬業

社

書名 冊數 定價 郵稅

訂正	物理學教科書	全二冊	金一圓四十五錢	金十四錢
增補	無機化學教科書	全一冊	金七十五錢	金八錢
中等	有機化學教科書	全一冊	金六十錢	金八錢
中等	教育有機化學教科書	全一冊	金六十錢	金八錢
中等	幾何學 初歩	全三冊	金八十錢	金十錢
中等	博物學 初歩	全一冊	金二十五錢	金四錢
中等	支那史 綱	全二冊	金七十五錢	金十八錢
中等	朝鮮史 綱	全二冊	金四十五錢	金八錢
中等	ウフアリーダ	全一冊	金二十錢	金四錢
中等	毛筆圖書臨本 壹卷	全一冊	金十五錢	金二錢
中等	學 漢文	全十冊	金一圓二十錢	金廿四錢
中等	地理文學合本	全一冊	金七十錢	金八錢

動物、植物、標本、比較解剖用
標本、模型、石模型、顯微鏡用、プレート

本邦特産の博物標本を製造販賣仕候て日尙淺きも
我邦諸學校及海外より續々御注文被仰付難有奉存
候就、舶來品に譲らざる様精作を旨とし迅速
ては、舶來品に譲らざる様精作を旨とし迅速

◎製造販賣所

東京神田錦町三丁目一番地

敬業社博物標本店

◎

ALAN OWSTON,
NATURALIST.

YOKOHAMA.

◎日本博物物品買入廣告

一 隕石、名、天降石、
諸鳥、小鳥、玉子、
鳥、蛇、蝶、海藻、海魚、
綿、鹽柱、下等動物、
類、此、外、珍、數、物、右、
相、當、代、價、買、入、度、
候、間、品、名、員、數、產、
地、捕、獲、年、月、寸、法、
見、方、形、チ、等、詳、記、シ、
願、上、候、也、
横濱市居留地
百七十九番

ソラヨリヲチタル石

博物品商

採集擔任

オーストン社

長政道

地質學雜誌

第二卷

第廿三號

明治二十八年八月十五日發行
一冊金拾錢六冊前金五拾四錢

目錄

●論說 ●本邦火山噴出物中に在る望青石の成因に就きて山崎直方君 ●吹上間歇泉に就きての一想説清水實隆君 ●遠州石油產地巡廻記高野新

●雜錄

一君 ●閃綠岩は如何にして酸

性片麻石に變するや井上禮之助君 ●天隕鐵石原初太郎君 ●伊豫國市の川安質母尼鑛山相原修君 ●梅雨論に就きて石井理學士の批評を拜讀す頓野廣太郎君 ●臺灣(高砂)の氣候 ●朝鮮地質報 ●第四回内

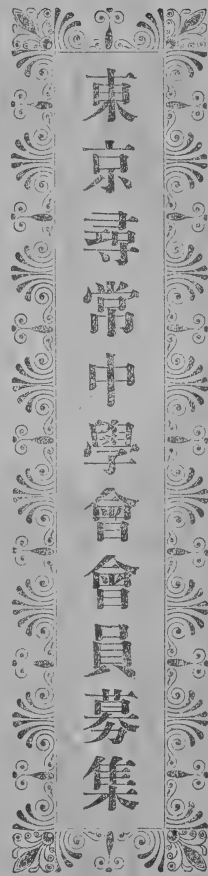
●本邦標準時の揭示 ●國勸業博覽會暫見實記 ●紫蘇輝石の徵蝕象 ●向ヶ岡の洪積層 ●碓氷峠地方の天候 ●後閑村の化石 ●各市の人口 ●吾妻山の鳴動 ●新地質學士

發賣所

敬業社

東京神田裏神保町一番地

東京尋常中學會會員募集



尋常中學校講義錄 第一學年 八月十日發行 ○ 目的 本會は自宅

學を獨習せんと欲する地方學生の爲に通信教授の便法を用ひ尋常中學校の學科を教授す

義錄 は菊版大開每號百五十ページ毎學期は滿三ヶ年として三ヶ年の課程を修了し講

授の便法を用ひ尋常中學校の學科を教授す 學費は一學年前納金五圓とす但會員の都合に依り六

納する二種の内適宜分入會を望む者は住所身分姓名年月日を詳記し學費(規則書入用の方は郵

納することを得 入會三ヶ月分以上に東修金參拾錢を添へて申込べし(券貳錢を送付あれ)

◎修身科講義	フロンツ、エドク、トル、エドホ、尺	秀三郎述	◎算術	高等師範學校教授	千本福隆述
◎國語講讀	日本中學校講師	川上廣樹述	◎博物示教	理科大學助手	牧野富太郎述
◎作文法	講	石田道三郎述	◎理科示教	農學	菊地熊太郎述
◎孟子講義	國學院講師	四谷恒之講述	◎外論	理學	文
◎漢文講義	講	依田百川講述	◎論	理學	文
◎史學列傳講義	城北中學校教諭	深井鑑一郎述	◎修身學	文學	博士
◎英語作文初歩	農學	齋藤三郎述	◎實踐道德論	文學	博士
◎日本地理	高等師範學校助教諭	菅沼達吉口述			
◎日本歴史	城北中學校長	森省吾筆記			
		矢津昌永述			
		今泉定介述			

東京神田區裏神保町一番地
東京尋常中學會

東洋學藝雜誌

(第百五十五號)
七月廿五日發兌
石版及木版圖入
定價一冊金十錢

論說 ● 痘痘及天然痘病毒ノ語源石
● 威應コイル 野牧之丞 ● 高山植

物理 ● 研究ニ就ク ● 植物 ● 植物

● 力 ● 植物 ● 植物 ● 植物

● 諸人 ● 植物 ● 植物 ● 植物

● 帝國大學卒業式 ● 植物 ● 植物

● 速度 ● 植物 ● 植物 ● 植物

● 應用 ● 植物 ● 植物 ● 植物

● コーリンソン氏 ● 植物 ● 植物

● ツ氏 ● 植物 ● 植物 ● 植物

● 氏 ● 植物 ● 植物 ● 植物

● 理大家 ● 植物 ● 植物 ● 植物

● 衛生 ● 植物 ● 植物 ● 植物

● リア ● 植物 ● 植物 ● 植物

● 獨逸 ● 植物 ● 植物 ● 植物

動物學雜誌

第八十一號七月五日發行一冊金十錢

郵稅金一錢六冊前金六十六錢 郵稅共)

○ 昆蟲ノ話(十四)石川千代松君 ○ 副尾

ヲ生ゼル 蜥蜴ノ一新例(摘要)弘田貞守君

○ 奇形ノ章魚 (Okthostethis depressa

S. P. ニ就テ飯島

魁君池田作次郎君 ● 雜錄 ○ なま

泄法ニ就テ ○ 日本産腕脚類 ○ 深海魚類

ノ鯨中ノ瓦斯 ○ よめのさらの奇習 ○ 發

生ト温度 ○ 土佐ニ産スル Strombidae.

○ 深川養蠶場雜記 ○ 「インフゾリヤ」ノ

消化順序 ○ 蠕蟲中腸ノ排泄作用 ○ 動物

命名法 ○ 東京動物學會例會記事

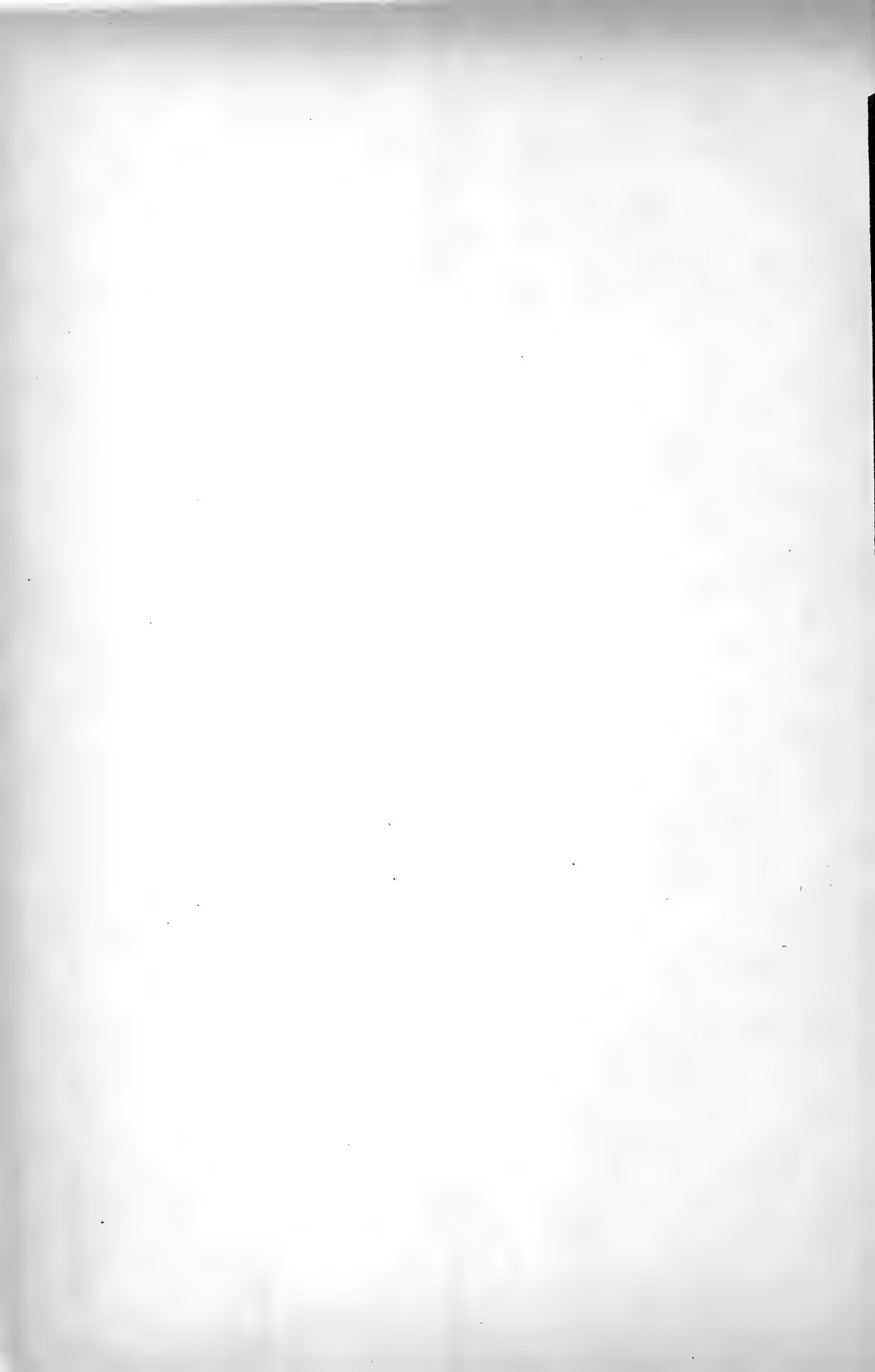
東京神田裏神保町

發賣所 敬業社

發行所

東京神田
裏神保町

東洋學藝社



Flora von Japan.

Japanische Pflanzen, gut getrocknet und richtig bestimmt, gebe ich z. M. 400 = £ 20 = Fr. 500 p. 1000 Species ab hier.

Katalog gratis und franko.

Tomitarô Makino,

Tôkyô, Yayoichô, Hongôku, Nr. 3,

Japan.

Flore du Japon.

Plantes japonaises, bien desséchées et correctement déterminées pour vendre.

Fr. 500 = £20 = M. 400 pour 1000 espèces.

Catalogue gratis et franco.

Tomitarô Makino,

No. 3, Yayoichô, Hongôku, Tôkyô,

Japan.

Flora of Japan.

Japanese Plants, carefully dried and correctly named for Sale.

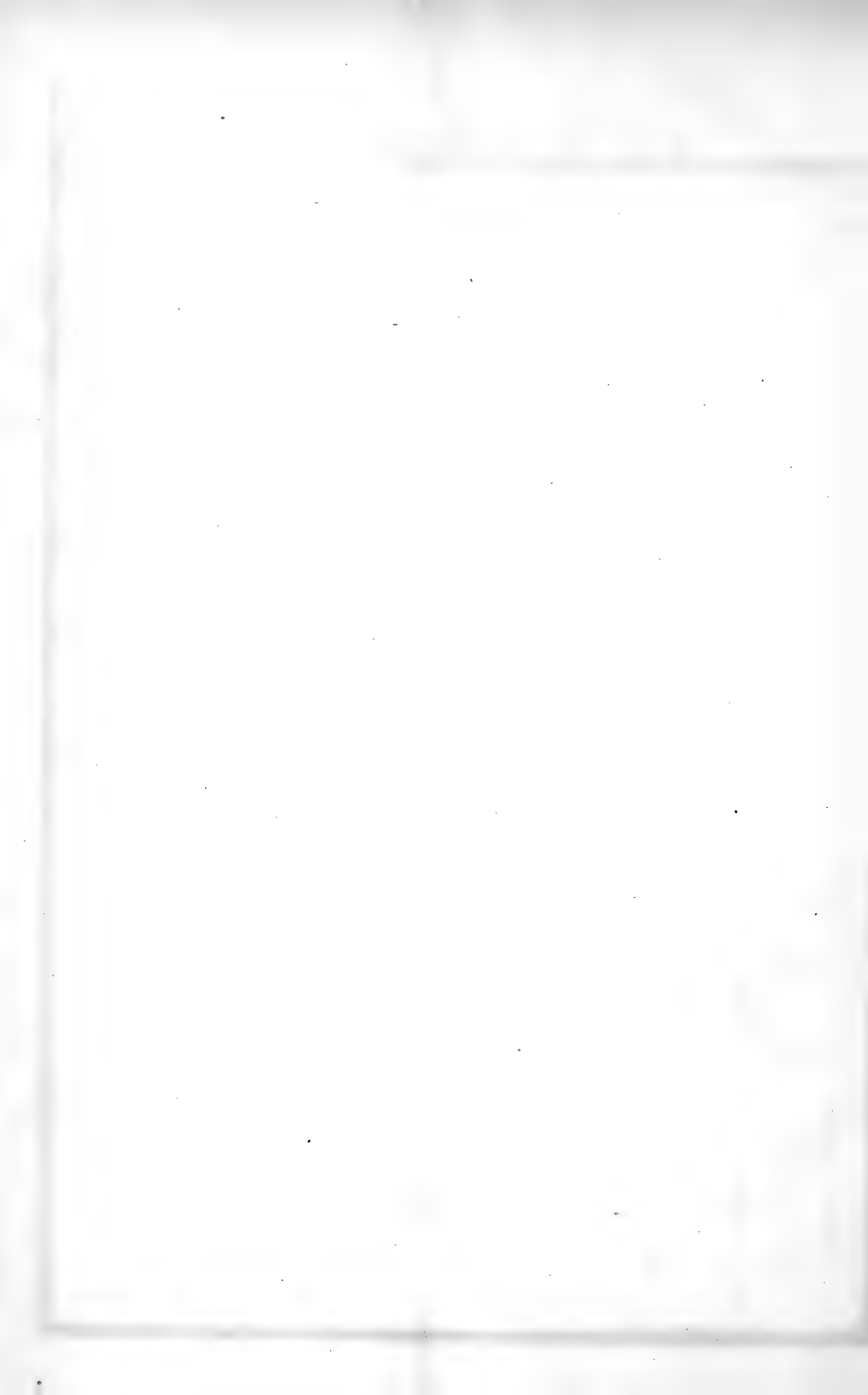
£20 = Fr. 500 = M. 400 for 1000 species.

Catalogue gratis and postpaid.

Tomitarô Makino,

No. 3, Yayoichô, Hongôku, Tôkyô,

Japan.



Flora von Japan.

Japanische Pflanzen, gut getrocknet und richtig bestimmt, gebe ich z. M. 400 = £ 20 = Fr. 500 p. 1000 Species ab hier.

Katalog gratis und franco.

Tomitarô Makino,

Tôkyô, Kamitomizakamachi, Koishikawaku, Nr. 26,

Japan.

Flore du Japon.

Plantes japonaises, bien desséchées et correctement déterminées pour vendre.

Fr. 500 = £20 = M. 400 pour 1000 espèces.

Catalogue gratis et franco.

Tomitarô Makino,

No. 26, Kamitomizakamachi, Koishikawaku, Tôkyô,

Japan.

Flora of Japan.

Japanese Plants, carefully dried and correctly named for Sale.

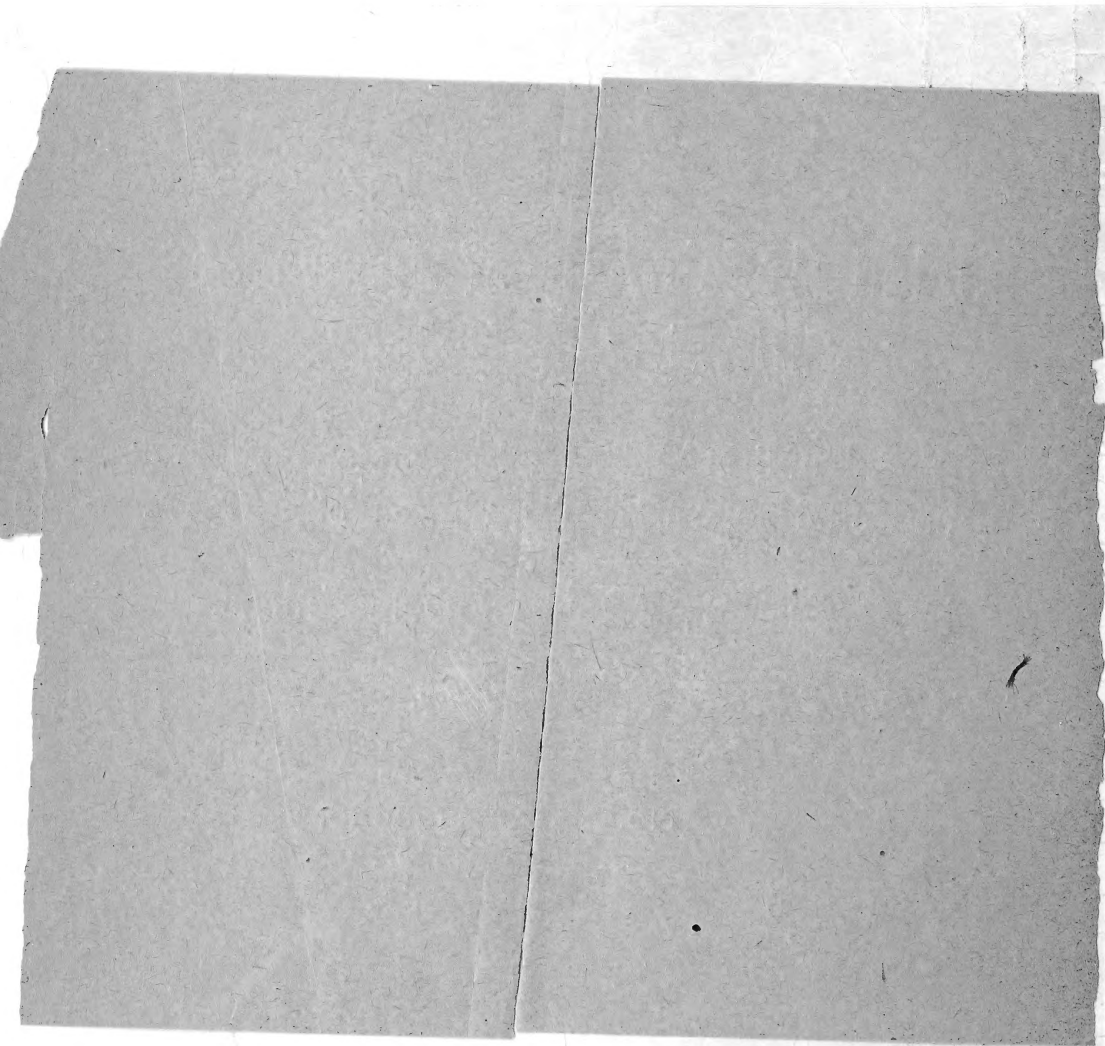
£20 = Fr. 500 = M. 400 for 1000 species.

Catalogue gratis and postpaid.

Tomitarô Makino,

No. 26, Kamitomizakamachi, Koishikawaku, Tôkyô,

Japan.



Dried Specimens of Japanese Plants for Sale.

PERFECT and RARE dried specimens of plants
collected in various provinces of JAPAN.

PRICE:—£ 22 per 1000 specimens.

CATALOGUE sent FREE on application.

KANŌ WATANABE,

No. 25, Masagochō,

Hongōku, Tōkyō,

JAPAN.



Class QK1
Book B 33

SMITHSONIAN DEPOSIT

